静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第 12 集

裾野市葛山・今里の遺跡群

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市－７

葛山上條遺跡（第二東名№.149 地点）

葛山大端ヶⅡ遺跡（第二東名№.151 地点）

今里薬師海道遺跡（第二東名№.154 地点）

２０１２

中日本高速道路株式会社東京支社

静 岡 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

序

第二東名高速道路は、現行の東名高速道路の輸送量の拡大を目的として建設された自動車専用道路です。本書は、第二東名高速道路建設に伴い、事前調査が実施された葛山上條遺跡（№149 地点）、葛山大端ヶⅡ遺跡（№151 地点）、今里薬師海道遺跡（№154 地点）の報告書です。

各遺跡が所在する裾野市は、富士山東南麓、箱根山西麓、愛鷹山東麓といった三方を山々に囲まれた風光明媚な土地です。市街を南北に流れる黄瀬川は、その本支流に五竜の滝、景ヶ島渓谷などの景勝地を形成しています。第二東名高速道路は、黄瀬川西側の愛鷹山麓をほぼ南北に延びて、急峻な谷とその周囲の尾根を分断する位置にあります。各遺跡は、愛鷹山北東麓の尾根上に位置します。

各遺跡の調査では、後期旧石器時代から近世にかけての遺構や遺物が確認されました。各遺跡の中で、一番北側に位置する今里薬師海道遺跡では、主に縄文時代中期から晩期にかけての土器・石器が確認されました。さらに弥生時代後期から古墳時代前期の台付甕が１個体分出土しました。

続いて葛山大端ヶⅡ遺跡、葛山上條遺跡では、縄文時代早期・前期・後期の陥穴が検出されました。陥穴の大きさ及び設置場所から判断しますと、主にシカやイノシシを捕獲するために仕掛けたワナであったと考えられます。陥穴から少し離れた場所では、集石や焼土といった火を使ったキャンプの痕跡が確認できます。当地域において古くから狩猟キャンプ地として土地利用されていたことが明らかになりました。

本書が、研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。

最後になりましたが、本発掘調査にあたり、中日本高速道路株式会社東京支社ほか、各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2012 年３月

静岡県埋蔵文化財センター所長
勝　田　順　也

例　　言

1　本書は静岡県裾野市に所在する葛山上條遺跡、葛山大端ヶⅡ遺跡、今里薬師海道遺跡の調査報告書である。各遺跡の所在地は下記の通りである。

葛山上條遺跡　　裾野市葛山字上條293他６筆（調査対象面積15,200㎡）
葛山大端ヶⅡ遺跡　　裾野市葛山字大端ヶ1160－１他２筆（調査対象面積7,000㎡）
今里薬師海道遺跡　　裾野市今里字棚返777他（調査対象面積16,700㎡）

2　調査は、第二東名高速道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、日本道路公団（現中日本高速道路株式会社）静岡建設局の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、裾野市教育委員会の協力を得て、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。

平成23年４月１日から静岡県埋蔵文化財センターが業務を引き継いだ。

3　各遺跡の確認調査・本調査及び資料整理の期間は下記のとおりである。

遺跡名	確認調査の期間と実掘調査面積	本調査の期間と実掘調査面積	資料整理・報告書刊行の期間
葛山上條遺跡 （第 149 地点）	その１：平成 15 年４月１日～５月 30 日　216㎡ その２：平成 15 年７月 15 日～９月 18 日　90㎡	本調査Ⅰ期：平成 16 年１月 27 日～３月９日 本調査Ⅱ期：平成 16 年４月１日～平成 17 年２月 25 日 計　3,419㎡	平成 23 年４月１日～ 平成 24 年３月 26 日
葛山大端ヶⅡ遺跡 （第 151 地点）	その１：平成 15 年４月４日～５月 30 日　288㎡	本調査Ⅰ期：平成 15 年６月１日～ 11 月 30 日 計　3,765㎡	
今里薬師海道遺跡 （第 154 地点）	その１：平成 13 年７月２日～７月 24 日　1,249.1㎡ その２：平成 14 年４月 15 日～５月 31 日　36㎡ その３：平成 15 年７月１日～７月８日　75㎡	本調査Ⅰ期：平成 13 年８月２日～９月 20 日 計　3,060㎡	

4　本遺跡の調査担当は下記のとおりである。

①財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

調査体制	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
所長	斎藤　忠	斎藤　忠	斎藤　忠	斎藤　忠
副所長	山下　晃	飯田英夫	飯田英夫	飯田英夫
常務理事兼総務部長	粂田徳幸	粂田徳幸	粂田徳幸	平松公夫
次長	－	－	鎌田英巳	鎌田英巳
総務課長	本杉昭一	本杉昭一	鎌田英巳	鎌田英巳
経理専門員	稲葉保幸	稲葉保幸	稲葉保幸	稲葉保幸
総務係長	山本広子	山本広子	山本広子	山本広子
会計係長	大橋　薫	大橋　薫	野島尚紀	野島尚紀
調査研究部長	佐藤達雄	山本昇平	山本昇平	山本昇平
調査研究部次長兼調査研究一課長	及川　司	中嶋郁夫	中嶋郁夫	中嶋郁夫
主任調査研究員	前嶋秀張	前嶋秀張	前嶋秀張	前嶋秀張

・葛山上條遺跡（第149地点）

平成15年度（確認調査・本調査Ⅰ期）　調査研究員　村松利彦　木崎道昭

平成16年度（本調査Ⅱ期）　調査研究員　永島宏一　日吉高幸

・葛山大端ヶⅡ遺跡（第151地点）

平成15年度（確認調査その１・本調査Ⅰ期）　調査研究員　望月由佳子　後藤正人　木崎道昭

・今里薬師海道遺跡（第154地点）
平成13年度（確認調査その１・本調査Ⅰ期）　調査研究員　高野穂多果　村松利彦
平成14年度（確認調査その２）　調査研究員　鈴木秀樹　後藤正人
平成15年度（確認調査その３）　調査研究員　後藤正人
②静岡県埋蔵文化財センター
平成23年度（資料整理）
所長　勝田順也　次長兼総務課長　八木利眞　主幹兼事業係長　村松弘文
総務係長　瀧みやこ　調査課長　中鉢賢治　主幹兼調査第１係長　富樫孝志
調査第２係長　溝口彰啓　常勤嘱託員　髙橋　岳

5　本書の執筆は、髙橋岳が行った。

6　本書の編集は、静岡県埋蔵文化財センターが行った。

7　調査で実施した委託事項および委託先は下記のとおりである。

遺跡名	掘削業務	測量・遺構実測業務	空中写真撮影
葛山上條遺跡 （第 149 地点）	確認調査その１：眞田建設　株式会社 確認調査その２：大岡建設工業　株式会社 本調査Ⅰ期：大岡建設工業　株式会社 本調査Ⅱ期：株式会社　小俣組	確認調査その１：株式会社　東京航業研究所 確認調査その２：株式会社　パスコ 本調査Ⅰ期：株式会社　パスコ 本調査Ⅱ期：株式会社　国際航業	本調査Ⅰ期：株式会社　パスコ 本調査Ⅱ期：株式会社　国際航業
葛山大端ヶⅡ遺跡 （第 151 地点）	確認調査その１：三星建設工業　株式会社 本調査Ⅰ期：株式会社　河西建設	確認調査その１：株式会社　四門 本調査Ⅰ期：株式会社　四門	本調査Ⅰ期：株式会社　四門
今里薬師海道遺跡 （第 154 地点）	確認調査その１：株式会社　山久建設 確認調査その２：株式会社　齊藤組 確認調査その３：株式会社　丸勇建設 本調査Ⅰ期：株式会社　山久建設	確認調査その２：株式会社　静岡人類史研究所 確認調査その３：株式会社　国際航業	

※現地調査の写真撮影は、主に財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行い、一部を調査時に上記の測量会社に委託した。
・整理作業・保存処理業務委託　株式会社パソナ
・黒曜石原産地推定業務委託　独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授　望月明彦氏
・放射性炭素年代測定業務委託　株式会社加速器分析研究所

8　確認調査・本調査と資料整理では以下の方々に御教示をいただいた。（五十音順）
裾野市教育委員会　中日本高速道路株式会社東京支社
芦川忠利　髙橋　豊　森嶋富士夫

9　発掘調査の資料は、静岡県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

1　本書で用いた遺構・遺物などの位置を表す座標は、すべて平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、日本測地系（改正前）を基準とした。

2　各遺跡の調査区の方眼設定は、上記の国土座標を基準に設定した。

葛山上條遺跡（№149地点）の起点座標　　X=－88480.0、Y=35390.0：A－1グリッドの南西隅

葛山大端ヶⅡ遺跡（№151地点）の起点座標　X=－87910.0、Y=35350.0：A－1グリッドの南西隅

今里薬師海道遺跡（№154地点）の起点座標　X=－86980.0、Y=35490.0：A－1グリッドの南西隅

3　出土遺物は４桁の通し番号（遺物番号）を付して取り上げた。報告書中の挿図番号とは同一でない。

4　整理作業の過程で、遺構番号は付け直しており、各遺跡の説明の中で、遺構の対照表を表記した。

5　遺構図、遺物実測図の縮尺は、遺構１/20・１/40、土器１／２・１／３、石器２／３・１／４を原則とし、それぞれにスケールを付した。

6　土器・土層の色調に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』を使用した。ただし、土層の名称・表現は、愛鷹ローム団研究グループの火山灰層序学的区分に準拠した。例えば、褐色土層は、「栗色土層」と表現している。また、その区分に対比できない土層に限り、新版『標準土色帳』の用語を使用した。

7　序章第１節で使用した地図（第１図）は、裾野市役所発行１：2,500地形図「裾野市基本図」を複写し、加工・加筆した。序章第２節で使用した地図（第５図）は、国土地理院発行１：25,000地形図「三島」「裾野」「愛鷹山」「御殿場」「印野」を複写し、加工・加筆した。

8　遺構の計測では、現存する最も長い位置で「長軸」を測り、それに直交する現存で最も長い位置で「短軸」を測った。

9　本報告所収の石器の基本データ（出土位置・寸法等）は第11・12、19、23表に収録している。表中の計測値は、以下の基準に基づいて計測した。

長さ、幅、厚さ：石器は0.01cm単位まで計測。礫は0.1cm単位まで計測。

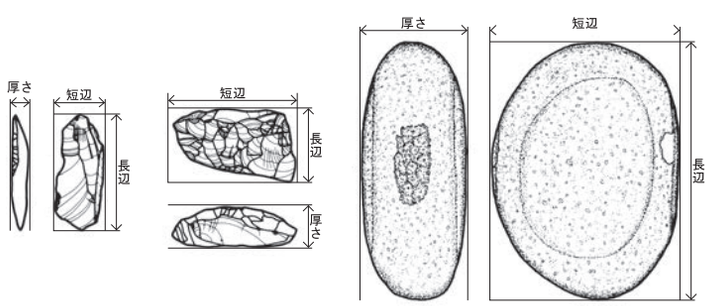
重量：200g以下のもの：0.1ｇ単位まで計測。0.1ｇに満たない場合「不可」と表記。

3,000g以下のもの：1ｇ単位まで計測。

3,000gを超過するもの：50ｇ単位まで計測。例、3,050ｇ、3,100ｇ、3,150ｇ。

なお、その他遺物の事情により計測ができなかった資料は計測値を空欄としている。

10　石器の実測は、原則として第三角投影図法に準拠した。本文中の石器の記載では実測図の向きに基づき、左右・上下は正面図に対する位置を示すものとする。



別図１　石器の計測位置

11　本書で用いる石材の略号は下記のとおりである。

和名	英名	略号	和名	英名	略号
頁岩（ケツガン）	Shale	Sh	砂岩（細粒）	Fine-grained Sandstone	FSS
硬質頁岩	Hard Shale	HS	砂岩（中粒）	Medium-grained Sandstone	MSS
凝灰岩	Tuff	Tu	砂岩（粗粒）	Coarse-grained Sandstone	CSS
凝灰岩（細粒）	Fine-grained Tuff	FT	ホルンフェルス	Hornfels	Hor
硬質細粒凝灰岩	Hard Fine-grained Tuff	HFT	デイサイト	Dacite	Da
玄武岩	Basalt	Ba	流紋岩	Rhyolite	Rhy
玄武岩（多孔質）	Vesicular Basalt	VBa	橄欖（カンラン）岩	Peridotite	Pe
安山岩（多孔質）	Vesicular Andesite	VAn	閃緑岩	Diorite	Di
ガラス質黒色安山岩	Glassy Black Andesite	GAn	斑レイ岩	Gabbro	Ga
細粒安山岩	Fine-grained Andesite	FAn	緑色片岩	Green Schist	GS
角閃石安山岩	Hornblend Andesite	An(Ho)	砂質片岩	Sandy Schist	SSc
輝石安山岩	Pyroxene Andesite	An(Py)	粘板岩	Slate	Sl
チャート（暗灰）	Dark Gray Chert	Ch(DG)	シルト岩	Siltstone	Si
黒曜石	Obsidian	Ob			

12　本書で用いる黒曜石産地の略号は下記のとおりである（望月明彦氏による）。

産地			略号
長野県	諏訪	星ヶ台群	SWHD
	和田	鷹山群	WDTY
		小深沢群	WDKB
静岡県	天城	柏峠群	AGKT
神奈川県	箱根	畑宿群	HNHJ
東京都	神津島	恩馳島群	KZOB

目　　次

序章
第１節　調査に至る経過
１　第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯…… 2
２　発掘調査の方法と経過…… 3
第２節　裾野市の位置と環境
１　地理的環境…… 5
２　地質の様相…… 6
３　遺跡周辺の石材環境…… 8
４　愛鷹山麓の火山灰層序学的区分…… 10
５　歴史的環境…… 12

第２章　葛山上條遺跡
第１節　葛山上條遺跡の概要
１　葛山上條遺跡の位置…… 22
２　葛山上條遺跡周辺の遺跡…… 22
第２節　調査の体制・経過
１　確認調査および本調査の体制…… 24
２　確認調査および本調査の経過…… 24
３　基本土層…… 26
４　遺構番号について…… 29
第３節　調査の成果
１　旧石器時代の調査…… 30
２　縄文時代の調査…… 45
第４節　調査のまとめ
１　調査の成果…… 114
２　陥穴状土坑について…… 116
第５節　遺構・遺物観察表…… 121

第３章　葛山大端ヶⅡ遺跡
第１節　葛山大端ヶⅡ遺跡の概要
１　葛山大端ヶⅡ遺跡の位置…… 128
２　葛山大端ヶⅡ遺跡周辺の遺跡…… 128
第２節　調査の体制・経過
１　確認調査および本調査の体制…… 130
２　確認調査および本調査の経過…… 130
３　基本土層…… 131
４　遺構番号について…… 135
第３節　調査の成果

1　旧石器時代の調査…… 136
2　縄文時代の調査…… 136
第４節　調査のまとめ…… 197
第５節　遺構・遺物観察表…… 200

第４章　今里薬師海道遺跡
第１節　今里薬師海道遺跡の概要
1　今里薬師海道遺跡の位置…… 212
2　今里薬師海道遺跡周辺の遺跡…… 212
第２節　調査の体制・経過
1　確認調査および本調査の体制…… 213
2　確認調査および本調査の経過…… 213
3　基本土層…… 216
第３節　調査の成果
1　遺構…… 218
2　出土遺物…… 219
第４節　調査のまとめ…… 245
第５節　遺構・遺物観察表…… 246

付編　自然科学分析
付編１　黒曜石産地推定結果…… 253
付編２　葛山大端ヶⅡ遺跡（151地点）における放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）…… 259
付編３　今里薬師海道遺跡（154地点）における放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）…… 263

写真図版

報告書抄録

挿図目次

【序章】
第１図　裾野市の位置と遺跡の位置……４
第２図　富士火山・愛鷹火山の地質概略図 …７
第３図　遺跡周辺の石材環境（原産地および主な入手可能地）……９
第４図　愛鷹ローム団研グループの火山灰層序学的区分……11
第５図　裾野市内の遺跡分布……15

【第２章　葛山上條遺跡】
第６図　確認調査のテストピット配置および本調査の位置……23
第７図　葛山上條遺跡土層柱状図①……27
第８図　葛山上條遺跡土層柱状図②……28
第９図　旧石器時代遺構配置図および遺物出土状況…31
第10図　１・２号礫群……32
第11図　休場層出土被熱礫周辺、出土遺物…33
第12図　１号石器集中、出土遺物……35
第13図　休場層出土遺物（１）……36
第14図　休場層出土遺物（２）……38
第15図　休場層出土遺物（３）……39
第16図　休場層出土遺物（４）……40
第17図　休場層出土遺物（５）……41
第18図　第Ⅰスコリア層出土遺物……42
第19図　第Ⅲスコリア帯第２黒色帯出土遺物……43
第20図　葛山上條遺跡縄文時代遺構配置図…46
第21図　１～４号土坑……47
第22図　５～７号土坑……49
第23図　８～11号土坑 …… 51
第24図　12号土坑……53
第25図　13～16号土坑……55
第26図　17～20号土坑……57
第27図　21～24号土坑……59
第28図　25～28号土坑……61
第29図　29～32号土坑、32号土坑出土遺物…63
第30図　33～36号土坑……65
第31図　37～39号土坑、37号土坑出土遺物…68
第32図　40～42号土坑……70
第33図　43～46号土坑、43・45号土坑出土遺物…73
第34図　47～50号土坑……75
第35図　51～54号土坑……77
第36図　55・56号土坑……80
第37図　57～59号土坑……82
第38図　60・61号土坑……83
第39図　１・２号集石、1号集石出土遺物 …86
第40図　３・４号集石……87
第41図　５・６号集石……88
第42図　７号集石……89
第43図　８・９号集石……91
第44図　10・11号集石……92
第45図　12号集石……93
第46図　１・２号焼土……95
第47図　葛山上條遺跡縄文時代遺物分布図…96
第48図　縄文包含層出土土器　早期……98
第49図　縄文包含層出土土器　前期①－１…99
第50図　縄文包含層出土土器　前期①－２出土状況…… 100
第51図　縄文包含層出土土器　前期②…… 101
第52図　縄文包含層出土土器　後期①…… 102
第53図　縄文包含層出土土器　後期②…… 103
第54図　縄文石器（１）…… 105
第55図　縄文石器（２）…… 107
第56図　縄文石器（３）…… 109
第57図　縄文石器（４）…… 110
第58図　縄文石器（５）…… 111
第59図　縄文石器（６）…… 112
第60図　葛山上條遺跡出土石器・礫分布図（縄文時代）…… 113
第61図　葛山上條遺跡遺構変遷図（１）… 115
第62図　葛山上條遺跡遺構変遷図（２）… 116
第63図　愛鷹南東山麓の遺跡分布図…… 118

【第３章　葛山大端ヶⅡ遺跡】
第64図　確認調査のテストピット配置および本調査の位置…… 129

第65図　葛山大端ヶⅡ遺跡調査区配置図 …… 132
第66図　葛山大端ヶⅡ遺跡土層柱状図…… 133
第67図　旧石器テストピット配置図…… 137
第68図　旧石器出土遺物…… 138
第69図　１区縄文時代遺構・遺物出土状況 …… 139
第70図　２区縄文時代遺構・遺物出土状況 …… 140
第71図　１号竪穴住居①…… 141
第72図　１号竪穴住居②…… 142
第73図　１号竪穴住居③…… 143
第74図　１号竪穴住居、床面出土礫石器… 144
第75図　１号竪穴住居、埋土出土土器…… 145
第76図　１・２号土坑…… 147
第77図　３号土坑、出土遺物…… 148
第78図　４号土坑…… 150
第79図　４号土坑、埋土出土土器と同一個体片 …… 151
第80図　５号土坑、出土遺物①…… 152
第81図　５号土坑、出土遺物② …… 153
第82図　６・７号土坑…… 155
第83図　８号土坑…… 156
第84図　礫・廃棄礫・炭化物の出土分布図 158
第85図　１号集石周辺、出土遺物…… 159
第86図　１号集石…… 160
第87図　縄文包含層出土土器　早期①…… 161
第88図　縄文包含層出土土器　早期②…… 162
第89図　縄文包含層出土土器　早期③…… 163
第90図　縄文包含層出土土器　前期①…… 165
第91図　縄文包含層出土土器　前期②…… 166
第92図　縄文包含層出土土器　前期③…… 167
第93図　縄文包含層出土土器　前期④…… 168
第94図　縄文包含層出土土器　前期⑤…… 169
第95図　縄文包含層出土土器　前期⑥…… 170
第96図　縄文包含層出土土器　前期⑦…… 171
第97図　縄文包含層出土土器　前期⑧…… 172
第98図　縄文包含層出土土器　前期⑨…… 173
第99図　縄文包含層出土土器　前期⑩…… 174
第100図　縄文包含層出土土器　前期⑪…… 175
第101図　縄文包含層出土土器　前期⑫…… 176
第102図　縄文包含層出土土器　前期⑬…… 177
第103図　縄文包含層出土土器　早期④・前期⑭ …… 179
第104図　縄文包含層出土土器　早期⑤・前期⑮ …… 180
第105図　縄文包含層出土土器　前期⑯…… 181
第106図　葛山大端ヶⅡ遺跡出土土器分布図 …… 182
第107図　縄文石器（１）…… 184
第108図　縄文石器（２）…… 185
第109図　縄文石器（３）…… 186
第110図　縄文石器（４）…… 187
第111図　縄文石器（５）…… 188
第112図　縄文石器（６）…… 189
第113図　縄文石器（７）…… 191
第114図　縄文石器（８）…… 192
第115図　縄文石器（９）…… 193
第116図　縄文石器（10）…… 194
第117図　縄文石器（11）…… 195
第118図　葛山大端ヶⅡ遺跡出土石器・礫分布図 …… 196
第119図　葛山大端ヶⅡ遺跡出土の主な縄文土器および個体 …… 198

【第４章　今里薬師海道遺跡】

第120図　確認調査のテストピット配置および本調査の位置 …… 214
第121図　今里薬師海道遺跡調査区配置図 …… 215
第122図　今里薬師海道遺跡土層柱状図…… 217
第123図　1号集石…… 218
第124図　縄文包含層出土土器　中期① … 220
第125図　縄文包含層出土土器　中期② … 221
第126図　縄文包含層出土土器　中期③ … 222
第127図　縄文包含層出土土器　中期④ … 224
第128図　縄文包含層出土土器　前期～中期 …… 226
第129図　縄文包含層出土土器　後期 …… 228
第130図　縄文包含層出土土器　晩期 …… 229
第131図　縄文石器（１）…… 231
第132図　縄文石器（２）…… 232

第133図　縄文石器（３）…… 233
第134図　縄文石器（４）…… 235
第135図　縄文石器（５）…… 236
第136図　縄文石器（６）…… 237
第137図　縄文石器（７）…… 238
第138図　縄文石器（８）…… 239
第139図　縄文石器（９）…… 240
第140図　縄文石器（10）…… 241
第141図　攪乱出土・表面採集 …… 243
第142図　攪乱出土（台付甕）…… 244
【付編】
第143図　黒曜石産地位置 …… 257
第144図　暦年較正年代グラフ …… 262
第145図　暦年較正年代グラフ …… 266

【別図】
別図１　石器の計測位置
別図２　遺跡出土遺物集合写真の挿図番号

挿表目次

【序章】
第１表　裾野市内の主な遺跡一覧表（１）…16
第２表　裾野市内の主な遺跡一覧表（２）…17

【第２章　葛山上條遺跡】
第３表　葛山上條遺跡の基本土層……26
第４表　新旧遺構番号対照表……29
第５表　愛鷹南東山麓の遺跡分布…… 119
第６表　旧石器時代の遺構計測表…… 121
第７表　縄文時代の土坑計測表…… 121
第８表　縄文時代の集石計測表…… 122
第９表　縄文時代の焼土計測表…… 122
第10表　葛山上條遺跡　出土土器一覧表… 122
第11表　葛山上條遺跡　出土石器一覧表（旧石器時代）…… 124
第12表　葛山上條遺跡　出土石器一覧表（縄文時代）…… 124

【第３章　葛山大端ヶⅡ遺跡】
第13表　葛山大端ヶⅡ遺跡の基本土層…… 134
第14表　新旧遺構番号対照表…… 135
第15表　縄文時代の竪穴住居計測表…… 200
第16表　縄文時代の土坑計測表…… 200
第17表　縄文時代の集石計測表…… 200
第18表　葛山大端ヶⅡ遺跡　出土土器一覧表 …… 200
第19表　葛山大端ヶⅡ遺跡　出土石器一覧表 …… 209

【第４章　今里薬師海道遺跡】
第20表　今里薬師海道遺跡の基本土層…… 216
第21表　集石計測表…… 246
第22表　今里薬師海道遺跡　出土土器一覧表 …… 246
第23表　今里薬師海道遺跡　出土石器一覧表 …… 249

【付編】
第24表　葛山上條遺跡　出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表…… 254
第25表　葛山大端ヶⅡ遺跡　出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表…… 254
第26表　今里薬師海道遺跡　出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表…… 255
第27表　産地原石判別群（SEIKO SEA-2110L 蛍光X線分析装置による）…… 256
第28表　出土黒曜石産地組成（３遺跡分） …… 258
第29表　年代測定結果一覧表…… 261
第30表　年代測定結果一覧表…… 261
第31表　年代測定結果一覧表…… 265
第32表　年代測定結果一覧表…… 265

図版目次

図版１　調査区全景（南東から）
図版２－１　７・31号土坑（北から）
図版２－２　33号土坑（北から）
図版２－３　32号土坑（南から）
図版３－１　35号土坑（南から）
図版３－２　51号土坑（南東から）
図版３－３　52号土坑（東から）
図版４－１　１号集石（南東から）
図版４－２　12号集石（北から）
図版４－３　２号焼土（南から）
図版５－１　５区旧石器調査テストピット設定状況（北西から）
図版５－２　６区旧石器調査テストピット設定状況（北西から）
図版５－３　休場層１号石器集中（東から）
図版６－１　休場層ナイフ形石器（17－１）出土状況（東から）
図版６－２　休場層１号礫群（西から）
図版６－３　休場層２号礫群（南西から）
図版７－１　第Ⅰスコリア層剥片（18－１）出土状況（西から）
図版７－２　第Ⅲスコリア帯第２黒色帯剥片（19－１）出土状況（北から）
図版８－１　休場層出土石器
図版８－２　休場層出土台石
図版８－３　休場層出土敲石
図版８－４　休場層出土被熱礫
図版８－５　休場層出土被熱礫（左）・台石（右）
図版９－１　第Ⅰスコリア層出土剥片
図版９－２　第Ⅲスコリア帯第２黒色帯出土剥片
図版９－３　旧石器時代遺物集合
図版10　縄文時代遺物集合
図版11－１　32号土坑出土石器
図版11－２　37号土坑出土石器
図版11－３　43・45号土坑出土石器
図版11－４　１号集石出土石器
図版11－５　包含層出土　縄文時代早期の土器
図版12－１　包含層出土　縄文時代前期の土器
図版12－２　包含層出土　縄文時代後期の土器①
図版13－１　包含層出土　縄文時代後期の土器②
図版13－２　包含層出土　剥片石器
図版14－１　包含層出土　打製石斧・石核
図版14－２　包含層出土　石皿
図版15－１　遺跡遠景（北から）
図版15－２　1号竪穴住居台石（74−1）、磨・敲石（74−3）床面出土（南から）
図版16－１　１号竪穴住居掘方（南から）
図版16－２　２号土坑（北西から）
図版16－３　５号土坑（西から）
図版17－１　６号土坑（北西から）
図版17－２　７号土坑（南から）
図版17－３　１号集石（北東から）
図版18－１　１区旧石器調査テストピット設定状況（南西から）
図版18－２　２区旧石器調査テストピット設定状況（北東から）
図版18－３　休場層出土剥片
図版19－１　葛山大端ヶⅡ遺跡遺物集合
図版19－２　１号竪穴住居床面出土礫石器・埋土出土土器片
図版20－１　３・４号土坑出土土器及び包含層出土土器
図版20－２　５号土坑出土土器及び包含層出土土器
図版21－１　包含層出土　縄文時代早期の土器
図版21－２　包含層出土　縄文時代前期の土器①
図版22－１　包含層出土　縄文時代前期の土器②
図版22－２　包含層出土　縄文時代前期の土器③
図版23－１　包含層出土　縄文時代前期の土器④有孔浅鉢
図版23－２　包含層出土　縄文時代前期の土器⑤
図版23－３　包含層出土　縄文時代前期の土器⑥
図版24－１　包含層出土　縄文時代前期の土器⑦
図版24－２　包含層出土　縄文時代前期の土器⑧
図版25－１　包含層出土　縄文時代前期の土器⑨
図版25－２　包含層出土・遺構内出土　縄文石器

図版26－１　調査区全景（北から）
図版26－２　調査区西側遺物出土状況（南東から）
図版26－３　調査区東側遺物出土状況（西から）
図版27－１　土器出土状況（西から）
図版27－２　攪乱出土　台付甕（141－１）（南西から）
図版27－３　１号集石（西から）
図版28　今里薬師海道遺跡遺物集合
図版29－１　包含層出土　縄文時代中期の土器①
図版29－２　包含層出土　縄文時代中期の土器②
図版30－１　包含層出土　縄文時代中期の土器③
図版30－２　包含層出土　縄文時代中期の土器④
図版30－３　包含層出土　縄文時代前期の土器
図版31－１　包含層出土　縄文時代後期の土器①
図版31－２　包含層出土　縄文時代後期の土器②
図版31－３　包含層出土　縄文時代晩期の土器
図版32－１　攪乱出土　台付甕①
図版32－２　攪乱出土　台付甕②
図版32－３　包含層出土　縄文石器

序章

第１節　調査に至る経過

１　第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯

昭和62年、東名・名神高速道路の混雑緩和の対策として、道路審議会において、第二東名、第二名神高速道路の建設が建議された。

平成元年、第四次全国総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道建設法の一部改正等を経て、第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において、神奈川県横浜市から愛知県東海市に至る第二東名高速道路（以下、第二東名）が計画された。この基本計画策定を受けて静岡県は、平成元年12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置し、静岡県教育委員会文化課（以下、文化課）もこの協議に参加した。

平成３年、第二東名の基本計画について、文化財を含む環境調査等が行われ、他の公共事業や地域開発計画との調整を図り、９月24日、静岡県の長泉町から引佐町（現浜松市、以下同じ）に至る都市計画の決定が告示された。

平成４年、環境調査と並行して、埋蔵文化財の分布状況も把握された。第二東名建設に係る調査の指示を受けた日本道路公団（現中日本高速道路株式会社、以下同じ）は、２月17日付けで文化庁にこれを通知するとともに、５月11日付けで、日本道路公団東京第一建設局長（以下、建設局長）から静岡県教育委員会教育長宛（以下、県教育長）に、第二東名建設予定地内の埋蔵文化財の分布調査が依頼された。また、８月27日付で日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所長（以下、事務所長）から県教育長宛に、「第二東海自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」が照会された。これを受けて県教育委員会は、９月29日に関係市町村教育委員会の関係者を集めて、第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を設けるとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在について、当該市町教育委員会に照会し、当該教育委員会から回答を得た。

平成５年県教育委員会はこの回答をもとに協議を行い、結果を３月18日付で、県教育長から事務所長宛に回答した。この時点で、調査対象箇所は136か所、調査対象面積は1,453,518㎡となっている。

その後、長泉町～引佐町間については、11月19日付で日本道路公団に施工命令が出された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局及び静岡県土木部高速道路建設課、文化課で、埋蔵文化財調査の進め方を協議した。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について検討するとともに発掘調査の実施については、日本道路公団が財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所（以下、静岡埋文研）に委託することが確認された。しかし、短期間に膨大な調査を行うための体制作りが課題となった。

平成６年、文化課が調査対象箇所の状況を調査するとともに、前年度に告示されたパーキングエリア、サービスエリア建設予定地内の踏査を、当該市町教育委員会に依頼した。その結果、調査対象地は133箇所、調査対象総面積は1,286,759㎡となった。

平成７年日本道路公団静岡建設所と文化課による「第二東名関連埋蔵文化財連絡調整会議」が設置され、12月13日に第１回会議が行われた。

平成８年、第二東名に係る埋蔵文化財調査に向けて、建設局と県教育委員会は、９月24日付けで埋蔵文化財の取り扱いに関する確認書を締結した。さらに調査実施機関である静岡埋文研を加えた三者は、９月25日付で第二東名に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について定めた協定書を締結し、年度内に調査を始めることとなった。そして、掛川市、浜北市（現浜松市）で確認調査を始めた。

平成９年、本格的に発掘調査を開始した。これ以降、原則として第二東名の本線、サービスエリア、

パーキングエリア、廃土処分場については、静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施、工事用道路、取り付け道路部分については、当該市町教育委員会に対応してもらうとともに、特に東部地域を中心に、民間の発掘調査支援機関の導入を図った。

このような経緯の中、裾野市域における第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、葛山上條遺跡（第二東名№149地点）、葛山大端ヶⅡ遺跡（第二東名№151地点）、今里薬師海道遺跡（第二東名№154）の調査が行われた。

なお平成23年４月からは、静岡県教育委員会が第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務を直接実施することになった。

２　発掘調査の方法と経過

（１）発掘調査の方法

遺跡の測量や遺物の出土位置の特定などのため、平面直角座標第Ⅷ系のＸ＝－93380、Ｙ＝34440を原点として調査区全体に10m四方の方眼を設定した。そして、Ｙ軸に対して南から北に向かってアルファベット、Ｘ軸に対して西から東へアラビア数字によって記号をつけた。10m四方のグリッドの名称は、南西隅の記号をとり、Ａ－１グリッド、Ａ－２グリッドのように呼ぶこととした。

遺構の測量や遺物の出土位置は、株式会社トプコンのトータルステーションＧＴＳ－700を使用して、国土座標により記録し、そのデータは株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」にて管理した。

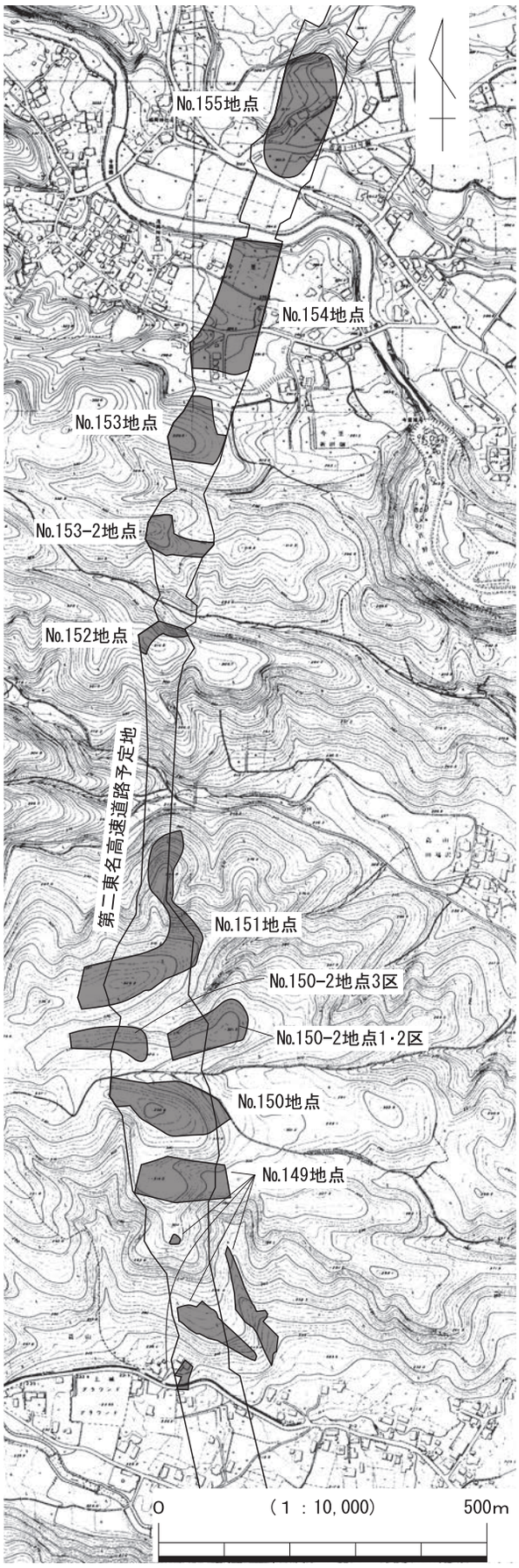
（２）現地調査

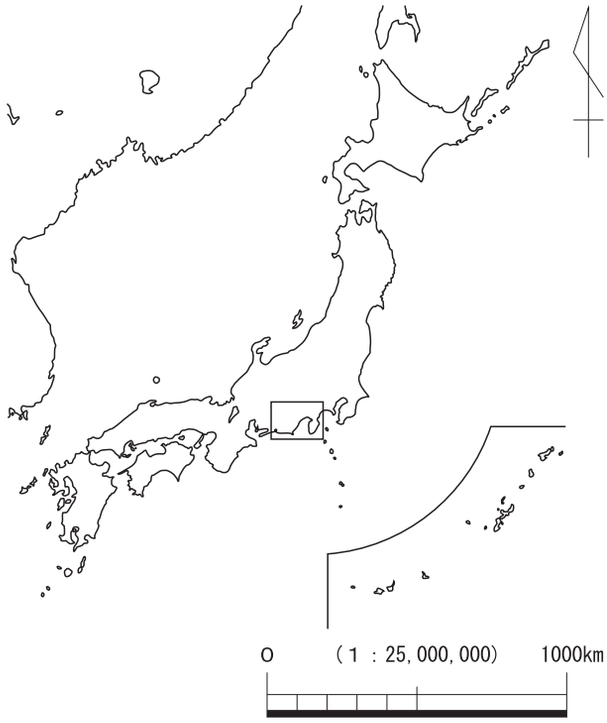
現地調査（確認調査・本調査）の経過については、各章を参照願いたい。

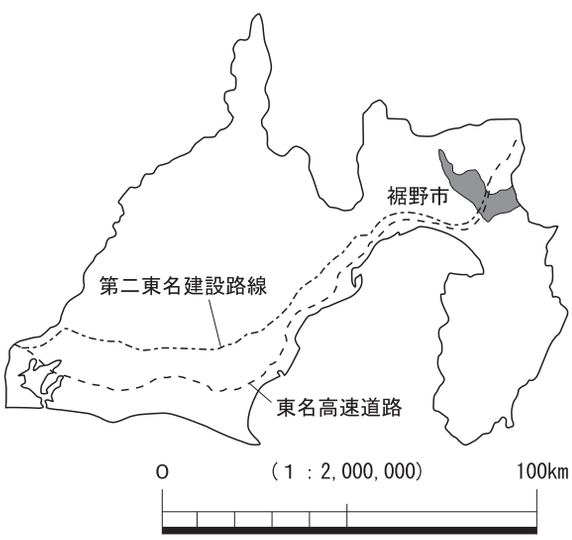
（３）資料整理、報告書作成

資料整理・報告書作成は、平成23年４月～平成24年３月にかけて行った。葛山上條遺跡、葛山大端ヶⅡ遺跡、今里薬師海道遺跡は、いずれも現地調査と並行して基礎整理作業まで終え、一部図面編集などを進め、一端休止した。基礎整理作業では、遺物の洗浄・注記、遺物台帳の作成、写真整理、図面整理を行った。

現地調査後から資料整理開始までは、かなり長い年月が経っている。資料整理を行う前に、まず遺物番号と遺物台帳の照合作業を行った。それを終えてから、出土品と記録類の整理作業に着手した。出土品は、分類・仕分け、接合・復原作業を行った。土器は、まず文様構成や施文具、胎土の点で類似する資料ごとにまとめ、それから接合作業を行った。接合作業の順序は、①遺構内（及び遺構周囲のグリッド）、次に②遺構外（出土地点・層位が近いところから順に）、の手順で試みた。土器の接合作業は、器の形をしたパズルのような作業に近い。中には器の形が特徴的な資料も含まれているので、接合・復原作業では、土器型式の認定とその器形の把握に努めた。石器は、まず石材分類を行い、石質が類似する資料ごとにまとめ、それから接合作業を行った。ただし、石材が黒曜石である場合は、産地同定前と産地同定後の２回接合作業を行っている。接合作業の順序は、土器と同様である。石器の接合作業は、剥離面のネガ面とポジ面の接合であり、土器とは異なり、接合作業には時間を要した。接合・復原作業後は、報告書掲載遺物を選定し、実測・トレース、版組作業を行った。記録類は、全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行った。以上の整理作業の成果を踏まえて、原稿執筆を行った。報告書は、３遺跡の出土遺物量と遺構数から判断して１冊にまとめることになった。







対象地点一覧

対象地点		遺跡名
No.149地点		葛山上條遺跡
No.150地点		葛山大端ヶⅠ遺跡
No.150-2地点	1・2区	葛山大端ヶⅢ遺跡
	3区	藤畑遺跡
No.151地点		葛山大端ヶⅡ遺跡
No.152地点		北ノ沢遺跡
No.153地点		棚返遺跡
No.153-2地点		今里遺跡
No.154地点		今里薬師海道遺跡
No.155地点		曲久保遺跡

第１図　裾野市の位置と遺跡の位置

黒曜石製石器については、沼津工業高等専門学校名誉教授望月明彦氏に委託して、産地推定分析を行った。分析は、３遺跡から出土した黒曜石製石器全てを対象とした。炭化物については、遺構の底面付近で採取した炭化物を中心に、株式会社加速器分析研究所に委託し、年代測定を行った。また土器付着炭化物についても、土器内外面でコゲやススといった炭化物が、比較的明瞭に付着している試料を中心に、年代測定を行った。

第２節　裾野市の位置と環境

１　地理的環境（第１図）

地理　静岡県は、中部地方南部の太平洋側に面し、県土面積7,780.42㎢の広さを有する。県内は富士川と大井川を境に、東部・中部・西部の３地域に区分される。2008年11月１日、旧富士川町が富士市に編入されたことにより、富士川による区分は明瞭でなくなったが、中部と東部の境界として概ね指標となっている。

本報告書に掲載した葛山上條遺跡・葛山大端ヶⅡ遺跡・今里薬師海道遺跡は、静岡県東部の裾野市に所在する。裾野市は、北緯35度10分・東経138度54分に位置し、総面積138.17㎢の広さを有する。市内は、北から南東へ広がる富士山東南麓の裾野が、東の箱根外輪山西麓と西の愛鷹山東麓により漏斗状に狭まった地域である。この地域は、土地分類上、火山急斜面と火山緩斜面と低位台地で構成される。漏斗状に狭まった低位台地には、御殿場市に源を発する全長31kmの１級河川黄瀬川（きせがわ）が南流しており、裾野市で愛鷹山東麓と箱根外輪山西麓から流れる支流河川と合流する。この河川は、沼津市・三島市を流れる狩野川に合流し、最後は駿河湾へ注がれる。

気候　裾野市は、太平洋沿岸式東海気候区に属する。この気候区は、夏涼しく冬暖かい気温、夏多く冬少ない雨量が特徴である。裾野消防署（平成14～16年）の観測では、本市の年間平均気温は約14℃、三島市より２℃低く、御殿場市より１～２℃高い傾向にある。また本市の年間降水量の平均は約2,000㎜、三島市より約400㎜多く、御殿場市より約800㎜少ない。降霜は、11月下旬から３月中旬の期間に見られ、その期間の降雪は数回ほどである。山麓付近の人々は天気の変化を雲で予測している。富士山頂部に笠雲・吊るし雲が確認できた場合、24時間以内に天候が悪くなる確率は75％と言われている。

生物　愛鷹山・箱根山では、標高700～1,000m以上の付近で、落葉広葉樹（ブナ・ミズナラ・シデ類・カエデ類）の自然林が繁茂している。その下の山麓一帯では、自然林は少なく、現在造林された林（スギ・ヒノキ・クヌギ・コナラ）が繁茂している。クマ・カモシカ・キツネなどの哺乳類は、以前は自然林の中で生息していたが、現在山麓一帯が開発されたため、滅多に目撃されることはなくなった。イノシシは秋から冬にかけて里近くの農作物を荒らしたりする被害があるので、近隣に生息していると思われる。また本市は日本有数の野鳥の生息地であり、冬鳥（ツグミなど）、夏鳥（オオジシギなど）、日本三鳴鳥（コマドリ）などが、樹林・草原・高原で観察できる。黄瀬川では、以前はハヤ・ウグイ・ヤマメ・ウナギ・ドジョウなどの魚類が生息していたが、現在は減少気味である。

2　地質の様相（第２図）

静岡県東部には、富士川から糸魚川にかけて縦断するフォッサマグナ（糸魚川－静岡構造線）が位置している。このフォッサマグナは、新生代第三紀（約25,000,000年前）に沈降した大地溝帯である。この大地溝帯が形成した後、世界では火山活動が盛んになる。日本列島では、新生代第四紀洪積世前期（約500,000 ～ 400,000年前）に中央日本を縦断する富士火山帯が活動し始め、小御岳火山、愛鷹火山、箱根火山などを形成した。

以下、大木1978、石田・島津1993、島津・黒川1993、町田2006、裾野市教育委員会2007の研究を参考に、富士火山、愛鷹火山、箱根火山の火山活動を概観する。

第１期　約400,000年前～80,000年前

富士火山は、複雑な活動史をもった複合火山である。現在、山梨・静岡県境に位置する、標高3,775.6ｍ（剣ヶ峰三角点）の高さを誇る、日本列島最高峰の富士山は、地質学上、新富士火山に相当する。この新富士火山体の下には、小御岳火山、古富士火山が伏在する。この中で小御岳火山は最も古い火山であり、約400,000年前に誕生したと言われている。現在は、標高2,300ｍ付近にて山頂部のみが確認できる伏在火山である。

箱根火山は、現在新旧二つの外輪山と中央火口丘群の三要素からなる複成火山である。約40万年前、火口から玄武岩質溶岩が激しく噴出し、続いて安山岩質溶岩と火砕岩が交互に噴出して高さ2,700ｍの成層火山を形成したと言われている。約20万年前、成層火山体の中央部が陥没し、古期カルデラ・古期外輪山が形成される。その後は活動静穏期に入るが、約13万年前に再び活動が始まり、その時の噴出物により古期カルデラの凹地は埋まり、その際、盾状火山が生じたと言われている。

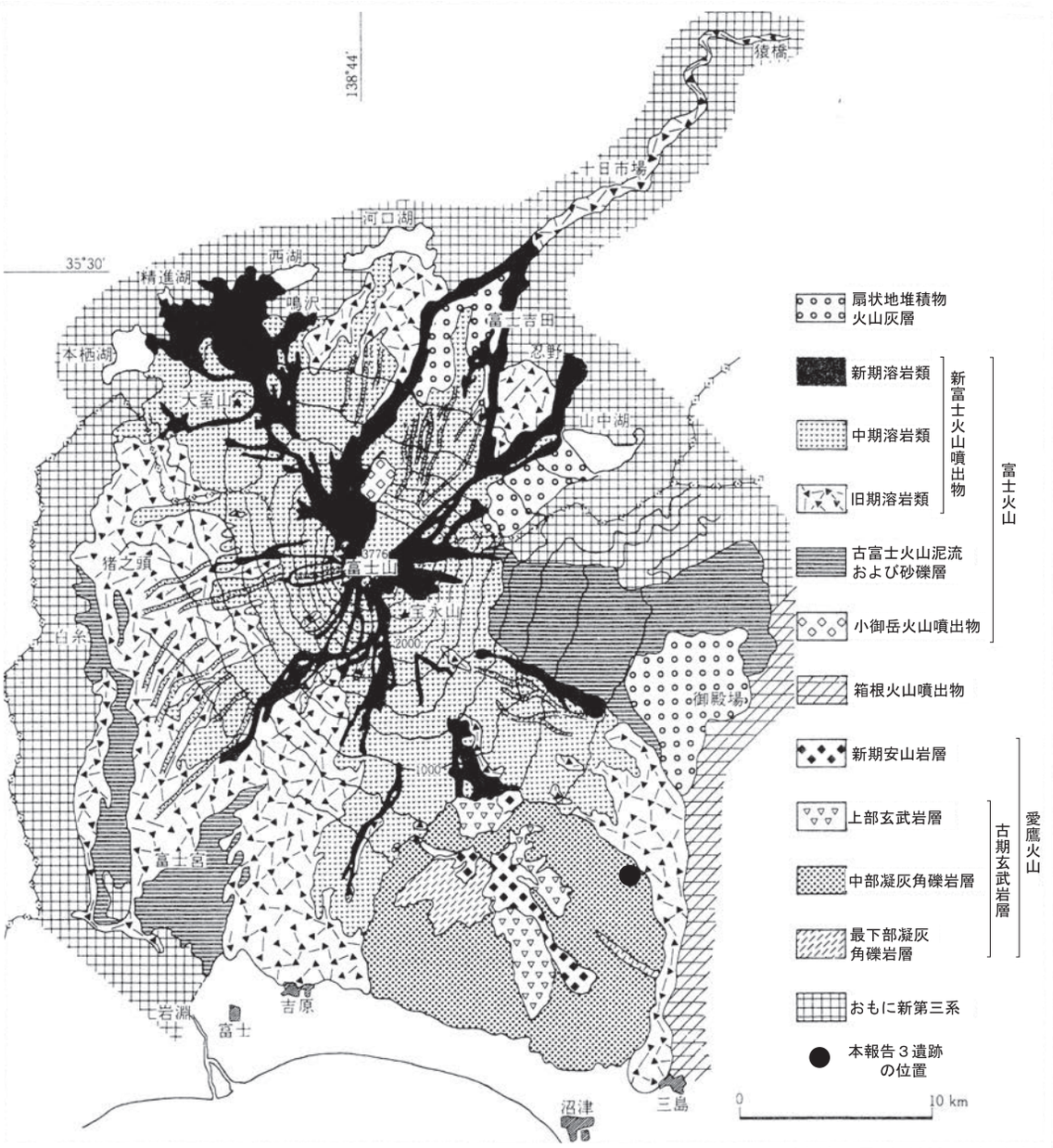
一方、愛鷹火山は、古期（約40万年前～約25万年前）・中期（約250,000年前～約170,000年前）・新期（約17万年前～）・最新期（約10万年前後）の火山活動を経る。古期の火山活動では、噴出火山灰が箱根山西麓において良好に堆積し、「三島ローム層」を形成する。中期の火山活動では、火口から玄武岩質の溶岩と凝灰角礫岩などが交互に噴出し、成層火山を形成する。新期の火山活動では、山体の南東側において溶岩流が３回噴出する。１回目の溶岩流は「古期玄武岩層」（全域に分布）、２・３回目の溶岩流は「新期安山岩層」（山頂※黒岳付近に分布）を形成する。

第２期　約80,000年前～11,000年前

この時期、古富士火山が活動し始め、集塊質泥流（火山灰・火山礫など混合物）を多発する。35,000年前～ 11,000年前に噴出した火山灰は、愛鷹火山の南麓から東麓にかけて「愛鷹上部ローム層」を形成する。25,000年前以降、「古富士泥流」が富士宮や小山町周辺に流れ込む。17,000年前以降、「芝川溶岩流」が愛鷹山に阻まれながら、西は芝川町から吉原へ、東は御殿場・裾野から三島、静浦山地まで流れ込む。11,000年前、古富士火山の火山活動が休止し、大規模な山体崩落を起こす。

箱根火山では、約70,000 ～ 45,000年前に古期カルデラ内の盾状火山の西側が陥没し、新期カルデラ・新期外輪山が形成される。新期カルデラ形成前後には、大規模な軽石流が繰返し噴出し、関東ローム層や愛鷹ローム層の鍵層になっている。またデイサイト質溶岩が噴出し、畑宿や芦ノ湯等の黒曜石岩体が生成される。新期カルデラ内には溶岩円頂丘を呈する中央火口丘が次々と噴出されるが、その中で神山だけは成層火山が形成される。

一方、愛鷹火山は活動を休止し、それ以降は火山特有の放射谷が発達する。現在の愛鷹火山は、北から越前岳（1,504m）、呼子岳（1,274m）、位牌岳（1,458m）等の連峰に分かれ、これらの連峰を頂点と



（島津・黒川 1993 一部改変）

第２図　富士火山・愛鷹火山の地質概略図

して四方に放射状に発達し、浸食で形成された沢と丘陵からなる「壮年期」の成層火山に相当する。

第３期　約11,000年前～8,000年前

新富士火山が活動し、火口から玄武岩質の溶岩と火山灰・火山砂などが交互に噴出し、小御岳火山・古富士火山を覆いながら、成層火山を形成する。噴出した溶岩類は噴出順に旧期・中期・新期に分けられ、裾野に溶岩原を形成する。この時期は旧期・中期に相当する。旧期溶岩類は富士山西麓から南西麓の範囲に分布している。約10,500年前に噴出した「三島溶岩流」は黄瀬川の谷に流れ込み、現在の三島駅周辺まで及ぶ。中期溶岩類は標高約1,500m以上の範囲に分布し、黄瀬川の谷に流れ込む溶岩流は確認されていない。

活動静穏期　8,000年前～5,000年前

この時期は火山活動が静かであり、植物が繁茂し、富士黒色土層が形成される。この活動静穏期は、縄文時代早期～前期に位置づけられ、縄文海進期に相当する。本報告の葛山上條遺跡や葛山大端ヶⅡ遺跡では、この時期に相当する遺構や遺物が確認されている。

5,000年前以降

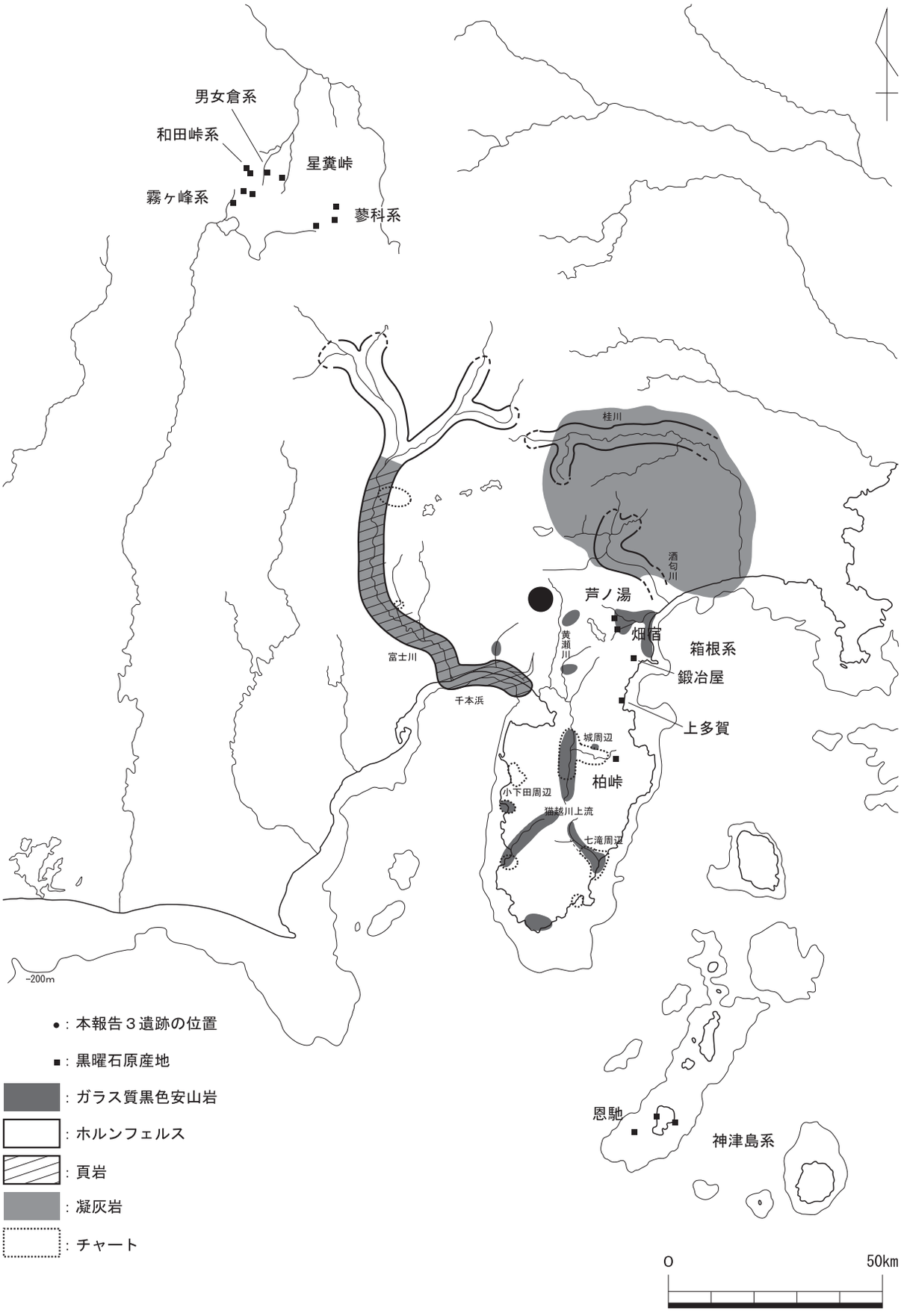
新富士火山が活動し、山頂部や寄生火山の配列方向から溶岩流を噴出する。この時期は、新期溶岩類に該当し、黄瀬川の谷に流れ込む溶岩流は確認されていない。約2,900 ～ 2,300年前には、山体東斜面の大規模崩壊により「御殿場泥流」が発生し、黄瀬川の谷に泥流が大量に流れ込み、かつての三島溶岩流は覆われ、三島市や駿東郡清水町の扇状地を形成する。この泥流は、「御殿場泥流層」と呼称されている。

箱根火山では、約3,100年前、新期カルデラ内の神山の北西山腹で大型の水蒸気爆発が生じ、土石流を発生する。その結果、早川上流部は土石流の堆積物により堰き止められ、芦ノ湖が形成される。続く約2,900年前、神山の爆裂火口内に形成された溶岩尖塔が爆発し、大涌谷火砕流が発生する。これ以後、箱根火山では大きな噴火は確認されていない。一方、噴気活動（神山中腹の早雲地獄や駒ヶ岳中腹の湯ノ花沢など）や火山性群発地震は現在も確認されている。現在、箱根外輪山は東から塔ノ峰・明神ヶ岳・金時山・三国山・白銀山と、1,000m級の山々がほぼ円形状に連なる様相を呈する。

３　遺跡周辺の石材環境（第３図）

愛鷹山麓周辺では、凝灰岩、ガラス質安山岩、ホルンフェルス、頁岩、珪質頁岩、黒曜石といった剥片石器に主に多用される石材が分布している。第３図の遺跡周辺の石材環境（原産地及び主な入手可能地）は、池谷・望月1998、池谷2000、前嶋・森嶋2003・2004・2005・2006・2007の研究成果を参考にして作成した。

愛鷹山麓周辺では、近年、前嶋秀張氏・森嶋富士夫氏による石材調査が試みられており、その成果について報告されている（前嶋・森嶋2003・2004・2005・2006・2007）。両氏の石材調査の結果、石斧製作に適した凝灰岩や緑色岩は、酒匂川流域、桂川流域、富士川流域と千本松原の礫浜に分布すると推定している（前嶋・森嶋2004）。特に丹沢山地（丹沢層群）で入手できる凝灰岩は、その石質から硬質細粒凝灰岩と呼称している（前嶋・森嶋2007）。ガラス質黒色安山岩では、伊豆・箱根周辺に産地が分布する（山本・柴田1998、池谷・望月1998）。伊豆では、①中伊豆町城周辺、②土肥町小下田周辺、③天城湯ヶ島町猫越川上流―仁科川周辺、④河津町七滝周辺―河津浜で入手可能である。箱根では、箱根外輪山を構成する明神ヶ岳および白銀山にて露頭が確認でき、早川上流域、須津川流域において入手可能



（池谷・望月 1998 、池谷 2000、前島・森嶋 2003・2004・2005・2006・2007 参照）

第３図　遺跡周辺の石材環境（原産地および主な入手可能地）

である。須津川上流域では、「畑宿（はたじゅく）」産の黒曜石も採取できるという。ホルンフェルス・頁岩・珪質頁岩では、富士川から千本浜にかけて分布する（池谷・望月1998・前嶋・森嶋2003）。

また佛ヶ尾（ほとけがお）遺跡の報告では、磨石、敲石、石皿および集石遺構の礫の入手先について検討するために、遺跡周辺の河川転石を調査している（静文研2007）。その結果によると、500m北東の谷津川（やつがわ）では輝石安山岩・多孔質玄武岩・玄武岩・多孔質安山岩・デイサイトが採取でき、形状は「握り拳１つから２つくらいの大きさの円礫が散見」するという。その中で多く採取できた輝石安山岩・多孔質安山岩は、磨石・敲石の石材入手先の候補地として所見を述べている。続いて、100m南の谷底を流れる小さな沢では輝石安山岩・多孔質玄武岩・玄武岩・多孔質安山岩が採取でき、形状は「亜角礫、角礫、板状礫ばかりで円礫は少ない」という。磨石・敲石の素材形状をした円礫は採取しにくいことから、むしろ集石遺構の構成礫（角礫など）の入手候補地として所見を述べている。また1.6km東南東の黄瀬川では輝石安山岩・多孔質玄武岩・玄武岩・多孔質安山岩・粗粒砂岩・デイサイトが採取でき、形状は「角礫、板状礫は少なく、摩耗した円礫、亜円礫が主体」という。磨石・敲石類のサイズから石皿類のサイズまでの円礫が採取できることから、有力な入手候補地として所見を述べている。

本報告３遺跡出土の石器石材の入手先について、検討してみた。重量感のある礫石器類や一部の打製石斧は、玄武岩、安山岩類（輝石安山岩・閃緑安山岩）を利用しており、その石材の表皮が円礫を呈することから河川転石を入手したものと考えられる。おそらく黄瀬川及び支流の近隣河川から入手したものと推定される。それ以外の石鏃やスクレイパー類などの石器石材は、黒曜石、ガラス質安山岩、凝灰岩、ホルンフェルス、頁岩、チャートなどが利用されている。ガラス質安山岩では、その石質から箱根付近のものを利用していると推定される。また凝灰岩では、その石質から丹沢山地の北側で多く分布する細粒硬質凝灰岩を利用していると推定される。続いてホルンフェルス・頁岩・チャートでは、その石質から富士川から千本浜にかけて分布するものを利用していると推定される。黒曜石では、産地分析を行っており、その結果、長野県の和田鷹山（わだたかやま）・和田小深沢（わだこぶかさわ）・諏訪星ヶ台（すわほしがだい）、静岡県の天城柏峠（あまぎかしわとうげ）、神奈川県の箱根畑宿、東京都の神津島恩馳島（おんはせじま）の６つの産地が推定される（「付編１　黒曜石産地推定結果」参照）。特に諏訪星ヶ台と神津島恩馳島といった遠隔地の黒曜石の利用が比較的多く見られる。

以上の検討を踏まえると、本報告３遺跡が位置する地点から半径25 ～ 50km圏内において、入手できる石器石材を主に利用していることが分かる。

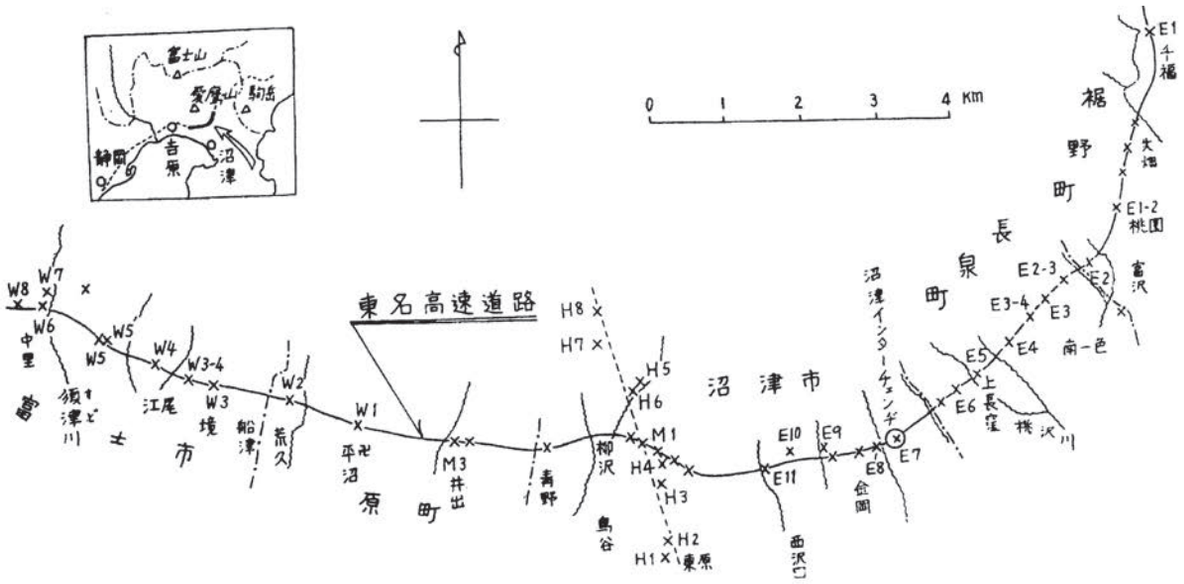
註：本報告の３遺跡出土の石器石材の鑑定及び入手可能地については、富樫孝志氏、森嶋富士夫氏よりご教示を頂いた。

４　愛鷹山麓の火山灰層序学的区分（第４図）

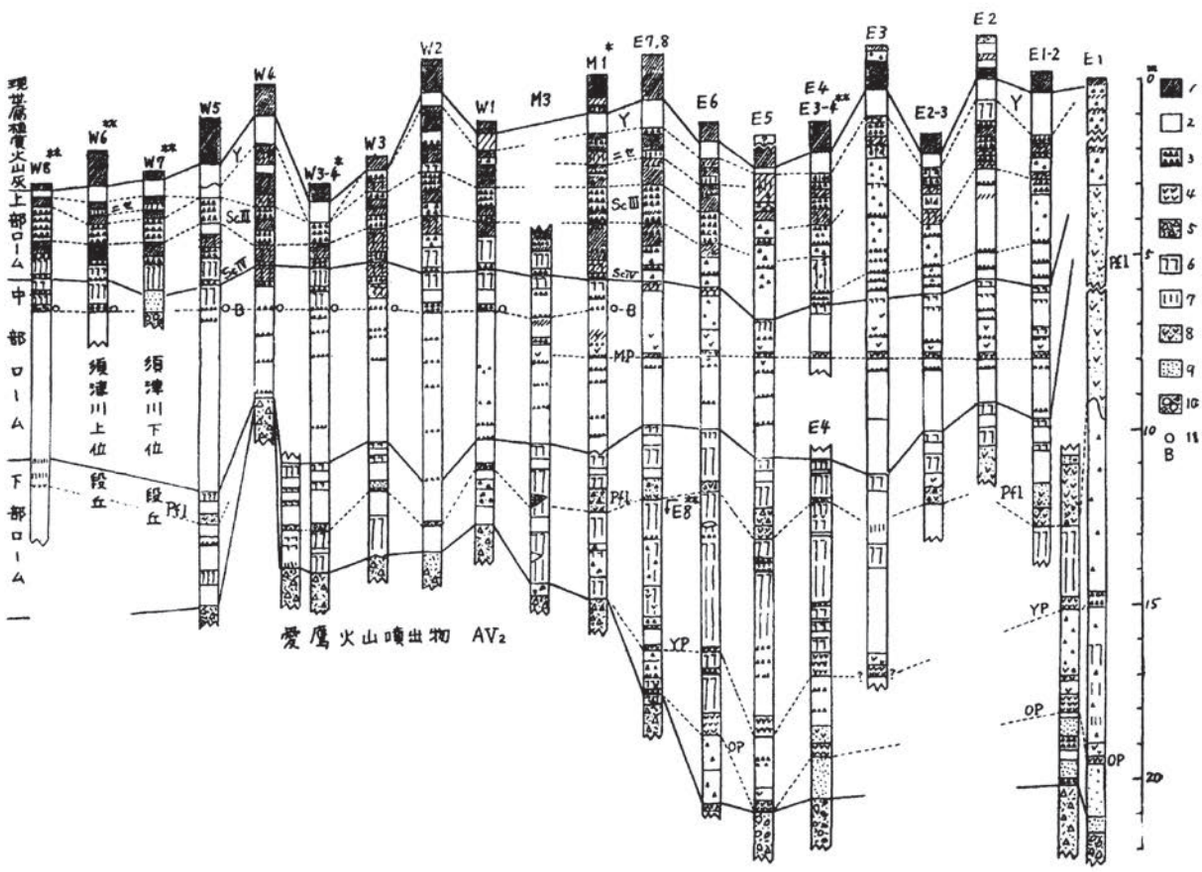
静岡県東部の奥駿河湾を望む愛鷹山南麓と箱根山南西麓は、山頂から浸食・開析されており、その尾根は放射状を呈している。この両尾根部分の標高300m以下は緩斜面を呈しており、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が多く確認されている。特に愛鷹山麓尾根部の表土下には、古富士火山（約８万年前）・新富士火山（約15,000年前）・箱根火山帯（約40,000 ～ 60,000年前）の火山降下物が厚く堆積しており、いわゆる「愛鷹ローム層」を形成している。

この愛鷹ローム層とは、「愛鷹山麓に存在する褐色の、粘土化の進んだ火山灰層」（愛鷹ローム団研グループ1969）に対する呼称である。このローム層は、愛鷹ローム団研グループによって、火山灰層序学的区分が設定されている。この愛鷹ローム団研グループとは、愛鷹山麓を横断する東名高速道路工事を機に、「愛鷹ローム層が施工上特異な性質をもつ点」を解明するために、当時の現場試験担当である大

1　調査地点図（愛鷹ローム団研グループ 1969 参照）



2　地質柱状図（愛鷹ローム団研グループ 1969 参照）



地質柱状図（勾配 10：8 の法面での見かけの厚さ、＊上部ロームのみ真の厚さ、**全部真の厚さ）
1：腐植質土層、黒～暗色帯、2：ローム層、3：スコリア、4：軽石、5：角礫凝灰岩（泥流状）、6、7：クラック帯、8：軽石流、9：火山灰、10：円礫層、11：含雲母グリース状火山灰の層準、Ｙ：休場層、ニセ：ニセローム（栗色ローム）、ScⅢ、Ⅳ：第3、4スコリア帯、ＭＰ：三島パミス、Pfl：箱根新期軽石流、ＹＰ：黄色パミス、ＯＰ：オレンジパミス、ＡＶ2：愛鷹火山古期玄武岩層中部角礫凝灰岩（沢村、1955）.

第４図　愛鷹ローム団研グループの火山灰層序学的区分

林組技研の喜田大三らの呼びかけを契機に、「土壌学、農地工学、土質工学、粘土科学、地質学、地形学、考古学などの各方面の研究者と教師」により結成された共同研究グループである（愛鷹ローム団研グループ1969）。調査した主な露頭は、直ちに草の吹きつけ工事により消滅するため、「工事期間中しか露頭が観察できない」状態にあり、それ故に地元メンバーである静岡大の加藤芳郎を中心に層序区分が行われ、その後、このグループ内で総合的な検討を加えて、火山灰層序学的区分を設定した（愛鷹ローム団研グループ1969）。その層序区分の概要では、上から、①現世腐植質火山灰層、②上部ローム、③中部ローム、④下部ローム、⑤基盤、の順で大別される。①は、休場層直上に形成した、いわゆる黒土層を指す。この黒土層は土壌学的に細分を試みている。地表下０～30cmは黒色土、地表下30～60cmは黒褐色土＝「新期スコリア層」、地表下60～80cmは褐黒色土、地表下80～100cmは極暗褐色土＝「栗色土層」、地表下100～125cmは黒褐色土＝「富士黒色土層」、地表下125～150cmは暗褐色土、として細分している。②は、上から順に休場層（Y）、第１スコリア帯（ScⅠ）、ニセローム（栗色ローム）、第２スコリア帯（ScⅡ）、第３スコリア帯（ScⅢ）、第４スコリア帯（ScⅣ）、として細分を試みている。さらに各スコリア帯の上下には、黒色帯（埋没土腐植層）が形成しており、互層関係を呈していることを報告している。

現在、これらの火山灰層序学的区分に準拠して、考古学的な基本層序が整備されている。上述のスコリア層は、溶岩の小礫である暗褐色のスコリア層であり、「ワンフォール・ユニット」（短期間の降下）が想定されている（笹原2007）。そのスコリア層上面には、黒色帯と呼ばれる暗褐色の筋が観察でき、降灰休止期の植物繁茂等の腐食作用による土壌化の痕跡と想定されている。旧石器時代の調査では、この互層中から遺物が各々出土しており、文化層を設定する上でスコリア層と黒色帯の検討は重要になっている。現在では、「後期旧石器時代に相当する層は26層以上に分層可能である」（笹原2007）と言われる。

実際の調査では、各遺跡で土層の堆積具合や発色具合などに差異が見られる。例えば、沼津市や長泉町の西側では、愛鷹ローム層は３～６ｍの厚さを呈し、地形により異なる傾向にある。本報告の３遺跡の基本土層と具体的な堆積状況は、各章を参照願いたい。

５　歴史的環境（第５・６図・第１・２表）

（１）旧石器時代

静岡県内では、西部の磐田原台地、東部の愛鷹山・箱根山麓において旧石器時代の遺跡が多く確認されている。本遺跡が立地する愛鷹山麓では、西麓－南西麓・南東麓・東麓において旧石器時代の遺跡分布に偏りが見られる。南東麓の緩斜面では遺跡が集中する傾向にある（池谷1995）。特に高橋川流域～梅ノ木沢川流域の間は、遺跡が多い。一方、西麓－南西麓（高橋川以西）・東麓（梅ノ木沢川以北）では、遺跡が散発的に確認されている。「基本的には山麓全域に分布しており、特定河川の流域などに沿うような傾向はない」（笹原2007）という指摘もあり、調査件数が分布の偏りを示しているかもしれない。東の箱根山麓では、芦ノ湖西南方向の緩斜面に遺跡が多く確認される傾向にある（池谷1995）。

裾野市内の旧石器時代の遺跡は、愛鷹山東麓の富沢平林遺跡（53）・内野山Ⅱ遺跡（41）・尾畑遺跡（40）、箱根外輪山西麓の丸山Ⅱ遺跡（101）・日向遺跡（99）、富士山南東麓裾野の上川遺跡（58）が従来知られていた遺跡である。第二東名建設に伴う愛鷹山東麓の発掘調査により、佛ヶ尾遺跡（34）、下ノ大窪遺跡（35）、老平遺跡（36）、入ノ洞B遺跡（38）、内野山Ⅴ遺跡（45）、塚松遺跡（57）が知られるようになった。特に塚松遺跡では、第Ⅲ黒色帯から陥穴状土坑が多数検出されている。入ノ洞B遺跡では、約28,000年前に比定される第Ⅳ黒色帯から局部磨製石斧が単独で出土している。

（2）縄文時代

縄文時代になると遺跡数は増加する。市内の縄文時代遺跡の大半は、早期で占められている。遺跡の大半は、山麓丘陵の沢谷を望む、比較的広い平坦地の南方向に開けた、ゆるい傾斜面に立地している。

草創期の遺跡は、富士山南東麓の上川遺跡（58）が該当する。箱根山麓の城ヶ尾遺跡（69）、愛鷹山麓の尾畑遺跡（40）・細野沢遺跡（27）では、有舌尖頭器が単独出土している。富沢内野山Ⅰ西遺跡（47）では、草創期のものと考えられる土器片が出土している。佛ヶ尾遺跡（34）では、有舌尖頭器や半月形石器を伴う石器ブロックが確認されている。

早期前葉では、撚糸文土器が出土する千福小杉平第Ⅱ遺跡（32）や老平遺跡（36）などが挙げられる。早期中葉では、押型文土器が出土する遺跡が多く確認されている。田場沢裏山遺跡（11）や内野山Ⅰ遺跡（46）では、楕円押型文や格子目押型文が施文された土器が出土している。早期後葉では、野島式・茅山上層式・茅山下層式といった条痕文土器が出土する遺跡が多くなる。また関東の打越式、中部高地の判ノ木山西式、東海の入海式・清水柳Ｅ類・天神山式等が出土する遺跡も多く見られる。このように当地域では、関東、中部高地、東海の土器が分布する様相を呈する。前期の遺跡では、富士山南東麓の上川遺跡（58）、愛鷹山麓の細野沢遺跡（27）、入ノ洞Ｂ遺跡（38）などが該当する。遺跡の立地は、狭長な尾根稜部の平坦地を占有する。この時期は遺跡数がやや減少する傾向にある。

前期前半では、主に沼津・長泉方面に多く遺跡が確認されている。沼津市清水柳北遺跡、長泉町鉄平遺跡等では木島式土器の出土が見られる。後半になると、諸磯式土器の出土が多くなる。市内では、細野沢遺跡で５軒（諸磯b式期）、入ノ洞Ｂ遺跡で１軒（諸磯ｃ式期）の竪穴住居跡を確認している。本報告の葛山大端ヶⅡ遺跡においても、当該期の住居跡が１軒確認されている。また少量ながらも関西系の北白川下層式土器が出土する遺跡も確認されている。

中期の遺跡では、勝坂式や加曽利E式が出土した下ノ大窪遺跡（35）、屯屋敷遺跡（93）などが該当する。この時期は、市の南側に隣接する長泉町において、当該期の遺跡が多い。中期前半では柏窪遺跡や上山地B遺跡など、中期後半では桜畑遺跡などが挙げられる。市内には、尾畑遺跡（40）出土の顔面把手付土器や翡翠製大珠、細山遺跡（48）近辺で表採された釣手形土器、また大畑熊野神社に伝わる土偶の頭部片といった中期の稀少遺物が確認されている。

後期の遺跡では、愛鷹山麓の田場沢裏山遺跡（11）・一色原遺跡（19）・中里遺跡（18）・下条遺跡（22）・内野山Ⅰ遺跡（46）、千福南山Ⅲ西遺跡（26）などが該当し、遺跡の数は少ない傾向にある。

晩期の遺跡は、現在のところ確認されていないようである。この時期は遺跡数が減少する傾向にある。約2,800年前のカワゴ平・仙石スコリアの噴火が遺跡数減少の要因ともいわれている。

（3）弥生・古墳時代

弥生時代では、極めて少ないが遺跡は確認されている。この時期になると、黄瀬川に沿った平地に集落を形成するようになる。箱根山麓の丸山Ⅰ遺跡（100）、黄瀬川東岸の二本松下遺跡（88）からは中期初頭の条痕文系土器が出土している。黄瀬川西岸の富沢原遺跡（56）では後期末葉の壺形土器が出土している。この他に細山遺跡（48）などで有孔磨製石鏃が出土している。古墳時代の遺跡は、主に古墳で、後期の上丹古墳（65）、中丸２号墳（90）、三ッ石古墳（90）が見られる。また滝ノ沢遺跡（4）・平松上遺跡（84）では、北海道・東北地方を中心に分布する蕨手刀が出土している。

（4）歴史時代

律令期　静岡県の太平洋沿岸部では、古代東海道が整備されるようになる。古代東海道の道路状遺構の検出例として、静岡市曲金北遺跡、富士市三新田遺跡D地区などが見られる。当地域では、長倉駅（裾

野市伊豆島田付近）から黄瀬川左岸を北上し、横走駅（御殿場市紫怒）に至る足柄路が位置している。足柄路は、都と東国とを結ぶ重要な交通路である。足柄路の道路状遺構の検出例では、駿東郡小山町上横山遺跡が挙げられる。しかし発掘調査事例が殆どないため、詳細は不明である。『日本紀略』によると、 802（延暦21）年の富士山噴火の際は、足柄路は一時廃止され、箱根路を使用したことが記録されている。横走駅は、山梨県へ向かう甲斐路と神奈川県へ向かう路が分岐する地点である。701（大宝１）年の大宝律令によると、当地域は、駿河郡矢集郷に比定されている。その根拠として、①ヤツメの語源である谷津が地名で見られること、②矢集郷の支配者の墓ではないかと推定される中丸古墳群（90）の存在などが挙げられている（裾野市1993）。

奈良時代になると、当地域では、貴族たちの荘園が所在するようになる。市内には公文名という地名が見られるが、それは荘園（小泉庄）を管理していた荘官（公文）の名田に由来すると言われている。小泉庄は、現在の東西地区を中心に、南は沼津市北部にあった大岡庄、北は深良・富岡地区から小山町に渡っていた藍沢庄まで及んでいたと言われている。

平安時代末になると、市内には、源平の争乱の際の陣跡などが残されるようになる。1,180（治承４）年の富士川の戦いでは、源頼朝は黄瀬川に陣を張っており、その際、奥州から駆け付けた義経と20年振りの再会を果たす。その再会の地は、清水町の八幡神社付近と言われており、その対面石が伝承として残っている。

中世　鎌倉時代になると、足柄路は幕府の官道として性格を持つ。その道筋は、古代より若干異なるようで、沼津市原中から黄瀬川を通り、裾野市佐野を経由して藍沢へ抜けていくルートと言われている。中世後期以降は、富士山の火山活動により、箱根路が主要道となり、足柄路は衰退することになる。一方、市内では館跡や城跡が築造されるようになる。城ヶ尾遺跡（69）は、大森親家が築いた城跡が位置しており、自然の要害を成し、東駿一帯を見渡すことができる立地にある。親家は、藤原親康の子であり、その祖先は藤原鎌足とされる。親家の子頼忠は、竹之下氏を名のって小山方面の豪族となり、親康の弟惟兼は、葛山氏を名のって葛山城（20）などを築く。『吾妻鏡』によると、1,193（建久３）年に源頼朝は、富士で巻狩りを行ったとされており、その宿舎である狩屋以外に、葛山氏の館に１泊したと伝えられている。そのため、須山地区には、巻狩りに由来する地名が残されている。その後、大森氏は、駿河守護の今川氏や鎌倉公方の足利氏と強い関係を持ち、室町時代末頃まで駿東一帯に勢力を持つようになる。そのため、深良地区には、大森氏やその城館に関係する地名が残されている。例えば、米山（米の貯蔵に由来）、堀ノ内・南堀・城川・城ヶ尾（城館・居館の位置に由来）が挙げられる。大森氏の居館跡は２か所あったと言われ、深良陣山・堀ノ内遺跡（72）と上丹屋敷（65）が挙げられる。室町時代中頃になると、大森氏よりも勢力をもつようになったのが、葛山氏である。市内には、葛山氏の葛山城跡（20）、御宿氏の千福城跡（76）が所在する。大畑城跡（82）は、根方道の要所に設けられた葛山氏の出城である。このように、葛山氏の平時居住の館跡と城跡が遺跡として残っている。『吾妻鏡』によると、1,221（承久３）年には、北条泰時の従軍一八騎の中に、葛山氏の名が確認でき、その後執権北条氏に従属する形で成長したとされる。

南北朝から室町時代の動向は明らかではないが、在地領主としての基盤を徐々に固めていったらしく、1,428（正長元）年には葛山に隣接する佐野郷を領有し、さらに1,482（文明14）年に南駿の沼津郷へ進出を企てている。戦国時代になると、当地域は、北条・武田・今川の三戦国大名の領国に挟まれ、その緩衝地帯としての性格をもつようになる。当時、葛山氏は北条・今川氏側に属し、武田氏と敵対関係にあった。しかし、1,537（天文６）年、今川義元が武田信虎の娘と縁組を結ぶようになってから、北条氏側は今川氏と同盟関係を解消する。その結果、河東一乱という名の争いが、富士川以東の河東地域にお

第５図　裾野市内の遺跡分布

第１表　裾野市内の主な遺跡一覧表（１）

●：遺構または遺物を確認したもの　　空欄：詳細不明

No.	埋蔵文化財包蔵地名	時期・時代																				
		後期旧石器時代	細石刃文化期	縄文時代						弥生時代			古墳時代			飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代
				草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	前期	中期	後期	前期	中期	後期							
1	大野原遺跡														●							
2	須山大坂遺跡					●																
3	古児院																					
4	滝ノ沢遺跡														●							
5	一本杉下遺跡					●																
6	今里中村遺跡																		●			
7	今里薬師海道遺跡						●	●	●				●									●
8	棚返遺跡			●	●	●	●	●	●													
9	今里遺跡																					
10	平林Ⅲ遺跡																					
11	田場沢裏山遺跡				●	●	●	●														
12	葛山大端ヶⅡ遺跡	●			●	●																
13	葛山大端ヶⅢ遺跡																					
14	葛山大端ヶⅠ遺跡																					
15	葛山上條遺跡	●	●		●	●		●														
16	藤畑遺跡					●																
17	柳島遺跡					●	●															
18	中里遺跡							●														
19	一色原遺跡					●	●	●							●							
20	葛山城跡（城館）																		●			
21	上城山居遺跡					●																
22	下条遺跡				●		●	●							●							
23	南山遺跡																					
24	南山Ⅱ遺跡																					
25	南山Ⅲ東遺跡																					
26	千福南山Ⅲ西遺跡	●				●	●	●										●				
27	細野沢遺跡			●	●	●	●															
28	細沢遺跡																					
29	千福市場平第１遺跡				●	●	●															
30	千福市場平第２遺跡				●																	
31	千福小杉平第Ⅰ遺跡				●	●																
32	千福小杉平第Ⅱ遺跡				●	●																
33	中畑遺跡				●	●																
34	佛ヶ尾遺跡	●	●	●	●	●																
35	下ノ大窪遺跡	●		●	●	●	●	●														
36	老平遺跡	●	●	●	●	●	●															
37	桃園遺跡																					
38	入ノ洞Ｂ遺跡	●			●	●																
39	入ノ洞遺跡				●		●										●					
40	尾畑遺跡	●			●	●	●															
41	内野山Ⅱ遺跡	●				●																
42	富沢内野山Ⅴ遺跡																					
43	富沢内野山Ⅳ遺跡					●																
44	富沢内野山Ⅲ遺跡					●																
45	内野山Ⅴ遺跡	●		●	●		●															
46	内野山Ⅰ遺跡				●		●	●														
47	富沢内野山Ⅰ西遺跡			●																		
48	細山遺跡				●		●				●											
49	細山下遺跡														●							
50	八反田遺跡					●																
51	中林遺跡					●																
52	平林Ⅱ遺跡	●			●																	
53	富沢平林遺跡　（平林Ⅰ）	●			●		●															
54	富沢牧橋尾遺跡																		●			

第２表　裾野市内の主な遺跡一覧表（２）

●：遺構または遺物を確認したもの　　空欄：詳細不明

№	埋蔵文化財包蔵地名	時期・時代																				
		後期旧石器時代	細石刃文化期	縄文時代						弥生時代			古墳時代			飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代
				草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	前期	中期	後期	前期	中期	後期							
55	富沢内畑遺跡																					
56	富沢原遺跡											●										
57	塚松遺跡	●	●	●	●	●	●															
58	金沢上川遺跡	●	●		●	●																
59	金沢手城山跡（城跡）																		●			
60	六反田遺跡						●															
61	坂下遺跡					●																
62	御宿新田遺跡						●															
63	カラウト遺跡														●							
64	深良新田遺跡																					
65	上丹屋敷														●				●			
66	中之島遺跡														●							
67	西原台遺跡														●							
68	南掘遺跡																					
69	城ヶ尾遺跡				●	●									●				●			
70	松葉遺跡														●							
71	上原遺跡																		●			
72	深良陣山・堀ノ内屋敷																		●			
73	町田遺跡														●							
74	宮原遺跡										●											
75	景ヶ島東遺跡					●																
76	千福城跡（城館）																		●			
77	千福馬場添遺跡																		●			
78	旧植松家住宅遺跡																					
79	五竜ノ滝上遺跡														●							
80	上ヶ見遺跡																					
81	大畑経塚																		●			
82	大畑城跡（城跡）																		●			
83	大畑遺跡																		●			
84	平松上遺跡														●							
85	天理町遺跡																					
86	平松下Ⅱ遺跡																					
87	平松下Ⅰ遺跡																					
88	二本松下遺跡										●											
89	稲荷遺跡																					
90	中丸三ッ石古墳群														●							
91	道場山遺跡					●									●							
92	天神山遺跡					●									●							
93	屯屋敷遺跡					●	●								●							
94	本茶畑遺跡																					
95	滝頭遺跡																					
96	茶畑大入遺跡					●																
97	茶畑城山																		●			
98	峰下遺跡					●																
99	日向遺跡	●				●																
100	丸山Ⅰ遺跡										●											
101	丸山Ⅱ遺跡	●			●	●																
102	公文名田向遺跡														●							
103	東江之浦山遺跡					●																
104	相生原遺跡				●	●																
105	勝俣屋敷																		●			
106	柏木屋敷																		●			
107	水窪高田遺跡														●							

※静岡県埋蔵文化財包蔵地システム http://www.gis.pref.shizuoka.jp/?mc=05&mp=401&z=14　参照

いて10年近く行われる。その際、葛山氏は北条氏側に属したとされる。しかし、争いが終息した時には、再び今川氏側に属すようになる。1,560（永禄３）年、桶狭間の戦いで今川義元が討たれると、駿甲相三国同盟が崩れるようになる。1,568－1,569（永禄11－12）年、武田信玄が駿河国への進攻を開始する。その際、葛山氏は、今川氏を離れ、武田氏側に属すようになる。その結果、葛山氏の支配領域は、武田氏から与えられた安倍郡と志太郡のみとなった。その後、北条氏政による武田軍への補給路の遮断により、武田氏側は甲斐国へ撤退を余儀なくされ、それと同時に葛山氏の支配領域は一時的消失することになった。

近世　江戸時代になると、市内は、小田原藩・沼津藩・旗本領・天領に所属するようになる。葛山村は旗本が、今里村は小田原藩が領主となっている。当時、愛鷹山には、幕府の牧場として野生馬が放牧されており、猪・鹿と同様に耕作物を度々荒らす被害をもたらしていた。そのため、村人の負担によって土手や猪垣が築かれ、また猪や鹿を駆除する名目で鉄砲を使用した狩猟などを行っている。1,670（寛文10）年には、中駿地域（現御殿場市・裾野市・長泉町・清水町）の水田用水不足を解消するために、深良用水（別名箱根用水）が築かれる。深良村の名主である大庭源之丞が、江戸浅草に住んでいる友野與右衛門に工事請負人として依頼したのが始まりと言われている。この用水は、相模国芦ノ湖の水を駿河国深良村へ導くために、箱根外輪山に全長1,280m（高低差約10m）のトンネルを掘削し完成させたものである。それ以降、この用水は、裾野地方の村々にとって、水田の灌漑や水車の動力、そして飲用水、生活用水として欠かすことのできないものとなった。しかし、明治時代になると、この用水を使う駿河は静岡県となり、芦ノ湖及び水門を擁する相模は神奈川県となった。その結果、芦ノ湖の水利権を巡り、紛争が生じ、1,896（明治29）年には逆川事件を誘発することになった。現在深良用水は、農林水産省の「疏水百選」に選定されている。

この時代は、富士講の発展もあり、富士山信仰が広がる。富士山への登山道は、山梨県側の川口口（南都留郡河口湖町）・吉田口（富士吉田市）、静岡県側の須走口（駿東郡小山町）・須山口（裾野市須山）・村山口（富士宮市）・大宮口（富士宮市）の６つが挙げられ、これらの登山道の付近には、「御師」と呼ばれる人々によって、信仰登山集落が形成される。かつては須山村において２軒の御師が存在していた。富士山信仰では、特に富士山の御縁年にあたる、60年に１度巡ってくる庚申の年になると、参拝する人々が多くなる傾向にある。幕末最後の御縁年である1,860（万延元）年では、当地域の須山口では3,597人が参拝に訪れている。それ以降は、1,883（明治16）年の御殿場口の開設と1,889（明治22）年の東海道線の開通により、須山口の参拝者は減少していった。

以上、裾野市の歴史的環境について述べた。特に歴史的環境を特徴づける要素として、以下の３点が挙げられよう。１つ目は愛鷹・箱根山麓の動物相（シカ・イノシシ等）、２つ目は山梨県と神奈川県へ通じる道筋（足柄路）、３つ目は富士山への登山道が挙げられる。この要素が少なくとも、歴史的環境を形成する上で、重要な要素であったと考えられる。

参考文献

愛鷹ローム団研グループ　1969 「愛鷹山麓のローム層－東名高速道路工事現場を中心として－」第四紀研究　第８巻第１号　10－21頁 日本第四紀学会

池谷信之　1995 「愛鷹・箱根山麓の層序と出土石器」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ　愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』9－18頁　静岡県考古学会

池谷信之・望月明彦　1998 「愛鷹山麓における石材組成の変遷」『静岡県考古学研究』№30　21－44頁 静岡県考古学会

池谷信之　2000 「石材採取・搬入と選択・補完の関係－旧石器時代愛鷹・箱根山麓第４期を中心として － 」『1999年度静岡県考古学会シンポジウム「ものとひとの移動」追加資料』1－17頁 静岡県考古学会

石田　高・島津光夫　1993 「5.2富士火山帯南帯の火山」『日本の地質４中部地方Ⅰ』共立出版株式会社

今村啓爾　2006 「先土器時代陥穴の使用方法―静岡県愛鷹山麓BBⅢ期の場合―」『生業の考古学』27 － 38頁 同成社

大木靖衛　1978 「火山の一生　箱根火山」URBAN　KUBOTA　№15　22－25頁　株式会社クボタ

国土庁土地局国土調査課　1996 『50万分の１　土地分類図（地形分類図）』

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所　2007 『佛ヶ尾遺跡　第二東名№147地点』

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所　2008 『下ノ大窪遺跡　第二東名№146地点』

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所　2008 『棚返遺跡・今里遺跡　第二東名№153地点・№153－２地点』

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所　2008 『老平遺跡　第二東名№145地点』

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所　2008 『裾野市富沢・桃園の遺跡群　塚松遺跡（第二東名№144地点）・入ノ洞B遺跡（第二東名№144－2地点）・内野山Ⅴ遺跡（第二東名№144－3地点）』

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所　2011 『千福南山Ⅲ西遺跡　第二東名№148－2地点』

笹原芳郎　2007 「コラム④　愛鷹山麓遺跡群」『ゼミナール旧石器考古学』126－127頁　同成社

佐野五十三　2004 「駿河国」『日本古代道路事典』75－81頁　八木書店

島津光夫・黒川勝己　1993 「5.1概説」『日本の地質４中部地方Ⅰ』共立出版株式会社

裾野市　1993 『裾野市史　第１巻　資料編　考古』

裾野市教育委員会　2007 『郷土読本 すその』

前嶋秀張・森嶋富士夫　2003 「ホルンフェルスの入手先を明らかにする」『静岡県考古学研究』№35 1－12頁　静岡県考古学会

前嶋秀張・森嶋富士夫　2004 「旧石器時代における石斧石材の入手先を明らかにする － 凝灰岩製石斧を中心として － 」『(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所設立20周年記念論文集』87－97頁（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所

前嶋秀張・森嶋富士夫　2005 「ガラス質黒色安山岩の入手先を明らかにする」『静岡県埋蔵文化財研究所研究紀要』第11号　1－12頁　(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所

前嶋秀張・森嶋富士夫　2006 「赤玉と黄玉の入手先を明らかにする」『静岡県埋蔵文化財研究所研究紀要』第12号　1－12頁　(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所

前嶋秀張・森嶋富士夫　2007 「凝灰岩の入手先を明らかにする－硬質細粒凝灰岩について－」『静岡県埋蔵文化財研究所研究紀要』第13号　1－12頁　(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所

町田　洋　2006 「2－1富士山と周辺の火山」『日本の地形5　中部』東京大学出版会

山本　薫・柴田 徹　1998 「三島市初音ヶ原A遺跡第1地点、初音ヶ原A遺跡第3地点および初音ヶ原B遺跡第1地点から出土したガラス質黒色安山岩製石器の石材産地推定結果について」『三島市埋蔵文化財発掘調査報告　Ⅵ　自然科学分析　初音ヶ原遺跡の自然科学分析』

※(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所が刊行する報告書の引用においては、例（静文研　2007）と表記している。

第２章　葛山上條遺跡
かずらやまかみんじょう

第１節　葛山上條遺跡の概要

１　葛山上條遺跡の位置（第６図）

本遺跡は、裾野市葛山字上條293他６筆に所在する。所在地は、JR御殿場線岩波駅の南西方向約３km離れた愛鷹山東麓に位置し、標高約300mの細い尾根上の緩斜面に立地する。調査前の現況は、山林として利用されていた。

確認調査および本調査では、１～６区の調査区を設定している。その設定場所は、南側の標高が低い緩斜面部に１区、東側の沢筋部分に２区、４区より一段高い尾根部に３区、１区より一段高い尾根部に４区、３区より一段高い尾根部に５・６区が位置している。

２　葛山上條遺跡周辺の遺跡

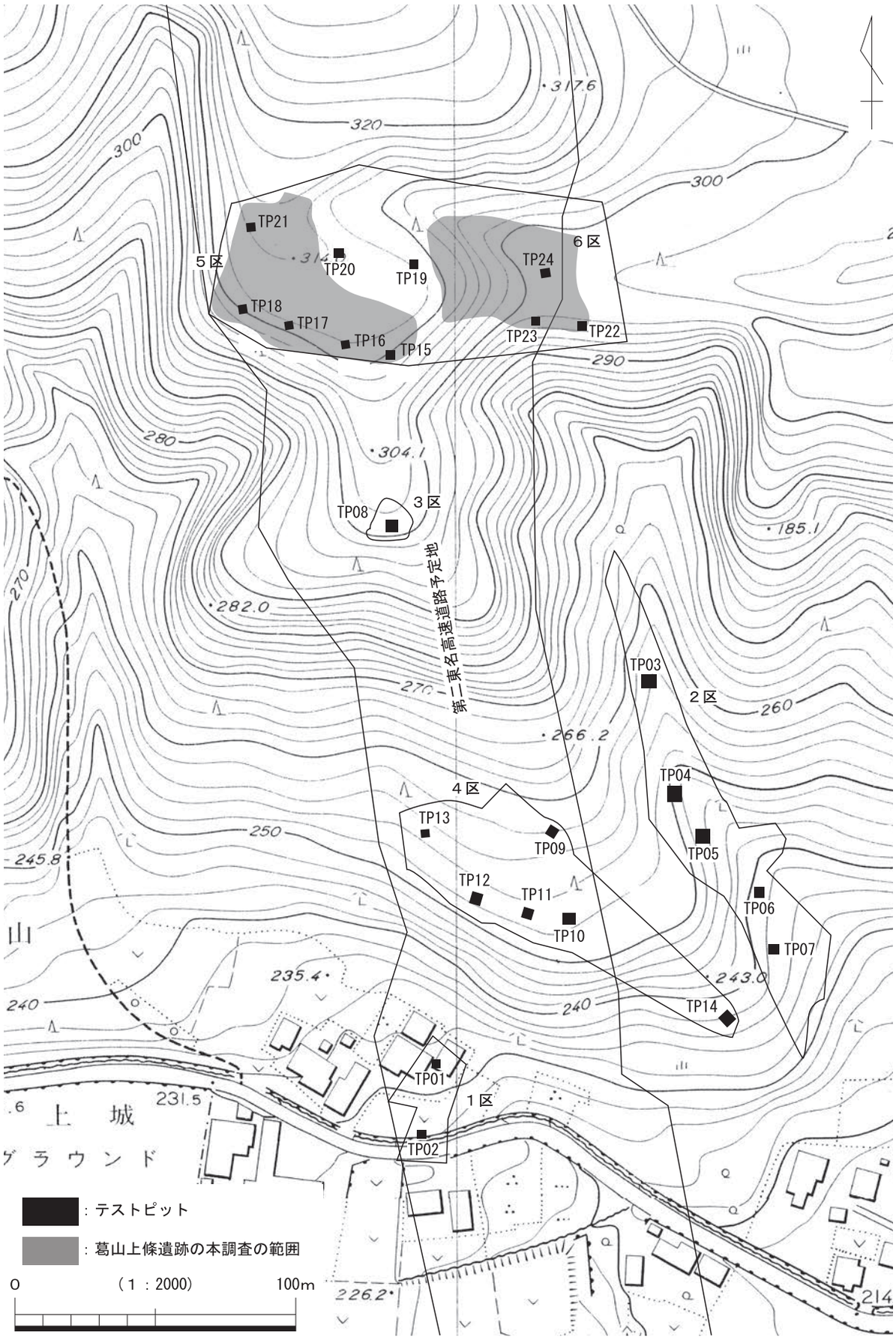
本遺跡北側の一段高い尾根、標高299～326mの緩斜面には、葛山大端ヶⅠ遺跡（№150地点）が立地している。

葛山大端ヶⅠ遺跡は、後期旧石器時代～縄文時代にかけての遺構・遺物が確認されている。以下、調査概要（静文研2004・2005・2007）について簡略に述べる。

後期旧石器時代の調査では、休場層から第Ⅰスコリア層上部にかけて、ナイフ形石器１点、尖頭器２点、石刃２点、剥片９点、の計14点が出土している。遺構は、休場層中層から礫群が１基検出されている。中部ローム層上面まで調査は実施しているが、礫が第Ⅰ黒色帯からニセローム層にかけて出土したのみで、明確な遺構は検出されていない。

縄文時代の調査では、早期から後期にかけての土器・石器が出土している。遺構は、富士黒色土層下部より、集石９基、焼土３基、陥穴状土坑17基、土器集中地点（早期）１箇所、石器集中地点（黒曜石）４箇所を検出している。縄文土器は、早期では押型文土器、入海式、判ノ木山西式、打越式土器、条痕文土器など、前期では諸磯式土器、十三菩提式土器、中期では勝坂式、曽利式土器、後期では堀之内１式土器が出土している。特に中期の勝坂式土器（井戸尻期）の出土量が多い。

遺跡の性格は、後期旧石器時代から縄文時代にかけての狩猟キャンプ地として利用されていたと想定される。



第６図　確認調査のテストピット配置および本調査の位置

第２節　調査の体制・経過

１　確認調査および本調査の体制

確認調査および本発掘調査の体制については、例言を参照願いたい。実際に現地を担当した職員は、下記のとおりである。

確認調査その１・その２、本調査Ⅰ期	調査研究員　村松利彦・木崎道昭
本調査Ⅱ期	調査研究員　永島宏一・日吉高幸

２　確認調査および本調査の経過

調査方法について、以下に記載する。測量・遺構実測・遺物点上げ作業では、トータルステーションを用い、国土平面直角座標系のⅧ系を使用して遺構、遺物の位置情報を記録した。グリッド設定では、Ａ－1の南西隅（X=－88480.0、Y=35390.0）を起点とし、東に向かって１・２・３・・・とし、北に向かってＡ・Ｂ・Ｃ・・・とした。遺構番号は、種類ごとに通し番号を付した。遺物番号は、全ての遺物に通し番号を付し、遺物の種類により、土器はＰ、石器はＳ、礫はＲと分類した。礫は、洗浄した後、礫石器の有無、被熱による赤化の有無を確認し、自然礫と判断したものは現地で廃棄した。測量データは、シン技術コンサルの遺跡管理システムを使用して、図化作業を行った。記録写真は、６×７判カメラのモノクロフィルムでの撮影を基本とした。調査区全景写真等は、ラジコンヘリによる空中写真撮影で行った。

（１）確認調査

・確認調査その１：平成15年４月１日～５月30日　216㎡

４月１～８日、準備工・調査の打合せを行った。４月10～17日にかけては、１区（TP01・02）、２区（TP03～07）、３区（TP08）にて、テストピットを設定し、重機による表土除去を開始した。テストピットのサイズは、地形及びその現況を考慮して、３ｍ×３ｍ（01・02・06・07・13）、４ｍ×４ｍ（08・09～12・14）、５ｍ×５ｍ（03～05）を設定した。表土除去後は、土層の堆積と遺物・遺構の有無に注意しながら、人力掘削を行った。TP04・06では、古代～中世に堆積したと考えられる新期スコリア層（NSC）を確認した。TP01・02では、表土50～60㎝下で中部ローム層が検出する状況にあり、その上層部分は残存していないことを確認した。４月21日より、さらに４区（TP09～14）を設定し、重機による表土除去、人力掘削を行った。TP09～14では、中部ローム層以下まで掘削を行った。TP13では、箱根新期軽石層（HK－TP）、TP14では新期三島軽石を確認した。５月７日より、確認調査が終了したTPから順次埋戻し作業に取りかかった。

調査成果として、１～４区（TP01～14）にかけては、遺物の出土は確認できなかった。調査は、主に土層の堆積状況の把握、その記録作業（土層断面の写真撮影・土層断面図の作成）に徹した。協議の結果、本調査に移行することなく、調査を完了とした。

・確認調査その２：平成15年７月15日～９月18日　90㎡

７月15～31日、準備工・調査の打合せを行った。８月１～12日にかけて、５区のTP設定予定地にて、

重機による抜根作業を行った。抜根作業後は、３ｍ×３ｍのTPを７箇所（TP15 ～ 21）設定し、重機による表土除去を行った。８月18日～９月５日にかけては、各TPにおいて人力掘削を行った。TP15は第Ⅳ黒色帯下層まで、TP16は第Ⅲスコリア帯第３～４スコリア層まで、TP17・18は第Ⅱスコリア層まで、TP19は第Ⅰスコリア層まで、TP21は休場層下層まで調査を行った。また８月25日より、６区のTP設定予定地にて、重機による抜根作業を行った。抜根作業後は、３ｍ×３ｍのTPを３箇所（TP22 ～ 24）設定し、重機による表土除去を行った。９月５～ 18日にかけては、TP22 ～ 24にて、人力掘削を行った。TP22は第Ⅲスコリア層まで、TP23は第Ⅱスコリア層まで、TP24は第Ⅰスコリア層まで調査を行って、確認調査を終了とした。

調査成果として、５・６区（TP15 ～ 24）からは、遺物・遺構の有無を確認した。遺物の出土を確認したTPは、18・22 ～ 24である。調査は、主に土層の堆積状況の把握、その記録作業（土層断面の写真撮影・土層断面図の作成）、遺物の密集度の確認に徹した。協議の結果、本調査の必要があると判断した。

（２）本調査　　計3,419㎡

・本調査Ⅰ期：平成16年１月27日～３月９日

以下、本調査の経過を記載する。

１月27日～２月３日、確認調査その２の結果を受けて、その準備工・調査の打合せを行った。２月４～ 17日にかけては、６区カワゴ平軽石層～暗褐色土層の包含層掘削及び遺構検出を行った。その結果、暗褐色土層にて、焼土遺構を２ヵ所検出した。遺物の出土量は、比較的少なかった。２月18 ～ 26日にかけては、６区栗色土層の包含層掘削及び遺構検出を行った。遺物は､1点出土したのみであった。２月26日～３月９日にかけては、６区富士黒色土層～休場層上面の包含層掘削及び遺構検出を行った。

・本調査Ⅱ期：平成16年４月１日～平成17年２月25日

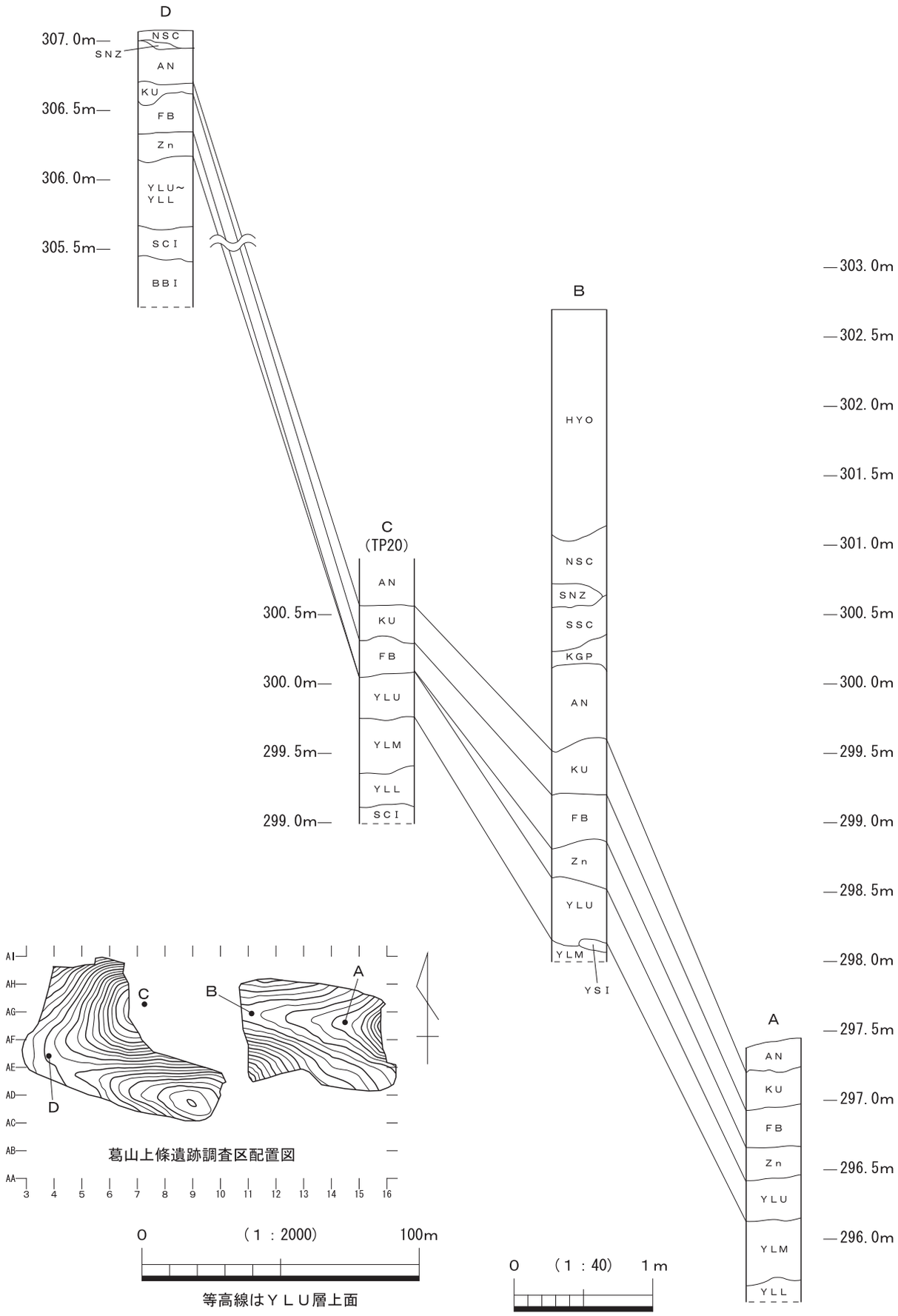
４月１～ 16日、前年度の調査を引継ぐかたちで、その準備工・調査の打合せを行った。４月19日～５月11日にかけては、５区の表土除去を行った。表土除去が終了した範囲から、包含層掘削及び遺構検出を着手した。その結果、暗褐色土層～栗色土層にかけて、土坑・集石遺構を数基検出した。６区では、継続して、富士黒色土層の掘削作業を行った。谷部の富士黒色土層は厚いため、「キ」字状にトレンチを設定した上で、包含層掘削及び遺構検出を行った。５月中旬から７月上旬になると、土坑の検出数は数十基に及んだ。遺構掘削の結果、土坑は陥穴状土坑と判断した。５区では、栗色土層～富士黒色土層にかけて包含層掘削及び遺構検出を行った。７月上旬、６区では、遺構の記録作業完了後、コンター測量、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。空撮後、旧石器テストピット（TP01 ～ 08）を設定し、旧石器の調査を開始した。その結果、休場層上層より、石器集中１基、礫群１基を検出した。８月末から９月末にかけては、５区では、遺構の記録作業を行い、その後にコンター測量、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。６区では、旧石器の調査が完了した後、埋戻し作業に着手した。９月末から11月末にかけては、５区では、旧石器テストピット（TP09 ～ 22）を設定し、休場層の調査を開始した。休場層上層～休場層第1スコリア層までは、主に人力掘削を行った。その結果、礫群１基を検出した。旧石器の出土傾向は点在的であり、特に石器が集中する地点は確認できなかった。11月末から12月下旬にかけて、TP09 ～ 19では、第Ⅰスコリア層の調査を開始した。その結果、黒曜石製の剥片が１点出土した。しかし、その１点以外は石器の出土は確認されなかった。調査は、翌年も継続して行われ、その結果、第Ⅲスコリア帯第２黒色帯より、ガラス質黒色安山岩製の剥片を１点出土した。遺物の出土は、その層以下では確認されなかった。１月20日には、テフラの観察のために、三島市教育委員会の芦川忠利氏が現地見学に訪れた。２月21日には、国立沼津高等専門学校講師の高橋豊氏が土層堆積を観察するために、現地に訪れた。その後は、５区の埋戻し作業を行い、調査は完了した。

３　基本土層（第７・８図）

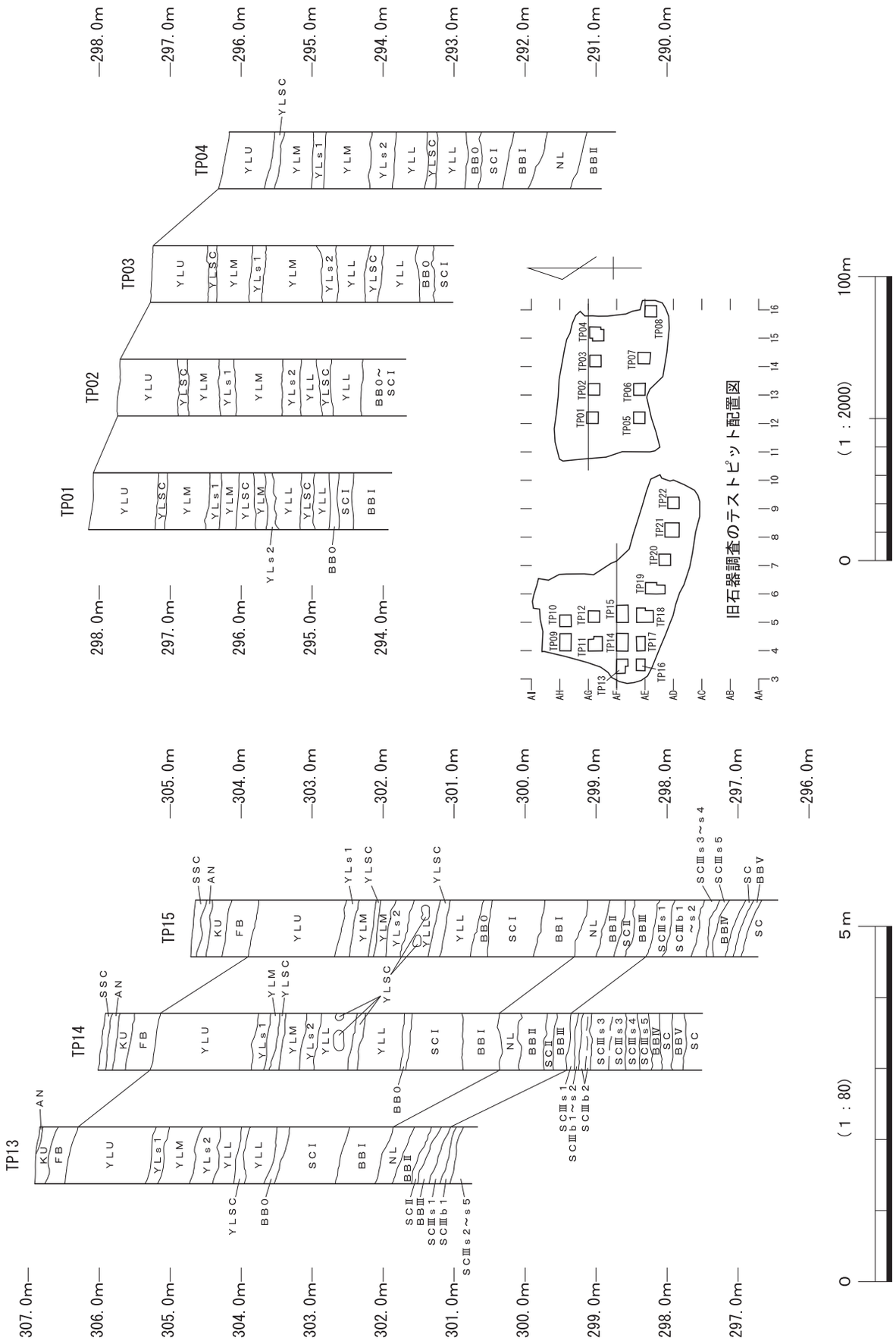
葛山上條遺跡の基本土層の注記は、下記の第３表に記載している。第７図では、表土から休場層までの土層柱状図を示した。第８図では、主に休場層から第Ⅴ黒色帯下位のスコリア層までの土層柱状図を示した。この土層柱状図は、確認調査時に設定したテストピットの土層断面図、本調査時に設定したトレンチの土層断面図、旧石器調査時に設定したテストピットの土層断面図を元に作成している。

第３表　葛山上條遺跡の基本土層

土層名	略号	色調	注記
表土	ＨＹＯ	-	-
新期スコリア層	ＮＳＣ	-	-
砂沢スコリア層	ＳＺＮ	-	-
仙石スコリア層	ＳＳＣ	7.5YR3/4　暗褐色	粘性・締まり有、径５～８㎜黒褐色スコリア少量。
カワゴ平軽石層	ＫＧＰ	-	-
暗褐色土層	ＡＮ	10YR3/4　黒褐色	粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
栗色土層	ＫＵ	7.5YR4/6　暗褐色	粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
富士黒色土層	ＦＢ	7.5YR3/4　暗褐色	粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
漸移層	Ｚｎ	-	-
休場層上層	ＹＬＵ	7.5YR5/8　褐色	粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。
休場層スコリア	ＹＬＳＣ	7.5YR5/8　褐色	粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア多量、径２～６㎜黒色スコリア少量。
休場層第１スコリア	ＹＬｓ１	7.5YR5/8　褐色	粘性・締まり有、径５～８㎜赤褐色スコリア多量、径５～13㎜黒色スコリア少量。
休場層中層	ＹＬＭ	7.5YR5/8　褐色	粘性・締まり有、径３～５㎜赤褐色スコリア・径３～８㎜黒色スコリア少量。
休場層第２スコリア	ＹＬｓ２	7.5YR4/6　褐色	粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア・黒色スコリア多量、径１㎜黄色スコリア少量。
休場層下層	ＹＬＬ	7.5YR4/6　褐色	粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア・径１～６㎜黒色スコリア・径１～５㎜明赤褐色スコリア少量。
第０黒色帯	ＢＢ０	-	-
第Ⅰスコリア層	ＳＣⅠ	7.5YR3/4　褐色	粘性無、締まり有、径２～７㎜黒色スコリア多量、径１～５㎜赤褐色スコリア・径１㎜黄色ラピリ少量。
第Ⅰ黒色帯	ＢＢⅠ	7.5YR3/4　暗褐色	粘性・締まり有、径３～７㎜黒色スコリア・暗褐色スコリア多量、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。
ニセローム層	ＮＬ	10YR5/8　褐色	粘性無、締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア・径２～８㎜黒色スコリア・径５～10㎜暗緑色噴石少量。
第Ⅱ黒色帯	ＢＢⅡ	7.5YR4/6　暗褐色	粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア・径３～６㎜黒色スコリア少量。
第Ⅱスコリア層	ＳＣⅡ	7.5YR4/6　暗褐色	粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア多量、径３～６㎜黒色スコリア少量。
第Ⅲ黒色帯	ＢＢⅢ	7.5YR3/4　暗褐色	粘性・締まり有、径１～３㎜明赤褐色スコリア・径１～５㎜黒色スコリア少量。
第Ⅲスコリア帯第１スコリア層	ＳＣⅢｓ１	7.5YR4/6　赤褐色	粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア多量、径２～10㎜黒色スコリア・径１㎜白色パミス・径５～10㎜暗緑色噴石少量。
第Ⅲスコリア帯第１黒色帯	ＳＣⅢｂ１	7.5YR4/6　暗褐色	粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア・径２～10㎜黒色スコリア・径１㎜白色パミス少量。
第Ⅲスコリア帯第２スコリア層	ＳＣⅢｓ２	7.5YR4/6　赤褐色	粘性・締まり有、径２～４㎜赤色スコリア多量、径１～７㎜赤褐色スコリア・径１㎜黄色ガラス・径２～７㎜黒色スコリア少量。
第Ⅲスコリア帯第２黒色帯	ＳＣⅢｂ２	7.5YR4/6　赤褐色	粘性・締まり有、径２～15㎜黒色スコリア・径２～５㎜赤褐色スコリア・径１㎜白色パミス少量。
第Ⅲスコリア帯第３スコリア層	ＳＣⅢｓ３	7.5YR4/6　赤褐色	粘性・締まり有、径２～15㎜黒色スコリア多量、径２～５㎜赤褐色スコリア・径１㎜白色パミス少量。
第Ⅲスコリア帯第４スコリア層	ＳＣⅢｓ４	7.5YR5/8　赤褐色	粘性・締まり有、径２～15㎜黒色スコリア・径１～３㎜赤褐色スコリア・径１㎜黄色ガラス少量。
第Ⅲスコリア帯第５スコリア層	ＳＣⅢｓ５	7.5YR4/6　極赤褐色	粘性・締まり有、径１～２㎜極赤褐色スコリア多量、径１～３㎜赤褐色スコリア・径２～７黒色スコリア少量。
第Ⅳ黒色帯	ＢＢⅣ	7.5YR4/6　暗褐色	粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア・径２～７㎜黒色スコリア少量。
第Ⅴ黒色帯	ＢＢⅤ	7.5YR4/4　暗褐色	粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア・径２～５㎜黒色スコリア少量。
スコリア層	ＳＣ	7.5YR4/6　暗褐色	粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア・径２～７㎜黒色スコリア・径３～７㎜暗褐色スコリア少量。



第７図　葛山上條遺跡土層柱状図①



第８図　葛山上條遺跡土層柱状図②

4　遺構番号について

葛山上條遺跡では、本調査時に遺構に付加した番号（旧遺構番号）と本報告書（新遺構番号）で用いる番号を変更しているため、ここに新旧対照表を記す。

第４表　新旧遺構番号対照表

旧	新	旧	新	旧	新
SF49	1号土坑	SF58	28号土坑	SF66	55号土坑
SF60	2号土坑	SF07	29号土坑	SF51	56号土坑
SF54	3号土坑	SF30	30号土坑	SF15	57号土坑
SF31	4号土坑	SF14	31号土坑	SF12	58号土坑
SF38	5号土坑	SF08	32号土坑	SF10	59号土坑
SF59	6号土坑	SF21	33号土坑	SF56	60号土坑
SF47	7号土坑	SF24	34号土坑	SF02	61号土坑
SF43	8号土坑	SF28	35号土坑	HS01	1号集石
SF53	9号土坑	SF32	36号土坑	HS02	2号集石
SF44	10号土坑	SF26	37号土坑	SY09	3号集石
SF67	11号土坑	SF20	38号土坑	SY10	4号集石
SF41	12号土坑	SF33	39号土坑	SY01	5号集石
SF05	13号土坑	SF19	40号土坑	SY04	6号集石
SF61	14号土坑	SF52	41号土坑	SY06	7号集石
SF64	15号土坑	SF03	42号土坑	SY07	8号集石
SF62	16号土坑	SF25	43号土坑	SY08	9号集石
SF57	17号土坑	SF40	44号土坑	SY02	10号集石
SF63	18号土坑	SF27	45号土坑	SY05	11号集石
SF46	19号土坑	SF04	46号土坑	SY03	12号集石
SF42	20号土坑	SF37	47号土坑	FP01	1号焼土
SF65	21号土坑	SF13	48号土坑	FP02	2号焼土
SF36	22号土坑	SF68	49号土坑	RG01	1号礫群
SF29	23号土坑	SF01	50号土坑	RG02	2号礫群
SF22	24号土坑	SF18	51号土坑	BL01	1号石器集中
SF23	25号土坑	SF09	52号土坑		
SF50	26号土坑	SF11	53号土坑		
SF06	27号土坑	SF16	54号土坑		

第３節　調査の成果

１　旧石器時代の調査

本遺跡では、休場層、第Ⅰスコリア層、第Ⅲスコリア帯第Ⅰ黒色帯から、旧石器時代の遺構・遺物が確認されている。以下、各層ごとに調査所見を記載する。出土石器の観察表は、第11表に記載している。

（１）休場層の調査（第９～19図、写真図版５～９、第６・11表）

休場層の調査では、礫群２基、石器集中１基を確認した。礫群・石器集中の遺構計測については、第６表に記載している。さらに点在的な石器出土範囲７地点、被熱礫が出土した２地点を、整理作業の過程で認識した（第９図）。点在的な石器出土範囲は、チップを除いた４点未満の石器出土状況に対して、便宜的に呼称している。被熱礫は、単発で出土しており、その周囲には群を構成する礫はなかった。しかし受熱があるということは、人為的な作用の結果と判断できることから、地点として把握した。

以下、礫群・被熱礫・石器集中・出土範囲の順に、遺構および遺物の調査所見について記載する。

１号礫群（第10図、写真図版６－２）

本遺構は、６区AF－11グリッドに位置し、谷部緩斜面に立地する。調査では、TP01の拡張部に位置する。礫群は、休場層上層より検出した。礫の設置面の標高値は、298.4mである。本遺構の北側及び東側には、出土範囲③が隣接している。

礫群の構成礫は６点であり、長軸161cm、短軸58cmの範囲に集まる。構成礫の石材は輝石安山岩で占められ、大きい礫で333.5ｇ、小さい礫で30.7ｇの重量を持つ礫が利用されている。被熱の痕跡は確認できなかった。

遺構の帰属時期は、休場層上層において検出した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第４～５期の範疇に位置づけられる。

２号礫群（第10図、写真図版６－３）

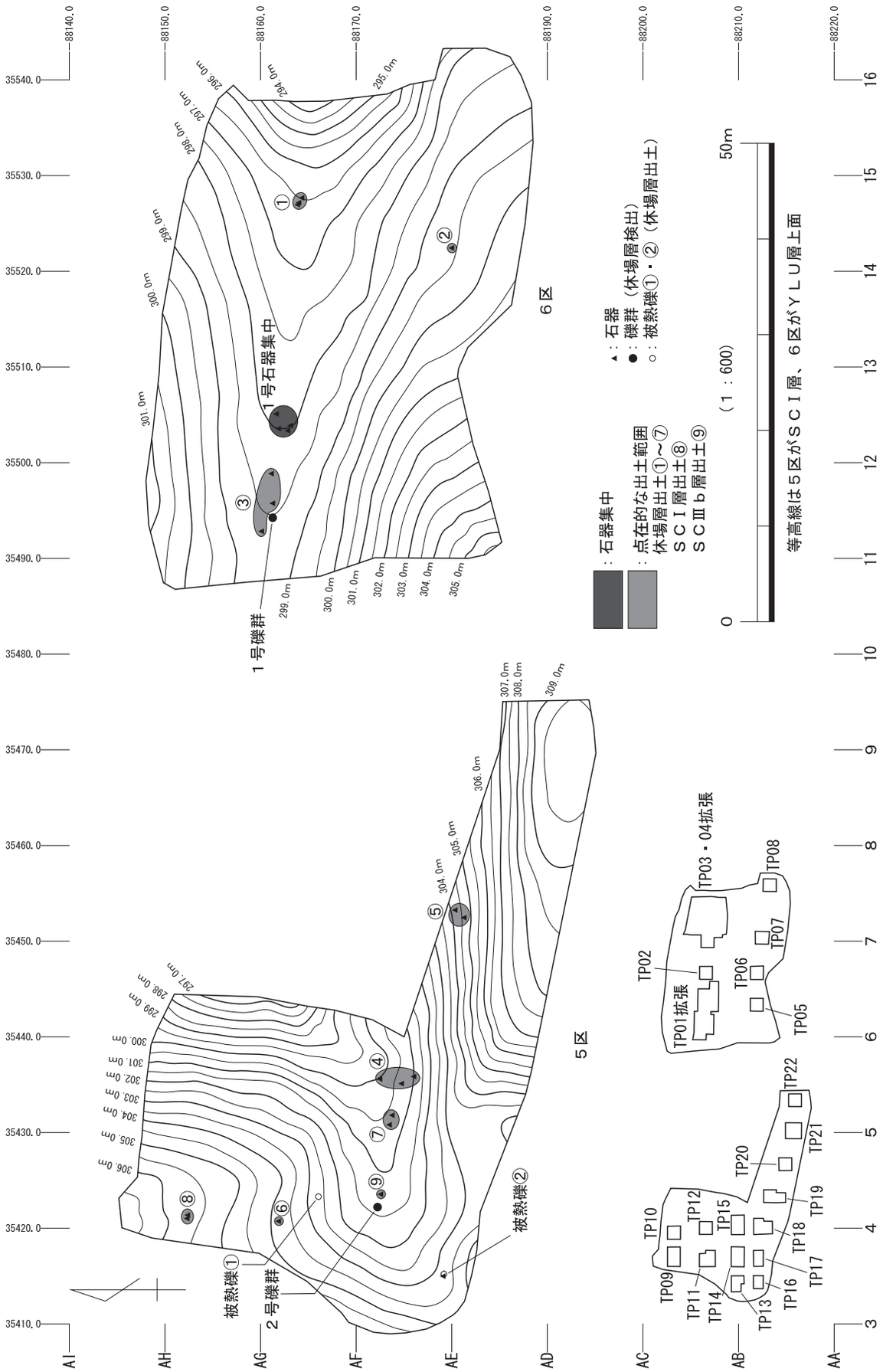
本遺構は、５区AE－４グリッドに位置し、谷部緩斜面に立地する。調査では、TP14に位置する。礫群は、休場層上層～休場層第Ⅰスコリア層にかけて検出した。礫の設置面の標高値は、303.6 ～ 303.7mである。

礫群の構成礫は６点であり、長軸180cm、短軸47cmの範囲に集まる。構成礫の石材は輝石安山岩で占められ、大きい礫で928ｇ、小さい礫で46.9ｇの重量を持つ礫が利用されている。うち２点は弱い被熱の痕跡が確認できる。

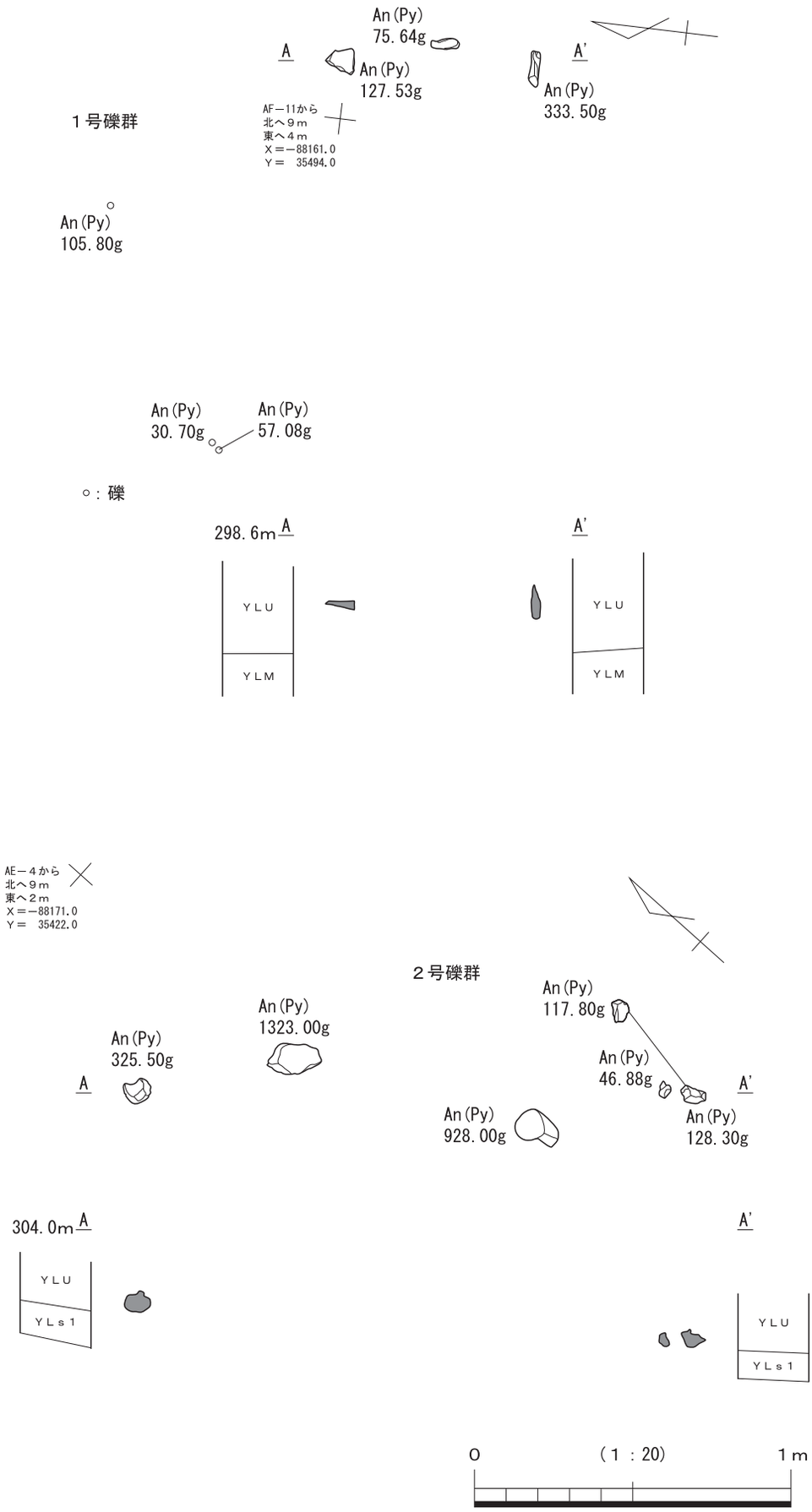
遺構の帰属時期は、休場層上層において検出した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第４期の範疇に位置づけられる。

被熱礫１（第11図、写真図版８－４）

本地点は、５区AF－４グリッドに位置し、谷部の斜面に立地する。調査では、TP11に位置する。第11図１の被熱礫は、休場層上層から出土した。出土した被熱礫は、４ｍ離れた分割礫同士が接合したものであり、その形状は楕円礫を呈する。休場層上層における出土レベルは、第11図１－１の分割礫は標

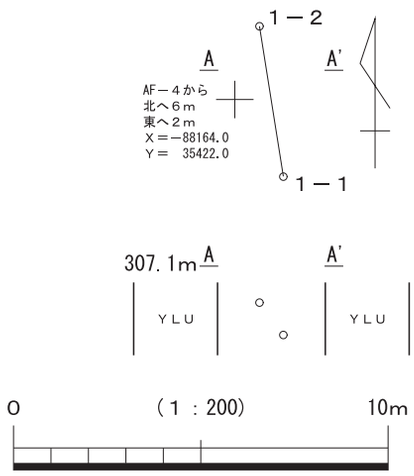


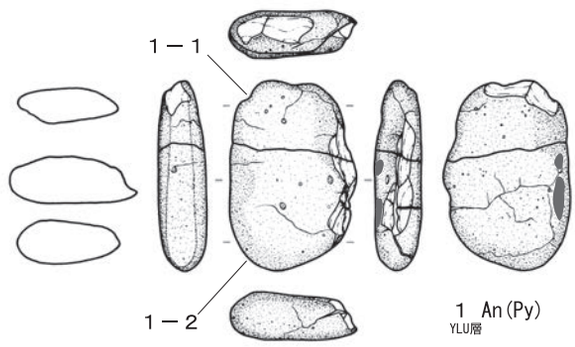
第９図　旧石器時代遺構配置図および遺物出土状況


１号礫群
An(Py)
75.64g
A
An(Py)
127.53g
A'
An(Py)
333.50g
AF－11から
北へ９ｍ
東へ４ｍ
Ｘ＝－88161.0
Ｙ＝　35494.0
An(Py)
105.80g
An(Py)
30.70g
An(Py)
57.08g
○：礫
298.6ｍ A
A'
ＹＬＵ
ＹＬＭ
ＹＬＵ
ＹＬＭ
AE－４から
北へ９ｍ
東へ２ｍ
Ｘ＝－88171.0
Ｙ＝　35422.0
２号礫群
An(Py)
117.80g
An(Py)
1323.00g
An(Py)
325.50g
An(Py)
46.88g
A
A'
An(Py)
928.00g
An(Py)
128.30g
304.0ｍ A
A'
ＹＬＵ
ＹＬｓ１
ＹＬＵ
ＹＬｓ１
0
（１：20）
１ｍ

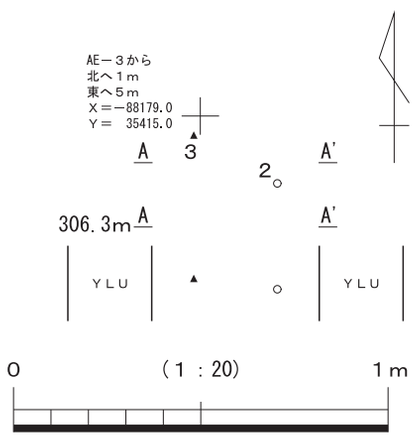
第10図　１・２号礫群

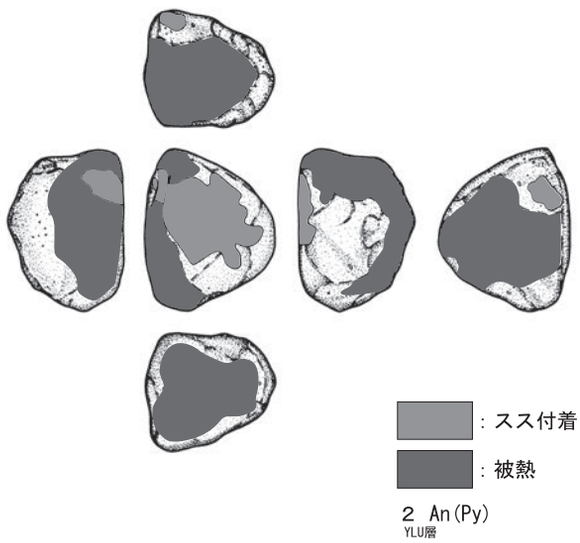
被熱礫①接合状況



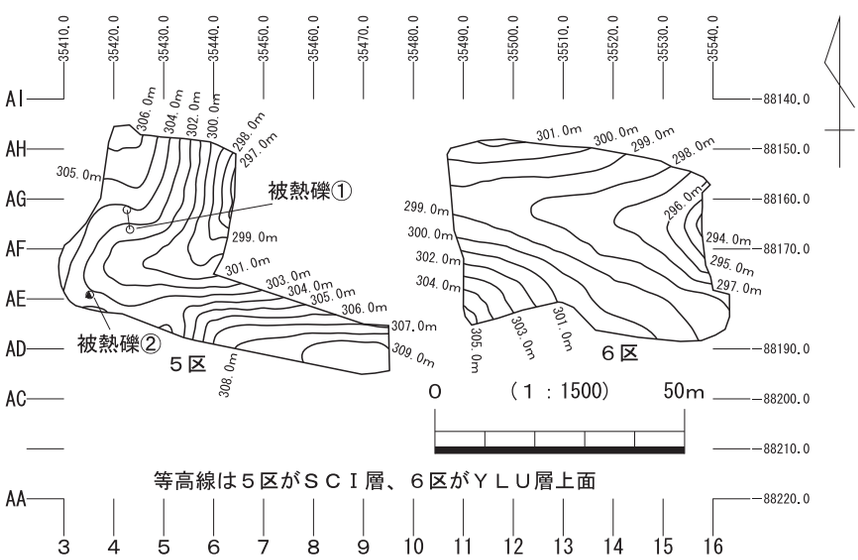


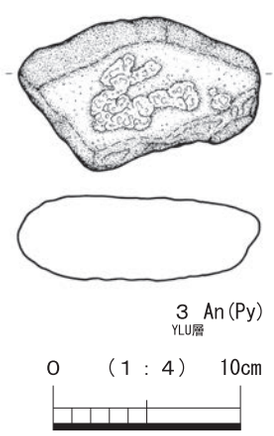
被熱礫②周辺





▲：石器
○：礫





第11図　休場層出土被熱礫周辺、出土遺物

高305.3m、１－２の分割礫は標高306.2mの位置関係にある。おそらく高い所から徐々に低い所へ、動いたものと想定される。実測図裏面及び右側面には、弱い被熱部分が確認できる。その表面は、所々にヒビが入っており、受熱による劣化と思われる。石材は輝石安山岩である。重量は828.5gである。

本地点は、礫群が位置していた可能性が考えられる。しかし斜面地であったため、その構成礫は散在してしまったと想定される。

被熱礫２（第11図、写真図版８－５、９－３）

本地点は、５区AE－３グリッドに位置し、谷部の斜面に立地する。調査では、TP16に位置する。第11図２の被熱礫は、休場層上層から出土した。出土した被熱礫は、亜角礫を呈する。休場層上層における出土レベルは、標高306.1mである。礫の表面は、全体的に被熱を受け、赤味がかっている。また所々にススが付着する。石材は輝石安山岩である。重量は1,659gである。被熱礫２の周囲では、同じく休場層上層より礫石器が１点出土している。第11図３は、輝石安山岩製の台石である。実測図正面には、敲打痕による摩滅や凹凸が確認できる。重量は585gである。

本地点は、礫群が位置していた可能性が考えられる。しかし斜面地であったため、構成礫が散在してしまったと想定される。

１号石器集中（第12図、写真図版５－３、８－１・３、９－３）

本遺構は、６区AF－12グリッドに位置し、谷部緩斜面に立地する。調査では、TP01に位置する。石器集中は、休場層上層より検出した。出土深度の標高値は、297.96m～297.86mの範囲であり、その深度幅は10cmである。

石器集中は４点で構成され、長軸212cm、短軸121cmの範囲に集まる。石器集中としての密集度は、低い。出土石器は、微細剥離のある剥片１点、剥片２点、磨石１点である。磨石以外の石材は、すべてホルンフェルスである。第12図１は縦長剥片である。剥片末端がフェザーエッジを呈する。背面には、素材の円礫面が確認できる。２は、輝石安山岩製の磨石である。素材形状は拳大の円礫を呈する。実測図正面では、狭い範囲に磨面が確認できる。磨面は、触手で確認すると滑らかである。重量は、670gである。３は小剥片である。１と同じく背面には、素材の円礫面が確認できる。４は、微細剥離のある剥片である。素材は厚手の不定形剥片を呈し、その縁辺部に微細剥離を削出している。

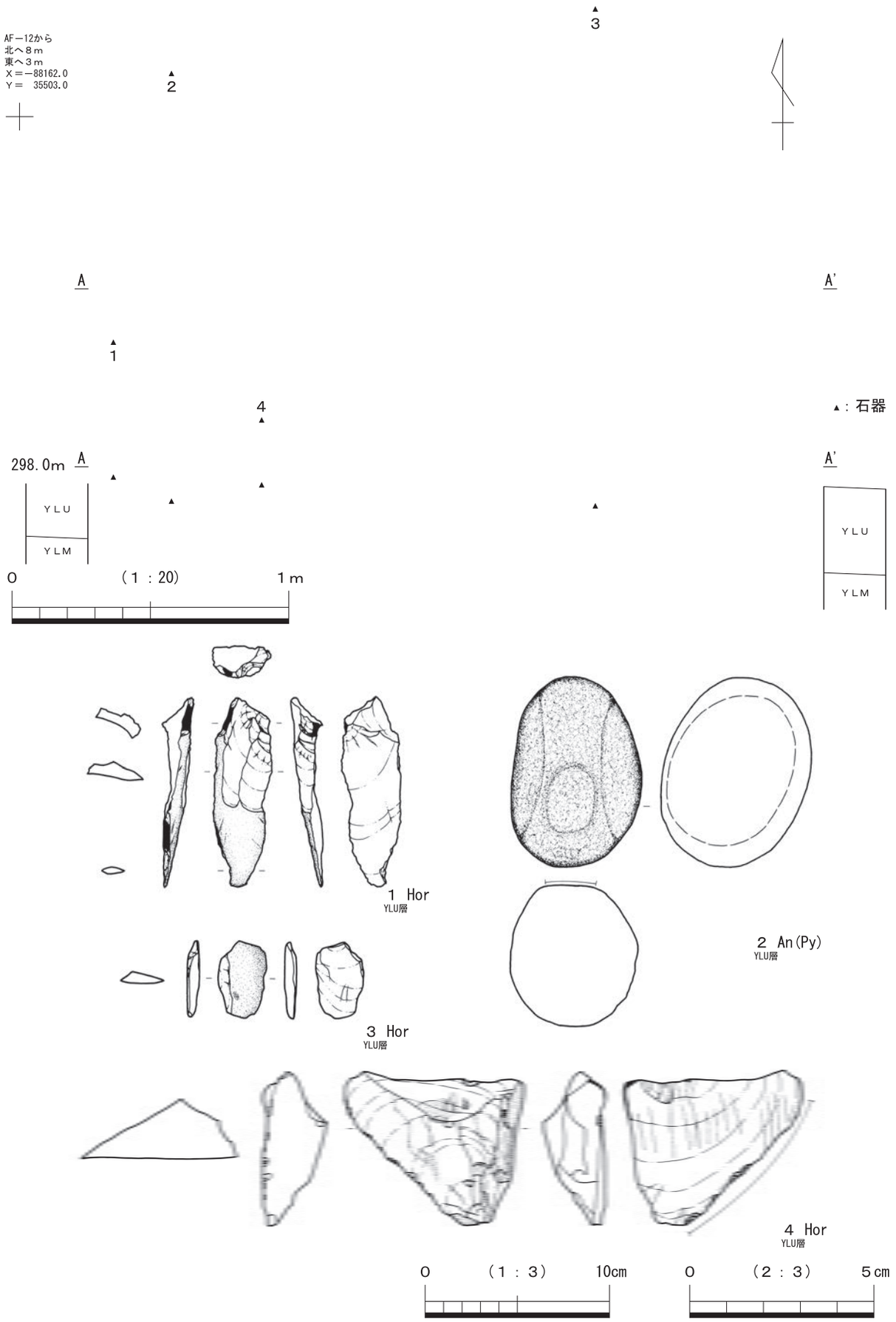
遺構の帰属時期は、休場層上層において検出した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第４期の範疇に位置づけられる。

点在的な石器出土範囲①（第13図、写真図版８－１、９－３）

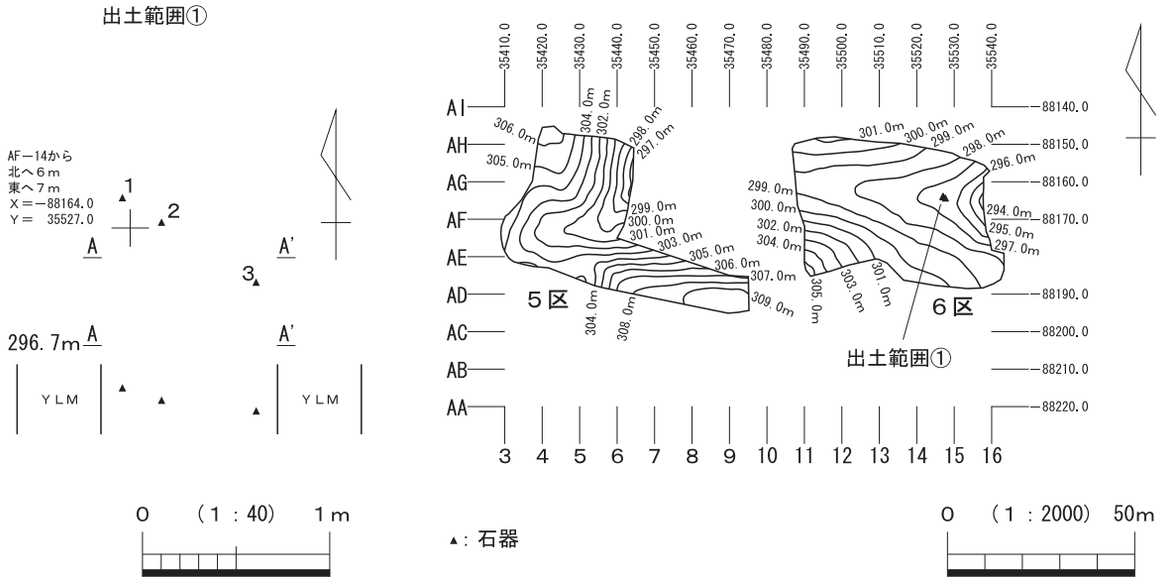
本範囲は、６区AF－14グリッドに位置し、谷部緩斜面に立地する。調査では、TP04に位置する。本範囲では、休場層中層より石器が３点出土した。出土深度の標高値は、296.47m～296.35mの範囲であり、その深度幅は12cmである。

本範囲は３点で構成され、長軸70cm、短軸40cmの狭い範囲に集まる。出土石器は、剥片２点、微細剥離のある剥片１点である。第13図１・２はホルンフェルス製の剥片である。１は、石核調整剥片と思われ、背面には円礫面を残す。その背面右側縁下部には、粗い加工を施す。２は、打面調整剥片と思われる。３は、黒曜石製の微細剥離のある剥片である。素材は不定形剥片を呈し、裏面左側縁から微細剥離を施す。背面構成は、主要剥離面とやや直交する剥離面が一部確認できることから、側方調整剥片を素材として利用したものと思われる。産地分析の結果、産地は東京都神津島恩馳島群と推定される。

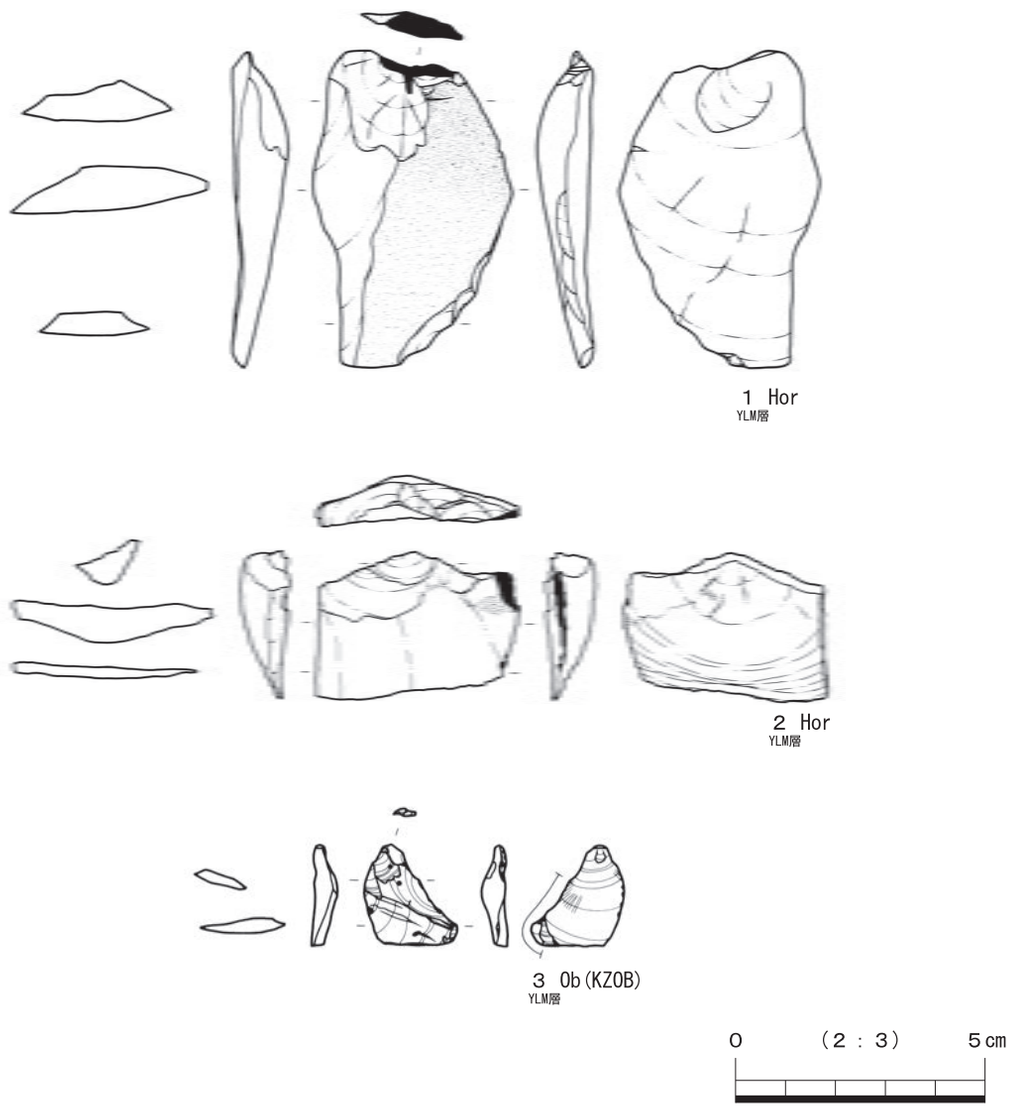
本範囲の帰属時期は、休場層中層において出土した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えら



第12図　１号石器集中、出土遺物



等高線は５区がＳＣＩ層、６区がＹＬＵ層上面



第13図　休場層出土遺物（１）

れる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第４期の範疇に位置づけられる。

点在的な石器出土範囲②（第14図、写真図版８－１、９－３）

本範囲は、６区AE－14グリッドに位置し、谷部緩斜面に立地する。調査では、TP07に位置する。本範囲では、休場層中層より石器が１点出土した。出土深度の標高値は、299.06mである。

第14図１は、硬質細粒凝灰岩製の剥片である。背面には、大振りの剥離面が２面確認できることから、おそらく石核調整剥片と思われる。

本範囲の帰属時期は、休場層中層において出土した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第４期の範疇に位置づけられる。

点在的な石器出土範囲③（第15図、写真図版８－１・２、９－３）

本範囲は、６区AF－11グリッドに位置し、谷部緩斜面に立地する。調査では、TP01拡張部に位置する。本範囲では、休場層上層より石器が３点出土した。出土深度の標高値は、298.36m～298.18mの範囲であり、その深度幅は18cmである。本地点の南西側及び西側には、１号礫群が隣接している。

本範囲は３点で構成され、長軸610cm、短軸60cmの範囲に集まる。出土石器は、剥片１点、石皿１点である。第15図１は、ガラス質黒色安山岩製の剥片である。打面及び背面には、素材の礫面が一部確認できることから、石核調整剥片と思われる。２は、輝石安山岩製の台石または石皿である。素材形状は亜角礫を呈する。実測図正面の平坦な面は、触手で確認すると、やや滑らかである。重量は3,814ｇである。出土状況では、２－１、２－２と分割礫の状態で出土しており、その接合距離は310cmを測る。２は、１号礫群と近接する位置関係にあることから判断して、その構成礫の一部だったかもしれない。

本範囲の帰属時期は、休場層上層において出土した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第４～５期の範疇に位置づけられる。

点在的な石器出土範囲④（第16図、写真図版８－１）

本範囲は、５区AE－５グリッドに位置し、谷部の斜面に立地する。調査では、TP15に位置する。本範囲では、休場層中層より石器が３点出土した。出土深度の標高値は、302.75m～301.91mの範囲であり、その深度幅は84cmである。本地点は、北東方向へ急勾配する地形であるため、深度幅は大きい。

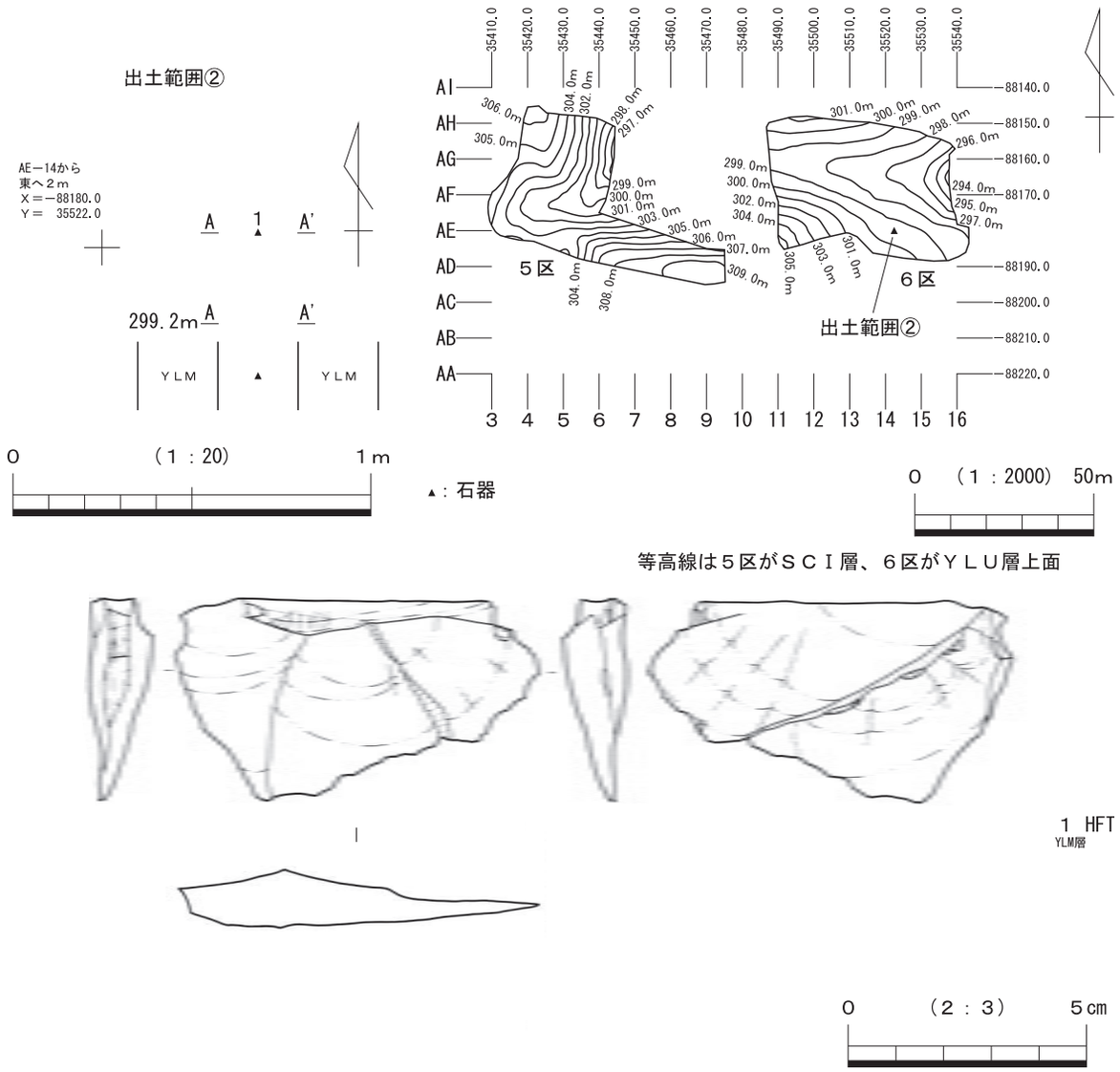
本範囲は３点で構成され、長軸350cm、短軸60cmの範囲に集まる。出土石器は、剥片３点である。第16図１は、黒曜石製の剥片であり、石器製作の残滓と思われる。２は、黒曜石製の剥片である。背面に痘痕状の表皮の一部が確認できる。３は、黒曜石製の縦長剥片である。実測図正面の剥片端部には、稜調整の痕跡が確認でき、彫器スポールのような形状を呈している。産地分析の結果、産地は神奈川県箱根畑宿群産と推定される。

本範囲の帰属時期は、休場層中層において出土した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第４～５期の範疇に位置づけられる。

点在的な石器出土範囲⑤（第16図、写真図版８－１、９－３）

本範囲は、５区AD－７グリッドに位置し、谷部の斜面に立地する。調査では、TP20に位置する。本範囲では、休場層中層から下層にかけて石器が２点出土した。出土深度の標高値は、305.59m～305.15mの範囲であり、その深度幅は44cmである。本範囲は、北方向へ急勾配する地形であり、その深度幅は大きい。

本範囲は２点で構成され、径150mの範囲に集まる。出土石器は、ナイフ形石器２点である。第16図



第14図　休場層出土遺物（２）

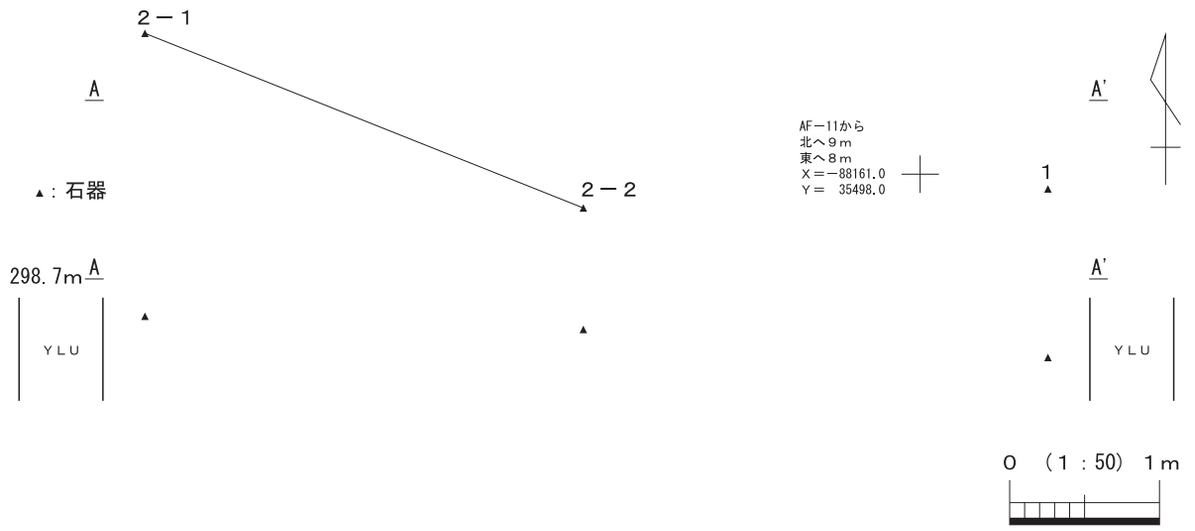
４は、休場層下層出土の黒曜石製の二側縁加工のナイフ形石器である。素材は縦長剥片を呈する。基部は打面側に位置する。打面は裏面右下縁からの調整で除去されている。ブランティング加工は、基部から両側縁にかけて施される。先端部は欠損後、折れ面に再調整を施している。右側縁上部には折れ面からの細い樋状剥離が確認できるが、彫器としての転用も考えられる。５は、休場層中層出土の黒曜石製の二側縁加工のナイフ形石器である。素材は不定形剥片を呈する。上下端は欠損後、折れ面から裏面側に微細剥離を削出する。産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。

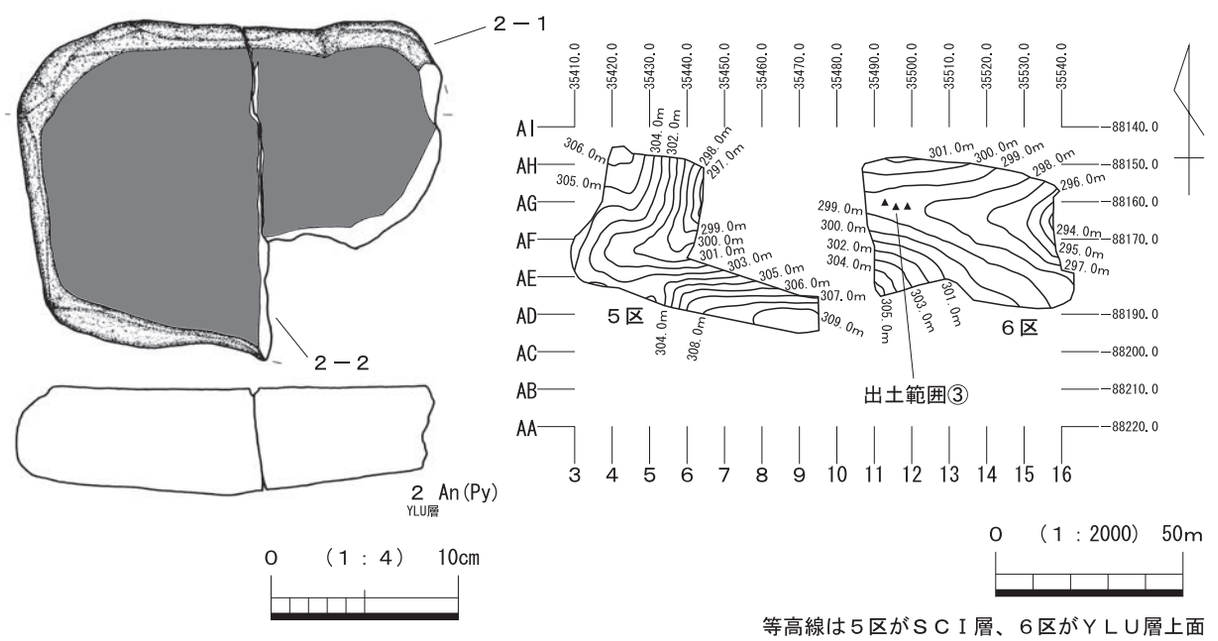
本範囲の帰属時期は、休場層中～下層において出土した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第４期の範疇に位置づけられる。

点在的な石器出土範囲⑥（第17図、写真図版８－１、９－３）

本範囲は、５区AF－４グリッドに位置し、谷部緩斜面に立地する。調査では、TP11に位置する。本範囲では、休場層中層から石器が１点出土した。出土深度の標高値は、304.96mである。

出土範囲③

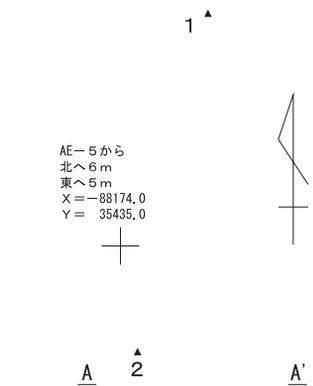


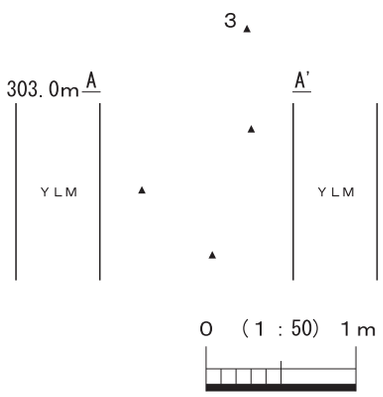


等高線は５区がＳＣＩ層、６区がＹＬＵ層上面

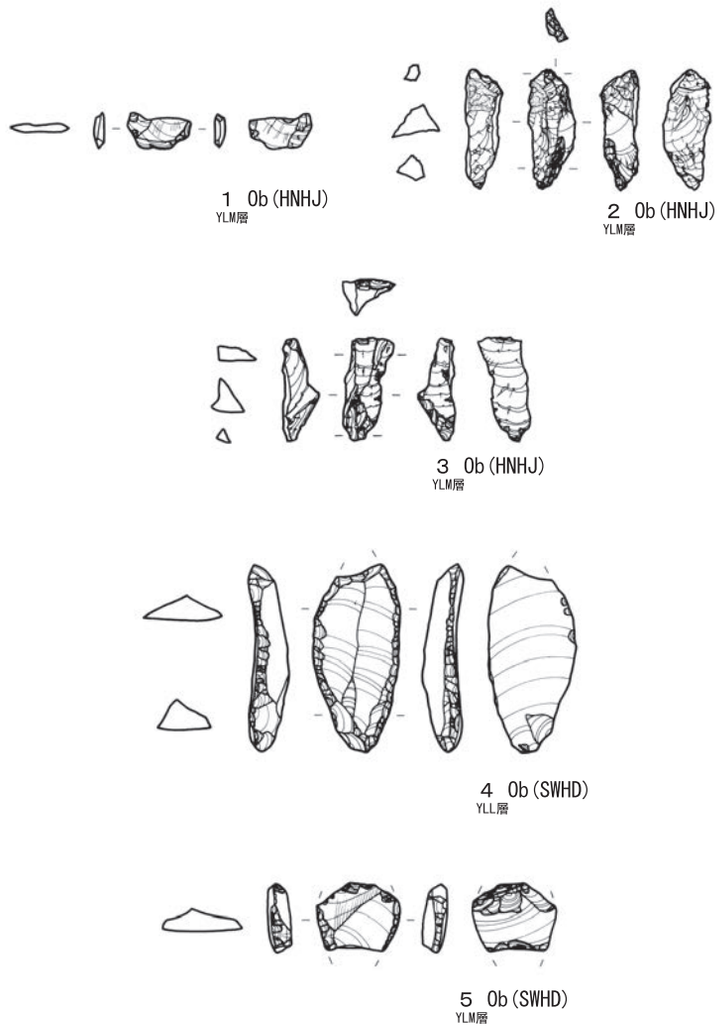
第15図　休場層出土遺物（３）

出土範囲④

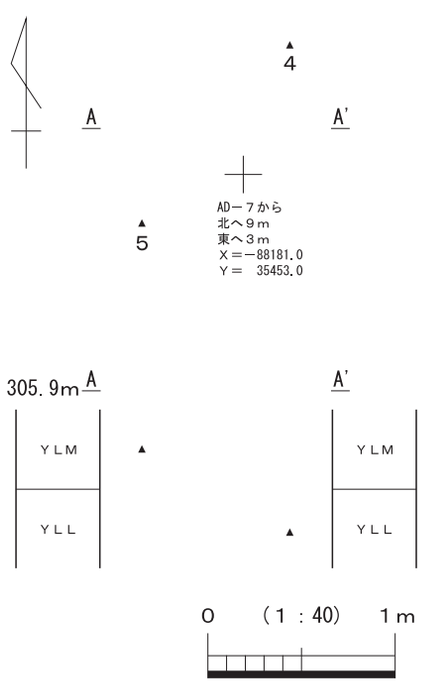


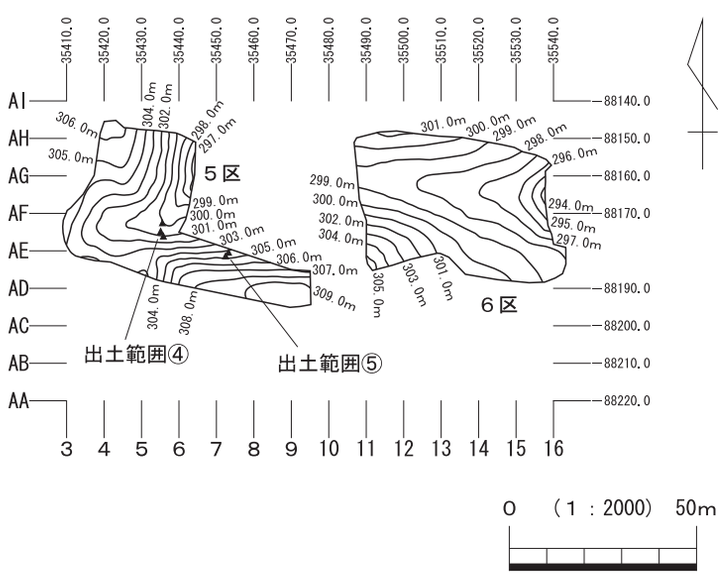


▲：石器



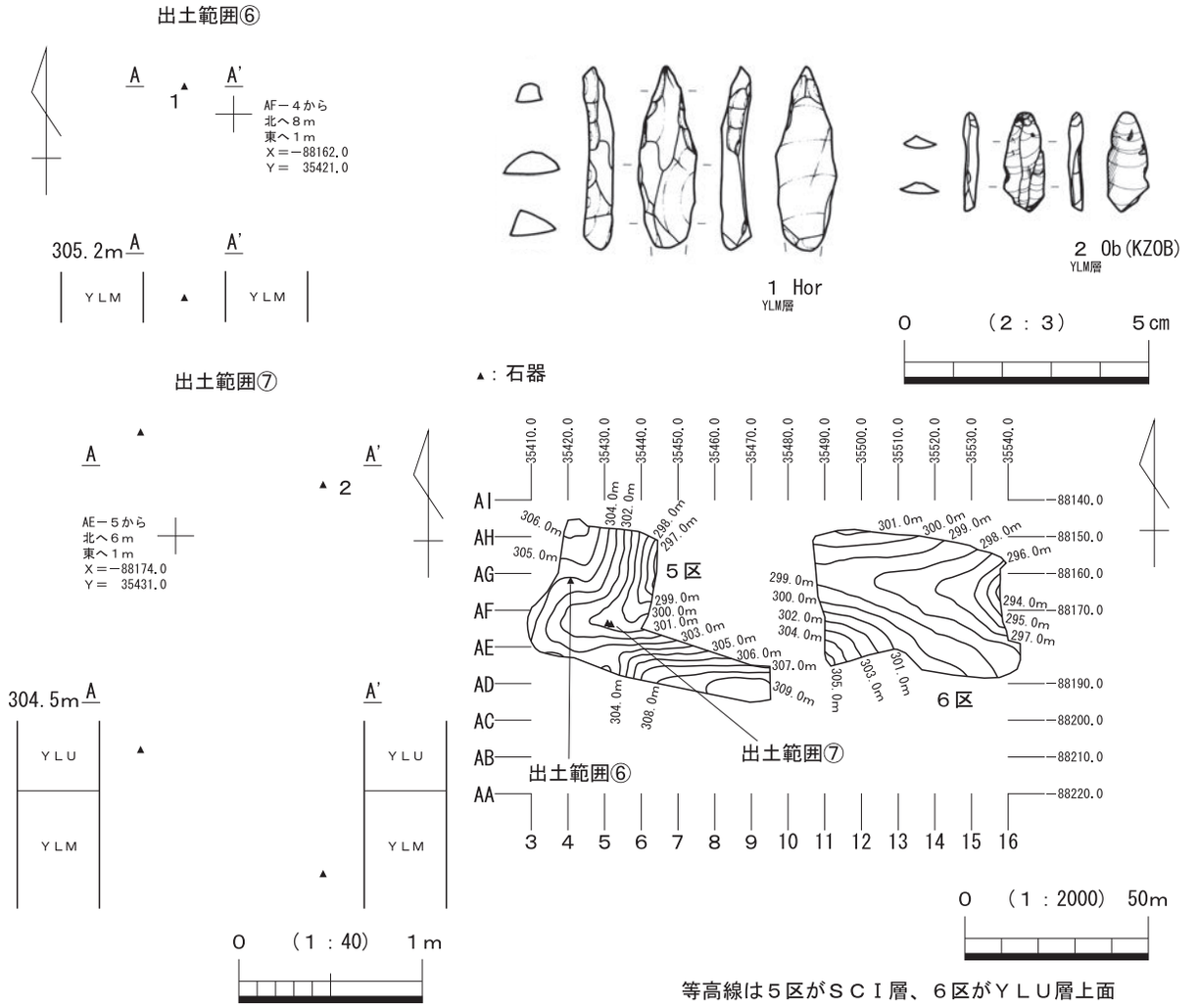
出土範囲⑤





等高線は５区がＳＣＩ層、６区がＹＬＵ層上面

第16図　休場層出土遺物（４）



第17図　休場層出土遺物（５）

出土石器は、ナイフ形石器１点である。第17図１は、ホルンフェルス製の二側縁加工のナイフ形石器である。素材は縦長剥片を呈する。基部は打面側に位置する。打面は除去されている。ブランティング加工は、実測図正面で、基部から左側縁、右側縁上部にかけて施される。器体表面は風化が著しい。

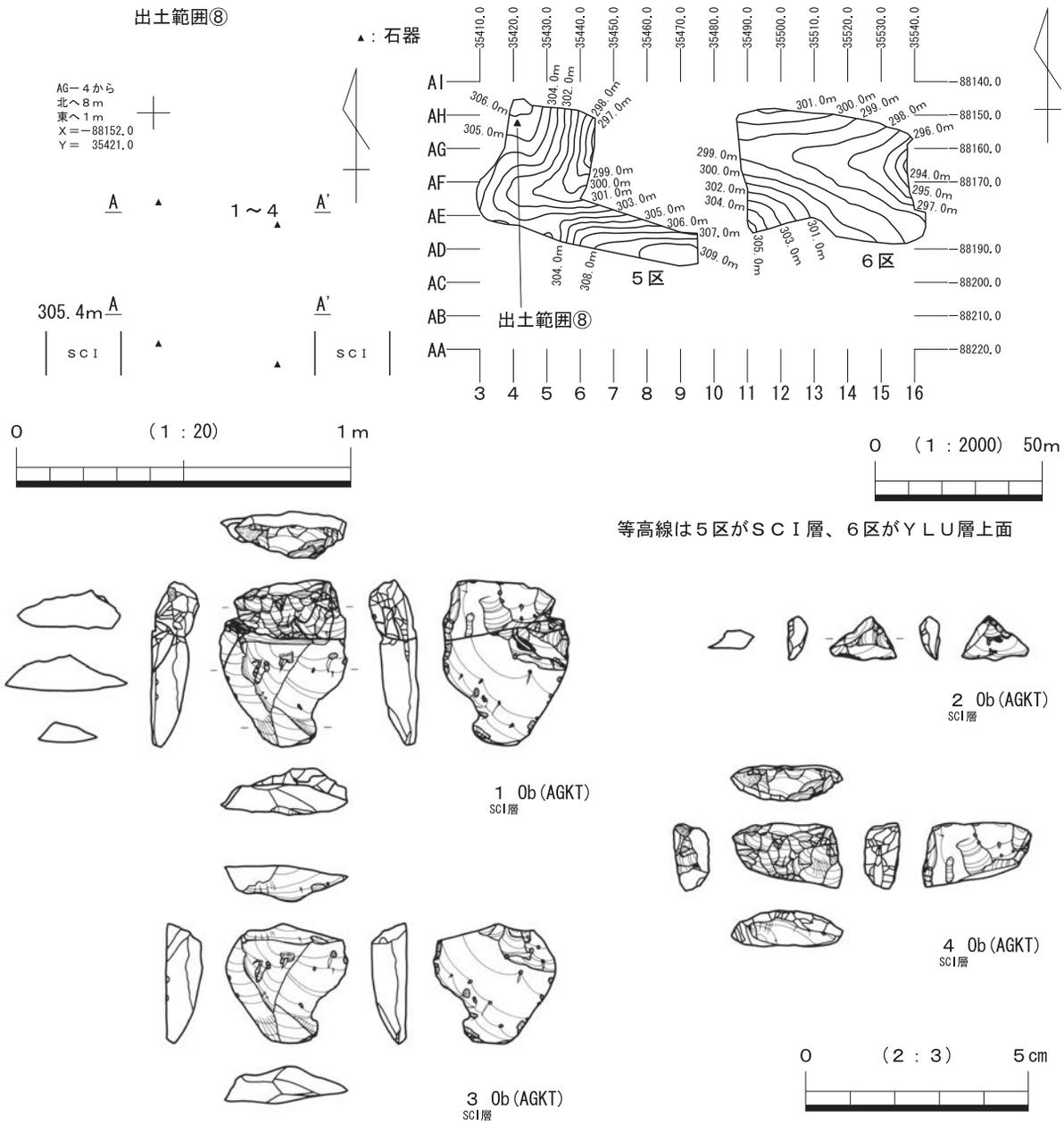
本範囲の帰属時期は、休場層中層において出土した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第４期の範疇に位置づけられる。

点在的な石器出土範囲⑦（第17図、写真図版８－１、９－３）

本範囲は、５区AE－５グリッドに位置し、谷部緩斜面に立地する。調査では、TP15に位置する。本範囲では、休場層中層から石器が２点出土した。出土深度の標高値は、304.24m～303.57mの範囲であり、その深度幅は67cmである。本地点は、北東方向へ急勾配する地形であり、その深度幅は大きい。

出土石器は、細石刃１点、砕片１点である。第17図２は、休場層中層出土の黒曜石製の細石刃である。打面は線状を呈し、リップの発達が確認できる。両側縁には細かい微細剥離が観察できる。左側縁には２、３打の剥離により抉りを削出している。端部は２回欠損している。１回目の欠損後では、折れ面に再加工が施されている。産地分析の結果、産地は東京都神津島恩馳島群と推定される。休場層上層から出土した砕片は、サイズが小さいため、産地推定はできなかった。

本範囲の帰属時期は、休場層上～中層において出土した点、及び細石刃の出土を考慮すると、後期旧



第18図　第Ｉスコリア層出土遺物

石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第５期の範疇に位置づけられる。

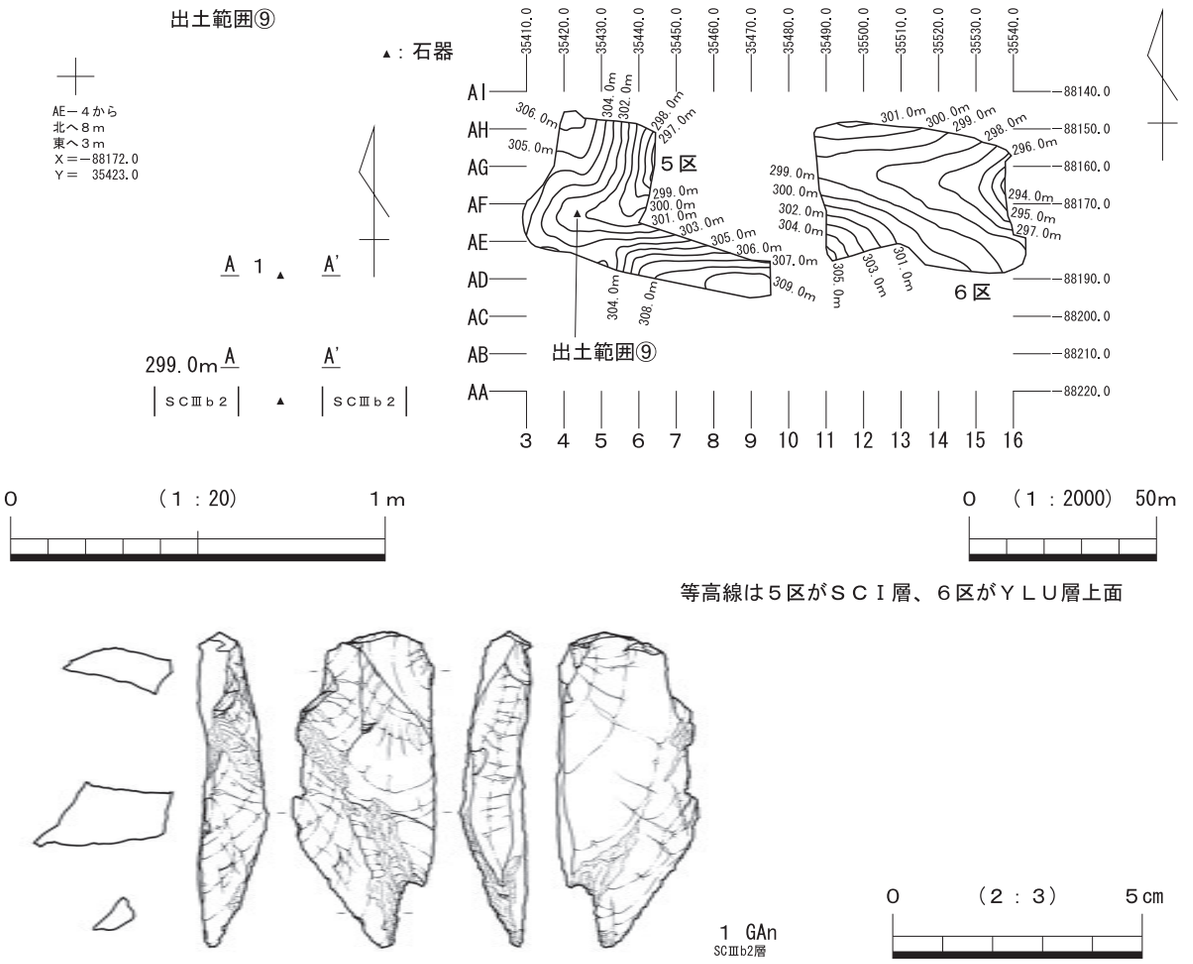
（2）第Ｉスコリア層の調査

第Ｉスコリア層の調査では、点在的な石器出土範囲１地点を確認した。

以下、出土範囲⑧として、調査所見を記載する。

点在的な石器出土範囲⑧（第18図、写真図版９－１・３）

本範囲は、５区AG－４グリッドに位置し、谷部緩斜面に立地する。調査では、TP09に位置する。本範囲では、石器が11点出土した。出土深度の標高値は、305.31ｍ～305.25ｍの範囲であり、その深度幅は６㎝である。



第19図　第Ⅲスコリア帯第２黒色帯出土遺物

出土石器は、剥片・砕片11点である。第18図１は、出土した剥片・砕片の一部が接合した資料であり、不定形剥片を呈する。以下、接合資料を説明するにあたり、図示していない小剥片も接合しているため、その資料に対しては、遺物番号（996－4、996－5、996－6）で表記する。

第18図１の不定形剥片は、裏面左側縁に微細剥離を削出している。この剥片の背面には、打面が欠損した小剥片（996－4）が接合する状態にある。小剥片（996－4）が剥離された後、この不定形剥片は、器体中位より上で欠損し、個体Ａ（第18図４）と個体Ｂ（第18図３）に上下で分離している。個体Ａ（第18図４）は、上面に打面を設定し、正面・裏面を作業面として小剥片を剥離している。正面の作業面は、転移して打面として設定され、裏面右側縁に小剥片を剥離している。個体Ｂ（第18図３）は、折れ面に打面を設定し、裏面を作業面として、小剥片を数枚剥離（995－5→第18図２→996－6）している。

接合資料から判断できる剥離作業の推移は３つ考えられる。１つ目の想定は、①石核から小剥片（996－4）を剥離、→②石核から不定形剥片（第18図３＋４）を剥離、→③不定形剥片の縁辺加工中に欠損し、個体Ａ（第18図４）と個体Ｂ（第18図３）に分離、→④各個体は石核として小剥片の剥離作業を行う、という流れである。石核は遺跡から出土していないため、調査区外に埋蔵しているか、または遺跡外に搬出したかのいずれかであると思われる。２つ目の想定は、①微細剥離のある不定形剥片（第18図３＋４）が遺跡に搬入され、石核として小剥片（996－4）を剥離、②石核が欠損し、個体Ａ（第18図４）と個体Ｂ（第18図３）に分離、→③各個体は石核として小剥片の剥離作業を行う、という流れである。３つ目の想定は、①不定形剥片（第18図３＋４）が遺跡に搬入され、縁辺加工を行う、②不定形

剥片を石核として小剥片（996－4）を剥離、③石核が欠損し、個体Ａ（第18図４）と個体Ｂ（第18図３）に分離、→③各個体は石核として小剥片の剥離作業を行う、という流れである。

接合資料の出土範囲周辺では、砕片５点（995、996－7～10）が出土している。おそらく個体Ａ・Ｂを石核として小剥片を剥離した際に生じた砕片であると思われる。黒曜石産地同定分析の結果、静岡県天城柏峠産と推定されている。

本範囲の帰属時期は、第Ⅰスコリア層において出土した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（笹原1995）では、第３期の範疇に位置づけられる。

（３）第Ⅲスコリア帯第２黒色帯の調査

第Ⅲスコリア帯第２黒色帯の調査では、点在的な石器出土範囲１地点を確認した。

以下、出土範囲⑨として、調査所見を記載する。

点在的な石器出土範囲⑨（第19図、写真図版９－２・３）

本範囲は、５区AE－４グリッドに位置し、谷部緩斜面に立地する。調査では、TP14に位置する。本範囲では、石器が1点出土した。出土深度の標高値は、298.91ｍである。

出土石器は、剥片１点である。第19図１は、ガラス質黒色安山岩製の剥片である。背面には、素材の礫面が一部見られることから、石核調整剥片であると思われる。

本範囲の帰属時期は、第Ⅲスコリア帯第２黒色帯において出土した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（笹原1995）では、第２期の範疇に位置づけられる。

2　縄文時代の調査

静岡県東部では、「序章第２節４　愛鷹山麓の火山灰層序学的区分」で述べた土層の堆積関係が確認できる遺跡が多い。そのため、遺構の埋土が自然堆積土由来である場合、いつの時代に堆積し、埋没したのか概ね把握できる。例えば、富士黒色土層は、８千年前から５千年前の火山活動の静穏期に植物が繁茂して形成された土層（「序章第２節２　地質の様相」参照）と考えられ、ちょうど縄文時代早期から前期にかけて形成された土層と考えられる。また縄文時代後期頃に降灰したと考えられるカワゴ平パミスや砂沢スコリアも、埋没した時期を推定する上で重要な堆積物である。

本遺跡では、縄文時代の土坑61基、集石12基、焼土２基を検出した（第20図）。以下、土坑、集石、焼土の順に、調査所見を記載する。

（１）土坑（第21～38図）

本遺跡では、土坑が61基検出されている。土坑の形態は、円形・楕円形・方形・長方形を呈し、中には底面に小穴を有するものが確認できる。この形態的特徴から判断して、陥穴状土坑と思われる。陥穴状土坑の埋土からは遺物は殆ど出土しなかった。陥穴状土坑の立地は、谷部の高い斜面部から低い緩斜面部にかけて構築されている。そのため、土坑が埋没する過程は、構築する場所により埋没の進行度合いは異なると考えられる。本遺跡では、堆積の進行方向は高い斜面部から低い緩斜面部へと流入し、低い部分では厚く堆積するものと想定される。しかし、富士黒色土層由来の埋土を基準に考えると、低い緩斜面部に位置する陥穴状土坑の中でも、埋土の厚さにバラツキが見られる。埋土の堆積状況から判断して、陥穴状土坑の構築または埋没の時間的推移を想定した。

①富士黒色土層由来の埋土が23cm以上で厚くレンズ状に堆積する陥穴状土坑（１～12号土坑）。
②富士黒色土層由来の埋土が16～23cm未満でレンズ状に堆積する陥穴状土坑（13～24号土坑）。
③富士黒色土層由来の埋土が16cm未満でレンズ状に堆積する陥穴状土坑（25～42号土坑）。
④富士黒色土層～栗色土層の混土由来の埋土がレンズ状に堆積する陥穴状土坑（43～50号土坑）。
⑤富士黒色土層由来の埋土が殆ど堆積しない陥穴状土坑（51～61号土坑）。

以下、各土坑の概要を記述する。土坑の計測表は、第７表に記載している。

１号土坑（第21図）

本遺構は、６区AF・AG－11グリッドに位置し、標高299～298.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の南東方向には、32号土坑が隣接する。

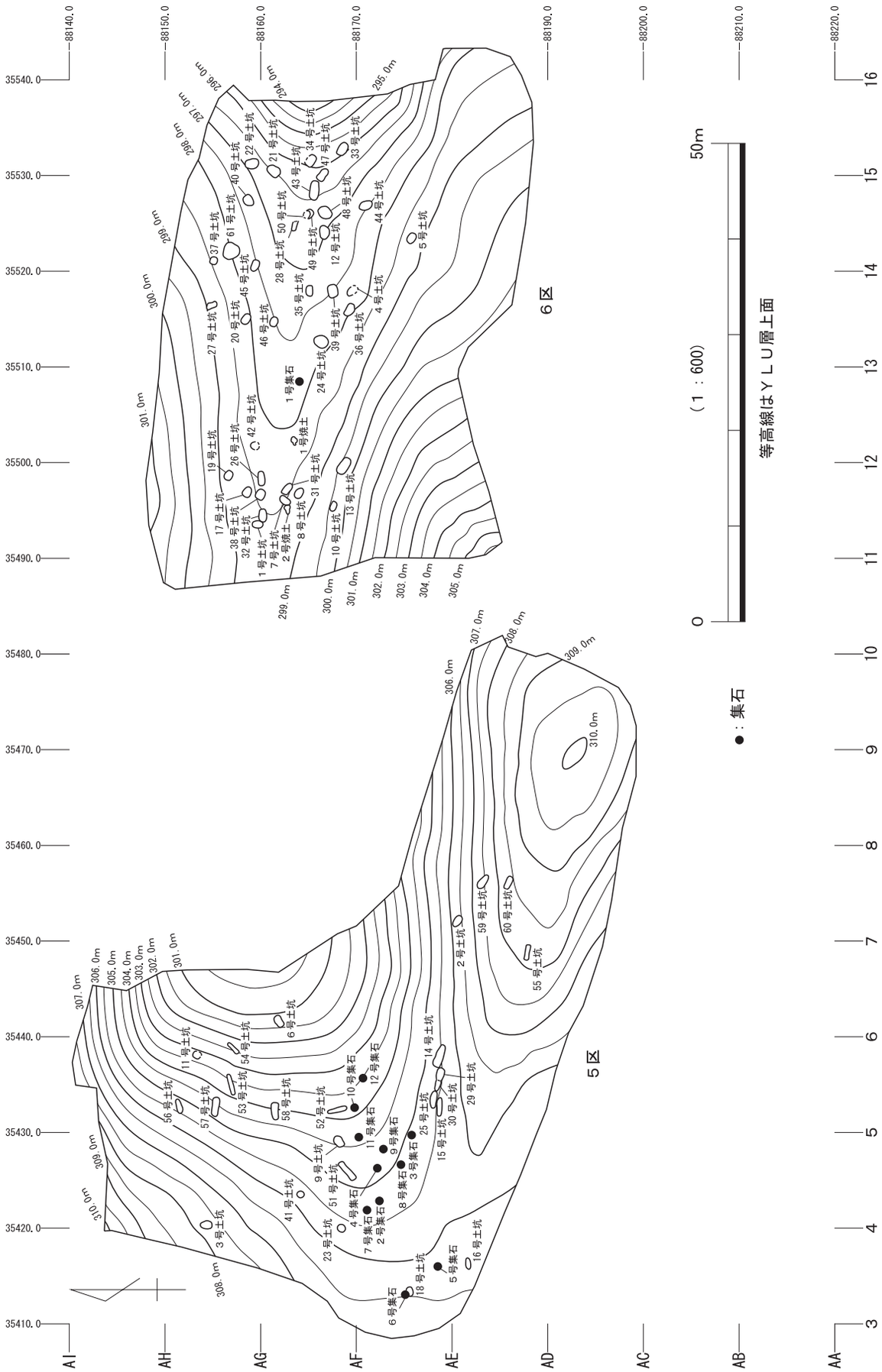
平面形は不整楕円形を呈し、長軸114cm、短軸74cmを測る。遺構検出面からの最大深度は､82cmを測る。底面は概ね平坦である。本遺構南側上部の壁面はやや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、北を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に富士黒色土層に由来する土が、厚く堆積している。埋土から遺物は出土していない。

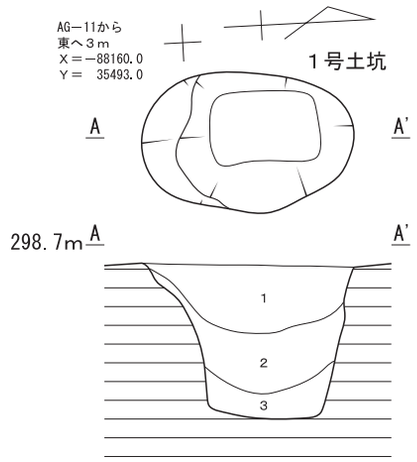
遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

２号土坑（第21図）

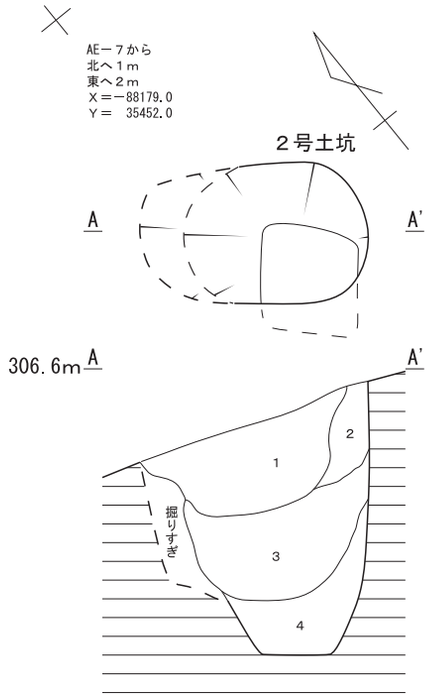
本遺構は、５区AD－７グリッドに位置し、標高306～306.5mの斜面部に立地する。遺構検出面は、



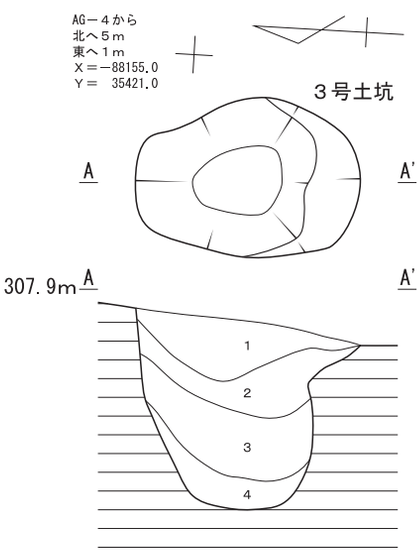
第20図　葛山上條遺跡縄文時代遺構配置図



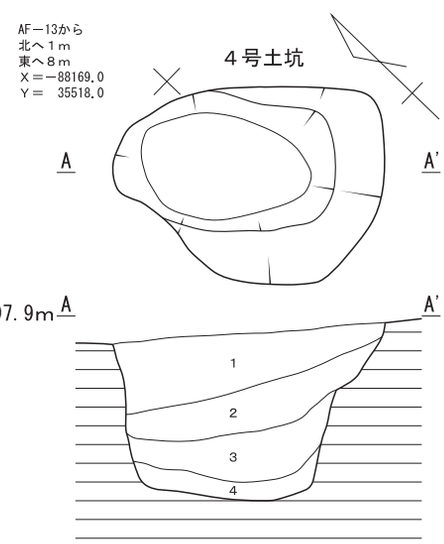
１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
３層　褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性有、締まり無、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。



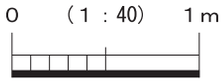
１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア・径５～15㎜褐色土塊少量。
２層　褐色土　　壁壊土（休場層土塊）。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　　富士黒色土層～休場層混土。粘性有、締まり無、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。



１層　黒褐色土　　粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径５～15㎜黄褐色土塊・径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　　富士黒色土層～休場層混土。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。



１層　褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　　富士黒色土層～休場層混土。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。



第21図　１～４号土坑

休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南東へ４ｍのところに、59号土坑が位置している。

平面形は楕円形を呈し、長軸122㎝（推定値）、短軸75㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､147㎝を測る。底面は、概ね平坦である。平面図では分かりづらいが、本遺構の南西側下部の壁面は、少しオーバーハング状に凹んでいる。主軸方位は、北西を示す。

埋土は４層に分けた。第２層は壁壊土（休場層土塊）であり、検出面より若干高い位置からの崩れと思われる。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に富士黒色土層に由来する土が、厚く堆積している。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

３号土坑（第21図）

本遺構は、５区AG－３・４グリッドに位置し、標高308 ～ 307.5mの緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸120㎝、短軸85㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は、106㎝を測る。断面形は、やや袋状に脹らむ形状を呈する。底面は円味を呈するが、概ね平坦である。本遺構南側上部の壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、北を示す。

埋土は４層に分けた。第３・４層には壁壊土塊（休場層土塊）が含まれる。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に富士黒色土層に由来する土が、厚く堆積している。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

４号土坑（第21図）

本遺構は、６区AE・AF－13グリッドに位置し、標高298 ～ 297.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から西へ１ｍのところに36号土坑、北へ１ｍのところに39号土坑が位置する。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸145㎝、短軸104㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は、95㎝を測る。底面は、概ね平坦である。本遺構南東側上部の壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、北西を示す。

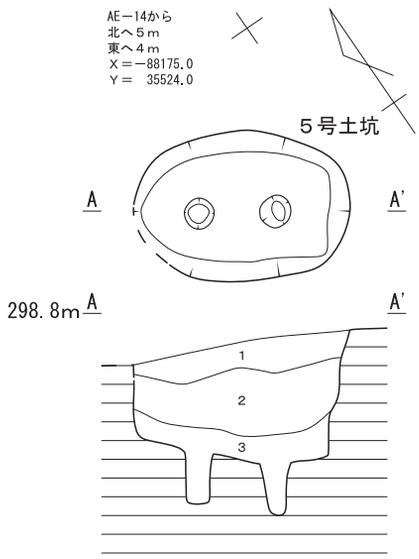
埋土は４層に分けた。第３・４層には壁壊土塊（休場層土塊）が含まれる。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、主に南側からの自然流入により埋没したと考えられる。特に富士黒色土層に由来する土が、厚く堆積している。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

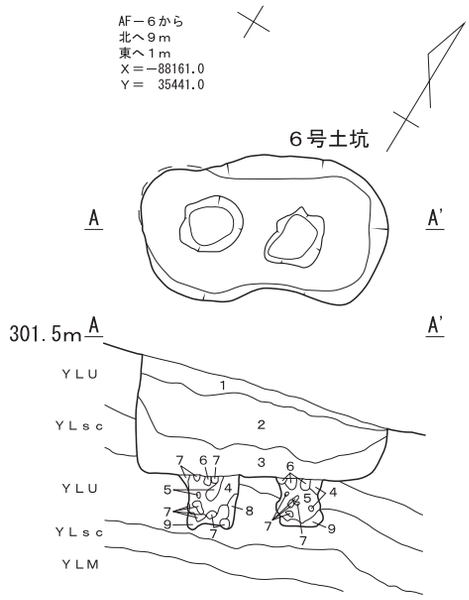
５号土坑（第22図）

本遺構は、６区AE－14グリッドに位置し、標高299 ～ 298.5mの緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。

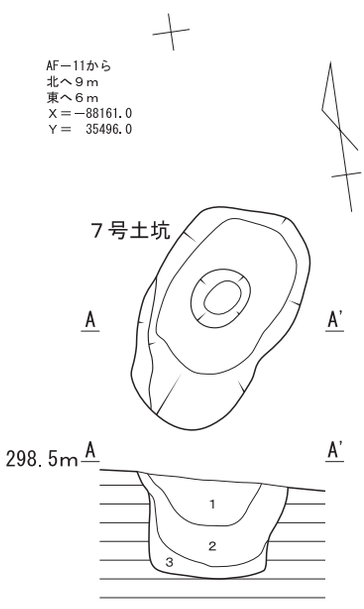
平面形は楕円形を呈し、長軸116㎝、短軸80㎝を測る。遺構検出面から底面までの最大深度は､70㎝を測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、径16㎝の小穴を２つ検出した。小穴の深度は、



１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
３層　褐色土　　粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。



１層　褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層　暗褐色土　　粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
５層　褐色土　　漸移層～休場層類似。粘性・締まり有、径２～３㎜赤褐色スコリア少量。
６層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
７層　褐色土　　休場層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
８層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
９層　褐色土　　漸移層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア多量。



１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性有、締まり無、径１～４㎜赤褐色スコリア多量。
３層　褐色土　　漸移層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。

第22図　５～７号土坑

底面から28cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北西を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に富士黒色土層に由来する土が、厚く堆積している。第３層の流入土は、底面及び２つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

６号土坑（第22図）

本遺構は、５区AF－６グリッドに位置し、標高301.5 ～ 301mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。

平面形は楕円形を呈し、長軸130cm、短軸72cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は､62cmを測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、径28 ～ 36cm程の小穴を２つ検出した。小穴の深度は、底面から26 ～ 28cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北東を示す。

埋土は９層に分けた。第４～９層は小穴の埋土であり、細かく埋土の状況を現地調査で図化している。その埋土は、休場層～富士黒色土層の混土が主体であり、逆茂木設置の掘方埋土に相当するのかもしれない。第１～３層の堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に富士黒色土層に由来する土が、厚く堆積している。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

７号土坑（第22図、写真図版２－１）

本遺構は、６区AF－11グリッドに位置し、標高298.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南に８号土坑、東に31号土坑、西に２号焼土が隣接している。

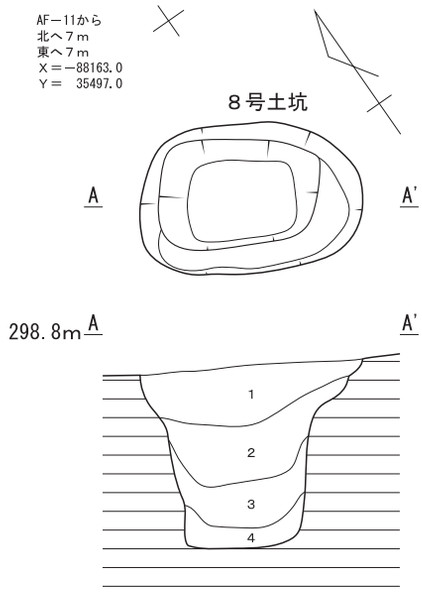
平面形は楕円形を呈し、長軸126cm、短軸76cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は､52cmを測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、径28 ～ 32cmの小穴を１つ検出した。小穴の深度は、底面から47cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北東を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に富士黒色土層に由来する土が、厚く堆積している。小穴の埋土については、調査記録には残っていなかった。おそらく６号土坑の小穴の埋土と同様で、掘方埋土であったと思われる。埋土から遺物は出土していない。

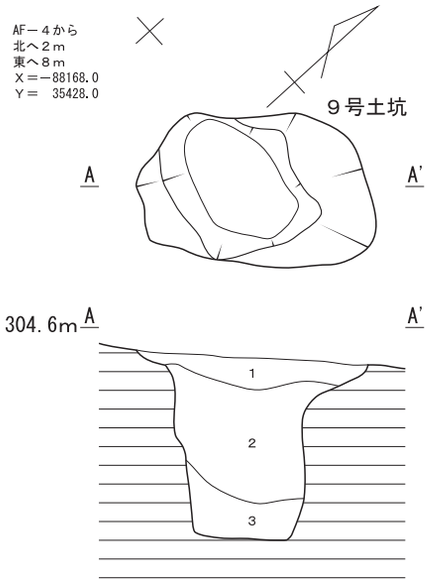
遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

８号土坑（第23図）

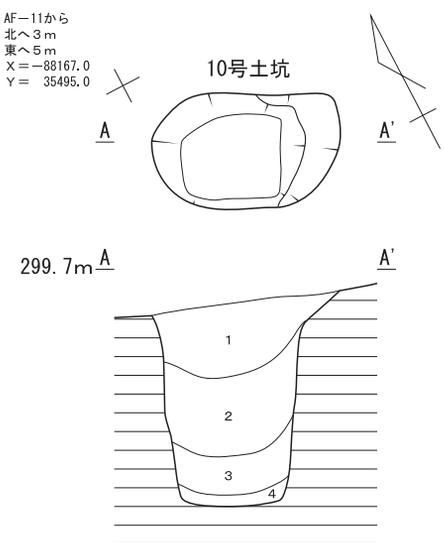
本遺構は、６区AF－11グリッドに位置し、標高299 ～ 298.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北に２号焼土、７号土坑、31号土坑



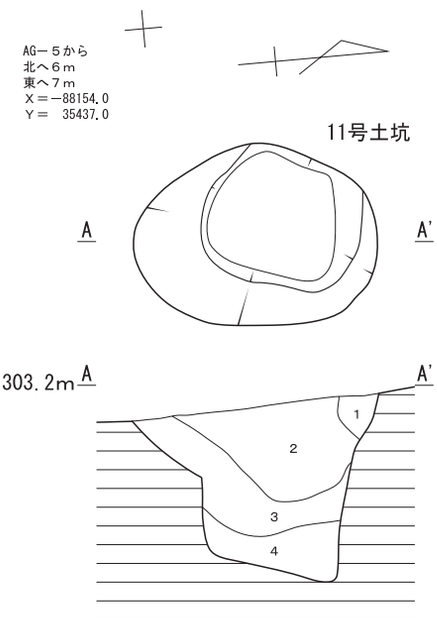
１層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。
３層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　漸移層類似。粘性有、締まり無、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。



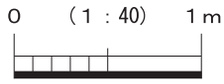
１層　褐色土　栗色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
３層　褐色土　漸移層～休場層混土。粘性有、締まり無、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。



１層　暗褐色土　栗色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜橙色スコリア・径１～３㎜炭化物少量。
３層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　漸移層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。



１層　褐色土　漸移層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。壁壊土。
２層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
３層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　漸移層～休場層混土。粘性有、締まり無、径２～３㎜赤褐色スコリア少量。壁壊土由来。



第23図　８～11号土坑

が隣接している。

平面形は楕円形を呈し、長軸120㎝、短軸82㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､98㎝を測る。底面は、概ね平坦である。本遺構の南西から南東部分の上部の壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、北西を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に第１～３層では、富士黒色土層に由来する土が厚く堆積している。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

９号土坑（第23図）

本遺構は、５区AF－４グリッドに位置し、標高304.5～304mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南に11号集石、西に51号土坑、東に52号土坑が隣接している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸130㎝、短軸84㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､94㎝を測る。底面は、概ね平坦である。本遺構の南西部分と東部分の上部壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、北東を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に第２層では、富士黒色土層に由来する土が、最も厚く堆積している。その層厚は60㎝を測り、一気に流れ込んだように思われる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

10号土坑（第23図）

本遺構は、６区AF－11グリッドに位置し、標高300～299.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸100㎝、短軸62㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は、108㎝を測る。底面は、概ね平坦である。本遺構の南東部分の上部壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、北西を示す。

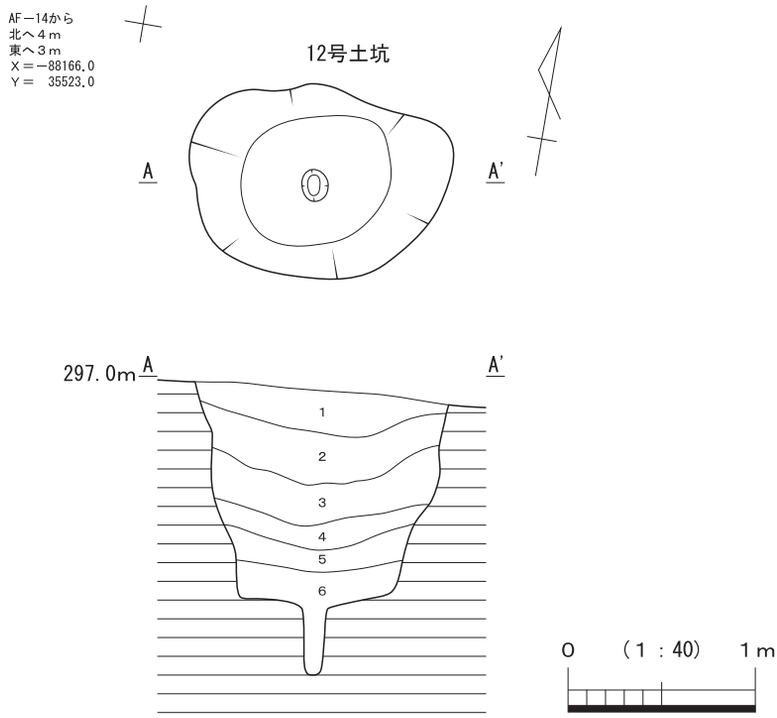
埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に第２・３層では、富士黒色土層に由来する土が厚く堆積している。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

11号土坑（第23図）

本遺構は、５区AG－５グリッドに位置し、標高303.5～303mの谷部緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。

平面形は楕円形を呈し、長軸132㎝、短軸96㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､98㎝を測る。底面は概ね平坦であるが、北側へやや下方勾配を呈する。本遺構の西から南部分、そして東部分の上部の壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、北を示す。



１層	褐色土	栗色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜橙色スコリア少量。
２層	褐色土	栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
３層	暗褐色土	富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層	暗褐色土	富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア多量。
５層	暗褐色土	富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。
６層	褐色土	漸移層～休場層混土。粘性有、締まり無、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。

第24図　12号土坑

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に第２・３層では、富士黒色土層に由来する土が厚く堆積している。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

12号土坑（第24図）

本遺構は、６区AF－14グリッドに位置し、標高297mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から東に48号土坑が隣接している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸142㎝、短軸102㎝を測る。遺構検出面から底面までの最大深度は、116㎝を測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、径14～18㎝の小穴を１つ検出した。小穴の深度は、底面から36㎝の深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、東を示す。

埋土は６層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に第３～５層は、富士黒色土層に由来する土が厚く堆積しており、底面及び小穴を埋めている。第６層は漸移層と休場層の混土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判

断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

13号土坑（第25図）

本遺構は、６区AF－11・12グリッドに位置し、標高300 ～ 299.5mの谷部緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。

平面形は長楕円形を呈し、長軸188cm、短軸96cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、92cmを測る。底面は、概ね平坦である。本遺構の北から北西部分の上部壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、北東を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に第２・３層は、富士黒色土層に由来する土が厚く堆積している。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

14号土坑（第25図）

本遺構は、５区AE－５グリッドに位置し、標高305.5mの谷部緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から西に29号土坑が隣接している。

平面形は隅丸長方形を呈し、長軸236cm、短軸86cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、42cmを測る。底面は概ね平坦であるが、北西側へやや下方勾配を呈する。主軸方位は、北西を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土は、富士黒色土層に由来する土が主体である。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

15号土坑（第25図）

本遺構は、５区AE－５グリッドに位置し、標高305.5mの谷部緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北に25号土坑、東に30号土坑が隣接している。

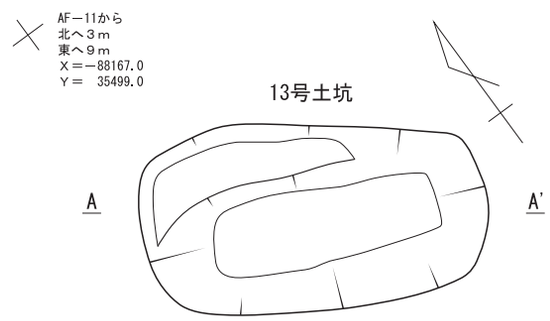
平面形は長楕円形を呈し、長軸194cm、短軸54cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、56cmを測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、東を示す。

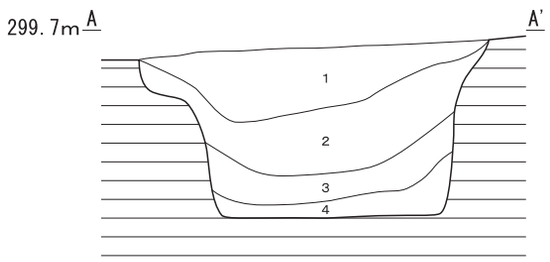
埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第１・２層は、富士黒色土層に由来する土が厚く堆積している。底面に堆積している第３層は、漸移層と休場層の混土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

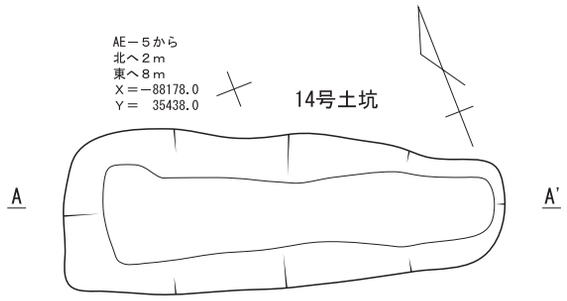
16号土坑（第25図）

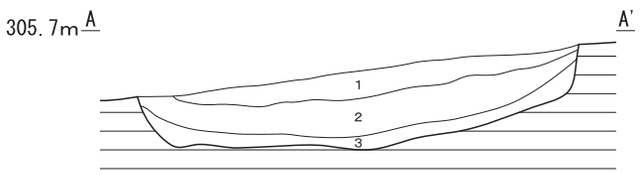
本遺構は、５区AD－３グリッドに位置し、標高306.5 ～ 306mの緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北に３ｍのところに５号集石が位置している。



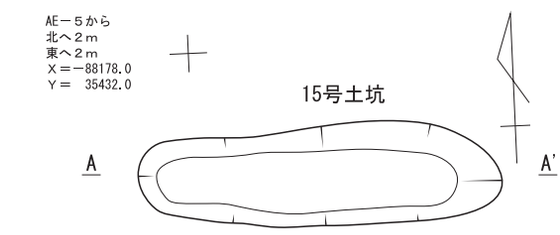


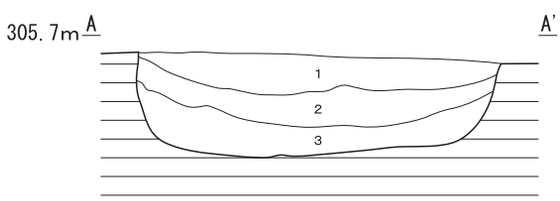
１層　暗褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
４層　褐色土　　粘性有、締まり無、径１～３㎜橙色スコリア少量。



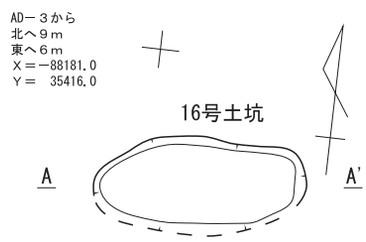


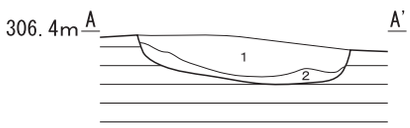
１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア・径５～15㎜黄褐色土塊少量。
３層　褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性有、締まり無、径２～４㎜橙色スコリア少量、径10～20㎜黄褐色土塊多量。



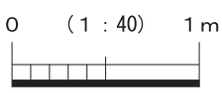


１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
３層　褐色土　　漸移層～休場層上層類似。粘性・締まり有、２～４㎜赤褐色スコリア多量。





１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア・径３～５㎜黒褐色ラピリ少量。
２層　褐色土　　富士黒色土層～休場層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。



第25図　13～16号土坑

平面形は、長楕円形を呈すると思われる。本遺構の南半分は、攪乱により遺失している。規模は、長軸114cm、短軸約52cmを測る。遺構検出面からの最大深度は､24cmを測る。底面は概ね平坦であるが、東側へやや下方勾配を呈する。主軸方位は、東を示す。

埋土は２層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土は、富士黒色土層に由来する土が主体である。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

17号土坑（第26図）

本遺構は、６区AG－11グリッドに位置し、標高299 ～ 298.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南に26・38号土坑、北東に19号土坑が隣接している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸112cm、短軸84cmを測る。遺構検出面からの最大深度は､18cmを測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北西を示す。

埋土は１層であり、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土は、富士黒色土層に由来する土が主体である。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

18号土坑（第26図）

本遺構は、５区AE－３グリッドに位置し、標高306.5mの緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。本遺構は、北側に隣接する６号集石と一部重複関係にあり、本遺構の方が古い。

平面形は楕円形を呈し、長軸94cm、短軸72cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、32cmを測る。底面は平坦というよりも、サラダボール状にやや丸味を呈している。主軸方位は、東を示す。

埋土は２層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土は、富士黒色土層に由来する土が主体である。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

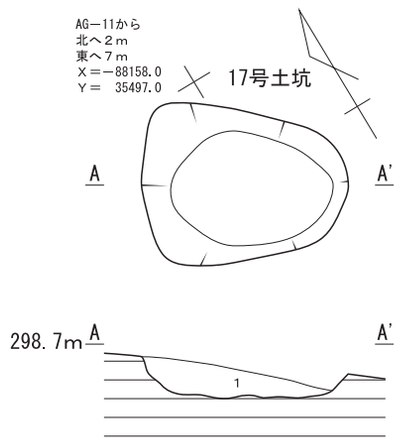
19号土坑（第26図）

本遺構は、６区AG－11グリッドに位置し、標高299 ～ 298.5mの谷部緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南西に２ｍのところに17号土坑が位置している。

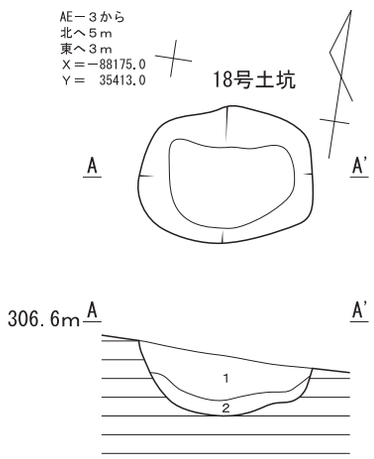
平面形は楕円形を呈し、長軸104cm、短軸84cmを測る。遺構検出面からの最大深度は､96cmを測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北西を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２・３層では、富士黒色土層に由来する土が堆積している。埋土から遺物は出土していない。

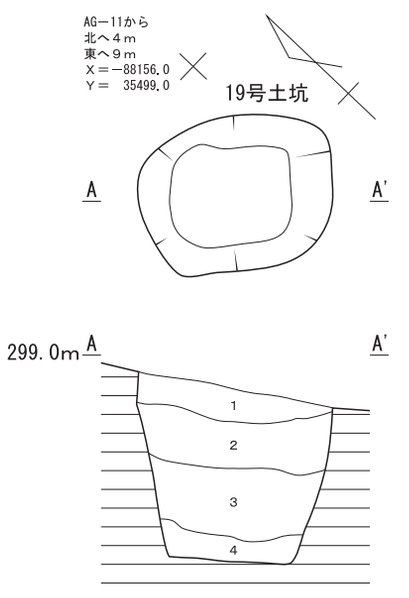
遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。



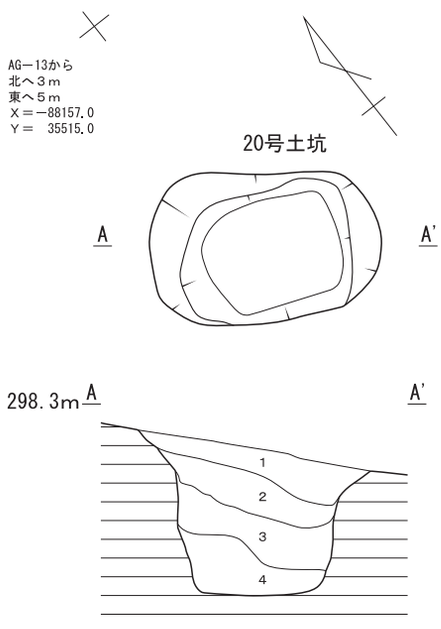
１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。



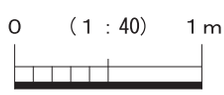
１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜橙色スコリア・径２～４㎜炭化物少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜橙色スコリア少量。



１層　暗褐色土　　暗褐色土層～栗色土層混土。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
２層　褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～６㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　　漸移層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。



１層　暗褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。



第26図　17～20号土坑

20号土坑（第26図）

本遺構は、６区AG－13グリッドに位置し、標高298.5 ～ 298mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北へ４ｍのところに27号土坑、南へ３ｍのところに46号土坑が位置している。

平面形は楕円形を呈し、長軸124cm、短軸82cmを測る。遺構検出面からの最大深度は､40cmを測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北西を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土は、富士黒色土層に由来する土が主体である。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

21号土坑（第27図）

本遺構は、６区AF－14･15グリッドに位置し、標高296.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北へ２ｍのところに22号土坑、南へ３ｍのところに34号土坑が位置している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸134cm、短軸112cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は、80cmを測る。底面は、概ね平坦である。本遺構の南西から南東部分上部の壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。底面を精査した結果、小穴を３つ検出した。１つは径16 ～ 22cm、他２つは径14 ～ 18cmの小穴であった。小穴の深度は、底面から18 ～ 22cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北東を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第３層は、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第４層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われ、底面及び３つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

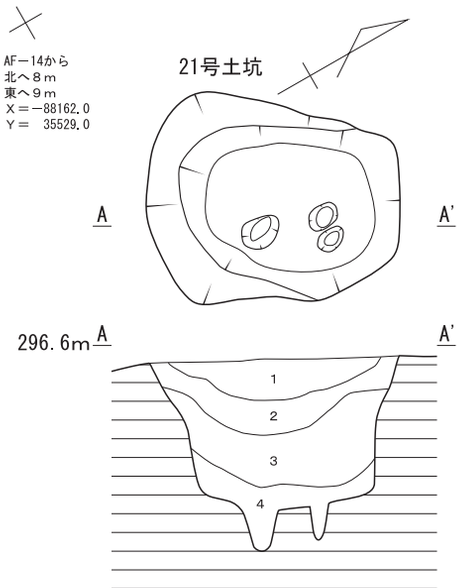
22号土坑（第27図）

本遺構は、６区AG－15グリッドに位置し、標高297 ～ 296.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南へ２ｍのところに21号土坑、西へ３ｍのところに40号土坑が位置している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸146cm、短軸100cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は、94cmを測る。底面は、概ね平坦である。本遺構の北側上部の壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。底面を精査した結果、径10 ～ 12cmの小穴を２つ検出した。小穴の深度は、底面から28cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第３層は、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第４層は、漸移層と休場層の混土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われ、底面及び２つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判

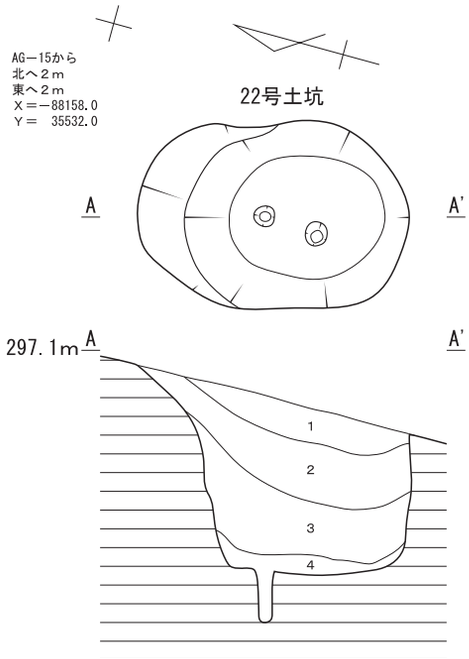


１層　褐色土　　暗褐色土層～栗色土層混土。
粘性・締まり有、径２～４㎜
赤褐色スコリア少量。

２層　褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、
径２～４㎜橙色スコリア少量。

３層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、
径１～４㎜橙色スコリア少量。

４層　褐色土　　粘性有、締まり無、径１～３㎜赤褐色
スコリア少量。

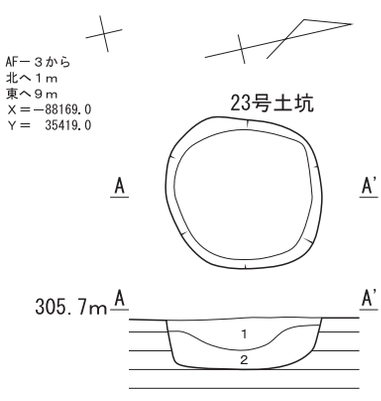


１層　暗褐色土　暗褐色土層類似。粘性・締まり有、
径１～３㎜赤褐色スコリア少量。

２層　暗褐色土　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・
締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。

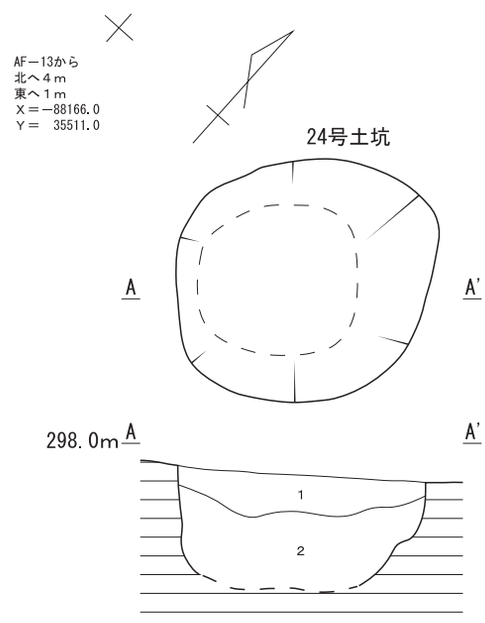
３層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、
径１～３㎜赤褐色スコリア少量。

４層　褐色土　　漸移層～休場層上層類似。粘性・締まり有、
径２～５㎜赤褐色スコリア少量。



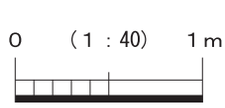
１層　暗褐色土　富士黒色土層類似。
粘性・締まり有、
径１～３㎜赤褐色スコリア少量。

２層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、
径１～６㎜赤褐色スコリア少量。



１層　暗褐色土　栗色土層類似。粘性・締まり有、
径１～３㎜橙色スコリア少量。

２層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、
径１～３㎜橙色スコリア少量。



第27図　21～24号土坑

断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

23号土坑（第27図）

本遺構は、５区AF－３・４グリッドに位置し、標高306～305.5mの谷部緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南東へ３ｍのところに７号集石、東へ６ｍのところに51号土坑が位置している。

平面形は不整円形を呈し、長軸84cm、短軸80cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、28cmを測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北を示す。

埋土は２層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土は、富士黒色土層に由来する土が主体である。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

24号土坑（第27図）

本遺構は、６区AF－13グリッドに位置し、標高298～297.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南東へ４ｍのところに36号土坑、東へ５ｍのところに39号土坑が位置している。

平面形は不整円形を呈し、長軸140cm、短軸130cmを測る。底面は掘削時に掘りすぎたため、推定ラインを平面図・断面図で表現している。遺構検出面からの最大深度は、60cm前後と思われる。底面はやや円味を帯びるが、概ね平坦な面と思われる。主軸方位は、北東を示す。

埋土は２層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層は、富士黒色土層に由来する土が主体である。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

25号土坑（第28図）

本遺構は、５区AE－５グリッドに位置し、標高305.5mの谷部緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南西に15号土坑、東に30号土坑が隣接している。

平面形は長楕円形を呈し、長軸178cm、短軸68cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、30cmを測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、東を示す。

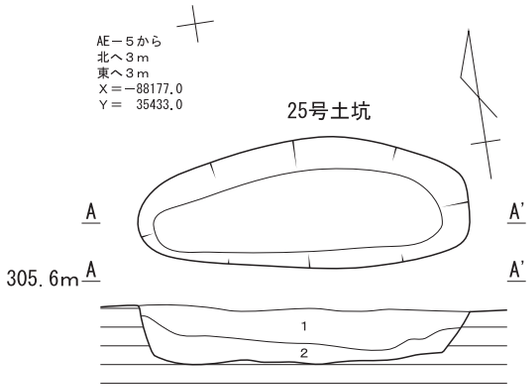
埋土は２層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層では、富士黒色土層に由来する土が堆積している。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

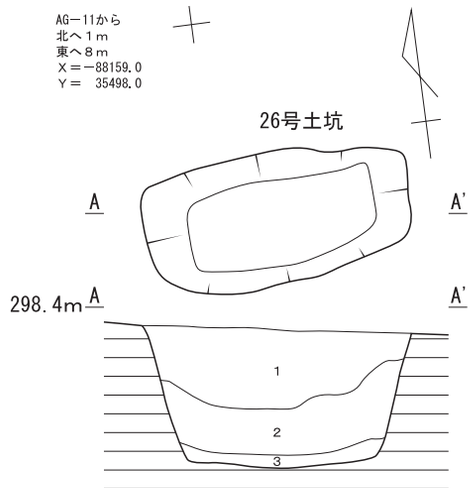
26号土坑（第28図）

本遺構は、６区AG･AF－11グリッドに位置し、標高298.5～298mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から西に38号土坑、北西に17号土坑が隣接している。

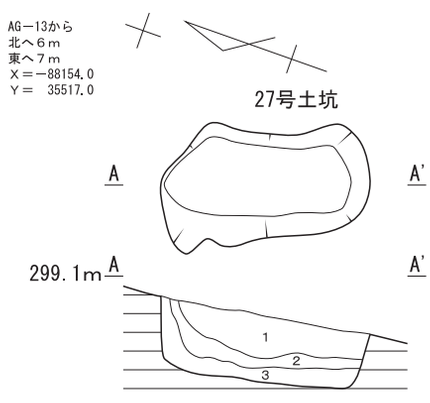
平面形は隅丸長方形を呈し、長軸144cm、短軸70cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、74cmを測る。



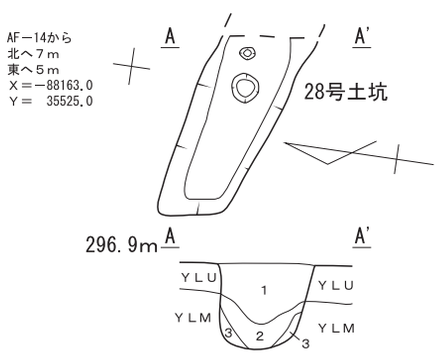
１層　暗褐色土　　粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。



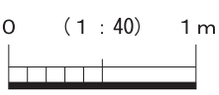
１層　暗褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
３層　褐色土　　粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。



１層　褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
３層　褐色土　　漸移層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。



１層　暗褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。
３層　褐色土　　粘性有、締まり無、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。



第28図　25～28号土坑

底面は、概ね平坦である。主軸方位は、東を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層では、富士黒色土層に由来する土が堆積している。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

27号土坑（第28図）

本遺構は、６区AG－13グリッドに位置し、標高299 ～ 298.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から東へ４ｍのところに37号土坑、南へ３ｍのところに20号土坑が位置している。

平面形は不整長方形を呈し、長軸112㎝、短軸64㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､36㎝を測る。底面は概ね平坦であるが、南へやや下方勾配する。本遺構の北東から東側上部の壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、北東を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、主に北からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層は、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第３層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

28号土坑（第28図）

本遺構は、６区AF－14グリッドに位置し、標高297 ～ 296.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。本遺構の東側は、確認調査時のTP24の掘削により遺失している。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南に49・50号土坑が隣接している。

平面形は、隅丸長方形を呈すると思われる。規模は、長軸100㎝（遺存値）、短軸46㎝を測る。遺構検出面から底面までの最大深度は、46㎝を測る。底面はやや円味を帯びるが、概ね平坦である。底面を精査した結果、小穴を２つ検出した。一番東に位置する小穴は径６～８㎝で、底面からの深さは10㎝を測る。もう一方の小穴は径14 ～ 16㎝で、底面からの深さは31㎝を測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北東を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層は、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第３層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。

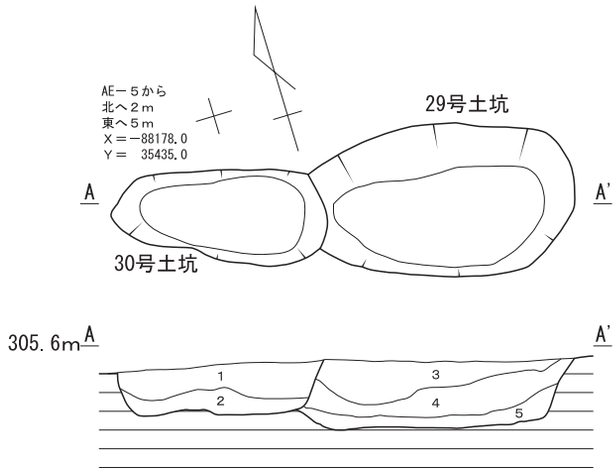
遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

29号土坑（第29図）

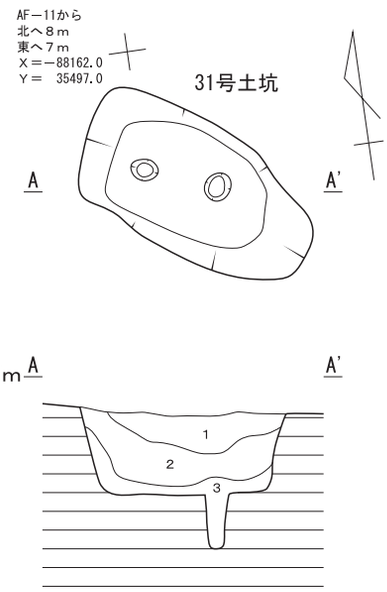
本遺構は、５区AE－５グリッドに位置し、標高305.5mの谷部緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。西隣に位置する30号土坑とは重複関係にあり、本遺構の方が古い。本遺構から東に14号土坑が隣接している。

平面形は長楕円形を呈し、長軸約150㎝、短軸82㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､38㎝を測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北東を示す。

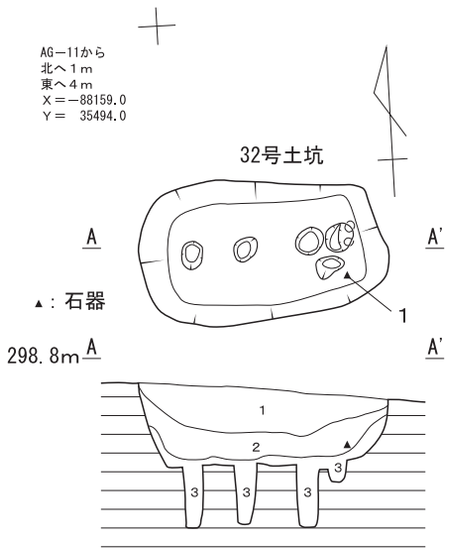
29・30号土坑の埋土は５層に分けた。第３～５層は29号土坑の埋土である。本遺構の堆積状況はレン



１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少々。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
５層　褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性有、締まり無、径１～４㎜赤褐色スコリア多量。

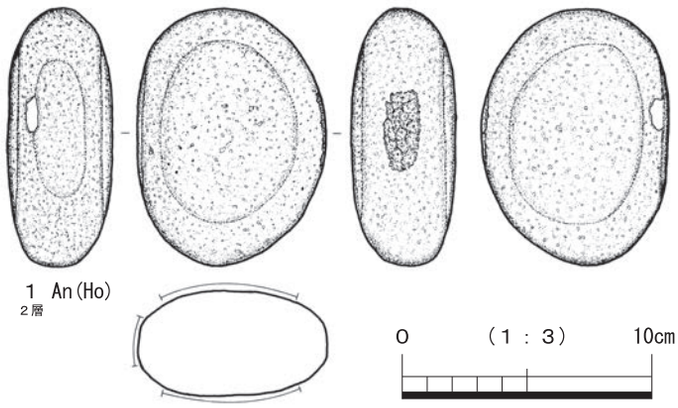


１層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
３層　褐色土　　漸移層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア多量。



１層　褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
３層　褐色土　　粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。

0　（1：40）　1ｍ



第29図　29～32号土坑、32号土坑出土遺物

ズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土は、富士黒色土層に由来する土が主体である。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

30号土坑（第29図）

本遺構は、５区AE－５グリッドに位置し、標高305.5mの谷部緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。東隣に位置する29号土坑とは重複関係にあり、本遺構の方が新しい。本遺構から西に15・25号土坑が隣接している。

平面形は長楕円形を呈し、長軸116cm、短軸50cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、28cmを測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北東を示す。

29・30号土坑の埋土は５層に分けた。第１・２層は30号土坑の埋土である。本遺構の堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土は、富士黒色土層に由来する土が主体である。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

31号土坑（第29図、写真図版２－１）

本遺構は、６区AF－11グリッドに位置し、標高298.5 ～ 298mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から西に７号土坑、南に８号土坑が隣接している。

平面形は不整長楕円形を呈し、長軸134cm、短軸70cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は、44cmを測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、径14 ～ 16cmの小穴を２つ検出した。小穴の深度は、底面から28 ～ 32cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北西を示す。

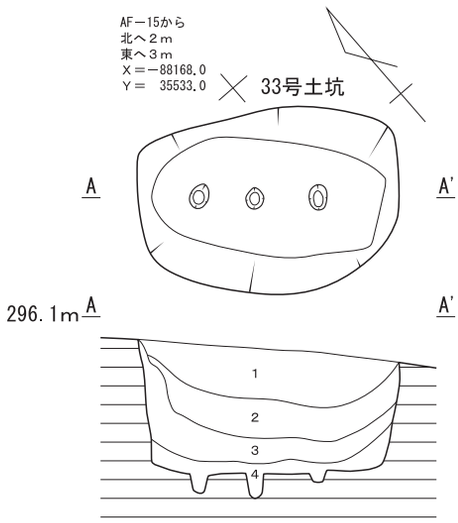
埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第１・２層は、富士黒色土層に由来する土が主体である。第３層は、底面及び２つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

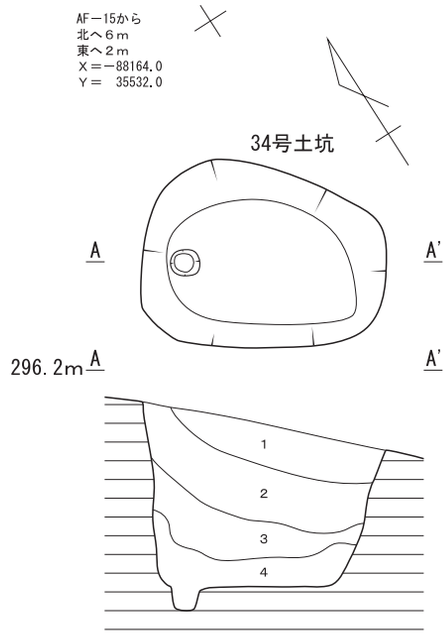
32号土坑（第29図、写真図版２－３、10、11－１）

本遺構は、６区AG･AF－11グリッドに位置し、標高299 ～ 298.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の西側には、１号土坑が隣接している。また本遺構の周囲には17・38・7号土坑が位置している。

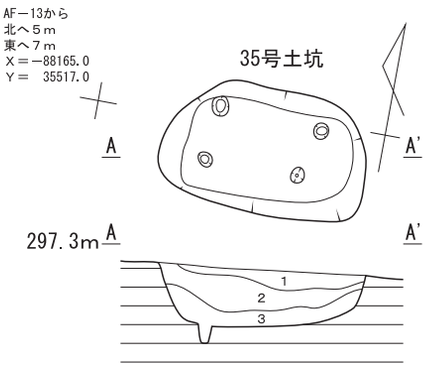
平面形は隅丸長方形を呈し、長軸134cm、短軸78cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は､44cmを測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、東西方向に概ね１列に並ぶ小穴を５つ検出した。一番東端の小穴は、やや斜めに掘削されている。西側２つの小穴は径10 ～ 14cm、東側３つの小穴は径12 ～ 16cmを測る。小穴の深度は、底面から概ね62cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、東を示す。



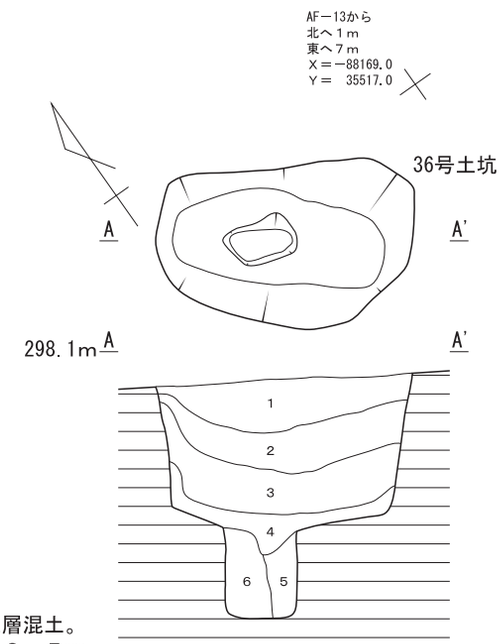
１層　褐色土　　暗褐色土層～栗色土層混土。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。



１層　暗褐色土　　暗褐色土層～栗色土層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
２層　褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
４層　褐色土　　漸移層～休場層上層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。



１層　暗褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
３層　褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。



１層　暗褐色土　　暗褐色土層～栗色土層混土。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
２層　褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～５㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　富士黒色土層類似。粘性有、締まり無、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　　漸移層～休場層上層類似。粘性有、締まり無、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
５層　暗褐色土　　粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。逆茂木か？
６層　褐色土　　漸移層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。

0　（１：40）　１ｍ

第30図　33～36号土坑

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層では、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第３層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われ、底面及び２つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。遺物は、第２層から石器が１点出土している。

第29図1は、角閃石安山岩製の磨石である。素材形状は楕円礫を呈する。正面・裏面・左側面の平坦な面は、触手で確認すると滑らかであり、磨面を呈している。また左側面には、敲打による摩滅や凹凸も確認できる。重量は、517.5ｇである。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

33号土坑（第30図、写真図版２－２）

本遺構は、６区AF－15グリッドに位置し、標高296 ～ 295.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北西へ２ｍのところに34･47号土坑が位置している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸140cm、短軸98cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は､68cmを測る。底面は概ね平坦である。底面を精査した結果、長軸方向に１列に並ぶ小穴を３つ検出した。小穴は、径10 ～ 14cmを測る。小穴の底面からの深度は、北西側から順に10cm、13cm、6cmの深さを測り、深度差が見られる。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北西を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土下部の第３層では、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第４層は周壁の壁壊土と富士黒色土層に由来する土の混土であり、底面及び３つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

34号土坑（第30図）

本遺構は、６区AF－15グリッドに位置し、標高296 ～ 295.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から西へ１ｍのところに47号土坑、南へ２ｍのところに33号土坑が位置している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸130cm、短軸98cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は､94cmを測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、北東壁際付近において、径14 ～ 16cmの小穴を１つ検出した。小穴の深度は、底面から12cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北西を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、北東及び東方向からの自然流入により埋没したと考えられる。第３層では、富士黒色土層の由来土が堆積している。第４層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われ、底面及び小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

35号土坑（第30図、写真図版３－１）

本遺構は、６区AF－13グリッドに位置し、標高297.5 ～ 297mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南へ２ｍのところに39号土坑が位置している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸112cm、短軸66cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は、30cmを測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、径8 ～ 10cmの小穴を４つ検出した。小穴は、四隅を意識して配置されている。小穴の底面からの深度は、一定していない。北西側の小穴は17cm、北東側の小穴は６cm、南西側の小穴は10cm、南東側の小穴は13.5cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、西を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層では、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第３層は底面及び小穴を埋めており、この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

36号土坑（第30図）

本遺構は、６区AF－13グリッドに位置し、標高298 ～ 297.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から東へ１ｍのところに４号土坑、北東へ２ｍのところに39号土坑が位置している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸138cm、短軸88cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は、80cmを測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、径24 ～ 80cmの楕円状の小穴を１つ検出した。小穴の深度は、底面から48cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北西を示す。

埋土は６層に分けた。第１～３層は、レンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入土と考えられる。第３層は、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第４層は漸移層と休場層の混土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。第５・６層は、小穴の埋土である。第５層は暗褐色土を呈し、逆茂木が腐朽し、土壌化したものと思われる。第６層は富士黒色土層と漸移層由来の混土であり、逆茂木を設置した際の掘方埋土と思われる。埋土から遺物は出土していない。

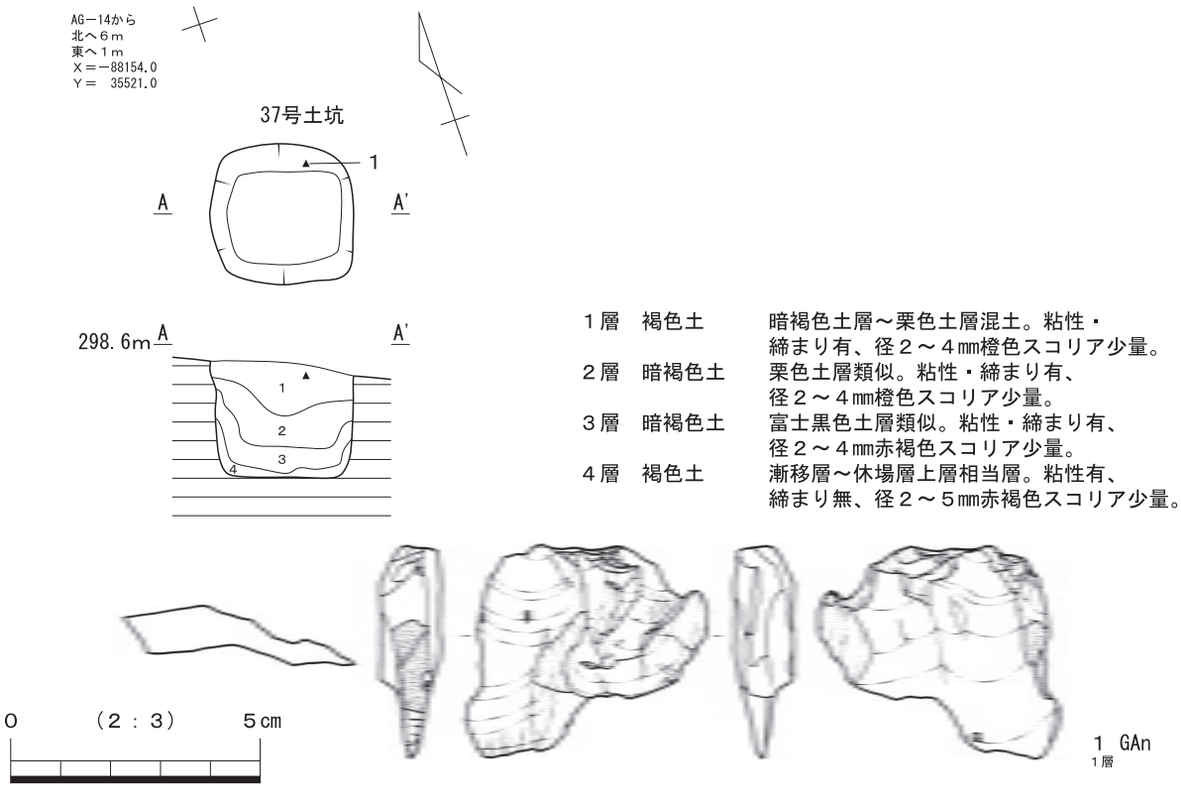
遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

37号土坑（第31図、写真図版10、11－２）

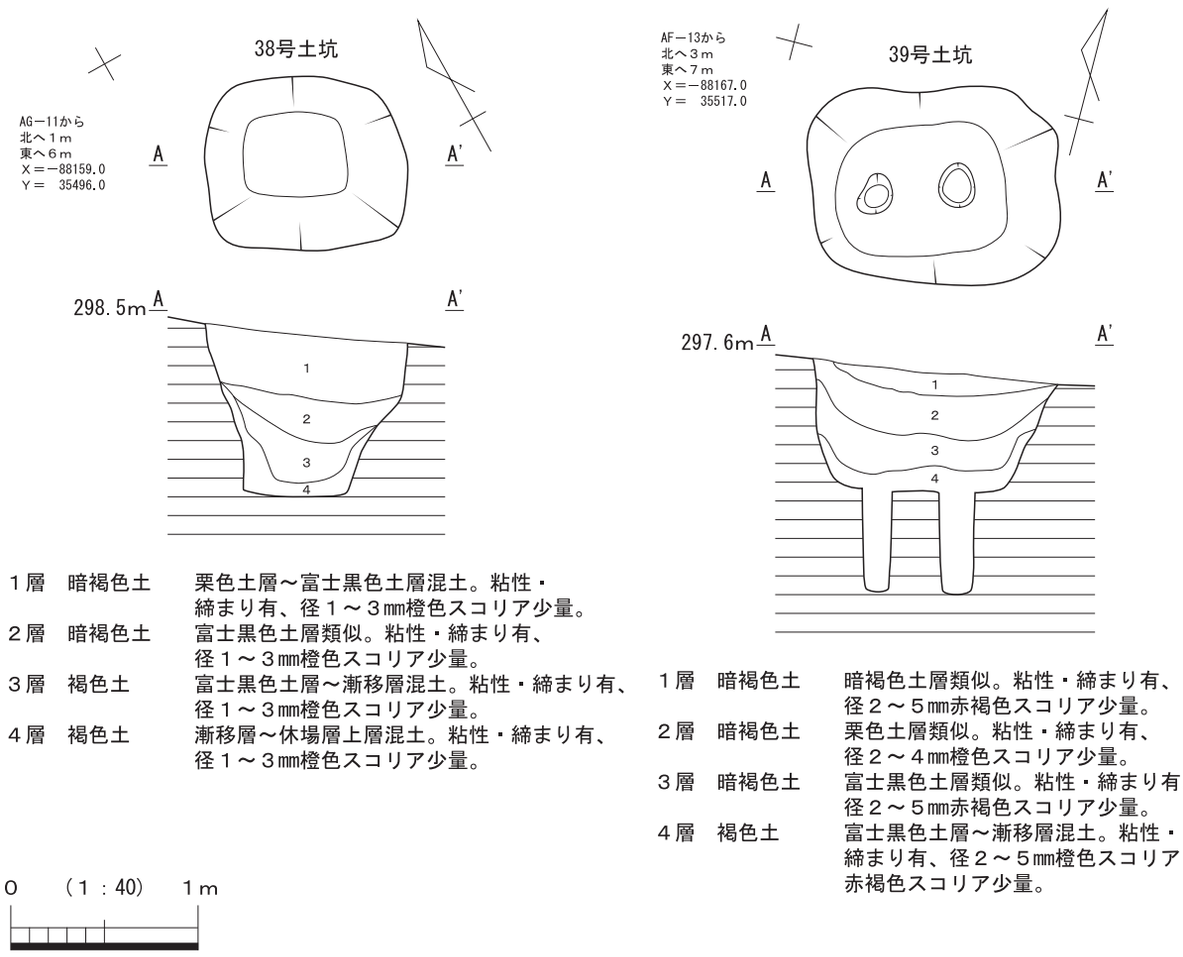
本遺構は、６区AG－14グリッドに位置し、標高298.5 ～ 298mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南へ１ｍのところに61号土坑が位置している。

平面形は隅丸方形を呈し、長軸76cm、短軸74cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は、62cmを測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北東を示す。

埋土は４層に分けた。第１～３層は、レンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入土と考えられる。第３層は、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第４層は漸移層と休場層由来の混土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。遺物は、第１層から石器が１点出土している。第31図１は、



１層　褐色土　暗褐色土層～栗色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　栗色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　漸移層～休場層上層相当層。粘性有、締まり無、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。



１層　暗褐色土　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
３層　褐色土　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
４層　褐色土　漸移層～休場層上層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。

１層　暗褐色土　暗褐色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　栗色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径２～５㎜橙色スコリア・赤褐色スコリア少量。

第31図　37～39号土坑、37号土坑出土遺物

ガラス質黒色安山岩製の不定形剥片である。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

38号土坑（第31図）

本遺構は、６区AG･AF－11グリッドに位置し、標高298.5 ～ 298mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北に17号土坑、東に26号土坑、西に32号土坑が隣接している。

平面形は隅丸方形を呈し、長軸108cm、短軸92cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は､86cmを測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北西を示す。

埋土は４層に分けた。第１～３層は、レンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入土と考えられる。第２・３層は、主に富士黒色土層に由来する土が堆積している。第４層は漸移層と休場層由来の混土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

39号土坑（第31図）

本遺構は、６区AF－13グリッドに位置し、標高297.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南へ１ｍのところに４号土坑、南西へ２ｍのところに36号土坑が位置している。

平面形は隅丸長方形を呈し、長軸134cm、短軸106cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は、66cmを測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、径19 ～ 22cmの小穴を２つ検出した。小穴の深度は、底面から54cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、南西を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第３・４層は、主に富士黒色土層に由来する土が堆積している。第４層は、底面及び２つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

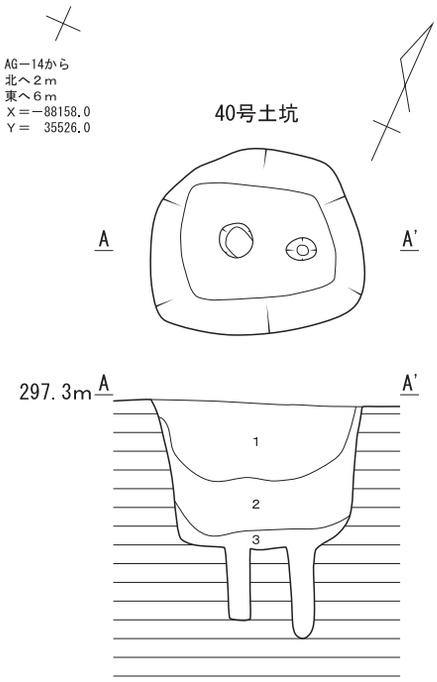
遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

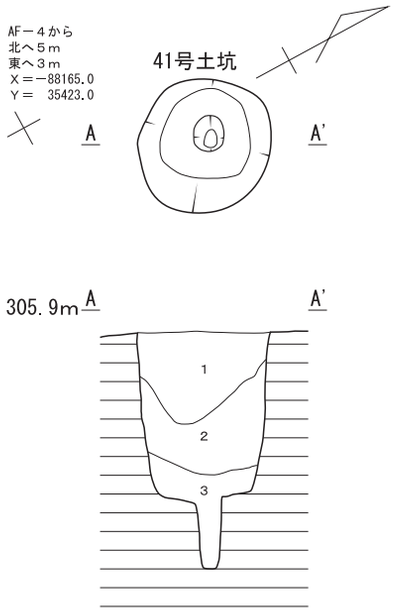
40号土坑（第32図）

本遺構は、６区AG－14グリッドに位置し、標高297.5 ～ 297mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から東へ２ｍのところに22号土坑、北西へ４ｍのところに61号土坑が位置している。

平面形は隅丸長方形を呈し、長軸114cm、短軸98cmを測る。遺構検出面から底面までの最大深度は､66cmを測る。底面は概ね平坦である。底面を精査した結果、小穴を２つ検出した。底面中央に位置する小穴は、径18cmを測り、底面から38cmの深さを測る。東寄りに位置する小穴は、径12 ～ 16cmを測り、底面から49cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北東を示す。

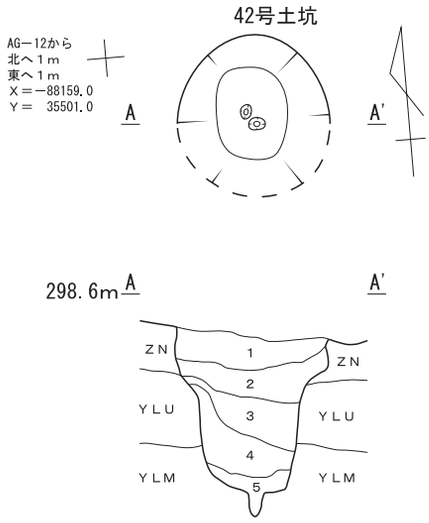
埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えら



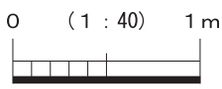


１層　暗褐色土　栗色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
３層　褐色土　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。

１層　褐色土　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。
２層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。
３層　褐色土　富士黒色土層～漸移層混土。粘性有、締まり無、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。



１層　褐色土　栗色土層～富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　栗色土層～富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径５～15㎜暗褐色土塊・径２～５㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　栗色土層～富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
４層　暗褐色土　富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径５～15㎜黄褐色土塊少量。
５層　褐色土　粘性・締まり有、径１～３㎜赤褐色スコリア少量。



第32図　40～42号土坑

れる。第２・３層は、主に富士黒色土層に由来する土が堆積している。第３層は、底面及び２つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

41号土坑（第32図）

本遺構は、５区AF－４グリッドに位置し、標高306 ～ 305.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北西へ９ｍのところに３号土坑、北東へ８ｍのところに58号土坑、南へ５ｍのところに51号土坑が位置している。

平面形は円形を呈し、径70 ～ 72㎝を測る。遺構検出面から底面までの最大深度は､90㎝を測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、径16 ～ 18㎝の小穴を１つ検出した。小穴の深度は、底面から36 ～ 38㎝の深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。長軸の方位は、北西を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層は、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第３層は、底面及び小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

42号土坑（第32図）

本遺構は、６区AG－12グリッドに位置し、標高298.5 ～ 298mの谷部に立地する。谷部に設定した東西トレンチを掘削している過程で、遺構のプランを確認した。遺構検出面は、休場層上面である。本遺構の南半分の上端は、トレンチの掘削作業により削平を受けている。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から西へ２ｍのところに26号土坑、東へ12ｍのところに20・46号土坑が位置している。

平面形は、円形を呈すると思われる。規模は、径82㎝を測る。遺構検出面から底面までの最大深度は、82㎝を測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、径６～８㎝の小穴を２つ検出した。小穴の深度は、底面から11 ～ 12㎝の深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。遺存する長軸の方位は、東西を示す。

埋土は５層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第４層は、富士黒色土層に由来する土が堆積している。第５層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われ、底面及び２つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

43号土坑（第33図、写真図版11－３）

本遺構は、６区AF－14グリッドに位置し、標高296.5 ～ 296mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南東に47号土坑、西に49・50号土坑、南西に48号土坑が隣接している。

平面形は隅丸長方形を呈し、長軸100㎝、短軸46㎝を測る。遺構検出面から底面までの最大深度は､48㎝を測る。底面は、概ね平坦である。北東壁付近では、底面よりも５㎝程高まるテラス部分が確認できる。底面を精査した結果、テラス状の高まり部分において、径12 ～ 16㎝の小穴を１つ検出した。小穴の深度は、底面から53㎝の深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、西を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に富士黒色土層に由来する土は、第１層では栗色土層、第２層では漸移層由来の土（壁壊土）と混土化しており、主体的な堆積状況を示していない。第３層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われ、底面及び小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。遺物は、第１層から石器が１点出土している。

第33図１は、黒曜石製の楔形石器である。素材は縦長剥片を呈する。両極打法により上下端から剥離が生じている。黒曜石は、産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

44号土坑（第33図）

本遺構は、６区AE－14グリッドに位置し、標高297.5 ～ 297mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北へ３ｍのところに48号土坑、南西へ５ｍのところに５号土坑が位置している。

平面形は楕円形を呈し、長軸140㎝、短軸88㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､40㎝を測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北西を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に富士黒色土層に由来する土は、第１・２層で栗色土層に由来する土と混土化しており、主体的な堆積状況を示していない。第３層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われ、底面を埋めている。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

45号土坑（第33図、写真図版10、11－３）

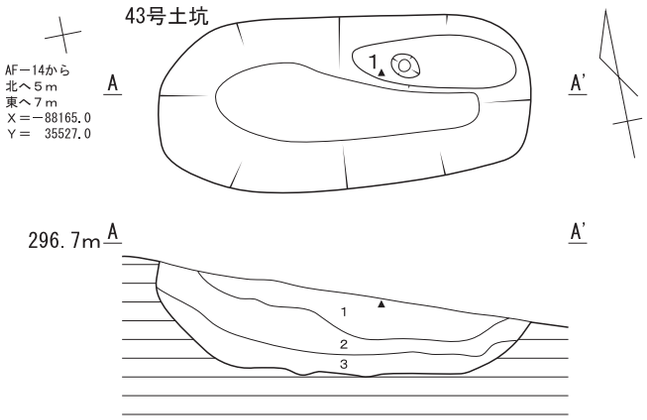
本遺構は、６区AG－14グリッドに位置し、標高297.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北へ２ｍのところに61号土坑が位置している。

平面形は楕円形を呈し、長軸120㎝、短軸70㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､38㎝を測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北西を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に富士黒色土層に由来する土は、第１層では栗色土層、第２層では漸移層由来の土（壁壊土）と混土化しており、主体的な堆積状況を示していない。第３層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われ、底面を埋めている。遺物は、第１層から石器が１点出土している。

第33図２は、黒曜石製の微細剥離のある剥片である。素材は不定形剥片を呈し、裏面上縁と下縁から微細剥離を削出している。黒曜石は、産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。

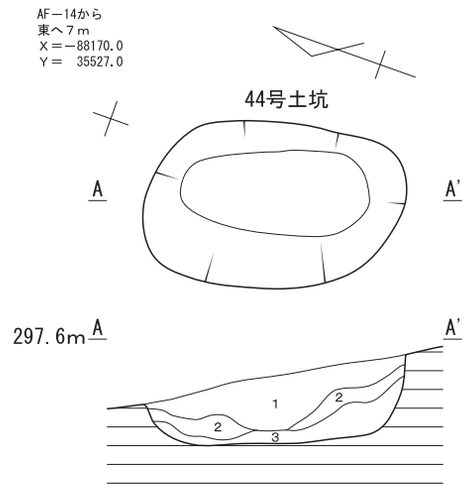
遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判



１層　暗褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。

２層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。

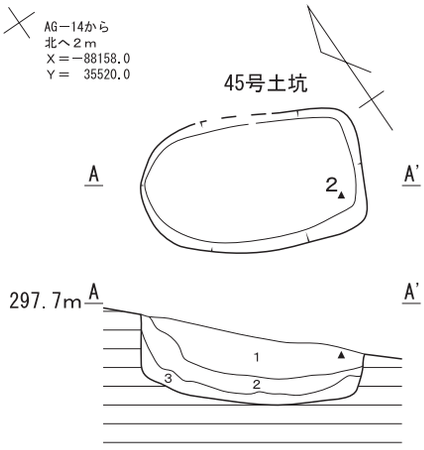
３層　褐色土　　粘性無、締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。



１層　褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。

２層　暗褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。

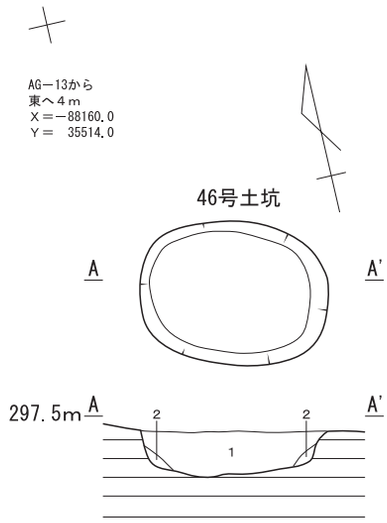
３層　褐色土　　漸移層類似。粘性有、締まり無、径１～４㎜赤褐色スコリア少量。



１層　暗褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。

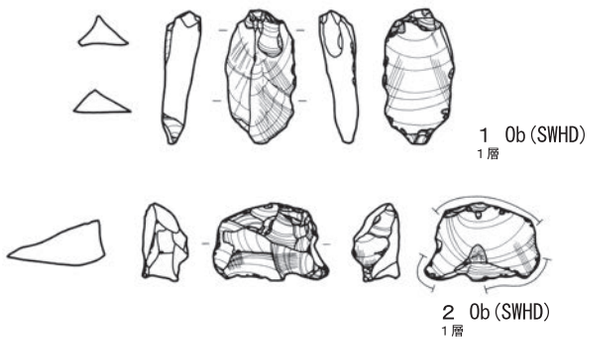
２層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。

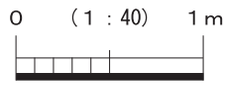
３層　褐色土　　粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア少量。

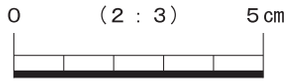


１層　暗褐色土　　栗色土層～富士黒色土層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜橙色スコリア少量。

２層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層類似。粘性・締まり有、径１～４㎜橙色スコリア少量。







第33図　43～46号土坑、43・45号土坑出土遺物

断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

46号土坑（第33図）

本遺構は、６区AF－13グリッドに位置し、標高297.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北へ２ｍのところに20号土坑が位置している。

平面形は楕円形を呈し、長軸102cm、短軸76cmを測る。遺構検出面からの最大深度は､24cmを測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北西を示す。

埋土は２層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。富士黒色土層に由来する土は、第１層で栗色土層、第２層で漸移層由来の土と混土化しており、主体的な堆積状況を示していない。第２層は、周壁の壁壊土との混土を示していると思われる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

47号土坑（第34図）

本遺構は、６区AF－14・15グリッドに位置し、標高296.5 ～ 296mの谷部に立地する。遺構検出面は休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北西に43号土坑、北東に34号土坑が隣接している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸142cm、短軸80cmを測る。遺構検出面からの最大深度は88cmを測る。底面は概ね平坦である。本遺構の壁面上部は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は北西を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。富士黒色土層由来の土は、第１層で栗色土層、第２層で漸移層由来の土と混土化しており、主体的な堆積状況を示していない。第２層は、周壁の壁壊土との混土を示していると思われる。第３・４層は、周壁の壁壊土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。

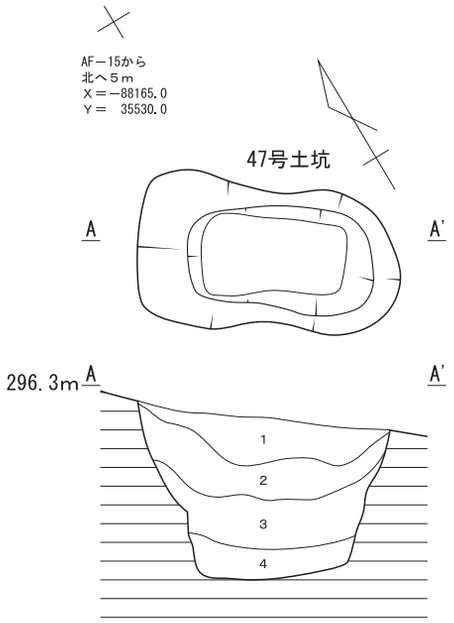
遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

48号土坑（第34図）

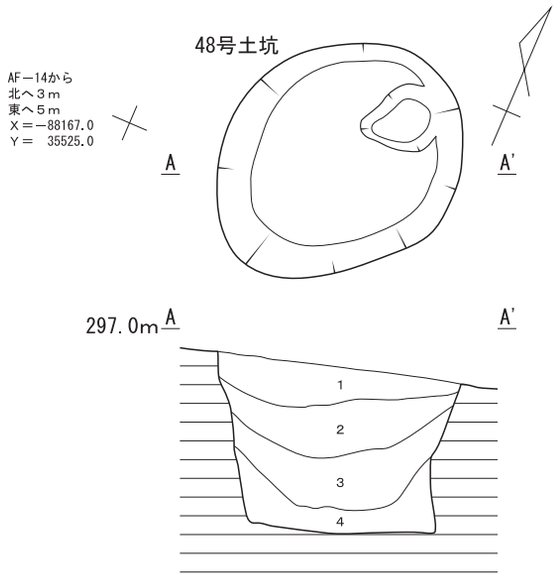
本遺構は、６区AF－14グリッドに位置し、標高297 ～ 296.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から西に12号土坑、北に49・50号土坑、北東に43号土坑が隣接している。

平面形は楕円形を呈し、長軸144cm、短軸122cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、90cmを測る。底面は概ね平坦であるが、北東隅にて径34 ～ 42cmの小穴を１つ検出している。小穴の深度は、底面から28 ～ 30cmの深さを測る。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。６・７･36号土坑の底面で検出した小穴とは、大きさが近似している。主軸方位は、北東を示す。

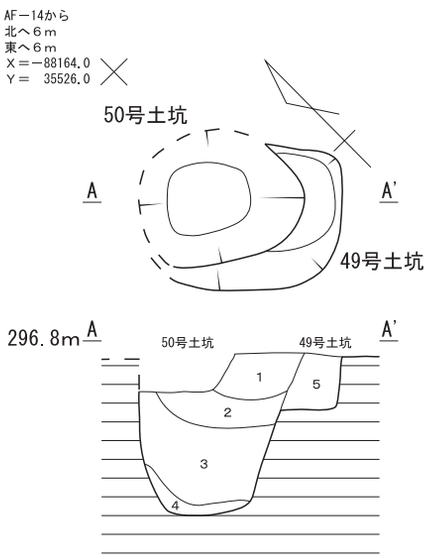
埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。富士黒色土層に由来する土は、第３層で栗色土層、第４層で漸移層由来の土と混土化しており、主体的な堆積状況を示していない。第４層は、周壁の壁壊土との混土を示していると思われる。埋土から遺物は出土していない。



１層　暗褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
３層　褐色土　　漸移層類似。粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア多量。
４層　褐色土　　粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。



１層　暗褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　栗色土層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
４層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。



１層　黒色土　　仙石スコリア層～暗褐色土層混土。粘性無、締まり有、径１㎜白色パミス・径１～２㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　暗褐色土層～栗色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア少量。
４層　暗褐色土　　富士黒色土層～漸移層混土。粘性有、締まり無、径２～４㎜橙色スコリア少量。
５層　褐色土　　漸移層類似。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。

第34図　47～50号土坑

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

49・50号土坑（第34図）

本遺構２基は、６区AF－14グリッドに位置し、標高297 ～ 296.5mの谷部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。本遺構２基は重複関係にあり、49号土坑の方が古い。本遺構２基から北に28号土坑、東に43号土坑、南に48号土坑、南西に12号土坑が隣接している。50号土坑の北西側上部は、調査時の削平により一部遺失している。

49号土坑の平面形は、楕円形ないし隅丸長方形を呈すると思われる。その規模は、長軸92㎝(遺存値)、短軸76㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は、30㎝を測る。底面は、概ね平坦であると思われる。主軸方位は、北西を示す。

50号土坑の平面形は楕円形を呈し、長軸90㎝、短軸36㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は、86㎝を測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北西を示す。

埋土は５層に分けた。第１～４層は50号土坑の埋土であり、堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。富士黒色土層に由来する土は、第３層で栗色土層、第４層で漸移層由来の土と混土化しており、主体的な堆積状況を示していない。第４層は、周壁の壁壊土との混土を示していると思われる。第５層は49号土坑の埋土であるが、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、堆積土の土質から判断すると、おそらく縄文時代早期から前期にかけての所産と考えられる。

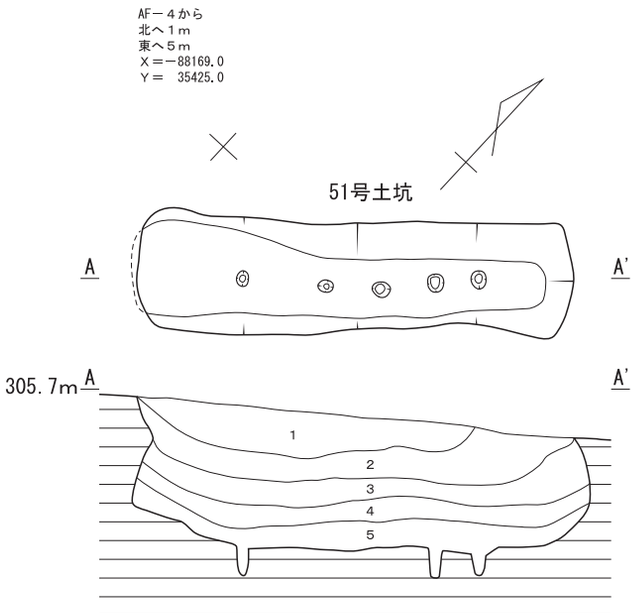
51号土坑（第35図、写真図版３－２）

本遺構は、５区AF－４グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高305 ～ 304.5mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、1.2m程高い位置で確認している。遺構検出面は、暗褐色土層である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南へ２ｍのところに４号集石、東へ１ｍのところに９号土坑が位置している。

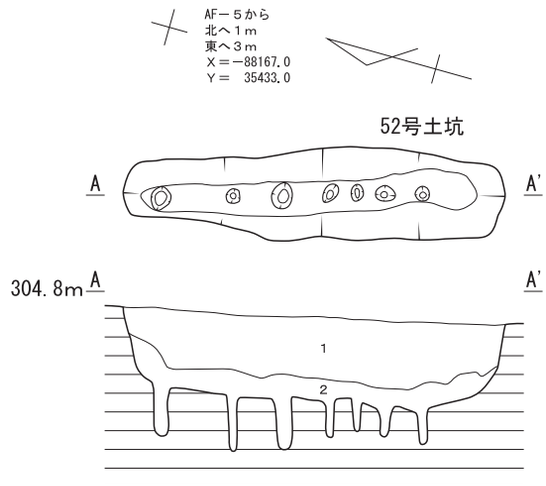
平面形は細い隅丸長方形を呈し、長軸234㎝、短軸64㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､74㎝を測る。南西及び北東の壁面は、オーバーハング気味に立ち上がっている。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、南西－北東方向に概ね１列に並ぶ小穴を５つ検出した。南西側２つの小穴は径６～８㎝、北東側３つの小穴は径８～ 10㎝を測る。底面からの小穴の深度は、南西側から順に、14㎝、14㎝、18㎝、16㎝、12㎝の深さを測り、深度差が見られる。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北東を示す。

埋土は５層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、主に周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。底面及び５つの小穴を埋めている第５層は、栗色土層に由来する土であるが、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

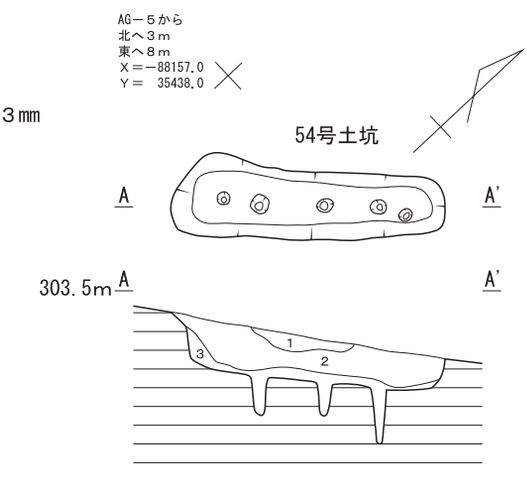
遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、①遺構検出面が暗褐色土層である点、②富士黒色土層に由来する土が堆積していない点から判断して、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。



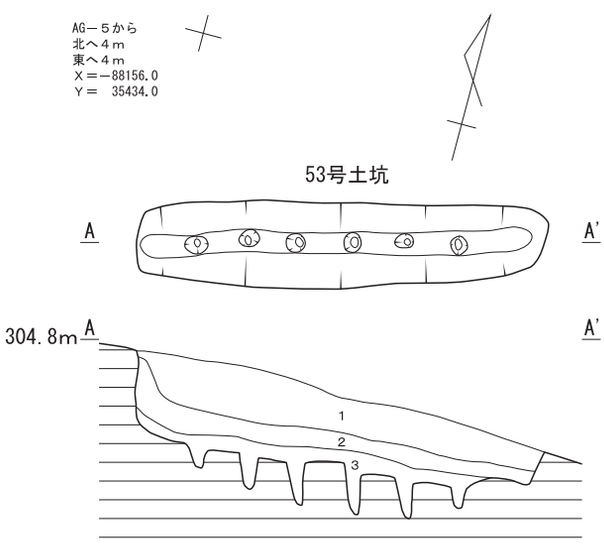
１層　褐色土　　新期スコリア層類似。粘性無、締まり有、径５～10㎜褐色ラピリ少量、径１～３㎜橙色スコリア多量。
２層　暗褐色土　　粘性・締まり無、径５～10㎜褐色ラピリ・径２～５㎜橙色スコリア多量。
３層　暗褐色土　　粘性・締まり無、径１～４㎜焼土粒多量、径１～３㎜炭化物少量。
４層　暗褐色土　　暗褐色土層～栗色土層混土。粘性・締まり有、径１～３㎜橙色スコリア少量。
５層　褐色土　　栗色土層類似。粘性有、締まり無、径１～３㎜橙色スコリア少量。



１層　黒褐色土　　粘性・締まり無、新期スコリア層～カワゴ平パミス層の土・径１㎜白色パミス少量、径３～６㎜黒褐色ラピリ・径１～６㎜橙色スコリア多量。
２層　暗褐色土　　暗褐色土層～栗色土層類似。粘性・締まり無、径１～６㎜橙色スコリア少量。



１層　褐色土　　新期スコリア層類似。粘性無、締まり有、径１～３㎜橙色スコリア多量。
２層　黒褐色土　　砂沢スコリア層～仙石スコリア層混土。粘性無、締まり有、径３～７㎜褐色ラピリ多量、径１～５㎜炭化物・径１～３㎜橙色スコリア少量。
３層　褐色土　　粘性有、締まり無、径５～15㎜黄褐色土塊・径１～３㎜橙色スコリア少量。



１層　褐色土　　仙石スコリア層～カワゴ平パミス層混土。粘性無、締まり有、径３～７㎜褐色ラピリ・径１㎜白色パミス少量、径１～４㎜橙色スコリア多量。
２層　暗褐色土　　暗褐色土層類似。粘性無、締まり有、径１～４㎜橙色スコリア少量。
３層　褐色土　　粘性有、締まり無、径１～４㎜橙色スコリア少量。

第35図　51～54号土坑

52号土坑（第35図、写真図版３－３）

本遺構は、５区AF－５グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高304 ～ 303.5mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、1.2m程高い位置で確認している。遺構検出面は、暗褐色土層である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南に10号集石が隣接し、西へ２ｍのところに９号土坑が位置している。

平面形は細い不整な隅丸長方形を呈し、長軸206cm、短軸48cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、48cmを測る。底面は、概ね平坦である。底面を精査した結果、北西－南東方向に概ね１列に並ぶ小穴を７つ検出した。小穴の規模は、北西側から順に、①径10 ～ 12cm、②径６～８cm、③径10 ～ 12cm、④径６～ 10cm、⑤径６～８cm、⑥径８～ 10cm、⑦径７cmを測る。底面からの小穴の深度は、北西側から順に、①26cm、②29cm、③28cm、④20cm、⑤18cm、⑥16cm、⑦18cmの深さを測り、南東方向に向かうにつれて浅くなる傾向が見られる。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北西を示す。

埋土は２層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層は暗褐色土層に由来する土が主体であり、底面及び７つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、①遺構検出面が暗褐色土層である点、②富士黒色土層に由来する土が堆積していない点から判断して、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。

53号土坑（第35図）

本遺構は、５区AG－５グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高304 ～ 303.5mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、1.3m程高い位置で確認している。遺構検出面は、暗褐色土層である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北西へ１ｍのところに57号土坑、東へ３ｍのところに54号土坑が位置している。

平面形は細い隅丸長方形を呈し、長軸218cm、短軸46cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、46cmを測る。底面は概ね平坦であるが、東へやや下方勾配を呈する。底面を精査した結果、西－東方向に概ね１列に並ぶ小穴を６つ検出した。小穴の規模は、西側から順に、①径10 ～ 12cm、②径10 ～ 11cm、③径10cm、④径９～ 10cm、⑤径６～ 10cm、⑥径９～ 10cmを測る。底面からの小穴の深度は、西側から順に、①10cm、②18cm、③22cm、④24cm、⑤20cm、⑥11cmの深さを測り、真ん中付近の小穴が深くなる傾向にある。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、概ね東を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、主に周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層は暗褐色土層に由来する土が主体である。第３層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われ、底面及び６つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、①遺構検出面が暗褐色土層である点、②富士黒色土層に由来する土が堆積していない点から判断して、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。

54号土坑（第35図）

本遺構は、５区AG－５グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標

高302.5 ～ 302mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、1.4m程高い位置で確認している。遺構検出面は、暗褐色土層である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北へ３ｍのところに11号土坑、西へ３ｍのところに53号土坑が位置している。

平面形は細い隅丸長方形を呈し、長軸146㎝、短軸44㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､26㎝を測る。底面は概ね平坦であるが、北東へやや下方勾配を呈する。底面を精査した結果、南西－北東方向に概ね１列に並ぶ小穴を５つ検出した。小穴の規模は、南西側から順に、①径６㎝、②径10㎝、③径６～ 10㎝、④径７～８㎝、⑤径６～７㎝を測る。底面からの小穴の深度は、南西側から順に、①12㎝、②20㎝、③18㎝、④30㎝、⑤23㎝の深さを測り、北東側２つの小穴が深くなる傾向にある。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、北東を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、主に周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層では、砂沢スコリア層と仙石スコリア層由来の混土が堆積している。第３層は褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われ、底面及び５つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、①遺構検出面が暗褐色土層である点、②富士黒色土層に由来する土が堆積していない点から判断して、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。

55号土坑（第36図）

本遺構は、５区AD－６グリッドに位置し、標高308.5 ～ 308mの緩斜面に立地する。本遺構は、攪乱土の下から検出している。攪乱土を除去した結果、休場層上面において、遺構のプランを確認した。本遺構の上端は、攪乱により一部削平を受けている。後世の攪乱を受けていなければ、休場層上面よりも高い位置である暗褐色土層より検出されていたと思われる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北東へ６ｍのところに60号土坑が位置している。

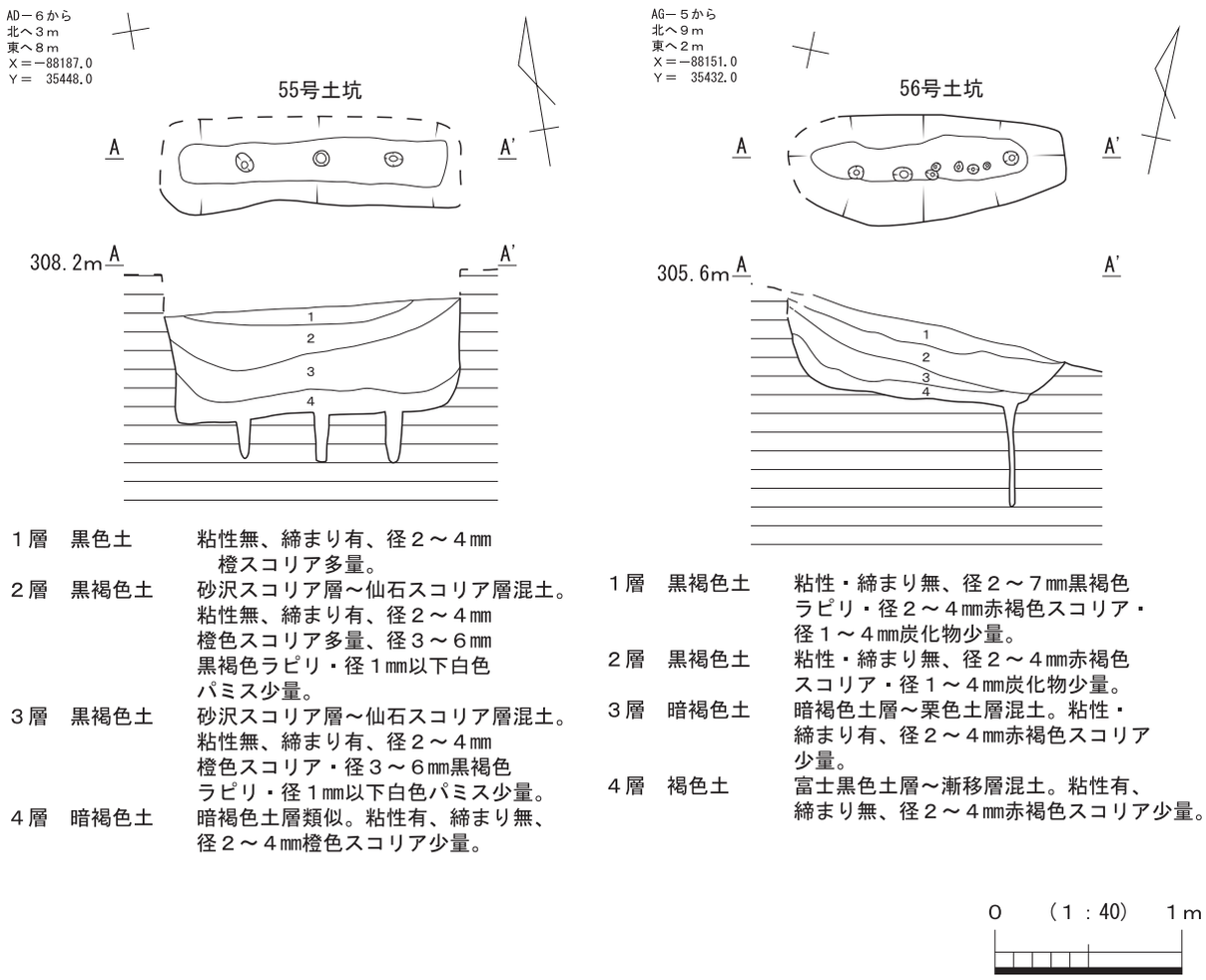
平面形は、細い隅丸長方形を呈すると思われる。規模は、長軸160㎝、短軸50㎝を推定する。遺構検出面からの最大深度は、58㎝を測る。底面は概ね平坦であるが、西へやや下方勾配を呈する。底面を精査した結果、西－東方向に概ね１列に並ぶ小穴を３つ検出した。小穴の規模は、西側から順に、①径８～ 11㎝、②径８㎝、③径７～９㎝を測る。底面からの小穴の深度は、西側から順に、①21㎝、②26㎝、③28㎝の深さを測り、東方向に小穴が徐々に深くなる傾向にある。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、概ね東を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２・３層では、砂沢スコリア層と仙石スコリア層由来の混土が堆積している。第４層は暗褐色土層に由来する土であり、底面及び３つの小穴を埋めている。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、①暗褐色土層に由来する土が底面を埋めている点、②富士黒色土層に由来する土が堆積していない点から判断して、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。

56号土坑（第36図）

本遺構は、５区AG－５グリッドに位置し、標高305.5 ～ 305mの谷部緩斜面に立地する。本遺構は、攪乱土の下から検出している。攪乱土を除去した結果、休場層上面において、遺構のプランを確認した。本遺構西側の上端は、攪乱により削平を受けている。後世の攪乱を受けていなければ、休場層上面より



１層　黒色土　粘性無、締まり有、径２～４㎜橙スコリア多量。
２層　黒褐色土　砂沢スコリア層～仙石スコリア層混土。粘性無、締まり有、径２～４㎜橙色スコリア多量、径３～６㎜黒褐色ラピリ・径１㎜以下白色パミス少量。
３層　黒褐色土　砂沢スコリア層～仙石スコリア層混土。粘性無、締まり有、径２～４㎜橙色スコリア・径３～６㎜黒褐色ラピリ・径１㎜以下白色パミス少量。
４層　暗褐色土　暗褐色土層類似。粘性有、締まり無、径２～４㎜橙色スコリア少量。

１層　黒褐色土　粘性・締まり無、径２～７㎜黒褐色ラピリ・径２～４㎜赤褐色スコリア・径１～４㎜炭化物少量。
２層　黒褐色土　粘性・締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア・径１～４㎜炭化物少量。
３層　暗褐色土　暗褐色土層～栗色土層混土。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。
４層　褐色土　富士黒色土層～漸移層混土。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア少量。

第36図　55・56号土坑

も高い位置である暗褐色土層より検出されていたと思われる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南へ３ｍのところに57号土坑、南東へ４ｍのところに11号土坑が位置している。

平面形は不整な隅丸長方形を呈し、長軸148㎝（遺存値）、短軸58㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は、46㎝を測る。底面は概ね平坦であるが、東へやや下方勾配を呈する。底面を精査した結果、西－東方向に概ね１列に並ぶ小穴を８つ検出した。小穴の規模は、西側から順に、①径６～８㎝、②径７～10㎝、③径４～７㎝、④径４㎝、⑤径４～５㎝、⑥径４～６㎝、⑦径４㎝、⑧径７～８㎝を測る。底面からの小穴の深度は、西側から順に、①24㎝、②50㎝、③30㎝、④14㎝、⑤14㎝、⑥16㎝、⑦８㎝、⑧52㎝の深さを測る。特に西から２本目と８本目の小穴は深い。検出した土坑は陥穴と判断でき、小穴は逆茂木を据えたものと推察される。主軸方位は、概ね東を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、主に西からの自然流入により埋没したと考えられる。第３層では、暗褐色土層と栗色土層由来の混土が堆積している。底面及び８つの小穴を埋めている第４層は、富士黒色土層と漸移層由来の混土であるが、おそらく周壁の壁壊土が堆積したものと思われる。この状況を考慮した場合、逆茂木を引き抜いて、廃絶した可能性が想定できる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし､51 ～ 55号土坑と比較すると、その形態や底面に小穴列を構築する点で、類似性が窺える。本遺構も、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。

57号土坑（第37図）

本遺構は、５区AG－５グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高305 ～ 304.5mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、1.1m程高い位置で確認している。遺構検出面は暗褐色土層（AN）である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北へ３ｍのところに56号土坑、南東へ２ｍのところに53号土坑が位置している。

平面形は隅丸長方形を呈し、長軸196㎝、短軸72㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は114㎝を測る。底面は概ね平坦である。主軸方位は概ね西を示す。

埋土は５層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土下部の第４層は、暗褐色土層に由来する土が堆積している。第５層は、周壁の壁壊土と暗褐色土層由来の土が混土化し、底面を埋めている。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、①遺構検出面が暗褐色土層である点、②富士黒色土層に由来する土が堆積していない点から判断して、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。

58号土坑（第37図）

本遺構は、５区AF－５グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高304mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、１ｍ程高い位置で確認している。遺構検出面は、暗褐色土層である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北へ５ｍのところに57号土坑、南へ５ｍのところに52号土坑が位置している。

平面形は隅丸長方形を呈し、長軸180㎝、短軸72㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は、74㎝を測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、東を示す。

埋土は５層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、主に西からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土上部の第２・３層では、仙石スコリアが含まれている。埋土下部の第４層では、暗褐色土層に由来する土が堆積している。底面を埋めている第５層は、褐色土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。

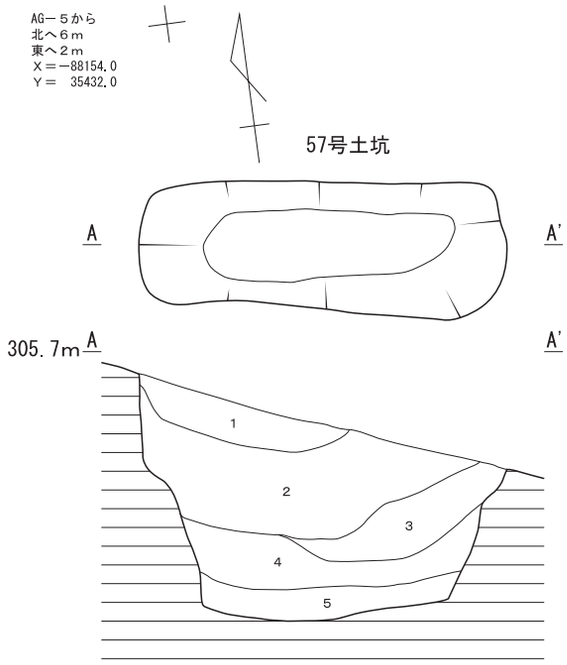
遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、①遺構検出面が暗褐色土層である点、②富士黒色土層に由来する土が堆積していない点から判断して、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。

59号土坑（第37図）

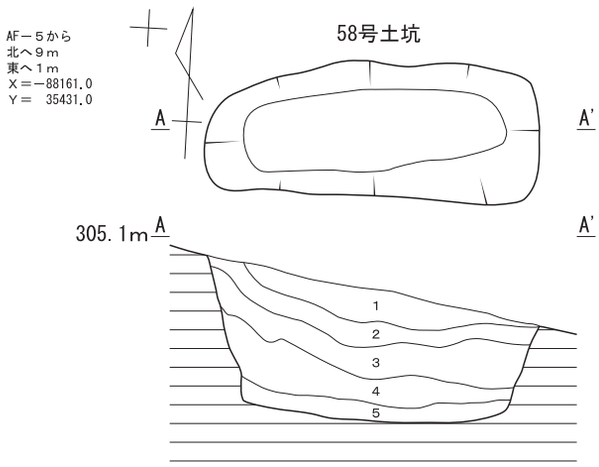
本遺構は、５区AD－７グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高307.5mの斜面部に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、60㎝程高い位置で確認している。遺構検出面は、暗褐色土層である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北西へ４ｍのところに２号土坑、南へ２ｍのところに60号土坑が位置している。

平面形は長楕円形を呈し、長軸162㎝、短軸74㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は、130㎝を測る。北西及び南東の壁面は、オーバーハング気味に立ち上がっている。底面は概ね平坦であるが、西へやや下方勾配を呈する。主軸方位は、北西を示す。

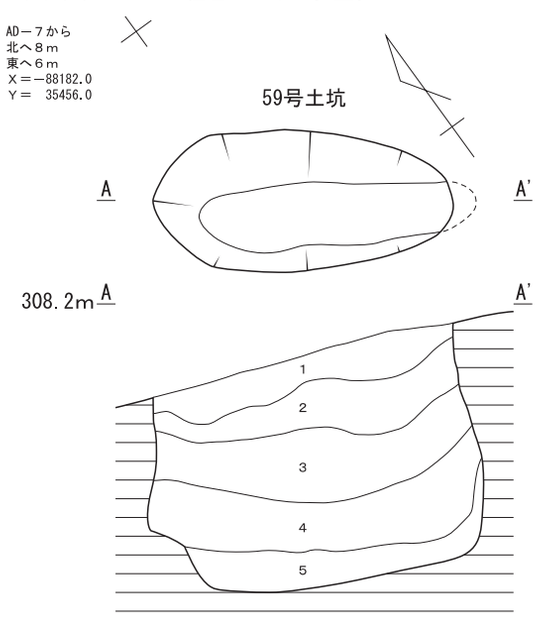
埋土は５層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土上部の第１・２層では、砂沢スコリアが含まれている。埋土下部の第３・４層では、暗褐色土層に由来する土が堆積している。底面を埋めている第５層は、栗色土層と富士黒色土層由来の混土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。



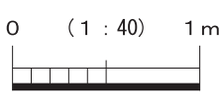
１層　黒褐色土　粘性無、締まり有、径１～６㎜炭化物・径１～３㎜橙色スコリア少量。
２層　褐色土　粘性無、締まり有、径１～６㎜炭化物・径１～３㎜橙色スコリア少量。
３層　黒色土　黒色土層～仙石スコリア層類似。粘性無、締まり有、径３～８㎜褐色ラピリ少量、径１～３㎜橙色スコリア多量。
４層　暗褐色土　暗褐色土層類似。粘性有、締まり無、径３～８㎜褐色ラピリ・径１～３㎜橙色スコリア少量。
５層　褐色土　暗褐色土層～栗色土層混土。粘性有、締まり無、径１～３㎜橙色スコリア少量。



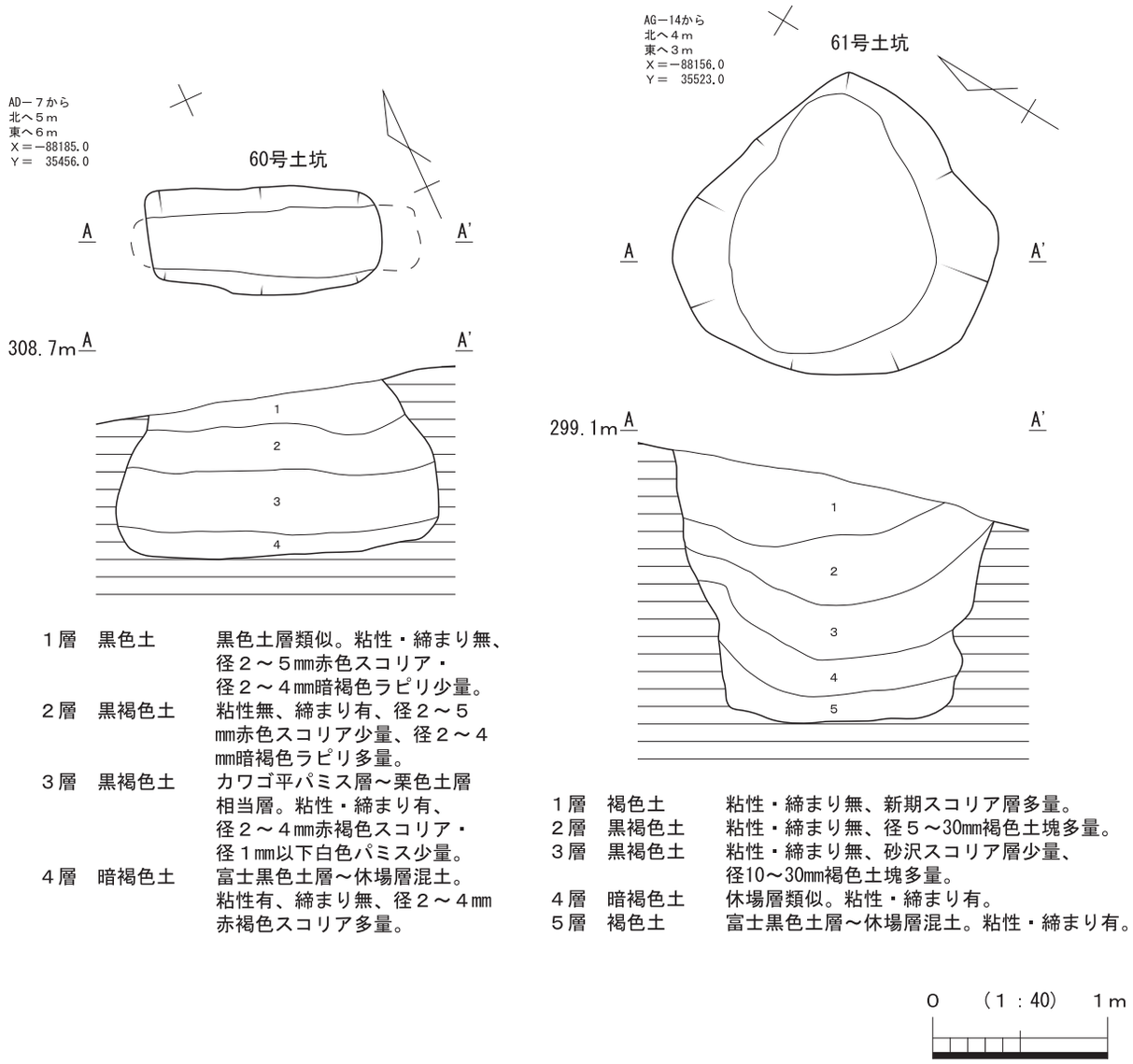
１層　褐色土　砂沢スコリア層～カワゴ平パミス層混土。粘性無、締まり有、径３～７㎜褐色ラピリ・径１㎜白色パミス少量、径２～６㎜橙色スコリア多量。
２層　黒褐色土　仙石スコリア層～黒色土層混土。粘性無、締まり有、径３～７㎜褐色ラピリ・径２～６㎜橙色スコリア多量。
３層　褐色土　仙石スコリア層～暗褐色土層混土。粘性無、締まり有、径３～７㎜褐色ラピリ・径２～６㎜橙色スコリア少量。
４層　暗褐色土　暗褐色土層類似。粘性有、締まり無、径１～３㎜橙色スコリア少量。
５層　褐色土　粘性有、締まり無、径１～３㎜橙色スコリア少量。



１層　褐色土　新期スコリア層～砂沢スコリア層混土。粘性・締まり無、径５～15㎜黒褐色ラピリ・径１～４㎜橙色スコリア多量。
２層　黒褐色土　砂沢スコリア層～黒色土層混土。粘性・締まり無、径５～15㎜黒褐色ラピリ・径１～４㎜橙色スコリア少量、径５～15㎜黄褐色土塊多量。
３層　暗褐色土　暗褐色土層類似。粘性・締まり無。
４層　暗褐色土　暗褐色土層類似。粘性・締まり有。
５層　褐色土　栗色土層～富士黒色土層混土。粘性有、締まり無。



第37図　57～59号土坑



１層　黒色土　黒色土層類似。粘性・締まり無、径２～５㎜赤色スコリア・径２～４㎜暗褐色ラピリ少量。
２層　黒褐色土　粘性無、締まり有、径２～５㎜赤色スコリア少量、径２～４㎜暗褐色ラピリ多量。
３層　黒褐色土　カワゴ平パミス層～栗色土層相当層。粘性・締まり有、径２～４㎜赤褐色スコリア・径１㎜以下白色パミス少量。
４層　暗褐色土　富士黒色土層～休場層混土。粘性有、締まり無、径２～４㎜赤褐色スコリア多量。

１層　褐色土　粘性・締まり無、新期スコリア層多量。
２層　黒褐色土　粘性・締まり無、径５～30㎜褐色土塊多量。
３層　黒褐色土　粘性・締まり無、砂沢スコリア層少量、径10～30㎜褐色土塊多量。
４層　暗褐色土　休場層類似。粘性・締まり有。
５層　褐色土　富士黒色土層～休場層混土。粘性・締まり有。

第38図　60・61号土坑

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、遺構検出面が暗褐色土層である点から判断して、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。

60号土坑（第38図）

本遺構は、５区AD－７グリッドに位置し、標高308.5 ～ 308mの斜面部に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北へ２ｍのところに59号土坑、南西へ６ｍのところに55号土坑が位置している。

平面形は隅丸長方形を呈し、長軸134㎝、短軸62㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､96㎝を測る。北西及び南東の壁面は、オーバーハング気味に立ち上がっている。底面は概ね平坦であるが、西へやや下方勾配を呈する。主軸方位は、概ね西を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土下部の第３層では、カワゴ平パミスが含まれている。底面を埋めている第４層は、富士黒色土層と休場層由来の混土であり、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。この状況を考慮した場合、本遺構は、本来検出面よりも高い位置で構築されていたものと理解できる。59号土坑と形態的特徴

が類似している点から判断して、本来は暗褐色土層中において構築されていたものと考えられる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、埋土下位の第３層中にカワゴ平パミスが含まれる点を考慮すると、おそらく縄文時代後期の所産と考えられる。

61号土坑（第38図）

本遺構は、６区AG－14グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高298mの谷部に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、1m程高い位置で確認している。遺構検出面は、暗褐色土層である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から北へ１ｍのところに37号土坑、南へ２ｍのところに45号土坑が位置している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸186㎝、短軸172㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は142㎝を測る。壁面は、オーバーハング状に抉れている部分が確認でき、おそらく崩れた部分と思われる。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北西を示す。

埋土は５層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、主に周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土中位の第３層では、砂沢スコリアが含まれている。埋土下位の第４・５層は、周壁の壁壊土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、①遺構検出面が暗褐色土層である点、②富士黒色土層に由来する土が堆積していない点から判断して、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。

（２）集石（第39～45図）

本遺跡では、集石が12基検出されている。集石は、検出面及びその検出深度幅から判断して、時期差を想定した。

①休場層上面～富士黒土層において検出されるもの（１～４号集石：縄文時代早期）。

②栗色土層において検出されるもの（５～12号集石：縄文時代前期）。

以下、各集石の調査所見を記載する。集石の計測表は、第８表に記載している。

１号集石（第39図、写真図版４－１、10、11－４）

本遺構は６区AF－12グリッドに位置し、標高298～297.5mの谷部緩斜面に立地する。礫は、休場層から漸移層にかけて検出しており、その設置面は休場層上面と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。

集石の構成礫は３点であり、径76㎝の範囲に集まる。構成礫は、大きい礫で16～25㎝、小さい礫で５～10㎝のサイズが利用されている。大きい礫のうち１点は、礫石器である。

第39図１は、輝石安山岩製の石皿である。素材形状は亜角礫を呈する。実測図正面の平坦な面は、磨面を呈し、触手で確認すると滑らかである。重量は、6,680ｇである。出土状況では、実測図裏面の方を上にして出土している。

遺構の帰属時期は、休場層上面から漸移層にかけて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代早期の所産と思われる。ちなみに本遺構から北東へ12mの地点（AG－13）では、漸移層から早期の撚糸文土器（第48図１・２）が出土している。

２号集石（第39図）

本遺構は、５区AE－４グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高305.5 ～ 305mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、40cm程高い位置で確認している。礫は、富士黒色土層から検出しており、その設置面は富士黒色土層下部付近と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の周囲には、北に７号集石、東に４号集石が位置している。

集石の構成礫は４点であり、径93cmの範囲に集まる。構成礫は、大きい礫で20 ～ 41cm、小さい礫で10 ～ 14cmのサイズが利用されている。

遺構の帰属時期は、富士黒色土層下部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代早期の所産と思われる。

３号集石（第40図）

本遺構は、５区AE－４・５グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高305.5 ～ 305mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、20cm程高い位置で確認している。礫は、富士黒色土層から検出しており、その設置面は富士黒色土層下部付近と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の周囲には、北西に８・９号集石が位置している。

集石の構成礫は６点であり、径86cmの範囲に集まる。構成礫は、大きい礫で12 ～ 15cm、小さい礫で８～ 11cmのサイズが利用されている。

遺構の帰属時期は、富士黒色土層下部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代早期の所産と思われる。

４号集石（第40図）

本遺構は５区AE－４グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高305 ～ 304.5mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、45cm程高い位置で確認している。礫は、富士黒色土層から検出しており、その設置面は富士黒色土層下部付近と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の周囲には、西に２・７号集石、北東に11号集石、南から南東に８・９号集石が位置している。

集石の構成礫は17点であり、径153cmの範囲に集まる。構成礫は、大きい礫で13 ～ 20cm、小さい礫で８～ 11cmのサイズが利用されている。

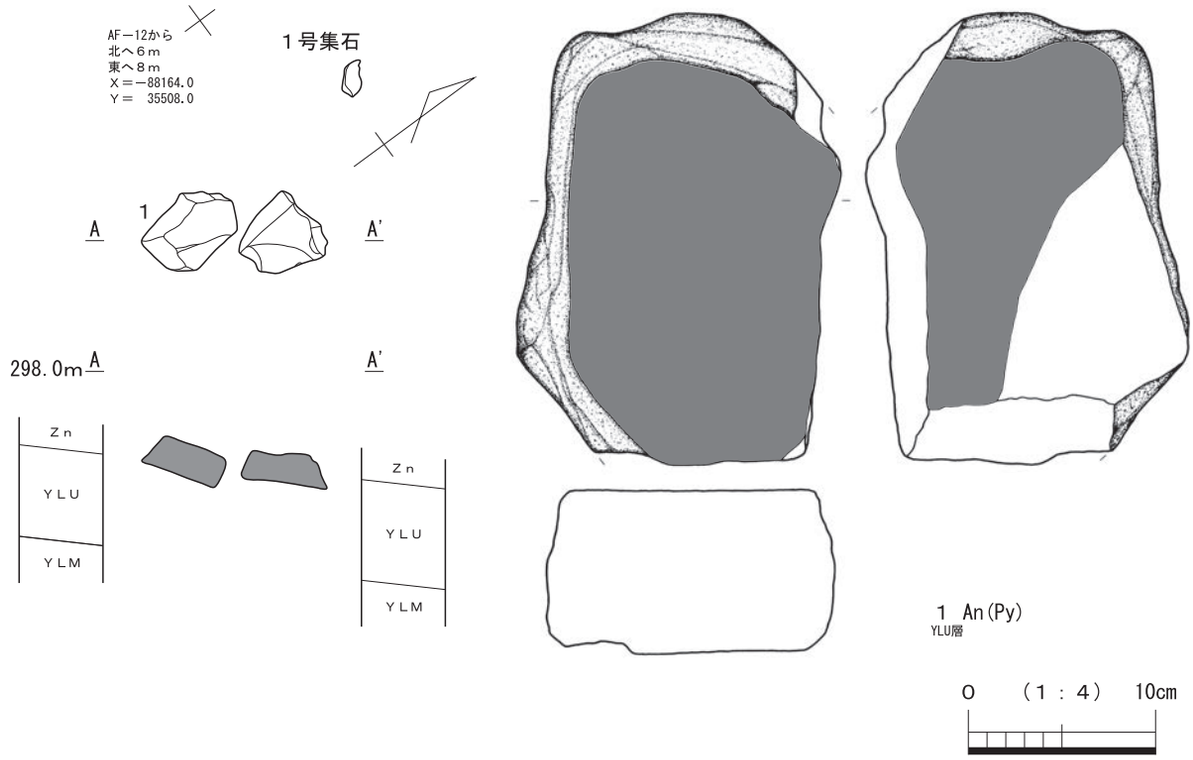
遺構の帰属時期は、富士黒色土層下部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代早期の所産と思われる。

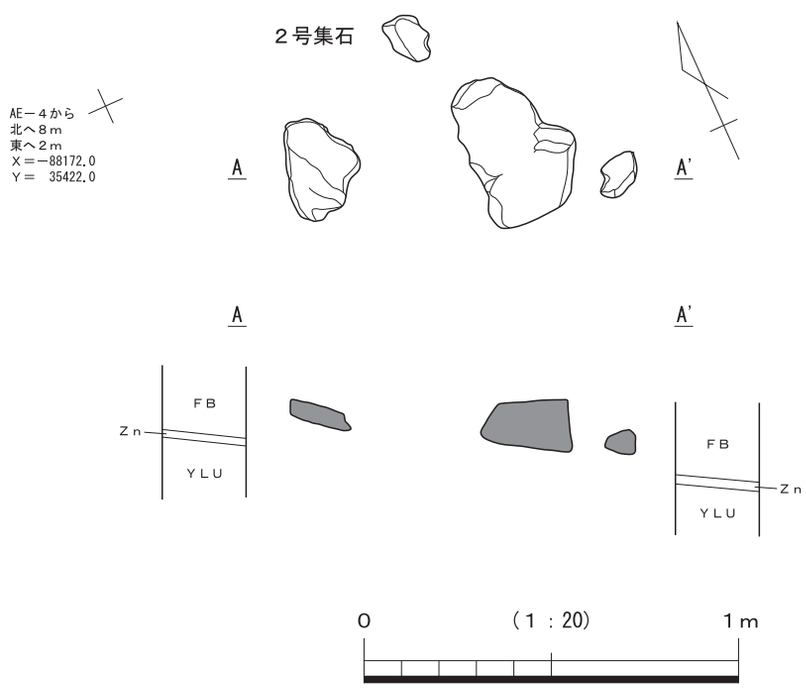
５号集石（第41図）

本遺構は５区AE－３グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高306.5 ～ 306mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、65cm程高い位置で確認している。礫は、栗色土層から検出しており、その設置面は栗色土層下部付近と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の周囲には、北西に６号集石が位置している。

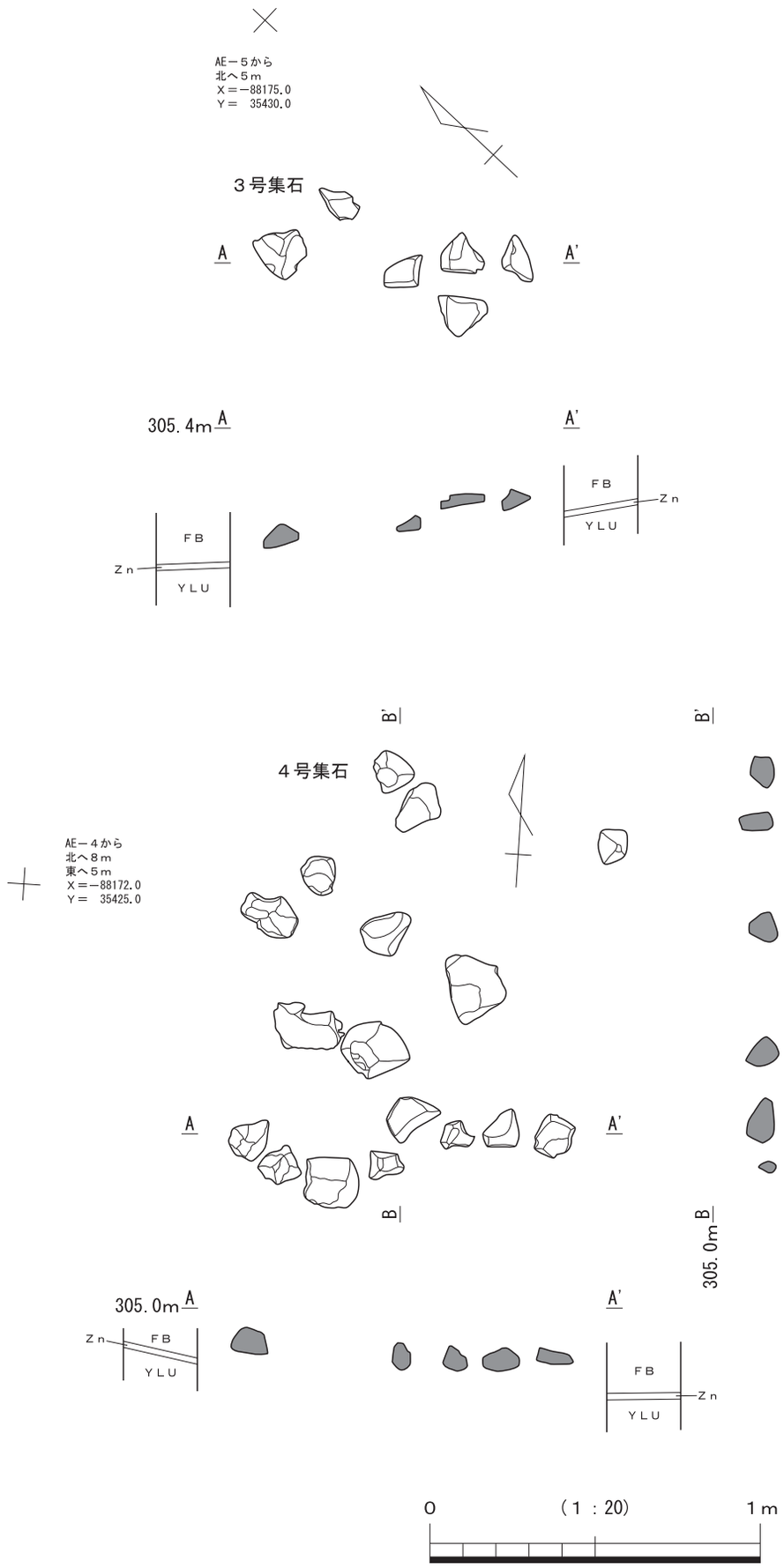
集石の構成礫は22点であり、径99cmの範囲に集まる。構成礫は､26 ～ 41cmの大きい礫が１点、他は５～ 10cmの小さい礫のサイズが利用されている。

遺構の帰属時期は、栗色土層下部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代前期の所産と思われる。

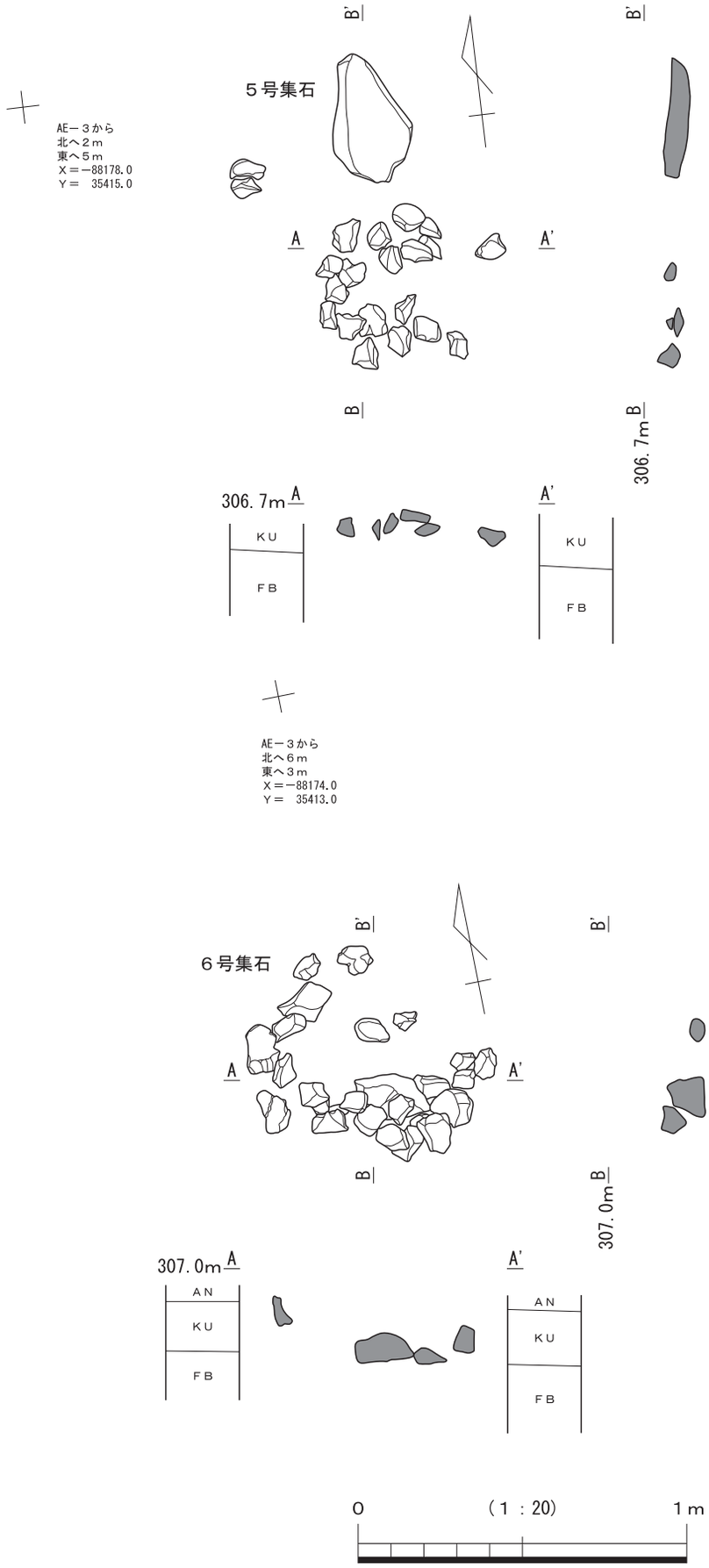




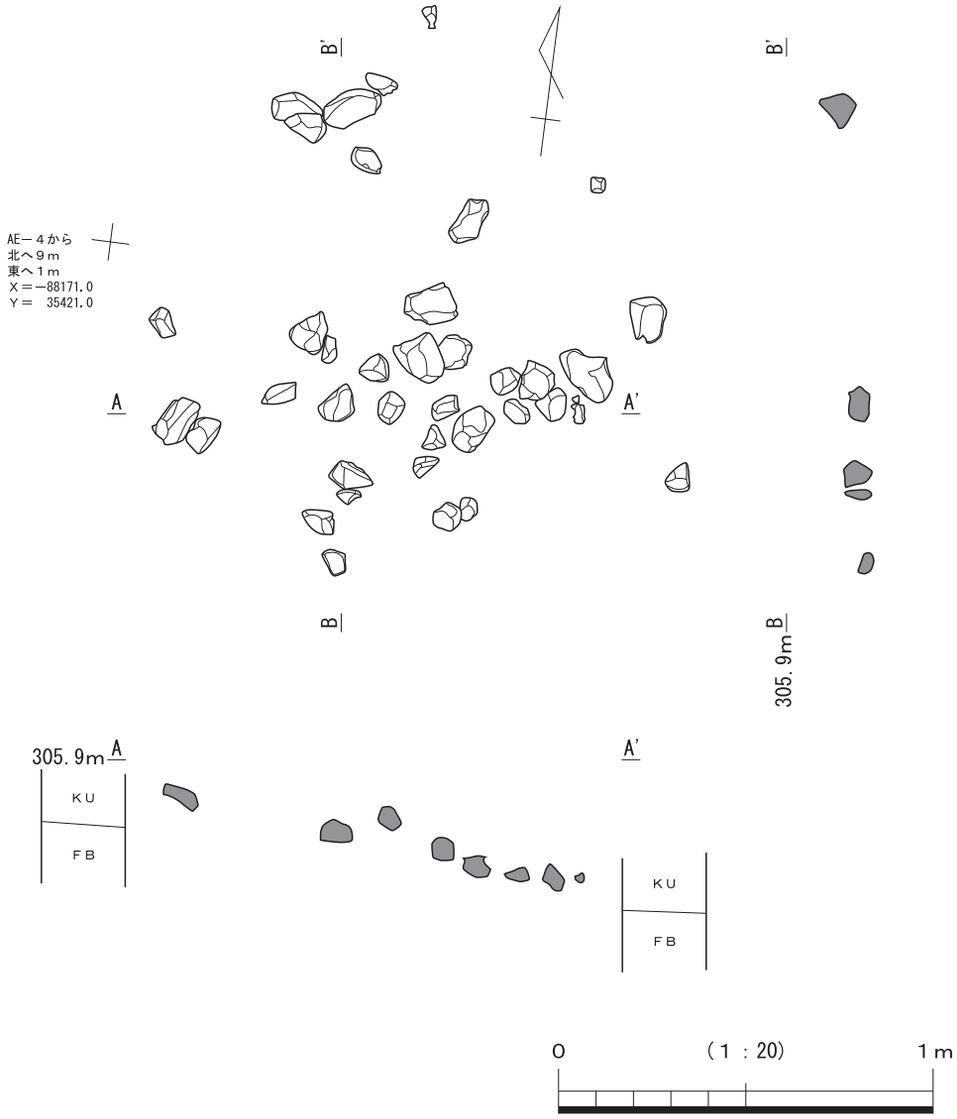
第39図　１・２号集石、１号集石出土遺物


AE－５から
北へ５ｍ
Ｘ＝－88175.0
Ｙ＝　35430.0
３号集石
A
A'
305.4m A
A'
FB
Zn
YLU
FB
Zn
YLU
B'
B'
４号集石
AE－４から
北へ８ｍ
東へ５ｍ
Ｘ＝－88172.0
Ｙ＝　35425.0
A
A'
B
B
305.0m A
A'
305.0m
Zn
FB
YLU
FB
Zn
YLU
0
（１：20）
１ｍ

第40図　３・４号集石


５号集石
AE－３から
北へ２ｍ
東へ５ｍ
Ｘ＝－88178.0
Ｙ＝　35415.0
A
A'
B
B'
306.7m
KU
FB
AE－３から
北へ６ｍ
東へ３ｍ
Ｘ＝－88174.0
Ｙ＝　35413.0
６号集石
307.0m
AN
KU
FB
0
（１：20）
1ｍ

第41図　５・６号集石



第42図　７号集石

６号集石（第41図）

本遺構は５区AE－３グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高306.5mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、40cm程高い位置で確認している。礫は、栗色土層から検出しており、その設置面は栗色土層下部付近と考えられる。位置的には、18号土坑と一部重複関係にある。本遺構は、18号土坑が埋没した後に構築されたものであり、本遺構の方が明らかに新しい。本遺構の周囲には、南東に５号集石が位置している。

集石の構成礫は26点であり、径76cmの範囲に集まる。構成礫は、大きい礫で13～25cm、小さい礫で５～12cmのサイズが利用されている。

遺構の帰属時期は、栗色土層下部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代前期の所産と思われる。

７号集石（第42図）

本遺構は５区AE－４グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高305.5～305mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、80cm程高い位置で確認している。礫

は、栗色土層から検出しており、その設置面は栗色土層下部付近と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の周囲には、南東に２号集石が位置している。

集石の構成礫は39点であり、径141cmの範囲に集まる。構成礫は、大きい礫で９～16cm、小さい礫で３～８cmのサイズが利用されている。

遺構の帰属時期は、栗色土層下部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代前期の所産と思われる。

８号集石（第43図）

本遺構は５区AE－４グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高305.5～305mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、55cm程高い位置で確認している。礫は、栗色土層から検出しており、その設置面は栗色土層下部付近と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の周囲には、北西に２号集石、北に４号集石、北東に９号集石、東に３号集石が位置している。

集石の構成礫は７点であり、径82cmの範囲に集まる。構成礫は、大きい礫で10～14cm、小さい礫で４～９cmのサイズが利用されている。

遺構の帰属時期は、栗色土層下部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代前期の所産と思われる。

９号集石（第43図）

本遺構は５区AE－４グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高305～304.5mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、75cm程高い位置で確認している。礫は、栗色土層から検出しており、その設置面は栗色土層下部付近と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の周囲には、南西に８号集石、西に４号集石、北に11号集石、南東に３号集石が位置している。

集石の構成礫は９点であり、径144cmの範囲に集まる。構成礫は、大きい礫で８～13cm、小さい礫で６～７cmのサイズが利用されている。

遺構の帰属時期は、栗色土層下部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代前期の所産と思われる。

10号集石（第44図）

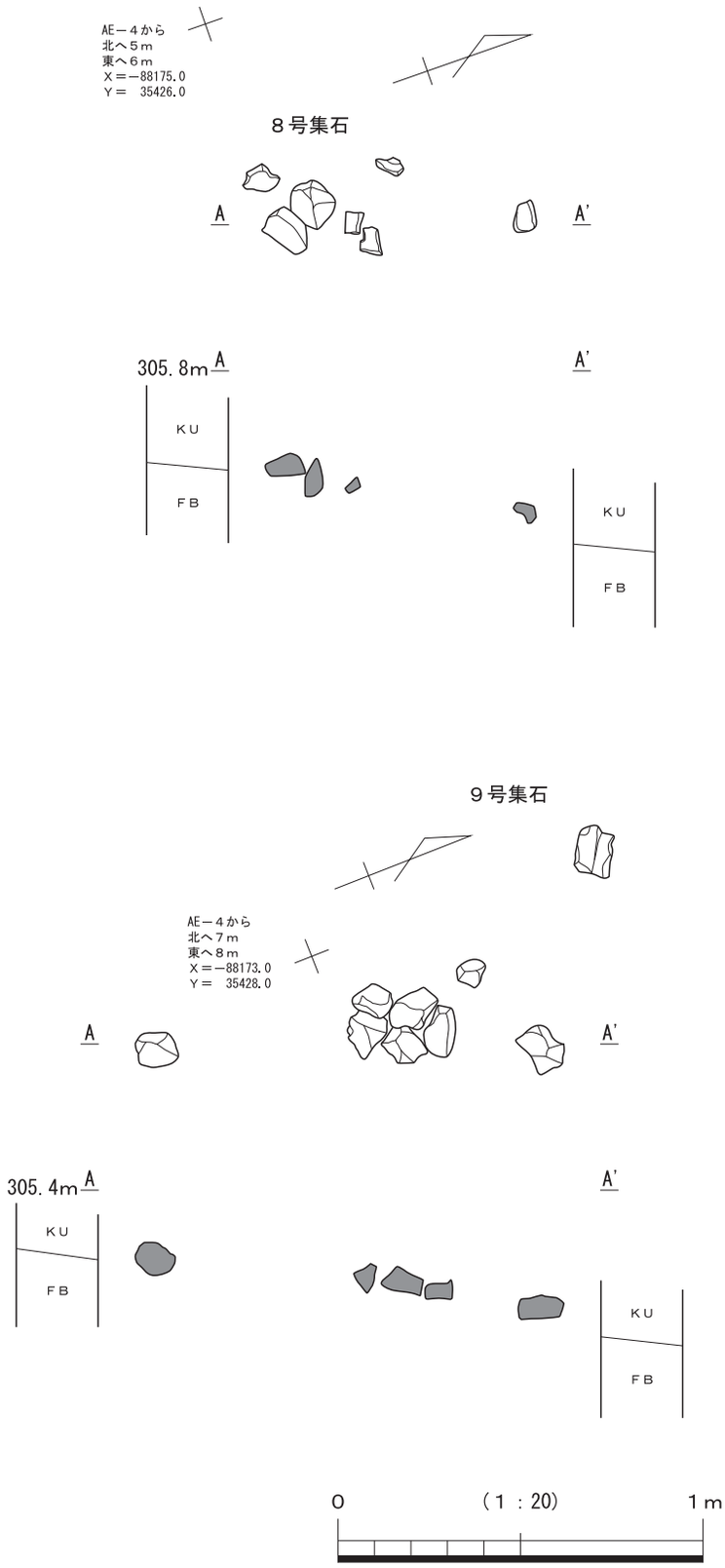
本遺構は５区AF－５グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高304～303.5mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、95cm程高い位置で確認している。礫は、栗色土層から検出しており、その設置面は栗色土層上部付近と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の周囲には、西に11号集石、東に12号集石が位置している。

集石の構成礫は16点であり、径71cmの範囲に集まる。構成礫は、大きい礫で11～14cm、小さい礫で３～９cmのサイズが利用されている。

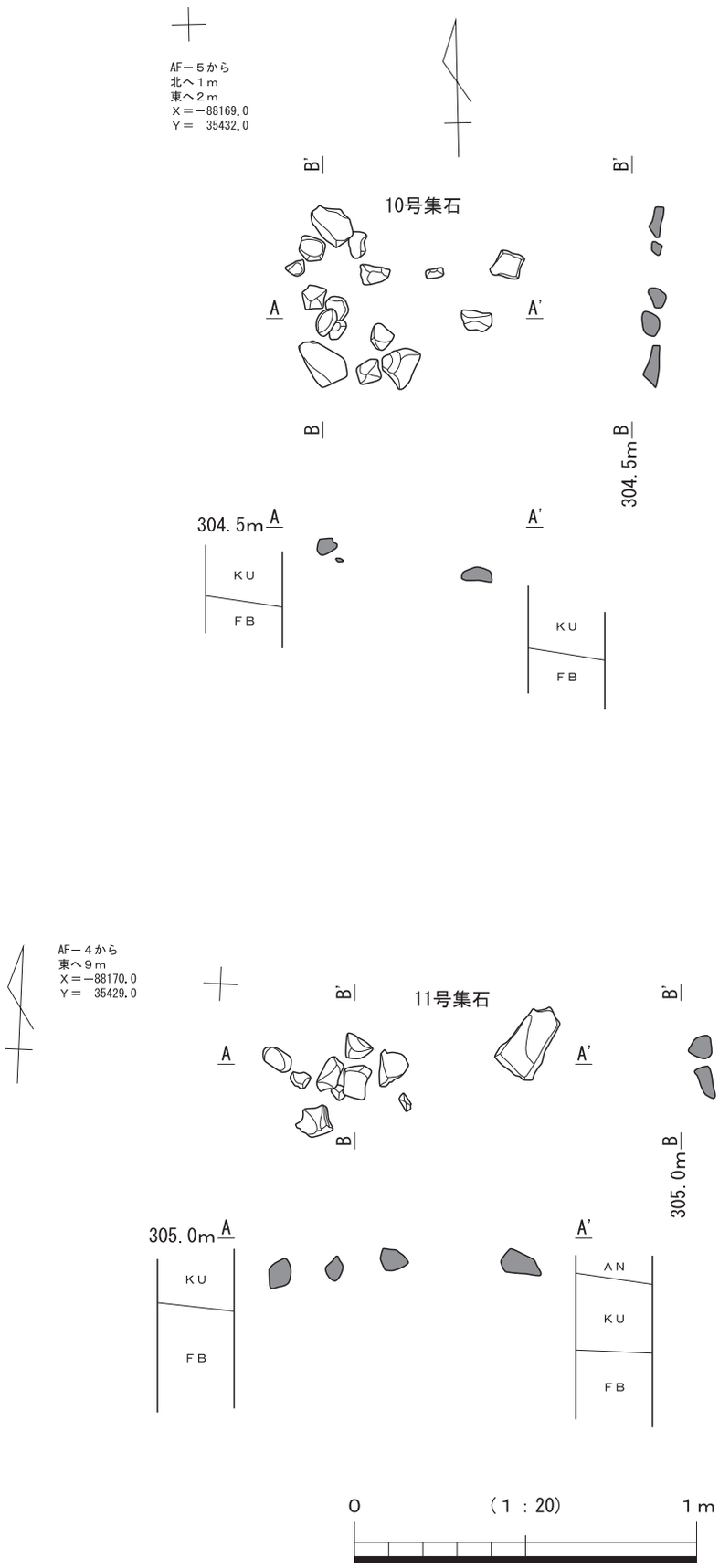
遺構の帰属時期は、栗色土層下部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代前期の所産と思われる。

11号集石（第44図）

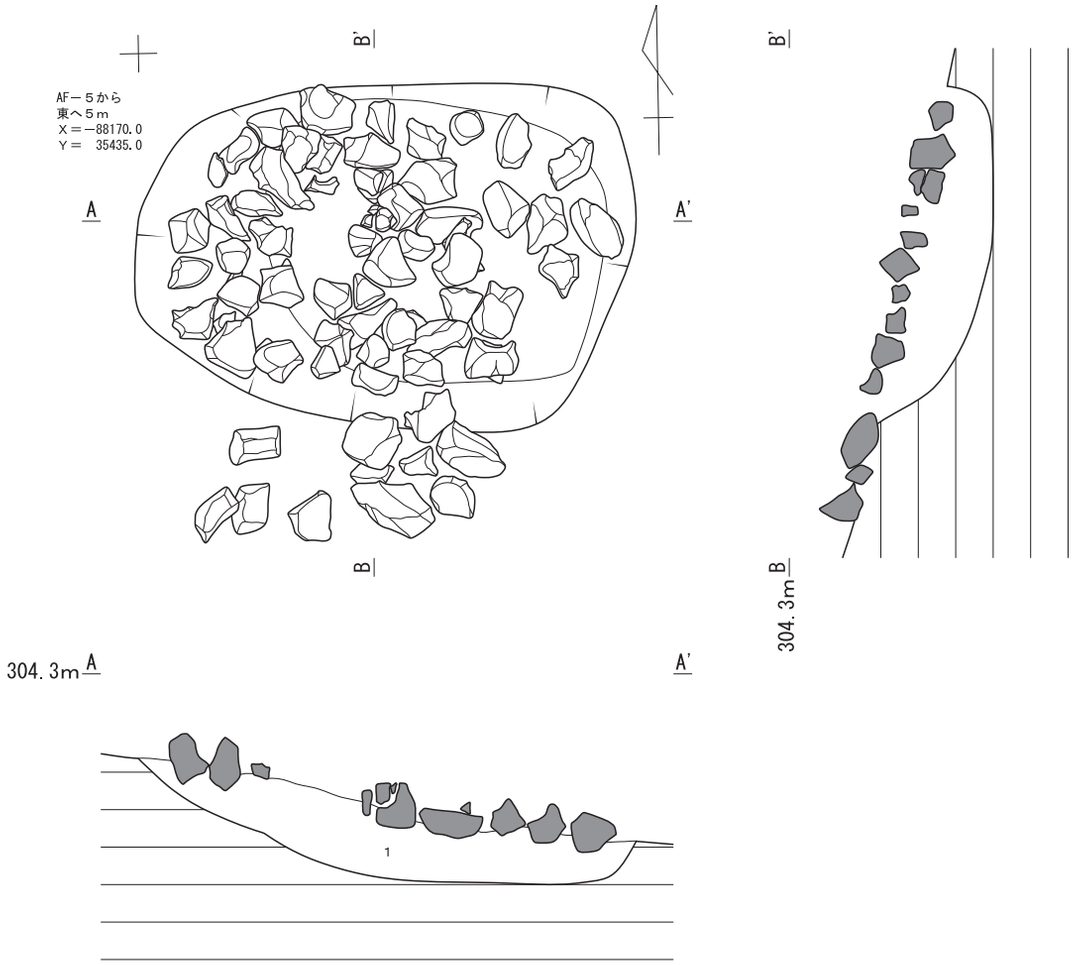
本遺構は５区AE－４グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高


AE－４から
北へ５ｍ
東へ６ｍ
Ｘ＝－88175.0
Ｙ＝　35426.0
８号集石
A
A'
305.8m
KU
FB
KU
FB
９号集石
AE－４から
北へ７ｍ
東へ８ｍ
Ｘ＝－88173.0
Ｙ＝　35428.0
A
A'
305.4m
KU
FB
KU
FB
0
（１：20）
１ｍ

第43図　８・９号集石



第44図　10・11号集石



１層　暗褐色土　　粘性・締まり有、径２～４㎜橙色スコリア・径１～５㎜炭化物少量。

0　（1：20）　1ｍ

第45図　12号集石

304.5 ～ 304mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、95cm程高い位置で確認している。礫は、栗色土層から検出しており、その設置面は栗色土層上部付近と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の周囲には、南西に９号集石、東に10号集石が位置している。

集石の構成礫は10点であり、径88cmの範囲に集まる。構成礫は､14 ～ 22cmの大きい礫が１点、他は３～ 11cmの小さい礫のサイズが利用されている。

遺構の帰属時期は、栗色土層下部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代前期の所産と思われる。

12号集石（第45図、写真図版４－２）

本遺構は５区AE－５グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高303.5mの谷部緩斜面に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、60cm程高い位置で確認している。礫は、栗色土層から検出しており、その設置面は栗色土層上部付近と考えられる。礫の設置面を精査し

た結果、楕円形の落ち込みが検出され、その落ち込みに礫が若干入り込む状況を確認した。本遺構は、いわゆる集石土坑であると判断した。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構の周囲には、西に10号集石が位置している。

集石の構成礫は73点であり、径149㎝の範囲に集まる。構成礫は、大きい礫で10～23㎝、小さい礫で３～９㎝のサイズが利用されている。

土坑の平面形は楕円形を呈し、長軸134㎝、短軸92㎝を測る。土坑の検出面からの最大深度は19㎝を測り、浅い。土坑の埋土は１層である。礫の入り込みは深くなく、第１層上面に多く見られる。これは、集石の使用または廃絶状況を示していると思われる。土坑内からは、遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、栗色土層上部にて検出した点を考慮すると、おそらく縄文時代前期の所産と思われる。

（３）焼土（第46図）

本遺跡では、焼土を２基検出している。以下、各焼土の調査所見を記載する。焼土の計測表は、第９表に記載している。

１号焼土（第46図）

本遺構は、６区AF－12グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高299.8ｍの谷部に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、1.8ｍ程高い位置で確認している。遺構検出面は、暗褐色土層である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から西へ６ｍのところに２号焼土が位置している。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸91㎝、短軸63㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は８㎝を測る。底面は概ね平坦である。長軸方位は、概ね東西を示す。

埋土は１層であり、暗褐色（AN）土塊と焼土塊・粒の混土を基調とする。本遺構の周壁には、やや熱を受けている箇所が散見できる。埋土は、おそらく周壁の壁壊土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、遺構検出面が暗褐色土層である点から判断すると、おそらく縄文時代後期の所産と考えられる。

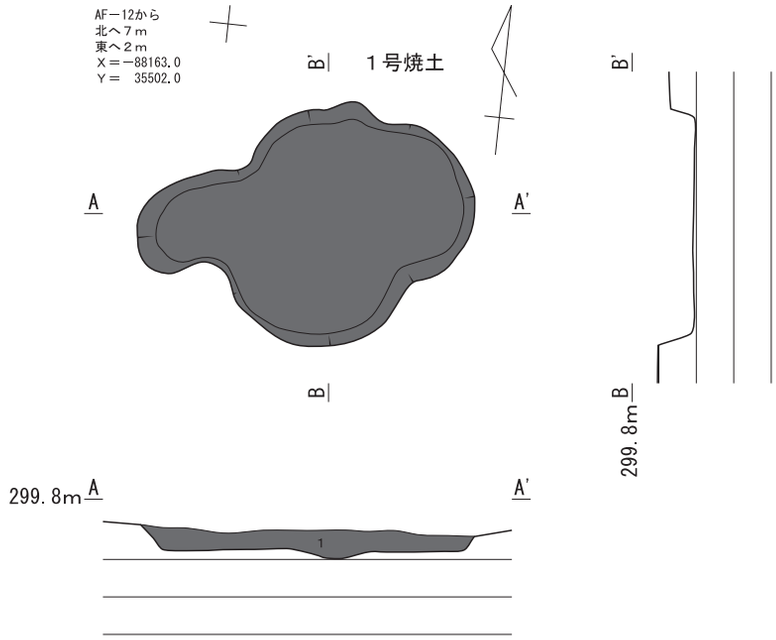
２号焼土（第46図、写真図版４）

本遺構は、６区AF－11グリッドに位置する。第20図の遺構配置図の等高線（休場層上面）では、標高300.1ｍの谷部に位置する。調査では、本遺構はその面よりも、1.6ｍ程高い位置で確認している。遺構検出面は、暗褐色土層である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から東へ６ｍのところに１号焼土が位置している。

平面形は不整な二等辺三角形を呈し、長軸96㎝、短軸64㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は13㎝を測る。底面は概ね平坦である。周壁は、やや直立ぎみに立ち上がる。長軸方位は、概ね東西を示す。

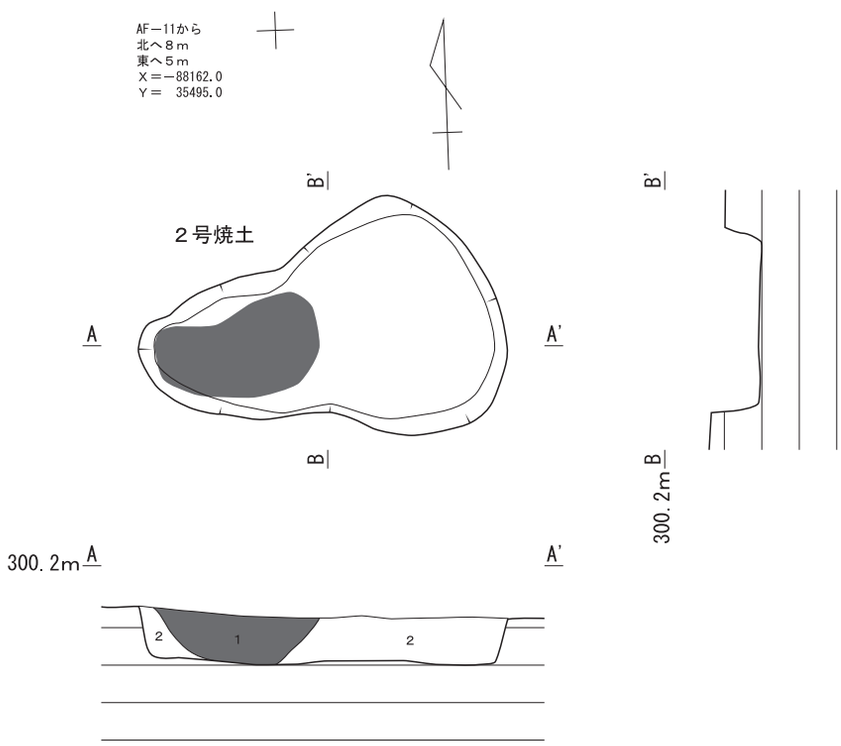
埋土は２層に分けた。第１層は焼土塊・粒を基調とし、第２層は暗褐色（AN）土塊・粒を基調とする。特に第１層が堆積する付近の周壁には、やや熱を受けている箇所が散見できる。埋土は、周壁の壁壊土及び周囲からの流入土に由来すると思われる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、時期を示す遺物が出土していないため分からない。しかし、遺構検出面が暗褐色土層である点から判断すると、おそらく縄文時代後期の所産と考えられる。

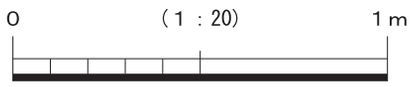


１層　明赤褐色土　　焼土塊・粒多量、炭化物・暗褐色土塊少量。

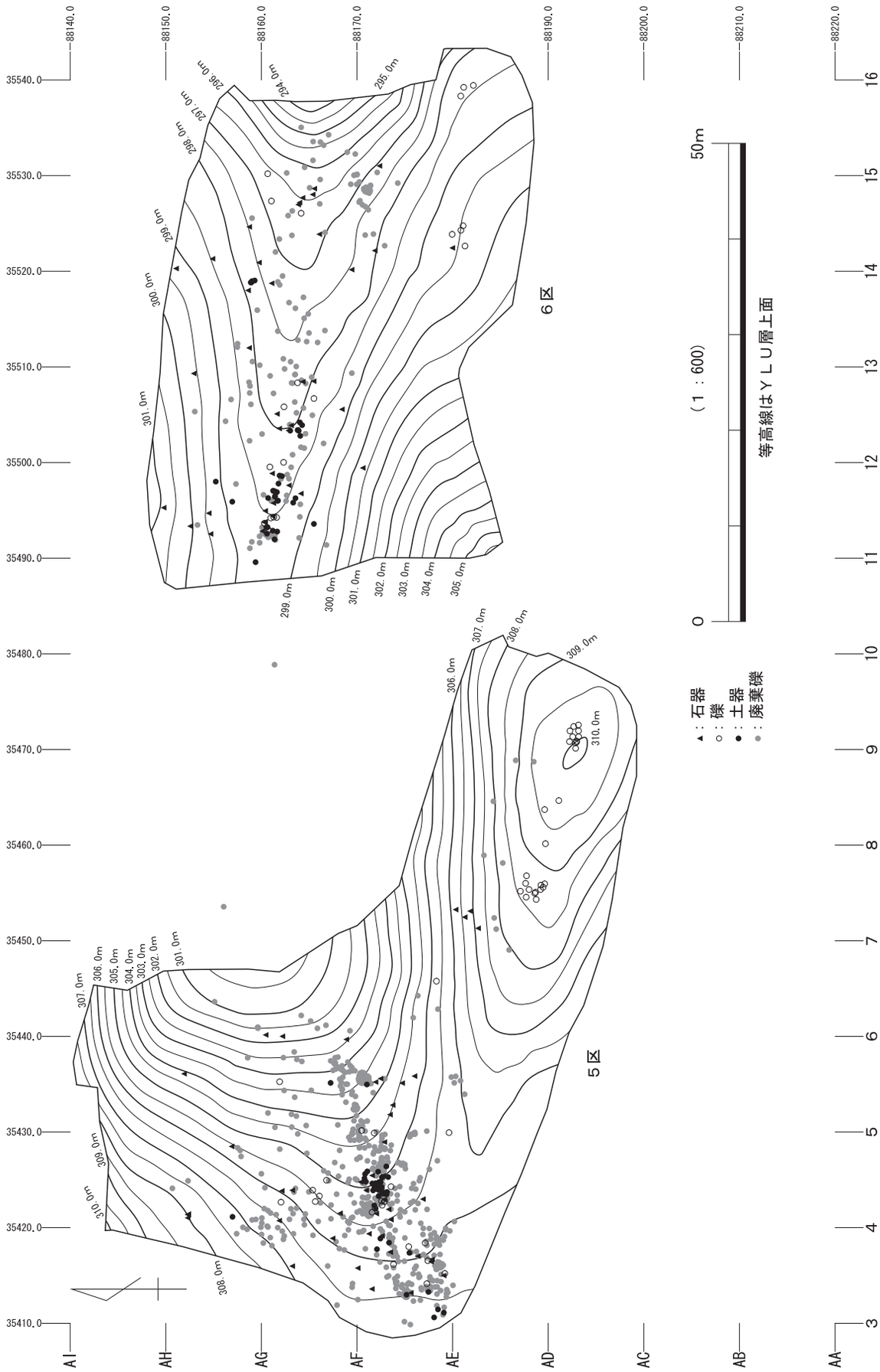
：焼土



１層　明赤褐色土　　焼土塊・粒多量、暗褐色土塊少量。
２層　暗褐色土　　粘性無、締まり有、径５㎜角礫・径２～５㎜橙色スコリア・黒色スコリア少量。



第46図　１・２号焼土



第47図　葛山上條遺跡縄文時代遺物分布図

（４）遺構外出土遺物（第47～60図）

ここでは、カワゴ平パミスを含む土層から富士黒色土層出土の遺物及び表採の遺物について、①土器と②石器に分けて、記載する。

①土器（第48～53図、写真図版11～５、12、13－１）

本遺跡からは79点出土している。そのうち、特徴的な土器片について実測した。以下、時期ごとに記述する。出土土器の観察表は、第10表に記載している。

早期の土器（第48図－１～14、写真図版10、11－５）

第48図１・２は、漸移層出土の土器片である。外面にはRの撚糸文が確認でき、１は縦位方向に、２は横位方向に施文されている。条の太さは細く、1.0～1.5㎜を測る。胎土は、いわゆる「軽しょうな胎土」を呈し、繊維の混入が確認できる。３～14は、暗褐色土層から栗色土層にかけて出土した土器片である。外面は無文である。胎土には、径1.0㎜程の円形の細長い繊維痕跡が確認できる。13は、明瞭に繊維痕跡は確認できなかった。１～14の時期は、胎土及び焼成具合から判断して、縄文時代早期に比定されると思われる。

出土層位及び出土レベルに相違が見られる要因として、１つ目は自然の営為、２つ目は土地利用による人為的な作用が考えられる。後者で考えた場合、おそらく前期または後期の陥穴状土坑の構築の際に、土器の攪拌を促したものと想定される。

前期の土器（第49～51図、写真図版10、12）

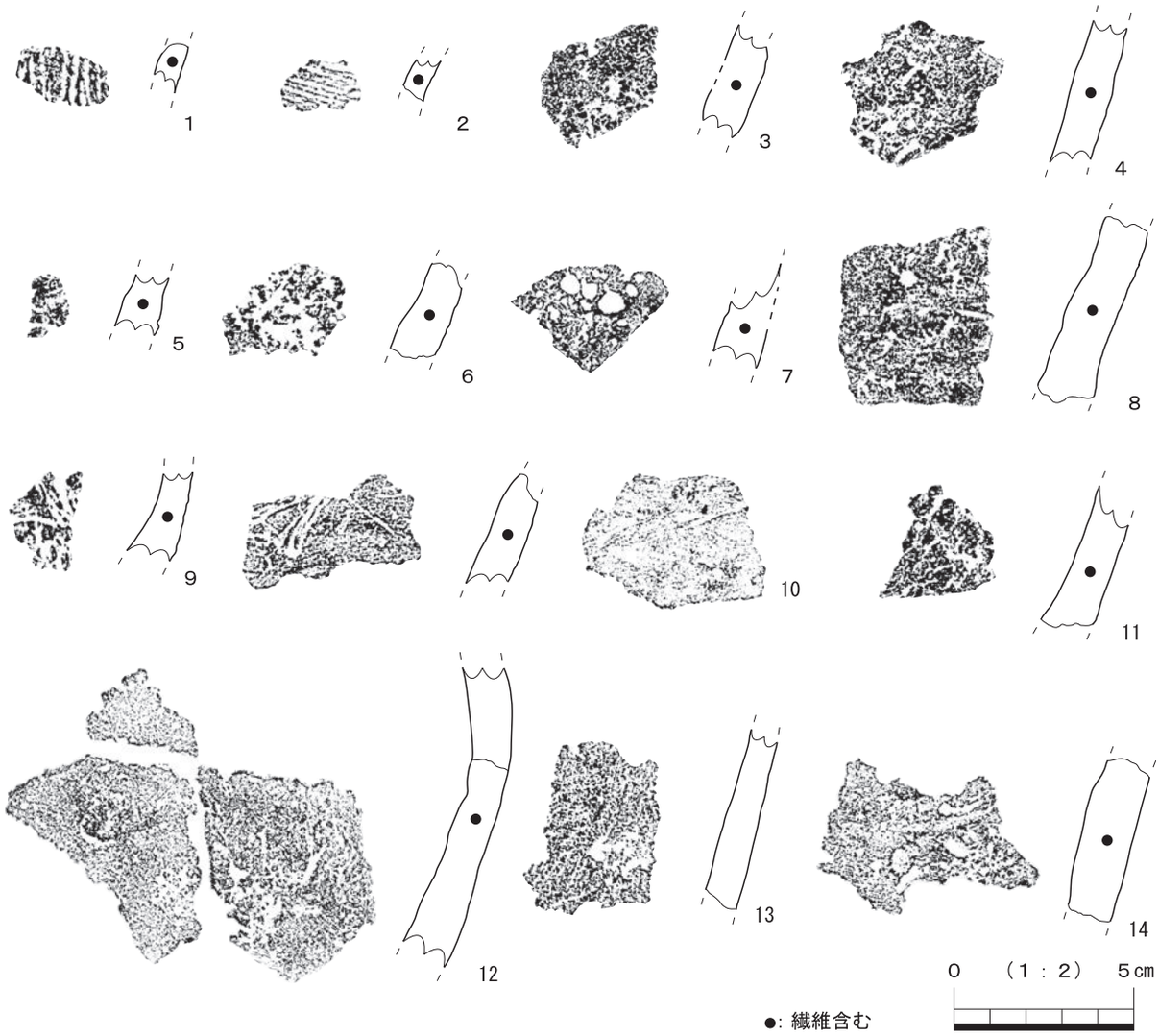
第49・50図は、カワゴ平パミスを含む土層から富士黒色土層にかけて出土した土器片の接合資料である。出土状況は、第50図１・２に示すように、スポット状の範囲に１個体分の土器片が集中して出土した。接合破片数は29点であり、その内、21点は栗色土層からの出土である。土器廃棄後は、あまり攪拌を受けていない状況を示すと思われる。第49図１は接合した土器片であり、胴部下半がやや脹らむ器形を呈すると思われる。地文には、RLの単節縄文が横位に施文されている。器厚は約11㎜である。外面には、半裁竹管状工具による平行沈線が密に施され、集合沈線を表出している。胴部は、この集合沈線によって横位区画される。胴部下半では、横位区画後、区画内に集合沈線よる玉抱き三叉文状のモチーフが描かれている。平行沈線の幅は、上位の横位区画では幅約４㎜、下位の横位区画及び区画内では幅約2.5～３㎜を呈し、使用した半裁竹管状工具の幅は異なる。第49図２は、接合状態を広げたものである。破片の接合状態を観察すると、大きい破片では約７～7.5㎝の間隔で、小さい破片では約３～４㎝の間隔で、割れ目の横スジが確認できる。この横スジは、概ね粘土帯の接合箇所に相当する。特に大きい破片の横スジの間隔は、粘土帯を２段程積み上げた後に、小休止を入れた段階と考えられる。時期は、施文手法・文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器新段階（関根2008）と考えられる。

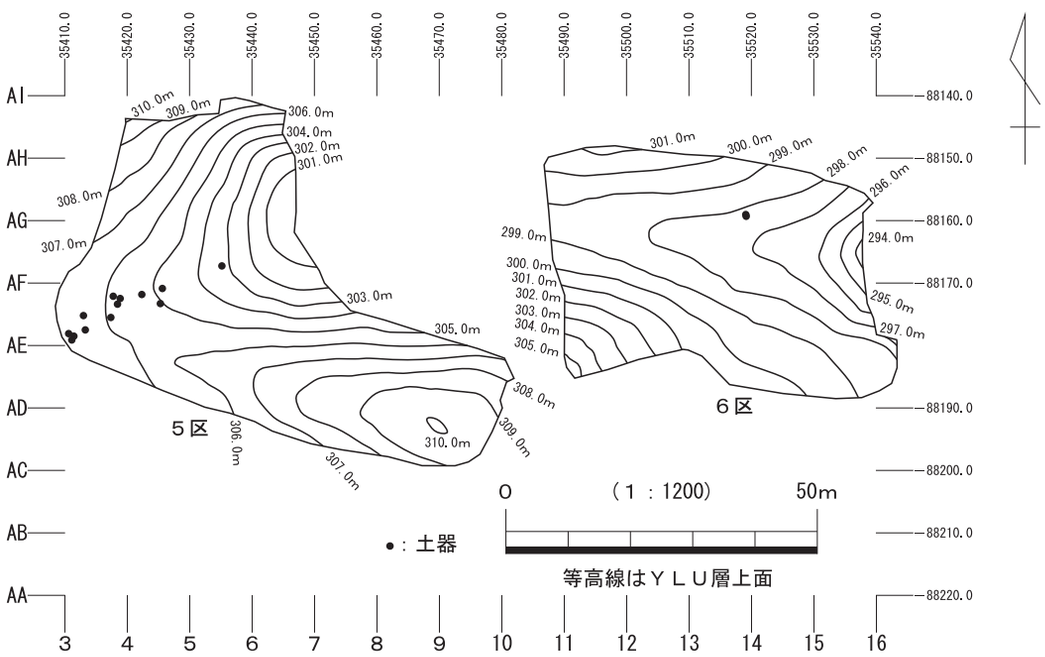
第51図１は底部片である。外面には、幅４㎜の半裁竹管状工具による平行沈線が密に施され、集合沈線を表出している。この集合沈線は、斜位ないし縦位方向に底面近くまで施文されている。時期は、施文手法から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｃ式土器と思われる。

後期の土器（第52・53図、写真図版10、12、13－１）

第52・53図は、カワゴ平パミスを含む土層から出土した土器片である。

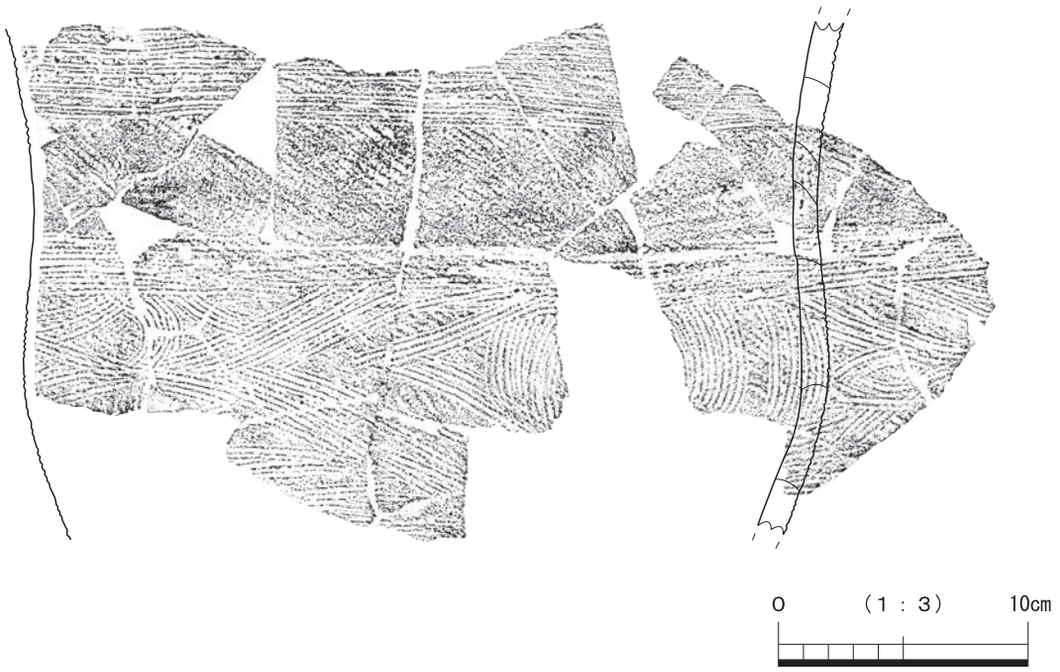
第52図１～13は、胎土及び焼成具合から判断して、同一個体片と考えられる。地文にはRLの単節縄文が横位方向に施文されている。１・２は口縁部片であり、口唇部に１条の沈線が巡る。１は剥落して



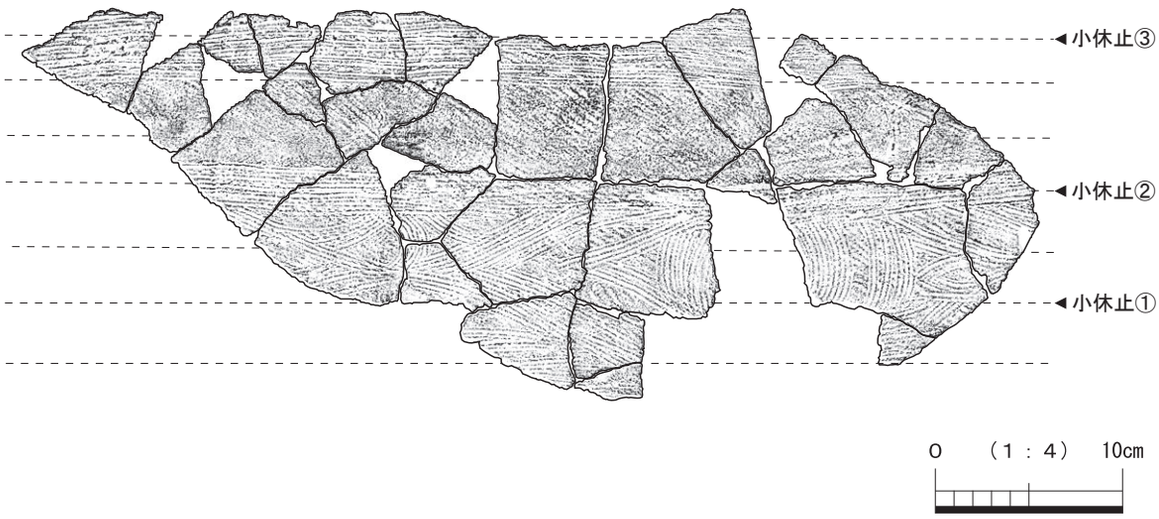


第48図　縄文包含層出土土器　早期

1　諸磯ｂ式土器復原図

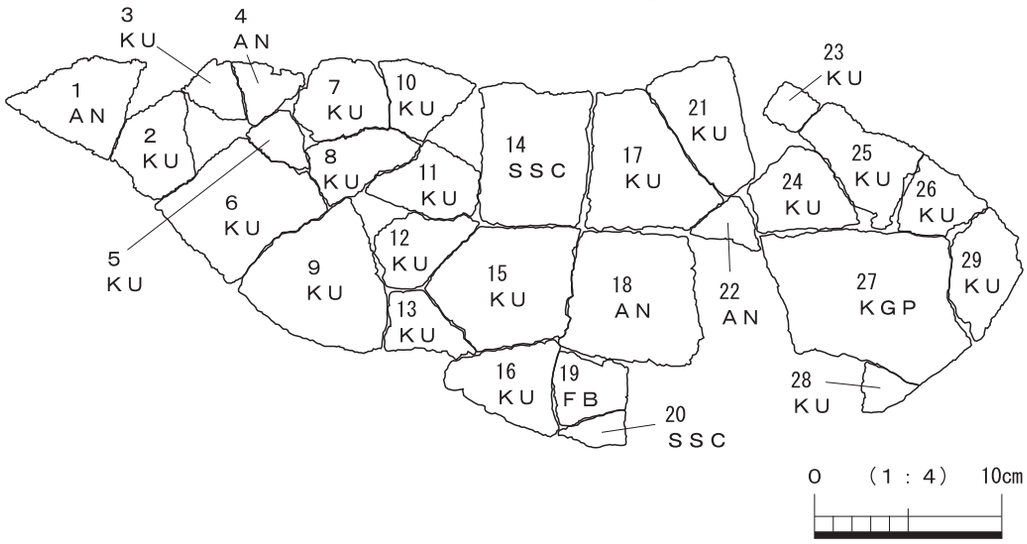


2　諸磯ｂ式土器破片全体図①

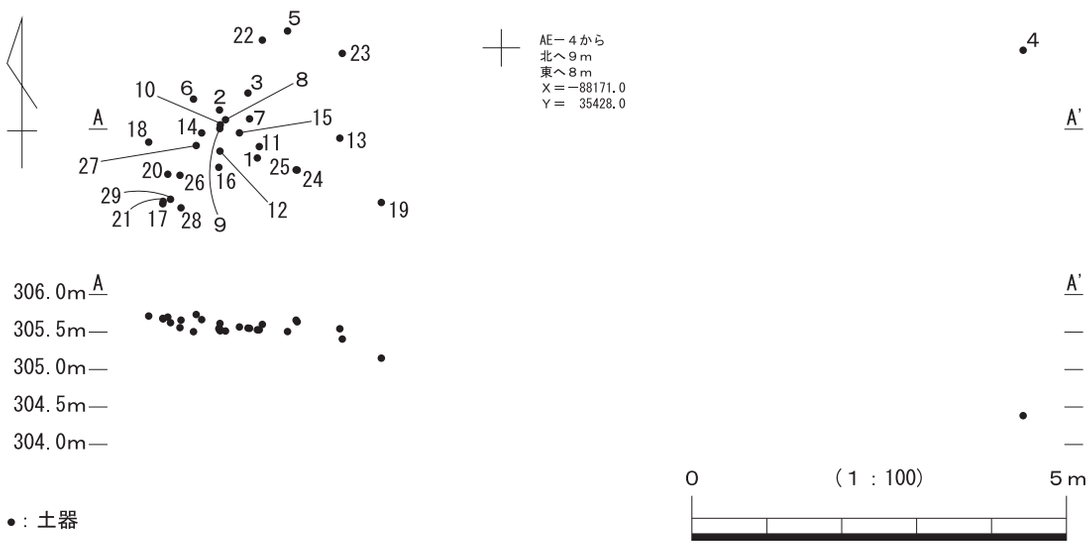


第49図　縄文包含層出土土器　前期①－１（1：1/3、2：1/4）

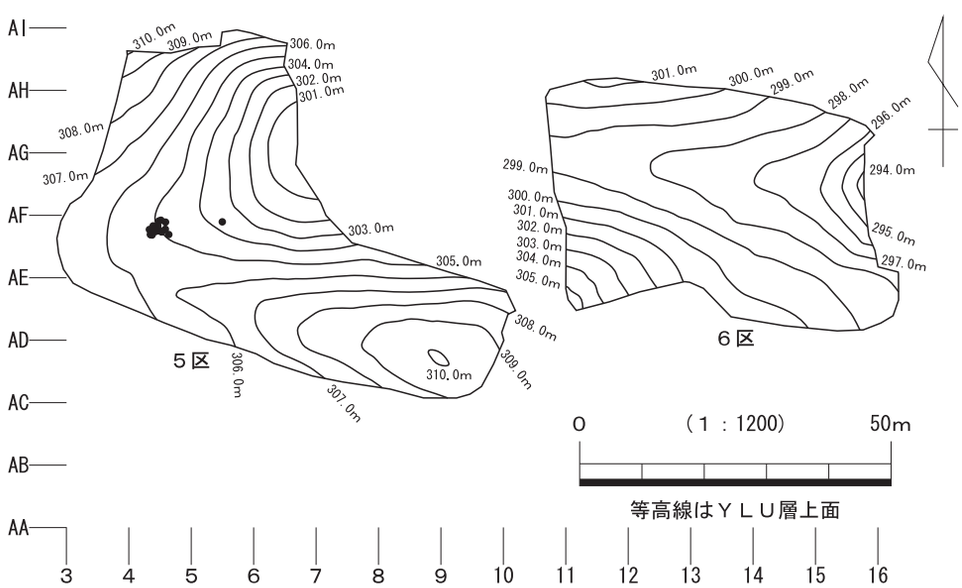
１　諸磯ｂ式土器破片全体図②



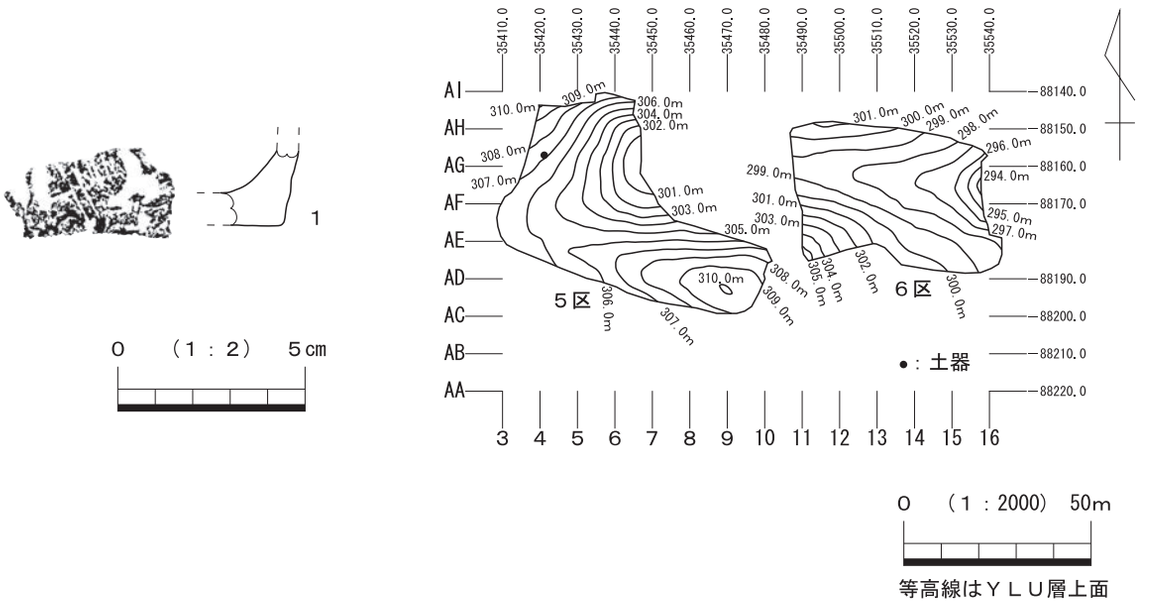
２　諸磯ｂ式土器出土状況



●：土器



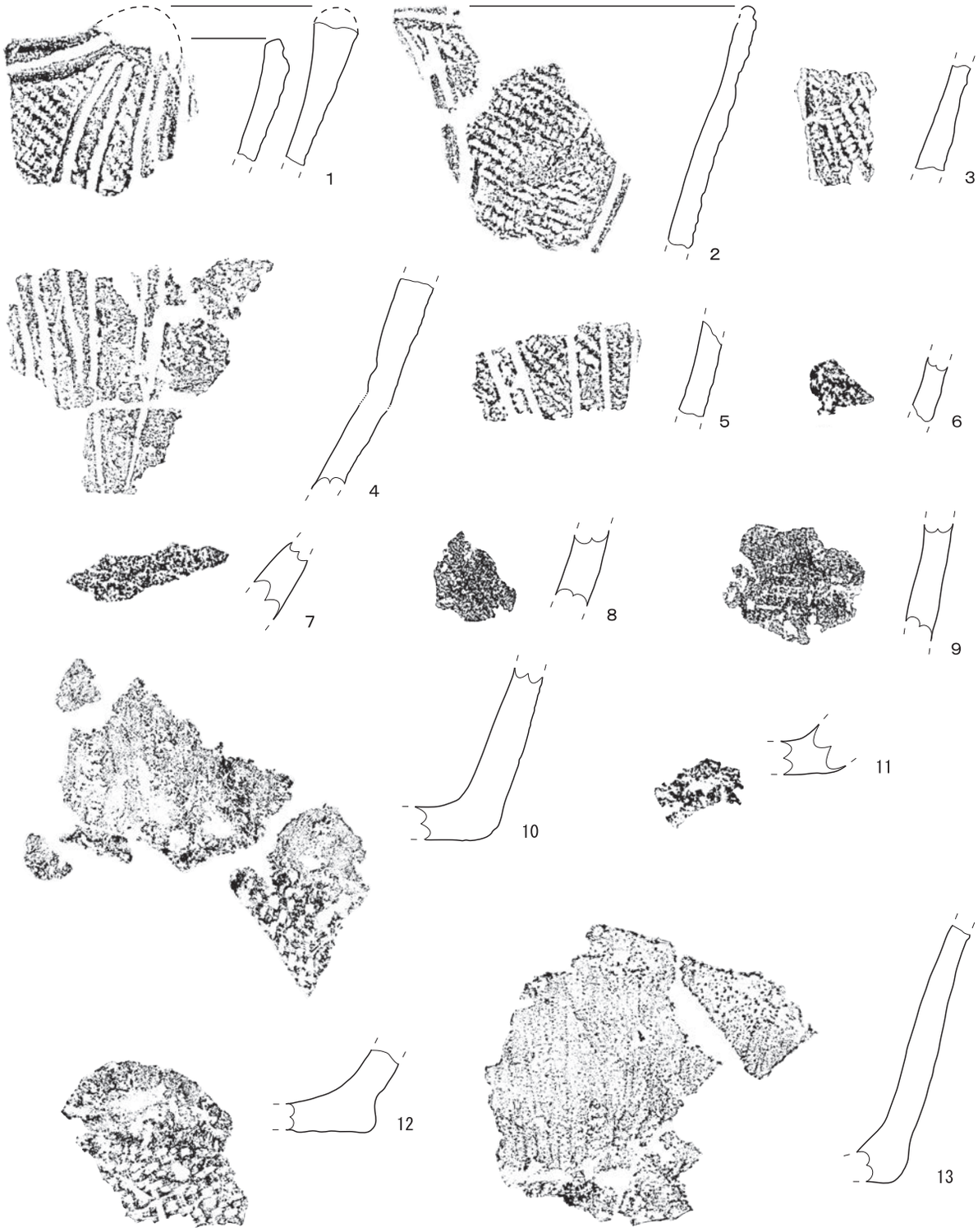
第50図　縄文包含層出土土器　前期①－２出土状況

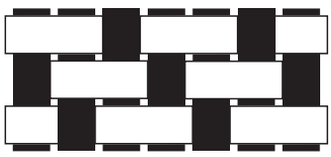


第51図　縄文包含層出土土器　前期②

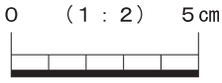
いるが、突起部分の痕跡が確認できる。その突起部分を起点として、集合沈線によって懸垂文が描かれる。３～５は胴部片であり、その懸垂文が描かれている。６～９は胴部下半または底部付近の土器片と思われる。外面には、縦位方向のナデ調整が確認できる。10～13は底部片であり、底面には網代底が確認できる。網代は、底部片およびその拓本を観察した結果、模式図で示したように「２本超え１本潜り右１本送り」（松永2008）で構成される。時期は、施文手法・文様構成から判断して、縄文時代後期前半の堀之内１式土器と考えられる。その器形と文様構成は、B群乙類（市立市川考古博物館1982）の範疇に位置づけられると思われる。

第53図１～４は、胎土及び焼成具合から判断して、同一個体片と考えられる。外面には、Rの撚糸文が斜位方向に施文されている。１は口縁部片であり、口端部はナデにより面取りされ、角頭状を呈する。５は胴部片であり、外面にRの撚糸文が斜位方向に施文されていると思われる。ただし、原体の圧痕が重複しているように見え、はっきり分からない。６は胴部片であり、外面にLRの単節縄文が斜位方向に施文されており、条が縦走している。７は口縁部片であり、Rの撚糸文が斜位方向に施文されている。上述の１～７は、外面に地文のみを施す粗製土器と考えられる。８・９は底部片である。底面は平滑に仕上げられており、網代の痕跡は見られない。時期は、縄文時代後期前半の堀之内１式土器またはその並行期と思われる。

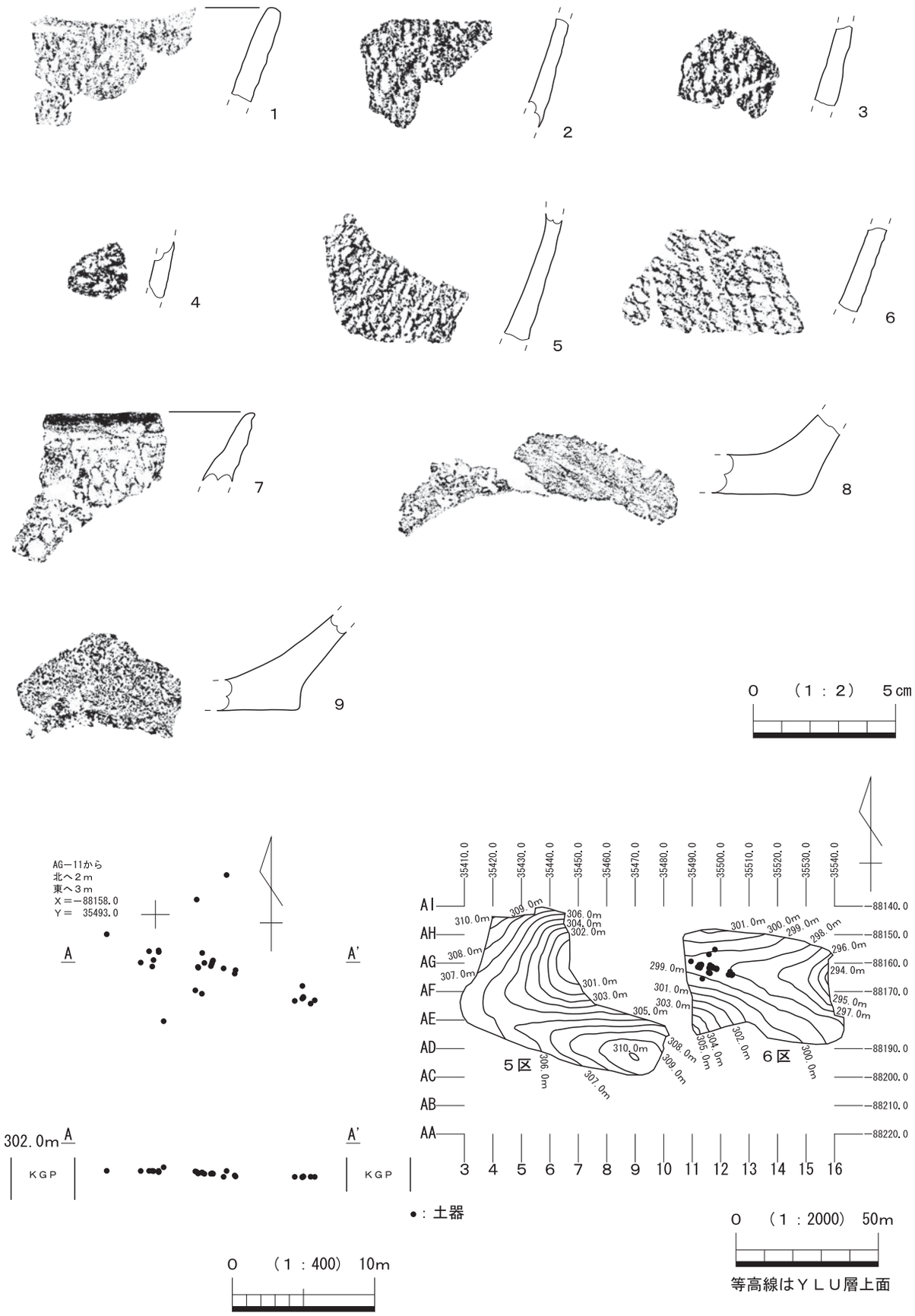




網代底模式図



第52図　縄文包含層出土土器　後期①



第53図　縄文包含層出土土器　後期②

②石器（第54～59図、写真図版13－２、14）

本遺跡からは61点出土している。そのうち、特徴的な石器について実測した。第60図には、出土石器の分布図を示した。出土土器から判断して、漸移層～暗褐色土層より出土した石器は、縄文時代早期～前期に帰属すると思われる。またカワゴ平パミスを含む層より出土した石器は、縄文時代後期に帰属すると思われる。

以下、器種ごとに記述する。出土石器の観察表は、第12表に記載している。

石鏃（第54図１～18、写真図版10）

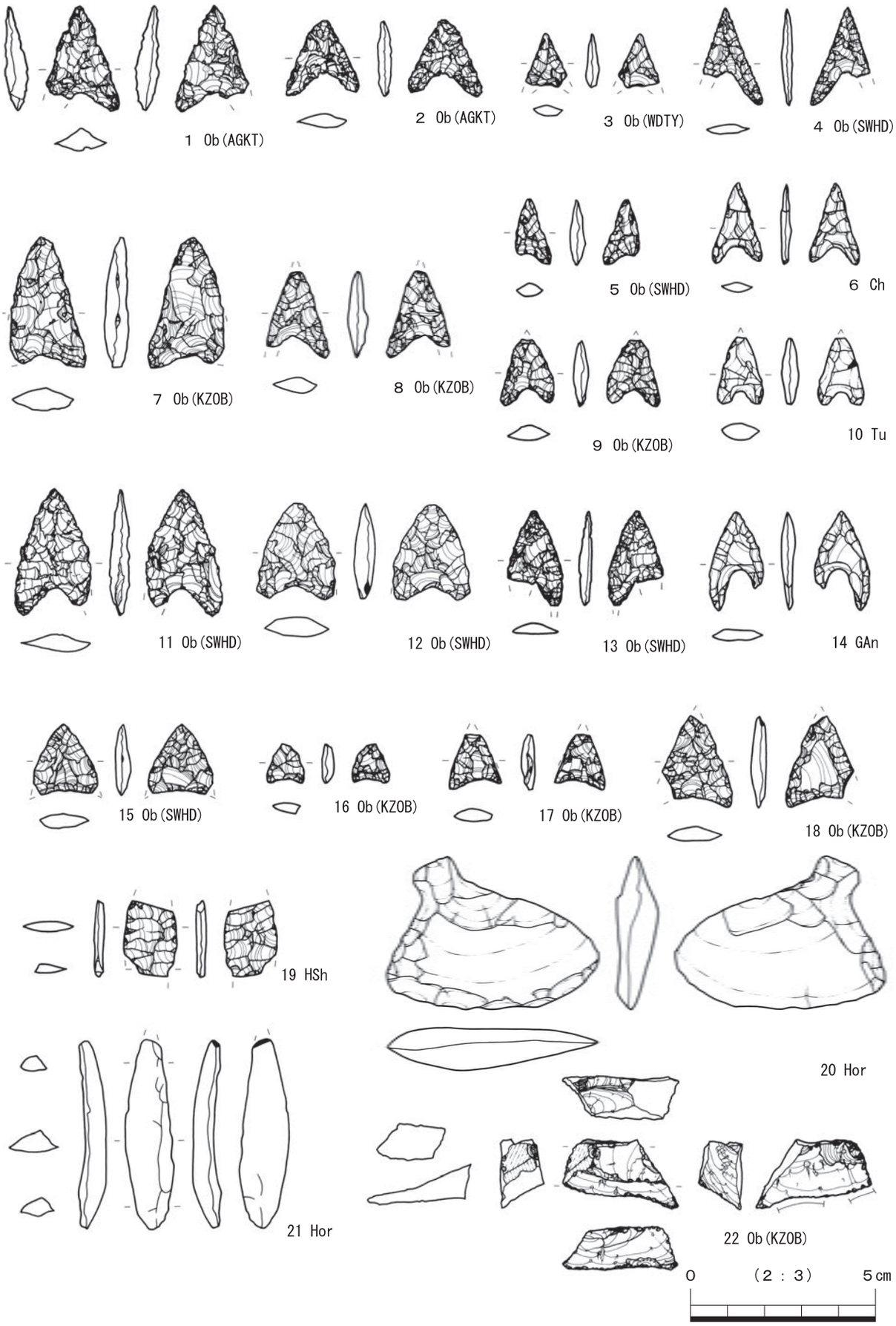
本遺跡からは18点出土している。以下、形態ごとに記述する。

【１】側縁が直線的で、基部の形状が凹基を呈するもの（第54図1～10、写真図版10）

１は、栗色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈し、基部の抉りは深い。左脚部は欠損している。縁辺部の加工は粗い。黒曜石産地同定分析の結果、静岡県天城柏峠群産と推定されている。２は、栗色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は三角形を呈する。基部の抉りは深い。先端部は欠損後、再調整を施し、先端部再生を試みている。黒曜石産地同定分析の結果、静岡県天城柏峠群産と推定されている。３は、栗色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は三角形を呈すると思われる。両脚部は欠損しているが、基部の抉りは深いと思われる。黒曜石産地同定分析の結果、長野県和田鷹山群産と推定されている。４は、栗色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈すると思われる。基部の抉りは深く、脚部は長い。縁辺部は鋸歯縁状に細かく削出されている。左脚部は欠損している。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。５は、富士黒土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈する。基部の抉りは深い。左脚部の欠損後、基部再生を試みる調整が確認できる。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。６は、栗色土層出土のチャート製の凹基石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈する。基部の抉りは深い。７は、栗色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈する。基部の抉りはやや浅い。裏面には素材剥離面を残す。左脚部は欠損後、基部再生を試みる調整が確認できるが、中途で終わっている。器体は肉厚で、加工が粗いため、おそらく石鏃未成品と思われる。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。８は、砂沢スコリアを含む土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈する。基部の抉りは深い。先端部欠損後、先端部再生を試みる調整が確認できるが、中途で終わっている。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。９は、カワゴ平パミスを含む土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は三角形を呈すると思われる。基部の抉りは深い。先端部は欠損後、両面から再調整を施し、先端部再生を試みるが、中途で終わっている。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。10は、漸移層出土の凝灰岩製の凹基石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈する。基部の抉りは深い。先端部は欠損している。

【２】側縁がやや円味を帯び、基部の形状が凹基を呈するもの（第54図11～14、写真図版10）

11は、カワゴ平パミスを含む土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈する。基部の抉りは深く、縁辺部はやや鋸歯縁状に削出されている。右脚部の一部は欠損している。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。12は、暗褐色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は三角形を呈し、中央がやや張る。基部の抉りは深い。実測図裏面には先端部の衝撃剥離が確認できる。衝撃剥離後、先端部の形状を整える調整を施している。13は、暗褐色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈し、基部側縁でやや円みを帯びる。基部の抉り


1 Ob(AGKT)
2 Ob(AGKT)
3 Ob(WDTY)
4 Ob(SWHD)
5 Ob(SWHD)
6 Ch
7 Ob(KZOB)
8 Ob(KZOB)
9 Ob(KZOB)
10 Tu
11 Ob(SWHD)
12 Ob(SWHD)
13 Ob(SWHD)
14 GAn
15 Ob(SWHD)
16 Ob(KZOB)
17 Ob(KZOB)
18 Ob(KZOB)
19 HSh
20 Hor
21 Hor
22 Ob(KZOB)
0
(2 : 3)
5cm

第54図　縄文石器（1）

は深く、縁辺部は鋸歯縁状に細かく削出されている。左脚部は欠損後、基部再生を試みる調整が確認できるが、中途で終わっている。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。14は、漸移層出土のガラス質黒色安山岩製の凹基石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈し、基部側縁でやや円みを帯びる。基部の抉りは深い。裏面には素材剥離面を残す。縁辺部は粗い調整により側縁形状を整えている。右脚部は短く、おそらく欠損後に基部再生を試みた痕跡と思われる。

【３】基部の抉りが浅く、やや平基ぎみを呈するもの（第54図15～18）

15は、栗色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は三角形を呈する。基部の抉りは浅く、平基に近い。裏面には素材剥離面を残す。左脚部の一部は欠損しており、基部再生を試みる調整が確認できるが、中途で終わっている。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。16は、栗色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は三角形を呈する。基部の抉りは浅く、平基に近い。裏面左側縁は急斜度調整により器体整形を施している。おそらく石鏃の欠損品を再調整した痕跡であると思われる。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。17は、富士黒色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は三角形を呈し、基部側縁でやや円みを帯びる。基部の抉りは浅く、円弧状を呈する。実測図正面には衝撃剥離による先端部欠損が確認できる。裏面には先端部欠損後の先端部再生を試みる調整が確認できるが、中途で終わっている。また右断面にも基部側縁の欠損が確認でき、正面にて側縁再生を試みる調整が確認できるが、中途で終わっている。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。18は、栗色土層出土の黒曜石製の凹基石鏃である。平面形は三角形を呈する。基部の抉り浅く、円弧状を呈する。裏面には素材剥離面を残す。左脚部と先端部は欠損している。先端部は欠損後、先端部再生を試みる調整が確認できるが、中途で終わっている。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。

石槍（第54図19・21、写真図版10）

本遺跡からは２点出土している。

19は、漸移層出土の硬質頁岩製の石槍である。両側縁から平坦剥離を加えて、器体両面を薄く仕上げている。両尖端部は欠損しているが、下端部には再整形を試みる調整が確認できる。しかし、再整形は中途で終わっている。21は、富士黒土層出土のホルンフェルス製の石槍である。縦長剥片を素材とする。器体全体は風化が著しく、後期旧石器時代に遡る可能性もある。

石匙（第54図20、写真図版10、13－２）

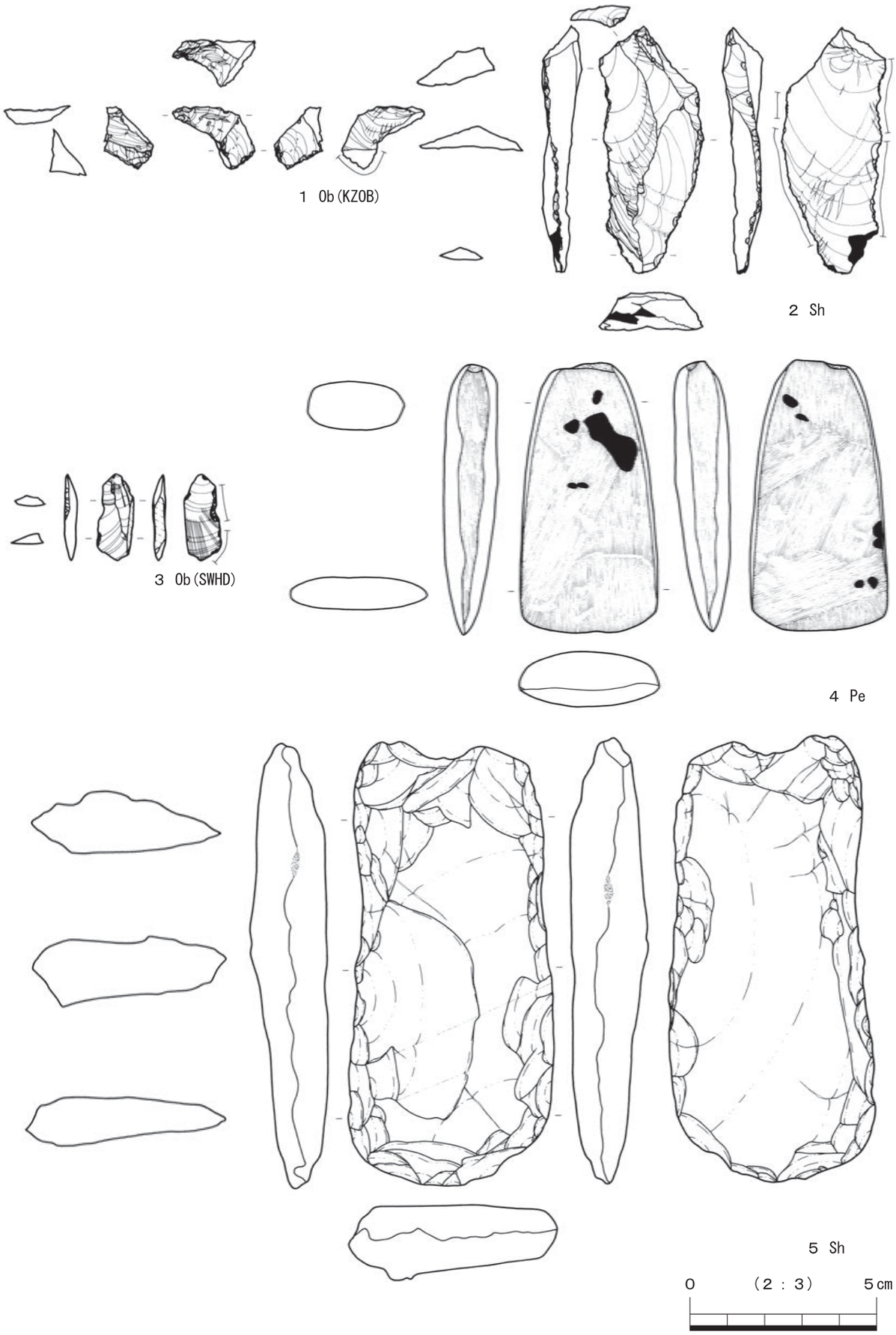
本遺跡からは１点出土している。

20は、栗色土層出土のホルンフェルス製の横型石匙である。素材は、厚手の横長剥片を呈し、裏面下縁から粗い剥離を加えて、刃部を整形している。つまみ部分も、粗い剥離によって整形している。

微細剥離のある剥片（第54図22、第55図１～３、写真図版10）

本遺跡からは４点出土している。

第54図22は、栗色土層出土の黒曜石製の微細剥離のある剥片である。素材は不定形剥片を呈し、裏面下縁から微細剥離を削出している。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。第55図１は、栗色土層出土の黒曜石製の微細剥離のある剥片である。素材は不定形剥片を呈し、右側面の下縁に微細剥離が観察できる。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。２は、栗色土層出土の頁岩製の微細剥離のある剥片である。素材は縦長剥片を呈し、裏面両



第55図　縄文石器（2）

側縁から微細剥離を削出している。３は、富士黒色土層出土の黒曜石製の微細剥離のある剥片である。素材は縦長剥片を呈し、正面左側縁から微細剥離を削出している。

石斧（第55図４・５、第56～58図、写真図版10、14－１）

本遺跡からは10点出土している。

第55図４は、栗色土層出土の橄欖岩製の磨製石斧である。平面形は撥形を呈する。側面は縦方向に、正面及び裏面は縦・斜め方向に磨って仕上げている。５は、栗色土層出土の頁岩製の打製石斧である。平面形は短冊形を呈する。裏面には、素材の主要剥離面が確認できる。両側縁から粗い剥離を加えて、器体を整形している。第56図１は、暗褐色土層出土の粘板岩製の打製石斧である。平面形は短冊形を呈する。素材は板状剥片を呈し、薄手である。両側縁から粗い剥離を加えて、器体を整形している。２は、カワゴ平パミスを含む土層出土の輝石安山岩製の打製石斧である。平面形は短冊形を呈し、刃部幅でやや窄まる形状である。裏面には、素材の主要剥離面が確認できる。両側縁から粗い剥離を加えて、器体を整形している。第57図１は、カワゴ平パミスを含む土層出土の中粒砂岩製の打製石斧である。平面形は撥形を呈する。実測図正面には素材の礫面が、裏面には素材の主要剥離面を残す。両側縁から粗い剥離を若干加えて、器体を整形している。刃部は、素材の形状を利用して刃先としている。２は表採であり、細粒砂岩製の打製石斧である。実測図正面には素材の礫面が、裏面には素材の主要剥離面が残る。器体中位には、抉り状の剥離が確認できる。平面形は、不整な分銅形を呈する。裏面下縁には刃部整形のような剥離が確認できる。しかし器体の形状から判断すると、整形は中途半端と考えられ、打製石斧の未成品と思われる。第58図１は栗色土層、２～４はカワゴ平パミスを含む土層から出土した打製石斧の欠損品である。１・２は輝石安山岩製である。１の平面形は、短冊形ないし撥形を呈するものと思われる。素材は厚手の剥片を利用しており、両側縁から剥離を加えて、器体を整えている。２の欠損部位は、打製石斧の基部側と思われる。基部は尖る形状を呈する。３は頁岩製である。素材は、薄い板状剥片を呈する。刃部側が欠損したと思われる。４は緑色片岩製である。素材は、薄い板状剥片を呈する。刃部側が欠損したと思われる。

石核（第59図１・２、写真図版10）

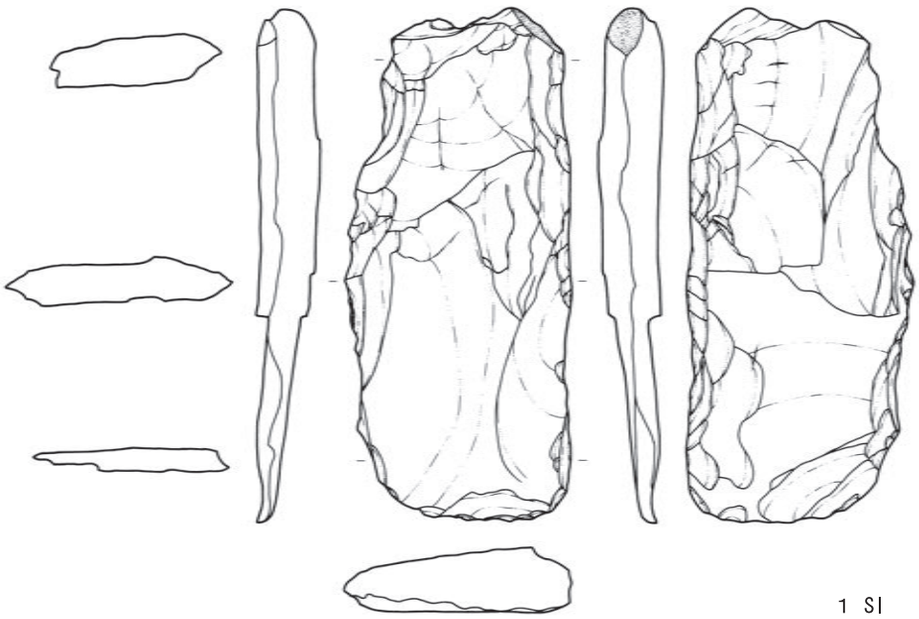
本遺跡から２点出土している。

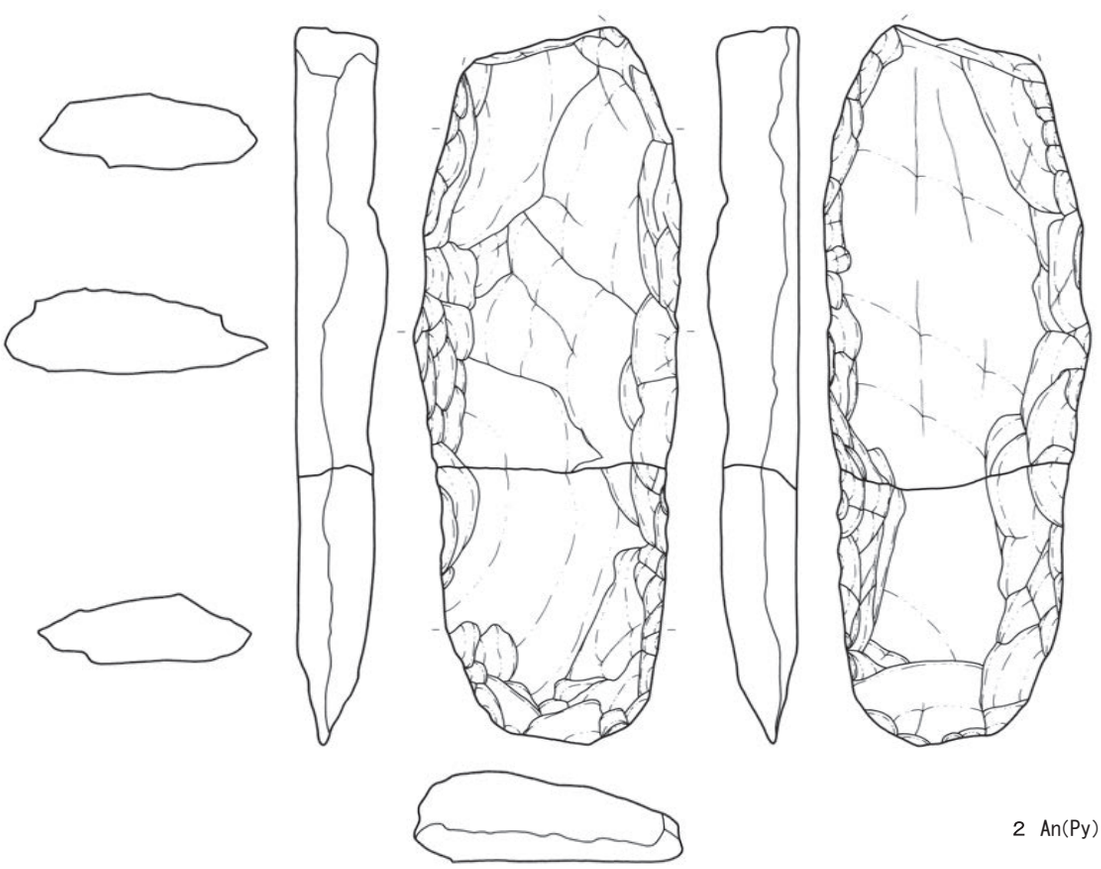
第59図１は、カワゴ平パミスを含む土層出土の黒曜石製の石核である。上面に打面を設定し、正面を作業面として小剥片を剥離している。石核のサイズと形状から判断して、残核と思われる。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。２は、富士黒色土層出土のシルト岩製の石核である。石核の形状は、直方体を呈する。打面は上面・左側面・右側面に、作業面は正面・裏面に設定されている。剥片剥離作業は、主に正面側で行われている。

石皿（第59図３・４、写真図版10）

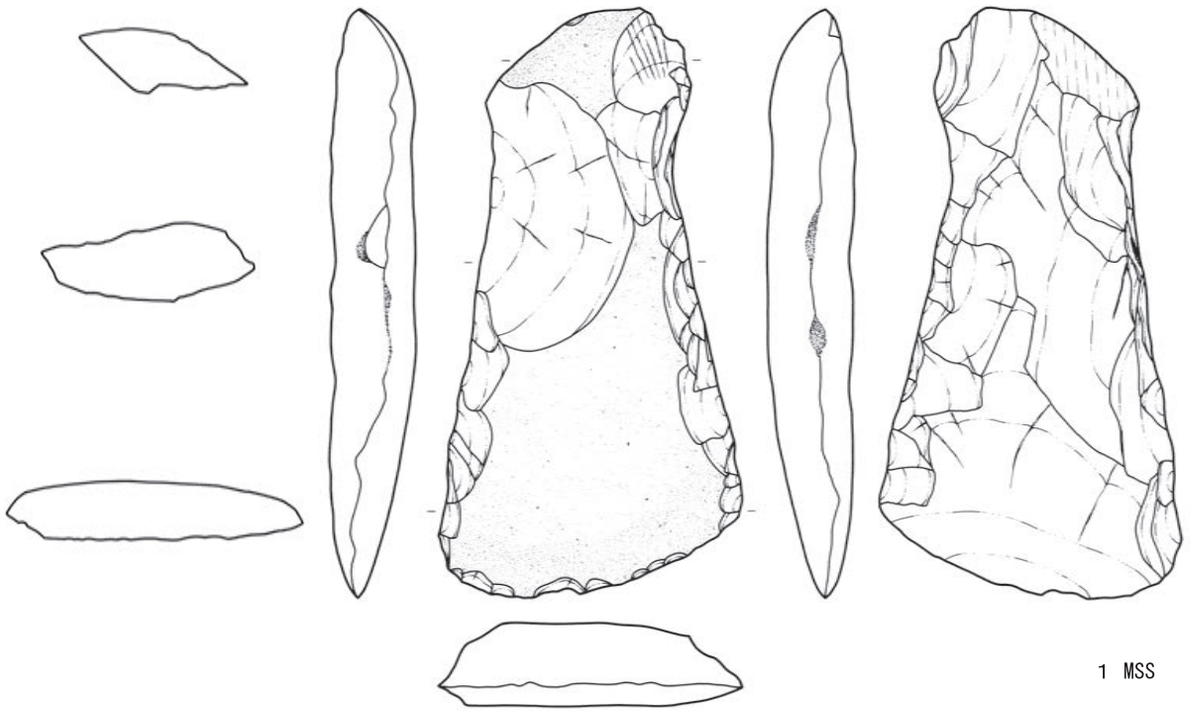
本遺跡から２点出土している。

第59図３は、栗色土層出土の輝石安山岩製の石皿片である。素材は、扁平な楕円礫を呈すると思われる。実測図正面と裏面の平坦な面は、触手で確認すると滑らかであり、磨面を呈する。重量は、1.04kgである。４は、カワゴ平パミスを含む土層出土の多孔質安山岩製の石皿である。素材は、扁平な楕円礫を呈する。実測図正面と裏面の平坦な面は、触手で確認すると滑らかであり、磨面を呈する。重量は、４kgである。

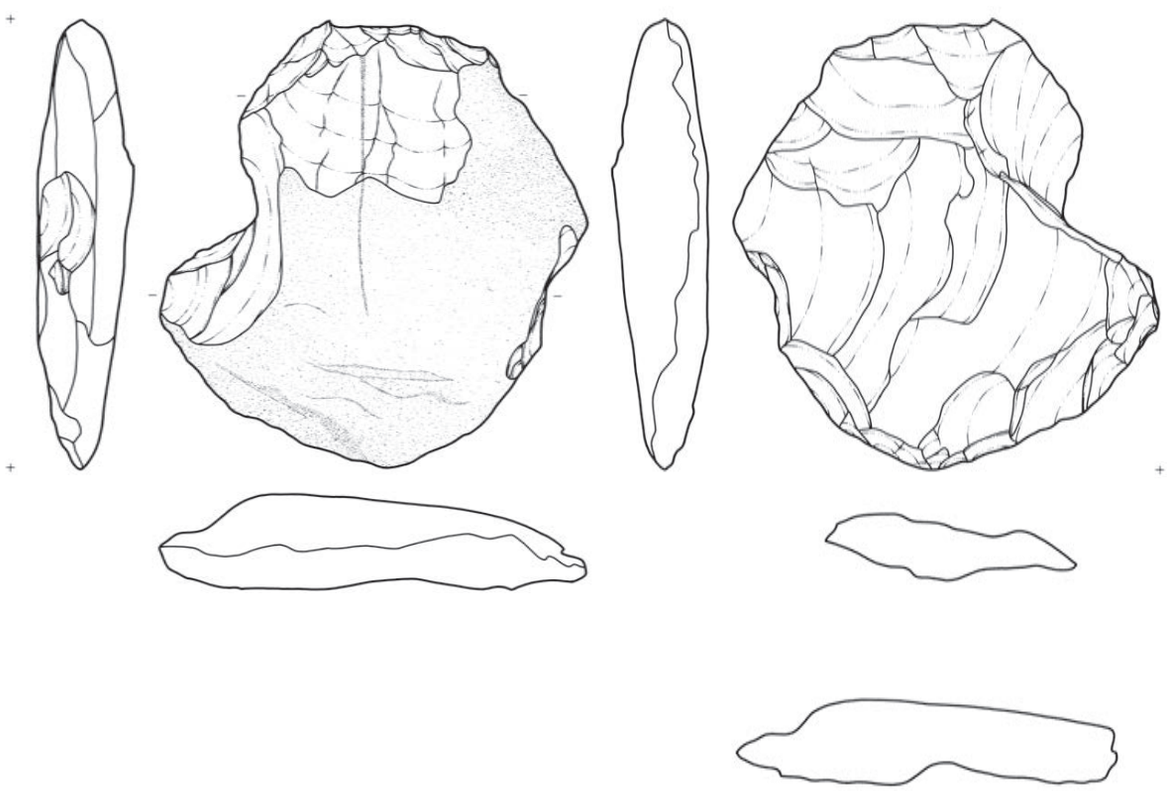




第56図　縄文石器（3）



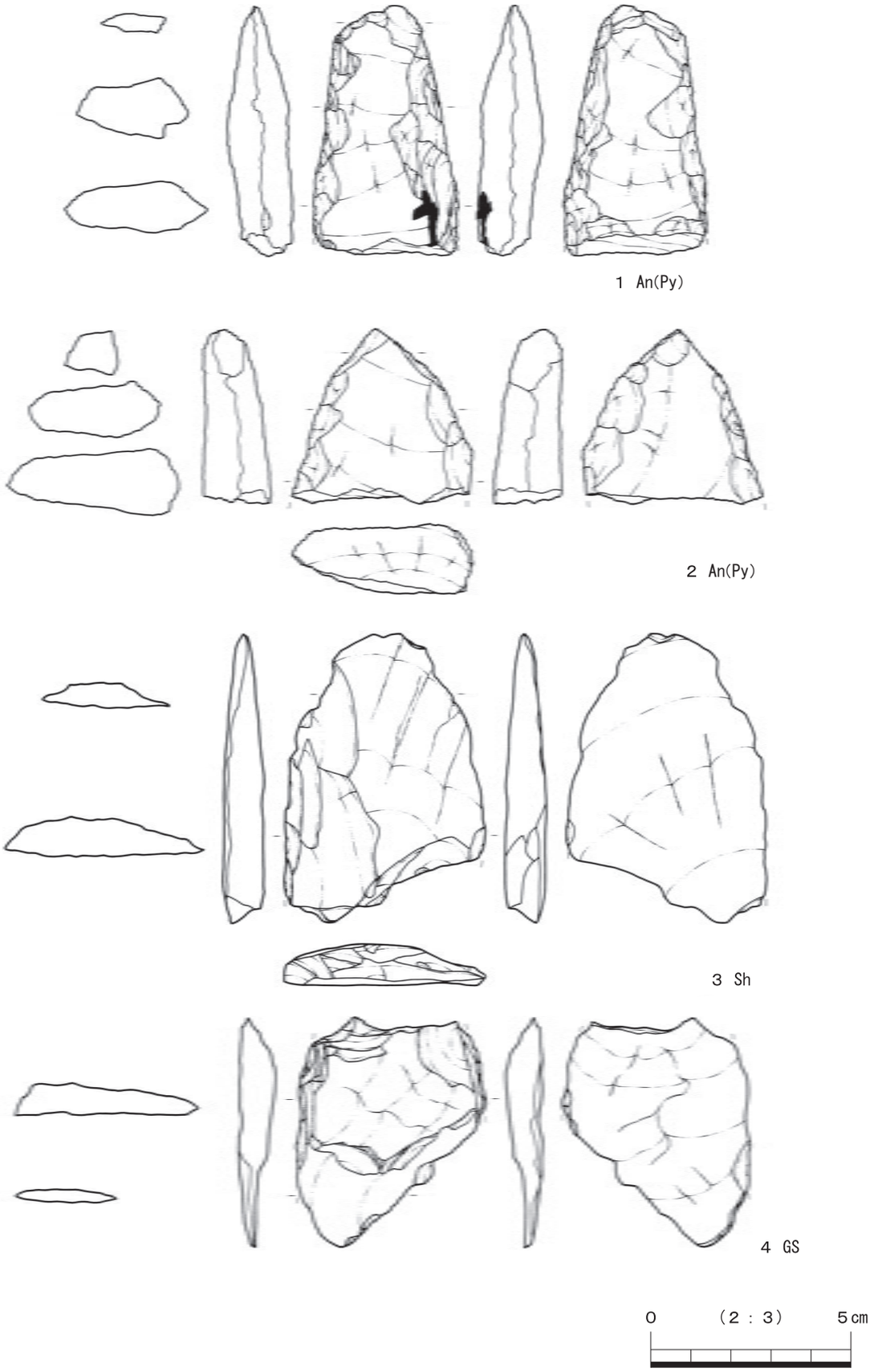
1 MSS



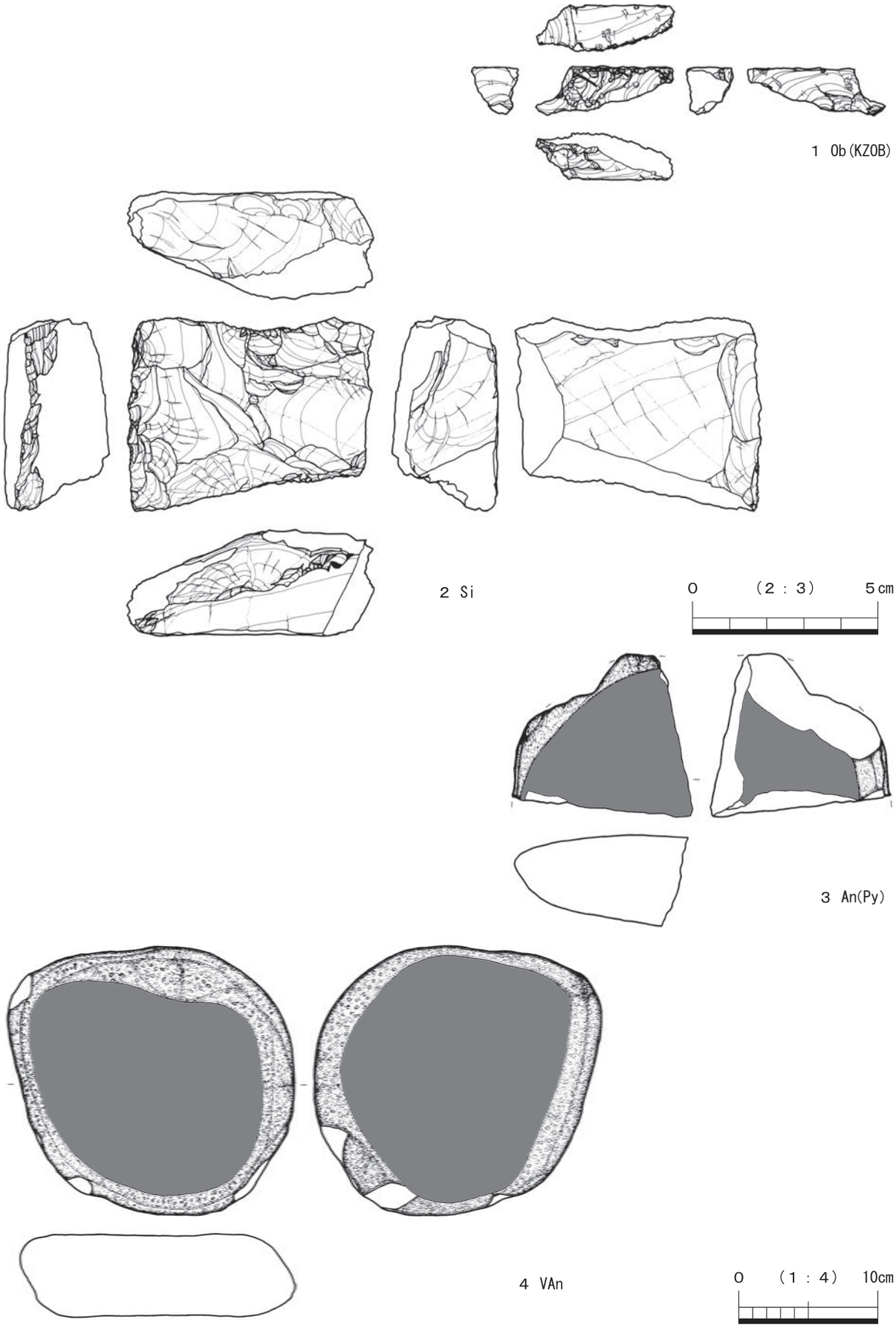
2 FSS

0　（２：３）　５cm

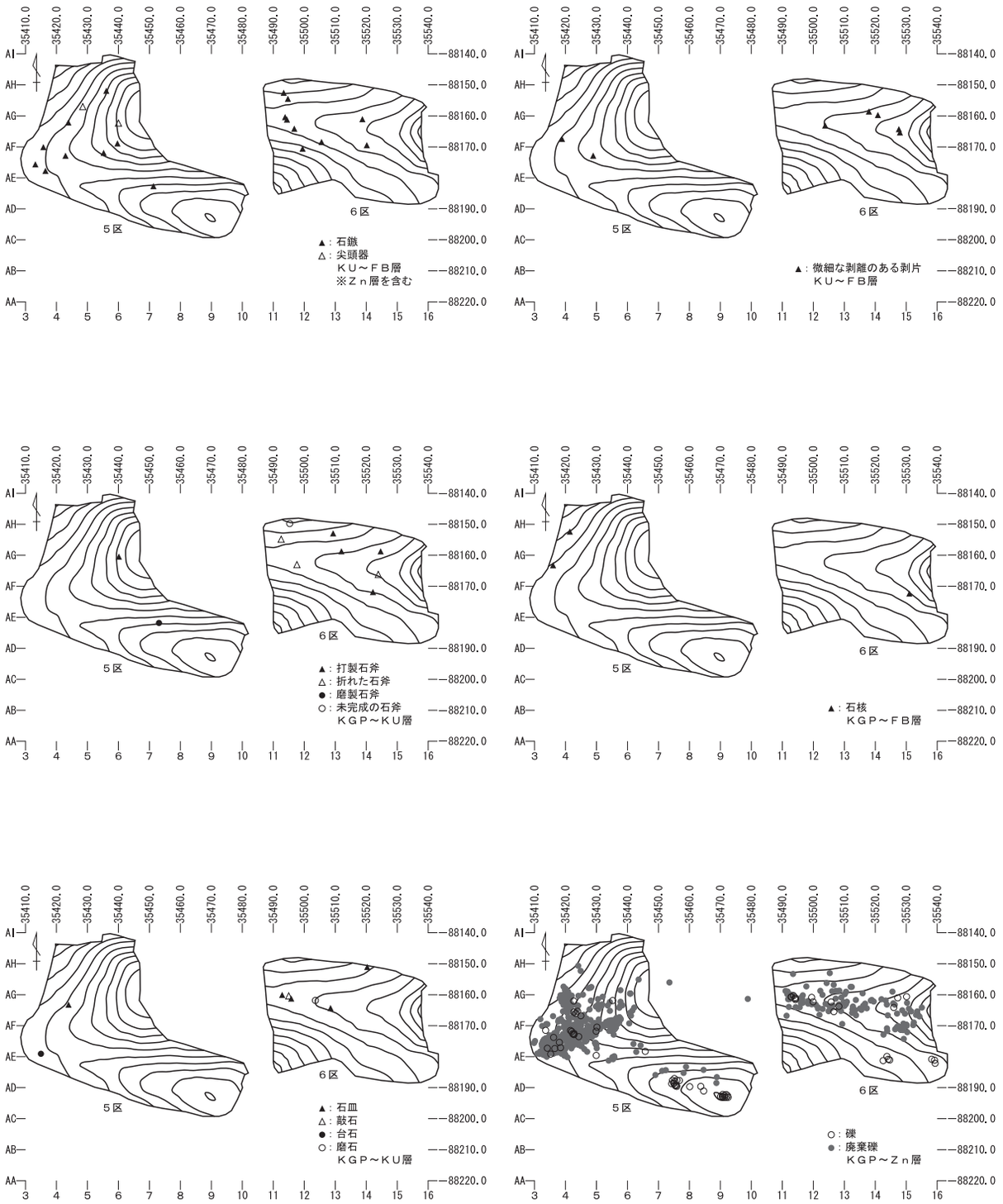
第57図　縄文石器（４）



第58図　縄文石器（5）



第59図　縄文石器（６）



0　（1：2000）　50m

等高線はＹＬＵ層上面

第60図　葛山上條遺跡出土石器・礫分布図（縄文時代）

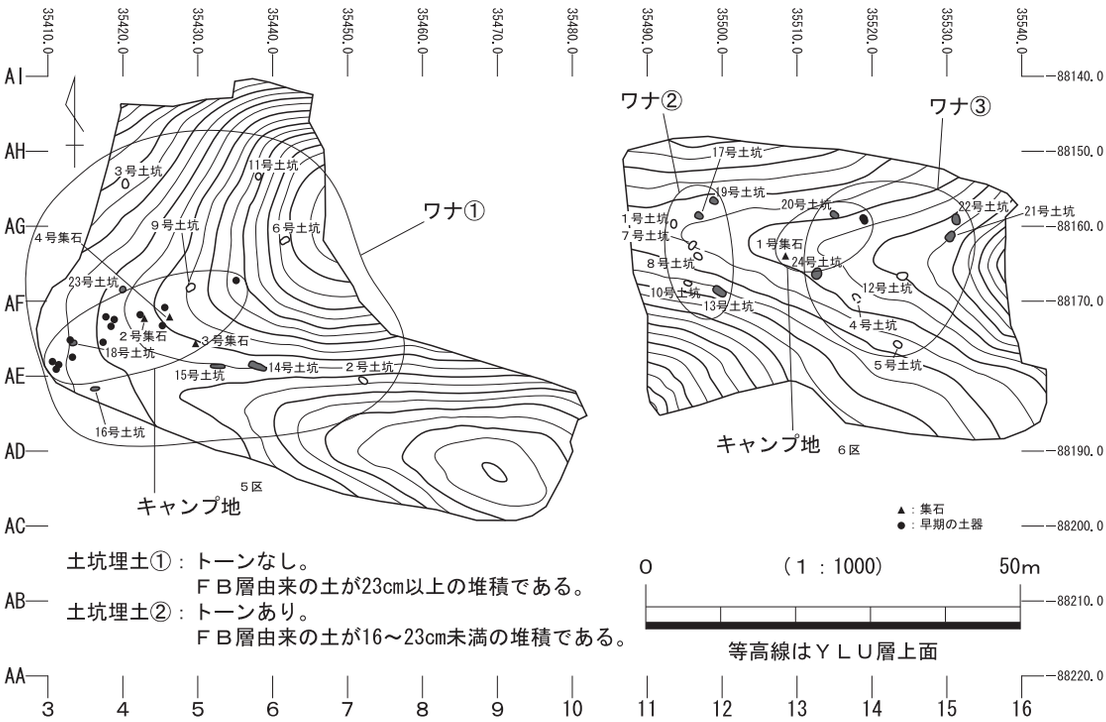
第４節　調査のまとめ

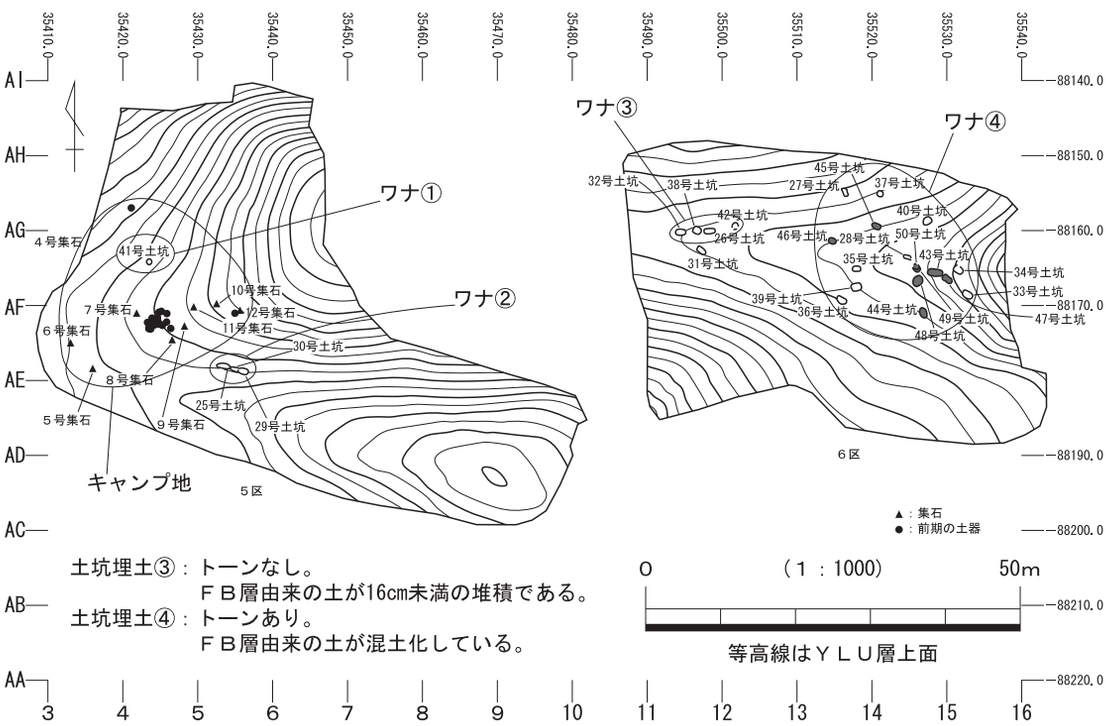
１　調査の成果

旧石器時代の調査では、休場層、第Ⅰスコリア層、第Ⅲスコリア層第Ⅰ黒色帯において、遺構または遺物を確認した。休場層では、礫群２基、石器集中１基、被熱礫出土の２地点、点在的な石器出土範囲７地点を確認した。遺物は、主に休場層上～中層から出土しており、ナイフ形石器３点、細石刃１点、微細剥離のある剥片２点、剥片９点、砕片１点、礫石器４点、被熱礫３点を数え、その出土量は少ない。時期は、愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）の第４期に位置づけられる。しかし細石刃が出土している点を考慮すると、第５期も若干混在しているのかもしれない。続いて第Ⅰスコリア層では、点在的な石器出土範囲１地点を確認した。遺物は、黒曜石製の微細剥離のある剥片及び砕片が11点を出土しただけである。接合作業及び黒曜石産地推定の結果、出土石器の全ては同一個体である可能性が高い。接合状態では、微細剥離のある剥片を呈し、剥片中位にて分離した後は、分離した個体ごとに小剥片を剥離している状況を確認した。時期は、愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（笹原1995）の第３期に位置づけられる。さらに第Ⅲスコリア層第２黒色帯では、点在的な石器出土範囲１地点を確認した。遺物は、ガラス質安山岩製の剥片が１点のみである。時期は、愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（笹原1995）の第２期に位置づけられる。以上のように本遺跡では、愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年第２～５期に比定される石器が確認された。しかし、各期に比定される石器の出土量が少ないことから、石器製作を積極的に行なった場所ではないと判断される。人の痕跡が希薄であることから、おそらく短期的なキャンプ地として土地利用されていたと思われる。

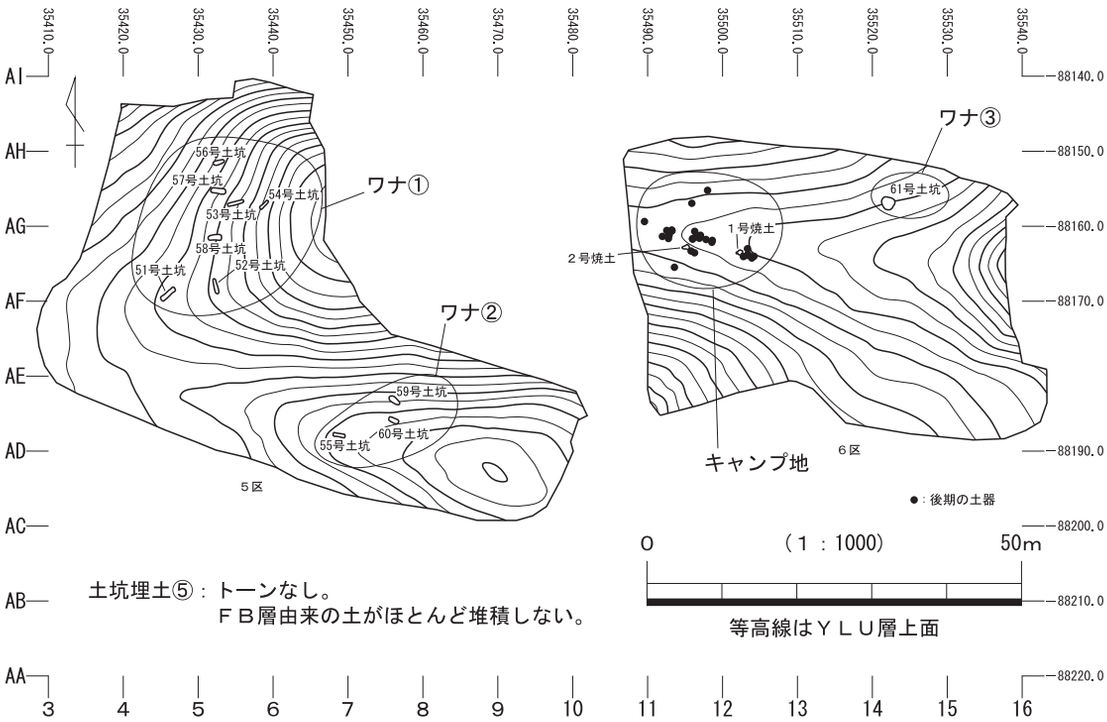
縄文時代の調査では、陥穴状土坑61基の他に集石12基と焼土２基を検出した。遺構の構成から判断すると、狩猟する場所・火を使う作業場所として土地利用されていると考えられる。出土土器は少量であり、時期は早期前半の撚糸文及び無文土器、前期後半の諸磯ｂ式土器、後期前半の堀之内１式土器である。早期の土器は、漸移層～暗褐色土層にかけて攪拌した状態で出土しており、早期以降の土地利用が影響していると思われる。一方、前期の土器は栗色土層を主体に、後期の土器はカワゴ平パミスを含む土層を主体に出土している。

陥穴状土坑は、早期～前期の所産と後期の所産とに分けて、第７表に記載している。早期～前期の陥穴状土坑は、埋土下半に堆積する富士黒色土層由来の流入土を根拠として時期を推定している。陥穴状土坑は、通常開口した状態で、使用後はそのまま放置している可能性が想定できる。そのため、陥穴状土坑が、谷部の高い斜面部から低い緩斜面部にかけて構築される場合、土坑の埋没は、構築する立地により埋没の進行度合いは異なると考えられる。本遺跡における堆積の進行方向は、高い斜面部から低い緩斜面部へと流入し、低い部分では厚く堆積するものと想定される。しかし、富士黒色土層由来の埋土を基準に考えると、低い緩斜面部に位置する陥穴状土坑の中でも、埋土の厚さにバラツキが見られる。本報告では、埋土の厚さを、埋没の時間差と考え、土坑の構築時期に差が見られるのではないかと想定した。その結果、①富士黒色土層由来の埋土が23㎝以上で厚くレンズ状に堆積するもの（１～12号土坑）、②富士黒色土層由来の埋土が16～23㎝未満でレンズ状に堆積するもの（13～24号土坑）、③富士黒色土層由来の埋土が16㎝未満でレンズ状に堆積するもの（25～42号土坑）、④富士黒色土層～栗色土層の混土由来の埋土がレンズ状に堆積するもの（43～50号土坑）、というように土坑を分類した。その中で、富士黒色土層由来の埋土が比較的厚い①・②を早期と想定した。そして③・④を前期と想定した。





第61図　葛山上條遺跡遺構変遷図（1）



第62図　葛山上條遺跡遺構変遷図（２）

後期の土坑（51 ～ 61号土坑）については、①遺構検出面が暗褐色土層であること、②埋土下半に堆積する暗褐土層由来の流入土、③埋土下半～中位に含まれるカワゴ平パミス・砂沢スコリア、④富士黒色土層由来の埋土が殆ど堆積しないことを根拠として、後期と推定した。

集石の構築時期は、集石の検出面及びその検出深度幅から判断して、休場層上面～富士黒色土層にかけて検出した集石を早期、栗色土層から検出した集石を前期の所産と推定した。また焼土２基の構築時期は、遺構検出面が暗褐色土層である点を根拠として、後期の所産と推定した。

上述した土器と遺構の時期を前提にして、本遺跡における縄文時代の土地利用の変遷を概観してみた（第62・63図、第５表）。早期では、谷部の低い場所から谷部緩斜面の比較的高い場所にかけて、広範囲に陥穴（ワナ）を設置している。火を使った作業場（キャンプ地）は、谷部の平坦面と谷部緩斜面の比較的高い場所に構築されている。特に後者におけるキャンプ地の利用は多い。前期では、主に谷部の低い場所において集中的に陥穴（ワナ）を設置している。火を使った作業場（キャンプ地）は、谷部緩斜面の比較的高い場所に構築されており、その場所におけるキャンプ地の利用は多い。後期では、谷部緩斜面の比較的高い場所において陥穴（ワナ）を設置している。陥穴を多く構築した場所から少し離れた谷部の平坦面に、火を使った作業場（キャンプ地）が構築されている。

縄文時代の土地利用の変遷を検討した結果、時期ごとによって、ワナの設置場所、キャンプ地の設営場所が異なることが判明した。

２　陥穴状土坑について

愛鷹山南東麓では、旧石器時代から縄文時代にかけての陥穴状土坑の検出が多い傾向にある。近年、今村啓爾氏は、第二東名建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果を加味した上で、箱根南西山麓及び愛鷹山南東山麓で検出した陥穴状土坑について、その形態及び配列、遺跡の立地、民族誌事例を参照して、陥穴猟の方法を推定している（今村2004・2006）。

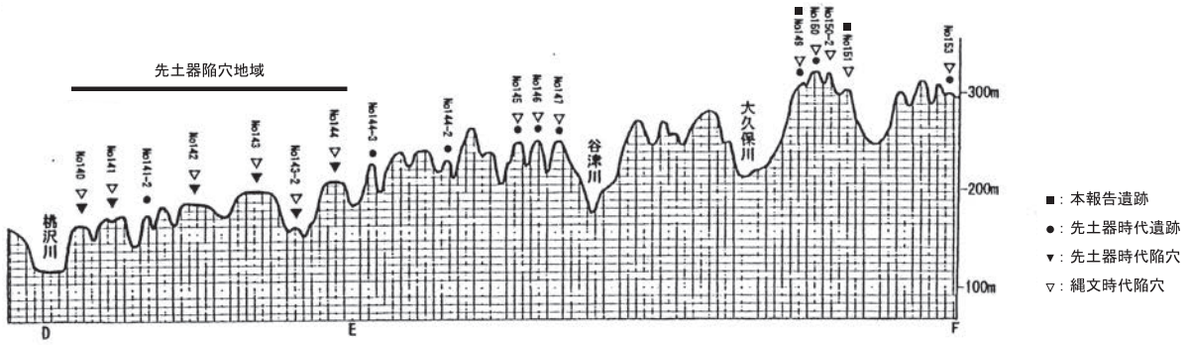
今村氏の分析結果（第63図）によると、旧石器時代の陥穴状土坑（第Ⅲ黒色帯期のもの）の立地は、尾根地形が途切れずに続く、上が平坦、両側が切り立つ地形に限定され、尾根に沿って動物の群れを追い落とすことができる地形に構築されると分析する。一方、縄文時代の陥穴状土坑の立地は、高く起伏の激しい地域から、低くなだらかに起伏する地域まで広く分布し、地形条件の制約が緩いと分析する。また縄文時代の陥穴状土坑は、「動物が自然に掛かるのを待ち、見回る」という陥穴猟を想定しており、その対象獣は、主にイノシシ・シカであるという。

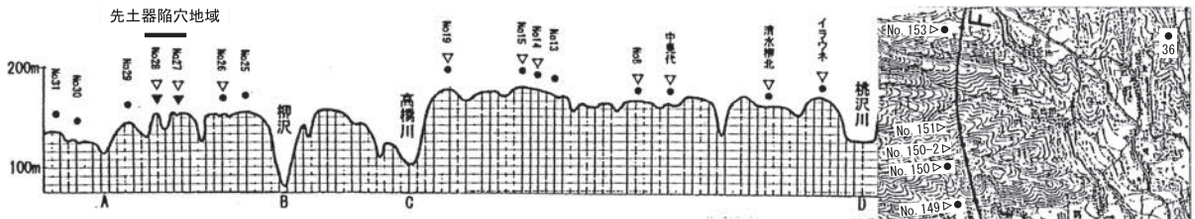
本遺跡周辺の気象では、「序章第２節１」で述べたとおり、冬は霜が降りる程度である。シカの生態分析（高槻2006）とイノシシの生態分析（常田1982）の研究成果によれば、現在、生息するシカ・イノシシの分布は、積雪30 ～ 50㎝以下の範囲に分布する傾向にあると述べている。愛鷹山麓・箱根山麓において、現在でもシカ・イノシシが生息している理由の１つとして、まず気象条件（高槻2006）が整っているからと考えられる。

今村氏が推定した通り、おそらく当地域ではイノシシ・シカを対象に、陥穴状土坑を設置したと思われる。さらに今村氏は、楕円形を呈する陥穴状土坑はイノシシを対象としたもの、溝状を呈する陥穴状土坑はシカを対象としたものと述べており、その罠猟の方法は、待機猟であると推定している。そのように解釈した場合、早期・前期は主にイノシシを対象に罠を仕掛けた可能性が考えられる。一方、後期は主にシカを対象に罠を仕掛けた可能性が考えられる。また各時期の罠の近くにキャンプ地が設営されているのは、おそらく対象獣が罠に引っ掛かるのを待つための場所だった可能性が考えられる。あるいは、民俗事例に見られるような陥穴を利用した集団猟（野本1986、長谷川1995・1996・1998）も想起できるかもしれない。しかし、本遺跡では、遺物の出土量が少ない傾向にあり、集団が占有していたとは想像できそうにない。少なくとも、対象獣を捕獲した際に運搬できる人数がいれば良いような状況と思われる。

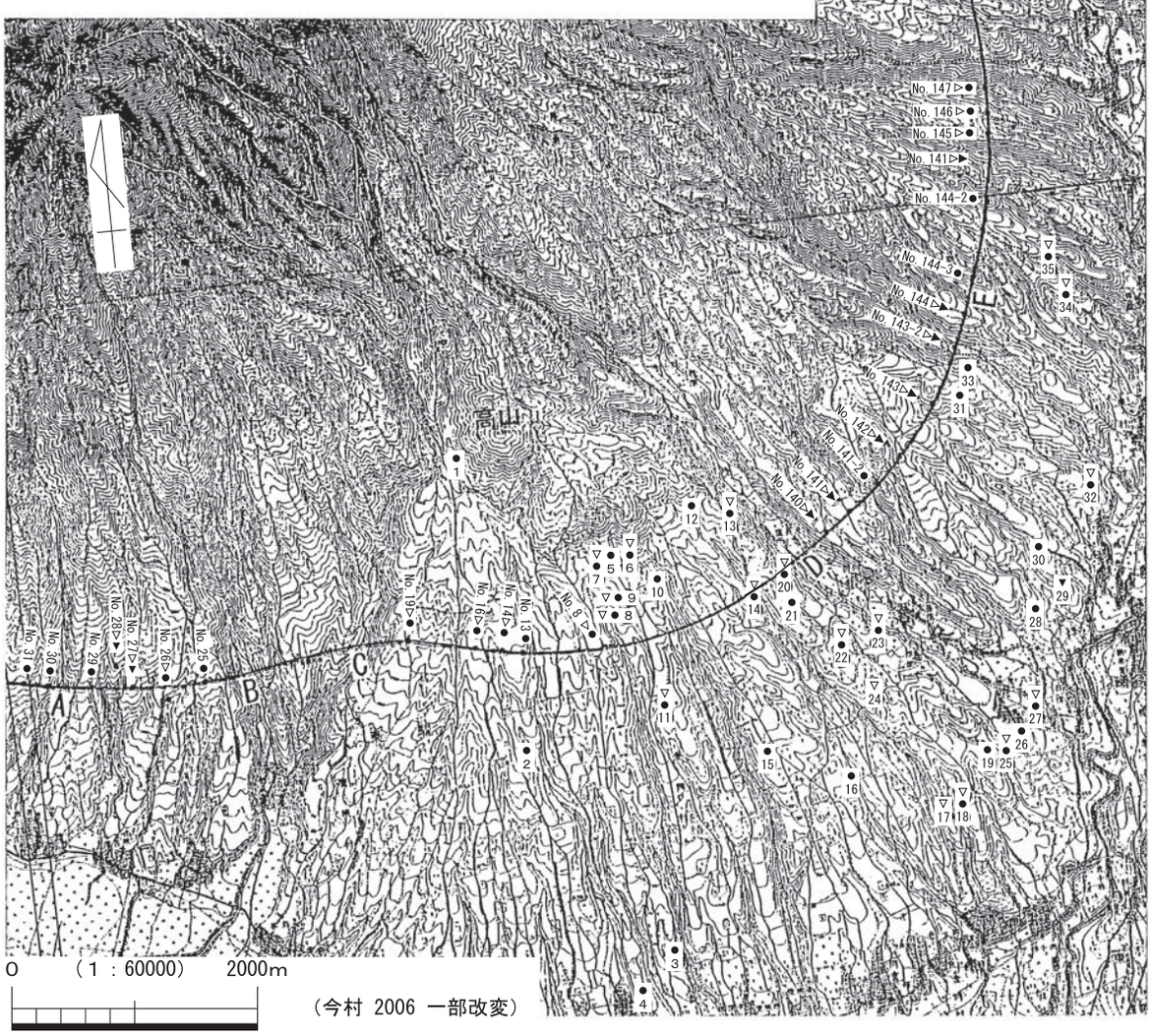
しかしながら、イノシシ・シカであった可能性は、動物遺存体が出土していない限りは正確には分からない。本報告の遺跡は、火山に由来する酸性土壌の上で、生活痕跡を残しているため、骨や角のような動物遺存体は溶けて遺失している可能性が高い。仮に動物遺存体が出土した場合、どのようなことが考えられるだろうか。内山純蔵氏の研究成果（内山2005）によると、イノシシとシカの動物遺存体が出土する遺跡（キャンプ地と集落地）では、その身体部位において出土頻度差が示される傾向にあるという。その出土頻度差から類推される狩猟活動の流れとして、対象獣の捕獲→解体→分配の流れが想定されるという。本遺跡では、動物遺存体が出土していないため、上述した対象獣の捕獲→解体→分配の一連の狩猟活動までは想定できない。少なくとも対象獣の捕獲までは想定できるが、その後の解体・分配については不明である。

今後の陥穴状土坑の研究課題として、上述した捕獲獣の解体場所や分配方法についても、検討していかなければならないといえよう。





第二東名自動車道路建設地に沿う地形断面図



（今村 2006 一部改変）

第63図　愛鷹南東山麓の遺跡分布図

第５表　愛鷹南東山麓の遺跡分布

●・▼・▽は、第 63 図と対応する。

	第 63 図 対照番号	遺跡名	市町村	先土器 文化層	先土器 陥穴	縄文 陥穴
第二東名自動車道路内の関連遺跡	№153	棚返	裾野市			▽
	№151	葛山大端ヶⅡ	裾野市			▽
	№150-2	葛山大端ヶⅢ	裾野市			▽
	№150	葛山大端ヶⅠ	裾野市	●		▽
	№149	葛山上條	裾野市	●		▽
	№147	佛ヶ尾	裾野市	●		▽
	№146	下ノ大窪	裾野市	●		▽
	№145	老平	裾野市	●		▽
	№144-2	入ノ洞Ｂ	裾野市	●		
	№144-3	内野山Ⅴ	裾野市	●		
	№144	塚松	裾野市	●	▼22	▽
	№143-2	梅ノ木沢	長泉町	●	▼1	▽
	№143	東野	長泉町	●	▼27	▽
	№142	富士石	長泉町	●	▼12と単独1	▽
	№141-2	八分平Ｅ	長泉町	●		
	№141	細尾	長泉町	●	▼14	▽
	№140	向田Ａ	長泉町	●	▼5	▽
	№8	西洞	沼津市	●		▽
	№13	イタドリＡ	沼津市	●		
	№14	イタドリＢ	沼津市	●		▽
	№15	イタドリＣ	沼津市	●		▽
	№19	元野	沼津市	●		▽
	№25	秋葉林	沼津市	●		
	№26	的場古墳群	沼津市	●		▽
	№27	渕ヶ沢	沼津市	●	▼10	▽
	№28	鎌沢	沼津市	●	▼単独1	▽
	№29	銭神	沼津市	●		
	№30	茗荷沢	沼津市	●		
	№31	藤ボサ	沼津市	●		
第二東名自動車道路線外の関連遺跡	1	休場	沼津市	●		
	2	西大曲	沼津市	●		
	3	円丸	沼津市	●		
	4	稲荷林	沼津市	●		
	5	葛原沢第Ⅳ	沼津市	●		
	6	土手上	沼津市	●		▽
	7	西洞	沼津市	●		▽
	8	中見代	沼津市	●		▽
	9	広合	沼津市	●		▽
	10	二ツ洞	沼津市	●		
	11	北神場土手	沼津市	●		▽
	12	拓南東	沼津市	●		
	13	尾上イラウネ	沼津市	●		▽
	14	清水柳北	沼津市	●		▽
	15	上松沢平	沼津市	●		
	16	寺林	沼津市	●		
	17	大谷津	沼津市			▽
	18	子ノ神	沼津市	●	▼4	▽
	19	柏葉尾	沼津市	●	▼4	
	20	イラウネ	長泉町	●		▽
	21	野台	長泉町	●		
	22	中峯	長泉町	●		▽
	23	桜畑上	長泉町	●		▽
	24	柏窪Ｂ	長泉町			▽
	25	陣馬上Ｂ	長泉町	●		▽
	26	平畦	長泉町	●		
	27	西願寺	長泉町	●		▽
	28	上野	長泉町	●		
	29	鉄平	長泉町	●	▼11	
	30	池田Ｂ	長泉町	●		
	31	八分平Ｂ	長泉町	●		
	32	上山地	長泉町	●		▽
	33	ＣＲ 35	長泉町	●		
	34	富沢内野山Ⅰ西	裾野市	●	▼2	▽
	35	富沢内野山Ⅲ北	裾野市	●		▽
	36	上川	裾野市	●		

※本表は、（今村 2006）を参照し、一部改変している。

参考文献

今村啓爾 2004「箱根南西山麓先土器時代陥穴の使用方法」考古学研究第51巻第1号 18 ‐ 33頁 考古学研究会

今村啓爾 2006「先土器時代陥穴の使用方法―静岡県愛鷹山麓BBⅢ期の場合―」『生業の考古学』27 ‐ 38頁 同成社

市立市川考古博物館1982『シンポジウム堀之内式土器資料集』

内山純蔵 2005「第３章縄文人の移動生活―縄文時代の生活パターンの変遷と動因」『日本の狩猟採集文化―野生動物とともに生きる』73 ‐ 97頁 世界思想社

加納　実 2008「堀之内式土器」『総覧縄文土器』586－593頁　アム・プロモーション

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2004『静岡県埋蔵文化財　年報20』

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2005『静岡県埋蔵文化財　年報21』

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007『静岡県埋蔵文化財　年報23』

笹原芳朗 1995「第２期・第３期の石器群」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ　愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』22 ‐ 27頁　静岡県考古学会

関根愼二 2008「諸磯式土器」『総覧縄文土器』282－289頁　アム・プロモーション

高槻成紀 2006『シカの生態誌』東京大学出版会

常田邦彦 1982「イノシシの分布」『アニマ』46

野林厚志 2008『イノシシ狩猟の民族考古学』御茶の水書房

野本寛一 1986「狩猟構造とその周辺－生態民俗学の視座から－」静岡県史研究 創刊号110－160頁　静岡県教育委員会

長谷川　豊 1995「縄文時代におけるシカ猟の技術的基盤についての研究－静岡県・大井川流域の民俗事例調査から－」静岡県考古学研究№27　1－12頁　静岡県考古学会

長谷川　豊 1996「縄文時代におけるイノシシ猟の技術的基盤についての研究－静岡県・大井川上流地域の民俗事例調査から－」動物考古学第6号　動物考古学研究会

長谷川　豊 1996「縄文時代におけるイノシシ猟の技術的基盤についての研究（2）－『猪狩古秘伝』との比較から－」静岡県考古学研究№28　1－12頁　静岡県考古学会

長谷川　豊 1998「縄文時代におけるイノシシ猟の技術的基盤についての研究（3）－民俗・民族事例の比較検討から－」静岡県考古学研究№30　107－120頁　静岡県考古学会

前嶋秀張 1995「第４期・第５期の石器群」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ　愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』28 ‐ 34頁　静岡県考古学会

松永篤知 2008「網代・敷物」『総覧縄文土器』942－945頁　アム・プロモーション

第５節　遺構・遺物観察表

第６表　旧石器時代の遺構計測表

図版	挿図	遺構名	区	グリッド	検出層位	標高（m）	立地	愛鷹・箱根山旧石器編年	長軸（cm）	短軸（cm）	出土点数
6-2	10	１号礫群	6	AF-11	休場層上層	298.4	谷部緩斜面	第４期	161	58	礫６点
6-3	10	２号礫群	5	AE-4	休場層上層～休場層第Ⅰスコリア	303.6 ～ 303.7	谷部緩斜面	第４期	180	47	礫６点
5-3	12	１号石器集中	6	AF-12	休場層上層	297.47 ～ 296.35	谷部緩斜面	第４期	212	121	４点

第７表　縄文時代の土坑計測表

図版	挿図	遺構名	区	グリッド	検出層位	標高（m）	立地	帰属時期	平面形	長軸（cm）	短軸（cm）	検出面からの最大深度（cm）	小穴数	新旧関係
	21	１号土坑	6	AF・AG-11	休場層上面	299 ～ 298.5	谷部	早期～前期	不整楕円形	114	74	82		
	21	２号土坑	5	AD-7	休場層上面	306.5 ～ 306	緩斜面	早期～前期	楕円形	122	75	147		
	21	３号土坑	5	AG-3・4	休場層上面	308 ～ 307.5	緩斜面	早期～前期	不整楕円形	120	85	106		
	21	４号土坑	6	AE・AF-13	休場層上面	298 ～ 297.5	谷部	早期～前期	不整楕円形	145	104	95		
	22	５号土坑	6	AE-14	休場層上面	299 ～ 298.5	緩斜面	早期～前期	楕円形	116	80	70	2	
	22	６号土坑	5	AF-6	休場層上面	301.5 ～ 301	谷部	早期～前期	楕円形	130	72	62	2	
2-1	22	７号土坑	6	AF-11	休場層上面	298.5	谷部	早期～前期	楕円形	126	76	52	1	
	23	８号土坑	6	AF-11	休場層上面	299 ～ 298.5	谷部	早期～前期	楕円形	120	82	98		
	23	９号土坑	5	AF-4	休場層上面	304.5 ～ 304	谷部	早期～前期	不整楕円形	130	84	94		
	23	10 号土坑	6	AF-11	休場層上面	300 ～ 299.5	谷部	早期～前期	不整楕円形	100	62	108		
	23	11 号土坑	5	AG-5	休場層上面	303.5 ～ 303	緩斜面	早期～前期	楕円形	132	96	98		
	24	12 号土坑	6	AF-14	休場層上面	297	谷部	早期～前期	不整楕円形	142	102	116	1	
	25	13 号土坑	6	AF-11・12	休場層上面	300 ～ 299.5	緩斜面	早期～前期	長楕円形	188	96	92		
	25	14 号土坑	5	AE-5	休場層上面	305.5	緩斜面	早期～前期	隅丸長方形	236	86	42		
	25	15 号土坑	5	AE-5	休場層上面	305.5	緩斜面	早期～前期	長楕円形	194	54	56		
	26	16 号土坑	5	AD-3	休場層上面	306.5 ～ 306	緩斜面	早期～前期	長楕円形	114	52	24		
	26	17 号土坑	6	AG-11	休場層上面	299 ～ 298.5	谷部	早期～前期	不整楕円形	112	84	18		
	27	18 号土坑	5	AE-3	休場層上面	306.5	緩斜面	早期～前期	楕円形	94	72	32		
	27	19 号土坑	6	AG-11	休場層上面	299 ～ 298.5	緩斜面	早期～前期	楕円形	104	84	96		
	27	20 号土坑	6	AG-13	休場層上面	298.5 ～ 298	谷部	早期～前期	楕円形	124	82	40		
	27	21 号土坑	6	AF-14・15	休場層上面	296.5	谷部	早期～前期	不整楕円形	134	112	80	3	
	28	22 号土坑	6	AG-15	休場層上面	297 ～ 296.5	谷部	早期～前期	不整楕円形	146	100	94	2	
	28	23 号土坑	5	AF-3・4	休場層上面	306 ～ 305.5	緩斜面	早期～前期	不整円形	84	80	28		
	28	24 号土坑	6	AF-13	休場層上面	298 ～ 297.5	谷部	早期～前期	不整円形	140	130	60		
	28	25 号土坑	5	AE-5	休場層上面	305.5	緩斜面	早期～前期	長楕円形	178	68	30		
	29	26 号土坑	6	AG・AF-11	休場層上面	298.5 ～ 298	谷部	早期～前期	隅丸長方形	144	70	74		
	29	27 号土坑	6	AG-13	休場層上面	299 ～ 298.5	谷部	早期～前期	不整長方形	112	64	36		
2-1	29	28 号土坑	6	AF-14	休場層上面	297 ～ 296.5	谷部	早期～前期	隅丸長方形	100	46	46	2	
	25	29 号土坑	5	AE-5	休場層上面	305.5	緩斜面	早期～前期	長楕円形	150	82	38		17 号（古）
	26	30 号土坑	5	AE-5	休場層上面	305.5	緩斜面	早期～前期	長楕円形	116	50	28		16 号（新）
	26	31 号土坑	6	AF-11	休場層上面	298.5 ～ 298	谷部	早期～前期	不整長楕円形	134	70	44	2	
2-3	29	32 号土坑	6	AG・AF-11	休場層上面	299 ～ 298.5	谷部	早期～前期	隅丸長方形	134	78	44	5	
2-2	30	33 号土坑	6	AF-15	休場層上面	296 ～ 295.5	谷部	早期～前期	不整楕円形	140	98	68	3	
	30	34 号土坑	6	AF-15	休場層上面	296 ～ 295.5	谷部	早期～前期	不整楕円形	130	98	94	1	
3-1	30	35 号土坑	6	AF-13	休場層上面	297.5 ～ 297	谷部	早期～前期	不整楕円形	112	66	30	4	
	30	36 号土坑	6	AF-13	休場層上面	298 ～ 297.5	谷部	早期～前期	不整楕円形	138	88	80	1	
	31	37 号土坑	6	AG-14	休場層上面	298.5 ～ 298	谷部	早期～前期	隅丸方形	76	74	62		
	31	38 号土坑	6	AG・AF-11	休場層上面	298.5 ～ 298	谷部	早期～前期	隅丸方形	108	92	86		
	31	39 号土坑	6	AF-13	休場層上面	297.5	谷部	早期～前期	隅丸長方形	134	106	66	2	
	32	40 号土坑	6	AG-14	休場層上面	297.5 ～ 297	谷部	早期～前期	隅丸長方形	114	98	66	2	
	32	41 号土坑	5	AF-4	休場層上面	306 ～ 305.5	谷部	早期～前期	円形	72	70	90	1	
	32	42 号土坑	6	AG-12	休場層上面	298.5 ～ 298	谷部	早期～前期	円形	82	82	82	2	
	33	43 号土坑	6	AF-14	休場層上面	296.5 ～ 296	谷部	早期～前期	隅丸長方形	100	46	48	1	
	33	44 号土坑	6	AE-14	休場層上面	297.5 ～ 297	谷部	早期～前期	楕円形	140	88	40		
	33	45 号土坑	6	AG-14	休場層上面	297.5	谷部	早期～前期	楕円形	120	70	38		
	33	46 号土坑	6	AF-13	休場層上面	297.5	谷部	早期～前期	楕円形	102	76	24		
	34	47 号土坑	6	AF-14・15	休場層上面	296.5 ～ 296	谷部	早期～前期	不整楕円形	142	80	88		
	34	48 号土坑	6	AF-14	休場層上面	297 ～ 296.5	谷部	早期～前期	楕円形	144	122	90	1	
	34	49 号土坑	6	AF-14	休場層上面	297 ～ 296.5	谷部	早期～前期	楕円形	92	76	30		
	34	50 号土坑	6	AF-14	休場層上面	297 ～ 296.5	谷部	早期～前期	楕円形	90	36	86		
3-2	35	51 号土坑	5	AF-4	暗褐色土層	305 ～ 304.5	緩斜面	後期	隅丸長方形	234	64	74	5	
3-3	35	52 号土坑	5	AF-5	暗褐色土層	304 ～ 303.5	緩斜面	後期	不整隅丸長方形	206	48	48	7	
	35	53 号土坑	5	AG-5	暗褐色土層	304 ～ 303.5	緩斜面	後期	隅丸長方形	218	46	46	6	
	35	54 号土坑	5	AG-5	暗褐色土層	302.5 ～ 302	緩斜面	後期	隅丸長方形	146	44	26	5	
	36	55 号土坑	5	AD-6	暗褐色土層	308.5 ～ 308	緩斜面	後期	隅丸長方形	160	50	58	3	
	36	56 号土坑	5	AG-5	暗褐色土層	305.5 ～ 305	緩斜面	後期	隅丸長方形	148	58	46	8	
	37	57 号土坑	5	AG-5	暗褐色土層	305.5 ～ 305	緩斜面	後期	隅丸長方形	196	72	114		
	37	58 号土坑	5	AF-5	暗褐色土層	304	緩斜面	後期	隅丸長方形	180	72	74		
	37	59 号土坑	5	AD-7	暗褐色土層	307.5	斜面部	後期	長楕円形	162	74	130		
	38	60 号土坑	5	AD-7	暗褐色土層	308.5 ～ 308	斜面部	後期	隅丸長方形	134	62	96		
	38	61 号土坑	6	AG-14	暗褐色土層	298	谷部	後期	不整楕円形	186	172	142		

※標高値は、休場層上面の等高値である。

第８表　縄文時代の集石計測表

図版	挿図	遺構名	区	グリッド	検出層位	標高（m）	立地	帰属時期	長軸（cm）	短軸（cm）	礫の点数
4-1	39	１号集石	6	AF-12	漸移層～休場層	298 ～ 297.5	谷部緩斜面	早期	76	34	3
	39	２号集石	5	AE-4	富士黒色土層	305.5 ～ 305	谷部緩斜面	早期	93	59	4
	40	３号集石	5	AE-4・5	富士黒色土層	305.5 ～ 305	谷部緩斜面	早期	86	39	6
	40	４号集石	5	AE-4	富士黒色土層	305 ～ 304.5	谷部緩斜面	早期	153	129	17
	41	５号集石	5	AE-3	栗色土層	306.5 ～ 306	谷部緩斜面	前期	99	58	22
	41	６号集石	5	AE-3	栗色土層	306.5	谷部緩斜面	前期	76	65	26
	42	７号集石	5	AE-4	栗色土層	305.5 ～ 305	谷部緩斜面	前期	145	141	39
	43	８号集石	5	AE-4	栗色土層	305.5 ～ 305	谷部緩斜面	前期	82	34	7
	43	９号集石	5	AE-4	栗色土層	305 ～ 304.5	谷部緩斜面	前期	144	56	9
	44	10 号集石	5	AF-5	栗色土層	304 ～ 303.5	谷部緩斜面	前期	71	58	16
	44	11 号集石	5	AE-4	栗色土層	304.5 ～ 304	谷部緩斜面	前期	88	38	10
4-2	45	12 号集石	5	AE-5	栗色土層	303.5	谷部緩斜面	前期	149	122	73

※標高値は、休場層上面の等高値である。

第９表　縄文時代の焼土計測表

図版	挿図	遺構名	区	グリッド	検出層位	標高（m）	立地	帰属時期	平面形	長軸（cm）	短軸（cm）	検出面からの最大深度（cm）
	46	１号焼土	6	AF-12	暗褐色土層	299.8	谷部	後期	不整楕円形	91	63	8
4-3	46	２号焼土	6	AF-11	暗褐色土層	300.1	谷部	後期	不整三角形	96	64	13

※標高値は、休場層上面の等高値である。

第10表　葛山上條遺跡　出土土器一覧表

図版	挿図	遺物番号	区	グリッド	層位	時期	型式	接合	色調	胎土	備考
11-5	48-8	37	5	AE-3	不明	早期			表：10YR 5/3 裏：10YR 6/4	輝石を極少数含む、黒・白い粒子を少なく含む。	ナデ、無文。
12-2	52-2	108	6	AF-12	KGP	後期	堀之内１式		表：2.5Y 3/3 裏：7.5YR 6/6	白色・赤色の粒子を多く含む、少し粗い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、沈線。
12-2	52-4	109	6	AF-12	KGP	後期	堀之内１式	5	表：10YR 4/2 裏：2.5Y 4/2	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む。	ナデ、RL 縄文、沈線。
12-2	52-5	110	6	AF-12	KGP	後期	堀之内１式		表：10YR 6/2 裏：2.5Y 5/2	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む。	ナデ、RL 縄文、沈線。
12-2	52-3	111	6	AF-12	KGP	後期	堀之内１式		表：2.5Y 4/2 裏：2.5Y 3/2	白い粒子を少し含む。	ナデ、RL 縄文、沈線。
12-2	52-1	112	6	AF-12	KGP	後期	堀之内１式		表：2.5Y 5/2 裏：2.5Y 5/6	白い粒子を少し含む、角閃石と雲母を少し含む。	ナデ、RL 縄文、沈線。
12-2	52-12	115	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式		表：5YR 5/6 裏：5YR 7/6	1 ～ 2㎜の粒子を少し含む、白・黒・赤色の粒子を少し含む。	ナデ、網代底。
12-2	52-13	116	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式	9	表：2.5Y 6/2 裏：7.5YR 6/4	白い岩片を少し含む、白色・赤色の粒子を少し含む。	ナデ、網代底。
12-2	52-9	117	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式		表：2.5Y 5/3 裏：2.5Y 3/2	輝石・石英の粒子を極少数含む。	ナデ、胴部下半部か。
12-2	52-10	118	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式	7	表：10YR 6/4 裏：7.5YR 6/4	白い岩片を少し含む、角閃石を少し含む。	ナデ、網代底。
12-2	52-8	119	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式		表：10YR 5/3 裏：7.5YR 6/4	長石・輝石の粒子を極少数含む。	ナデ、胴部下半部か。
12-2	52-10	120	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式	7	表：10YR 6/4 裏：7.5YR 6/4	白い岩片を少し含む、角閃石を少し含む。	ナデ、網代底。
12-2	52-13	121	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式	9	表：2.5Y 6/2 裏：7.5YR 6/4	白い岩片を少し含む、白色・赤色の粒子を少し含む。	ナデ、網代底。
12-2	52-10	122	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式	7	表：10YR 6/4 裏：7.5YR 6/4	白い岩片を少し含む、角閃石を少し含む。	ナデ、網代底。
12-2	52-10	123	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式	7	表：10YR 6/4 裏：7.5YR 6/4	白い岩片を少し含む、角閃石を少し含む。	ナデ、網代底。
12-2	52-6	124	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式		表：5YR 5/4 裏：10YR 6/4	白い砂粒を極少量含む。	ナデ、胴部下半部か。
13-1	53-5	125	6	AF-11	KGP	後期			表：10YR 6/3 裏：10YR 6/4	白い粒子を少し含む、砂粒を含む。	ナデ、R 撚糸文か。
12-2	52-13	126	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式	9	表：2.5Y 6/2 裏：7.5YR 6/4	白い岩片を少し含む、白色・赤色の粒子を少し含む。	ナデ、網代底。
12-2	52-10	128	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式	7	表：10YR 6/4 裏：7.5YR 6/4	白い岩片を少し含む、角閃石を少し含む。	ナデ、網代底。
13-1	53-8	137	6	AG-11	KGP	後期		6	表：5YR 5/6 裏：2.5Y 4/1	白い粒子を多く含む。	底部片、ナデ。
13-1	53-8	138	6	AG-11	KGP	後期		6	表：5YR 5/6 裏：2.5Y 4/1	白い粒子を多く含む。	底部片、ナデ。
13-1	53-9	141	6	AF-11	KGP	後期			表：2.5Y 6/3 裏：10YR 7/3	白い粒子を多く含む、1 ～ 2㎜の粒子を少し含む。	底部片、ナデ。
13-1	53-4	142	6	AF-11	KGP	後期			表：5YR 6/6 裏：10YR 5/4	白い砂粒を少量含む。	ナデ、R 撚糸文。
13-1	53-1	143-1	6	AF-11	KGP	後期			表：5YR 5/6 裏：5YR 5/4	白い粒子を多く含む、黒い粒子を少し含む。	ナデ、R 撚糸文。
13-1	53-2	143-2	6	AF-11	KGP	後期			表：7.5YR 7/6 裏：10YR 6/4	やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、R 撚糸文。
13-1	53-7	144	6	AF-11	KGP	後期			表：10YR 6/4 裏：10YR 5/3	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む。	ナデ、R 撚糸文。
13-1	53-3	145	6	AF-11	KGP	後期			表：7.5YR 6/6 裏：10YR 6/4	砂粒を多く含む、赤い粒子を多少し含む。	ナデ、R 撚糸文。

12-2	52-7	146	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式		表：5YR 5/6 裏：7.5YR 6/6	石英・長石を少なく含む、輝石を極少数含む。	ナデ、胴部下半部か。
12-2	52-11	147	6	AF-11	KGP	後期	堀之内１式		表：5YR 6/6 裏：2.5Y 4/2	白・黒い砂粒を少量、石英・長石の粒子を極少量含む。	ナデ、網代底。
12-2	52-4	154	6	AF-12	KGP	後期	堀之内１式	5	表：10YR 4/2 裏：2.5Y 4/2	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む。	ナデ、RL 縄文、沈線。
12-2	52-4	165	6	AF-12	KGP	後期	堀之内１式	5	表：10YR 4/2 裏：2.5Y 4/2	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む。	ナデ、RL 縄文、沈線。
13-1	53-6	226	6	AG-10	KGP	後期			表：7.5YR 6/3 裏：10YR 7/3	砂粒を少し含む。	ナデ、LR 縄文。
12-1	51-1	300	5	AG-4	KU	前期	諸磯ｃ式		表：10YR 7/4 裏：2.5Y 6/2	白い粒子を多く含む。	ナデ、平行沈線。
12-1	49-1	301	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文。
11-5	48-4	304	5	AE-3	KU	早期			表：10YR 5/4 裏：10YR 6/4	長石・輝石の粒子を極少数含む。	ナデ、無文。
11-5	48-12	351	5	AE-3	AN	早期		8	表：10YR 6/4 裏：10YR 6/3	白い粒子を少し含む、繊維痕有り。	ナデ、無文。
11-5	48-12	352	5	AE-3	KU	早期		8	表：10YR 6/4 裏：10YR 6/3	白い粒子を少し含む、繊維痕有り。	ナデ、無文。
11-5	48-13	522	5	AF-5	AN	早期			表：7.5YR 6/4 裏：10YR 6/4	輝石・長石の粒子を少なく、石英の粒子を多く含む。	ナデ、無文。
12-1	49-1	538	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	539	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
11-5	48-3	540	5	AE-4	KU	早期			表：7.5YR 6/6 裏：10YR 6/4	黒い砂粒を少なく、輝石の粒子を極少なく含む。	ナデ、無文。
12-1	49-1	541	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	542	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	543	5	AE-4	AN	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	544	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	545	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	546	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	547	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	548	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	556	5	AE-5	AN	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
11-5	48-10	606	5	AE-3	KU	早期			表：7.5YR 5/4 裏：10YR 6/4	角閃石を少し含む、白い粒子を少し含む。	ナデ、無文。
12-1	49-1	669	5	AE-4	KGP	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	670	5	AE-4	SSC	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	671	5	AE-4	SSC	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	672	5	AE-4	AN	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	673	5	AE-4	AN	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	674	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	675	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	676	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	677	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	678	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	679	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	680	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	681	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	682	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	683	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
12-1	49-1	684	5	AE-4	KU	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
11-5	48-12	685	5	AE-4	KU	早期		8	表：10YR 6/4 裏：10YR 6/3	白い粒子を少し含む、繊維痕有り。	ナデ、無文。
11-5	48-6	691	5	AE-4	AN	早期			表：7.5YR 7/4 裏：10YR 7/4	白い粒子を多く含む、黒い粒子を多く含む。	ナデ、無文。
		702	6	AG-13	ZN	早期			表：10YR 5/3 裏：10YR 3/3	白い粒子を少し含む。	小破片。704・705 と同一個体と思われる。

		703	6	AG-13	ZN	早期			表：10YR 5/3 裏：10YR 3/3	白い粒子を少し含む。	小破片。704・705 と同一個体と思われる。
11-5	48-1	704	6	AG-13	ZN	早期			表：2.5Y 7/3 裏：2.5Y 3/3	赤い粒子を少し含む、白い粒子を少し含む。	ナデ、R 撚糸文・縦位。
11-5	48-2	705	6	AG-13	ZN	早期			表：10YR 5/3 裏：10YR 3/3	白い粒子を少し含む。	ナデ、R 撚糸文・斜位。
11-5	48-14	805	5	AE-3	AN	早期			表：\10YR 7/3 裏：\7.5YR 6/4	角閃石を少し含む、白い粒子を少し含む。	ナデ、無文。
11-5	48-11	807	5	AE-3	KU	早期			表：10YR 5/3 裏：10YR 6/4	白い粒子を少し含む、黒い粒子を少し含む。	ナデ、無文。
11-5	48-5	817	5	AE-3	KU	早期			表：7.5YR 6/3 裏：10YR 6/3	黒い砂粒を極少量含む。	ナデ、無文。
11-5	48-9	818	5	AE-3	KU	早期			表：5YR 6/6 裏：10YR 5/3	黒い砂粒を少量、輝石の粒子を極少量含む。	ナデ、無文。
12-1	49-1	836	5	AE-4	FB	前期	諸磯ｂ式	4	表：5YR 4/4 裏：5YR 4/6	白い粒を多く含む、金色の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線。
11-5	48-7	998	-	-	表採	早期			表：7.5YR 6/4 裏：10YR 6/4	黒・白い砂粒を少量、輝石の粒子を極少量含む。	ナデ、無文。

第11表　葛山上條遺跡　出土石器一覧表（旧石器時代）

図版	挿図	遺物番号	区	グリッド	層位	器種	接合	石材	産地	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	備考
8-4	11-1-1	979	5	AF-4	YLU	被熱礫	3	An（Py）		-	-	-	261.5	被熱礫①
8-4	11-1-2	946	5	AF-4	YLU	被熱礫	3	An（Py）		-	-	-	567	被熱礫①
8-5	11-2	972	5	AE-3	YLU	被熱礫		An（Py）		-	-	-	1659	被熱礫②
8-5	11-3	973	5	AE-3	YLU	台石		An（Py）		129	75	46	585	被熱礫②
8-1	12-1	649	6	AF-12	YLU	剥片		Hor		39.7	16.5	4.9	4.43	1 号石器集中
8-3	12-2	648	6	AF-12	YLU	磨石		An（Py）		100	73	65	670	1 号石器集中
8-1	12-3	651	6	AF-12	YLU	剥片		Hor		19.8	12.4	3.1	0.88	1 号石器集中
8-1	12-4	650	6	AF-12	YLU	微細剥離のある剥片		Hor		38.7	52.9	15.9	21.3	1 号石器集中
8-1	13-1	48	6	AF-14	YLM	剥片		Hor		63.3	38.5	9.4	22.46	出土範囲①
8-1	13-2	51	6	AF-14	YLM	剥片		Hor		27.6	40.4	7.8	10.95	出土範囲①
8-1	13-3	47	6	AF-14	YLM	微細剥離のある剥片		Ob	KZOB	19.9	15	3.2	0.86	出土範囲①
8-1	14-1	46	6	AE-14	YLM	剥片		HFT		74	41.5	12.1	30.79	出土範囲②
8-1	15-1	800	6	AF-11	YLU	剥片		GAn		43.3	33.9	14.5	19.62	出土範囲③
8-2	15-2-1	230	6	AF-11	YLU	台石または石皿	1	An（Py）		120	104	55	1116	出土範囲③
8-2	15-2-2	799	6	AF-11	YLU	台石または石皿	1	An（Py）		172	130	60	2698	出土範囲③
8-1	16-1	992	5	AE-5	YLM	剥片		Ob	HNHJ	5.8	12	1.7	0.12	出土範囲④
8-1	16-2	993	5	AE-5	YLM	剥片		Ob	HNHJ	17.2	12.6	6.1	1.22	出土範囲④
8-1	16-3	994	5	AE-5	YLM	剥片		Ob	HNHJ	12.7	12.7	6.6	0.72	出土範囲④
8-1	16-4	991	5	AD-7	YLL	ナイフ形石器		Ob	SWHD	36.4	16.7	6.3	3.56	出土範囲⑤
8-1	16-5	990	5	AD-7	YLM	ナイフ形石器		Ob	SWHD	12.3	16.2	4.1	0.87	出土範囲⑤
8-1	17-1	975	5	AF-4	YLM	ナイフ形石器		Hor		37	11.5	5.2	2.54	出土範囲⑥
8-1	17-2	974	5	AE-5	YLM	細石刃		Ob	KZOB	19.7	8	2.2	0.32	出土範囲⑦
		970	5	AE-5	YLU	砕片		Ob	推定不可	-	-	-	0.02	出土範囲⑦
		995	5	AG-4	SC1	砕片		Ob	推定不可	-	-	-	-	出土範囲⑧
9-1	18-1、3	996-1	5	AG-4	SC1	微細剥離のある剥片	10	Ob	AGKT	25.7	26.4	7.3	4.22	出土範囲⑧
9-1	18-1、4	996-2	5	AG-4	SC1	微細剥離のある剥片	10	Ob	AGKT	13.3	24.3	7.5	2.9	出土範囲⑧
9-1	18-1、2	996-3	5	AG-4	SC1	剥片	10	Ob	AGKT	9.1	14.6	4.1	0.33	出土範囲⑧
9-1	18-1	996-4	5	AG-4	SC1	砕片	10	Ob	AGKT	-	-	-	0.11	出土範囲⑧
9-1	18-1	996-5	5	AG-4	SC1	砕片	10	Ob	AGKT	-	-	-	0.09	出土範囲⑧
9-1	18-1	996-6	5	AG-4	SC1	砕片	10	Ob	推定不可	-	-	-	0.04	出土範囲⑧
		996-7	5	AG-4	SC1	砕片		Ob	推定不可	-	-	-	0.03	出土範囲⑧
		996-8	5	AG-4	SC1	砕片		Ob	推定不可	-	-	-	-	出土範囲⑧
		996-9	5	AG-4	SC1	砕片		Ob	推定不可	-	-	-	-	出土範囲⑧
		996-10	5	AG-4	SC1	砕片		Ob	AGKT	-	-	-	-	出土範囲⑧
9-2	19-1	997	5	AE-4	SC Ⅲ b2	剥片		GAn		33.5	31.6	12.8	21.93	出土範囲⑨

第12表　葛山上條遺跡　出土石器一覧表（縄文時代）

図版	挿図	遺物番号	区	グリッド	層位	器種	接合	石材	産地	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	備考
13-2	54-1	229	6	AF-11	KU	石鏃		Ob	AGKT	27.5	17.6	5.4	1.57	
13-2	54-2	166	6	AG-11	KU	石鏃		Ob	AGKT	20	19.1	3.4	0.74	
13-2	54-3	652	5	AE-3	KU	石鏃		Ob	WDTY	14.1	10.3	2.8	0.28	
13-2	54-4	299	5	AG-5	KU	石鏃		Ob	SWHD	25.7	13.1	3.1	0.54	
13-2	54-5	211	6	AF-11	FB	石鏃		Ob	SWHD	17	8.8	3.5	0.38	
13-2	54-6	309	6	AF-12	KU	石鏃		Ch（DG）		21.5	13	2.5	0.39	
13-2	54-7	183	6	AG-11	KU	石鏃		Ob	KZOB	34.8	19.3	5.9	3.28	
13-2	54-8	371	5	AE-3	SNZ	石鏃		Ob	KZOB	22.8	16.1	4.7	0.96	
13-2	54-9	66	6	AF-13	KGP	石鏃		Ob	KZOB	17	13.3	3.9	0.61	
13-2	54-10	966	5	AF-4	ZN	石鏃		Tu		18	12	4.3	0.57	
13-2	54-11	127	6	AF-11	KGP	石鏃		Ob	SWHD	33.9	19	4.6	2.07	
13-2	54-12	398	5	AF-5	AN	石鏃		Ob	SWHD	25.2	19.7	5	2.13	
13-2	54-13	303	5	AE-3	AN	石鏃		Ob	SWHD	24.2	13.6	3	0.69	
13-2	54-14	971	5	AE-5	ZN	石鏃		GAn		25.7	14	3	0.76	
13-2	54-15	242	6	AF-14	KU	石鏃		Ob	SWHD	18.5	16.9	3.8	0.95	
13-2	54-16	305	5	AD-7	KU	石鏃		Ob	KZOB	10.2	10	2.7	0.26	
13-2	54-17	886	5	AE-4	FB	石鏃		Ob	KZOB	13.8	13.5	3	0.47	
13-2	54-18	210	6	AF-11	KU	石鏃		Ob	KZOB	23.9	17.8	3.5	1.23	
13-2	54-19	583	5	AF-5	ZN	石槍		HSh		18.5	14.1	2	0.68	

13-2	54-21	576	5	AG-4	FB	尖頭器		Hor		51	12.1	6.5	3.99	
13-2	54-20	184	6	AF-11	KU	石匙		Hor		39.5	57	10.1	19.86	
13-2	55-3	221	6	AF-14	FB	微細剥離のある剥片		Ob	SWHD	20.7	9	2.8	0.62	
13-2	54-22	241	6	AG-13	KU	微細剥離のある剥片		Ob	KZOB	14.4	28.2	11.4	4.88	
13-2	55-1	367	5	AF-3	KU	微細剥離のある剥片		Ob	KZOB	11	14.4	11.7	1.68	
11-3	33-2	421	6	AG-14	埋土 1	微細剥離のある剥片		Ob	SWHD	12.8	20.9	7.9	2.26	45 号土坑
13-2	55-2	537	5	AE-4	KU	微細剥離のある剥片		Sh		58.9	26.3	7.5	12.44	
		104	6	AF-12	KGP	剥片		An（Py）		46.2	39.2	6.4	12.87	
11-2	31-1	375	6	AG-14	埋土 1	剥片		GAn		39.5	46.2	10	17.71	37 号土坑
		454	5	AF-4	KU	剥片		Ob	KZOB	12	11.3	2.1	0.21	
		550	5	AE-4	KU	剥片		GAn		17.4	12.5	6.1	0.88	
		613	5	AE-4	AN	剥片		Ob	KZOB	17.6	13.5	3.8	0.63	
		621	5	AE-4	KGP	剥片		Ob	SWHD	13	5.8	3.2	0.28	
		656	5	AE-3	KU	剥片		Ob	KZOB	9.5	19.7	6.3	1.05	
		657	5	AE-3	KU	剥片		Ob	KZOB	12.8	9.9	2.7	0.29	
		658	5	AE-3	SSC	剥片		Ob	SWHD	15.9	14.5	2.1	0.42	
		686	5	AE-4	KU	剥片		Ob	KZOB	11.1	13	3.5	0.36	
		692	5	AE-4	KU	剥片		Ob	KZOB	13.5	13	2.8	0.36	
		372	5	AE-3	AN	砕片		Ob	KZOB	-	-	-	0.02	
		549	5	AE-4	KU	砕片		Ob	KZOB	-	-	-	0.11	
		604	5	AE-3	AN	砕片		Ob	KZOB	-	-	-	0.04	
		631	5	AE-4	AN	砕片		Ob	SWHD	-	-	-	0.05	
		632	5	AE-4	KU	砕片		Ob	KZOB	-	-	-	0.02	
		900	5	AE-4	FB	砕片		Ob	SWHD	-	-	-	0.02	
14-1	59-1	78	6	AE-15	KGP	石核		Ob	KZOB	11	28.4	12.2	3.7	
14-1	59-2	571	5	AF-3	FB	石核		Si		49.1	68	26.9	124.7	
11-3	33-1	373	6	AF-14	埋土 1	楔形石器		Ob	SWHD	26	13.3	5.5	1.62	43 号土坑
14-1	58-1	57	6	AE-14	KU	石斧		An（Py）		62.3	35.5	15.3	39.54	
14-1	55-5	62	6	AG-13	KU	石斧		Sh		119	54.3	18.1	163.6	
14-1	58-3	102	6	AF-14	KGP	石斧		Sh		63	49.8	9.2	35.46	
14-1	56-2	103	6	AG-14	KGP	石斧		An（Py）		141	52	18	168.8	
14-1	58-4	129	6	AF-11	KGP	石斧		GS		54.7	45.2	8.7	23.31	
14-1	57-1	135	6	AG-12	KGP	石斧		MSS		116	59.3	17.4	132.6	
14-1	58-2	140	6	AG-11	KGP	石斧		An（Py）		42.1	43.8	16.5	34.81	
14-1	56-1	584	5	AF-6	AN	石斧		Sl		102	45.1	12.1	61.59	
14-1	55-4	793	5	AD-7	KU	磨製石斧		Pe		71.4	36.1	14.2	69.59	
14-1	57-2	804	6	AH-11	表採	石斧		FSS		87.8	76	17.7	133.4	
		302	5	AE-3	AN	磨石		VAn		115	81	47	637	
11-1	29-1	246	6	AF-11	埋土 2	敲石		An（Ho）		102	74.6	41.3	517.5	32 号土坑
14-2	59-4	167	6	AG-14	KGP	石皿		VAn		202	194	62	4000	
14-2	59-3	524	5	AF-4	KU	石皿		An（Py）		118	116	70	1040	
11-4	39-1	789	6	AF-12	YLU	石皿		An（Py）		2035	150	85	6680	1 号集石

第３章　葛山大端ヶⅡ遺跡

かずらやまおおはたけ

第１節　葛山大端ヶⅡ遺跡の概要

１　葛山大端ヶⅡ遺跡の位置（第64図）

本遺跡は、裾野市葛山字大端ヶ 1160－１他２筆に所在する。所在地は、JR御殿場線岩波駅から南西へ約３㎞離れた愛鷹山東麓に位置する。遺跡の範囲は、東西に延びる尾根の頂部及びその北側へ一段下がった細尾根部分に位置する。調査区は、尾根頂部に１区、北側の細尾根に２区を設定している。標高は、尾根頂部で平均325m、北側の細尾根部分で平均285mであり、その比高差は40m程である。尾根頂部は、東方向へ勾配する広い緩斜面を呈しており、その南側と北東側に浸食谷が入り込んでいる。この浸食谷は、雨天時になると尾根上に降った雨水が流れる。特に北東側の谷では、雨後数日間、尾根中腹から水が湧き出る状況にある。谷から流れ出た水は、佐野川支流の田場沢川へ注がれる。この田場沢川の河床には、安山岩や玄武岩の礫が採取できる。

２　葛山大端ヶⅡ遺跡周辺の遺跡

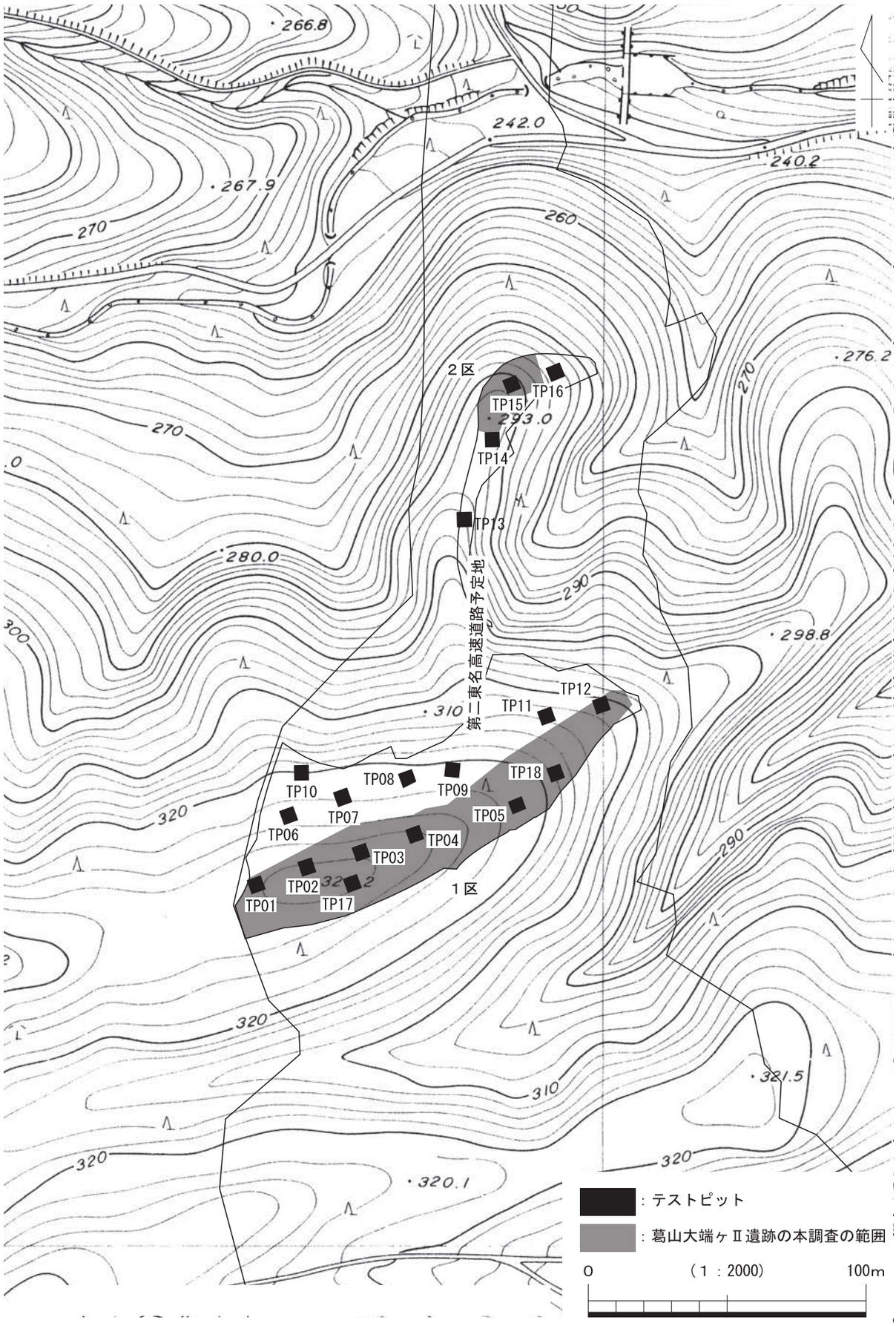
本遺跡の北側には田場沢川によって形成された急峻な谷が存在し、その北側の尾根部が北ノ沢遺跡（№152地点）である。南側は、北側の谷に比べて緩やかな谷が形成されており、対峙する尾根部が葛山大端ヶⅢ遺跡（№150－２地点１・２区）・藤畑遺跡（№150－２地点３区）である。以下、その調査概要（静文研2004・2005・2007、壬生他2008）について簡略に述べる。

本遺跡から北へ約300mに位置する北ノ沢遺跡（№152地点）では、確認調査のみで調査が終了している。その調査概要によると、遺構は未検出であるが、旧石器時代～縄文時代の遺物が散発的に確認されている。休場層より下位は攪乱が激しい上、南北方向の尾根は中部ローム層まで削平されている状況にある。協議の結果、本地点対象範囲内は本調査に移行することなく調査が完了している。続いて本遺跡から南へ約100m、標高約300mに位置するのが、葛山大端ヶⅢ遺跡（№150－２地点１・２区）、藤畑遺跡（№150－２地点３区）である。現在、整理中であり、来年度刊行予定である。

葛山大端ヶⅢ遺跡は、平成15年度に確認調査・本調査を行っており、後期旧石器時代から縄文時代にかけての遺構・遺物が確認されている。後期旧石器時代の調査では、休場層中層から礫群を１基検出しているのみである。縄文時代の調査では、１区において陥穴状土坑10基、集石１基、石器集中部（黒曜石）３か所、２区において陥穴状土坑７基を検出している。遺物は、早期から後期までの土器が出土している。早期では撚糸文系土器、野島式土器、判ノ木山西式土器、条痕文系土器など、前期では諸磯式土器、十三菩提式土器、中期では勝坂式（藤内）、が出土している。特に早期の判ノ木山西式土器の出土量が多い。

一方藤畑遺跡は、同じく平成15年度に確認調査・本調査を行っているが、調査では縄文時代の土坑３基と礫が１点確認されているのみであった。

以上、本遺跡の北側、南側の遺跡の概要について簡略に述べた。特に葛山大端ヶⅢ遺跡では、早期の出土量が多い傾向にあるのは興味深い。本遺跡では、早期の出土量が少量ながらも確認できる。しかし、本遺跡内では、前期後半の諸磯ｂ式土器が多い傾向にあるため、時期ごとの出土量の違いは土地利用の違いを示すものかもしれない。



第64図　確認調査のテストピット配置および本調査の位置

第２節　調査の体制・経過

１　確認調査および本調査の体制

確認調査および本調査の体制については、例言を参照して頂きたい。実際に現地を担当した職員は、下記のとおりである。

確認調査その１、本調査Ⅰ期　　調査研究員　望月由佳子・後藤正人・木崎道昭

２　確認調査および本調査の経過（第64図）

調査方法について、以下に記載する。測量・遺構実測・遺物点上げ作業では、トータルステーションを用い、国土平面直角座標系のⅧ系を使用して遺構、遺物の位置情報を記録した。グリッド設定では、Ａ－１の南西隅（X=－87910.0、Y=35350.0）を起点とし、東に向かって１・２・３・・・とし、北に向かってＡ・Ｂ・Ｃ・・・とした。遺構番号は、種類ごとに通し番号を付した。遺物番号は、全ての遺物に通し番号を付し、遺物の種類により、土器はＰ、石器はＳ、礫はＲと分類した。礫は、洗浄した後、礫石器の有無、被熱による赤化の有無を確認し、自然礫と判断したものは現地で廃棄した。測量データは、シン技術コンサルの遺跡管理システムを使用して、図化作業を行った。記録写真は、６×７判カメラのモノクロフィルムでの撮影を基本とした。調査区全景写真等は、ラジコンヘリによる空中写真撮影で行った。

（１）確認調査

・確認調査その１：平成15年４月４日～５月30日　288㎡

平成15年２月、現地に入る道がないため、現場の進入路工事を行った。樹木伐採用の重機走路を広げるようにし、調査区内を迂回させるように一部を付け替えた。周囲が急峻な谷であるために単管柵による転落防止措置を取った。

平成15年４～５月、伐採の終了した尾根周辺を対象に、４ｍ×４ｍのテストピット18箇所を設定し、遺跡の範囲を確認した。１区では14箇所（TP01 ～ 12、17・18）、２区では４箇所（TP13 ～ 16）にテストピットを設定した。テストピットは、尾根の方向に沿って、約20mおきに設定した。これにより、尾根部分から多数の礫や遺物が確認され、生活址が尾根上に分布することを確認した。また、１区北側のテラス状の部分に設定したTP10では、陥穴状土坑１基を検出した。協議の結果、本調査の必要があると判断した。

（２）本調査

・本調査Ⅰ期：平成15年６月１日～ 11月30日　3,765㎡

本調査は、平成15年６月に遺構・遺物が確認された範囲を対象に実施した。調査は、重機によるヒノキの抜痕作業を進めるとともに、TP10で検出した陥穴状土坑の掘削作業から開始した。陥穴状土坑の調査が完了した後、直ちに埋め戻し、作業ヤード・駐車場の設営地として整備した。表土除去後、各区の縄文時代遺物包含層（JO）出土の遺物量は、１区西側では多量の遺物が出土したのに対して、東側で

は微量であった。そのため、１区東側では作業効率を考慮して重機で包含層掘削を行い、早めに休場層上面の遺構検出・遺構掘削を行う作業に切り替えた。２区では、JO層出土の礫と遺物が、調査区内に全体的に広がるように出土した。遺構は、JO層上面と休場層上面において検出した。

調査の成果として、１・２区では、特に縄文時代遺物包含層（JO）において、礫・焼礫が広範囲に検出されることを確認した。遺構は、１区では集石１基・土坑４基、２区では竪穴住居１基・土坑４基を検出した。縄文時代の調査が終了した後に、コンター測量と空中写真撮影を行った。

９月中旬からは、旧石器時代の調査に着手した。テストピットは、１区の尾根線上に15箇所（TP19～33)、２区の尾根上に２箇所（TP34・35）を設定し、ニセローム層まで調査を行った。このうち３箇所は拡張して、中部ローム層上面まで調査した。１区東側は、休場層下層以下の堆積が悪く、分層が困難な状況であった。1区南側斜面は浸食されており、ハードローム層の上に縄文時代遺物包含層（JO）が堆積することを確認した。１区西側中央部は馬の背状の地形であり、中部ローム層の堆積は良好であった。旧石器テストピットを計17箇所に設定して、旧石器の調査を行ったが、遺構の検出及び遺物の出土は確認できなかった。しかし、調査終了間際に、TP25周辺の休場層上層下部が露出している部分から、石器を１点出土した。調査は、主に土層の堆積状況の把握、その記録作業（土層断面の写真撮影・土層断面図の作成）に徹した。11月中旬からは、１・２区の埋戻し作業を行い、調査は完了した。

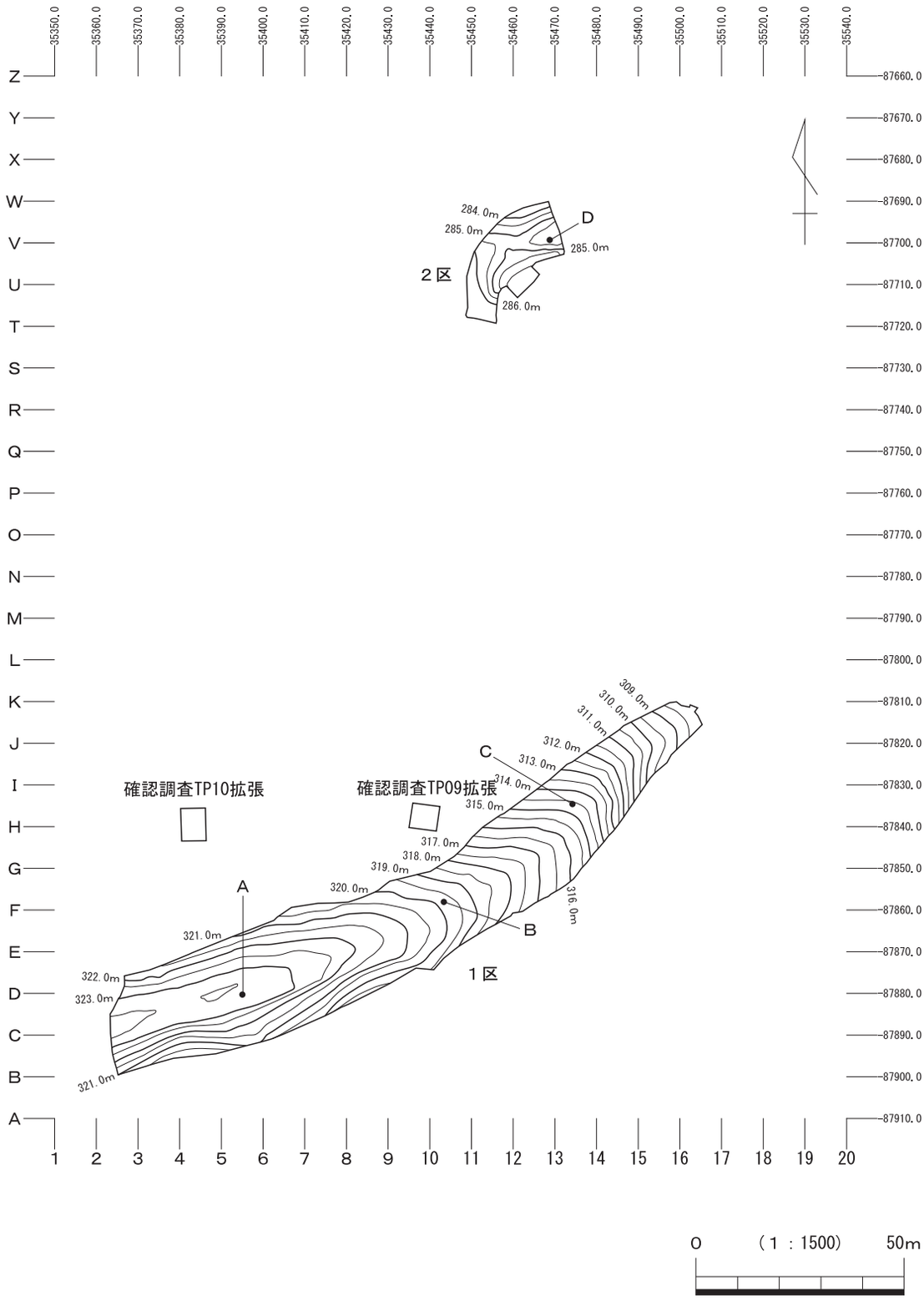
3　基本土層（第65・66図）

葛山大端ヶⅡ遺跡の基本土層の注記は、第13表に記載している。以下、基本土層についての調査所見を記載する。

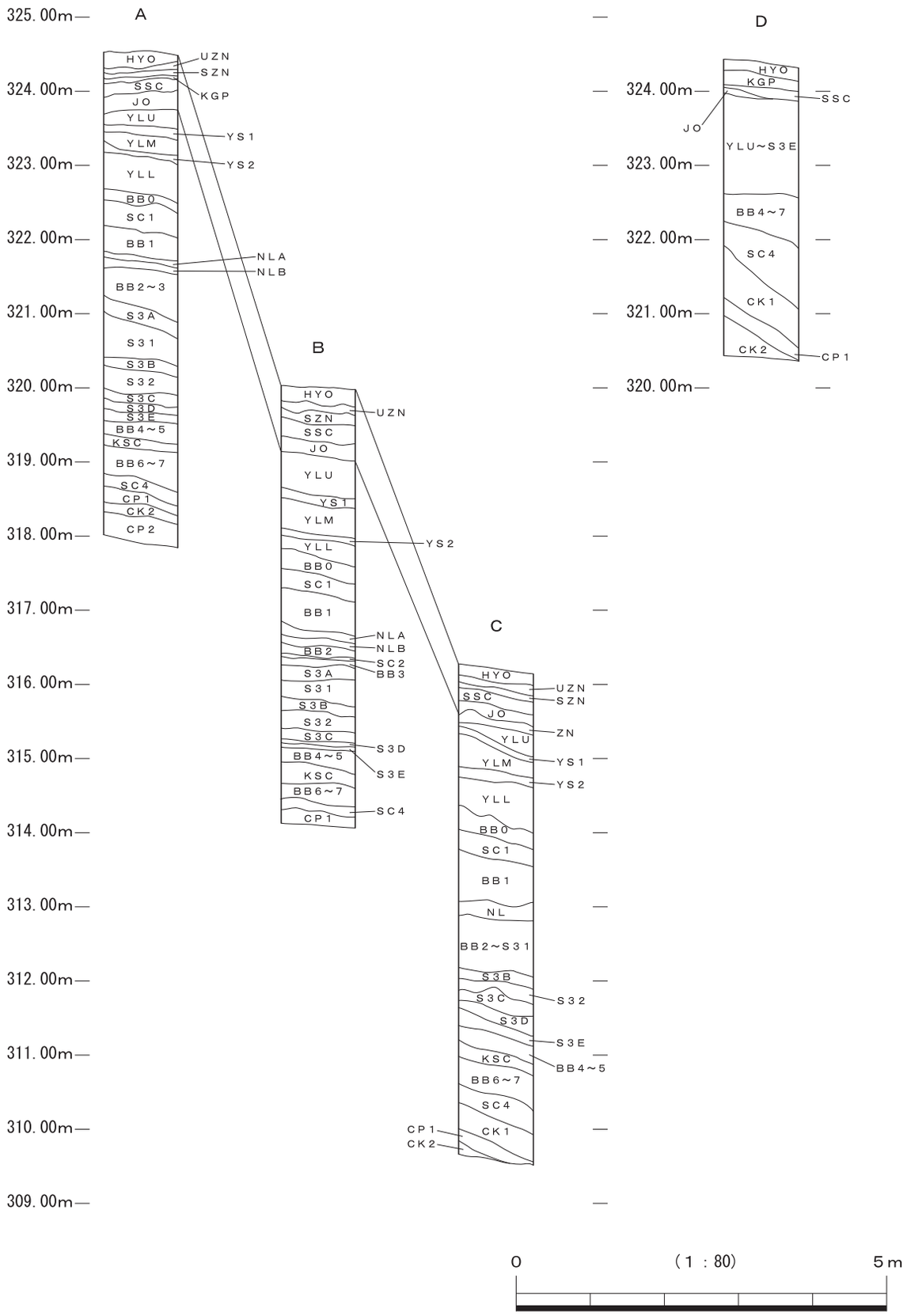
現況がヒノキ林であったため、表土層は腐植土である。その下位には、黒色土が部分的であるが堆積しており、８号土坑の埋土と土質が近似する。調査では土層の堆積が良好でなく、愛鷹山麓で確認される基本層序と上手く対比できなかった。便宜上であるが、特徴的なスコリアを鍵層として独自の層位を設定している。砂沢スコリア層は、谷の斜面部では良好に堆積していたが、尾根上では殆ど確認できなかった。調査では、砂沢スコリア層は、粒径が細かく締まりのある上層（UZN)、粒径が大きく締まりのない下層（SZN）とに分けた。カワゴ平パミスを含む土層（KGP）は、下層に位置する仙石スコリア層（SSC）と混ざり、明瞭に分層できなかった。縄文時代遺物包含層（JO）は、愛鷹山麓で確認される暗褐色土層（AN)、栗色土層（KU)、富士黒色土層（FB）に相当する。谷の斜面部では厚く堆積しているため、AN～FB層の分層が可能であったが、尾根上では土層の堆積が良好でなく、分層できなかった。そのため、遺跡内での統一を図るために、AN～FB層をJO層として一括して把握することにした。休場層上層（YLU）は、赤色スコリアが混じる上層（YLU １）と、やや白色がかった下層（YLU ２）と分けた。しかし、谷の斜面部以外では分層が困難であったため、YLU層として遺跡内で統一して把握した。休場層中層（YLM）は、YLU層下で確認した明瞭な赤色スコリアを含む層（YS １）と、明瞭な褐色スコリアを含む層（YS ２）の中間に位置する土層として把握した。休場層下層（YLL）は、YS ２層下の土層として把握した。

休場層以下の調査では、愛鷹山麓で確認される黒色帯等が明瞭に認識できなかった。そのため、スコリアを指標として対比を試みた。まず、姶良丹沢火山灰を含む色調の明るい層は、ニセローム層（NL）相当であると把握した。続いて、そのNL層相当の上部で確認した赤味の強いスコリア帯は、第Ⅰスコリア層（SC １）相当と認識し、その上下をそれぞれ休場層下部黒色帯（BB ０）相当と第Ⅰ黒色帯（BB １）相当として対比した。

NL層相当以下は、第Ⅲスコリア帯との間に第Ⅱ～Ⅲ黒色帯相当の層が存在したが、明瞭に分層でき



第65図　葛山大端ヶⅡ遺跡調査区配置図



第66図　葛山大端ヶⅡ遺跡土層柱状図

第13表　葛山大端ヶⅡ遺跡の基本土層

土層名	略号	色調	注記
表土	ＨＹＯ	10YR3/1	粘性有、締まり無。
砂沢スコリア上層	ＵＺＮ	10YR3/3	粘性・締まり有、黒色スコリア・径１～３㎜褐色スコリア少量。
砂沢スコリア層	ＳＺＮ	10YR2/2	粘性・締まり無、黒色スコリア・径１～10㎜橙色スコリア多量。
カワゴ平パミス層	ＫＧＰ	10YR3/3	粘性・締まり有、白色粒子（カワゴ平パミス）多量、径５～10㎜暗褐色スコリア・径２㎜橙色スコリア少量。
仙石スコリア層	ＳＳＣ	10YR3/3	粘性・締まり有、径５～10㎜暗褐色スコリア多量、径２㎜橙色スコリア・白色粒子（カワゴ平パミス）少量。
縄文時代遺物包含層	ＪＯ	10YR3/2	粘性・締まり有、径２～３㎜橙色スコリア・径５～10㎜暗褐色スコリア少量。
漸移層	ＺＮ	-	-
休場層上層	ＹＬＵ	7.5YR4/3	粘性・締まり有、径１～10㎜橙色・褐色スコリア多量、径１～10㎜黒色スコリア少量。
休場層第１スコリア	ＹＳ１	2.5YR4/8	粘性・締まり無、径１～10㎜橙色・褐色スコリア・径５～20㎜黒色スコリア多量。
休場層中層	ＹＬＭ	7.5YR4/3	粘性・締まり有、径２～10㎜橙色・褐色スコリア多量、径１～10㎜黒色スコリア少量。
休場層第２スコリア	ＹＳ２	10YR5/6	粘性・締まり無、径２～５㎜黄橙色スコリア多量、径１～５㎜褐色スコリア少量。
休場層下層	ＹＬＬ	7.5YR4/3	粘性・締まり有、径１～10㎜黒色スコリア多量、径２～10㎜橙色・褐色スコリア少量。
休場層下層の黒色帯	ＢＢ０	10YR3/2	粘性・締まり有、径３～20㎜黒色スコリア多量、径１～10㎜橙色・褐色スコリア少量。
第Ⅰスコリア層	ＳＣ１	7.5YR5/4	粘性・締まり有、径３～10㎜黒色スコリア・径２～５㎜褐色スコリア多量。
第Ⅰ黒色帯	ＢＢ１	-	径３～20㎜黒色スコリア多量、径１～10㎜橙色・褐色スコリア少量。
ニセローム層	ＮＬ	-	-
ニセローム層ａ	ＮＬＡ	10YR3/3	粘性・締まり有、径２～10㎜暗褐色スコリア多量、径２～５㎜褐色スコリア少量。
ニセローム層ｂ	ＮＬＢ	5YR7/4	粘性・締まり有、径１～５㎜褐色スコリア・径２～５㎜暗褐色スコリア少量。
第Ⅱ黒色帯	ＢＢ２	-	-
第Ⅱスコリア層	ＳＣ２	-	-
第Ⅱ～Ⅲ黒色帯混土層	ＢＢ２～３	10YR5/4	粘性・締まり有、径５㎜暗褐色スコリア多量、径１～３㎜暗褐色スコリア・径１～５㎜橙色・褐色スコリア・径２～５㎜黒色スコリア少量。
第Ⅲ黒色帯	ＢＢ３	-	-
第Ⅲスコリア帯第１スコリア層	Ｓ３Ａ	10YR3/4	粘性・締まり有、径５㎜暗褐色スコリア・径１～５㎜橙色スコリア・褐色スコリア多量、径１～３㎜明褐色スコリア少量。
第Ⅲスコリア帯第１黒色帯	Ｓ３１	10YR5/4	粘性・締まり有、径２～10㎜暗褐色スコリア・径２～５㎜黒色スコリア・径２～３㎜明褐色スコリア少量。
第Ⅲスコリア帯第２スコリア層	Ｓ３Ｂ	2.5YR4/4	粘性無、締まり有、径２～５㎜明褐色スコリア多量、径５～10㎜黒色スコリア・径２～３㎜褐色スコリア少量。
第Ⅲスコリア帯第２黒色帯	Ｓ３２	10YR5/3	粘性・締まり有、径２～５㎜明褐色スコリア・径５～10㎜黒色スコリア・径２～３㎜褐色スコリア少量。
第Ⅲスコリア帯第３スコリア層	Ｓ３Ｃ	10YR4/4	粘性・締まり有、径５～10㎜黒色スコリア多量、径２～５㎜明褐色スコリア少量。
第Ⅲスコリア帯第４スコリア層	Ｓ３Ｄ	10YR3/4	粘性・締まり有、径５～10㎜黒色スコリア・径２～５㎜明褐色スコリア少量。
第Ⅲスコリア帯第５スコリア層	Ｓ３Ｅ	10YR4/3	粘性・締まり有、径５～10㎜黒色スコリア・径２～５㎜明褐色スコリア少量。
第Ⅳ黒色帯	ＢＢ４	-	-
第Ⅳ～Ⅴ黒色帯混土層	ＢＢ４～５	10YR5/4	粘性・締まり有、径２～５㎜黒色スコリア・径１～３㎜明褐色・褐色スコリア少量。
第Ⅴ黒色帯	ＢＢ５	-	-
褐色スコリア層	ＫＳＣ	10YR4/4	粘性・締まり有、径２～５㎜黒色スコリア・径１～３㎜明褐色・褐色スコリア少量。
第Ⅵ黒色帯	ＢＢ６	-	-
第Ⅵ～Ⅶ黒色帯混土層	ＢＢ６～７	10YR5/4	粘性・締まり有、径２～５㎜黒色スコリア・径１～３㎜明褐色・褐色スコリア少量。
第Ⅶ黒色帯	ＢＢ７	-	-
第Ⅶスコリア層	ＳＣ４	10YR4/6	粘性・締まり有、径２～５㎜赤褐色スコリア多量、径５㎜黒色スコリア少量。
中部ローム灰褐色土層１	ＣＫ１	10YR5/3	粘性・締まり有、径１～５㎜褐色・明褐色スコリア・径２～５㎜黒色スコリア少量。
中部ロームペアスコリア１	ＣＰ１	7.5YR4/6	粘性・締まり有、径５㎜赤褐色スコリア・径２～５㎜黒色スコリア多量。
中部ローム灰褐色土層２	ＣＫ２	10YR5/3	粘性・締まり有、径１～５㎜褐色・明褐色スコリア・径２～５㎜黒色スコリア少量。
中部ロームペアスコリア２	ＣＰ２	7.5YR4/6	粘性・締まり有、径５㎜赤褐色スコリア・径２～５㎜黒色スコリア多量。

なかった。第Ⅲスコリア帯以下の黒色帯相当層も明瞭なスコリアが少なく、分層できなかった。３箇所のテストピットを拡張して中部ローム層を調査したが、いずれもペアスコリアが良好に残存していることを確認できた。

各地区の堆積状況を総合すると、１区東側は休場層下部以下の堆積が悪く、ほとんど分層できなかった。南側斜面は浸食されたハードロームの上に縄文時代遺物包含層が堆積していた。西側は中央が窪んだ馬の背状の地形で、ここに縄文時代遺物包含層が厚めに堆積していた。２区東側の突き出た尾根先端は、後世の植林作業によって削平および造成が行われており、表土以下は良好な堆積でなかった。尾根のやや窪む部分では、縄文時代遺物包含層が厚く堆積していた。

4　遺構番号について

葛山大端ヶⅡ遺跡では、本発掘調査時に遺構に付加した番号（旧遺構番号）と本報告書（新遺構番号）で用いる番号を変更しているため、ここに遺構番号の新旧対照表を記す。

第14表　新旧遺構番号対照表

旧	新	旧	新	旧	新
SB-01	１号竪穴住居	PF-08	４号土坑	PF-01	８号土坑
PF-05	１号土坑	PF-09	５号土坑	SY-06	１号集石
PF-07	２号土坑	PF-04	６号土坑		
PF-06	３号土坑	PF-02	７号土坑		

第３節　調査の成果

葛山大端ヶⅡ遺跡では、旧石器時代から縄文時代の遺構と遺物が確認されている。以下、各時代の調査所見について記載する。

１　旧石器時代の調査

旧石器時代の調査では、テストピットを17か所設定して行ったが、特に石器集中や礫群といった遺構の検出及び石器の出土は確認できなかった（第67図）。しかし、発掘調査終了間際になって、TP25から南へ４ｍに位置する、休場層上層の下部が露出している部分から、石器が１点出土した。その周囲を精査したが、石器の出土は確認できなかった。

休場層出土の石器（第68図、写真図版18－３、19－１）

第68図１は、黒曜石製の剥片である。剥片の末端は厚く、ウートラパッセの形状を呈する。正面・左右側面・裏面下部には、痘痕状の外皮の一部が確認できる。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。時期は、休場層上層において出土した点を考慮すると、後期旧石器時代の所産と考えられる。愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年（前嶋1995）では、第４～５期の範疇に位置づけられる。

２　縄文時代の調査

縄文時代の調査では、竪穴住居１基、土坑８基、集石１基を検出した。以下、各遺構の記載をする。

（１）竪穴住居（第71～75図）

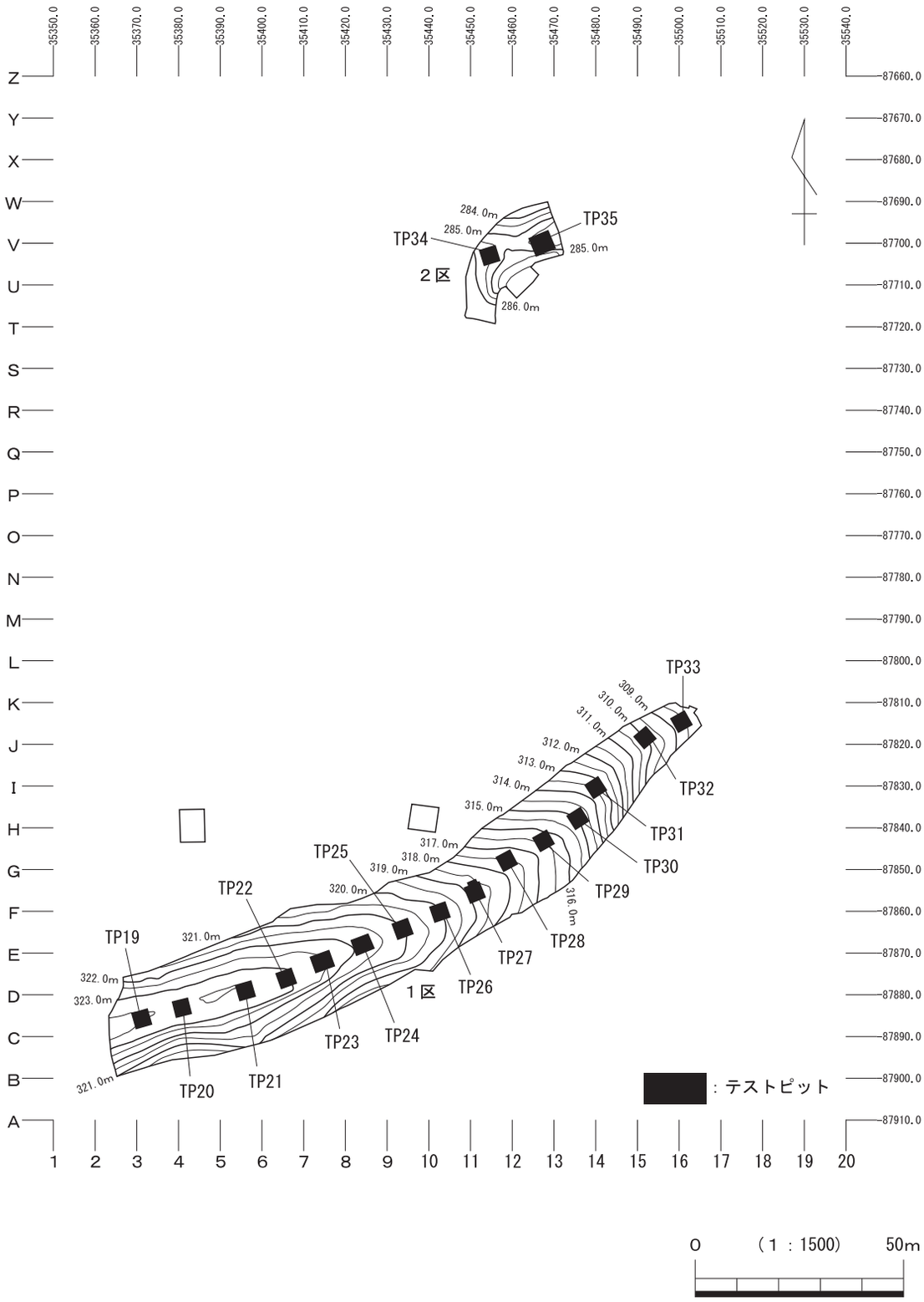
竪穴住居の計測表は、第15表に記載している。

１号竪穴住居（第71～75図、写真図版15－２、16－１、19－２）

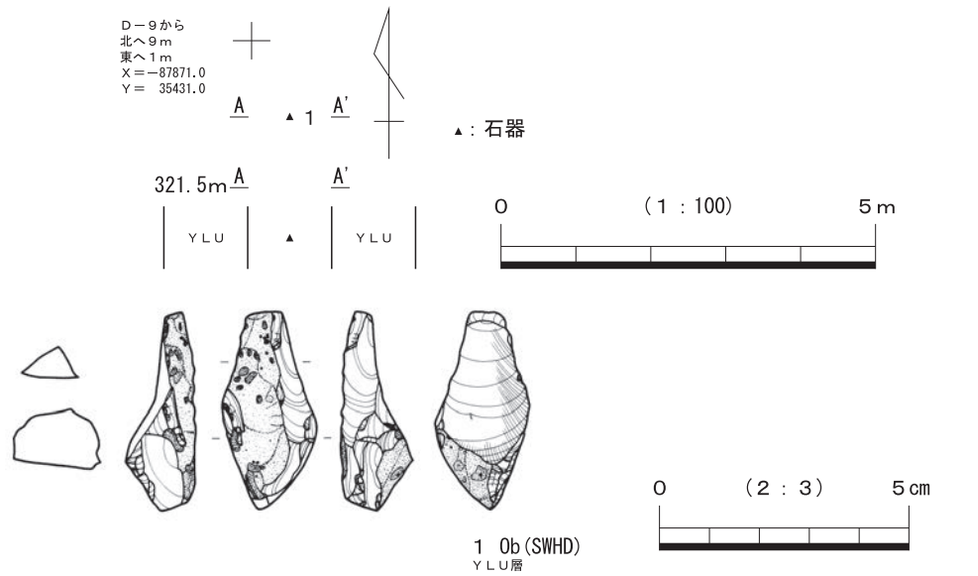
本遺構は２区Ｔ－11グリッドに位置し、標高287～286ｍの尾根中腹の緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。１号土坑とは、位置的には重複関係にあるが、本遺構の方が古い。

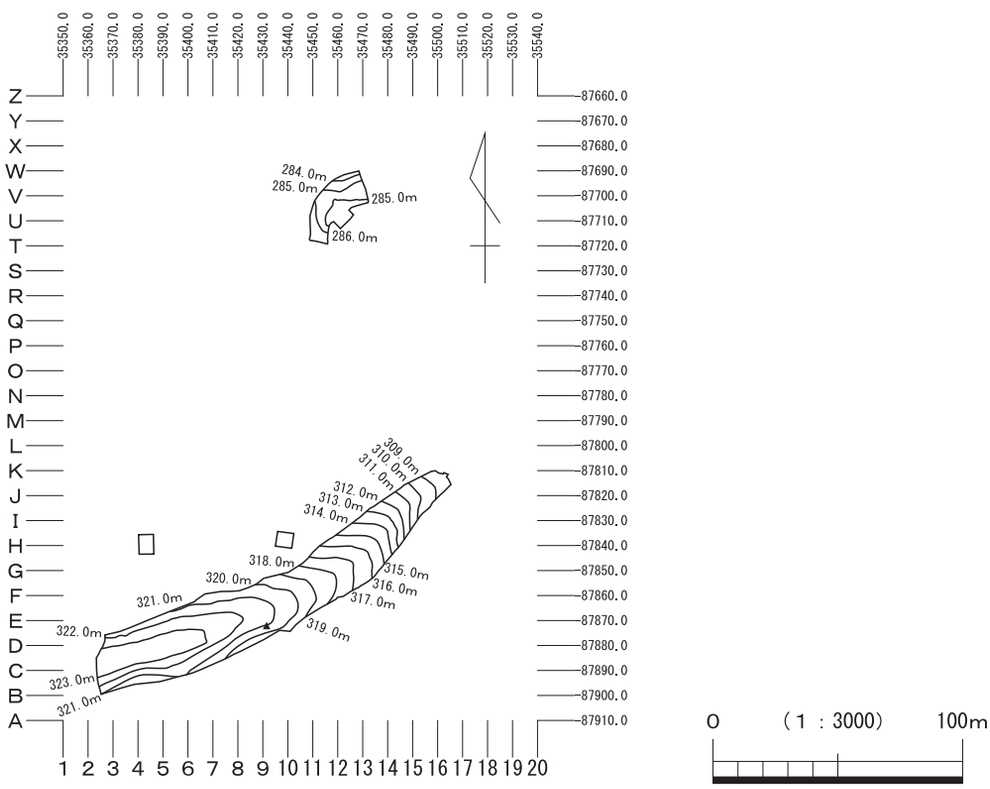
平面形は隅丸方形を呈し、長軸346㎝、短軸336㎝を測る。遺構検出面から床面までの最大深度は、56㎝を測る。底面は概ね平坦であるが、西側がテラス状にやや高くなっている。また東壁面際の中央付近の床面には、ステップ状の高まりが確認されている。ステップ状の高まりを出入口部の方向と考えた場合、主軸方位は北東を示すと思われる。床面中央には、約80㎝×80㎝の不整方形を呈した地床炉を検出している。柱穴は７本検出しており、壁際に巡る壁柱穴である。

埋土は13層に分けた。第10～12層は掘方埋土であり、床面中央から北東にかけて厚く堆積しており、平坦な床面を形成している。第13層は、柱穴Ｐ１の埋土である。第７～９層は、中央に構築された地床炉の埋土であり、焼土粒を多く含む。第７層上面には、炭化物の塊を検出しており、その面が炉の最終機能面と思われる。第１～６層はレンズ状堆積を呈することから、住居廃絶後に周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。

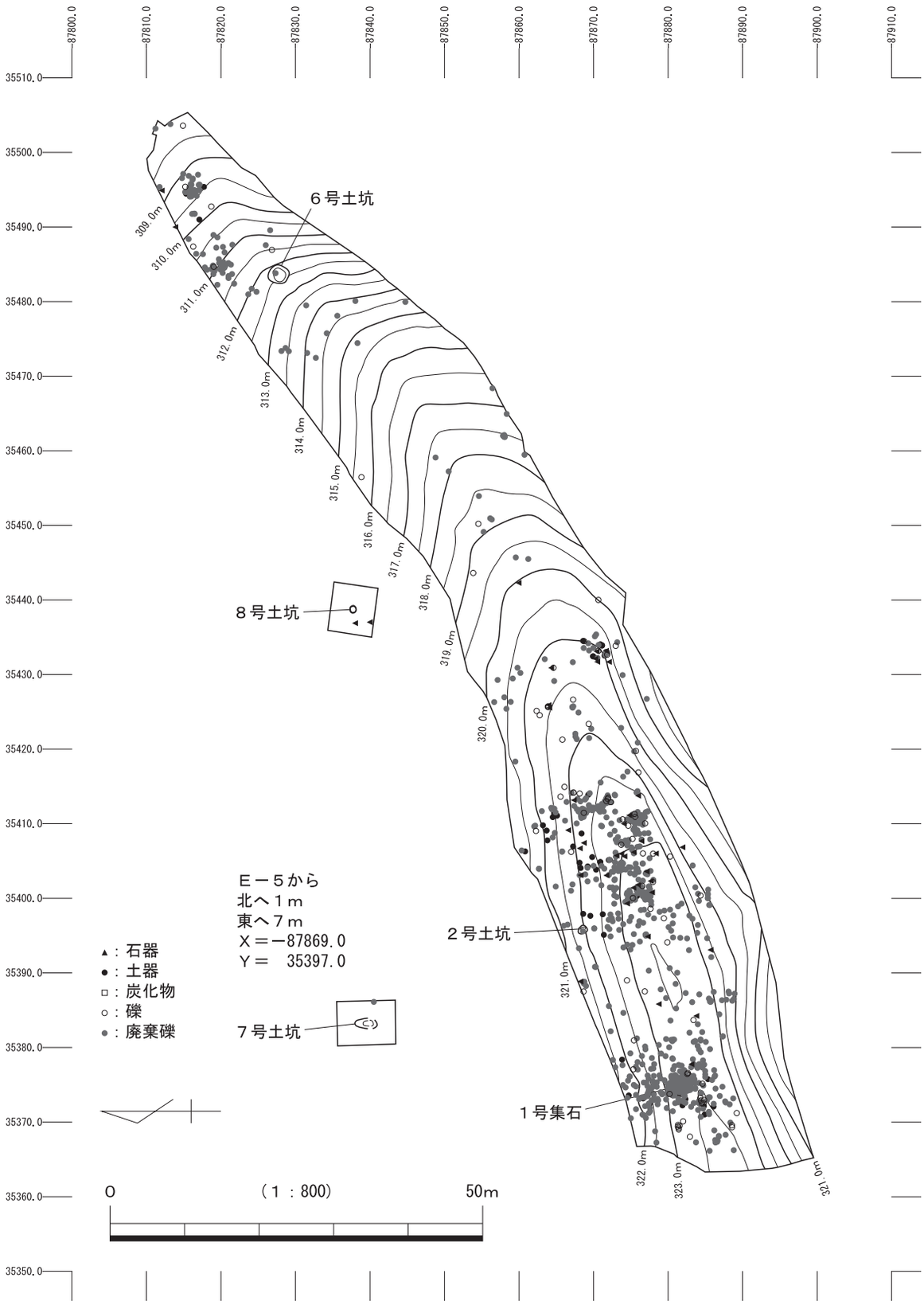


第67図　旧石器テストピット配置図

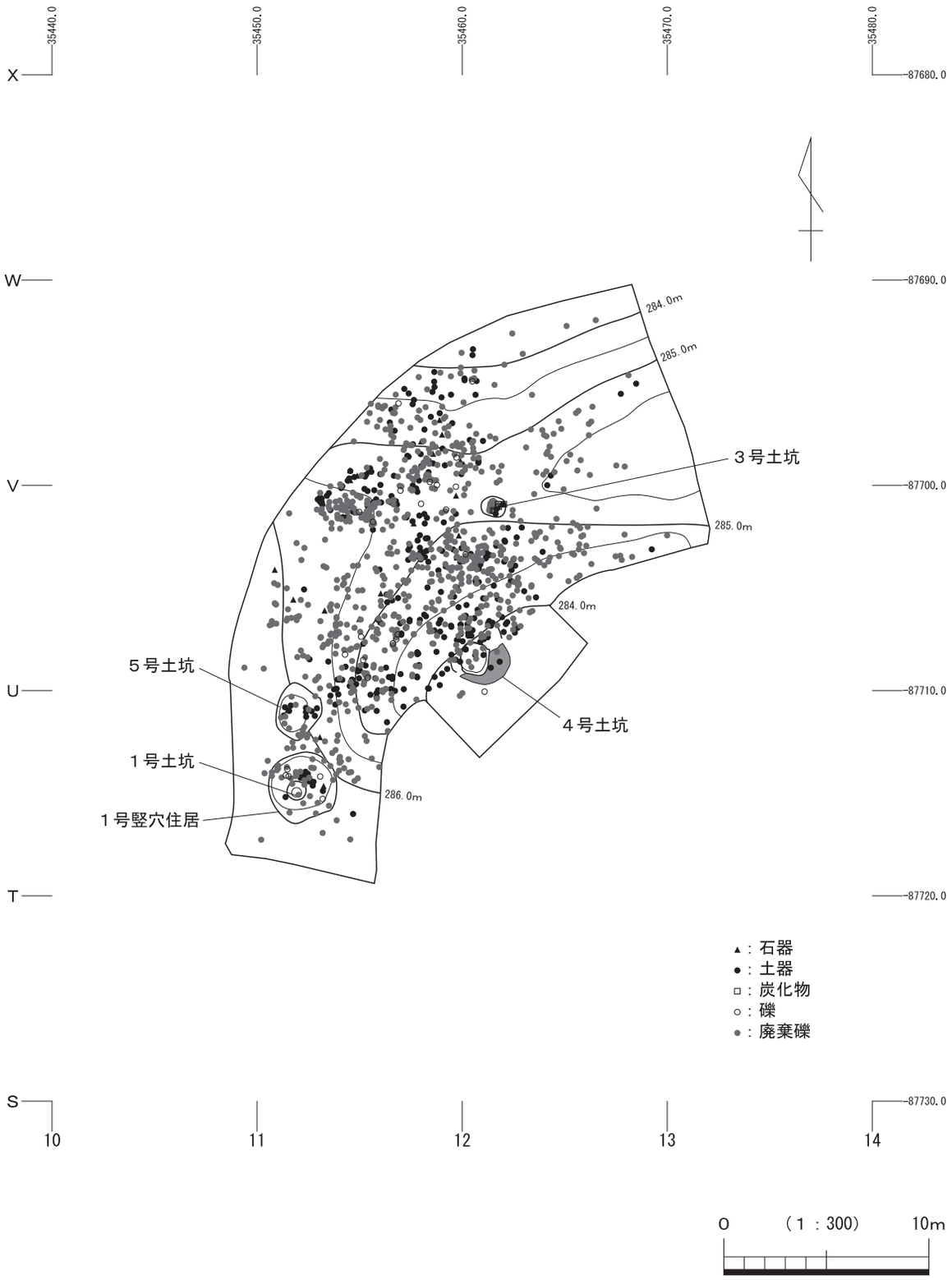




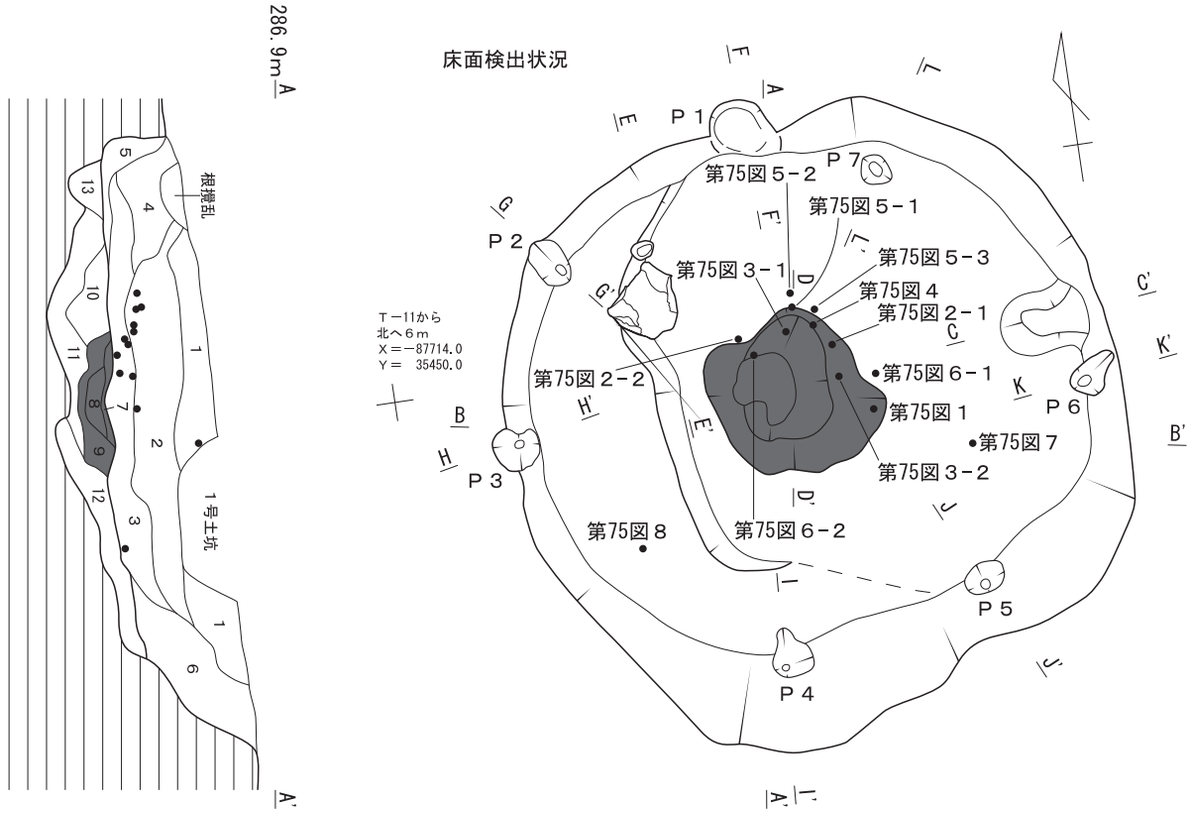
第68図　旧石器出土遺物



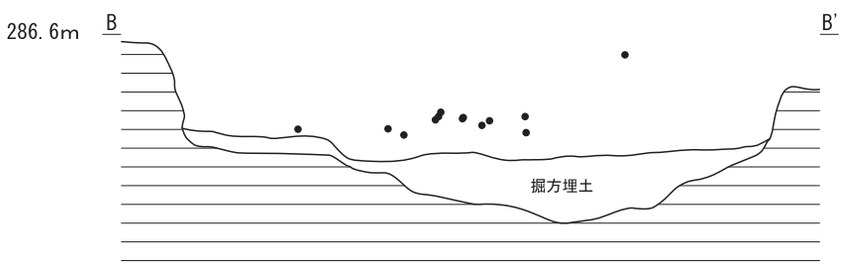
第69図　１区縄文時代遺構・遺物出土状況



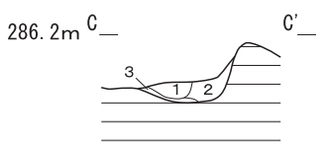
第70図　２区縄文時代遺構・遺物出土状況



▲：石器
●：土器



１層　暗褐色土　　粘性・締まり無、炭化物・径２～８㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　粘性・締まり無、炭化物・径２～８㎜橙色スコリア・径３～４㎜暗灰色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　粘性・締まり無、炭化物・径３～８㎜橙色スコリア・径１～３㎜暗灰色スコリア少量。
４層　暗褐色土　　粘性・締まり無、径１～４㎜橙色スコリア・径２～８㎜褐色スコリア少量。
５層　褐色土　　粘性・締まり無、径２～８㎜橙色スコリア少量。
６層　褐色土　　粘性・締まり無、橙色・暗灰色・径３～８㎜褐色スコリア・径２～３㎜橙色スコリア少量。
７層　暗褐色土（炉埋土）　　焼土主体。粘性・締まり無。
８層　暗褐色土（炉埋土）　　粘性無、締まり有、赤褐色焼土粒多量。
９層　暗褐色土（炉埋土）　　粘性無、締まり有、径２～５㎜橙色～褐色スコリア少量。
10層　褐色土（掘方埋土）　　粘性無、締まり有、径４～５㎜ハードロームブロック少量、橙色・径１～３㎜褐色スコリア多量。
11層　暗褐色土（掘方埋土）　　粘性・締まり有、橙色・径２～３㎜暗灰色スコリア少量。
12層　暗褐色土（掘方埋土）　　粘性有・締まり無、６層とほぼ同様。
13層　褐色土（Ｐ１埋土）　　粘性・締まり無、径３～４㎜橙色スコリア・径４～５㎜黒褐色スコリア少量。



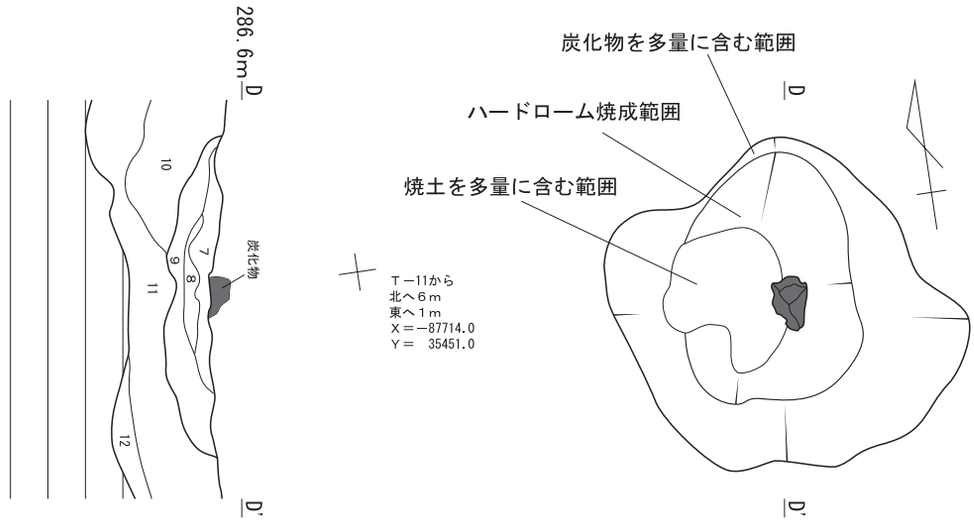
ステップ状の高まり

１層　暗褐色土　　粘性無、締まり有、径２～３㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　粘性無、締まり有、径２～３㎜橙色スコリア少量。
３層　褐色土　　粘性無、締まり有、橙色・径３～４㎜褐色スコリア多量。

0　（１：40）　１ｍ

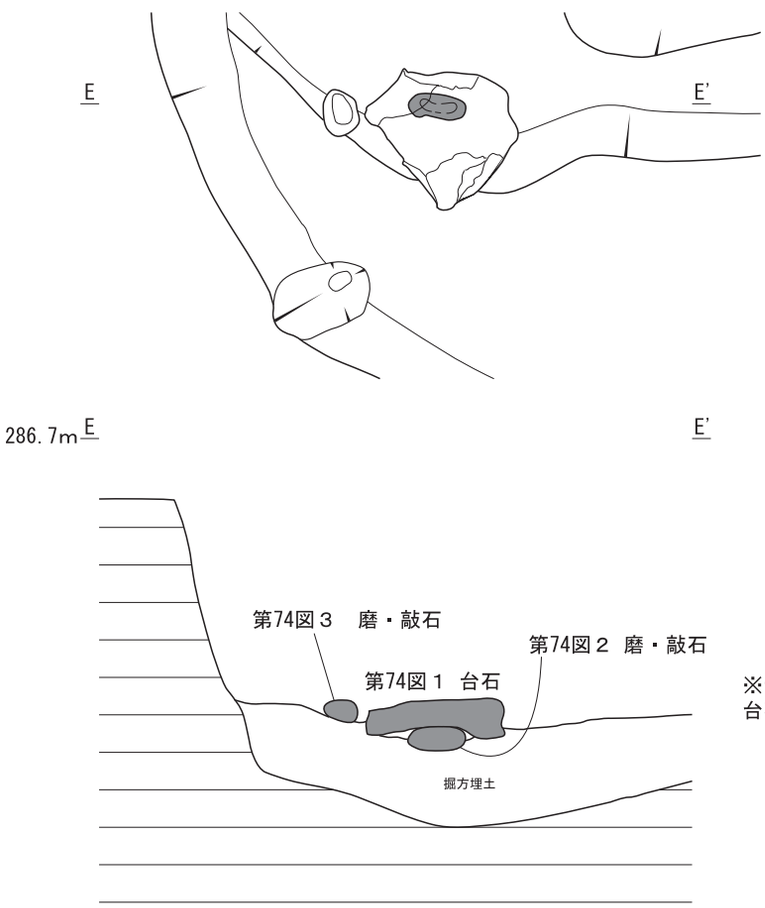
第71図　１号竪穴住居①

地床炉の検出状況



７層	暗褐色土（炉埋土）	焼土主体。粘性・締まり有。
８層	暗褐色土（炉埋土）	粘性無、締まり有、赤褐色焼土粒多量。
９層	暗褐色土（炉埋土）	粘性無、締まり有、径２～５㎜橙色～褐色スコリア少量。
10層	褐色土（掘方埋土）	粘性無、締まり有、径４～５㎜ハードロームブロック少量、橙色・径１～３㎜褐色スコリア多量。
11層	暗褐色土（掘方埋土）	粘性・締まり有、橙色・径２～３㎜暗灰色スコリア少量。
12層	暗褐色土（掘方埋土）	粘性有、締まり無、６層とほぼ同様。

磨・敲石、磨石、台石の出土状況

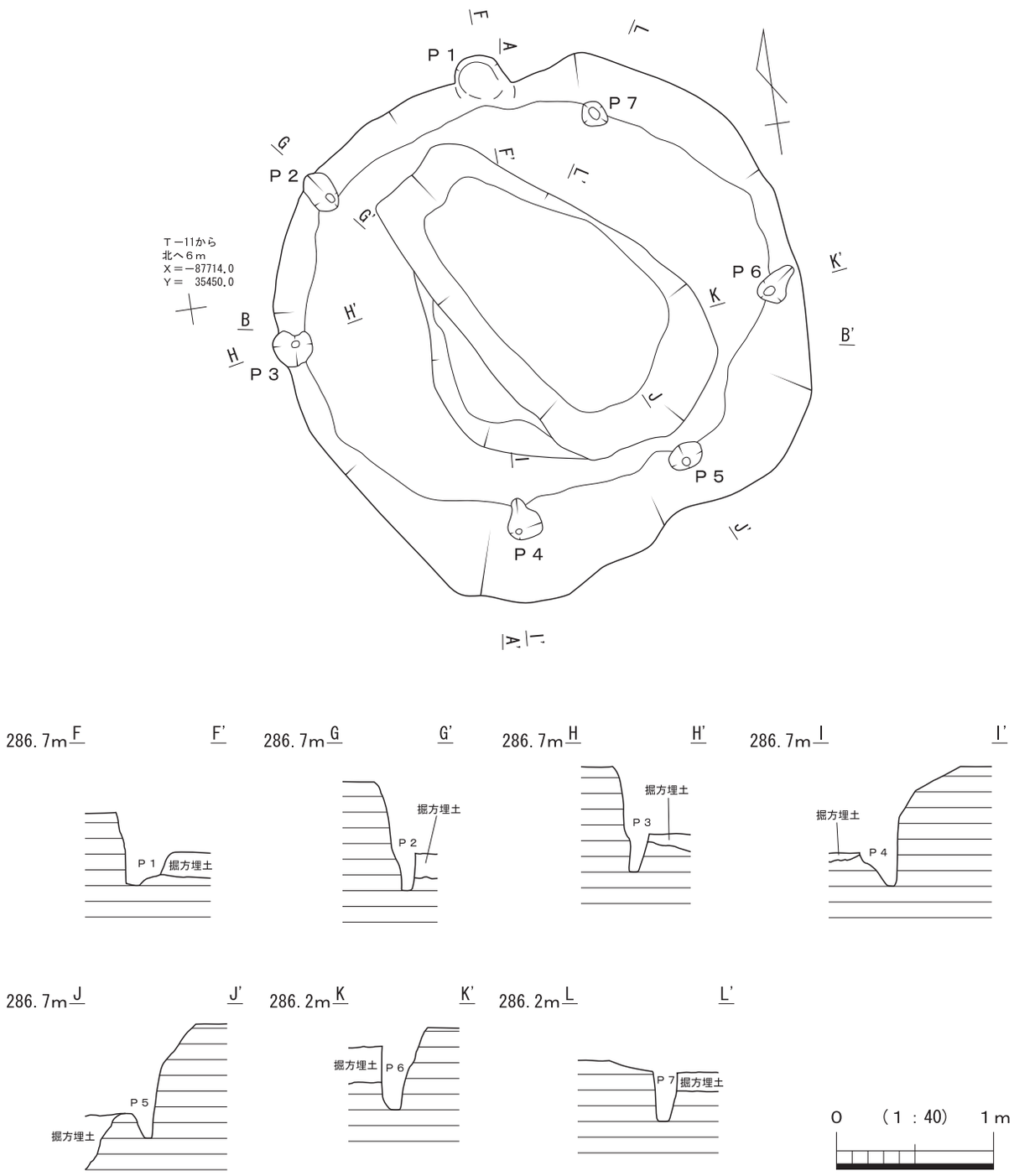


※台石の下に拳大の石器を入れて、
台石の平坦面を確保している。

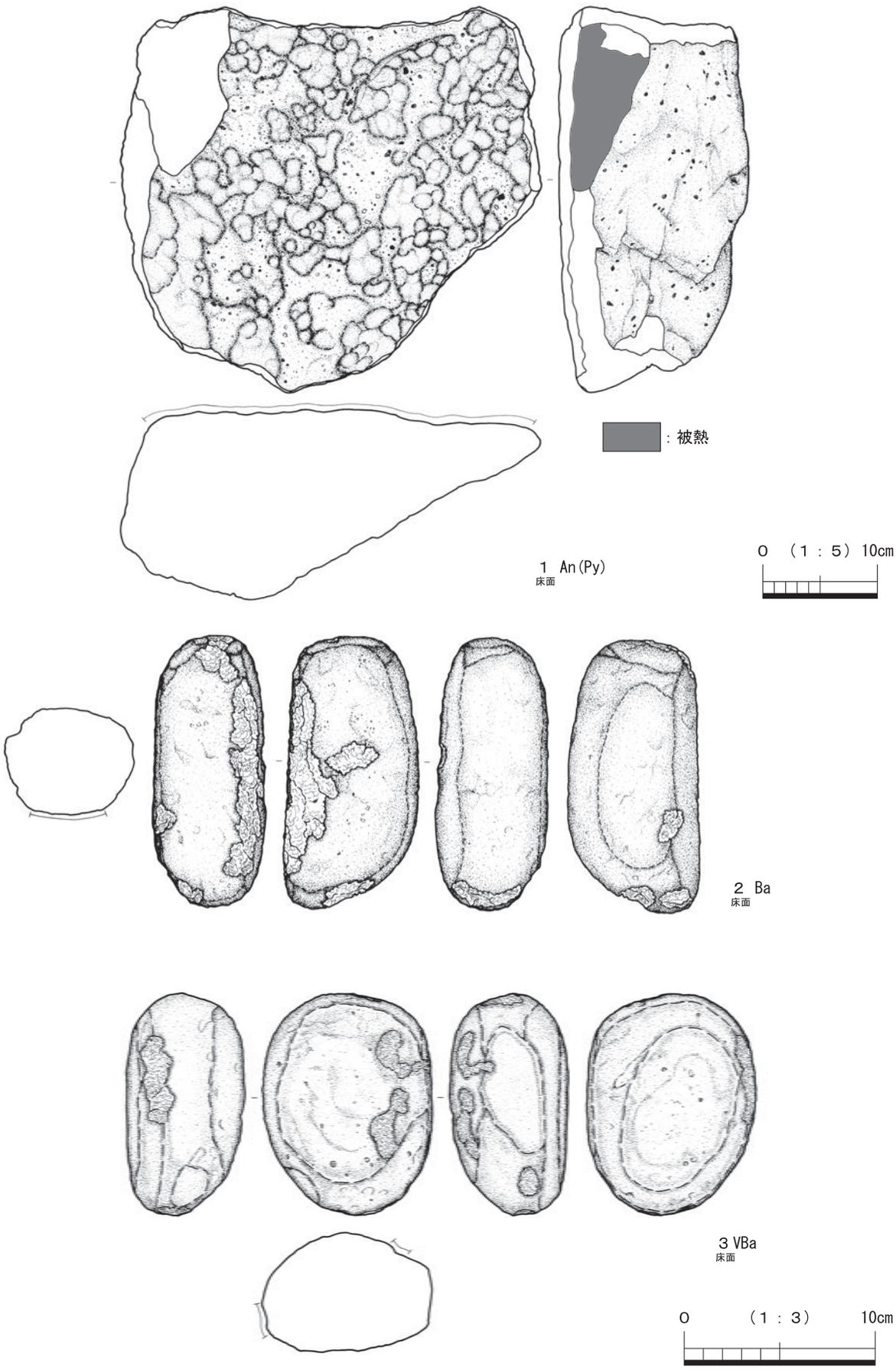
0　（１：20）　１ｍ

第72図　１号竪穴住居②

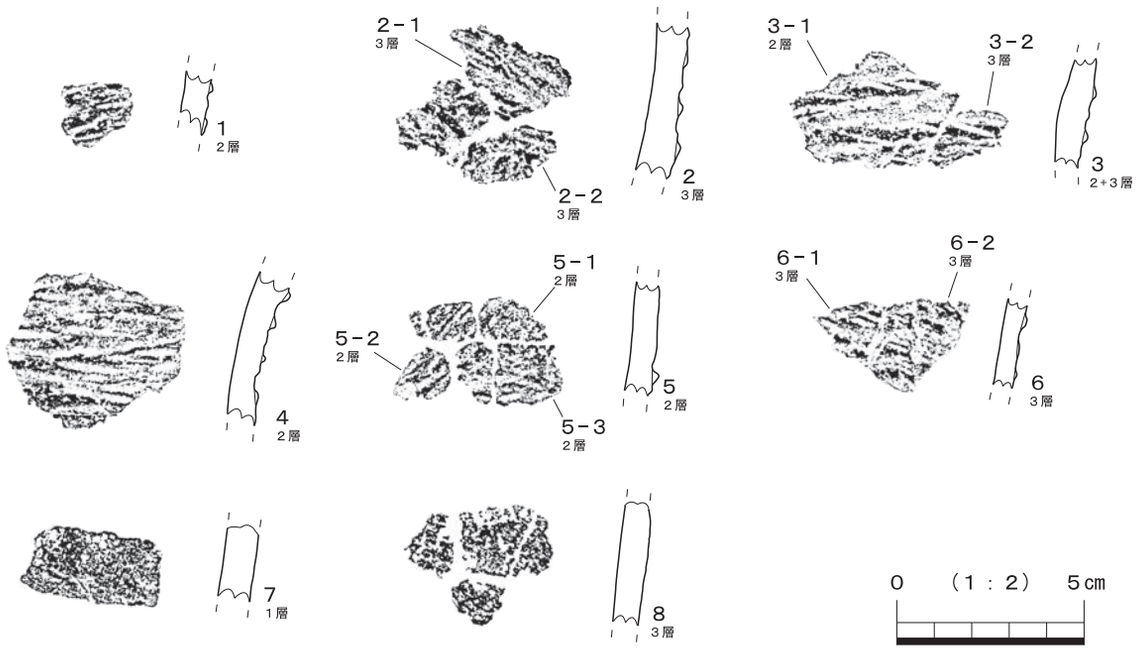
完掘状況



第73図　１号竪穴住居③



第74図　１号竪穴住居、床面出土礫石器



第75図　１号竪穴住居・埋土出土土器

遺物は、床面直上から台石・敲石・磨石が原位置を保ったまま出土している（第71・72図）。第74図１は、輝石安山岩製の台石である。実測図正面には、敲打痕による凹凸が観察できる。右側面には、被熱による赤化面が確認できる。重量は25kgであり、非常に重い。２は、玄武岩製の磨・敲石である。素材形状は、楕円礫と思われる。左側面の平坦な面は、磨面を呈し、触手で確認すると滑らかである。さらに上下面には、敲打による摩滅や凹凸も確認できる。重量は､811ｇである。３は、多孔質玄武岩製の磨・敲石である。素材形状は楕円礫を呈し、側面には敲打による摩滅や凹みの痕跡を確認できる。また右側面の平坦な面は、磨面を呈し、触手で確認すると滑らかである。重量は、839ｇである。

上述の石器３点の出土状況は、以下の通りである。①炉から約20㎝離れた位置で台石（１）が出土した。②その台石の傍らで磨・敲石（３）が出土した。③台石の下からは磨・敲石（２）が出土した。台石とその下から出土した磨・敲石の位置関係であるが、これは台石の平坦面を確保するために、台石の下に磨・敲石を噛ましたものと考えられる。なぜなら、台石の裏面は平坦でないため、単独でバランスを取るのは難しいからである。また台石の側面で確認した被熱面の方向と炉の位置関係を検討すると、台石の被熱面は北方向を向いており、炉が位置する南東方向へは向いていない。これは、台石が作業上の都合で位置を変えて、使用していた結果と考えられる。今回の出土事例は、住居内における台石の可動的な使用状況を示す事例といえよう。

埋土第１～３層からは、縄文土器片が８点出土している。第75図１～６は胴部片であり、胎土が類似することから同一個体片と思われる。外面には幅約５㎜の浮線文により、直線ないし渦巻状のモチーフが表現されている。浮線文には左傾の刻みが施されている。地文には縄文は施文されていない。胎土には雲母が含まれ、砂粒が多い印象を受ける。７・８は無文の胴部片であり、内外面には丁寧なナデ調整が施されている。埋土から出土した土器片は、胎土や施文手法等から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる。

遺構の帰属時期は、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式期と考えられ、住居廃絶後にJO層が形成されたと考えられる。

（２）土坑（第76～83図）

土坑の計測表は、第16表に記載している。

１号土坑（第76図）

本遺構は２区T－11グリッドに位置し、標高287～286mの尾根の緩斜面に立地する。遺構検出面は、JO層である。１号竪穴住居とは、位置的に重複関係にあるが、本遺構の方が新しい。

平面形は円形を呈し、径90～92cmを測る。遺構検出面からの最大深度は､52cmを測る。底面は、サラダボール状に円味を呈する。

埋土は５層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第２層では、仙石スコリアを少量含んでいる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、JO層形成以後～仙石スコリア降灰以前と考えられ、おそらく縄文時代中期の所産と思われる。遺構の機能は不明である。

２号土坑（第76図、写真図版16－２）

本遺構は１区E－５グリッドに位置し、標高322mの尾根上に立地する。遺構検出面は、JO層である。他の遺構との重複関係は見られない。

平面形は楕円形を呈し、長軸124cm、短軸108cmを測る。遺構検出面からの最大深度は、86cmを測る。主軸方向は、北東を示す。

埋土は３層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、おそらく北東からの自然流入により埋没したと考えられる。第１層には、砂沢・仙石スコリアを含んでいる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、JO層形成以後～砂沢・仙石スコリア降灰以前と考えられ、おそらく縄文時代中期の所産と思われる。遺構の機能は、形態的特徴から判断して陥穴と考えられる。

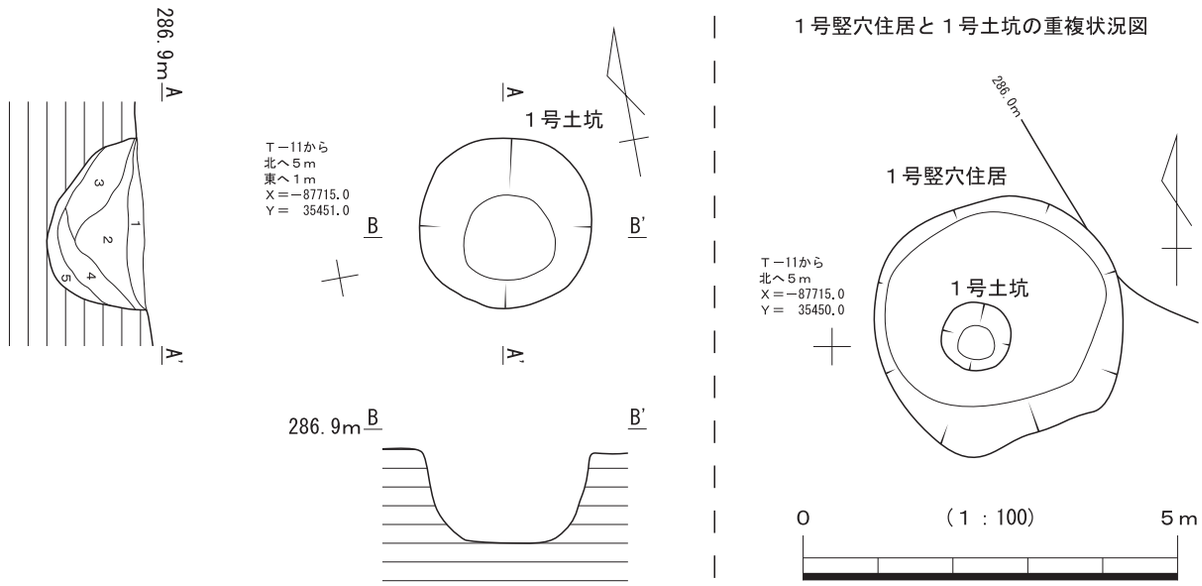
３号土坑（第77図、写真図版20－１）

本遺構は２区U－12グリッドに位置し、標高285.5～285mの尾根平坦面に立地する。遺構検出面は、JO層である。他の遺構との重複関係は見られない。

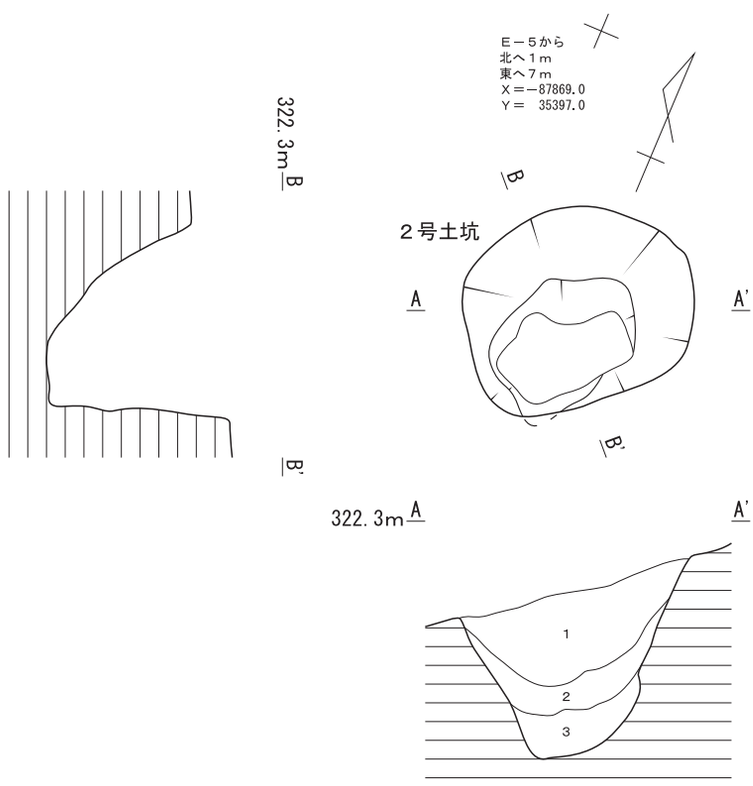
平面形は楕円形を呈し、長軸128cm、短軸92cmを測る。遺構検出面からの最大深度は､98cmを測る。底面は、概ね平坦である。本遺構上部の壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、南東を示す。

埋土は５層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。底面付近では、多くの炭化物を検出した。遺構内部の壁面には、熱による赤く焼けた痕跡を確認できなかったことから、おそらく本遺構の周囲で火を使った作業が行われ、その残滓が自然に流入したものと考えられる。遺物は、縄文土器片３点が出土している。

出土した縄文土器片は、第４・５層から出土している。第77図１は胴部片であり、外面に粘土紐を横位に数条貼付している。その粘土紐には、縄文原体を回転もしくは押圧を加えて、左傾の刻みを加えている。地文は、RLの単節縄文が施文されている。２は口縁部片であり、外面には幅約7.5～８㎜の爪形文が施文されている。上述の１・２は、施文手法から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器に比定される。３は、JO層出土の土器片と本遺構第４層出土の土器片が接合した資料である。部位は胴部片と思われ、無文である。内外面には粘土帯積上げ痕の横スジが観察できる。４は突起状の口端部に刻みを施した口縁部片である。３と胎土及び焼成具合が類似することから、同一個体片と思われる。上述の３・４は、胎土に微量の繊維が混入する点や焼成具合から判断すると、おそらく早期後半の茅山式並行



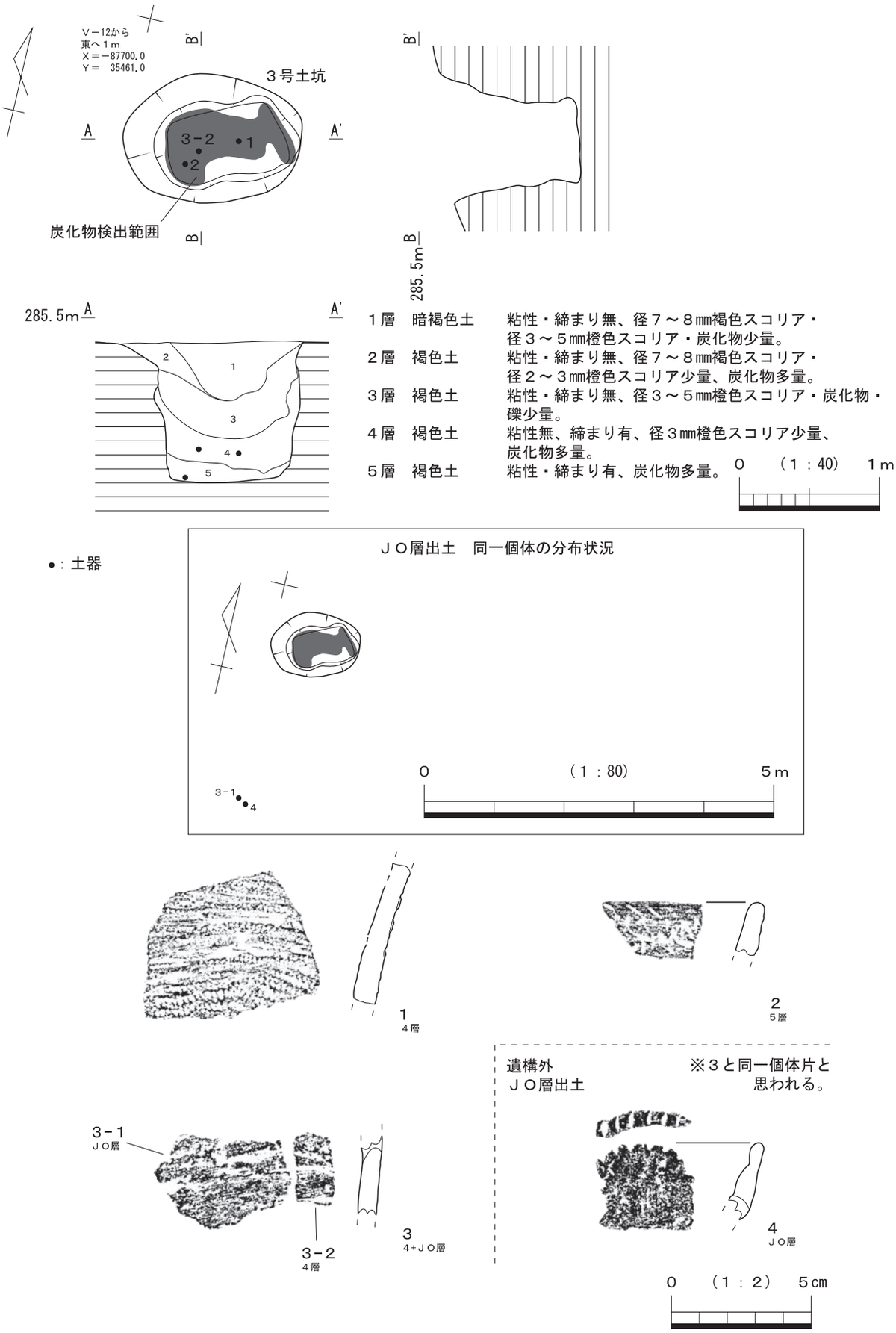
１層　褐色土　　粘性無、締まり有、径７㎜橙色スコリア多量、径１㎜灰色スコリア・径８～12㎜褐色スコリア・白色パミス少量。
２層　褐色土　　粘性・締まり無、仙石スコリア・径12～15㎜褐色スコリア・径２～３㎜橙色スコリア少量。
３層　褐色土　　粘性有、締まり無、径２～８㎜赤色スコリア・径２～３㎜橙色スコリア少量。
４層　褐色土　　粘性有、締まり無、径２㎜橙色・褐色・赤色スコリア少量。
５層　褐色土　　粘性有、締まり無、径２～３㎜橙色・赤色スコリア少量。



１層　暗褐色土　　粘性・締まり無、砂沢スコリア・径10～12㎜褐色スコリア・径５～10㎜橙色スコリア・径３～５㎜白色パミス少量、仙石スコリア多量。
２層　暗褐色土　　粘性・締まり無、径５～10㎜褐色スコリア・径５㎜橙色スコリア少量。
３層　暗褐色土　　粘性・締まり無、径５㎜褐色スコリア・径３～５㎜橙色スコリア少量。

0　（１：40）　１ｍ

第76図　１・２号土坑



第77図　３号土坑、出土遺物

の土器と考えられる。

遺構の帰属時期は、遺構検出面と遺物の遺構内外の接合状況から判断して、JO層形成以後と考えられる。第５層採取の炭化物は、放射性炭素年代測定を実施しており、3,110calBC－2,923calBCの年代値（２σ）が得られている。よって、縄文時代中期の所産と考えられる。遺構の機能は、形態的特徴から判断して陥穴と考えられる。

４号土坑（第78・79図、写真図版19－１、20－１）

本遺構は２区U－12グリッドに位置し、標高284mの尾根の南緩斜面に立地する。遺構検出レベルは、標高285.2mで仙石スコリア層上面である。遺構の上部が、後世の盛土（攪乱土）で厚くパックされており、仙石スコリア層上面での遺構検出は困難であった。攪乱土を半裁した結果、休場層上面にて、遺構のプランを確認したことから、本遺構の調査を開始した。他の遺構との重複関係は見られない。

平面形は隅丸方形を呈し、長軸160㎝、短軸140㎝を測る。遺構検出面（仙石スコリア層上面）からの最大深度は､242㎝を測る。底面は、概ね平坦である。本遺構の中位～上位にかけては、壁面がなだらかに開き、ラッパ状を呈する。主軸方位は、北を示す。

埋土は４層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第１・２層では、砂沢スコリア、仙石スコリア、カワゴ平パミスを少量ながらも含んでいる。遺物は、第３・４層から縄文土器片が２点出土している。

第79図１は、JO層出土の土器片２点と本遺構第３層出土の土器片１点が接合した底部片である。内面と底面には、被熱によるクレーター状のハジケが多く観察できる。２は、JO層出土の土器片６点と本遺構第４層出土の土器片１点が接合した資料である。部位は胴部下半と思われ、内外面には横位のナデ調整が丁寧に施されている。器厚は５～６㎜である。今回、掲載していないが、同じく第４層からは、剥落した突帯部分の土器片が出土している。３は、２と胎土や調整が類似する土器片であり、JO層から出土している。破片は、底部付近に突帯が１条巡る浅鉢形土器と考えられる。上述した１～３は、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる。おそらく遺構の壁面、特にJO層の部分が崩れた際、JO層に含まれていた土器片が、埋土下半に混入したものと考えられる。

遺構の帰属時期は、①仙石スコリア層形成後に遺構を構築している点、②遺構が完全に埋没した後に、その上面を砂沢スコリア層が覆っている点を考慮すると、縄文時代後期の所産と考えられる。遺構の機能は、形態的特徴から判断して陥穴と考えられる。

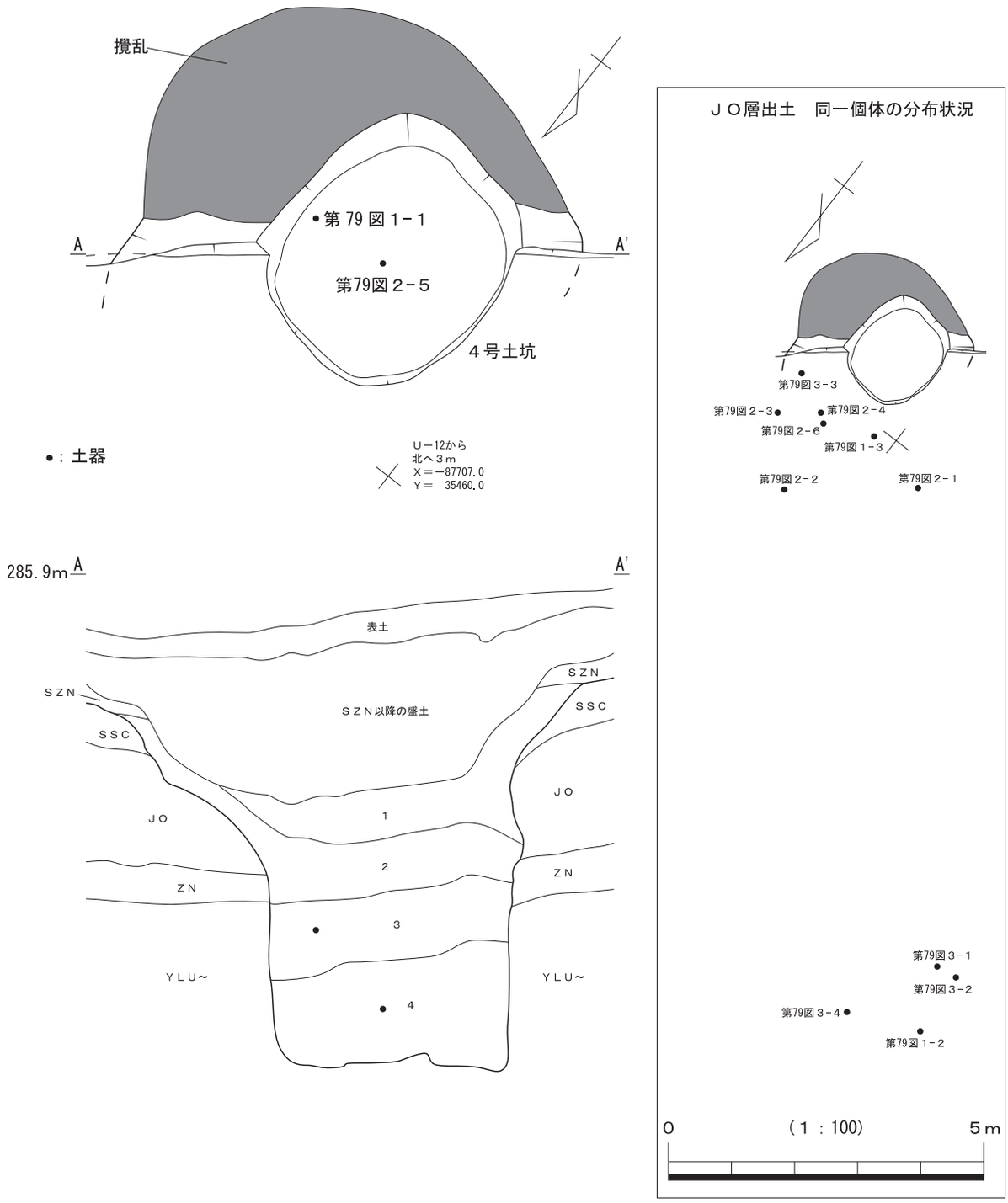
５号土坑（第80・81図、写真図版16－３、19－１、20－２）

本遺構は２区T・U－11グリッドに位置し、標高286mの尾根の緩斜面に立地する。遺構検出面は、JO層である。他の遺構との重複関係は見られない。本遺構から南へ１mのところには、１号竪穴住居が位置する。

平面形は不整隅丸方形を呈し、長軸244㎝、短軸222㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は､142㎝を測る。底面は、概ね平坦である。本遺構上部の壁面は、やや崩れており、ラッパ状に開いている。主軸方位は、北東を示す。

埋土は５層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。特に第２・３層では、仙石スコリアを少量含んでいる。遺物は、縄文土器片９点、石器１点が出土している。

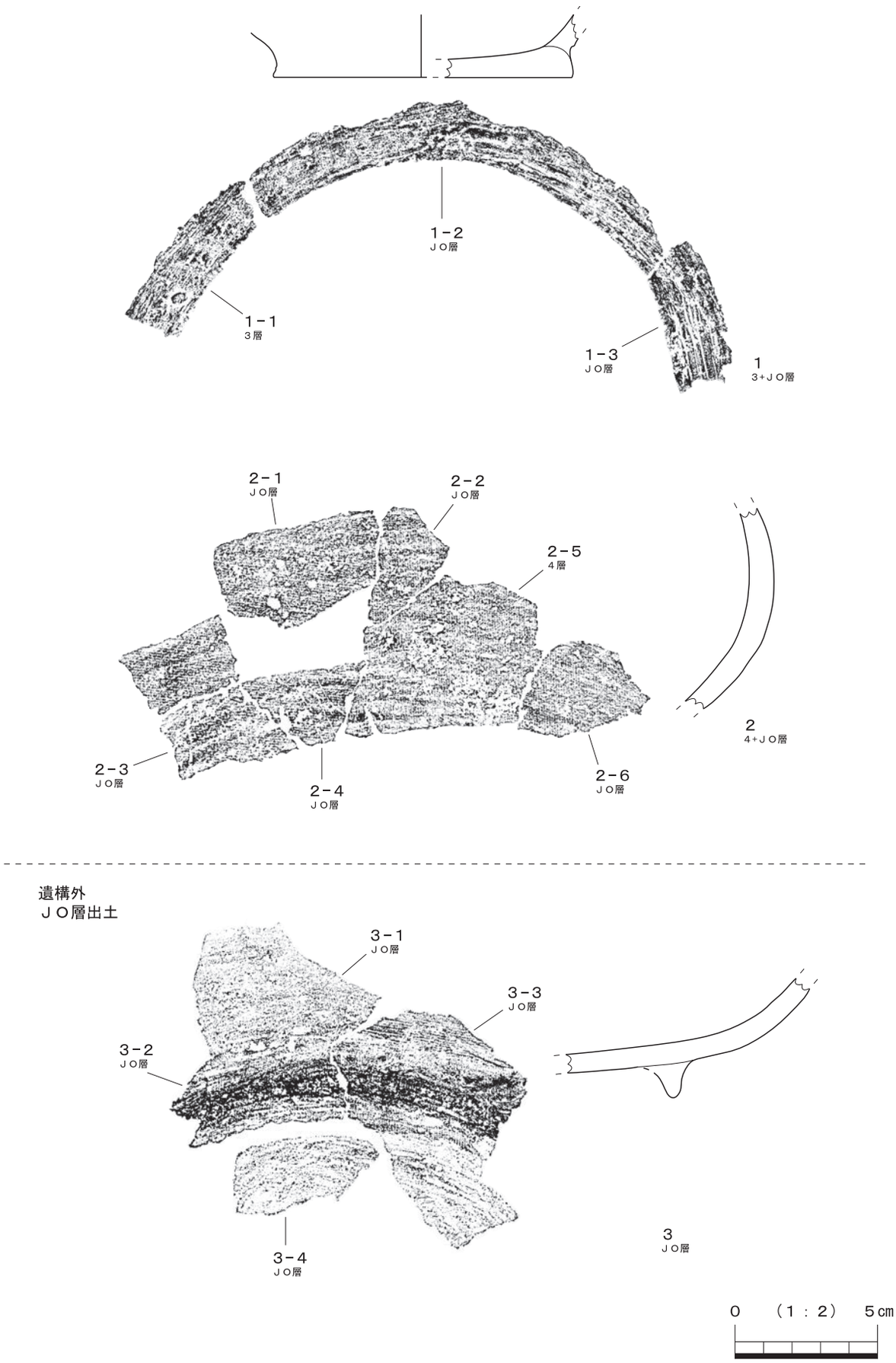
第１～４層にかけて土器片が８点出土している。第80図１は、JO層出土の土器片と本遺構第３層出土の土器片が接合した資料である。獣面突起をもつ口縁部片であり、形態はキャリパー形土器を呈するも



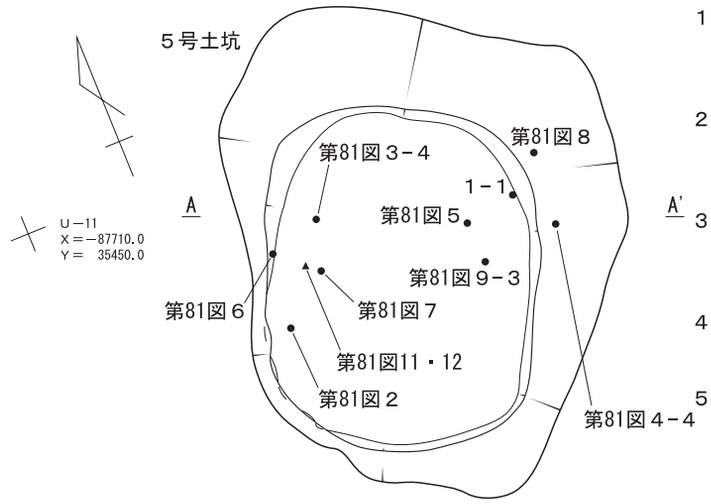
１層　褐色土　　粘性・締まり無、径１～３㎜赤褐色・黒褐色スコリア・径３～５㎜橙色スコリア・砂沢・仙石・カワゴ平パミス少量。
２層　暗褐色土　粘性・締まり無、径１～３㎜黒褐色スコリア・径３～５㎜赤褐色・橙色スコリア・砂沢スコリア少量。
３層　褐色土　　粘性・締まり有、径３～５㎜赤褐色・橙色スコリア・径１～３㎜黒褐色スコリア少量。
４層　暗褐色土　粘性・締まり有、径３～５㎜赤褐色・橙色スコリア・径１～３㎜黒褐色スコリア少量。

0　（１：40）　１ｍ

第78図　４号土坑



第79図　４号土坑、埋土出土土器と同一個体片



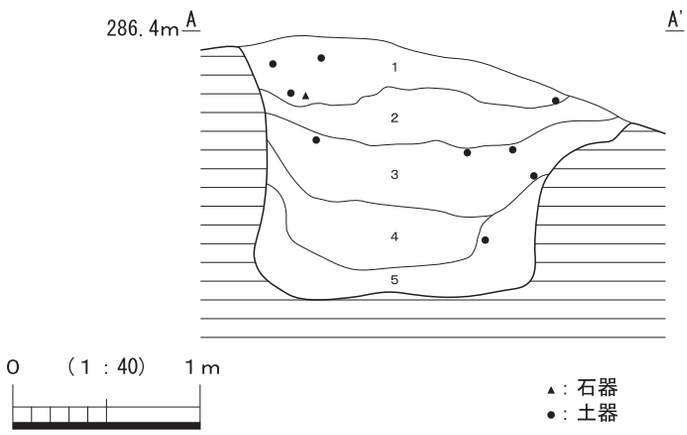
１層　褐色土　粘性無・締まり有、白色パミス・径２～15㎜橙色～褐色スコリア多量、径３～５㎜灰色スコリア少量。

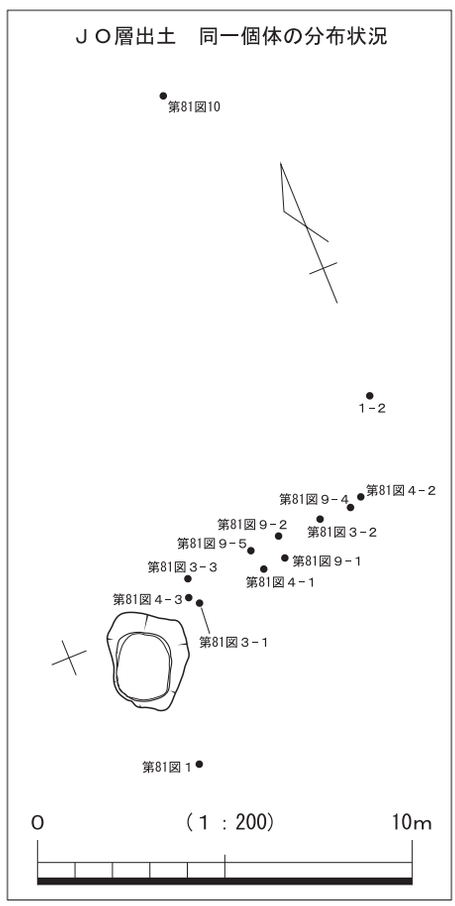
２層　褐色土　粘性・締まり無、仙石スコリア・白色パミス・径３～４㎜黒色スコリア・径８～15㎜褐色スコリア少量。

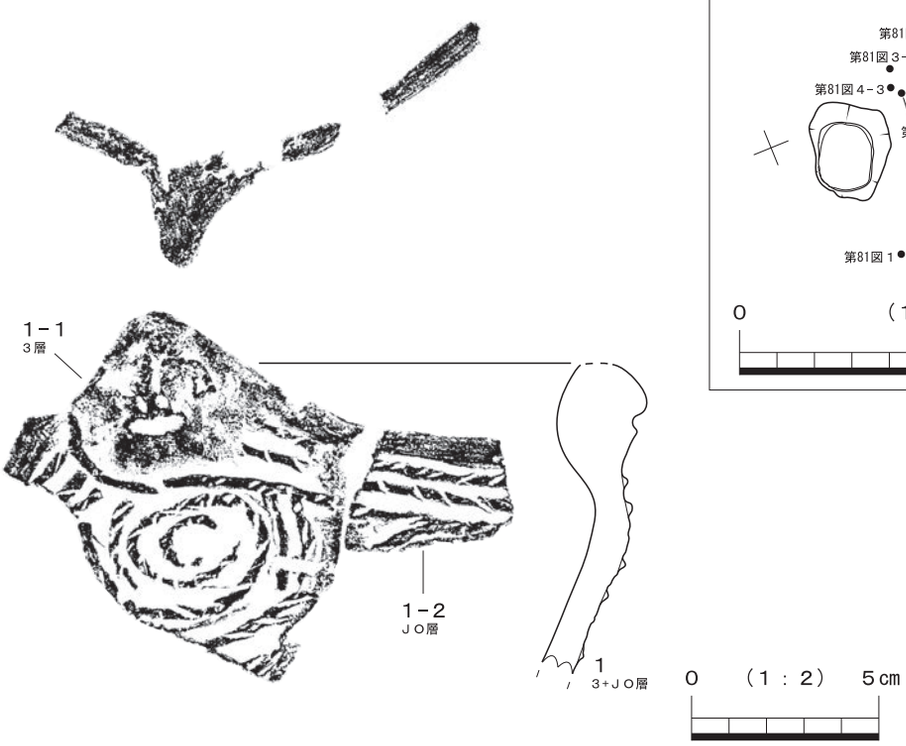
３層　暗褐色土　粘性無・締まり有、仙石スコリア・白色パミス・径３～８㎜黒色スコリア・径７～15㎜褐色スコリア少量。

４層　暗褐色土　粘性・締まり無、白色パミス・径１～５㎜橙色スコリア・径３～５㎜黒色スコリア少量。

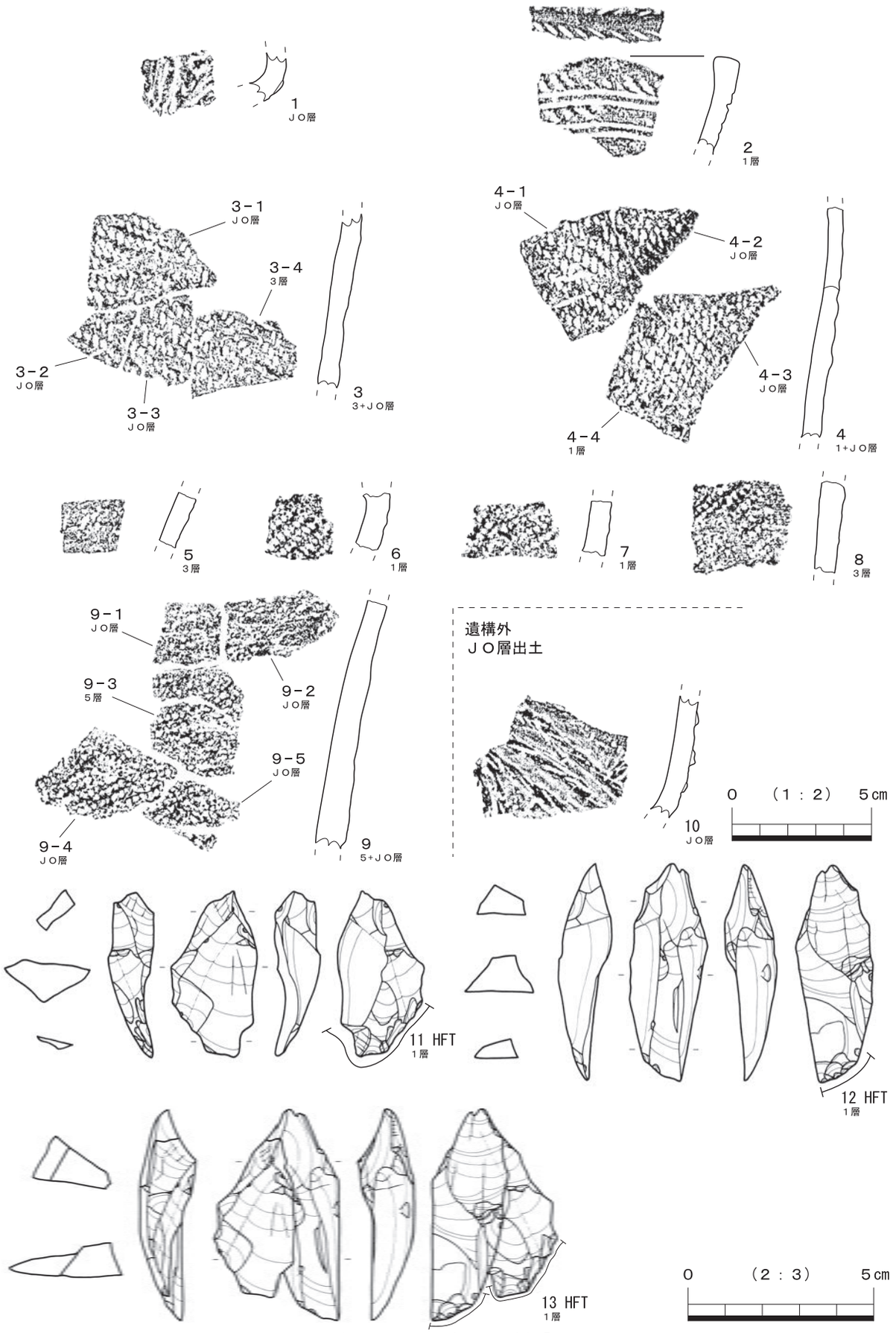
５層　暗褐色土　粘性・締まり無、径１～８㎜橙色～赤色スコリア少量。







第80図　５号土坑、出土遺物①



第81図　５号土坑、出土遺物②

のと考えられる。胎土には、雲母が含まれている。外面には、幅約５㎜の浮線文により、直線及び渦巻状のモチーフを表現している。浮線文には、左傾ないし右傾の刻みが施されている。獣面突起の左眉付近から頭上部分は、欠損により遺存していない。獣面の表現は、幅３㎜の竹管状工具により、①鼻は刺突で表現される、②口は粘土の動きから判断して、口の真ん中に工具を押し当ててから、左へ、そして右へと引きずって、横一文字の口を表現している。また眉部分は、幅６㎜の粘土紐で表現している。第81図１・10はJO層出土の土器片であるが、胎土及び施文手法から判断して、第80図１と同一個体片と思われる。２は、波状口縁部片である。器面には、Lの撚糸文が地文として施されている。施文方向は、斜位方向である。地文を施した後、器面には平行沈線が横位に施文されている。平行沈線の幅は約４㎜であり、圧痕の深さは約１㎜である。その断面形は半円形を呈し、径の小さい竹管状工具を使用したと考えられる。器厚は、肥厚する端部で約９㎜、それ以下は約６㎜である。口端部は平滑に整形してから、内外面の縁に斜めの刻みを加え、矢羽根状を表出している。土器の外面にはススやコゲが観察でき、煮炊きに使用した痕跡が確認できる。外面付着のコゲは、放射性炭素年代測定を実施しており、3,805calBC－3,706calBCの年代値（２σ）が得られている。３・４は胴部片であり、JO層出土の土器片と本遺構第１・３層出土の土器片が接合した資料で、外面にはLの撚糸文が斜位方向に施文されている。５は胴部片であり、Rの撚糸文が施文されている。６～９は胴部片であり、LRの単節縄文が施文されている。９は、JO層出土の土器片と本遺構第５層出土の土器片が接合した資料である。少なくとも第５層が堆積する前には、JO層が形成されていた可能性が高く、JO層を掘削して遺構を構築していたと推察される。またJO層出土土器として掲載しているが、第92図５の一部は、本遺構第４層出土の土器片１点が接合した資料である。埋土から出土した土器片は、施文手法及び年代測定結果から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる 。13は、硬質細粒凝灰岩製の微細剥離のある剥片である。素材は不定形剥片を呈し、裏面下縁にかけて、微細剥離を削出している。裏面の一部には、節理面が確認できる。節理面は、滑らかでやや光沢を持つことから、河川転石を利用したものと考えられる。11と12は、13が節理割れしたものである。個別に分離した後は、それを素材にして加工を行った痕跡は確認できなかった。

遺構の帰属時期は、遺構検出面と遺物の遺構内外の接合状況から判断して、JO層形成以後～仙石スコリア降灰期以前と考えられ、おそらく縄文時代中期の所産と思われる。埋土出土の諸磯ｂ式土器は、JO層中に包含されていたものが、埋没の過程で混入されたものと考えられる。遺構の機能は、形態的特徴から判断して、陥穴と考えられる。

６号土坑（第82図、写真図版17－１）

本遺構は１区Ⅰ－14グリッドに位置し、標高313.5～312mの尾根の緩斜面に立地する。遺構検出面は、休場層上面である。他の遺構との重複関係は見られない。

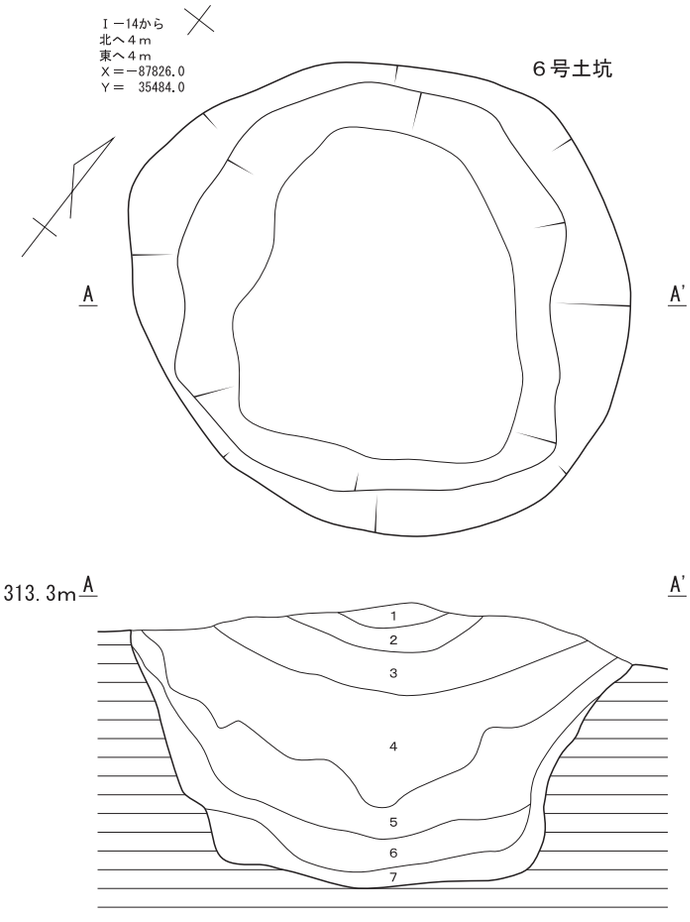
平面形は不整隅丸方形を呈し、長軸268㎝、短軸250㎝を測る。遺構検出面からの最大深度は、149㎝を測る。底面は、概ね平坦である。主軸方位は、北東を示す。

埋土は７層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。第１～３層では、砂沢・仙石スコリアを少量含んでいる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、砂沢・仙石スコリア降灰以前と考えられ、おそらく縄文時代中期の所産と思われる。遺構の機能は、形態的特徴から判断して陥穴と考えられる。

７号土坑（第82図、写真図版17－２）

本遺構は１区G・H－４グリッドに位置し、標高314mの尾根中腹の緩斜面に立地する。本遺構は、確



１層　暗褐色土　粘性・締まり無、仙石スコリア多量、砂沢スコリア・径10～13㎜褐色スコリア・径５～10㎜橙色スコリア・径３～５㎜白色パミス少量。

２層　黒褐色土　粘性・締まり有、仙石スコリア・径１～10㎜褐色スコリア・径５～10㎜橙色スコリア・炭化物・径３～５㎜白色パミス少量。

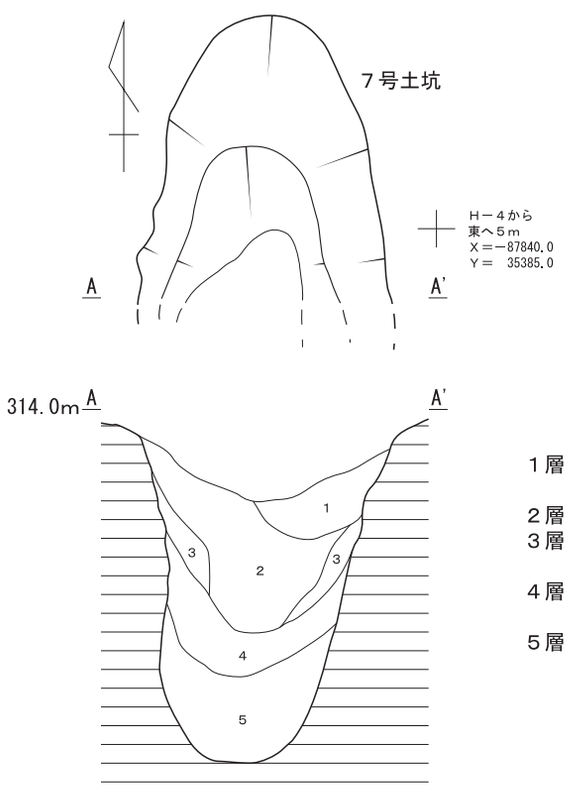
３層　黄褐色土　粘性・締まり有、仙石スコリア・径５～10㎜褐色スコリア・炭化物・径５㎜橙色スコリア・径３～５㎜白色パミス少量。

４層　暗褐色土　粘性無、締まり有、径５㎜褐色スコリア・径３～５㎜炭化物少量。

５層　褐色土　粘性無、締まり有、径１～５㎜橙色・黒色・褐色スコリア多量、白色パミス少量。

６層　暗褐色土　粘性・締まり無、径１～５㎜暗褐色・橙色・黒色スコリア少量。

７層　褐色土　粘性・締まり無、径３～５㎜橙色スコリア少量。



１層　暗褐色土　粘性・締まり無、径10～15㎜褐色スコリア・カワゴ平パミス少量。

２層　暗褐色土　粘性・締まり無、径10～20㎜仙石スコリア多量。

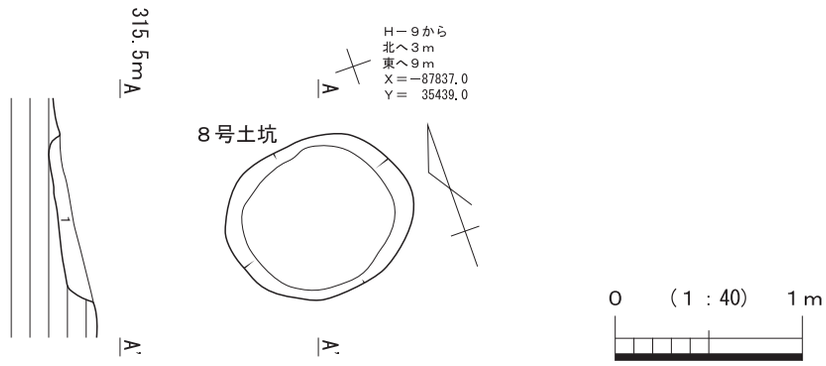
３層　暗褐色土　粘性無、締まり有、白色パミス・径２～３㎜橙色スコリア・径７～10㎜仙石スコリア少量。

４層　黒褐色土　粘性有、締まり無、径10～20㎜仙石スコリア・径２～３㎜橙色スコリア少量。

５層　黒褐色土　粘性有、締まり無、径10～20㎜仙石スコリア・径２～３㎜橙色スコリア少量。

0　（1：40）　1ｍ

第82図　６・７号土坑



１層　暗褐色土　　粘性無、締まり有、径２～３㎜橙色・褐色スコリア・炭化物少量。

第83図　８号土坑

認調査時に設定したTP10の北壁面において検出した。そのため、遺構の南半分は、すでに掘削が進行していたため、記録できなかった。北壁面を観察すると、遺構の構築面は、カワゴ平パミス層上面である。遺構埋没後は、砂沢スコリア層によりパックされている。他の遺構との重複関係は見られない。

平面形は長楕円形を呈するものと思われ、長軸149㎝(遺存値)、短軸136㎝を測る。検出面からの最大深度は、146㎝を測る。主軸方向は、北を示す。

埋土は５層に分けた。堆積状況はレンズ状堆積を呈し、周囲からの自然流入土及び遺構壁面の壁崩土の混土により埋没したと考えられる。特に第３・４層では、仙石スコリアを少量含んでいる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、カワゴ平パミス層形成後～砂沢スコリア降灰以前と考えられ、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。遺構の機能は、形態的特徴から判断して陥穴と考えられる。

８号土坑（第83図）

本遺構は１区H－９グリッドに位置し、標高315ｍの尾根緩斜面に立地する。遺構検出面は、砂沢スコリア層上面である。本遺構は、確認調査時に設定したTP－09の掘削作業にて検出した。他の遺構との重複関係は見られない。

平面形は楕円形を呈し、長軸102㎝、短軸84㎝を測る。検出面からの最大深度は12㎝を測る。主軸方向は東を示す。

埋土は１層と判断し、周囲からの自然流入により埋没したと考えられる。埋土から遺物は出土していない。

遺構の帰属時期は、砂沢スコリア層形成以降と考えられ、遺構の形態的特徴から判断して、中近世の所産と思われる。遺構の機能は不明である。

（3）集石（第85・86図）

現地調査では、多くの礫が出土した。しかし、出土した礫が密集状況にあるというよりも、むしろ散在状況にあることの方が多く、集石遺構としての認定が困難であった。特にJO層は礫が多く含まれており、包含層中に含まれる礫として判断している部分もある。

第69・70・84図には、１・２区の礫・廃棄礫の出土状況を示している。礫は、遺物取り上げ後、遺物選別の際に、礫として認定されたものであり、中には礫石器の可能性があるものも含まれている。廃棄礫は、礫として認定されたものの中で、特に礫石器の可能性が低いものについて、現地で廃棄した礫を意味する。

１・２区の礫・廃棄礫の出土状況を確認すると、少なくとも５か所、礫・廃棄礫の視覚的な散在範囲を確認できる。

礫の散在範囲①：１区C･D－3グリッド及びその周囲に位置し、尾根平坦面に分布する。
礫の散在範囲②：１区D－6グリッド及びその周囲に位置し、尾根平坦面に分布する。
礫の散在範囲③：１区I－14、J－14･15に位置し、尾根の北東緩斜面に分布する。
礫の散在範囲④：２区U－11北側、V－11及びその周囲に位置し、尾根の北西緩斜面に分布する。
礫の散在範囲⑤：２区U－11東側、U－12及びその周囲に位置し、尾根の南東緩斜面に分布する。

散在した礫は、本来、集石を構成していた礫と考えられる。同様に土器・石器の出土位置も、ほぼ重なるように散在する傾向が見られることから判断して、JO層形成の過程で原位置を留めなくなったものと解される。仮に集石遺構の存在を想定した場合、その帰属時期は、JO層出土の遺物から判断すると、縄文時代早期前半～前期後半の範疇に比定されると考えられる。

現地調査では、礫の散在範囲①において、JO層上面より集石土坑を１基検出している。以下、その調査所見について記載する。集石の計測表は、第17表に記載している。

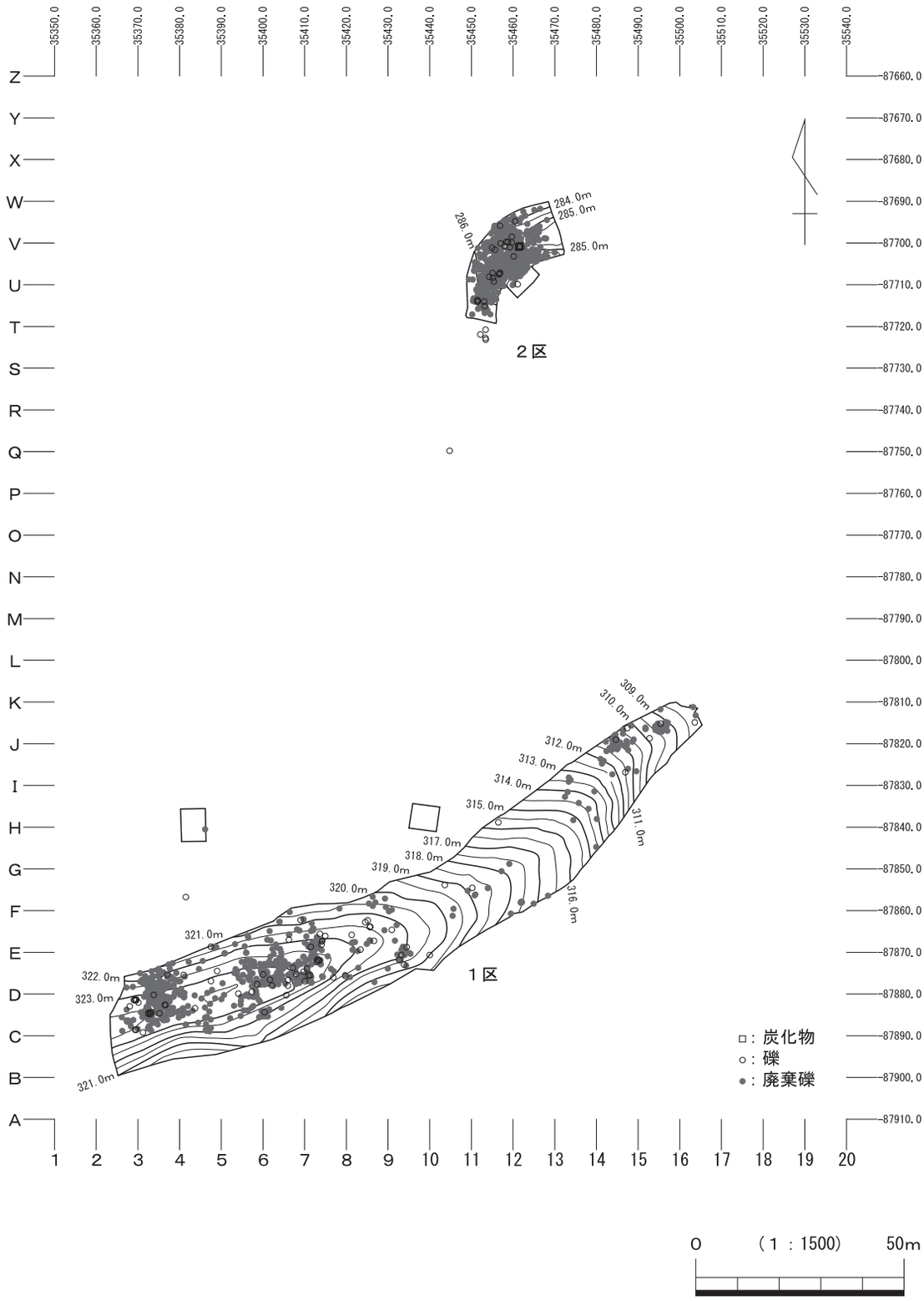
１号集石（第85・86図、写真図版17－３）

本遺構は１区C－3グリッドに位置し、標高323.5 ～ 323mの尾根平坦面に立地する。礫・焼礫は、仙石スコリア層下部～ JO層上部にかけて検出しており、大半の礫の設置面はJO層上面と考えられる。礫が密集した地点及びその周囲の礫については、平面・断面図を作成した。特に礫が密集した地点は、集石遺構として認定した。調査の結果、浅い土坑に集石が入り込む状況を確認し、いわゆる集石土坑であると判明した。他の遺構との重複関係は見られない。

集石周囲の礫は、径7.4mの範囲に散発的に広がっており、おそらく集石の構築礫が散在したものと推測される。土坑の平面形は不整楕円形を呈し、長軸150㎝、短軸126㎝を測る。土坑の最大深度は19㎝を測り、浅い。土坑の埋土は３層に分けた。第１層では焼礫を含み、それ以下の第２・３層では含まれない状況にあった。これは、集石の使用または廃絶状況を示していると思われる。土坑内からは遺物は出土していない。その周囲では、散在した礫に混ざって、礫石器が１点出土している。

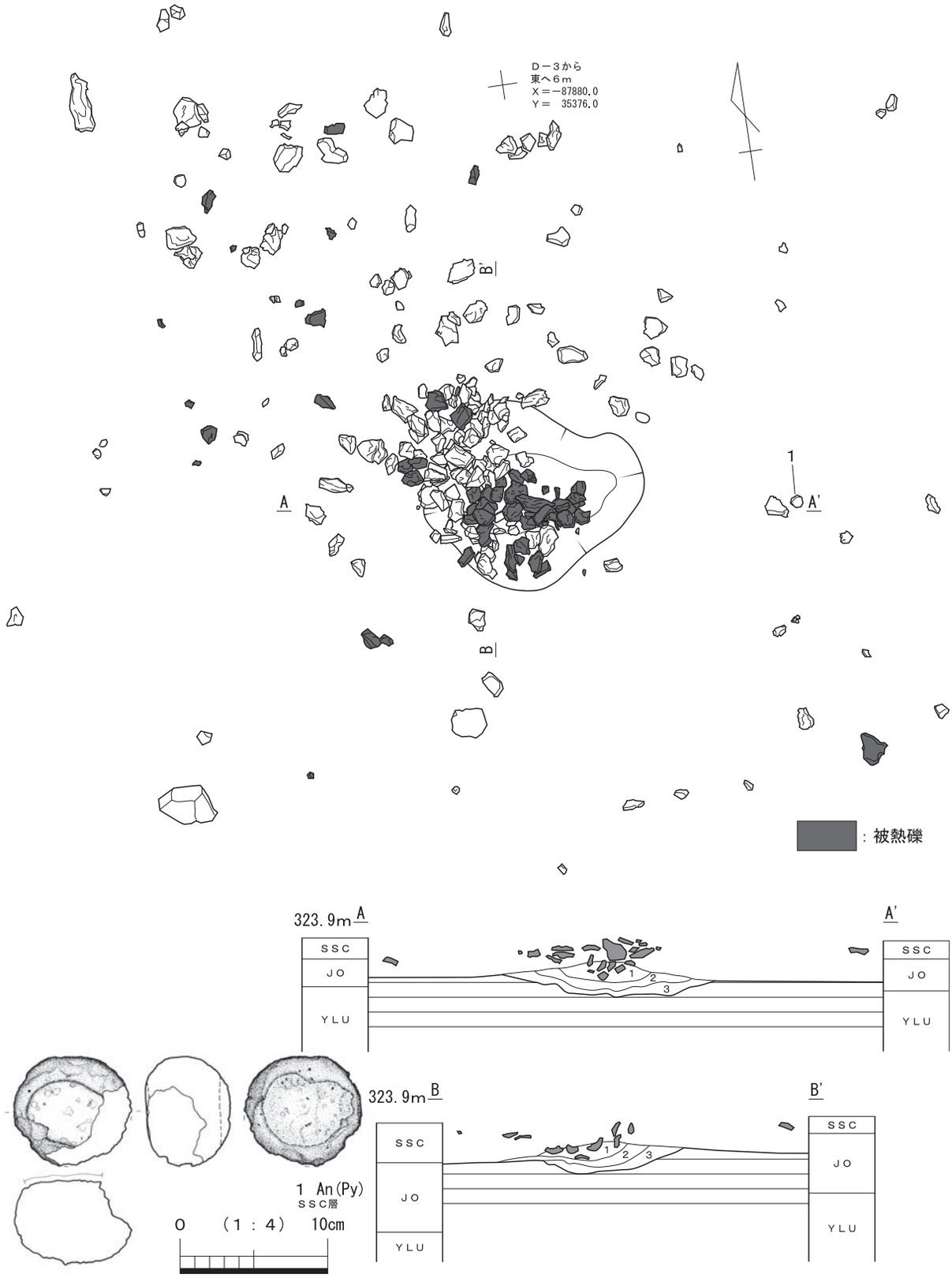
第85図１は、輝石安山岩製の磨石である。素材形状は、円礫を呈する。実測図正面の平坦な面は、磨面を呈し、触手で確認すると滑らかである。重量は、421ｇである。

遺構の帰属時期は、①JO層を一部掘削して構築している点、②土坑埋土中にカワゴ平パミスが含まれる点から判断して、おそらく縄文時代後期の所産と思われる。



0　（1：1500）　50m

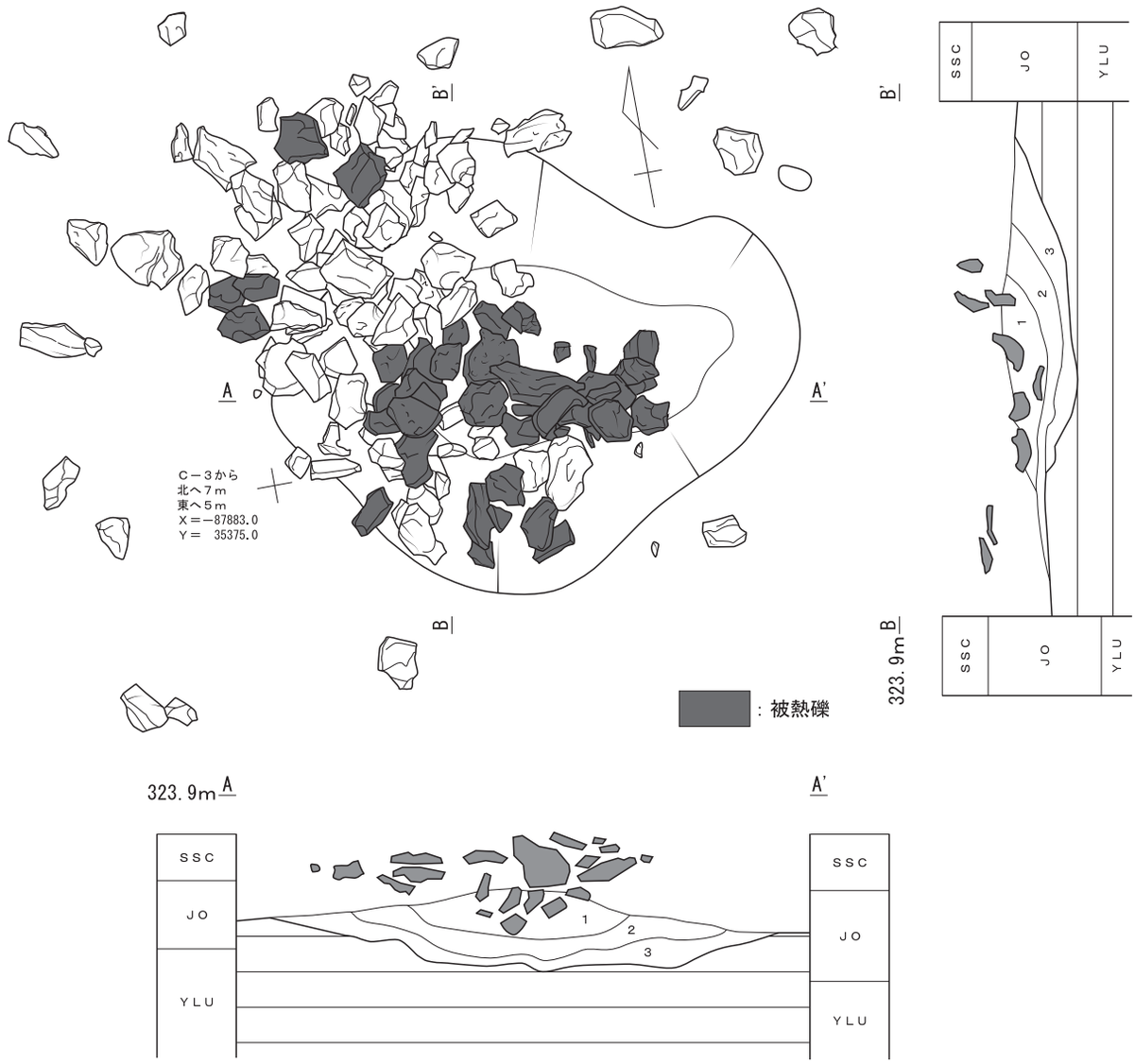
第84図　礫・廃棄礫・炭化物の出土分布図



1層　暗褐色土　　粘性・締まり無、径1～2㎜橙色スコリア少量。
2層　暗褐色土　　粘性・締まり無、径1～2㎜橙色スコリア・カワゴ平パミス・径2～5㎜炭化物少量。
3層　黒褐色土　　粘性有、締まり無、径1～2㎜橙色スコリア・径2～5㎜炭化物少量。

0 （1：40） 1m

第85図　1号集石周辺、出土遺物



１層　暗褐色土　　粘性・締まり無、径１～２㎜橙色スコリア少量。
２層　暗褐色土　　粘性・締まり無、径１～２㎜橙色スコリア・カワゴ平パミス・径２～５㎜炭化物少量。
３層　黒褐色土　　粘性有、締まり無、径１～２㎜橙色スコリア・径２～５㎜炭化物少量。

0　（1：20）　1m

第86図　１号集石

（4）遺構外出土遺物（第87～118図）

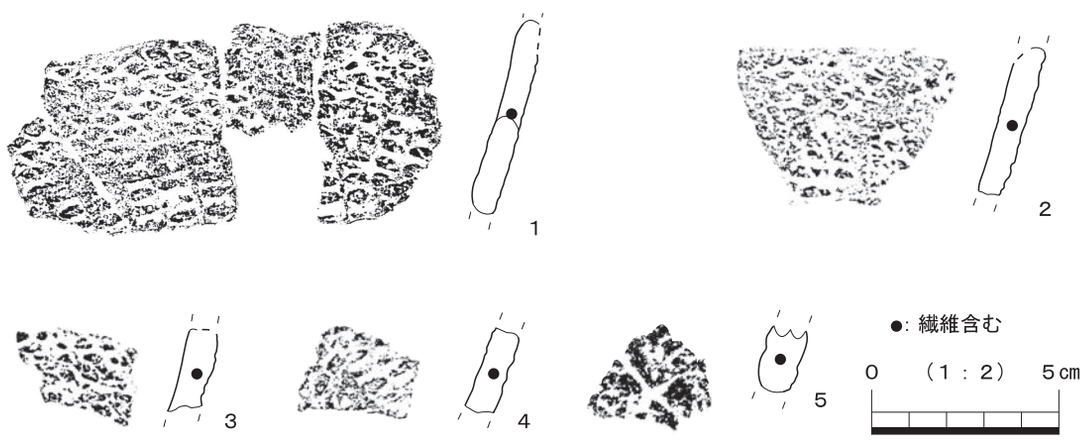
ここでは、縄文時代遺物包含層（JO）出土及び表採出土の遺物について、①土器と②石器に分けて、記載する。

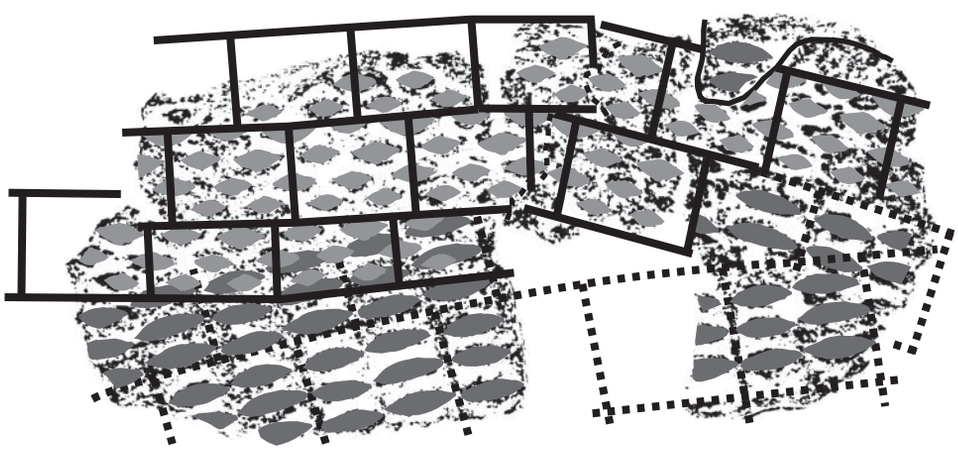
①土器

本遺跡からは､381点出土している。そのうち、特徴的な土器について実測を行った。以下、時期ごとに記載する。出土土器の観察表は、第18表に記載している。

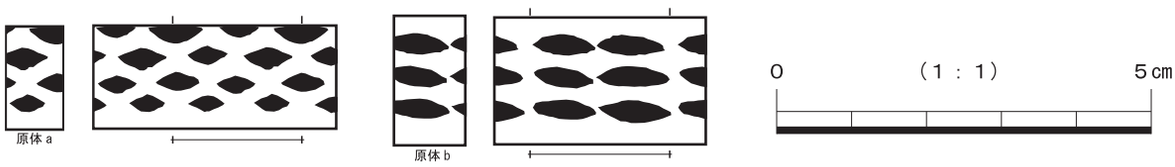
早期の土器（第87～89図・写真図版19－１、21－１）

第87図１～５は、胎土及び施文手法が類似することから、同一個体片と思われる。外面には、楕円押型文が横位方向に密接施文されている。楕円押型文は、原体aと原体bの２種類が異種併用して施文さ

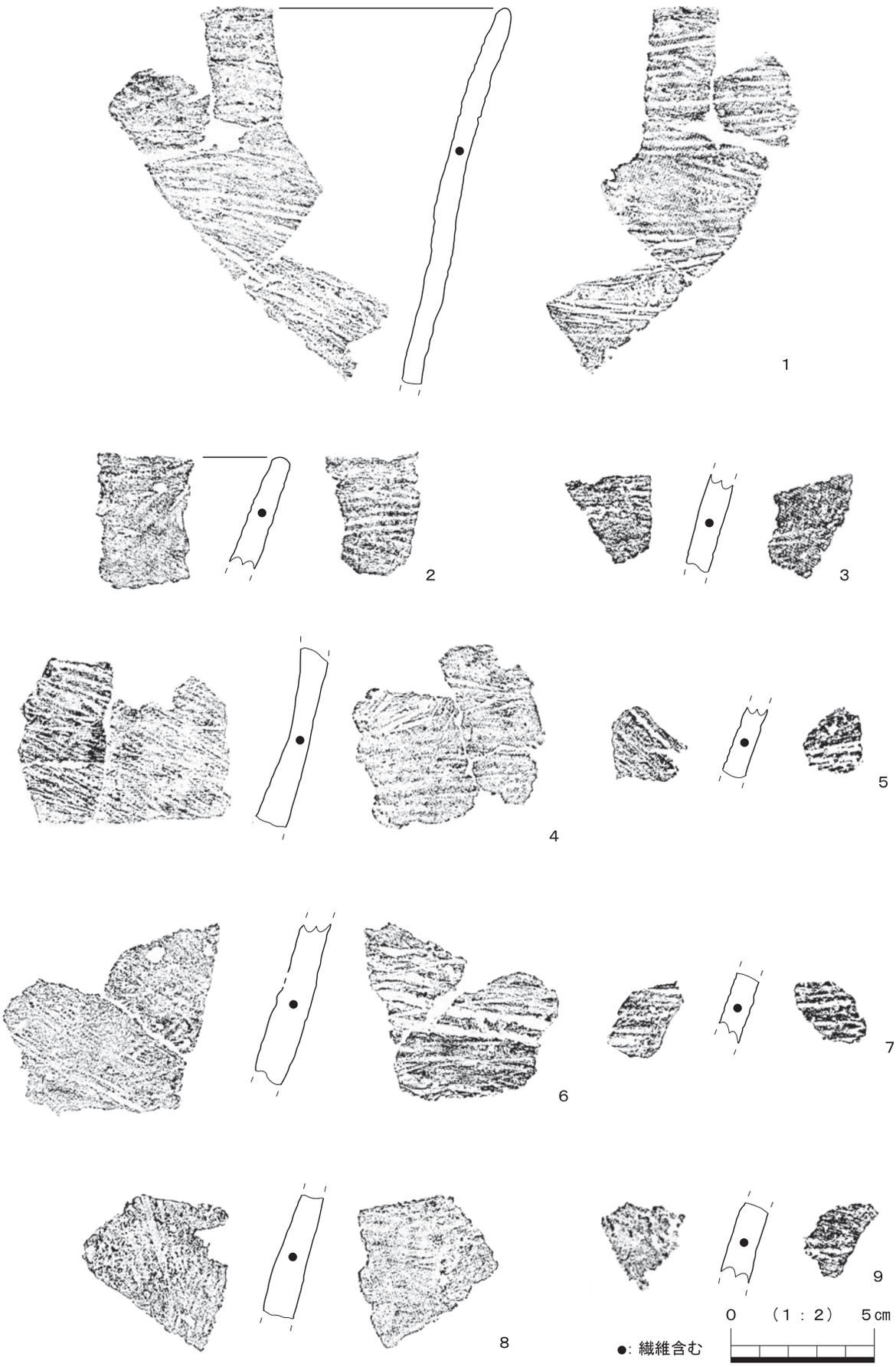




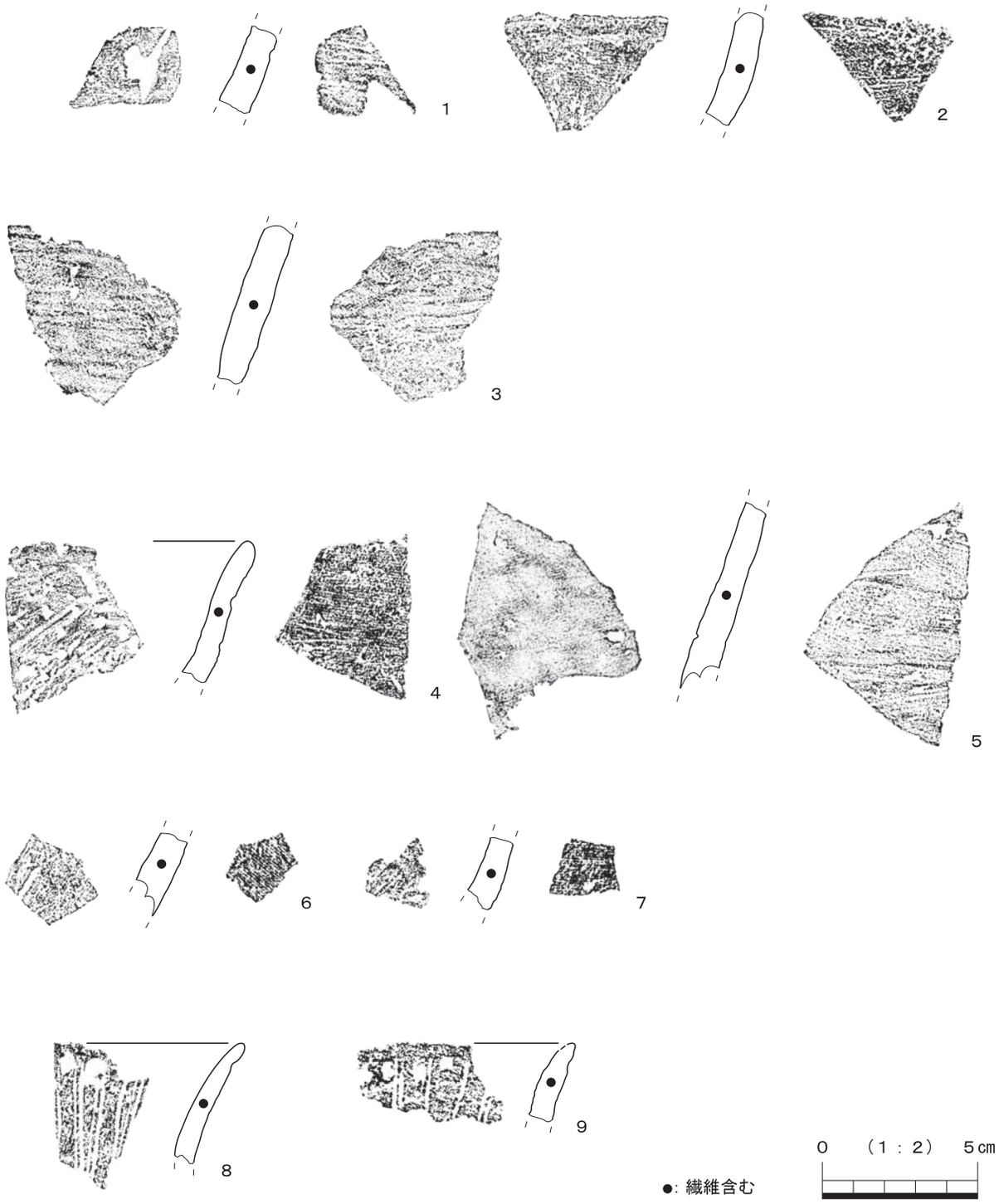
②押型文原体模式図



第87図　縄文包含層出土土器　早期①



第88図　縄文包含層出土土器　早期②



第89図　縄文包含層出土土器　早期③

れている。原体aは、「いわゆる殻粒文と呼ばれる、最も一般的な楕円文」であり、小杉康氏の原体分類では、楕円文第１種に相当する（小杉1987）。原体ｂは、「隣接する楕円文が、長軸方向で連接する」楕円文であり、小杉康氏の原体分類では、楕円文第３亜種に相当する（小杉1987）。原体aの圧痕を観察すると、楕円文の条数は４条と思われ、原体の直径は８㎜、原体長は14㎜を測る。原体の端部処理は直線的であり、「第３種原体端部処理」（小杉1987）を呈する。原体ｂの圧痕を観察すると、楕円文の条数は３条と思われ、原体の直径は9.5㎜、原体長は17㎜を測る。原体の端部処理は直線的であり、「第３種原体端部処理」（小杉1987）を呈する。この原体ｂには、1.5～２㎜の縦スジが楕円文と楕円文の間にて確

認できる。この縦スジは、楕円文の割り付け区画線と考えられる。１の胴部片では、上位に原体a、下位に原体ｂの施文が確認できる。粘土帯の接合部分が一部剥落している箇所を観察すると、原体aの下から、原体ｂの施文が確認できる。よって、原体ｂの施文→粘土帯接合→原体aの施文、という順序が確認できる。時期は、施文手法から判断して、縄文時代早期前半の細久保式土器と考えられる。また異種併用押型文であることから、寒ノ神・山の神３群段階（川崎2003）に比定されると考えられる。

第88図１～９、第89図１～３は、内外面に条痕文が施文されている土器片である。条痕文は、外面では斜位・横位方向に、内面では横位方向に施されている。胎土には、繊維の混入が確認できる。時期は、施文手法及び胎土から判断して、縄文時代早期後半の条痕文土器と考えられる。

第89図４～７は、胎土及び焼成具合が類似することから、同一個体片と思われる。内外面には、擦痕状の調整が確認できる。４は口縁部片であり、外面には、肋条のある貝殻の復縁を器面に当てて、鋸歯状に施文している。時期は、施文手法から判断して、縄文時代早期末葉の打越式土器中段階（打越２式）に比定されると考えられる（早坂2010）。

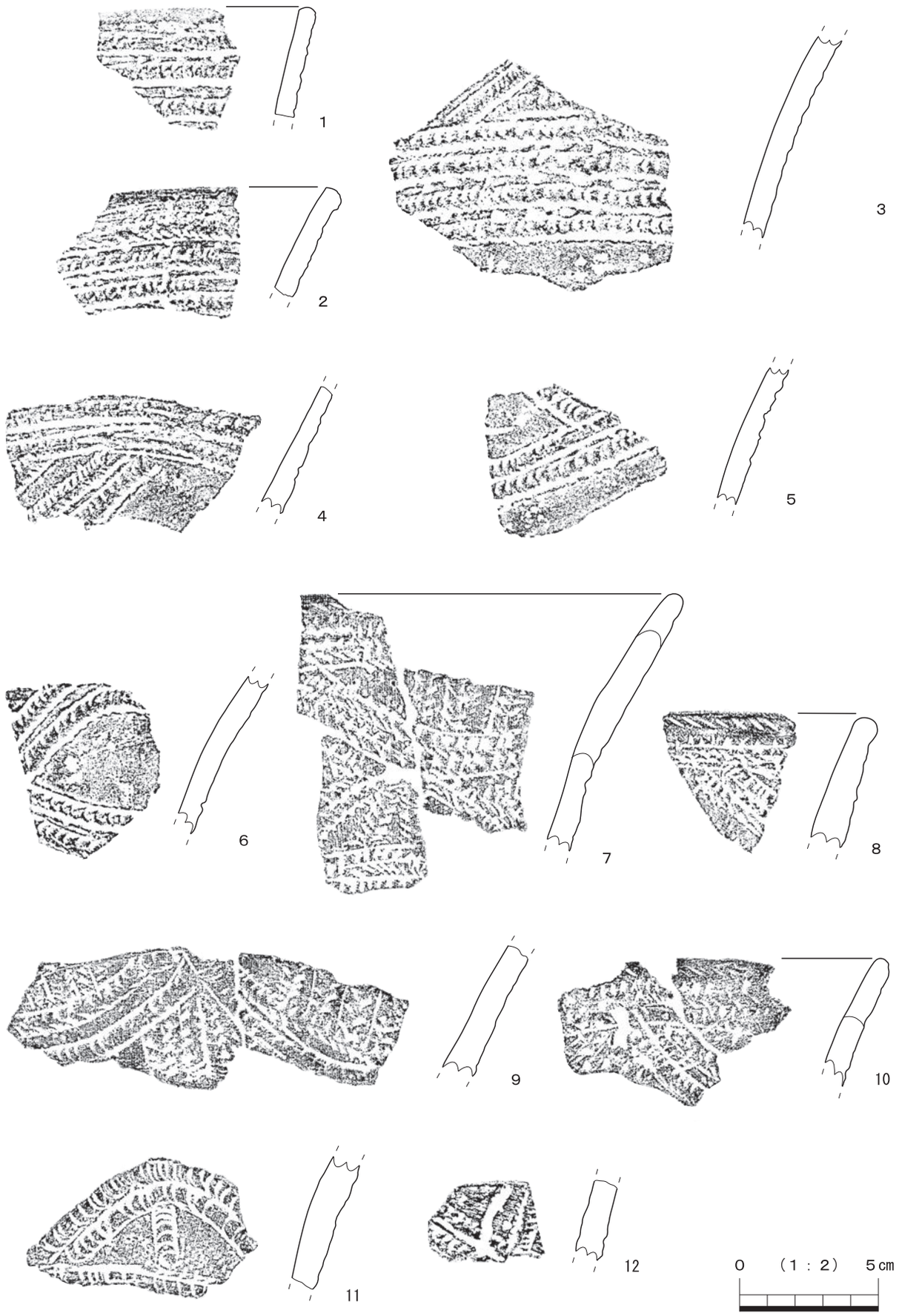
第89図８・９は口縁部片である。外面には、幅３～3.5㎜の先端が二股に分かれる櫛歯状工具による縦位施文が数条施されている。口唇部外面には、櫛歯状工具の先端による刺突が１列巡っている。時期は、施文手法から判断して、縄文時代早期後葉の判ノ木山西式土器（阿部1997）に比定されると考えられる。

前期の土器（第90～105図、写真図版19－１、21－２、22～24、25－１）

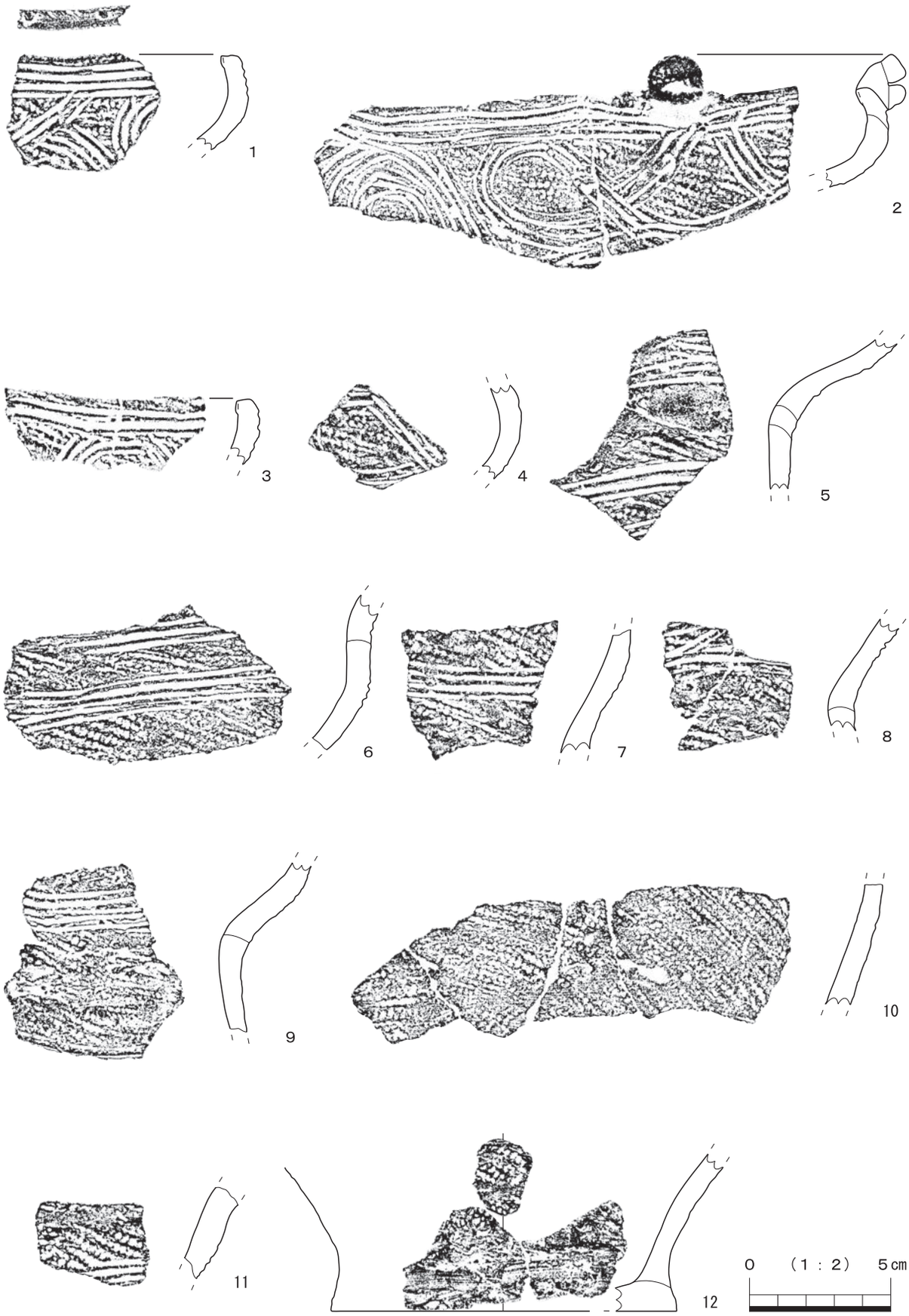
第90図１～12は、外面に連続爪形文によって、直線、弧線を描いた土器片である。１～６は、胎土及び施文手法が類似することから、同一個体片と思われる。胎土は砂粒の混入が多く、爪形文の幅は７㎜である。１・２は口縁部片であり、口端部はナデ調整により面取りされ、角頭状を呈する。連続爪形文は、横位に数条施文した後、その区画内に弧線を施文している。７～12は、胎土及び施文手法が類似することから、同一個体片と思われる。胎土は砂粒の混入が少なく、爪形文の幅は7.5～８㎜である。７・８は口縁部片であり、口唇部外面には左傾の刻みが施されている。連続爪形文は、横位に数条施文した後、その区画内に対弧文を施している。さらに対弧文の内部には、連続爪形文による縦位施文が充填される。時期は、施文手法及び文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器古段階（関根2008）に比定されると考えられる。

第91図１～12は、施文手法及び胎土が類似することから、同一個体片と思われる。１～９の外面には、幅3.5～４㎜の半裁竹管状工具による平行沈線によって、直線や曲線、渦巻文が描かれている。平行沈線は、横位に数条施文した後、その区画内に曲線や渦巻文を施文している。１～３は口縁部片である。１の口端部には、目立たない粘土粒が２つ貼付されている。２の口端部には、時計回りの渦巻き突起が１つ貼付されている。外面に描かれる平行沈線は、その突起が貼付されてから行われている。また２・５の土器片から判断すると、器形はキャリパー形土器を呈すると考えられる。地文には、RLの単節縄文が横位方向や斜位方向に施文される。特に湾曲部では、斜位気味に施文されている。10は胴部下半の破片であり、外面には平行沈線は描かれておらず、地文のみである。12は、くの字状の底部片であり、平底を呈する。底面は平滑である。10・12の内面にはススが付着しており、煮炊きの痕跡が確認できる。時期は、施文手法及び文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる。

第92図１～９は、外面に幅約6㎜の半裁竹管状工具による平行沈線によって、直線、弧線、鋸歯文を描いた土器片である。平行沈線の圧痕の深さは約1㎜であり、その断面形は、ほぼフラットであり、半円形を呈していない。地文には、RLの単節縄文が施文されている。施文方向は斜位方向（条の横走）と

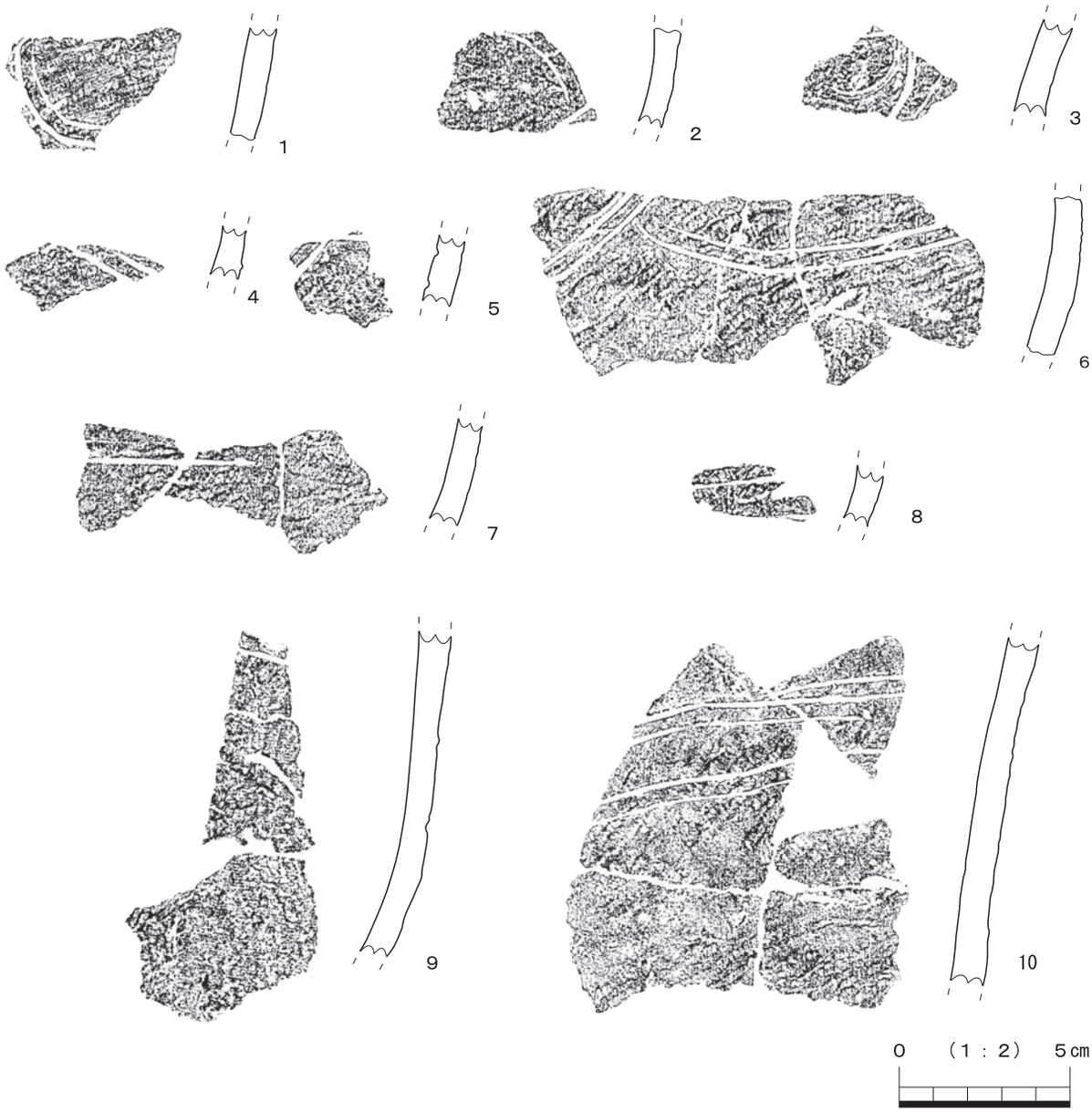


第90図　縄文包含層出土土器　前期①



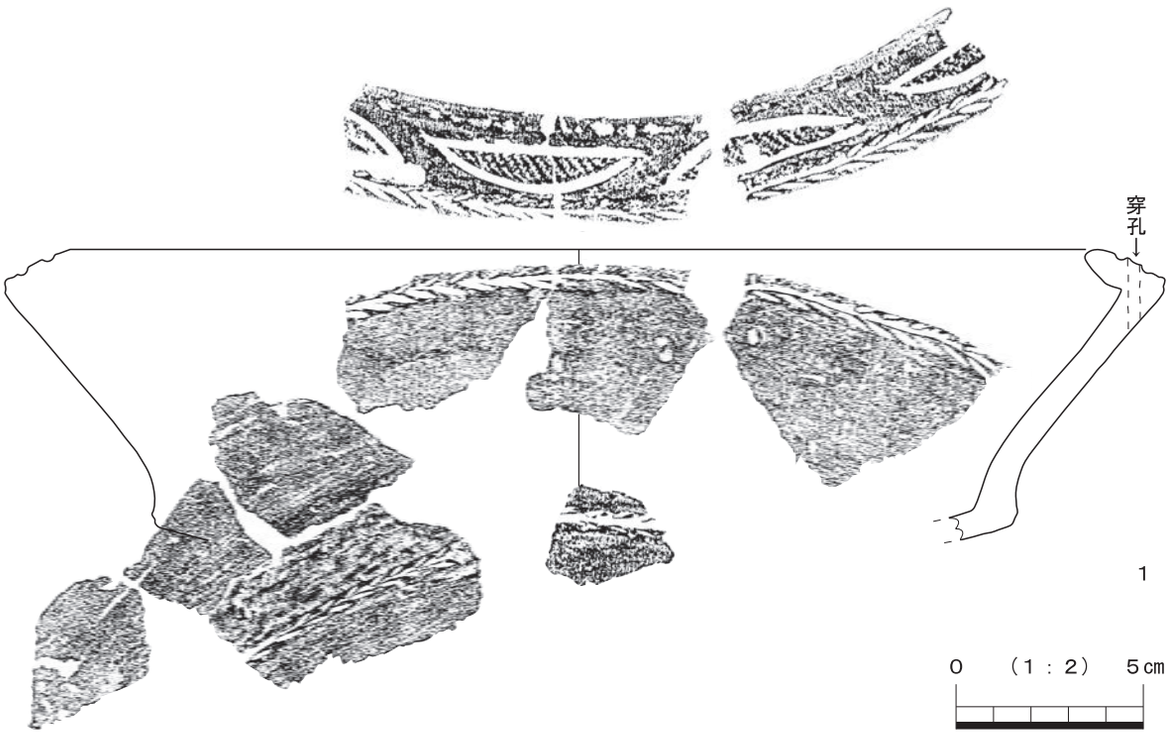
第91図　縄文包含層出土土器　前期②

第92図　縄文包含層出土土器　前期③



第93図　縄文包含層出土土器　前期④

横位方向（条の斜走）が確認でき、概ね斜位方向が多い。器厚は、約11㎜である。上述の特徴から、同一個体の可能性があるが、接合作業の結果、器形が復原できるぐらいにまで接合関係を確認できなかった。１は胴部片であり、外面には平行沈線により、①横位区画を施し、その中に②鋸歯文、③渦巻状モチーフの順序で描いている。２は胴部片であり、外面に平行沈線により横位区画を施し、その中に弧線文を描く土器と思われる。横位区画線は観察すると、不揃いながらも、継ぎ足しながら区画線を描いている。３は胴部片と思われ、外面に平行沈線により、渦巻状モチーフを描いている。渦巻状モチーフを観察すると、弧のカーブ付近は一回で一気に描くのではなく、弧の上半を描いて、次にその下半を継ぎ足すように描いている。４・７は胴部片と思われ、平行沈線により横位区画、弧線文が確認できる。５は、JO層出土土器片３点と５号土坑第４層出土土器片１点が接合した胴部片である。外面には平行沈線により、①横位区画を施し、その中に②鋸歯文、③弧線文の順序で描いている。６は胴部片であり、外面には平行沈線により、①横位区画を施し、その中に②弧線文の順序で描いている。土器の内外面にはススやコゲが観察でき、煮炊きに使用した痕跡が確認できる。その中で内面付着のコゲは、放射性炭素



第94図　縄文包含層出土土器　前期⑤

年代測定を実施しており、3,950calBC－3,767calBCの年代値（２σ）が得られている。８は胴部下半の破片と思われ、破片上位に平行沈線による横位区画線が確認できる。９は胴部片であり、外面には平行沈線により、①横位区画を施し、その中に②弧線文の順序で描いている。時期は、施文手法・文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる。

第93図１～10は、施文手法及び胎土が類似することから、同一個体片と思われる。外面には、幅約6㎜の半裁竹管状工具による平行沈線によって、直線、弧線、曲線が描かれている。地文には、Lの無節縄文が横位方向、または斜位方向に施文されている。時期は、施文手法及び文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる。

第94図１は、浅鉢形土器である。形態は、「口縁部と胴部の境に稜を形成して分割する」、いわゆる有稜形を呈する（贄田2010）。屈曲部には、矢羽根状の刻み列が表出されている。この矢羽根状の刻み列は、①左傾の刻み列を１条施し、②その刻み列の上端に沿うように沈線を１条引き、③その沈線の上端に沿うように右傾の刻み列を１条施す、という順序で描かれている。内外面は、丁寧なナデ調整が施されている。内屈した口縁部上部には、沈線で描かれた木の葉形モチーフが巡っている。沈線区画内には、RLの単節縄文が施文されている。①条の方向が一定であること、②沈線区画外は平滑にナデ調整されていることから判断すると、沈線区画内の縄文施文は、磨消縄文と考えられる。時期は、施文手法及び文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器古段階（関根2008）に比定されると考えられる。

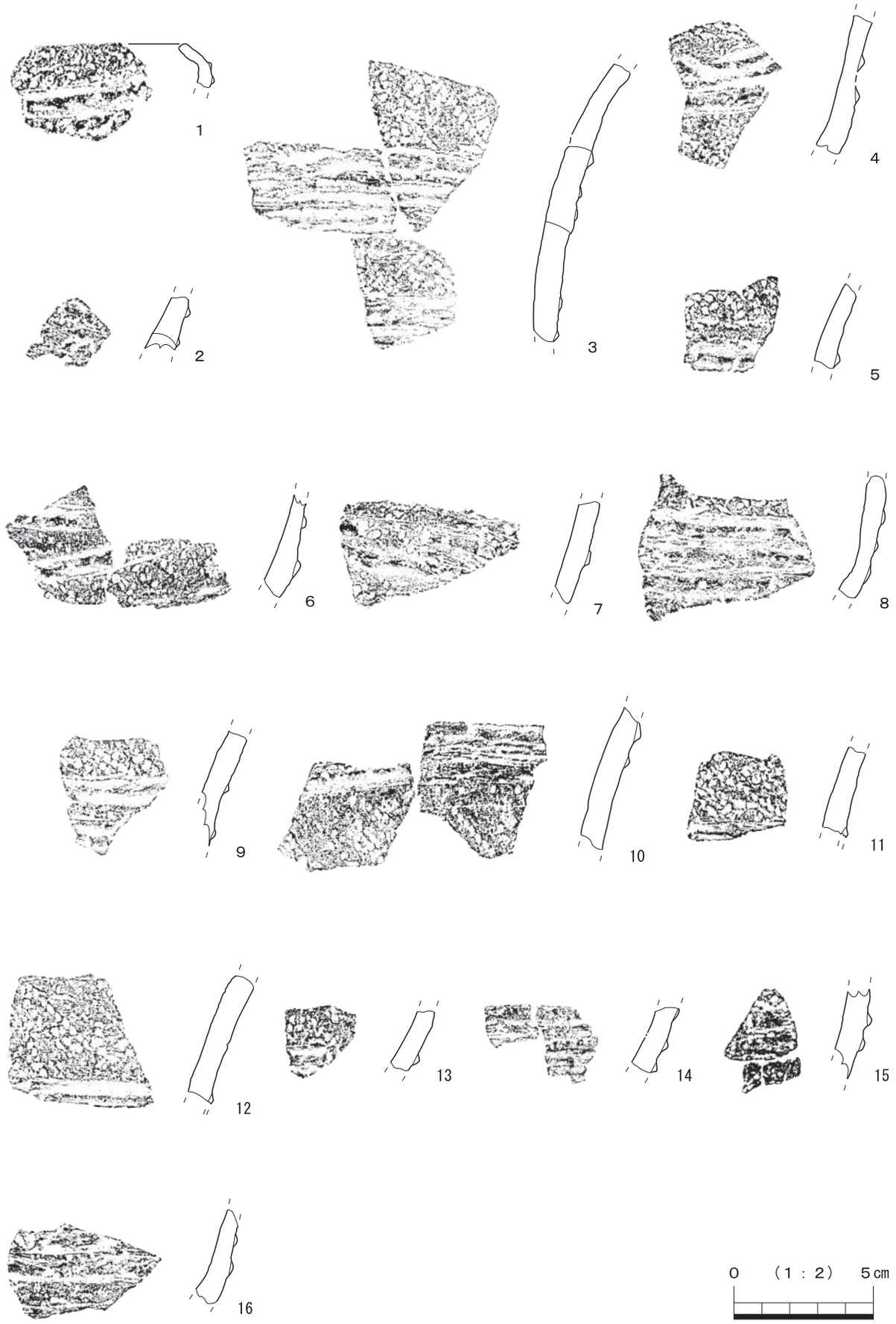
第95図１・３は、胎土及び焼成具合から判断して同一個体片と思われる。１は、口頸部～胴部にかけての破片である。口頸部には、粘土紐と爪形文が施文されている。幅約８㎜の粘土紐は、口頸部の上端と下端を横位区画し、その区画内を梯子状に粘土紐を貼付する。梯子状の粘土紐の間には、爪形文が縦位に充填される。３は底部片であり、平底を呈する。時期は、施文手法から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる。２・４は、外面に粘土紐と平行沈線が施文される土器片である。粘土紐は横位方向に数条施文され、その下には平行沈線による弧線文が描かれる。時期は、施文手法から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定

第95図　縄文包含層出土土器　前期⑥

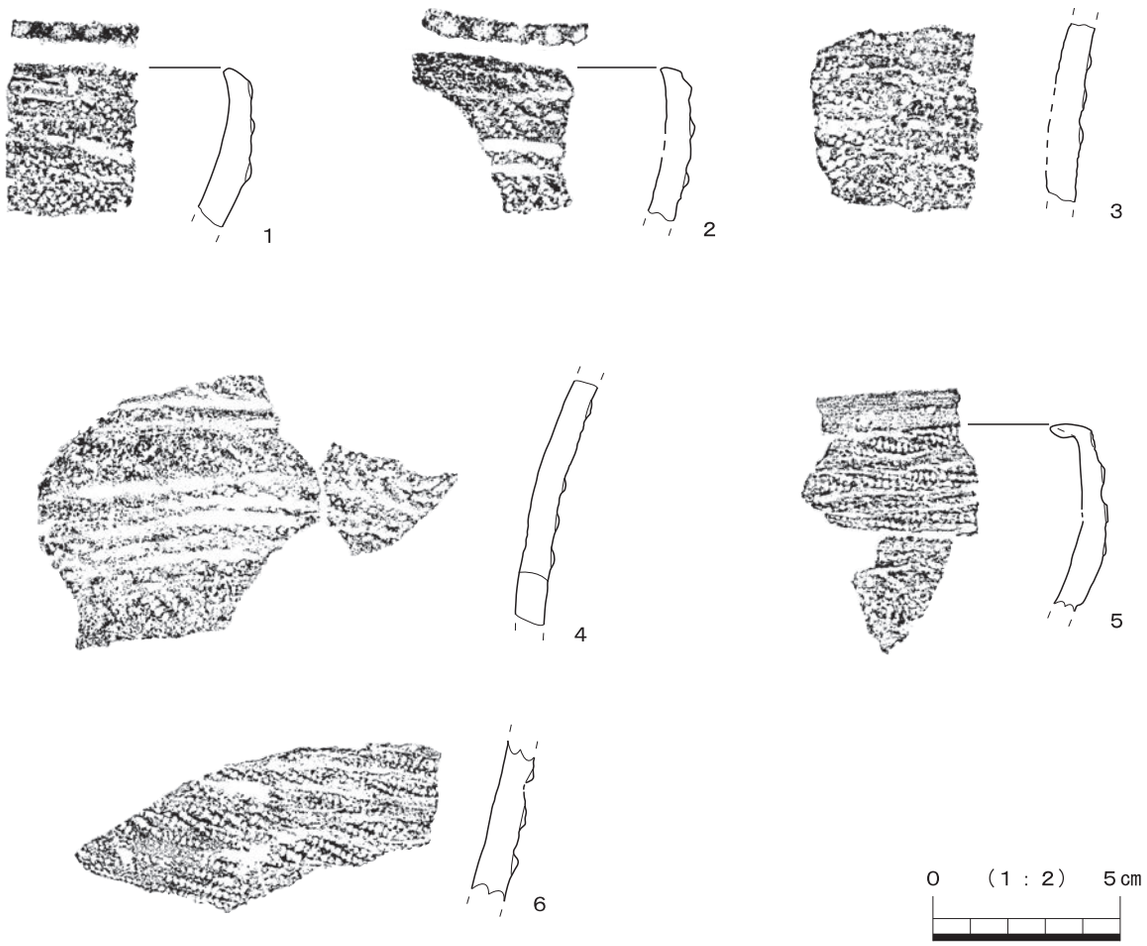
されると考えられる。５は薄手であり、器厚は４～５㎜である。外面には、幅２～３㎜の平行沈線により、直線やπ字文が描かれる。口端部には、矢羽根状の刻み目が施される。器形は、おそらくUFO形を呈する浅鉢形土器と思われる。時期は、施文手法から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器古段階（関根2008）に比定されると考えられる。６は、外面に粘土紐と円形竹管文が施文されている。時期は、施文手法から判断して、縄文時代前期後半の諸磯a式または諸磯ｂ式土器古段階（関根2008）に比定されると考えられる。

第96図１～16は、施文手法及び胎土が類似することから、同一個体片と思われる。外面には、幅５～７㎜の粘土紐が横位に数条貼付される。粘土紐の断面形は、三角形気味である。粘土紐の貼付手法を観察すると、①粘土紐の貼付→②粘土紐両脇のナデ調整の順序が確認できる。地文には、Lの撚糸文が斜位方向に施文される。時期は、施文手法・文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる。

第97図１～６は、外面に幅５～７㎜の粘土紐が、横位に数条貼付される土器片である。粘土紐には、縄文原体を回転もしくは押圧を加えて、左傾の刻みを表現している。粘土紐の断面形は、半円形というよりも、粘土紐上への刻みによって変形が生じ、やや扁平気味である。粘土紐の貼付手法を観察すると、①粘土紐の貼付→②粘土紐両脇のナデ調整→③粘土紐への加飾、の順序が確認できる。地文には、RLの単節縄文が施文されている。施文方向は、１～４では横位方向（条の斜走）、５・６では斜位方向（条



第96図　縄文包含層出土土器　前期⑦

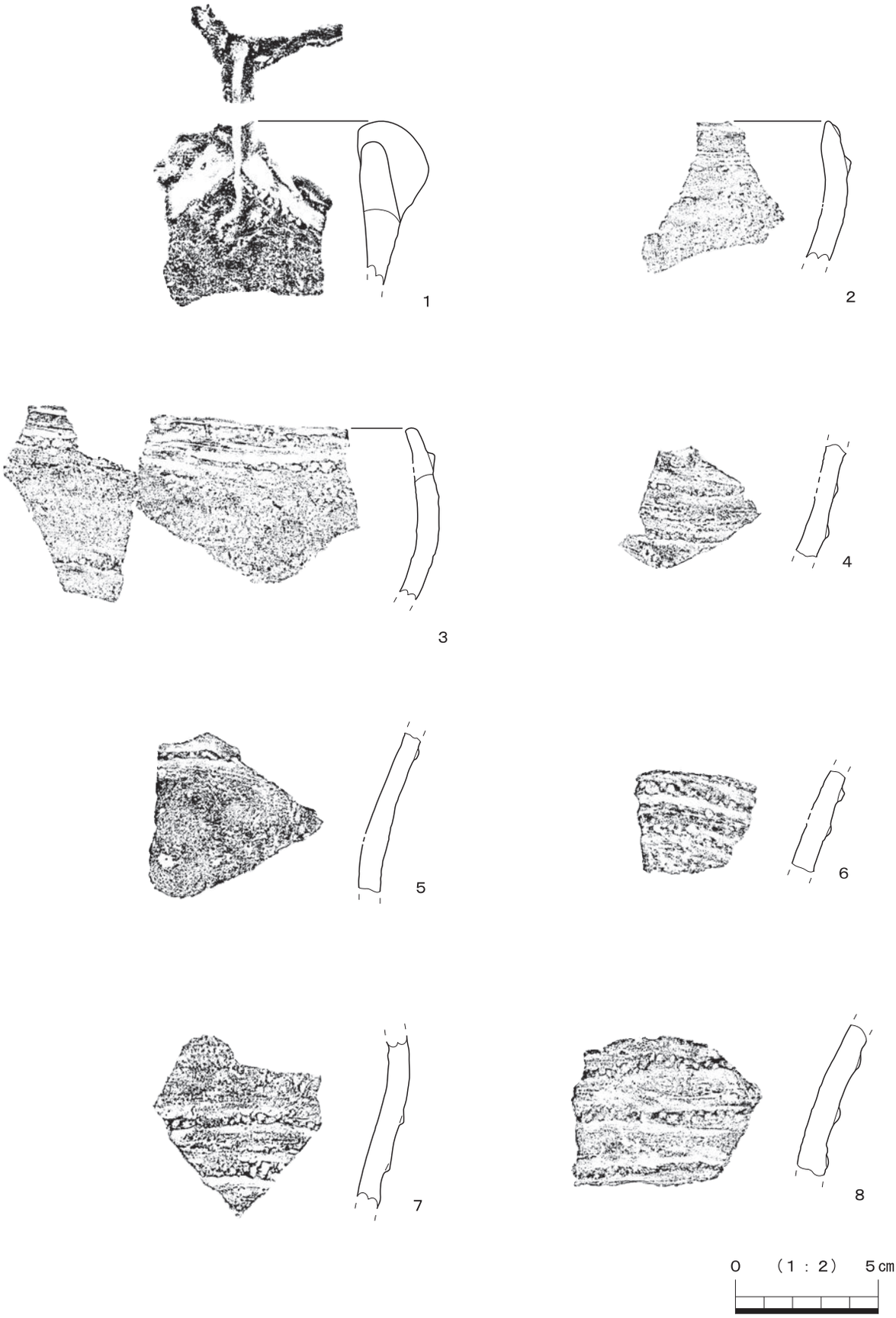


第97図　縄文包含層出土土器　前期⑧

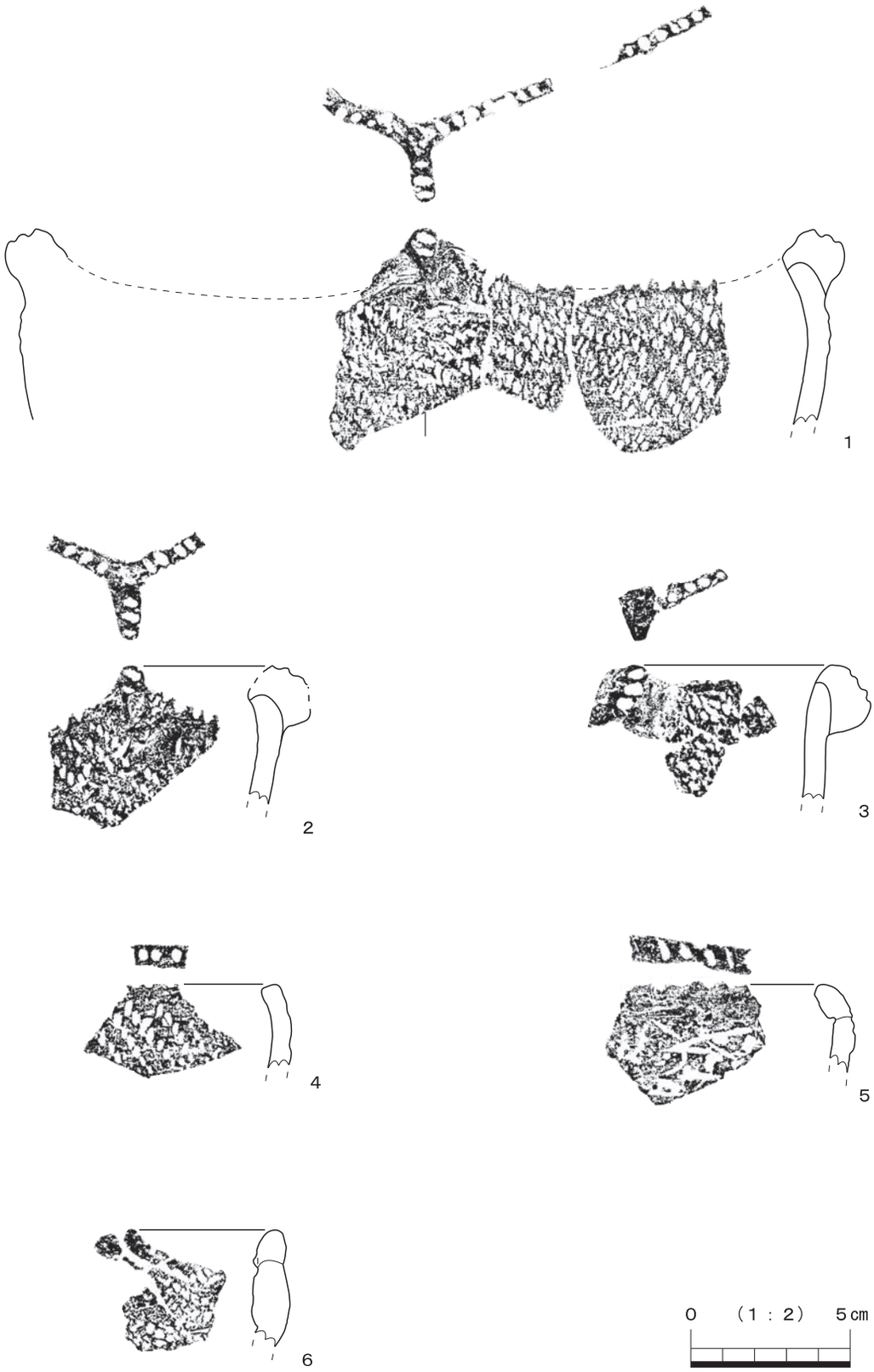
の横走）に施されている。時期は、施文手法・文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる。類似の土器片は、３号土坑の第４層から１点出土している（第77図１）。１～４は、胎土及び施文手法が類似することから、同一個体片と思われる。１・２は口縁部片であり、口端部には押圧による凸凹の刻みが施されている。３・４は胴部片であり、特に３の内外面には、被熱によるクレーター状のハジケが多く観察できる。５・６は、胎土及び施文手法が類似することから、同一個体片と思われる。５は口縁部片であり、口唇部が内側に屈曲し、「コ」形を呈する。６は胴部片であり、外面に横位の粘土紐以外に、波状の粘土紐の貼付が確認できる。時期は、施文手法・文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる。

第98図１～４は、外面に幅約８㎜の粘土紐が、横位に数条貼付される土器片である。粘土紐には、斜めの刻みが部分的に施されている。その刻みは判読しづらいが、RLの単節縄文をやや斜位気味に回転施文した圧痕と思われる。粘土紐の断面形は潰れた三角形ないし扁平形を呈する。粘土紐の貼付手法を観察すると、①粘土紐の貼付→②粘土紐両脇のナデ調整→③粘土紐への加飾、の順序が確認できる。地文には、部分的だがRLの単節縄文が施文されている。器面は、全体的に被熱を受けており、クレーター状にボコボコしている。粘土紐を除いた部分の器厚は、８～９㎜である。４は、外面にススやコゲが観察でき、煮炊きに使用した痕跡が確認できる。外面付着のコゲは、放射性炭素年代測定を実施しており、3,986calBC－3,931calBCの年代値（２σ）が得られている。時期は、施文手法・文様構成から判断して、

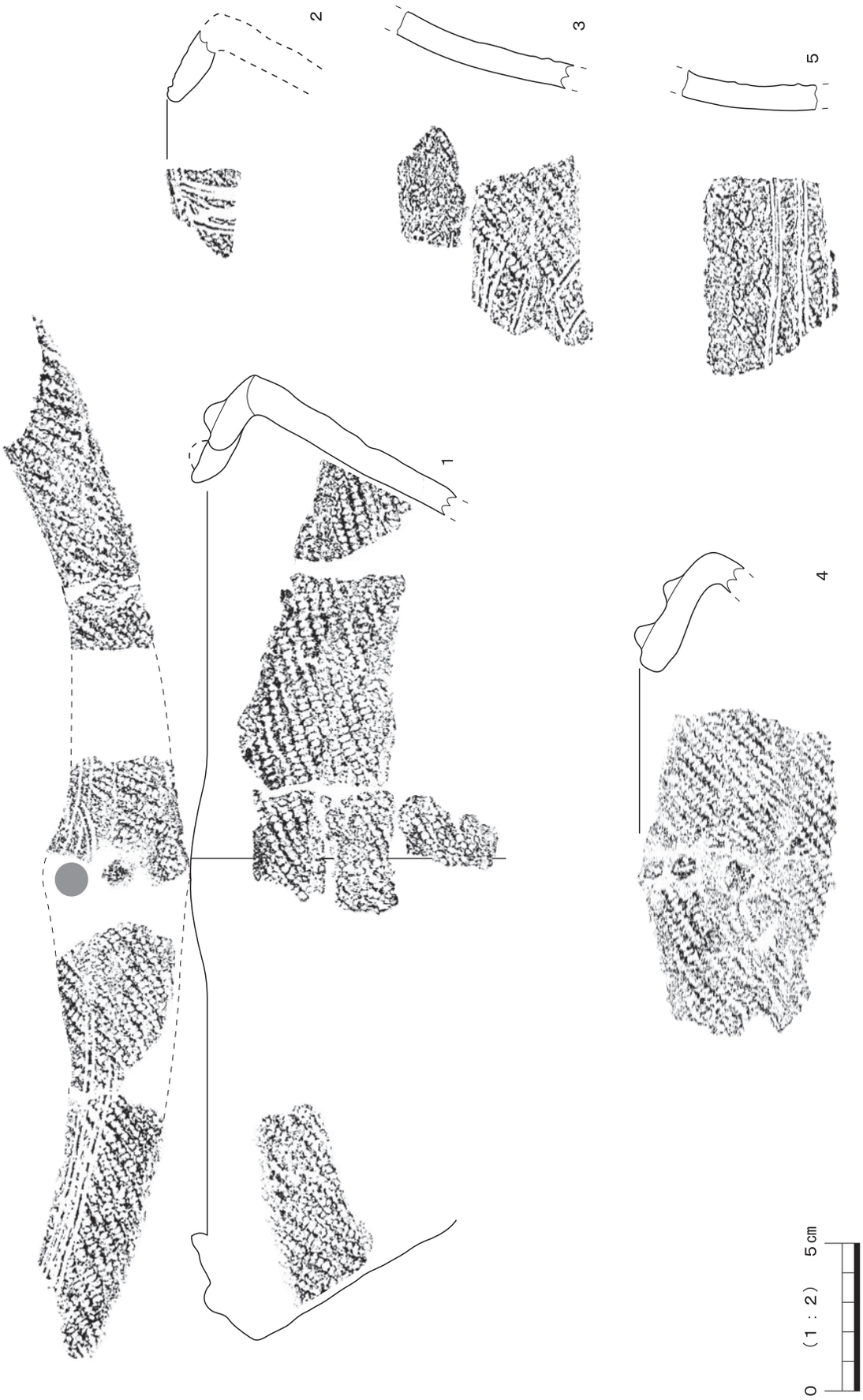
第98図　縄文包含層出土土器　前期⑨



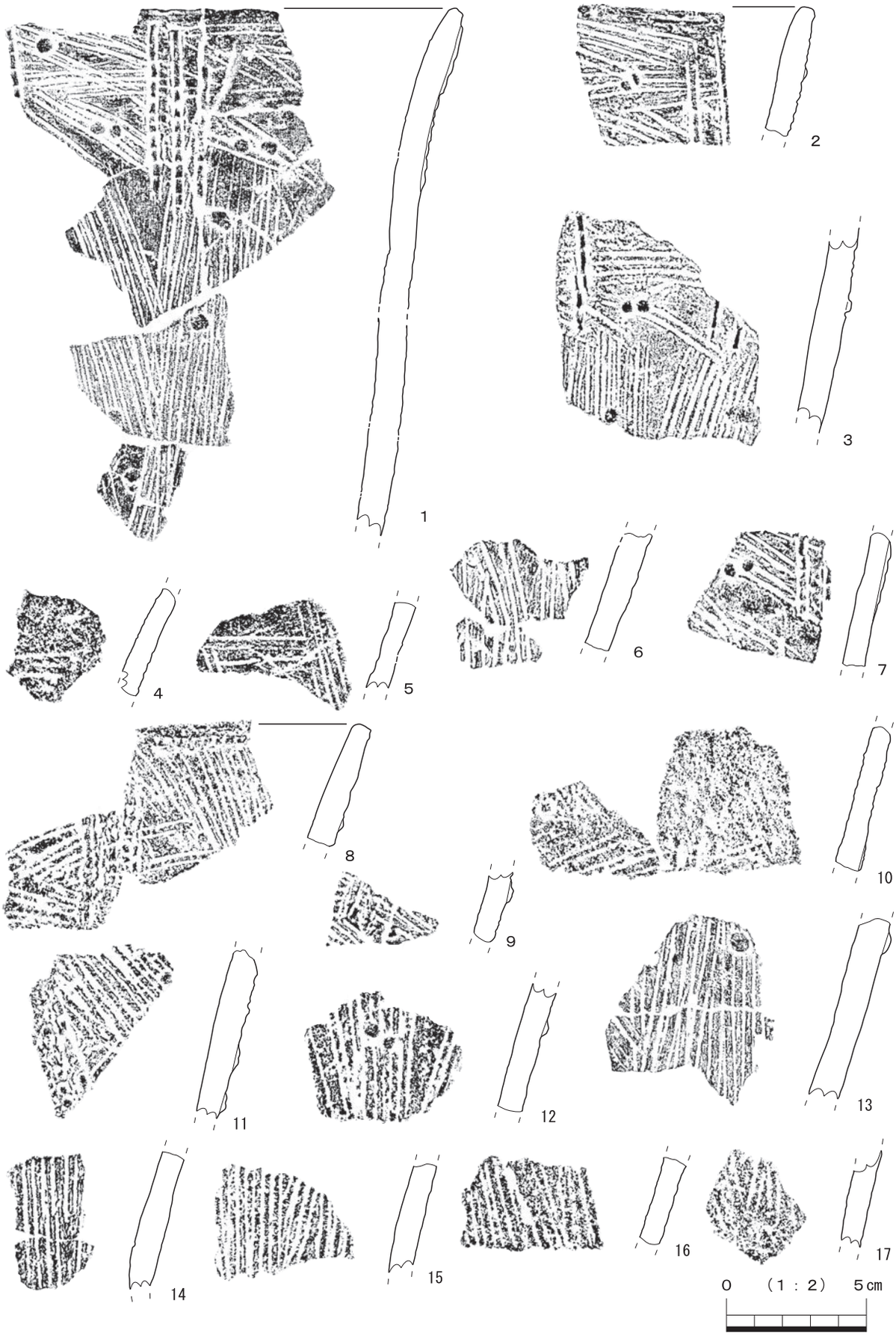
第99図　縄文包含層出土土器　前期⑩



第100図　縄文包含層出土土器　前期⑪



第101図　縄文包含層出土土器　前期⑫



第102図　縄文包含層出土土器　前期⑬

縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると考えられる。

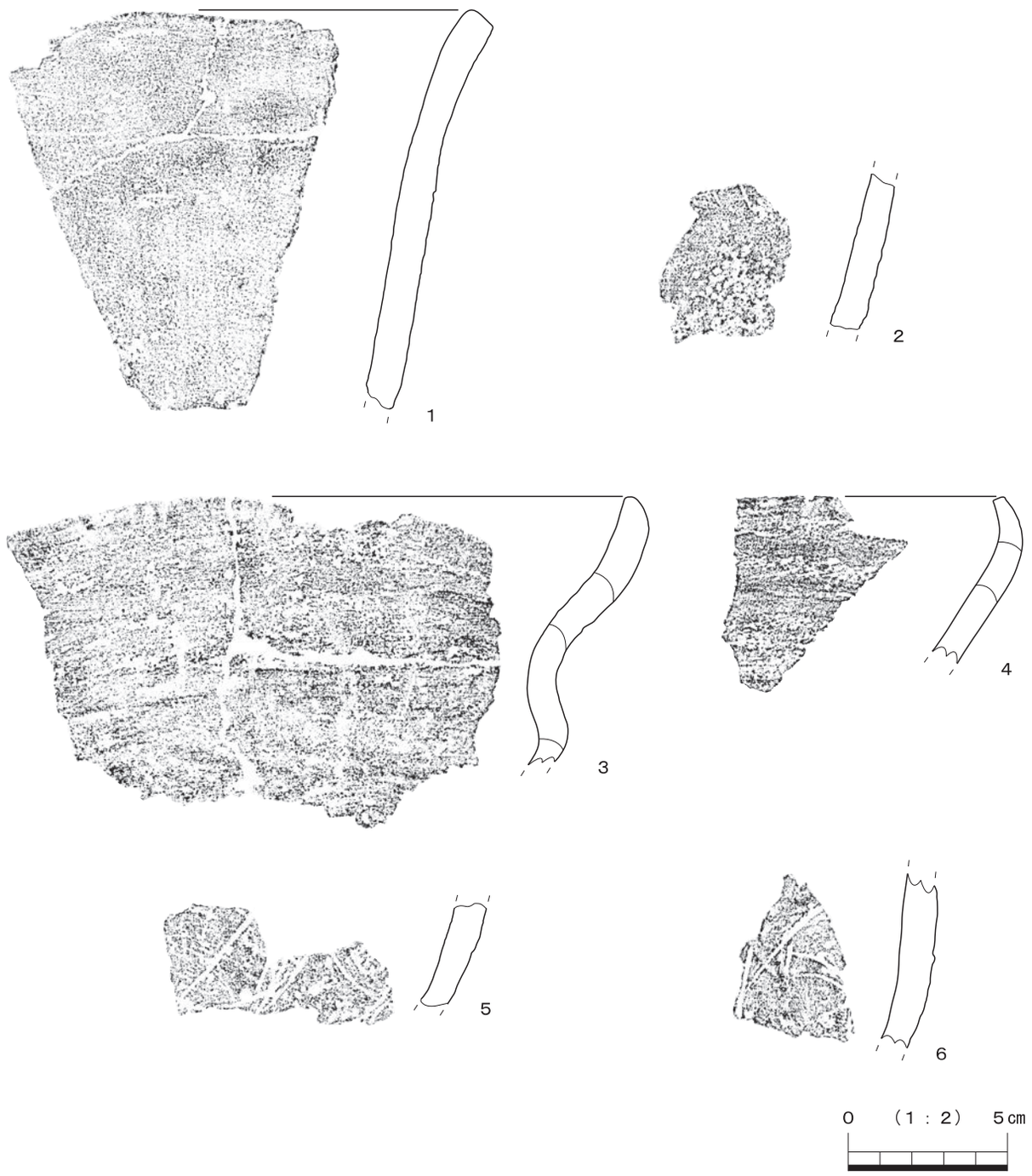
第99図１～８は、胎土及び焼成具合から判断して、同一個体片と思われる。外面には、幅５～６㎜の粘土紐が横位に数条貼付されている。粘土紐には、斜めの刻みが部分的に施されている。その刻みは判読しづらいが、RLの単節縄文をやや斜位気味に回転施文した圧痕と思われる。粘土紐の断面形は潰れた三角形ないし扁平形を呈する。粘土紐の貼付手法を観察すると、①粘土紐の貼付→②粘土紐両脇のナデ調整→③粘土紐への加飾、の順序が確認できる。地文には縄文は施されていない。１～３は、内湾した口縁部片であり、キャリパー形土器のような器形を呈すると思われる。１は、耳状の突起が貼付されている。７の外面にはススやコゲが観察でき、煮炊きに使用した痕跡が確認できる。外面付着のコゲは、放射性炭素年代測定を実施しており、4,004calBC－3,952calBCの年代値（２σ）が得られている。時期は、施文手法・文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式中段階（関根2008）と考えられる。

第100図１～６は、突起または口端部に刻みを持つ口縁部片である。１・２は胎土及び施文手法が類似することから、同一個体片と思われる。口縁部は波状口縁を呈する。外面には、Lの撚糸文が斜位または横位方向に施文されている。口端部には押圧による凸凹の刻みを加え、その波頂部には耳状突起を貼付している。耳状突起の上端部は、左傾気味の刻みを加えている。３・４は胎土及び施文手法が類似することから、同一個体片と思われる。外面には、Lの撚糸文が斜位または横位方向に施文されている。口端部には、押圧による凸凹の刻みが施されている。３は耳状突起が貼付されており、その上端部には右傾気味の刻みが施されている。５は外面に沈線を施文している。口端部には左傾の刻みを加えている。６は外面にRLの単節縄文が施文されている。口縁部は、低い波状口縁を呈すると思われ、波頂部には豆粒状の突起が貼付されている。時期は、施文手法・文様構成から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式中～新段階（関根2008）と考えられる。

第101図１～５は、施文手法及び胎土が類似するため、同一個体片と思われる。器形は、波状口縁部が靴先状に屈曲するキャリパー形土器を呈すると思われる。内側に屈曲した波状口縁部には、径12㎜の粘土粒が２個１対で貼付されている（１・４）。口唇部または胴部には、幅３㎜の平行沈線が、直線的に施文されている。地文には、LRの単節縄文が横位方向に施文されている。時期は、器形・施文手法から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式新段階（関根2008）と考えられる。

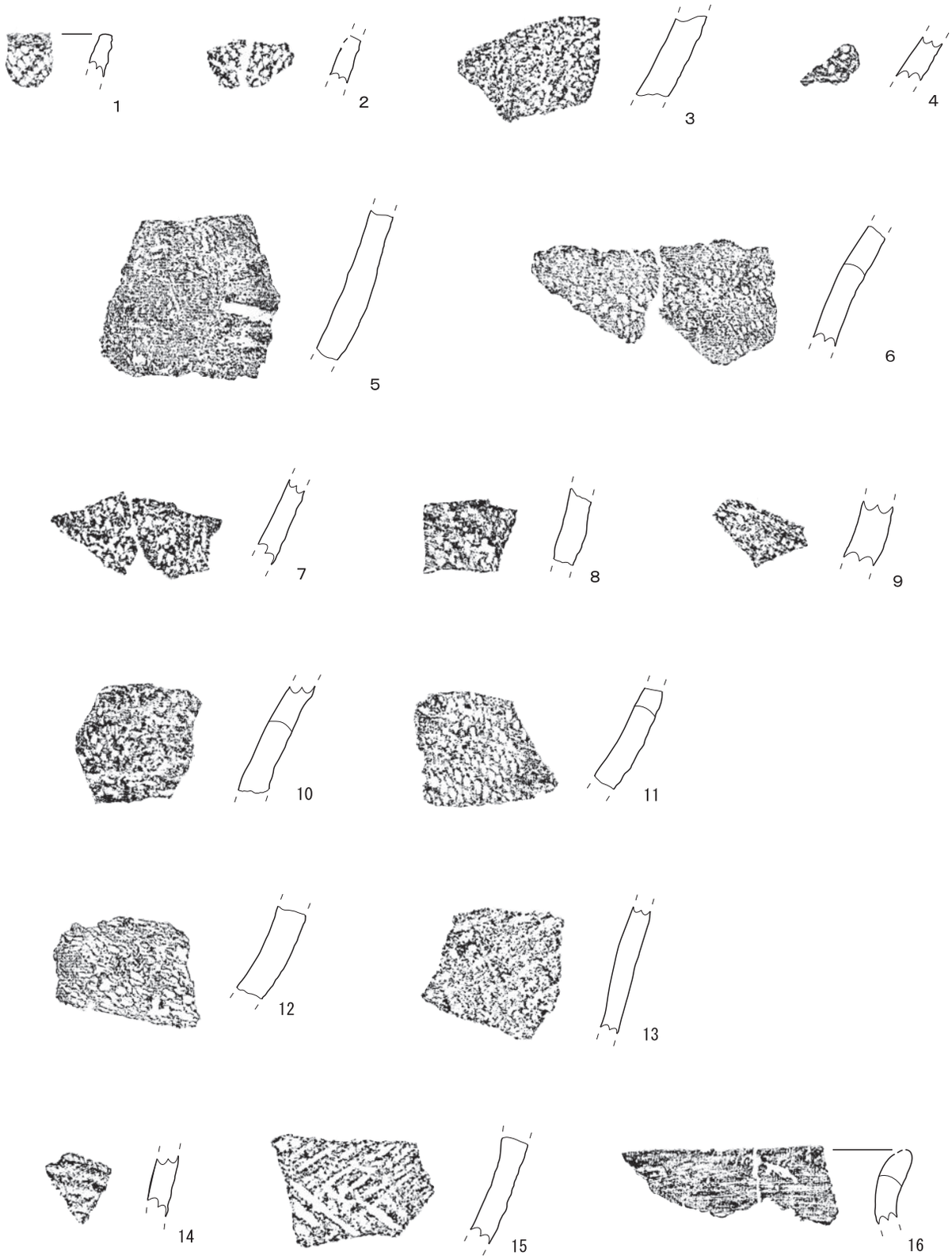
第102図１～17は、外面に集合沈線、結節浮線文、２個で対をなす貼付文が施文された土器片である。器厚は8～9㎜である。集合沈線は、幅約４㎜の半裁竹管状工具によって、平行沈線を密に施文したもので、斜位・縦位の方向に施される。結節浮線文は、口唇部から垂下した数条の粘土紐に、幅約４㎜の半裁竹管状工具によって、上から下へと階段状に押し引きしたものである。粘土紐の長さは６～6.2㎝、その断面形は半円形を呈する。２個で対をなす貼付文は、径５㎜の粘土粒を２つ貼付したものである。施文順序は、①集合沈線→②結節浮線文・２個で対をなす貼付文、の順が確認できる。１～７は、砂粒が少ない胎土であり、同一個体片と思われる。１は口縁部から胴部上半の破片である。口端部はナデ調整で面取りされ、角頭状を呈する。集合沈線の施文順序は、①口縁部に横位方向・胴部上半に縦位方向→②口縁部に斜位方向（左傾）、の順が確認できる。３は、外面にススやコゲが観察でき、煮炊きに使用した痕跡が確認できる。外面付着のコゲは、放射性炭素年代測定を実施しており、3,666calBC－3,631calBCの年代値（２σ）が得られている。８～17は、砂粒が多い胎土であり、同一個体片と思われる。８は口縁部片である。口端部はナデ調整で面取りされ、角頭状を呈する。集合沈線の施文順序は、①口唇部から縦位ないし斜位方向（左傾）→②斜位方向（右傾）、の順が確認できる。集合沈線を施した後、口端部の外面側の縁には、結節状の押し引きが施されている。上述した１～17の時期は、施文手法から判断して、縄文時代前期後半の諸磯c式新段階（関根2008）と考えられる。

第103図１は口縁部片であり、口端部はナデ調整により面取りが施され、角頭状を呈する。器形は、



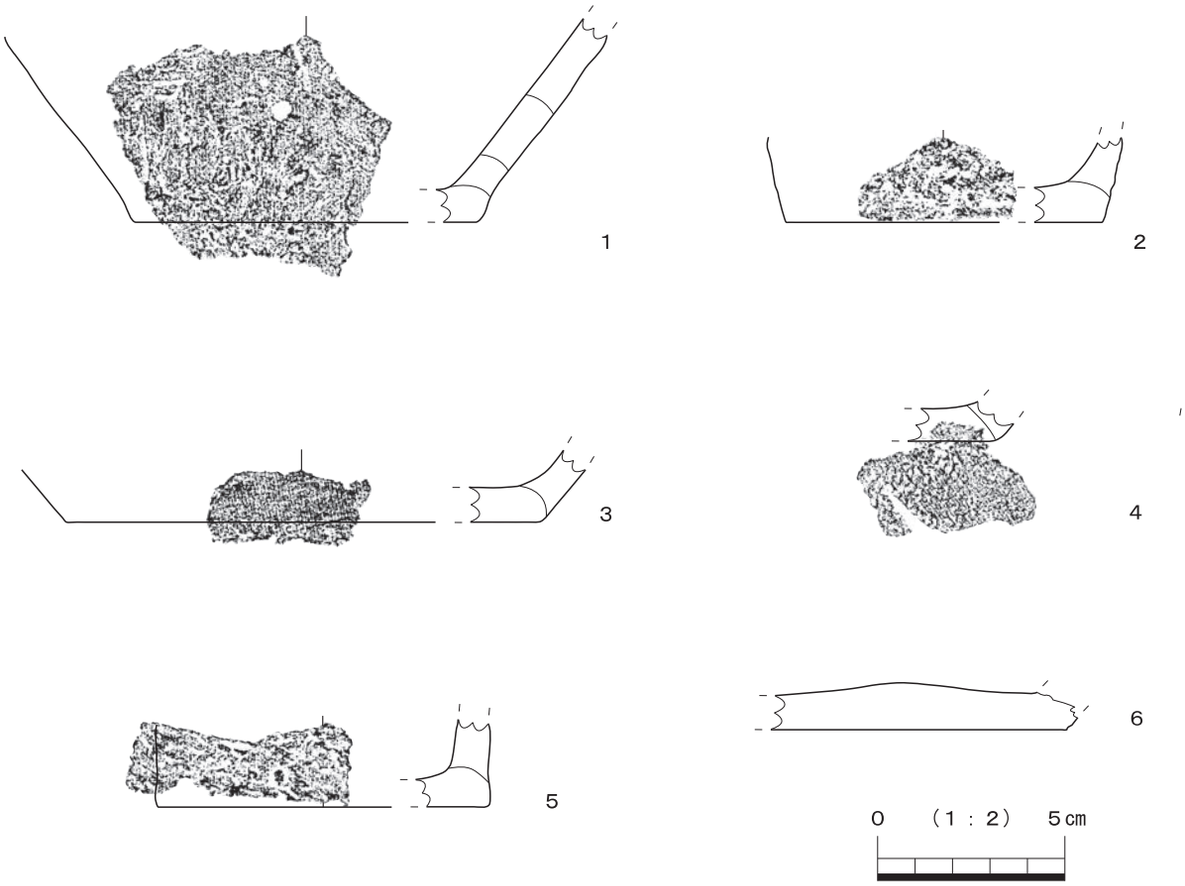
第103図　縄文包含層出土土器　早期④・前期⑭

口縁部が外反する深鉢形土器と思われる。また無文であることから粗製土器と考えられる。１・２は胎土及び焼成具合から判断して、同一個体片と思われる。時期は、器形から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ～ｃ式期の範疇に比定されると思われる。３は口縁部から胴部上半にかけての破片である。器形は、口頸部が窄まるキャリパー形土器と思われる。また無文であることから粗製土器と考えられる。３・４は胎土及び焼成具合から判断して、同一個体片と思われる。時期は、器形から判断して、縄文時代前期後半の諸磯ｂ～ｃ式期の範疇に比定されると思われる。５・６は、外面に沈線が矢羽根状に施される土器片である。時期は、胎土及び焼成具合が第77図３・４と類似することから、おそらく早期後半の茅山式並行の土器と考えられる。



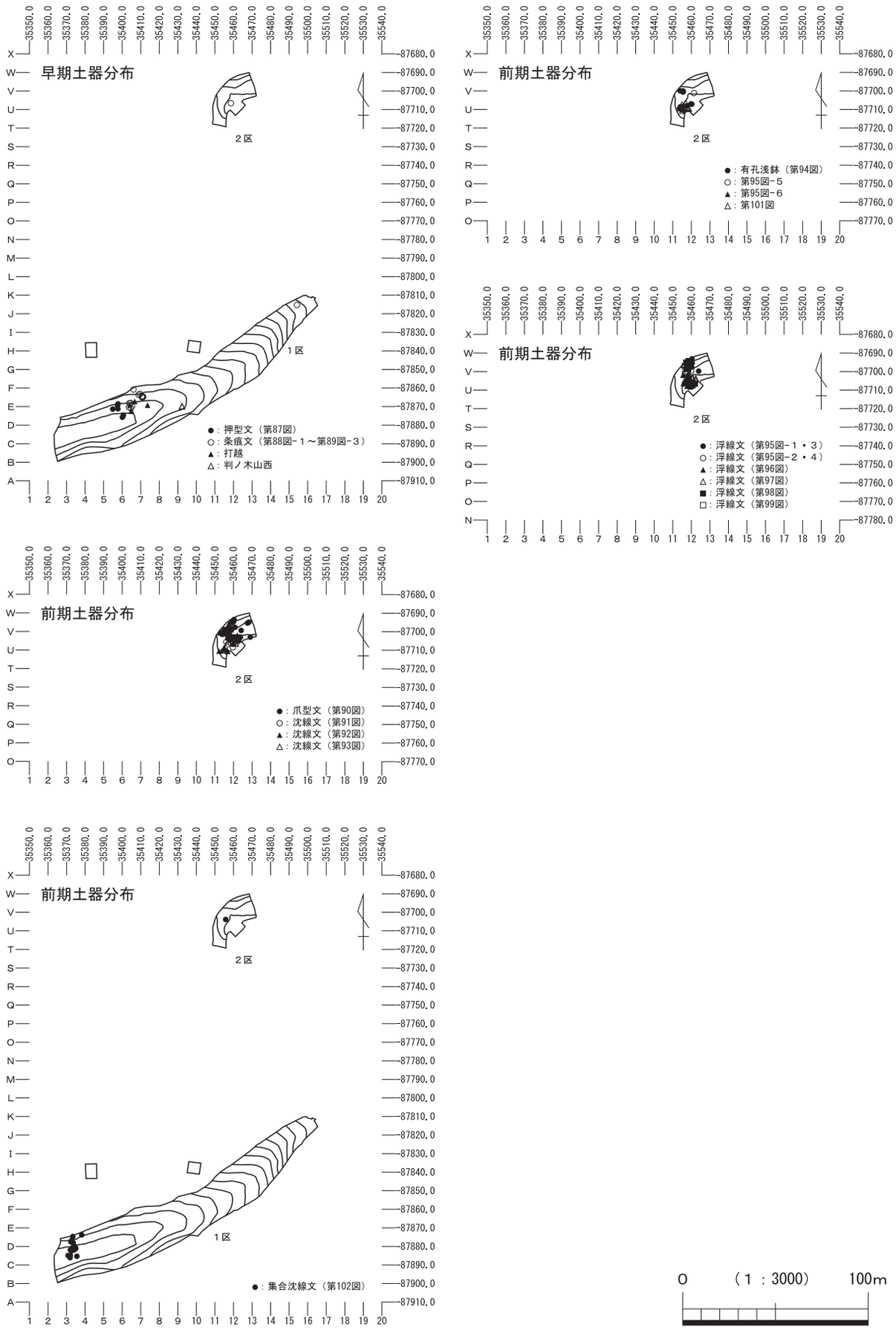
0　（1：2）　5cm

第104図　縄文包含層出土土器　早期⑤・前期⑮



第105図　縄文包含層出土土器　前期⑯

第104図１～15は、外面に縄文が施される土器片である。１は口縁部片であり、外面にLRの単節縄文が施文されている。16は外反する口縁部片で、無文である。第105図１～６は底部片であり、いずれも平底を呈する。第104図１～15・第105図の時期は、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式土器中段階（関根2008）に比定されると思われる。第104図16は口縁部片であり、胎土及び器面調整から判断して、縄文時代早期後半の条痕文土器に比定されると思われる。



第106図　葛山大端ヶⅡ遺跡出土土器分布図

②石器（第107～118図、写真図版25－２）

本遺跡からは、84点出土している。以下、器種ごとに記述する。出土石器の観察表は、第19表に記載している。

石錐（第107図１、写真図版19－１）

本遺跡からは、１点出土している。

第107図１は、硬質細粒凝灰岩製の石錐である。剥片断面は、三角形を呈する。剥片下部の側縁には微細剥離を削出しており、石錐先端部を整形している。

石匙・スクレイパー（第107図２～５、第108図－１、写真図版19－１）

本遺跡からは、４点出土している。

第107図２・３は、ホルンフェルス製の横型石匙である。素材は、厚手の横長剥片を呈し、裏面下縁から粗い剥離を加えて、刃部を整形している。つまみ部分も、粗い剥離によって整形している。４は、ガラス質黒色安山岩製の横型石匙である。平面形は、Ｔ字形を呈する。器体両面は、周縁から粗い剥離を加えて整形している。細部の仕上げは、細かい剥離を加えて整形している。５は、ガラス質黒色安山岩製のスクレイパーである。平面形は、円形を呈する。素材は、厚手の剥片を呈し、主に裏面から粗い剥離を加えて、円形に整形している。第108図１は、流紋岩製のスクレイパーである。素材は不定形剥片を呈し、主に裏面周縁に微細剥離を削出している

微細剥離のある剥片（第108図２～４、写真図版19－１）

本遺跡からは、３点出土している。

第108図２は、黒曜石製の微細剥離のある剥片である。素材は小剥片を呈し、裏面左側縁から微細剥離を削出している。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。３は、黒曜石製の微細剥離のある剥片である。素材は小剥片を呈し、裏面上縁から右側縁にかけて微細剥離を削出している。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。４は、黒曜石製の微細剥離のある剥片である。素材は、不定形剥片を呈すると思われる。実測図正面の下縁部には、急斜度の微細剥離が確認できる。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。

石斧（第108図５、写真図版19－１）

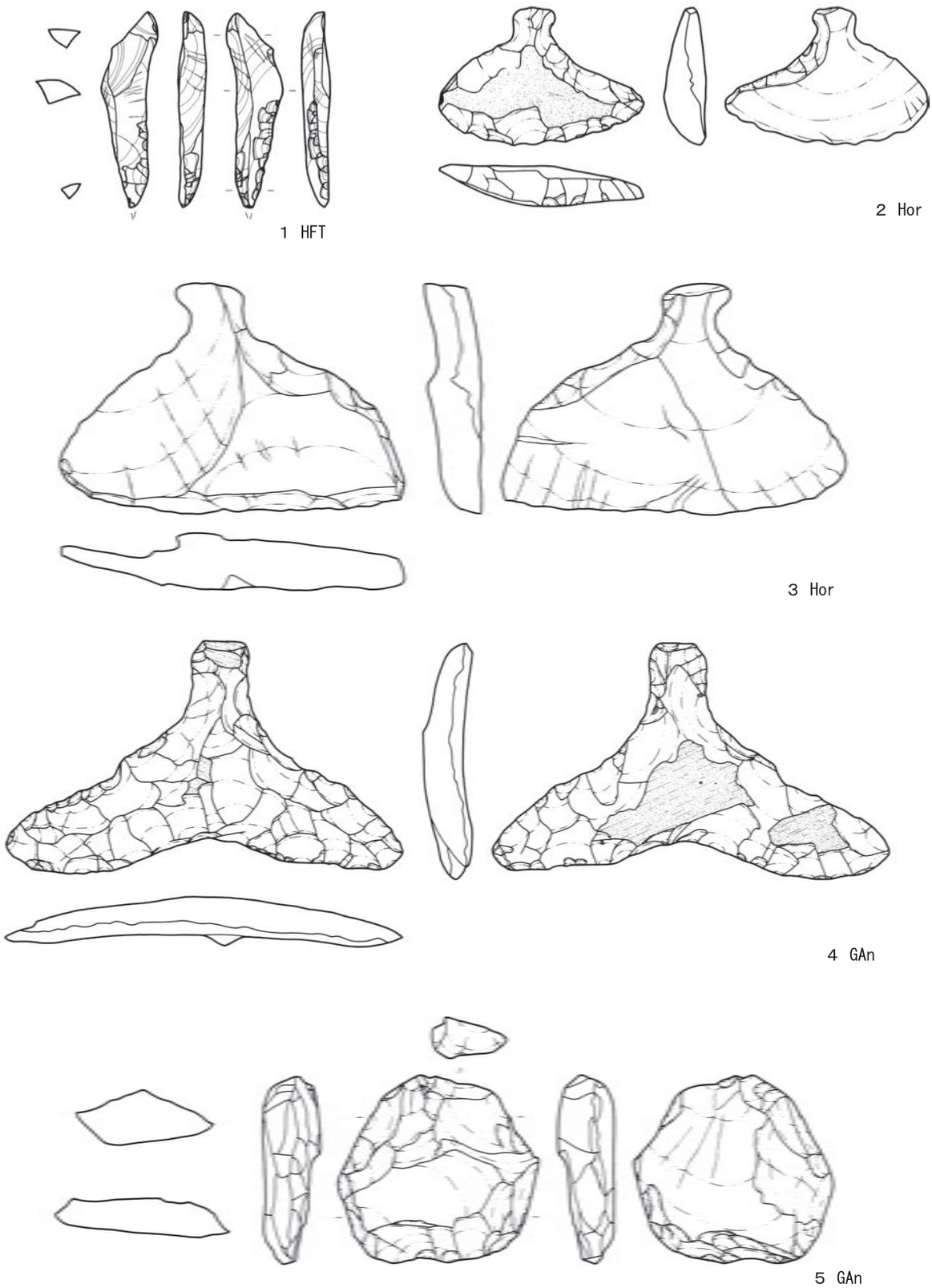
本遺跡からは、１点出土している。

第108図５は、椒欖岩製の磨製石斧である。器体整形後は、両面を磨って仕上げている。基部側は一度欠損しており、欠損後は基部再生の調整を加え、基部を整えている。

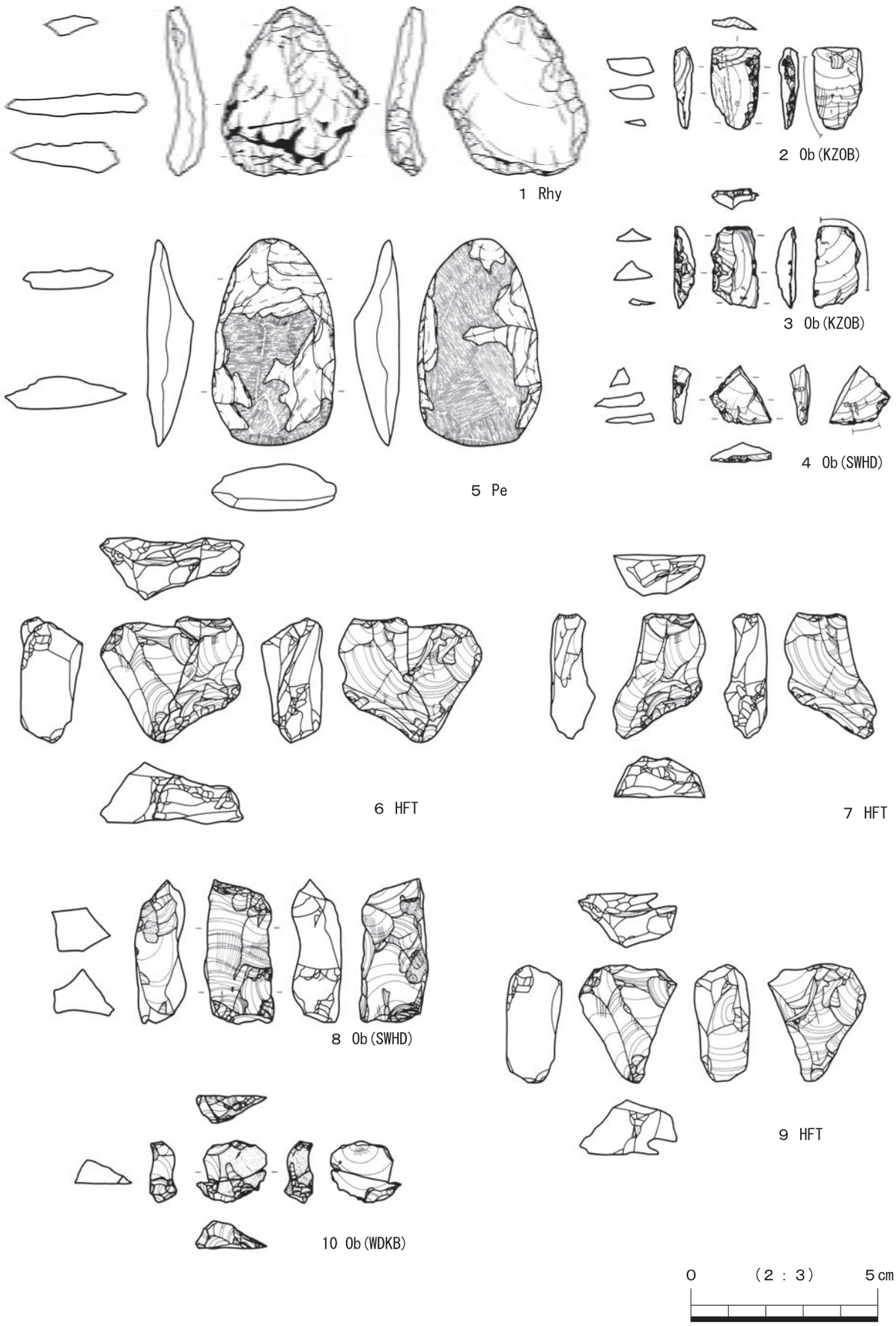
楔形石器（第108図６～10・第109図１・２、写真図版19－１）

本遺跡からは、４点出土している。

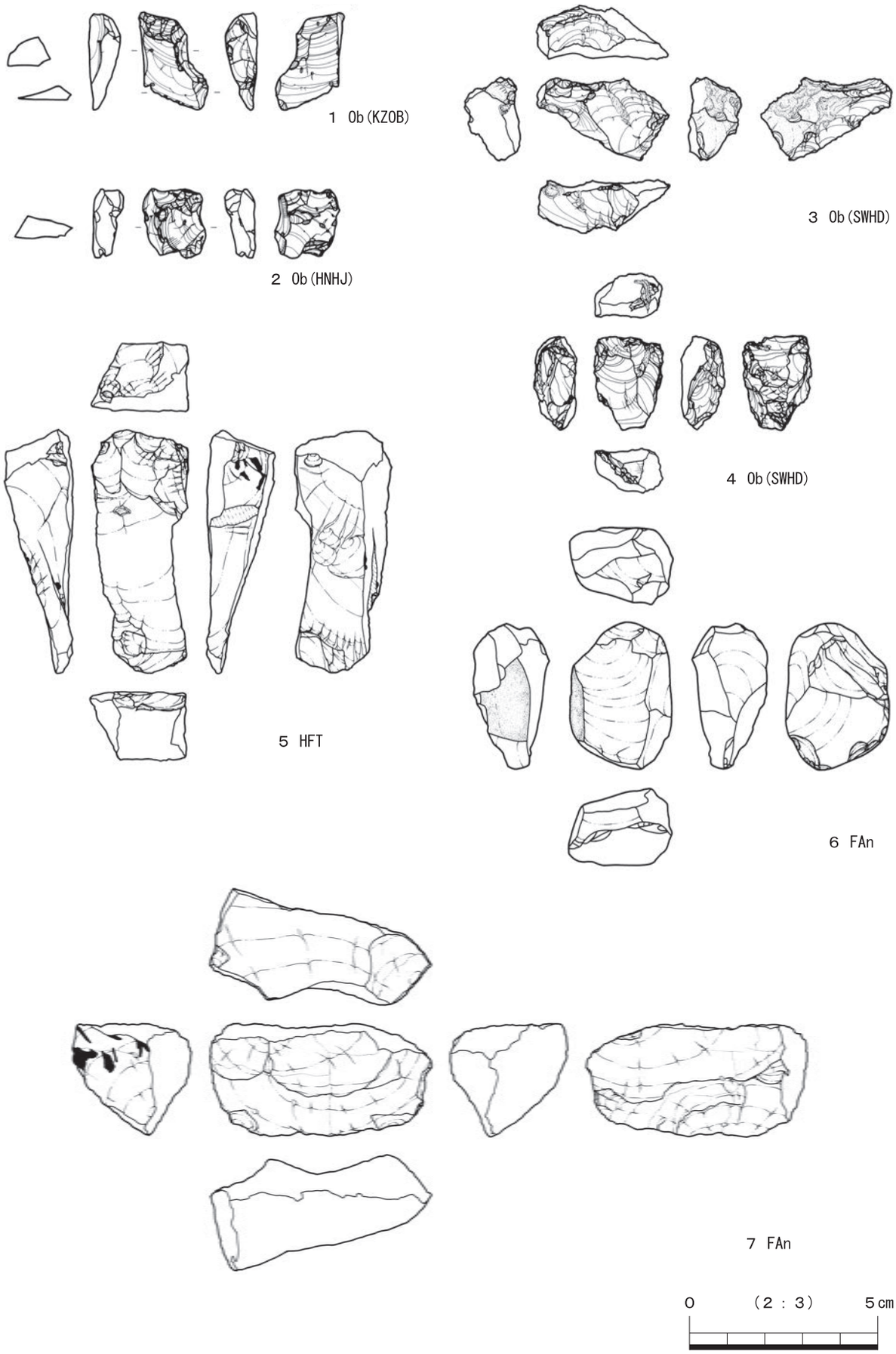
第108図６・７・９は、硬質細粒凝灰岩製の楔形石器である。６は、７と９が接合したものである。両極打法により上下端から剥離ないし潰れが確認できる。７と９は、この打法により縦割れし、分離したものである。９の右側面には、縦割れの剥離面が確認できる。８・10は、黒曜石製の楔形石器である。８の素材は、残核を利用したものと思われる。８・10は、両極打法により上下端から剥離ないし潰れが確認できる。黒曜石産地同定分析の結果、８は長野県諏訪星ヶ台群産、10は長野県和田小深沢群産と推定されている。第109図１は、黒曜石製の楔形石器と思われる。素材は、不定形剥片を呈する。両側縁



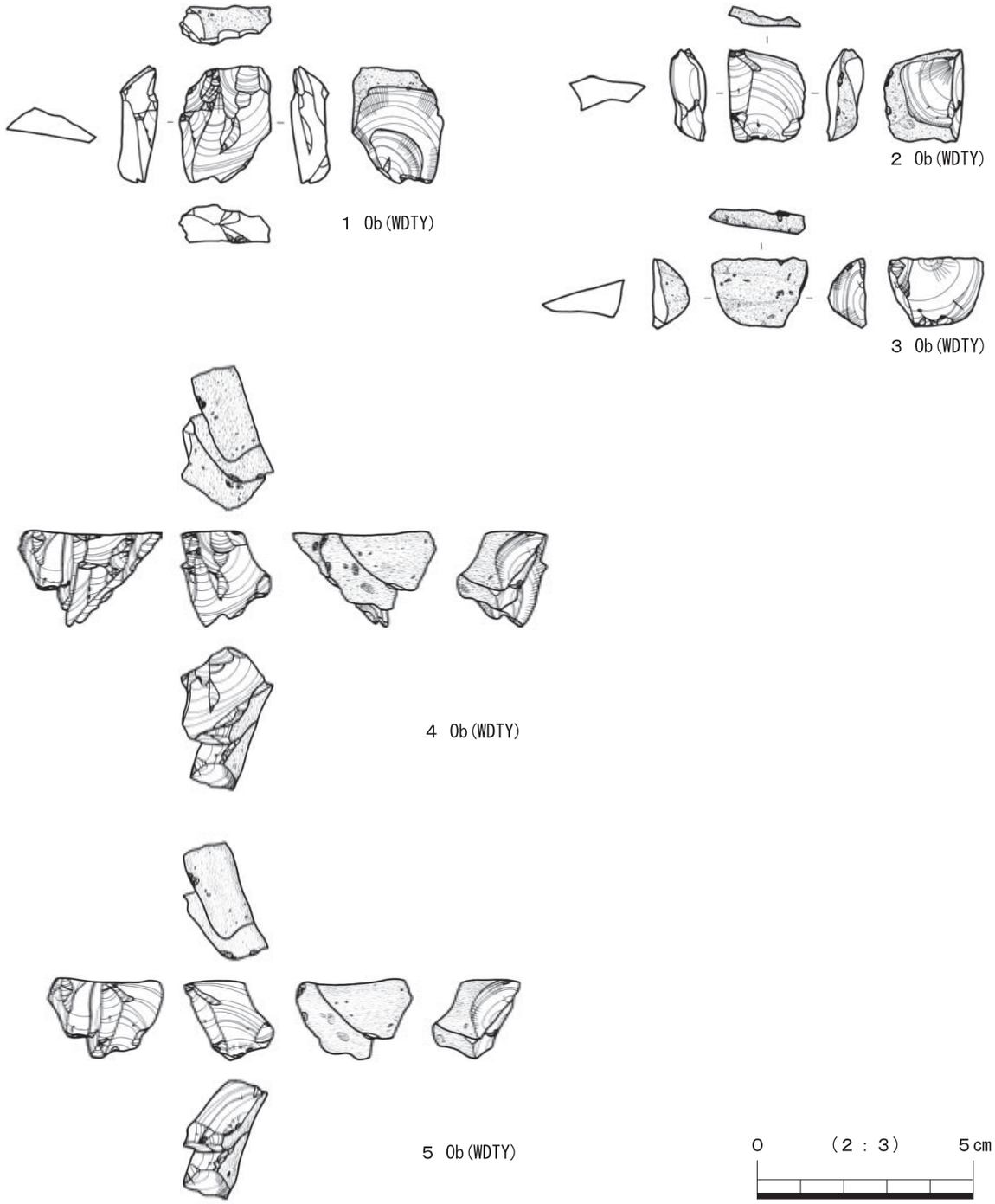
第107図　縄文石器（1）


1 Rhy
2 Ob(KZOB)
3 Ob(KZOB)
4 Ob(SWHD)
5 Pe
6 HFT
7 HFT
8 Ob(SWHD)
9 HFT
10 Ob(WDKB)
0 (2：3) 5cm

第108図　縄文石器（2）



第109図　縄文石器（3）



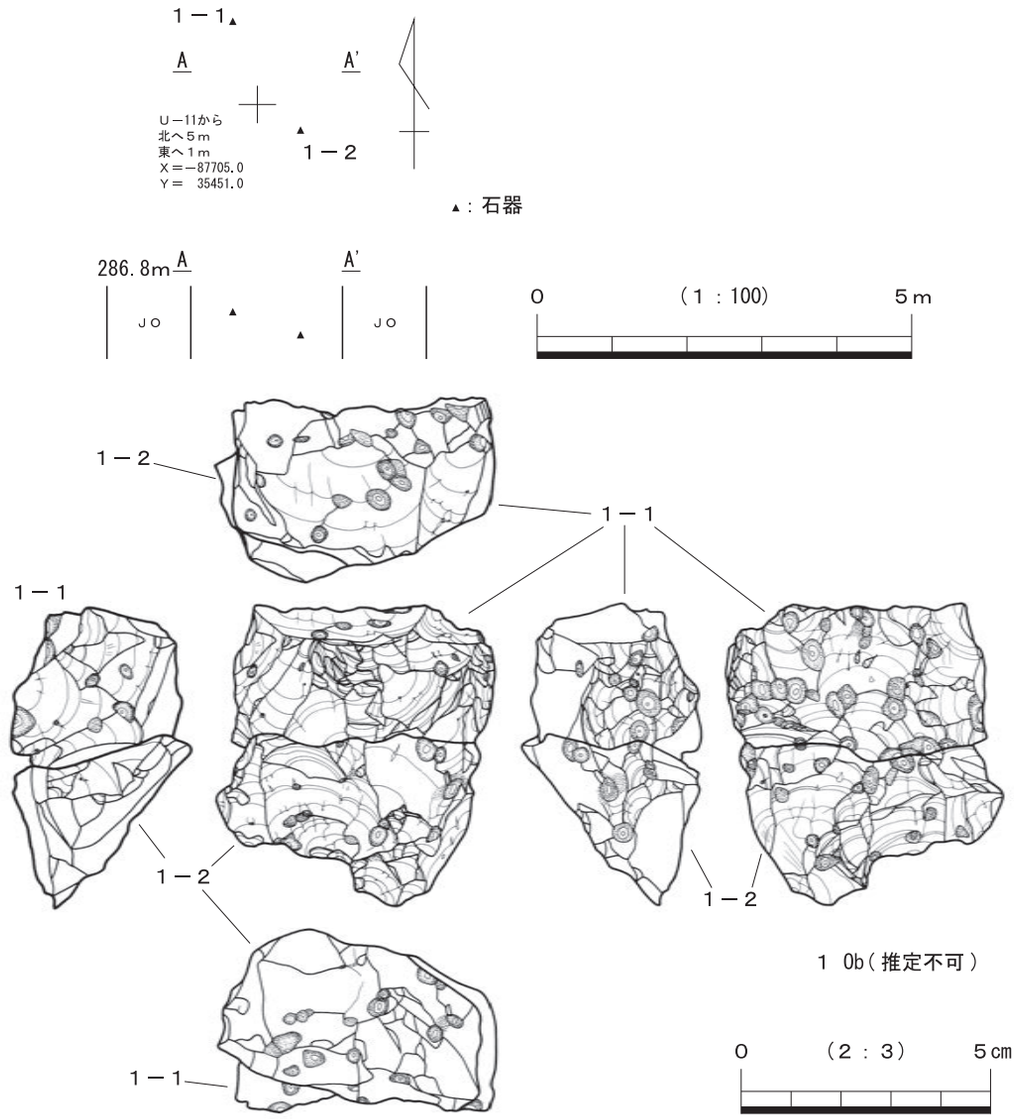
第110図　縄文石器（４）

は折損ないし加工により、方形状に整形している。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。２は、黒曜石製の楔形石器である。素材は、不定形剥片と思われる。両極打法により上下端から剥離ないし潰れが確認できる。黒曜石産地同定分析の結果、神奈川県箱根畑宿群産と推定されている。

石核・原石（第109図３～７・第110～112図、写真図版19－１）

本遺跡からは、７点出土している。

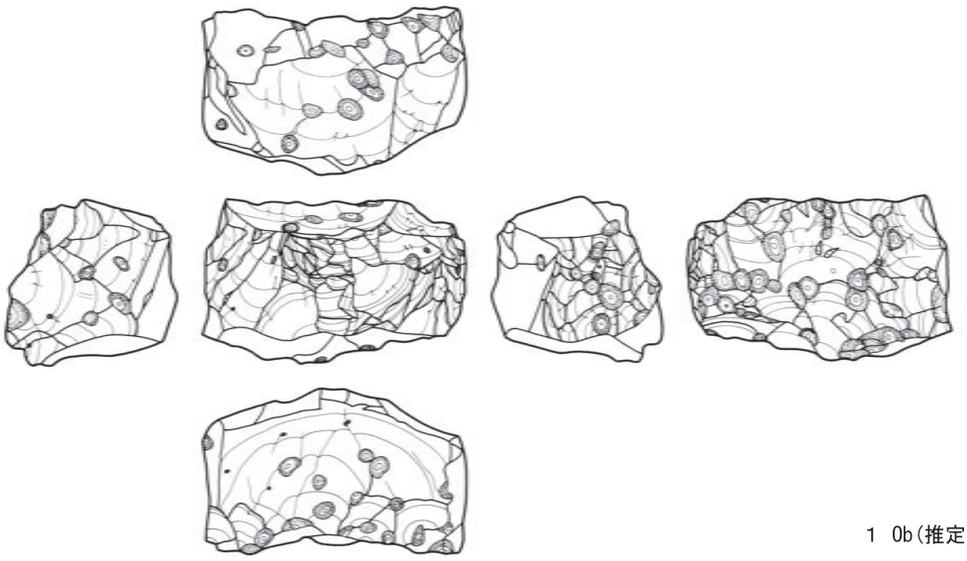
第109図３は、黒曜石製の石核である。打面は何回か転移し、最後は上面に設定している。実測図正



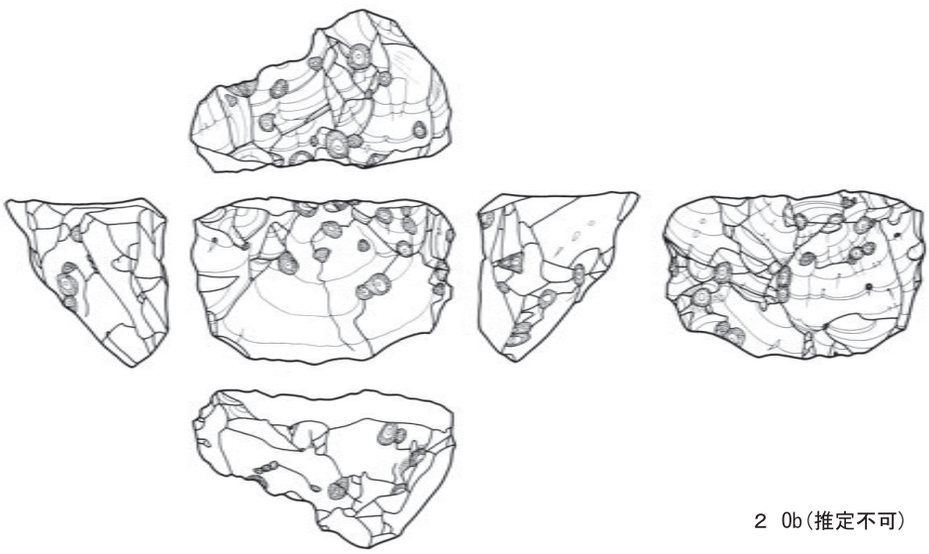
第111図　縄文石器（5）

面に最終作業面が確認でき、不定形剥片を剥離している。左右側面・裏面には、痘痕状の表皮と節理面が一部確認できる。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。４は、黒曜石製の石核である。打面は、下面から上面へ転移している。実測図正面と左右側面には、石核調整の剥離面が確認できる。作業面は、裏面に設定されている。石核のサイズと形状から判断して、残核と思われる。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。５は、硬質細粒凝灰岩製の石核である。上面に打面を設定し、正面を作業面として小剥片を剥離している。６・７は、細粒安山岩製の石核である。６は、角柱状の石核を呈する。左側面には、素材の礫面が確認できる。上面に打面を設定し、正面を作業面として剥片を剥離している。７は、平坦な面である上面に打面を設定し、正面を作業面として、剥片を数枚剥離している。

第110図４は、黒曜石製の接合資料（１＋２＋３）である。黒曜石産地同定分析の結果、長野県和田鷹山群産と推定されている。接合作業の結果、１と２・３の出土地点は、直線距離にして15m離れた位置で出土している。剥離作業は、接合資料の出土地点から判断して、作業場所を変えて行っていると思われる。作業場所は、①１の出土地点周辺と、②２・３の出土地点周辺の、少なくとも２か所が想定される。



1　Ob（推定不可）



2　Ob（推定不可）

0　（2：3）　5cm

第112図　縄文石器（6）

①１の出土地点周辺での剥片剥離作業について述べる。石核の形状（第110図４）は、亜角礫状を呈すると思われる。打面は、原石表面の平坦面に選定している。上面に打面を設定し、正面を作業面として剥片を剥離している。剥離作業の終盤では、失敗剥離（ヒンジーフラクチャー）が連続している。そのため、下面に打面を設定し、作業面再生の剥離を行っている。１は作業面再生剥片であり、剥片末端が厚くなる、ウートラパッセの形状を呈する。

②２・３の出土地点周辺での剥片剥離作業について述べる。この段階での石核（第110図５）は、前段階での作業面再生剥離により、上面の打面幅は縮小している。打面は同じく上面に設定し、正面を作

業面として小剥片を剥離している。前段階の作業面再生剥片がウートラパッセの形状を呈するため、作業面に残るネガ面は末端で肥厚している。そのため、上面から剥離作業を行う際に十分な角度は保てない状況にある。最後は上面から厚手の剥片（２）を剥離されるが、作業面再生を意図したものと思われる。剥離した厚手の剥片（２）は、末端が厚くなる、ウートラパッセの形状を呈する。剥片の左側縁は、欠損していると思われる。３は、残核である。厚手の剥片（２）を剥離後、同じく上面に打面を設定して、小剥片を剥離している。残核の右側縁は、欠損していると思われる。

上述の剥片剥離作業の場所的な流れから、②よりも①の地点の方が剥片を多く剥離していると思われる。主に剥離作業は、石核のサイズから判断して、石鏃の素材剥片を目的として作業を行っていると考えられる。

第111図は接合資料（第112図１＋２）であり、黒曜石製の原石を呈する。この原石は、球果を多く含んでいる。黒曜石産地同定分析の結果は、産地は推定不可であった。接合した原石の重量は、105.9ｇである。第112図１と２は、節理割れにより分離したものと考えられる。両原石の表面は全体的に風化しており、剥片剥離作業を行った新しい剥離面は確認できなかった。接合距離は、直線距離にして1.7m離れた位置で出土している。

凹石（第113図１～３・５、写真図版19－１）

本遺跡からは、４点出土している。

第113図１は、多孔質玄武岩製の凹石である。素材形状は、楕円礫を呈する。敲打痕による凸凹面は、正面と左側面にて確認できる。２は、玄武岩製の凹石である。素材形状は、楕円礫を呈する。敲打痕による凸凹面は、正面と裏面にて確認できる。３は、輝石安山岩製の凹石である。素材形状は、楕円礫を呈する。敲打痕による凸凹面は、正面にて数箇所確認できる。５は、輝石安山岩製の凹石の破片である。素材形状は、楕円礫を呈すると思われる。敲打痕による凸凹面は、正面にて確認できる。

磨石（第113図４・６・７・第114図・第115図１・２、写真図版19－１）

本遺跡からは、９点出土している。

磨石の素材形状は楕円礫を呈し、正面の平坦な面または両面の平坦面にて、磨面が確認できる。第113図４・第114図１は、デイサイト製である。第114図２は、玄武岩製である。第114図３は、斑レイ岩製である。それ以外の磨石は、輝石安山岩製である。

敲石（第115図３）

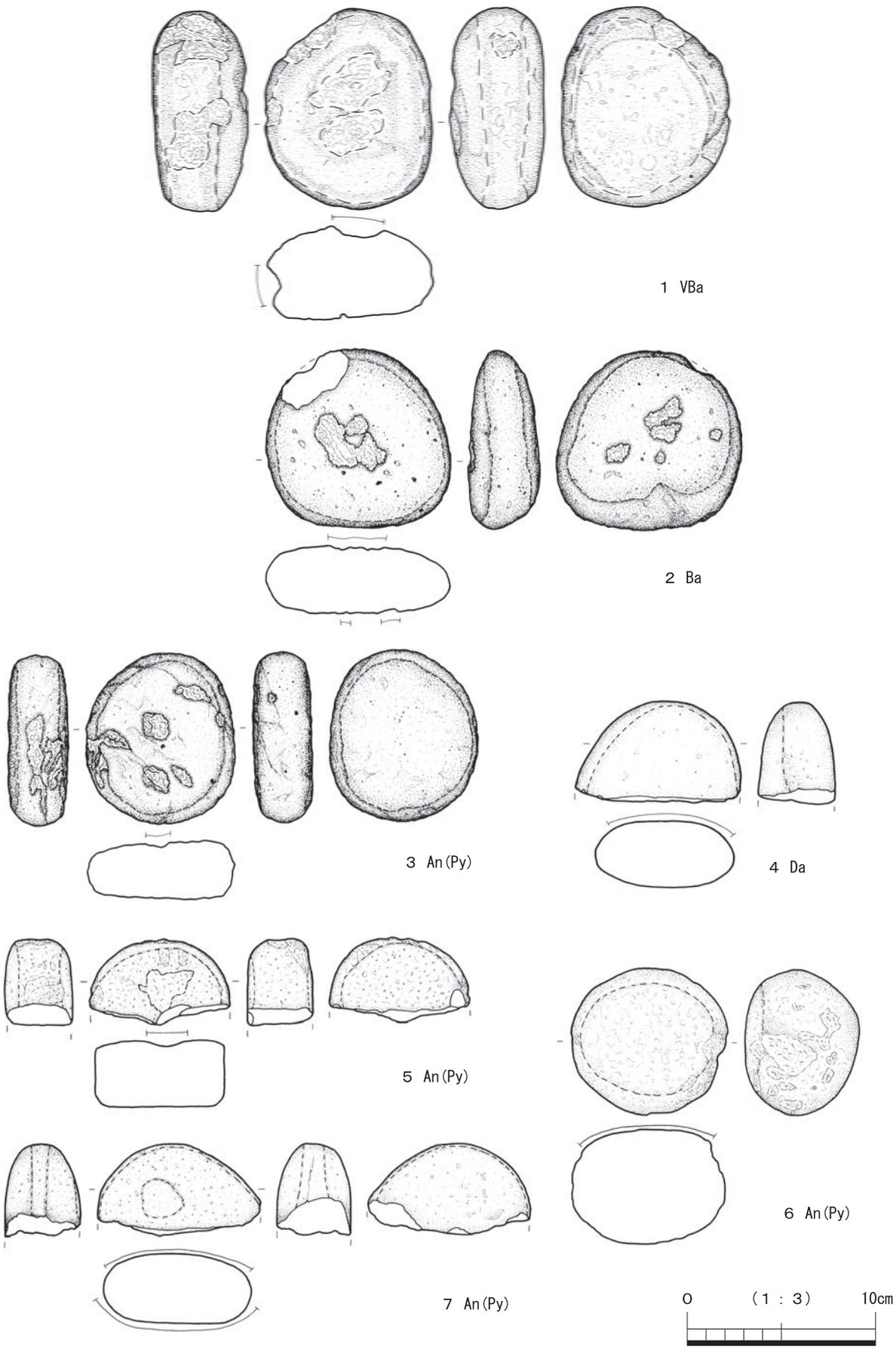
本遺跡からは、１点出土している。

第115図３は、玄武岩製の敲石である。素材形状は、不整な楕円礫を呈する。敲打痕は、主に下面の狭い範囲にて確認できる。

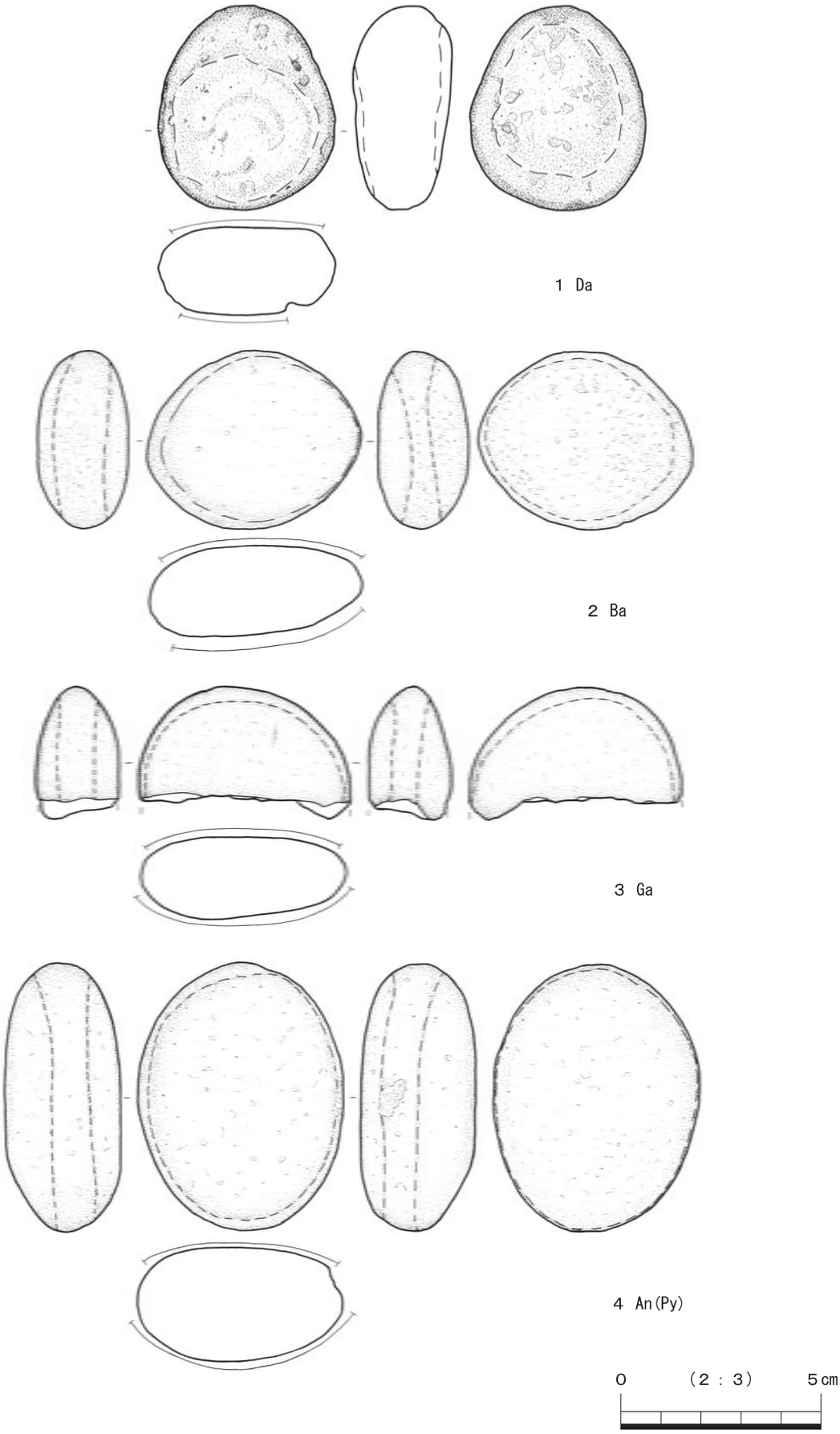
石皿（第116図１～４、写真図版19－１）

本遺跡からは、４点出土している。

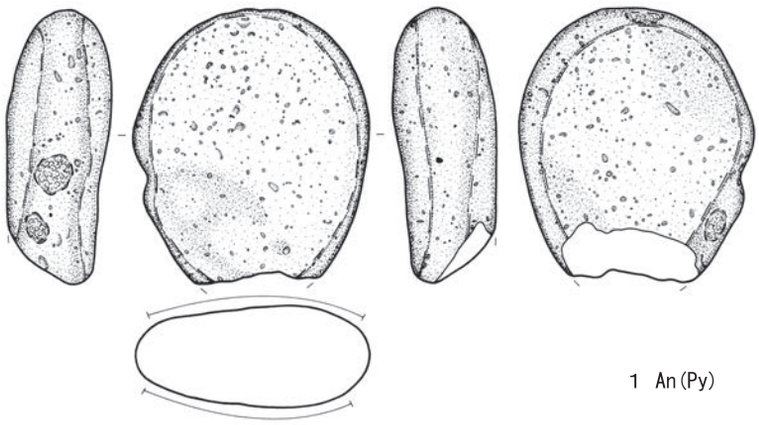
第116図１～４は、輝石安山岩製の石皿である。１～３の素材形状は、扁平な楕円礫を呈する。正面の平坦な面は、触手で確認すると滑らかであり、磨面を呈する。４の素材形状は、扁平な亜角礫を呈する。正面と裏面の平坦な面は、触手で確認すると滑らかであり、磨面を呈する。



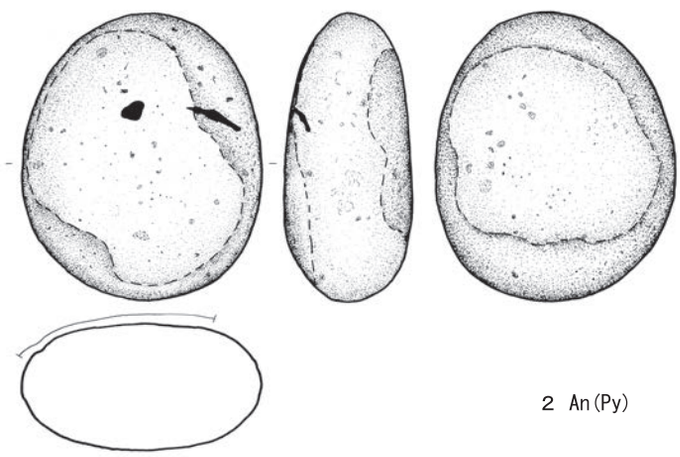
第113図　縄文石器（7）



第114図　縄文石器（8）



1　An(Py)

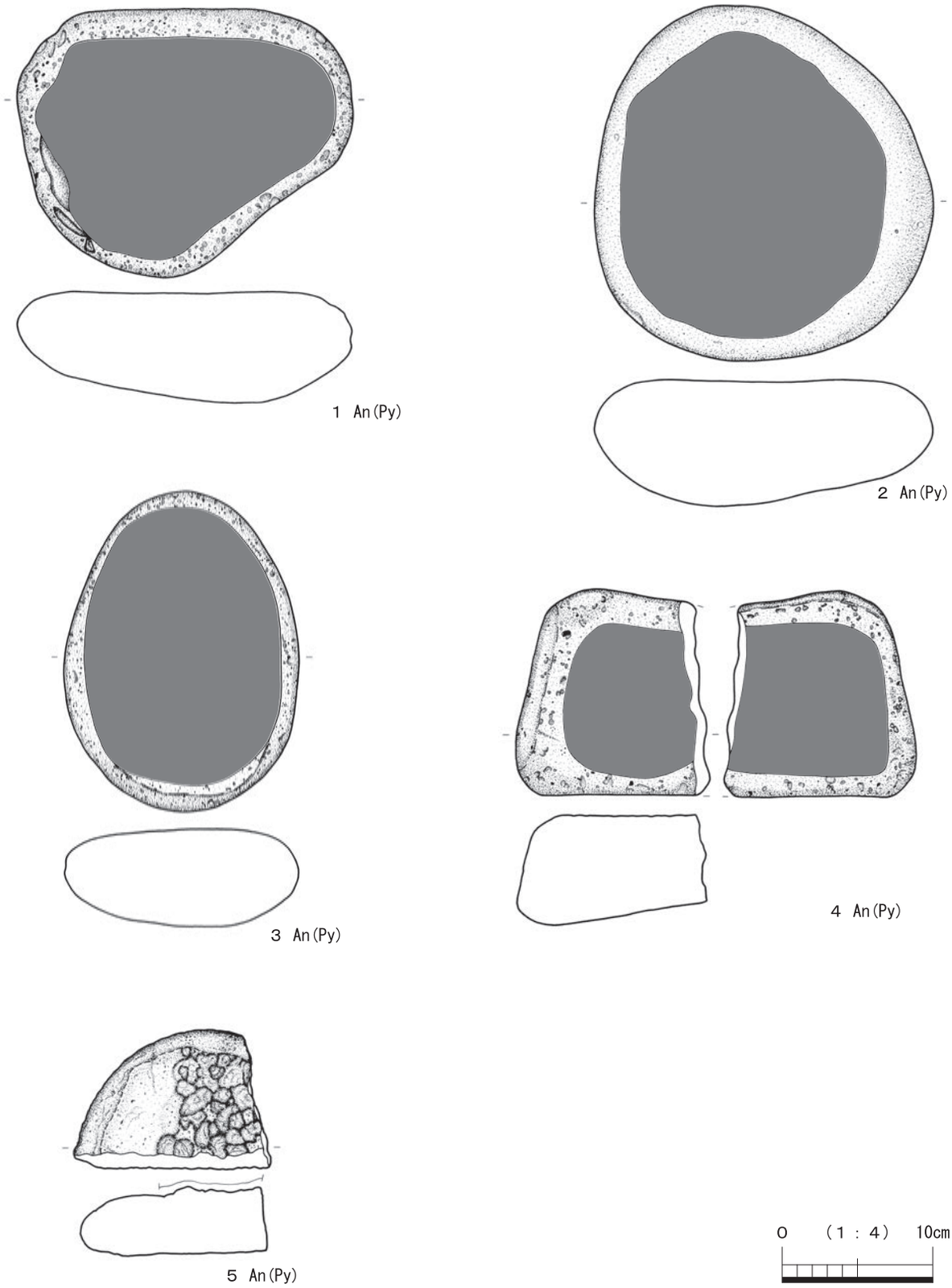


2　An(Py)

3　Ba

0　（1：3）　10cm

第115図　縄文石器（9）



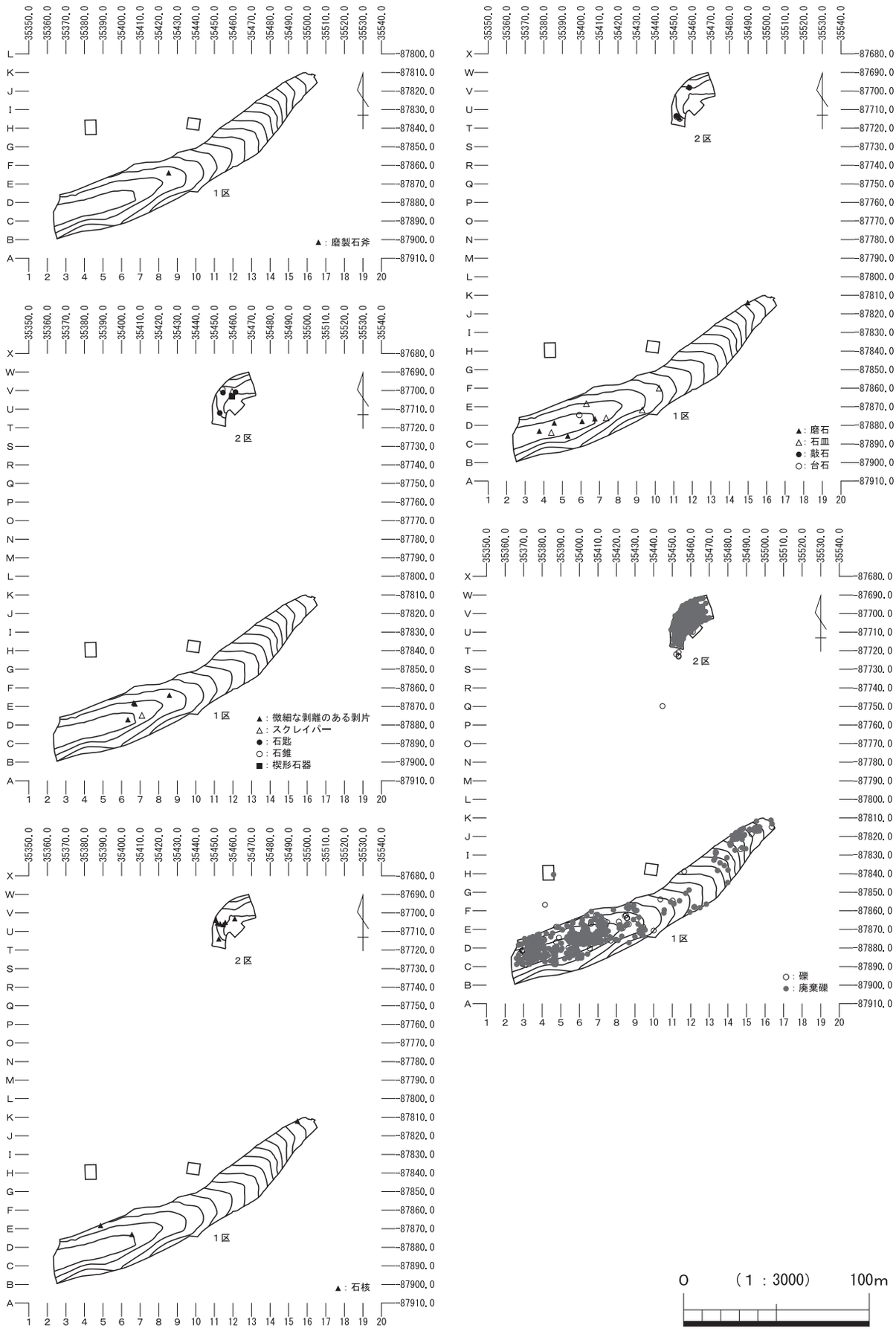
第116図　縄文石器（10）

第117図　縄文石器（11）

台石（第116図５・第117図）

本遺跡からは、２点出土している。

第116図５は、輝石安山岩製の台石の破片である。素材形状は、扁平な楕円礫を呈すると思われる。実測図正面の平坦な面には、敲打痕による凸凹面が確認できる。第117図は、玄武岩製の大きい台石である。素材形状は、扁平な楕円礫を呈する。実測図正面の平坦な面には、敲打痕によるで凸凹面が確認できる。



第118図　葛山大端ヶⅡ遺跡出土石器・礫分布図

第４節　調査のまとめ

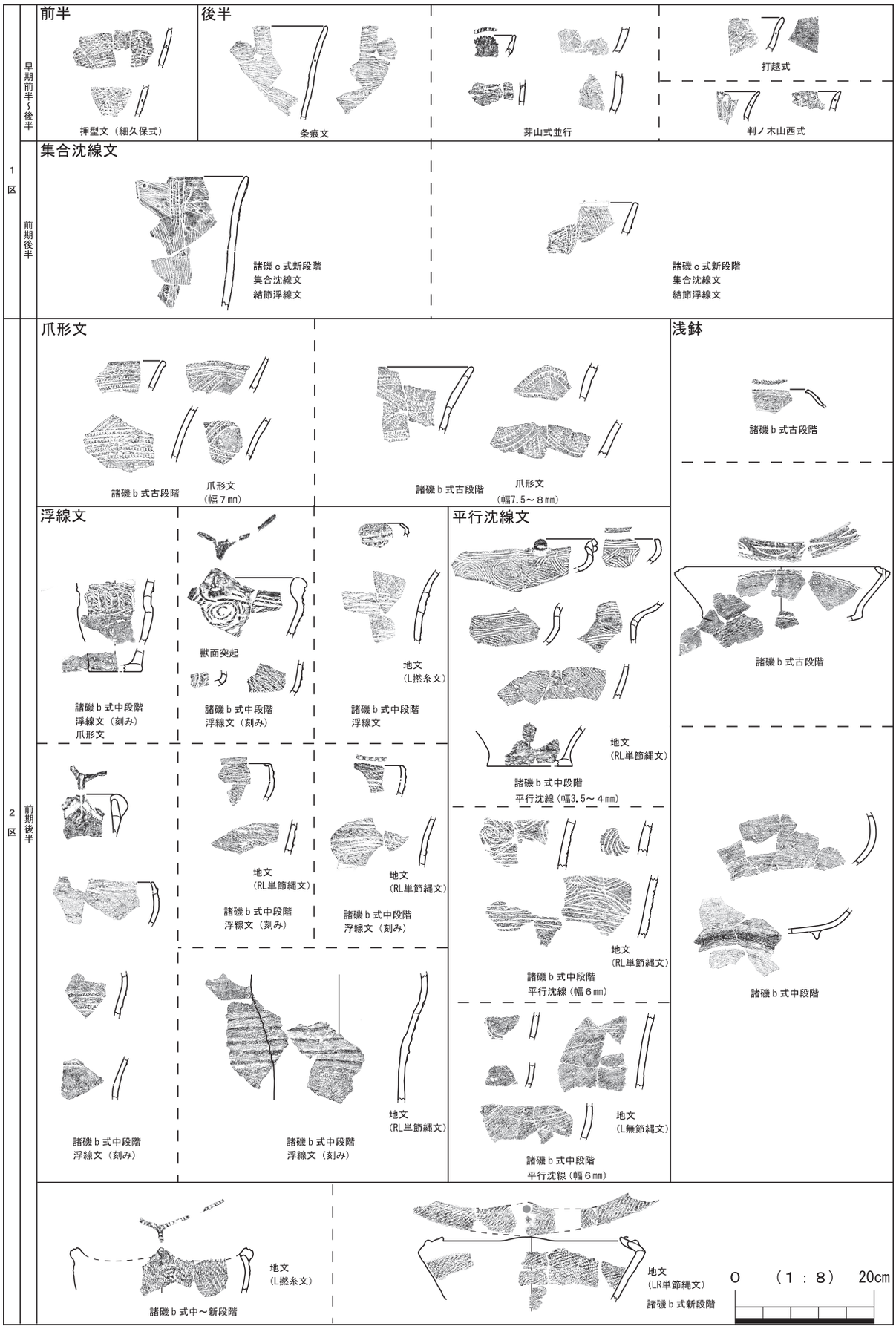
旧石器時代の調査では、休場層から黒曜石製の剥片が１点出土したのみである。時期は、愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年第４～５期（前嶋1995）の範疇に位置づけられると思われる。人の痕跡が希薄であることから、おそらく短期的なキャンプ地として土地利用されていたと推測される。

縄文時代の調査では、竪穴住居１基、土坑７基、集石１基を検出した。また調査では、愛鷹山麓の基本土層に見られる暗褐色土層（AN）、栗色土層（KU）、富士黒色土層（FB）の堆積が良好でないため、調査区全体で把握できなかった。そして縄文時代の遺物の多くが、暗褐色土層～富士黒色土層に比定される土層から出土しているため、縄文時代遺物包含層（JO）として遺跡内で統一して把握した。このJO層からは、早期の押型文・条痕文、前期の諸磯式などの土器が出土した（第119図）。

早期の土器では、信州方面の細久保式（川崎2003）・判ノ木山西式（阿部1997）、関東方面の打越式（早坂2010）が少量ながらも出土した。また前期の土器では、諸磯b・c式が出土しており、特に諸磯ｂ式の出土が多い。諸磯式土器の中心的地域は、関東北西部・山梨県・長野県である（関根2008）。例えば、諸磯c式土器に施文される結節浮線文は、長野・山梨県の遺跡で多用される文様要素である。裾野市の歴史的環境を考えた場合、遠隔地の物や人の交流をもたらす背景の１つとして、足柄路が注目できる。おそらく足柄路から甲斐路といった道筋を経由して、山梨・長野方面との交流があったと推測される。本遺跡及び愛鷹山麓における遺跡の形成を考える上で、この道筋は重要であると考えられる。

また調査時では、礫が1箇所に密集しているというよりも、むしろ広範囲に散在している状況が見られ、集石単位として認定が困難であった。主にJO層中に礫を多く含んでいることから、包含層中に含まれる礫として判断している部分がある。第69・70・84図には、１・２区の礫・廃棄礫の出土状況を示している。その結果、礫・廃棄礫の視覚的な散在範囲は、少なくとも５箇所確認できる。散在した礫は、本来、集石を構成していた礫と考えられる。同様に土器・石器の出土位置も、ほぼ重なるように散在する傾向が見られることから判断して、JO層形成の過程で、原位置を留めなくなったものと解される。仮に集石遺構の存在を想定した場合、その帰属時期は、JO層出土の遺物から判断すると、縄文時代早期前半～前期後半の範疇に位置づけられる。１区の礫・廃棄礫の散在範囲では、主に早期の土器が分布する傾向にある（第106図）。２区の礫・廃棄礫の散在範囲では、前期の諸磯ｂ式土器の分布が重なる傾向にある（第106図）。調査の結果、竪穴住居はJO層形成以前、土坑７基・集石１基はJO層形成以後に構築されたことが判明した。

特に２区の狭い範囲に、諸磯ｂ式古～新段階までの土器が集中して出土したことは注目できる。２区は、舌状に突き出た尾根上に位置し、北西から北東までを一望できる立地にある。おそらく狩猟キャンプ地として、竪穴住居や集石が構築されたものと考えられる。特に集石の重複状況は、狩猟キャンプ地として繰り返し利用された場所であったと推測される。本遺跡では早期～前期の遺物は出土しているものの、早期～前期に比定される陥穴状土坑は確認できなかった。検出した陥穴状土坑７基は、縄文時代中期～後期に比定されるものであった。近隣の葛山大端ヶⅠ・Ⅲ遺跡では、縄文時代中期・後期の遺物が出土しており、本遺跡との関係が注目される。



第119図　葛山大端ヶⅡ遺跡出土の主な縄文土器および個体

参考文献

阿部芳郎 1997「判ノ木山西遺跡出土土器の分類と編年」『シンポジウム押型文と沈線文　本編』215－229頁　長野県考古学会縄文時代（早期）部会

川崎　保 2003「神村論文を呼んで押型文土器の編年を考える―細久保式の成立と展開から―」利根川第24・25号　130～134頁　利根川同人会

小杉　康 1987「第５章　樋沢遺跡押型文土器群の研究」『郷土の文化財16　樋沢押型文遺跡調査研究報告書』79－128頁　長野県岡谷市教育委員会

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2004『静岡県埋蔵文化財　年報20』

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2005『静岡県埋蔵文化財　年報21』

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007『静岡県埋蔵文化財　年報23』

関根愼二 2008「諸磯式土器」『総覧縄文土器』282－289頁　アム・プロモーション

贄田　明 2010「長野県における浅鉢形土器の様相」『第23回縄文セミナー縄文前期浅鉢土器の諸様相』155－197頁 縄文セミナーの会

早坂廣人 2010「打越式土器の範囲・変遷・年代」『考古学リーダー18　縄文海進の考古学　～早期末葉・埼玉県打越遺跡とその時代～』73－88頁　六一書房

前嶋秀張 1995「第４期・第５期の石器群」『静岡県考古学会シンポジウムⅨ　愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』28－34頁　静岡県考古学会

壬生亮輔・佐々木富士子・及川　司 2008『棚返遺跡・今里遺跡　第二東名№153地点・№153－２地点　第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　裾野市－３』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第191集　（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所

第５節　遺構・遺物観察表

第15表　縄文時代の竪穴住居跡計測表

図版	挿図	遺構名	区	グリッド	検出層位	標高（m）	立地	帰属時期	平面形	長軸（cm）	短軸（cm）	検出面から床面までの最大深度（cm）	柱穴の数	炉			新旧関係
														タイプ	平面形	規模（cm）	
15-2 16-1	71 72 73	１号竪穴住居	2	T－11	休場層上面	287 ～ 286	尾根 緩斜面	前期	隅丸 方形	346	336	56	7	地床 炉	不整 方形	80 × 80	１号土坑 （新）

第16表　縄文時代の土坑計測表

図版	挿図	遺構名	区	グリッド	検出層位	標高（m）	立地	帰属時期	平面形	長軸（cm）	短軸（cm）	検出面からの最大深度（cm）	小穴数	新旧関係
	76	１号土坑	2	T-11	縄文時代遺物包含層	287 ～ 286	尾根 緩斜面	中期	円形	92	90	52	-	１号竪穴住居（古）
16-2	76	２号土坑	1	E- 5	縄文時代遺物包含層	322	尾根上	中期	楕円形	124	108	86	-	
	77	３号土坑	2	U-12	縄文時代遺物包含層	285.5 ～ 285	尾根 平坦面	中期	楕円形	128	92	98	-	
	78	４号土坑	2	U-12	仙石スコリア層上面	284	尾根 緩斜面	後期	隅丸方形	160	140	242	-	
16-3	80	５号土坑	2	T・U-11	縄文時代遺物包含層	286	尾根 緩斜面	中期	不整 隅丸方形	244	222	142	-	
17-1	82	６号土坑	1	I-14	休場層上面	313.5 ～ 312	尾根 緩斜面	中期	不整 隅丸方形	268	250	149	-	
17-2	82	７号土坑	1	G・H- 4	カワゴ平パミス層上面	314	尾根 緩斜面	後期	長楕円形	149	136	146	-	
	83	８号土坑	1	H- 9	砂沢スコリア層上面	315	尾根 緩斜面	中近世	楕円形	102	84	12	-	

第17表　縄文時代の集石計測表

図版	挿図	遺構名	区	グリッド	検出層位	標高（m）	立地	帰属時期	長軸（cm）	短軸（cm）	礫		土坑				
											礫の点数	被熱の有無	土坑の有無	平面形	長軸（cm）	短軸（cm）	最大深度（cm）
17-3	85 86	１号集石	1	C- 3	仙石スコリア層下部～ 縄文時代遺物包含層上部	323.5 ～ 323	尾根 平坦面	後期	281	230	252	有	有	不整 楕円形	150	126	19

第18表　葛山大端ヶⅡ遺跡　出土土器一覧表

図版	挿図	遺物番号	区	グリッド	層位	時期	型式	接合	色調	胎土	文様・調整	備考
21-1	88-6	26	1	E-6	JO	早期		12	表：5YR 5/6 裏：5YR 4/2	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（外面:斜位、内面:横位）。	
22-1	92-6	50	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	5	表：5YR 4/6 裏：5YR 4/6	白い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
		51	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/6 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜程の白・半透明・黒の砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、R 縄文。	
	103-4	52	2	U-11	JO	前期	諸磯ｃ式		表：10YR 3/1 裏：10YR 4/4	白い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、口縁部片。	
22-2	93-10	53	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	44	表：10YR 6/6 裏：5YR 4/4	白い小石を多く含む、石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
24-2	96-2	54	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 5/4 裏：10YR 5/3	白い粒子を少し含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
22-2	93-5	55	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5YR 2/1 裏：2.5Y 7/4	1㎜程の小石を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
24-1	99-7	56	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/6 裏：10YR 5/4	白い粒を多く含む、輝石を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
22-2	93-7	57	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	43	表：2.5Y 2/1 裏：2.5Y 6/4	石英を含む、小石を多く含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
	104-6	58	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	52	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 4/2	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
	104-15	59	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/6 裏：2.5YR 4/8	1 ～ 2㎜の白・黒・灰色の砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、ｒ撚糸文とℓ撚糸文による羽条構成。	
	103-6	60	2	U-11	JO	早期	茅山式 並行		表：7.5YR 4/2 裏：7.5YR 4/3	白い粒子・やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、沈線。	
24-1	99-2	64	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 6/3 裏：10YR 6/3	白い粒子･黒い粒子を多く含む。	ナデ、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
22-2	93-2	83	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 3/1 裏：2.5Y 5/3	2㎜程の小石を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-2	91-1	141	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/8 裏：2.5YR 4/8	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜、口縁部片。	
22-2	91-6	142	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5YR 4/6 裏：2.5YR 4/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
22-2	93-10	143	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	44	表：10YR 6/6 裏：5YR 4/4	白い小石を多く含む、石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
21-1	88-9	148	1	E-6	JO	早期			表：7.5YR 5/4 裏：7.5YR 4/2	白い粒子を多く含む。繊維含む。	ナデ、条痕文（内外面：横位）。	

21-1	89-6	149	1	E-6	JO	早期	打越式		表：10YR 7/3 裏：2.5YR 5/2	白い粒子を少し含む、繊維含む。	擦痕状整形。	
24-2	95-5	229	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 7/4 裏：2.5Y 7/4	雲母・白い砂粒を少し含む。	ナデ、平行沈線幅約 2㎜、口縁部片、浅鉢。	
22-1	92-4	230	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/4 裏：2.5YR 4/4	白い小石を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
		231	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	61	表：7.5YR 5/4 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ。	
21-2	90-9	232	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	48	表：5YR 6/6 裏：5YR 6/6	1 ～ 3㎜の白・黒・赤・灰色の砂粒、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7.5 ～ 8㎜。	
21-2	90-4	246	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 6/4 裏：2.5Y 6/4	1㎜程の小石を少し含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7㎜。	
21-2	90-12	247	2	V-12	SSC	前期	諸磯ｂ式		表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 5/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7.5 ～ 8㎜。	
21-2	90-1	248	2	V-12	SSC	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 6/4 裏：5YR 5/6	1㎜程の小石を少し含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7㎜、口縁部片。	
23-3	95-1	249	2	V-12	JO	前期	諸磯ｂ式	32	表：10YR 5/4 裏：2.5Y 7/4	白・黒い細かい砂粒、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文、浮線文斜め刻み、断面半円形。	
21-2	90-10	250	2	V-12	SSC	前期	諸磯ｂ式	47	表：5YR 6/6 裏：5YR 5/6	4㎜以上の白・黒・灰色の砂粒、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7.5 ～ 8㎜。	
22-2	93-10	251	2	U-11	SSC	前期	諸磯ｂ式	44	表：10YR 6/6 裏：5YR 4/4	白い小石を多く含む、石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
23-3	95-1	252	2	V-12	JO	前期	諸磯ｂ式	32	表：10YR 5/4 裏：2.5Y 7/4	白・黒い細かい砂粒を・雲母を含む。	ナデ、連続爪形文、浮線文斜め刻み、断面半円形。	
24-1	98-2	253	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	19	表：5YR 5/4 裏：2.5Y 6/3	白い粒子を多く含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
24-1	99-5	254	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 6/3 裏：2.5Y 6/3	白い粒子・やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
		255	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/3 裏：5YR 4/6	1 ～ 2.5㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、L 撚糸文。	
23-3	95-1	256	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	32	表：10YR 5/4 裏：2.5Y 7/4	白・黒い細かい砂粒、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文、浮線文斜め刻み、断面半円形。	
23-3	95-1	257	2	V-12	JO	前期	諸磯ｂ式	32	表：10YR 5/4 裏：2.5Y 7/4	白・黒い細かい砂粒、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文、浮線文斜め刻み、断面半円形。	
24-2	95-4	258	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	31	表：5YR 5/4 裏：10YR 5/4	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、浮線文、断面扁平形、平行沈線。	
24-1	98-1	259	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	35	表：5YR 4/4 裏：5YR 5/6	やや粗い砂粒・白い粒子を多く含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
21-2	90-7	260	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	46	表：2.5YR 6/6 裏：5YR 6/6	1 ～ 3㎜の白・黒・赤・灰色の砂粒、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7.5 ～ 8㎜、口縁部片。	
24-2	97-3	261	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 6/2 裏：7.5YR 6/4	黒い粒子を少し含む、やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
24-1	98-3	262	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	34	表：5YR 6/4 裏：10YR 6/4	やや粗い砂粒・白い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
24-1	98-3	263	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	34	表：5YR 6/4 裏：10YR 6/4	やや粗い砂粒・白い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
22-2	93-6	264	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	42	表：5YR 4/6 裏：10YR 6/4	2㎜程の小石・石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
21-2	90-9	265	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	48	表：5YR 6/6 裏：5YR 6/6	1 ～ 3㎜の白・黒・赤・灰色の砂粒、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7.5 ～ 8㎜。	
24-1	99-6	266	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 6/4 裏：7.5YR 6/6	白い粒子・やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
22-1	92-1	267	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	49	表：5YR 5/6 裏：5YR 5/6	白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-2	91-3	268	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	37	表：7.5YR 5/6 裏：2.5YR 5/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜、口縁部片。	
		269	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/4 裏：10YR 5/3	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、L 縄文。	
		271	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	62	表：10YR 8/4 裏：2.5YR 4/8	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
22-2	93-8	272	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 3/1 裏：10YR 5/4	石英・白い小石を少し含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-2	93-7	273	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	43	表：2.5Y 2/1 裏：2.5Y 6/4	石英を含む、小石を多く含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-2	93-6	274	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	42	表：5YR 4/6 裏：10YR 6/4	2㎜程の小石・石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
		275	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 7/6 裏：5YR 6/6	1 ～ 3.5㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ。	
22-2	91-4	276	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/6 裏：2.5YR 4/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
22-1	92-6	277	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	5	表：5YR 4/6 裏：5YR 4/6	白い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-1	92-6	278	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	5	表：5YR 4/6 裏：5YR 4/6	白い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-1	92-3	279	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 4/3 裏：5YR 4/4	白・黒い砂粒を多く含む、2㎜程の小石を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
		280	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	65	表：5YR 4/6 裏：7.5YR 4/3	1 ～ 3.5㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
22-1	92-6	281	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	5	表：5YR 4/6 裏：5YR 4/6	白い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
		282	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	65	表：5YR 4/6 裏：7.5YR 4/3	1 ～ 3.5㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
20-1	79-1-2	283	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	67	表：2.5YR 3/4 裏：5YR 3/4	白い小石を少し含む。	ナデ、底部片。	

23-1	94-1	284	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	25	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/4	白い小石を含む、白い砂粒を含む。	ナデ、沈線幅約 2 ～ 3㎜、木葉文モチーフ、磨消縄文（RL 縄文）、有孔浅鉢。	
	100-5	285	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/6 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、沈線、口縁部片。	
		286	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	65	表：5YR 4/6 裏：7.5YR 4/3	1 ～ 3.5㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
22-1	92-9	287	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	51	表：2.5Y 3/1 裏：5YR 4/4	白い小石を含む、白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-1	92-6	288	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	5	表：5YR 4/6 裏：5YR 4/6	白い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
	104-3	289	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 1.7/1 裏：2.5YR 4/8	1 ～ 3㎜の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、L 撚糸文。	
		290	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 5/3 裏：N 2/	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
		291	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	65	表：5YR 4/6 裏：7.5YR 4/3	1 ～ 3.5㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
22-2	91-2	292	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	41	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 4/8	1 ～ 3㎜の白・黒い砂粒を含む、黒い鉱物を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜、口縁部片、突起。	
22-1	92-6	293	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	5	表：5YR 4/6 裏：5YR 4/6	白い砂粒を多く含む、1 ～ 3㎜大の白い粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-2	93-10	294	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	44	表：10YR 6/6 裏：5YR 4/4	白い小石を多く含む、石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-2	93-9	295	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	15	表：10YR 6/4 裏：7.5YR 6/6	白い小石を含む、石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
23-1	94-1	296	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	25	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/4	白い小石を含む、白い砂粒を含む。	ナデ、沈線幅約 2 ～ 3㎜、木葉文モチーフ、磨消縄文（RL 縄文）、有孔浅鉢。	
22-2	93-6	297	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	42	表：5YR 4/6 裏：10YR 6/4	2㎜程の小石を含む、石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-2	91-11	298	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/6 裏：5YR 4/8	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
24-2	95-4	299	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	31	表：5YR 5/4 裏：10YR 5/4	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、浮線文、断面扁平形、平行沈線。	
22-2	93-1	300	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 2/1 裏：10YR 5/4	石英を含む、1㎜程の小石を多く含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
23-1	94-1	301	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	25	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/4	白い小石を含む、白い砂粒を含む。	ナデ、沈線幅約 2 ～ 3㎜、木葉文モチーフ、磨消縄文（RL 縄文）、有孔浅鉢。	
23-1	94-1	302	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	25	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/4	白い小石を含む、白い砂粒を含む。	ナデ、沈線幅約 2 ～ 3㎜、木葉文モチーフ、磨消縄文（RL 縄文）、有孔浅鉢。	
22-2	93-10	303	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	44	表：10YR 6/6 裏：5YR 4/4	白い小石を多く含む、石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
24-2	96-13	304	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 5/4 裏：10YR 6/4	白い粒子を多く含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
22-1	92-2	305	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	45	表：10YR 4/3 裏：7.5YR 4/4	白・黒い砂粒を含む、2㎜程の小石を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-2	91-7	306	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/4 裏：5YR 4/8	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
20-2	81-10	307	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/6 裏：5YR 3/4	白い砂粒・雲母を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	
		308	2	V-11	JO	前期？			表：5YR 4/3 裏：2.5Y 3/1	1 ～ 1.5㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、沈線。	
		309	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	61	表：7.5YR 5/4 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ。	
		310	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 6/6 裏：7.5YR 6/6	1 ～ 2.5㎜程の白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、浮線文、断面三角形、1524 と胎土類似。	
	105-1	311	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/4 裏：7.5YR 5/4	1㎜程の小石を少し含む。	ナデ、底部片。	
		312	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	61	表：7.5YR 5/4 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ。	
		313	2	U-12	JO	前期？			表：5YR 3/1 裏：10YR 6/4	1 ～ 2.5㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、沈線。	
20-1	77-3-1	314	2	U-12	JO	早期	茅山式 並行	78	表：7.5YR 3/3 裏：7.5YR 4/3	1㎜程の小石を含む。	ナデ。	
	103-3	315	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ～ ｃ式	66	表：5YR 4/6 裏：10YR 6/4	白い小石を少し含む、白・黒い細かい砂粒を含む。	ナデ、口縁部片。	
	103-3	316	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	66	表：5YR 4/6 裏：10YR 6/4	白い小石を少し含む、白・黒い細かい砂粒を含む。	ナデ、口縁部片。	
24-2	97-4	317	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	23	表：10YR 6/3 裏：7.5YR 6/4	赤い粒子を少し含む、やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
	103-5	318	2	U-12	JO	早期	茅山式 並行	63	表：10YR 5/3 裏：7.5YR 5/4	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、沈線。	
24-1	99-3	319	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	16	表：5YR 5/4 裏：2.5Y 6/3	やや粗い砂粒を多く含む、白い粒子を多く含む。	ナデ、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形、口縁部片。	
	103-5	320	2	U-11	JO	早期	茅山式 並行	63	表：10YR 5/3 裏：7.5YR 5/4	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、沈線。	
		321	2	U-11	JO	前期？			表：5YR 4/2 裏：5YR 4/4	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、沈線。	
24-1	98-3	322	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	34	表：5YR 6/4 裏：10YR 6/4	やや粗い砂粒を多く含む、白い砂粒を非常に多く含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
		323	2	U-12	JO	前期？			表：7.5YR 6/6 裏：10YR 6/4	1 ～ 2.5㎜程の白・黒い砂粒・雲母を含む。	ナデ。	
24-2	97-1	324	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 5/3 裏：2.5Y 6/2	やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形、口縁部片。	
22-2	91-12	325	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	57	表：5YR 3/6 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	

24-2	96-9	326	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 4/2 裏：10YR 5/3	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
22-2	93-9	327	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	15	表：10YR 6/4 裏：7.5YR 6/6	白い小石を含む、石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
24-2	96-11	328	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 5/4 裏：7.5YR 5/4	白い粒子を少し含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
22-2	91-10	329	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	64	表：5YR 4/4 裏：7.5YR 5/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
24-2	96-16	330	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/3 裏：10YR 5/3	白・黒い粒子を多く含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
		331	2	U-11	JO	前期？			表：10YR 3/2 裏：5YR 5/6	1 ～ 2.5㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ。	
24-2	95-2	332	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	30	表：5YR 5/4 裏：5YR 5/6	白い粒子・粗い砂粒を多く含む。	ナデ、浮線文、断面扁平形、平行沈線。	
25-1	102-9	333	2	U-11	JO	前期	諸磯ｃ式		表：10YR 6/3 裏：10YR 5/2	白い粒子・やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、結節浮線文。	
24-2	96-5	335	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/4 裏：10YR 6/2	白い粒子を多く含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
24-2	96-10	336	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	69	表：5YR 5/4 裏：10YR 5/2	白い粒子を多く含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
22-2	91-2	337	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	41	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 4/8	1 ～ 3㎜の白・黒い砂粒を含む、黒い鉱物を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
24-2	96-4	338	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	71	表：5YR 4/4 裏：7.5YR 5/4	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
22-2	91-12	339	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	57	表：5YR 3/6 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
		340	2	U-11	JO	前期？			表：7.5YR 6/6 裏：5YR 5/6	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ。	
20-2	104-11	341	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/3 裏：2.5YR 4/4	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
24-2	95-6	342	2	U-11	JO	前期	諸磯ａ～ｂ式		表：2.5YR 2/1 裏：5YR 4/4	白い細かい砂粒を少し含む。	ナデ、浮線文、円形刺突文。	
23-2	101-1	343	2	U-11	JO	前期	諸磯ｃ式	21	表：10YR 5/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石・雲母を含む。	ナデ、LR 縄文、平行沈線幅 3 ～ 4㎜、円形貼付文、口縁部片。	
20-1	79-3-1	351	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	7	表：10YR 6/4 裏：10YR 6/4	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、突帯、浅鉢。	
20-2	100-1	352	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	26	表：5YR 1.7/1 裏：5YR 3/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文、口縁部片、突起。	
21-2	90-8	600	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5YR 5/6 裏：7.5YR 6/6	1 ～ 3㎜の白・黒・赤・灰色の砂粒、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7.5 ～ 8㎜、口縁部片。	
		626	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/6 裏：2.5Y 6/3	1 ～ 4㎜程の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、被熱、脆い。	
	105-2	690	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 5/4 裏：7.5YR 5/6	1㎜程の小石を少し含む。	ナデ、底部片。	
21-2	90-7	757	2	V-12	JO	前期	諸磯ｂ式	46	表：2.5YR 6/6 裏：5YR 6/6	1 ～ 3㎜の白・黒・赤・灰色の砂粒、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7.5 ～ 8㎜、口縁部片。	
		759	2	V-12	JO	前期？			表：5YR 5/6 裏：5YR 4/1	1 ～ 1.5㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ。	
	104-1	760	2	V-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 4/3 裏：7.5YR 5/4	赤い粒子・やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、LR 縄文、口縁部片。	
	105-6	761	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/6 裏：7.5YR 6/6	白い砂粒を多く含む、黒い砂粒を少し含む。	ナデ、底部片。	
21-1	88-1	842	1	E-6	SSC	早期		13	表：5YR 5/4 裏：5YR 4/3	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（外面：横位・斜位、内面：横位）。	
24-2	97-5	850	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	75	表：5YR 5/4 裏：10YR 5/2	白い粒子・やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
24-2	97-6	900	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	20	表：5YR 5/4 裏：10YR 5/2	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
24-2	97-6	901	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	20	表：5YR 5/4 裏：10YR 5/2	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
	104-5	902	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5YR 5/6 裏：5YR 4/4	1 ～ 5㎜の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、L 撚糸文。	
		903	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	61	表：7.5YR 5/4 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ。	
		904	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	61	表：7.5YR 5/4 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ。	
		905	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 1.7/1 裏：5YR 4/4	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、沈線。	
20-1	77-4	906	2	U-12	JO	早期	茅山式並行		表：5YR 1.7/1 裏：2.5YR 4/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、口縁部片、刻みのある突起。	
21-2	90-11	907	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5YR 5/6 裏：7.5YR 6/4	3㎜以上の白・黒・灰色の砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7.5 ～ 8㎜。	
22-2	91-9	908	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	39	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/8	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
22-2	91-12	909	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	57	表：5YR 3/6 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
		910	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	62	表：10YR 8/4 裏：2.5YR 4/8	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
	104-12	911	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 2/1 裏：2.5Y 4/1	1 ～ 3㎜程の白・黒・赤色の砂粒を少し含む。	ナデ、R 撚糸文。	
22-2	93-6	912	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	42	表：5YR 4/6 裏：10YR 6/4	2㎜程の小石を含む、石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
20-2	100-6	913	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5YR 5/6 裏：5YR 4/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、RL 縄文、口縁部片、突起。	

		914	2	U-11	JO	前期？			表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/4	1㎜程の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ。	
	104-4	915	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/6 裏：7.5YR 4/6	1～2㎜の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文。	
		916	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/2 裏：10YR 5/3	1～1.5㎜程の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
23-2	101-1	917	2	U-11	JO	前期	諸磯ｃ式	21	表：10YR 5/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文、平行沈線幅 3～4㎜、円形貼付文、口縁部片。	
22-2	91-5	918	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	38	表：5YR 4/6 裏：7.5YR 5/6	1～2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5～4㎜。	
24-2	96-15	919	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 5/3 裏：7.5YR 5/4	白い粒子を多く含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
	104-10	926	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5YR 5/6 裏：7.5YR 4/4	1～3㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
24-2	96-12	927	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/4 裏：10YR 5/3	白い粒子・やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
22-2	91-8	928	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	40	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/6	1～2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5～4㎜。	
24-1	99-3	930	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	16	表：5YR 5/4 裏：2.5Y 6/3	やや粗い砂粒・白い粒子を多く含む。	ナデ、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形、口縁部片。	
22-1	92-9	950	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	51	表：2.5Y 3/1 裏：5YR 4/4	白い小石を含む、白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-1	92-2	951	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	45	表：10YR 4/3 裏：7.5YR 4/4	白・黒い砂粒を含む、白い 2㎜程の小石を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
20-1	79-3-2	952	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	7	表：10YR 6/4 裏：10YR 6/4	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、突帯、浅鉢。	
22-2	93-7	953	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	43	表：2.5Y 2/1 裏：2.5Y 6/4	石英を含む、白い 1㎜程の小石を多く含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-2	93-9	954	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	15	表：10YR 6/4 裏：7.5YR 6/6	白い小石を含む、石英を含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
	104-6	955	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	52	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 4/2	1～2㎜の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
24-2	95-2	956	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	30	表：5YR 5/4 裏：5YR 5/6	白い粒子・粗い砂粒を多く含む。	ナデ、浮線文、断面扁平形、平行沈線。	
20-1	79-3-4	957	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	7	表：10YR 6/4 裏：10YR 5/1	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、突帯、浅鉢。	
24-1	99-8	958	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 4/3 裏：7.5YR 5/4	白い粒子を非常に多く含む、黒い粒子を少し含む。	ナデ、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
20-2	100-4	959	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 1.7/1 裏：2.5YR 4/4	白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文、口縁部片。	
22-2	91-9	963	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	39	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/8	1～2㎜の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5～4㎜。	
		964	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	62	表：10YR 8/4 裏：2.5YR 4/8	1～3㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
		965	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	62	表：10YR 8/4 裏：2.5YR 4/8	1～3㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
24-2	96-6	967	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	33	表：5YR 5/4 裏：5YR 5/2	白い粒子を多く含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
	104-16	968	2	U-11	JO	早期		58	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 5/6	1～2㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、条痕文？、口縁部片。	
	105-3	969	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	56	表：5YR 5/6 裏：10YR 7/6	石英を少し含む、白・黒い小石を含む。	ナデ、底部片。	
		970	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 7/4 裏：2.5Y 3/1	1～3㎜程の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、浮線文、断面三角形。1524 と胎土類似。	
22-2	91-2	971	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	41	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 4/8	1～3㎜の白・黒い砂粒を含む、黒い鉱物を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5～4㎜、口縁部片、突起。	
	105-5	1023	2	V-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/6 裏：5YR 5/6	白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、底部片。	
21-2	90-6	1024	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5Y 4/1 裏：10YR 5/4	1㎜程の小石を少し含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7㎜。	
22-1	92-1	1025	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	49	表：5YR 5/6 裏：5YR 5/6	白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
24-1	98-3	1026	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	34	表：5YR 6/4 裏：10YR 6/4	やや粗い砂粒・白い砂粒を非常に多く含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形、RL 縄文原体の押圧。	
24-1	98-2	1027	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	19	表：5YR 5/4 裏：2.5Y 6/3	白い粒子を多く含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
22-1	92-1	1028	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	49	表：5YR 5/6 裏：5YR 5/6	白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
20-2	100-1	1029	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	26	表：5YR 1.7/1 裏：5YR 3/6	1～2㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文、口縁部片、突起。	
24-1	98-1	1030	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式	35	表：5YR 4/4 裏：5YR 5/6	やや粗い砂粒・白い粒子を多く含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
24-2	97-2	1031	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 6/3 裏：2.5Y 6/3	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形、口縁部片。	
	104-9	1032	2	V-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/6 裏：10YR 4/4	1～2㎜の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、L 撚糸文。	
		1122	2	T-11	JO	前期？			表：10R 5/8 裏：10YR 6/4	1㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文。	
		1160	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	60	表：5YR 4/6 裏：5YR 4/3	白・黒の砂粒を含む、2～4㎜程の小石を含む。	ナデ、被熱、脆い。	
20-2	81-9-5	1161	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	10	表：2.5Y 6/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文。	
22-2	92-9	1162	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	51	表：2.5Y 3/1 裏：5YR 4/4	白い小石を含む、白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	

23-2	101-4	1163	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	22	表：10YR 4/3 裏：5YR 3/2	白い小石を多く含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文、平行沈線幅３～４㎜、円形貼付文、口縁部片。	
23-2	101-1	1164	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	21	表：10YR 5/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文、平行沈線幅３～４㎜、円形貼付文、口縁部片。	
23-2	101-1	1165	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	21	表：10YR 5/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文、平行沈線幅３～４㎜、円形貼付文、口縁部片。	
22-2	92-5	1166	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	50	表：10YR 3/1 裏：5YR 4/6	６～７㎜程の小石を含む、白い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
23-2	101-3	1167-1	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	70	表：10YR 4/3 裏：2.5Y 7/6	1㎜程の砂粒を多く含む、雲母を含む	ナデ、LR 縄文、平行沈線幅３～４㎜。	
20-2	100-3	1167-2	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	24	表：2.5YR 2/1 裏：2.5YR 4/6	白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文、口縁部片、突起。	
20-2	100-3	1168	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	24	表：2.5YR 2/1 裏：2.5YR 4/6	白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文、口縁部片、突起。	
23-2	101-4	1169	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	22	表：10YR 4/3 裏：5YR 3/2	白い小石を多く含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文、平行沈線幅３～４㎜、円形貼付文、口縁部片。	
23-2	101-5	1170	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 3/2 裏：10YR 4/2	1㎜程の小石を多く含む、雲母を少し含む。	ナデ、LR 縄文、平行沈線幅３～４㎜。	
	104-14	1171	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 5/4 裏：10YR 4/4	白・黒い砂粒を含む、雲母を少し含む。	ナデ、L 撚糸文。	
20-2	81-3-3	1172	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	53	表：2.5YR 4/4 裏：5YR 4/4	１～３㎜の白・黒・赤い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
	104-2	1173	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 4/1 裏：7.5YR 4/4	白い粒子を少し含む、赤い粒子を少し含む。	ナデ、L 撚糸文。	
20-2	81-4-3	1174	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	54	表：5YR 4/6 裏：5YR 1.7/1	１～４㎜以上の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
20-2	81-3-1	1175	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	53	表：2.5YR 4/4 裏：5YR 4/4	１～３㎜の白・黒・赤い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
20-2	100-1	1176	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	26	表：5YR 1.7/1 裏：5YR 3/6	１～２㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文、口縁部片、突起。	
22-2	92-9	1177	2	T-11	JO	前期	諸磯ｂ式	51	表：2.5Y 3/1 裏：5YR 4/4	白い小石を含む、白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
23-2	101-2	1178	2	T-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 4/3 裏：10YR 6/4	1㎜程の小石を含む、石英を含む。	ナデ、LR 縄文、平行沈線幅３～４㎜、口縁部片。	
23-2	101-1	1179	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	21	表：10YR 5/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文、平行沈線幅３～４㎜、円形貼付文、口縁部片。	
20-2	104-7	1180	2	T-11	JO	前期	諸磯ｂ式	55	表：5YR 4/6 裏：5YR 3/4	１～２㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
20-2	104-7	1181	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	55	表：5YR 4/7 裏：5YR 3/5	１～３㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
20-1	77-1	1182	2	U-12	埋土４	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/4 裏：10YR 6/4	白い粒子・やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	３号土坑
20-1	77-3-2	1183	2	U-12	埋土４	早期	茅山式 並行	78	表：7.5YR 3/3 裏：7.5YR 4/3	1㎜程の小石を含む。	ナデ。	３号土坑
	104-13	1191	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 5/4 裏：5YR 4/4	白い粗い砂粒を多く含む。	ナデ、L 撚糸文。	
21-2	90-10	1192	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	47	表：5YR 6/6 裏：5YR 5/6	4㎜以上の白・黒・灰色の砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7.5 ～ 8㎜。	
		1193	2	U-12	JO	前期？			表：5YR 3/3 裏：5YR 4/3	白・黒い粒子を含む、１～３㎜程の小石を含む。	ナデ。	
20-1	79-2-2	1194	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	9	表：10YR 6/4 裏：5Y 3/1	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、浅鉢。	
20-1	79-2	1195	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	9	表：10YR 6/4 裏：5Y 3/1	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、浅鉢。	
		1196	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/4 裏：10R 5/6	１～3.5㎜程の白・半透明・黒い砂粒を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
20-2	80-1-2	1197	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	27	表：5YR 1.7/1 裏：2.5YR 4/8	4㎜以上の白・黒・灰色の砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	
22-2	91-10	1198-1	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	64	表：5YR 4/4 裏：7.5YR 5/6	１～２㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
		1198-2	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/3 裏：5Y 4/1	１～1.5㎜程の白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
24-2	96-3	1199	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	36	表：5YR 5/4 裏：2.5Y 5/2	白い粒子を多く含む、黒い粒子を少し含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
21-1	89-2	1200	2	U-11	JO	早期			表：10YR 4/3 裏：10YR 3/3	白い粒子・粗い砂粒を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（内面：横位）。	
	99-1	1203	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5YR 4/8 裏：2.5YR 5/6	１～３㎜以上の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形、口縁部片、突起。	
	105-4	1205	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 3/2 裏：10YR 6/3	石英を少し含む。	ナデ、底部片。	
24-2	96-7	1206	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/4 裏：5YR 5/4	白い粒子・黒い粒子を多く含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
	105-3	1207	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	56	表：5YR 5/6 裏：10YR 7/6	石英を少し含む、白・黒い小石を含む。	ナデ、底部片。	
23-1	94-1	1208	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	25	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/4	白い小石・砂粒を含む。	ナデ、沈線幅約２～３㎜、木葉文モチーフ、磨消縄文（RL 縄文）、有孔浅鉢。	
24-2	96-8	1212	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/3 裏：2.5Y 5/2	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
22-1	92-7	1242	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 3/1 裏：2.5YR 4/3	1㎜程の小石を少し含む、黒い小石を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
20-1	79-2-1	1243	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	9	表：10YR 6/4 裏：5Y 3/1	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、浅鉢。	
25-1	102-14	1251	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式		表：7.5YR 4/4 裏：5YR 5/4	白い粒子・やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜。	

25-1	102-12	1252	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式		表：2.5YR 5/2 裏：5YR 5/4	粗い砂粒を非常に多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、ボタン状貼付文。	
25-1	102-1	1253	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式	17	表：10YR 5/3 裏：5YR 6/6	白い粒子を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、結節浮線文、ボタン状貼付文、口縁部片。	
25-1	102-4	1254	1	D-3	SSC	前期	諸磯ｃ式	77	表：7.5YR 6/4 裏：5YR 5/4	白い粒子を少し含む、粗い砂粒を非常に多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜。	
25-1	102-2	1255	1	D-3	SSC	前期	諸磯ｃ式		表：5YR 4/3 裏：5YR 5/4	白い粒子を非常に多く含む、赤色岩片を少し含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、結節浮線文、ボタン状貼付文、口縁部片。	
25-1	102-1	1256	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式	17	表：10YR 5/3 裏：5YR 6/6	白い粒子を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、結節浮線文、ボタン状貼付文、口縁部片。	
25-1	102-3	1257	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式		表：7.5YR 3/4 裏：5YR 4/6	白い砂粒、半透明な粒を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、結節浮線文、ボタン状貼付文。	
25-1	102-10	1258	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式	14	表：10YR 6/3 裏：5YR 5/4	白い粒子を多く含む、粗い砂粒を非常に多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、結節浮線文。	
25-1	102-16	1259	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式		表：10YR 6/4 裏：10YR 5/3	やや粗い砂粒を非常に多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜。	
25-1	102-10	1260	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式	14	表：10YR 6/3 裏：5YR 5/4	白い粒子を多く含む、粗い砂粒を非常に多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、結節浮線文。	
25-1	102-6	1261	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式		表：5YR 4/4 裏：5YR 3/6	白い粒子を非常に多く含む、やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜。	
25-1	102-13	1262	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式	18	表：5YR 5/4 裏：7.5YR 5/6	白い粒子・黒い粒子を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、ボタン状貼付文。	
25-1	102-13	1291	1	C-3	SSC	前期	諸磯ｃ式	18	表：5YR 5/4 裏：7.5YR 5/6	白い粒子・黒い粒子を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、ボタン状貼付文。	
21-2	90-7	1295	2	V-12	SSC	前期	諸磯ｂ式	46	表：2.5YR 6/6 裏：5YR 6/6	1 ～ 3㎜の白・黒・赤・灰色の砂粒・雲母を含む。	ナデ、連続爪形文幅約 7.5 ～ 8㎜、口縁部片。	
	95-3	1296	2	V-12	SSC	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 5/6 裏：2.5Y 6/3	白・黒い細かい砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、接合 32 と同一個体？、底部片。	
22-2	93-4	1300	2	V-11	SSC	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 3/3 裏：7.5YR 5/4	5㎜程の小石を含む、白い砂粒を少し含む。	ナデ、L 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-1	92-5	1304	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	50	表：10YR 3/1 裏：5YR 4/6	6 ～ 7㎜程の小石を含む、白い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅約 6㎜。	
22-2	91-10	1307	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	64	表：5YR 4/4 裏：7.5YR 5/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜。	
24-2	96-3	1308	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	36	表：5YR 5/4 裏：2.5Y 5/2	白い粒子を多く含む、黒い粒子を少し含む。	ナデ、L 撚糸文、浮線文、断面三角形。	
24-1	98-4	1309	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	4	表：7.5YR 4/4 裏：5YR 4/4	白い砂粒を多く含む、2 ～ 3㎜大の粒を含む。	ナデ、RL 縄文、浮線文斜め刻み（RL 縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
22-2	91-3	1310	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	37	表：7.5YR 5/6 裏：2.5YR 5/6	1 ～ 2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文、平行沈線幅 3.5 ～ 4㎜、口縁部片。	
		1337	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 5/6 裏：N 2/	1 ～ 2.5㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
25-1	102-1	1350	1	D-3	SSC	前期	諸磯ｃ式	17	表：10YR 5/3 裏：5YR 6/6	白い粒子を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜、結節浮線文、ボタン状貼付文、口縁部片。	
25-1	102-5	1351	1	D-3	SSC	前期	諸磯ｃ式		表：5YR 5/4 裏：7.5YR　5/2	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、集合沈線文幅約 4㎜。	
19-2	75-7	1357	2	T-11	埋土 1	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/6 裏：10YR 6/4	黒い小石を含む、1㎜程の半透明の小石を含む。	ナデ。	1 号竪穴住居
		1361	2	T-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 5/4 裏：7.5YR 5/4	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、L 撚糸文。	
20-2	81-2	1364	2	T-11	埋土 1	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/6 裏：2.5YR 4/6	白い砂粒を多く含む、黒い輝石の粒を含む。	ナデ、L 撚糸文・斜位、平行沈線幅 4㎜、波状口縁部片、口端部刻み。	5 号土坑
	81-8	1368	2	T-11	埋土 3	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 5/4 裏：2.5Y 3/2	1㎜程の小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文・横位。	5 号土坑
19-2	75-5-1	1450	2	T-11	埋土 2	前期	諸磯ｂ式	28	表：5Y 3/2 裏：7.5YR 5/4	白い小石・白い砂粒を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1 号竪穴住居
19-2	75-5-2	1451	2	T-11	埋土 2	前期	諸磯ｂ式	28	表：5Y 3/2 裏：7.5YR 5/4	白い小石・白い砂粒を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1 号竪穴住居
19-2	75-3-1	1452	2	T-11	埋土 2	前期	諸磯ｂ式	29	表：10YR 3/2 裏：10YR 5/4	1㎜程の小石を含む、雲母を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1 号竪穴住居
19-2	75-5-3	1453	2	T-11	埋土 2	前期	諸磯ｂ式	28	表：5Y 3/2 裏：7.5YR 5/4	白い小石・白い砂粒を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1 号竪穴住居
19-2	75-4	1454	2	T-11	埋土 2	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 3/1 裏：10YR 4/4	1㎜程の小石を含む、雲母を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1 号竪穴住居
19-2	75-2-1	1455	2	T-11	埋土 3	前期	諸磯ｂ式	73	表：2.5Y 4/2 裏：10YR 5/4	1㎜程の小石を含む、雲母を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1 号竪穴住居
19-2	75-3-2	1456	2	T-11	埋土 3	前期	諸磯ｂ式	29	表：10YR 3/2 裏：10YR 5/4	1㎜程の小石を含む、雲母を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1 号竪穴住居
19-2	75-6-1	1459	2	T-11	埋土 3	前期	諸磯ｂ式	68	表：10YR 4/2 裏：10YR 4/4	白い小石・黒い砂粒を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1 号竪穴住居
	81-6	1460	2	T-11	埋土 1	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 5/4 裏：2.5Y 3/2	白い半透明の小石を含む。	ナデ、LR 縄文・横位。	5 号土坑
	81-7	1461	2	T-11	埋土 1	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 5/4 裏：2.5Y 3/2	1㎜程の小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文・横位。	5 号土坑
20-2	81-4-4	1462	2	T-11	埋土 1	前期	諸磯ｂ式	54	表：5YR 4/6 裏：5YR 1.7/1	1 ～ 4㎜以上の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文・斜位。	5 号土坑
20-2	81-1	1465	2	T-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 3/1 裏：7.5YR 4/4	1㎜程の小石を含む、黒い砂粒を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	
20-2	81-5	1466	2	T-11	埋土 3	前期	諸磯ｂ式		表：5YR 4/3 裏：5YR 1.7/1	白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、R 撚糸文・斜位。	5 号土坑
20-2	81-3-4	1467	2	T-11	埋土 3	前期	諸磯ｂ式	53	表：2.5YR 4/4 裏：5YR 4/4	1 ～ 3㎜の白・黒・赤い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L 撚糸文・斜位。	5 号土坑
20-2	91-8-3	1469	2	T-11	埋土 5	前期	諸磯ｂ式	10	表：2.5Y 6/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文・横位。	5 号土坑

20-1	77-2	1476	2	U-12	埋土5	前期	諸磯b式		表：5YR 1.7/1 裏：5YR 5/6	2㎜の白・黒・赤い砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、連続爪形文幅約7.5～8㎜、口縁部片。	3号土坑
22-1	92-2	1479	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	45	表：10YR 4/3 裏：7.5YR 4/4	白・黒い砂粒を含む、白い2㎜程の小石を含む。	ナデ、RL縄文、平行沈線幅約6㎜。	
		1480	2	U-11	JO	前期	諸磯b式		表：2.5YR 2/2 裏：2.5YR 2/2	白い小石を少し含む。	接合25の同一個体片、有孔浅鉢。	
24-1	98-4	1484	2	U-12	JO	前期	諸磯b式	4	表：7.5YR 4/4 裏：5YR 4/4	白い砂粒を多く含む。	ナデ、RL縄文、浮線文斜め刻み（RL縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
19-2	75-8	1488	2	T-11	埋土3	前期	諸磯b式		表：5YR 5/6 裏：10YR 6/4	白い半透明の小石を含。	ナデ。	1号竪穴住居
		1491	2	U-12	JO	前期	諸磯b式	6	表：10YR 6/4 裏：2.5Y 7/4	1～3.5㎜程の白・茶・黒の砂粒を少し含む。	丁寧なナデ、浅鉢。	
21-1	88-6	1498	1	D-6	JO	早期		12	表：5YR 5/6 裏：5YR 4/2	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（外面:斜位、内面:横位）。	
21-1	89-5	1499	1	E-6	JO	早期	打越式		表：2.5Y 4/1 裏：10YR 7/3	白い粒子を多く含む、繊維含む。	擦痕状整形。	
19-2	75-2-2	1501	2	T-11	埋土3	前期	諸磯b式	73	表：2.5Y 4/2 裏：10YR 5/4	1㎜程の小石を含む、雲母を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1号竪穴住居
19-2	75-1	1502	2	T-11	埋土2	前期	諸磯b式		表：2.5Y 3/1 裏：10YR 6/4	1㎜程の小石を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1号竪穴住居
19-2	75-6-2	1507	2	T-11	埋土3	前期	諸磯b式	68	表：10YR 4/2 裏：10YR 4/4	白い小石を含む、黒い砂粒を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形。	1号竪穴住居
20-2	80-1-1	1510	2	T-11	埋土3	前期	諸磯b式	27	表：5YR 1.7/1 裏：2.5YR 4/8	4㎜以上の白・黒・灰色の砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、浮線文斜め刻み、断面半円形、口縁部片、獣面突起。	5号土坑
22-1	92-5	1512	2	T-11	埋土4	前期	諸磯b式	50	表：10YR 3/1 裏：5YR 4/6	6～7㎜程の小石を含む、白い砂粒を含む。	ナデ、RL縄文、平行沈線幅約6㎜。	
		1513	2	T-11	JO	前期？			表：10YR 4/2 裏：7.5YR 4/3	1～2㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ。	
23-2	101-1	1514	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	21	表：10YR 5/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR縄文、平行沈線幅3～4㎜、円形貼付文、口縁部片。	
20-2	81-4-1	1515	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	54	表：5YR 4/6 裏：5YR 1.7/1	1～4㎜以上の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L撚糸文・斜位。	
20-2	81-9-1	1516	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	10	表：2.5Y 6/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR縄文・横位。	
22-2	92-8	1517	2	T-11	JO	前期	諸磯b式		表：7.5YR 6/6 裏：10YR 6/6	2㎜程の小石を含む、黒い砂粒を含む。	ナデ、RL縄文、平行沈線幅約6㎜。	
22-1	92-5	1518	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	50	表：10YR 3/1 裏：5YR 4/6	6～7㎜程の小石を含む、白い砂粒を含む。	ナデ、RL縄文、平行沈線幅約6㎜。	
		1519	2	U-11	JO	前期	諸磯b式		表：5YR 4/4 裏：5YR 3/6	1～2.5㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、被熱、脆い。	
23-2	101-1	1520	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	21	表：10YR 5/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR縄文、平行沈線幅3～4㎜、円形貼付文、口縁部片。	
20-2	81-9-2	1521	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	10	表：2.5Y 6/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR縄文・横位。	
20-2	100-2	1522	2	U-11	JO	前期	諸磯b式		表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 4/8	1～2㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L撚糸文、口縁部片、突起。	
23-2	101-1	1523	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	21	表：10YR 5/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR縄文、平行沈線幅3～4㎜、円形貼付文、口縁部片。	
		1524	2	U-11	JO	前期	諸磯b式		表：2.5Y 4/4 裏：7.5YR 5/4	1㎜程の小石を含む、雲母を含む。	ナデ、L撚糸文、浮線文、断面三角形。	
		1525	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	60	表：5YR 4/6 裏：5YR 4/3	白・黒の砂粒を含む、2～4㎜程の小石を含む。	ナデ、被熱、脆い。	
20-2	81-9-4	1526	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	10	表：2.5Y 6/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR縄文・横位。	
24-2	96-4	1527	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	71	表：5YR 4/4 裏：7.5YR 5/4	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、L撚糸文、浮線文、断面三角形。	
		1528	2	U-11	JO	前期？			表：2.5YR 4/4 裏：2.5Y 3/2	1～2㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ。	
	104-16	1529	2	U-11	JO	早期		58	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 5/6	1～2㎜の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、条痕文？、口縁部片。	
24-2	96-6	1530	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	33	表：5YR 5/4 裏：5YR 5/2	白い粒子を多く含む。	ナデ、L撚糸文、浮線文、断面三角形。	
24-2	96-10	1531	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	69	表：5YR 5/4 裏：10YR 5/2	白い粒子を多く含む。	ナデ、L撚糸文、浮線文、断面三角形。	
23-1	94-1	1532	2	U-11	JO	前期	諸磯b式	25	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/4	白い小石を含む、白い砂粒を含む。	ナデ、沈線幅約2～3㎜、木葉文モチーフ、磨消縄文（RL縄文）、有孔浅鉢。	
23-1	94-1	1533	2	U-12	JO	前期	諸磯b式	25	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/4	白い小石を含む、白い砂粒を含む。	ナデ、沈線幅約2～3㎜、木葉文モチーフ、磨消縄文（RL縄文）、有孔浅鉢。	
20-1	79-2-6	1534	2	U-12	JO	前期	諸磯b式	9	表：10YR 6/4 裏：5Y 3/1	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、浅鉢。	
22-2	93-3	1535	2	U-12	JO	前期	諸磯b式		表：5YR 2/1 裏：7.5YR 3/3	白い小石を少し含む、黒い砂粒を少し含む。	ナデ、L縄文、平行沈線幅約6㎜。	
22-2	91-10	1536	2	U-12	JO	前期	諸磯b式	64	表：5YR 4/4 裏：7.5YR 5/6	1～2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL縄文、平行沈線幅3.5～4㎜。	
20-1	79-2-3	1537	2	U-12	JO	前期	諸磯b式	9	表：10YR 6/4 裏：5Y 3/1	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、浅鉢。	
24-1	98-4	1538	2	U-12	JO	前期	諸磯b式	4	表：7.5YR 4/4 裏：5YR 4/4	白い砂粒を多く含む。	ナデ、RL縄文、浮線文斜め刻み（RL縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
20-1	79-3-3	1539	2	U-12	JO	前期	諸磯b式	7	表：10YR 6/4 裏：10YR 6/4	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、突帯、浅鉢。	
24-1	98-4	1540	2	U-12	JO	前期	諸磯b式	4	表：7.5YR 4/4 裏：5YR 4/4	白い砂粒を多く含む。	ナデ、RL縄文、浮線文斜め刻み（RL縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
20-1	79-2-4	1541	2	U-12	JO	前期	諸磯b式	9	表：10YR 6/4 裏：5Y 3/1	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、浅鉢。	

		1542	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 6/3 裏：2.5Y 7/3	1～4㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	丁寧なナデ、浅鉢。	
24-2	96-3	1543	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	36	表：5YR 5/4 裏：2.5Y 5/2	白い粒子を多く含む、黒い粒子を少し含む。	ナデ、L撚糸文、浮線文、断面三角形。	
24-2	96-1	1544	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 5/4 裏：5YR 5/4	白い粒子・やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、L撚糸文、浮線文、断面三角形、口縁部片。	
24-1	99-4	1545	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：7.5YR 5/4 裏：5YR 5/4	白い粒子・やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、浮線文斜め刻み（RL縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
		1546	2	U-12	JO	前期？			表：2.5Y 3/2 裏：10YR 3/2	1～2.5㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、沈線。	
		1547	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5Y 4/4 裏：2.5YR 4/4	1～3㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、沈線。	
20-2	81-3-2	1548	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	53	表：2.5YR 4/4 裏：5YR 4/4	1～3㎜の白・黒・赤い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L撚糸文・斜位。	
20-1	79-1-3	1582	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	67	表：2.5YR 3/4 裏：5YR 3/4	白い小石を少し含む。	ナデ、底部片。	
24-2	97-4	1583	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	23	表：10YR 6/3 裏：7.5YR 6/4	赤い粒子を少し含む、やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、RL縄文、浮線文斜め刻み（RL縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
24-2	97-5	1584	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式	75	表：5YR 5/4 裏：10YR 5/2	白い粒子・やや粗い砂粒を少し含む。	ナデ、RL縄文、浮線文斜め刻み（RL縄文原体の押圧）、断面扁平形。	
		1585	2	U-12	JO	前期	諸磯ｂ式		表：2.5YR 4/8 裏：10YR 4/2	1～2.5㎜程の白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、被熱、脆い。	
24-2	96-3	1586-1	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	36	表：5YR 5/4 裏：2.5Y 5/2	白い粒子を多く含む、黒い粒子を少し含む。	ナデ、L撚糸文、浮線文、断面三角形。	
24-2	96-14	1586-2	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式		表：10YR 5/3 裏：2.5Y 5/2	白・黒い粒子を少し含む。	ナデ、L撚糸文、浮線文、断面三角形。	
22-2	91-5	1587	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	38	表：5YR 4/6 裏：7.5YR 5/6	1～2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL縄文、平行沈線幅3.5～4㎜。	
20-2	81-4-2	1588	2	U-11	JO	前期	諸磯ｂ式	54	表：5YR 4/6 裏：5YR 1.7/1	1～4㎜以上の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、L撚糸文・斜位。	
23-2	101-1	1589	2	U-11	JO	前期	諸磯ｃ式	21	表：10YR 5/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR縄文、平行沈線幅3～4㎜、円形貼付文、口縁部片。	
23-2	101-3	1590	2	U-11	JO	前期	諸磯ｃ式	70	表：10YR 4/3 裏：2.5Y 7/6	1㎜程の砂粒を多く含む、雲母を含む。	ナデ、LR縄文、平行沈線幅3～4㎜。	
23-2	101-1	1591	2	U-11	JO	前期	諸磯ｃ式	21	表：10YR 5/4 裏：7.5YR 4/3	白い小石を含む、雲母を含む。	ナデ、LR縄文、平行沈線幅3～4㎜、円形貼付文、口縁部片。	
21-1	87-5	1733	1	D-5	JO	早期	細久保式		表：10YR 6/3 裏：10YR 4/1	やや粗い砂粒を少し含む、繊維含む。	ナデ、楕円押型文・異種併用、横位密接施文。	
21-1	87-1	1734	1	E-5	JO	早期	細久保式	8	表：10YR 5/4 裏：10YR 5/3	やや粗い砂粒を多く含む、繊維含む。	ナデ、楕円押型文・異種併用、横位密接施文。	
21-1	87-1	1735	1	E-5	JO	早期	細久保式	8	表：10YR 5/4 裏：10YR 5/3	やや粗い砂粒を多く含む、繊維含む。	ナデ、楕円押型文・異種併用、横位密接施文。	
21-1	88-1	1741	1	E-7	JO	早期		13	表：5YR 5/4 裏：5YR 4/3	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（外面：横位・斜位、内面：横位）。	
		1742	1	E-6	JO	早期			表：2.5YR 4/8 裏：7.5YR 4/3	1～2㎜程の白・黒い砂粒を含む、繊維含む。	ナデ、条痕文。	
21-1	87-4	1898	1	D-5	JO	早期	細久保式		表：10YR 5/4 裏：10YR 5/3	やや粗い砂粒を少し含む、繊維含む。	ナデ、楕円押型文・異種併用、横位密接施文。	
21-1	87-1	1899	1	D-6	JO	早期	細久保式	8	表：10YR 5/4 裏：10YR 5/3	やや粗い砂粒を多く含む、繊維含む。	ナデ、楕円押型文・異種併用、横位密接施文。	
21-1	87-2	1900	1	D-6	JO	早期	細久保式		表：10YR 6/3 裏：10YR 5/3	やや粗い砂粒を多く含む、繊維含む。	ナデ、楕円押型文・異種併用、横位密接施文。	
21-1	89-4	1901	1	D-6	JO	早期	打越式		表：10YR 6/3 裏：10YR 7/4	白い粒子を少し含む、繊維含む。	擦痕状整形、貝殻腹縁文、口縁部片。	
		1902	1	D-6	JO	早期			表：5YR 4/6 裏：10YR 2/1	1～2㎜程の白・黒い砂粒を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文。	
21-1	88-8	1903	1	D-6	JO	早期			表：5YR 5/6 裏：7.5YR 5/3	白い粒子を多く含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（外面：斜位、内面：横位）。	
25-1	102-1	2014	1	D-3	JO	前期	諸磯ｃ式	17	表：10YR 5/3 裏：5YR 6/6	白い粒子を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約4㎜、結節浮線文、ボタン状貼付文、口縁部片。	
25-1	102-1	2015	1	D-3	JO	前期	諸磯ｃ式	17	表：10YR 5/3 裏：5YR 6/6	白い粒子を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約4㎜、結節浮線文、ボタン状貼付文、口縁部片。	
25-1	102-1	2016	1	D-3	JO	前期	諸磯ｃ式	17	表：10YR 5/3 裏：5YR 6/6	白い粒子を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約4㎜、結節浮線文、ボタン状貼付文、口縁部片。	
		2021	1	D-6	JO	早期	打越式		表：10YR 3/3 裏：10YR 3/3	白い砂粒を含む。	擦痕状整形。	
25-1	102-15	2083	1	C-3	JO	前期	諸磯ｃ式		表：5YR 5/3 裏：5YR 6/4	やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約4㎜。	
25-1	102-8	2084	1	C-3	JO	前期	諸磯ｃ式		表：7.5YR 5/4 裏：5YR 5/4	白い粒子・やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約4㎜、結節浮線文、ボタン状貼付文、口縁部片。	
25-1	102-7	2085	1	C-3	JO	前期	諸磯ｃ式		表：7.5YR 5/3 裏：10YR 5/3	黒い粒子を少し含む、やや粗い砂粒を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約4㎜、結節浮線文、ボタン状貼付文。	
25-1	102-17	2086	1	C-3	JO	前期	諸磯ｃ式		表：10YR 7/4 裏：7.5YR 6/4	粗い砂粒を非常に多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約4㎜。	
21-1	89-7	2104	1	E-7	JO	早期	打越式		表：2.5Y 6/3 裏：10YR 6/3	白い粒子を少し含む、繊維含む。	擦痕状整形。	
25-1	102-11	2173	1	C-3	JO	前期	諸磯ｃ式		表：7.5YR 5/3 裏：5YR 5/4	白・黒い粒子を多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約4㎜、結節浮線文。	
25-1	102-4	2174	1	C-3	JO	前期	諸磯ｃ式	77	表：7.5YR 6/4 裏：5YR 5/4	白い粒子を少し含む、粗い砂粒を非常に多く含む。	ナデ、集合沈線文幅約4㎜。	
		2296	1	J-15	JO	前期？			表：5YR 6/6 裏：10YR 2/1	1～2㎜程の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ。	
21-1	88-1	2338	1	E-7	JO	早期		13	表：5YR 5/4 裏：5YR 4/3	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（外面：横位・斜位、内面：横位）。	

21-1	88-2	2339	1	E-6	JO	早期			表：5YR 5/4 裏：5YR 5/3	白い粒子を多く含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（内外面：横位）、口縁部片。	
21-1	88-1	2383	1	E-7	JO	早期		13	表：5YR 5/4 裏：5YR 4/3	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（外面：横位・斜位、内面：横位）。	
21-1	88-5	2384	1	E-7	JO	早期			表：7.5YR 4/3 裏：5YR 4/2	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（外面：斜位、内面：横位）。	
21-1	88-4	2385	1	E-7	JO	早期		11	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 5/4	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（外面：斜位、内面：横位）。	
21-1	88-7	2386	1	E-7	JO	早期			表：5YR 5/4 裏：5YR 4/3	白い粒子を多く含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（内外面：横位）。	
21-1	88-4	2387	1	E-7	JO	早期		11	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 5/4	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（外面：斜位、内面：横位）。	
21-1	89-1	2389	1	E-6	JO	早期			表：5YR 4/1 裏：2.5YR 4/4	白い粒子を多く含む、赤い粒子を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（内面：横位）。	
21-1	88-3	2390	1	E-6	JO	早期			表：5YR 4/2 裏：2.5YR 5/4	白い粒子を多く含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（内外面：横位）。	
		2391	1	E-6	JO	早期			表：5YR 4/6 裏：5YR 4/6	白い砂粒を含む、繊維含む。	ナデ、条痕文。	
20-1	79-1-1	2400	2	U-12	埋土3	前期	諸磯b式	67	表：2.5YR 3/4 裏：5YR 3/4	白い小石を少し含む。	ナデ、底部片。	4号土坑
20-1	79-2-5	2404	2	U-12	埋土4	前期	諸磯b式	9	表：10YR 6/4 裏：5Y 3/1	白・赤い小石を含む。	丁寧なナデ、浅鉢。	4号土坑
		2405	2	U-12	埋土4	前期	諸磯b式	6	表：10YR 6/4 裏：2.5Y 7/4	1～3.5㎜程の白・茶・黒の砂粒を少し含む。	丁寧なナデ、浅鉢。	
	103-2	2417	1	E-9	JO	前期	諸磯b～c式		表：5YR 5/4 裏：7.5YR 6/4	白い粒子を多く含む、粗い砂粒を多く含む。	ナデ。	
21-1	89-9	2418	1	E-9	JO	早期	判ノ木山西式		表：5YR 5/3 裏：5YR 4/1	細かい砂粒・赤い粒子を多く含む、繊維含む。	口縁部片。幅3～3.5㎜の先端2股の櫛歯状工具による刺突列、縦位の平行沈線。	
21-1	89-8	2428	1	E-9	JO	早期	判ノ木山西式		表：5YR 5/3 裏：7.5YR 4/1	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を少し含む、繊維含む。	口縁部片。幅3～3.5㎜の先端2股の櫛歯状工具による刺突列、縦位の平行沈線。	
		2432	1	J-15	JO	前期？			表：7.5YR 2/1 裏：7.5YR 2/1	1～2.5㎜程の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ。	
21-1	89-3	2433	1	J-15	JO	早期			表：2.5Y 5/2 裏：10YR 6/3	白い粒子を多く含む、やや粗い砂粒を少し含む、繊維含む。	ナデ、条痕文（内外面：横位）。	
	103-1	2462	1	D-9	JO	前期	諸磯b～c式	59	表：7.5YR 6/4 裏：7.5YR 5/4	白い粒子を非常に多く含む、赤い砂粒を少し含む。	ナデ、口縁部片。	
	103-1	2463	1	D-9	JO	前期	諸磯b～c式	59	表：7.5YR 6/4 裏：7.5YR 5/4	白い粒子を非常に多く含む、赤い砂粒を少し含む。	ナデ、口縁部片。	
	103-1	2464	1	D-9	JO	前期	諸磯b～c式	59	表：7.5YR 6/4 裏：7.5YR 5/4	白い粒子を非常に多く含む、赤い砂粒を少し含む。	ナデ、口縁部片。	
		2468	1	D-9	JO	前期？			表：2.5YR 5/6 裏：5YR 4/4	1～3㎜程の白・茶・黒の砂粒を含む。	ナデ。	
21-2	90-5	2472	2	U・V-12	表採	前期	諸磯b式		表：10YR 6/4 裏：7.5YR 5/4	1㎜程の小石を多く含む。	ナデ、連続爪形文幅約7㎜。	
	104-8	2474	2	V-11	JO	前期	諸磯b式		表：5YR 4/6 裏：5YR 5/6	白・黒い砂粒を含む。	ナデ、L撚糸文。	
22-2	91-8	2475	2	U-12	表採	前期	諸磯b式	40	表：2.5YR 4/4 裏：2.5YR 4/6	1～2㎜の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL縄文、平行沈線幅3.5～4㎜。	
21-1	87-3	2483	1	E-6	KGP-JO	早期	細久保式		表：10YR 5/3 裏：10YR6/3	やや粗い砂粒を少し含む、繊維含む。	ナデ、楕円押型文・異種併用、横位密接施文。	
21-2	90-3	2486	2		表採	前期	諸磯b式		表：10YR 6/4 裏：2.5YR 5/6	1㎜程の小石を少し含む。	ナデ、連続爪形文幅約7㎜。	
21-2	90-2	2487	1		表採	前期	諸磯b式		表：5YR 4/4 裏：5YR 4/4	1㎜程の小石を少し含む。	ナデ、連続爪形文幅約7㎜、口縁部片。	

第19表　葛山大端ヶⅡ遺跡　出土石器一覧表　※旧石器時代（休場層）、縄文時代の順に列挙。

図版	挿図	遺物番号	区	グリッド	層位	器種	接合	石材	産地	長（㎜）	幅（㎜）	厚（㎜）	重量（g）	備考
18-3	68-1	2470	1	D-9	YLU	剥片		Ob	SWHD	39.4	18	12.8	6.8	
25-2	107-1	348	2	V-11	JO	石錐		HFT		48	11.4	6.4	3.05	
25-2	107-5	1321	1	D-7	SSC	スクレイパー		GAn		47	47.8	13.8	36.97	
25-2	108-1	139	2	U-11	JO	スクレイパー		Rhy		44.8	37.9	6.6	12.56	
25-2	107-4	1449	2	T-11	JO	石匙		GAn		49.8	98.6	10.1	35.14	
25-2	107-2	1185	2	U-11	JO	石匙		Hor		33.8	51.2	10.2	14.64	
25-2	107-3	228	2	U-12	JO	石匙		Hor		57.8	86.1	10.6	50.92	
25-2	109-1	1905	1	D-6	JO	楔形石器		Ob	KZOB	20.2	18.1	5.7	2	
25-2	108-4	22	1	E-6	JO	微細剥離のある剥片		Ob	SWHD	13.6	16	4.3	0.81	
25-2	108-2	21	1	E-6	JO	微細剥離のある剥片		Ob	KZOB	21.4	12.7	4.6	1.25	
25-2	108-3	32	1	E-8	JO	微細剥離のある剥片		Ob	KZOB	15.8	12.5	5.2	0.94	
		1320	1	C-6	SSC	剥片		Ob	HNHJ	14.6	10.8	6.4	0.94	
		1324	1	D-6	SSC	剥片		GAn		20	24	2.4	1.45	
		1909	1	D-6	JO	剥片		FAn		46.3	56.4	9.6	26.11	
		1910	1	D-6	JO	剥片		FAn		59.3	46.5	10.8	26.88	
		1904	1	D-6	JO	剥片		Ob	HNHJ	17.8	19.8	5.4	0.96	
		1323	1	D-6	SSC	剥片		Ob	KZOB	16	6	3.6	0.32	
		1322	1	D-6	SSC	剥片		Ob	KZOB	10.6	7.6	2.3	0.15	
		1826	1	D-6	JO	剥片		FT		84	45.9	29.8	149.83	
		2461	1	D-9	JO	剥片		Ob	SWHD	12.4	30	7.9	2.1	
		2420	1	D-9	JO	剥片		Ob	SWHD	6.5	13.2	2.9	0.29	
		2360	1	E-6	JO	剥片		Ob	KZOB	10.6	16.4	1.8	0.27	
		2120	1	E-9	JO	剥片		Sh		24.3	35.3	5.9	6.06	

25-2	108-10	183	1	G-9	JO	楔形石器	79	Ob	WDKB	9.9	16.2	6.3	0.99	
25-2	108-10	191	1	H-9	JO	微細剥離のある剥片	79	Ob	WDKB	7.1	16	6.2	0.67	
25-2	81-11	1468-1	2	T-11	埋土１	微細剥離のある剥片	74	HFT		36.8	15.2	8.4	6.85	5号土坑
25-2	81-12	1468-2	2	T-11	埋土１	剥片	74	HFT		47.1	20	12.7	12.27	5号土坑
25-2	110-2	1464-1	2	T-11	JO	剥片	2	Ob	WDTY	18.6	19.3	6	2.63	
		665	2	U-11	JO	剥片		Hor		41.9	28.9	8.3	10.04	
		966	2	U-11	JO	剥片		Ob	SWHD	24.3	20.8	5.3	2.34	
		1038	2	U-12	JO	剥片		Hor		19.4	10.3	3.2	0.55	
25-2	110-1	347	2	V-11	JO	剥片	2	Ob	WDTY	24.7	22.7	5.8	2.92	
		355	2	V-11	JO	剥片		HFT		44.6	40.4	12.9	27.74	
		353	2	V-11	JO	剥片		Ob	SWHD	18	13.1	5	0.9	
		762	2	V-11	JO	剥片		Ob	AGKT	17.4	14.6	8.9	1.26	
		2482	2	-	排土	剥片		HFT		13.8	8.5	1.4	0.14	
		2419	1	D-9	JO	砕片		Ob	SWHD				0.05	
		345	2	V-11	JO	砕片	3	Ob	KZOB				0.07	
		344	2	V-11	JO	砕片	3	Ob	不可				0.01	
		2480	1	-	表採	砕片		Ob	KZOB				0.08	
25-2	108-8	693	2	U-11	JO	楔形石器		Ob	SWHD	36.1	18.3	14.7	9.01	
25-2	109-2	2481	1	-	表採	楔形石器		Ob	HNHJ	18.3	15.7	6.7	2.03	
25-2	109-3	1906	1	D-6	JO	石核		Ob	SWHD	20.3	35.8	12.7	6.46	
25-2	109-6	2099	1	E-4	JO	石核		FAn		33.1	33.4	19.2	23.25	
25-2	109-7	2247	1	J-15	JO	石核		FAn		29.5	57.2	25.2	58.09	
25-2	110-3	1464-2	2	T-11	JO	石核	2	Ob	WDTY	15.4	21.8	7.7	2.28	
25-2	112-1	1358	2	U-11	JO	原石	1	Ob	不可	31.6	51.3	30.7	65.92	
25-2	112-2	1481	2	U-11	JO	原石	1	Ob	不可	31.5	51.8	32.4	40.01	
25-2	108-7	354	2	U-11	JO	楔形石器	72	HFT		32.9	24	11.4	6.62	108-6の接合
25-2	109-4	920	2	U-11	JO	石核		Ob	SWHD	24.5	19.1	11.3	5.28	
25-2	108-9	666	2	U-11	JO	楔形石器	72	HFT		30.5	26.1	12.7	9.02	108-6の接合
25-2	109-5	350	2	U-12	JO	石核		HFT		24.1	64.6	17.5	27.59	
25-2	108-5	31	1	E-8	JO	石斧		Pe		54.5	31.4	12.1	27.72	
		1699	1	E-7	JO	敲石		An（Py）		102	83	35	498	
		1697	1	E-7	JO	敲石		Ba		82	79	40	368	
19-2	74-3	1486	2	T-11	床面	磨・敲石		VBa		115	86	60	839	1号竪穴住居
	115-3	546	2	V-11	JO	敲石		Ba		140	76	62	793	
		2477	-	-	表採	敲石		Ba		103	84	49	736	
19-2	74-2	1493	2	T-11	床面	磨・敲石		Ba		140	66	58	811	1号竪穴住居
	113-7	1907	1	D-6	JO	磨石		An（Py）		85.3	45.4	39.7	213	
	85-1	1293	1	C-3	SSC	磨石		An（Py）		78.7	74.5	56.3	421	1号集石
	113-6	1068	1	C-5	SSC	磨石		An（Py）		80.9	74.2	58.3	520	
	114-3	2010	1	D-4	JO	磨石		Ga		105	54	41	389	
		1911	1	D-6	JO	磨石		An（Py）		98	73	40	396	
	113-4	1678	1	D-6	JO	磨石		Da		102	52.7	40.4	197.12	
		2330	1	D-6	JO	磨石		Da		105	90	41	503	
		1641	1	D-7	JO	磨石		An（Py）		47	44	33	108.14	
	115-1	202	1	J-14	SSC	磨石		An（Py）		160	91	40.1	595	
		49	2	Q-10	JO	磨石		An（Py）		85	73	41	450	
	114-2	1120	2	T-11	JO	磨石		Ba		103	86.4	40	551	
	115-2	346	2	V-11	JO	磨石		An（Py）		111	94	46	841	
	114-4	2478	2	-	表採	磨石		An（Py）		130	100	57	1166	
	114-1	2484	-	-	表採	磨石		Da		98	86	49	473	
	116-4	2013	1	C-4	JO	石皿		An（Py）		130	127	77	2364	
		1700	1	D-7	JO	石皿		Ba		305	282	95	11410	
	116-3	992	1	D-9	JO	石皿		An（Py）		210	153	66	3500	
	116-1	2018	1	E-6	JO	石皿		An（Py）		216	183	75	4400	
	116-2	2186	1	F-10	JO	石皿		An（Py）		236	221	87	7100	
	113-1	1918	1	D-5	JO	凹石		VBa		100.3	82.4	46.4	520	
	113-5	1633	1	D-6	JO	凹石		An（Py）		73	42.1	34.4	168.55	
	113-2	1675	1	D-6	JO	凹石		Ba		102	97	37.3	464	
	113-3	1698	1	E-7	JO	凹石		An（Py）		90.2	78.7	29.5	328	
	116-5	1332	1	D-5	SSC	台石		An（Py）		130	92	46	813	
19-2	74-1	1487	2	T-11	床面	台石		An（Py）		400	315	160	25000	1号竪穴住居
	117-1	1121	2	T-11	JO	台石		Ba		495	360	170	33500	

第４章　今里薬師海道遺跡

第１節　今里薬師海道遺跡の概要

１　今里薬師海道遺跡の位置（第120図）

本遺跡は、裾野市今里字棚返777他に所在する。所在地は、JR御殿場線岩波駅の南西方向約2.6㎞離れた愛鷹山北東麓に位置する。北東麓の直下には、黄瀬川支流の佐野川が南東方向へ蛇行しながら流れている。本遺跡は、佐野川右岸に位置し、標高290ｍの緩斜面に立地する。

２　今里薬師海道遺跡周辺の遺跡

本遺跡から北へ約100ｍ、佐野川左岸上に曲久保遺跡（№155地点）が位置している。調査は、確認調査のみで終了している。その調査概要によると、中世以降の円形土坑が１基検出したのみで、遺物は出土しなかった。協議の結果、本地点対象範囲内は本調査に移行することなく、調査を完了している（壬生他2008）。

続いて本遺跡から南へ約100ｍ、標高300 ～ 320ｍの尾根部の緩斜面には、棚返遺跡（№153地点）が位置している。その遺跡からさらに南へ約100ｍ、標高310 ～ 326ｍの尾根部の緩斜面には、今里遺跡（№153－2地点）が位置している。以下、棚返遺跡の調査概要（壬生他2008）について述べる。

棚返遺跡では、後期旧石器時代～縄文時代にかけての遺構・遺物、そして中世～近現代の遺構が確認されている。後期旧石器時代の調査では、礫群がニセローム層から１基、第１スコリア層から２基を検出している。遺物は、休場層上層～下層にかけて石刃１点、剥片３点、原石1点、礫石器類８点の計13点が出土している。またナイフ形石器が４点出土しているが、いずれも原位置を留めておらず、表採および栗色土層、富士黒色土層からの出土であった。

縄文時代の調査では、石囲炉を有する竪穴住居１基（中期中葉：藤内式期）、土坑107基、集石６基、焼土５基を検出している。竪穴住居の床面直上からは炭化物が２点出土しており、放射性炭素年代測定を実施している。その結果、4,352±37yrBP ～ 4,564±39yrBPの暦年較正年代値が示されている。土坑は、カワゴ平パミスを含む土層を基準に、その土層より下層にて検出した土坑に対してⅠ群（49基）とし、その土層を掘削して構築した土坑に対してⅡ群（58基）と大別している。第Ⅰ群は縄文時代早期～中期に帰属し、第Ⅱ群は後期以降に帰属すると判断している。集石遺構のうち1基は、早期の茅山上層式土器に相当する破片が１点出土しており、それ以外の５基は前期～中期に帰属すると判断している。焼土遺構は、富士黒色土層から２基、栗色土層から２基、カワゴ平パミスを含む土層から１基を検出している。

遺跡の性格は、縄文時代早期～後期にかけての狩猟キャンプ地が想定される。

第２節　調査の体制・経過

１　確認調査および本調査の体制

確認調査および本調査の体制については、例言を参照して頂きたい。実際に現地を担当した職員は、下記のとおりである。

確認調査その１・本調査Ⅰ期	調査研究員　高野穂多果・村松利彦
確認調査その２	調査研究員　鈴木秀樹・後藤正人
確認調査その３	調査研究員　後藤正人

２　確認調査および本調査の経過（第120図）

調査方法について、以下に記載する。測量・遺構実測・遺物点上げ作業では、トータルステーションを用い、国土平面直角座標系のⅧ系を使用して遺構、遺物の位置情報を記録した。グリッド設定では、Ａ－1の南西隅（X=－86980.0、Y=35490.0）を起点とし、東に向かって１・２・３・・・とし、北に向かってＡ・Ｂ・Ｃ・・・とした。遺構番号は、種類ごとに通し番号を付した。遺物番号は、全ての遺物に通し番号を付し、遺物の種類により、土器はＰ、石器はＳ、礫はＲと分類した。礫は、洗浄した後、礫石器の有無、被熱による赤化の有無を確認し、自然礫と判断したものは現地で廃棄した。測量データは、シン技術コンサルの遺跡管理システムを使用して、図化作業を行った。記録写真は、６×７判カメラのモノクロフィルムでの撮影を基本とした。調査区全景写真等は、高所作業車を使用して写真撮影を行った。

（１）確認調査

・確認調査その１：平成13年７月２日～７月24日　1,249.1㎡

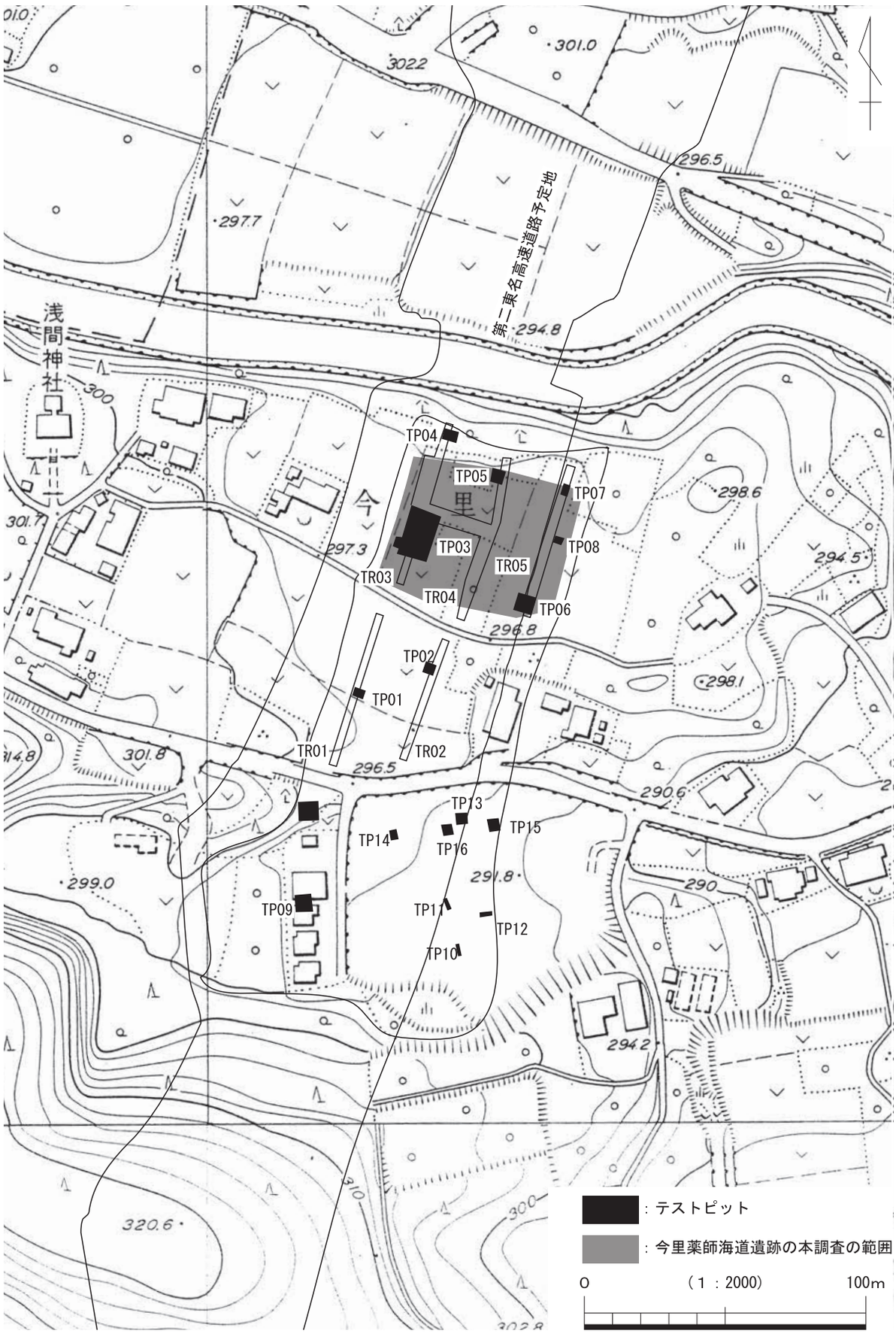
平成13年７月、幅２ｍのトレンチ５か所（TR01～05）、４ｍ×４ｍのテストピット７か所（TP01～07）を設定し、遺構・遺物の有無を確認した。その結果、TP03では、黒褐色土層（７層）から縄文土器と石器が出土した。TP03を東西に拡張した所からも同様に検出されたため、遺物の分布はさらに広がると判断した。一方、調査区南側に設定したTR01・02およびTP01・02では、表土を除去すると、すぐに溶岩流が露出し、遺構・遺物は確認できなかった。

・確認調査その２：平成14年４月15日～５月31日　36㎡

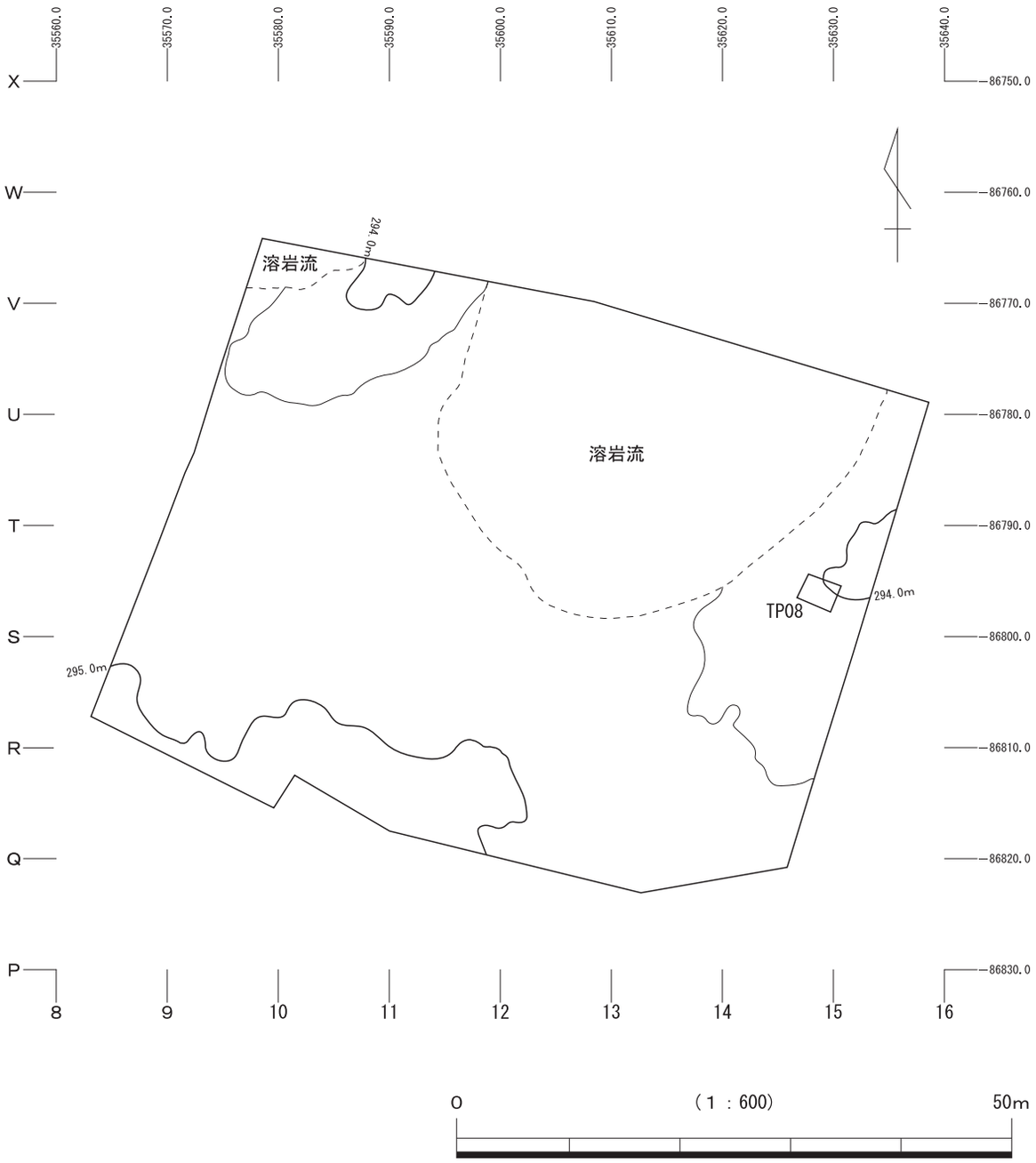
平成14年４～５月、確認調査その１よりも南側の範囲において、テストピット４か所（TP09～12）を設定し、遺構・遺物の有無を確認した。その結果、表土を除去すると、盛土が３ｍ以上堆積しており、遺構・遺物を確認できなかった。協議の結果、対象範囲内は本調査に移行することなく、調査を完了とした。

・確認調査その３：平成15年７月１日～７月８日　75㎡

平成15年７月、確認調査その１とその２の中間に位置する場所に、テストピット５か所（TP13～17）を設定し、遺構・遺物の有無を確認した。その結果、表土を除去すると、盛土・コンクリート殻が３ｍ以上厚く埋設されており、遺構・遺物を確認できなかった。協議の結果、対象範囲内は本調査に移



第120図　確認調査のテストピット配置および本調査の位置



第121図　今里薬師海道遺跡調査区配置図

行することなく、調査を完了とした。

（2）本調査（第121図）

・本調査Ⅰ期：平成13年８月２日～９月20日　3,060㎡

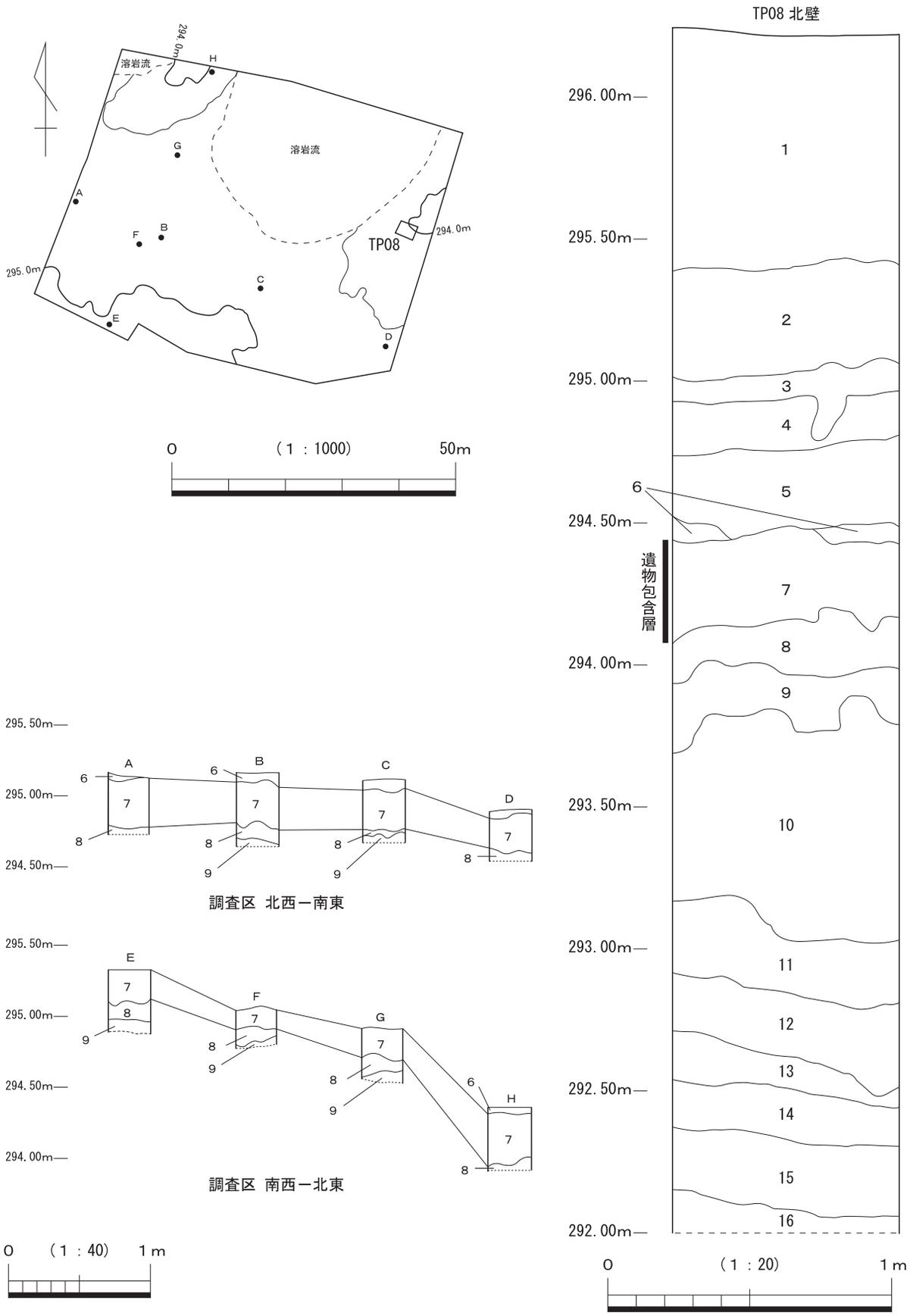
確認調査その１の調査状況を県文化課（当時）に報告したところ、遺物包含層が確認されたTP03を中心に本調査の指導があり、平成13年８～９月にかけて約２ヶ月間の本調査を実施した。遺物が確認された７層黒褐色土層上面までを重機で除去した後は、人力掘削を行った。７層黒褐色土層からは、主に縄文時代中期の土器、石器、礫が出土した。また風倒木による攪乱土であるが、弥生時代後期～古墳時代前期の台付甕が１個体分出土した。石器の出土点数は非常に少なく、製品に至っては打製石斧や敲石、磨石等が出土しているのみであった。また調査区北側中央では、溶岩流の痕跡を確認した。そのため、溶岩流が露出した段階では、旧石器の調査は困難であると判断した。遺物の取り上げは、トータルステーションを使用して、遺物の出土位置を記録した。また遺構平面図及び土層断面図作成は、調査員が主に行った。遺跡全景写真撮影では、高所作業車を使用して行った。現地調査は、９月20日には終了した。10月11日、裾野市立富岡第一小学校から「総合的な学習」（３年生）の授業の一環として、本遺跡を教材に現場学習を実施した。

3　基本土層（第122図）

今里薬師海道遺跡の基本土層の注記は、下記の第20表に記載している。本遺跡は、愛鷹山麓の北縁部に位置しており、愛鷹山麓の火山灰層序学的区分で確認される堆積情況を呈していなかった。現地調査の所見を読む限り、愛鷹山麓の火山灰層序学的区分との対比は行われていないようであった。本遺跡の基本土層は、本調査で設定したTP08の北壁面を元に作成している。

第20表　今里薬師海道遺跡の基本土層

土層名	番号	色調	注記
表土	1	-	-
暗褐色土層	2	7.5YR3/4	赤褐色・橙色・黒褐色スコリア少量。
暗褐色土層	3	7.5YR3/4	締まり有、赤褐色スコリア多量、橙色・黒褐色スコリア少量。
砂沢スコリア層	4	7.5YR1.7/1	褐灰色・黒色・明黄褐色・暗赤褐色スコリア多量。他の層に比べてスコリアの粒径が大きい。
暗褐色土層	5	7.5YR3/4	締まり有、黒褐色スコリア多量、赤褐色・橙色スコリア少量。
黒褐色土層	6	7.5YR2/2	赤褐色・橙色・黒褐色スコリア少量、礫・小石多量。
黒褐色土層	7	7.5YR3/1	炭化物・橙色スコリア少量・赤褐色スコリア・礫・小石多量。
褐色土層	8	7.5YR4/4	炭化物・赤褐色スコリア少量。
褐色土層	9	7.5YR4/4	黒色・赤褐色スコリア少量。
褐色土層	10	7.5YR4/4	締まり有、赤褐色・橙色スコリア少量、黒色スコリア多量。
褐色土層	11	7.5YR4/4	締まり有、赤褐色・橙色・黄橙色スコリア・小石少量
褐色土層	12	7.5YR4/4	赤褐色・橙色・褐色スコリア少量、径15～25㎜黄橙色スコリア多量。上位は砂、下位はスコリアが主体的に含む。
褐色土層	13	7.5YR4/4	赤褐色・橙色・黄橙色スコリア少量、黒色・暗赤褐色粒子多量。
褐色土層	14	7.5YR4/4	赤褐色・橙色・褐色スコリア少量、15～25㎜黄橙色スコリア多量。砂とスコリアが混ざる。
褐色土層	15	7.5YR4/4	赤褐色・橙色・黄橙色スコリア少量、黒色・暗赤褐色粒子多量。小石少量。
ラバックス	16	-	溶岩のうわずみ。



第122図　今里薬師海道遺跡土層柱状図

第３節　調査の成果

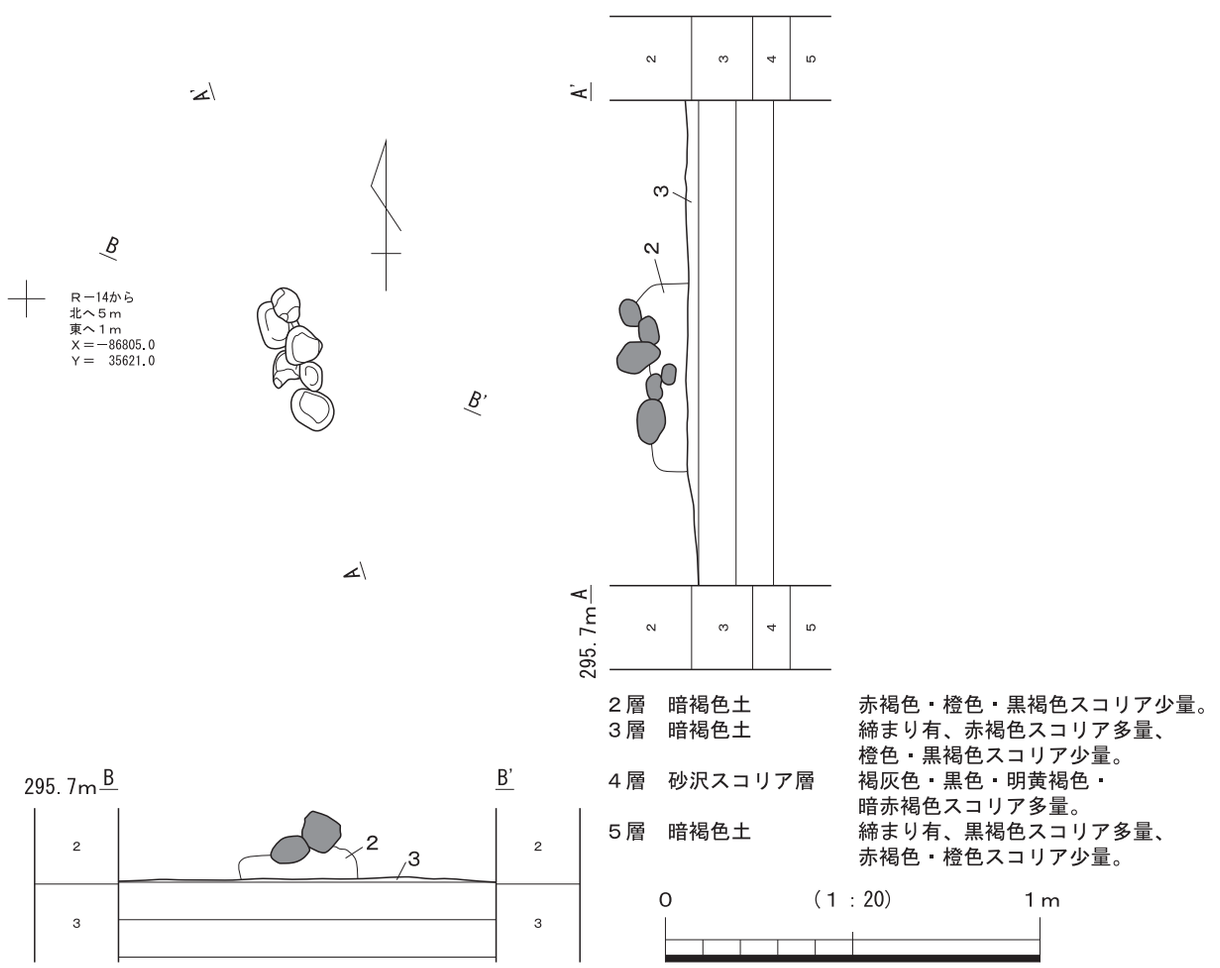
本遺跡では、遺構は集石１基のみを検出しており、それ以外は遺物包含層を主体とする。時期は、主に縄文時代中期～晩期にかけての遺物が混在する。いずれも上方からの流れ込みによる遺物包含層の形成と考えられる。また攪乱出土遺物及び表面採取遺物であるが、弥生時代後期～古墳時代前期の台付甕１個体分、そして甕・壺の破片が出土している。また近世の天目茶碗の小破片が１点出土している。

１　遺構

（１）集石（第123図、写真図版27－３）

本遺構は、R－14グリッドに位置する。礫は２層から検出しており、その設置面は２層下部付近と考えられる。他の遺構との重複関係は見られない。集石の構成礫は６点であり、径40cmの範囲に集まる。構成礫は、７～12cmサイズの礫が多い。

遺構の帰属時期は、７層の縄文時代遺物包含層よりも上層から検出されていることから、縄文時代の所産でないと考えられる。集石の計測表は、第21表に記載している。



第123図　１号集石

2　出土遺物

（1）遺物包含層出土の遺物（第124～142図）

ここでは、７層出土の縄文時代の遺物について、①土器と②石器に分けて、記載する。

①土器

本遺跡からは、143点出土している。出土土器の観察表は、第22表に記載している。

中期の土器（第124～128図）

勝坂式土器（第124図１～５、写真図版28、29－１）

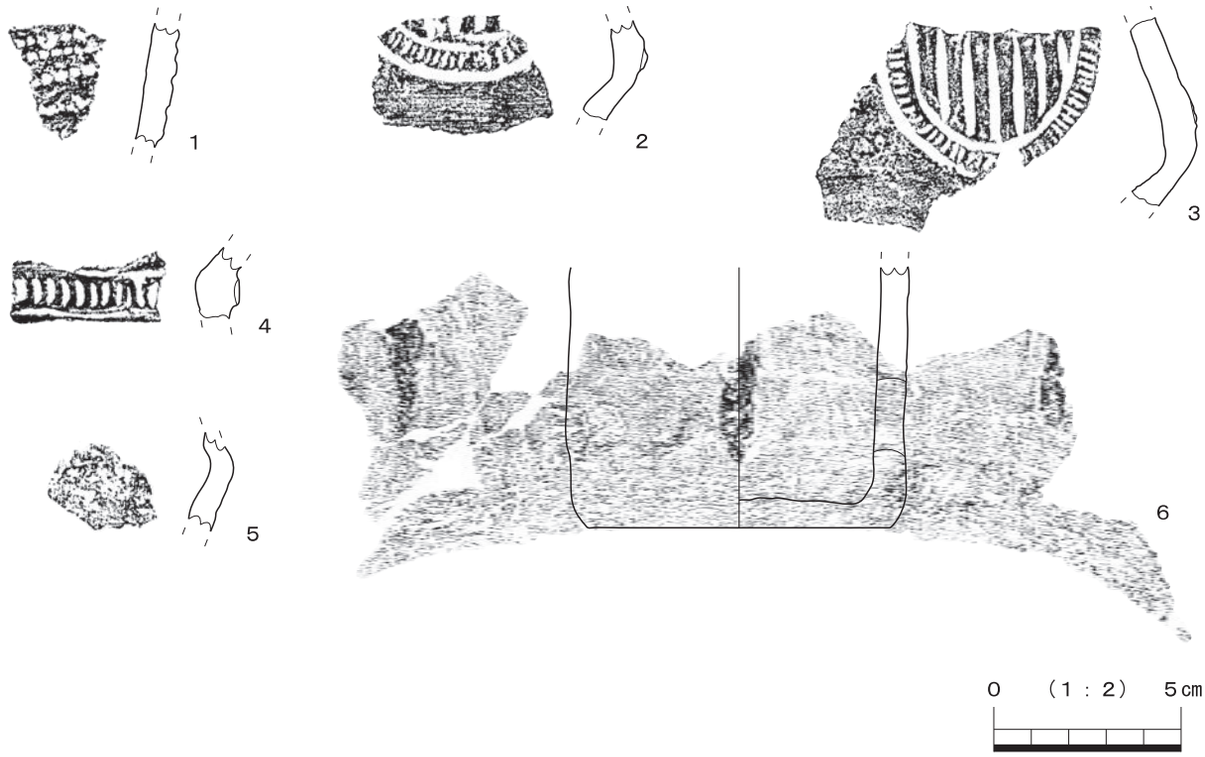
第124図１は、胴部片である。外面には、幅2.5～3㎜の角押文が横位方向へ数条施文されている。器厚は、７～８㎜である。時期は、縄文時代中期前半の関東地方の勝坂Ⅰa式、または井戸尻編年の狢沢式に比定されると考えられる（今福2008）。２～５は胎土が類似することから、同一個体と思われる。２・３は、外面に幅７㎜の隆起線の貼付による区画が施されており、その区画内には縦位の沈線が充填され、櫛形文を表現している。４は、外面に幅9.5～10㎜の横位隆起線の貼付が確認でき、胴部下半の区画を構成するものと思われる。区画の隆起線上には、ヘラ状工具による刻み目が密に施されている。５は無文であるが、４と同じ破片部位であると思われる。２～５の破片から判断して、器形は胴部下半がやや張る櫛形文土器と考えられる。時期は、縄文時代中期前半の関東地方の勝坂Ⅲ式または井戸尻編年の井戸尻１式に比定されると考えられる（今福2008）。

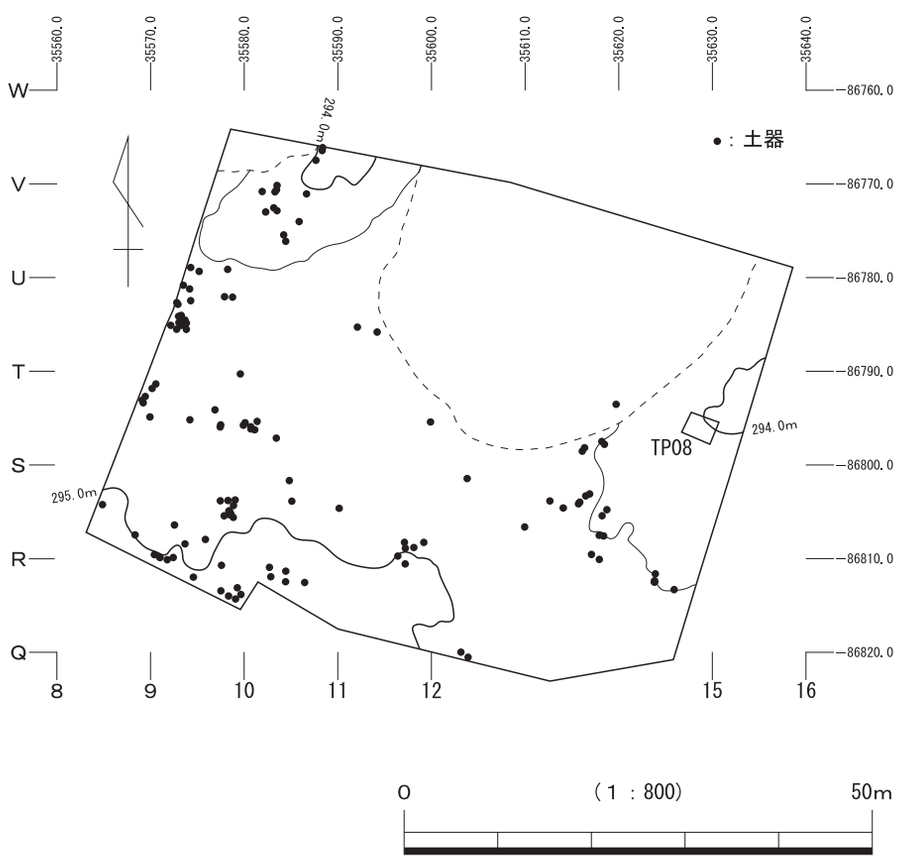
阿玉台式土器またはその並行期（第124図６、写真図版28、29－１）

第124図６は、底部片である。外面には、幅9.5～10㎜程の垂下隆起線（懸垂文）が３条確認でき、胴部の縦位区画を構成するものと考えられる。隆起線の肥厚度合いは、２～3㎜程で低い隆起線を呈する。また外面には、幅1.8～20㎜の粘土帯接合部位の横スジが観察できる。器厚は、７㎜程である。胎土には、雲母の混入を確認できなかった。時期は、縄文時代中期前半の阿玉台Ⅰa式もしくは、その並行期に比定されると思われる。

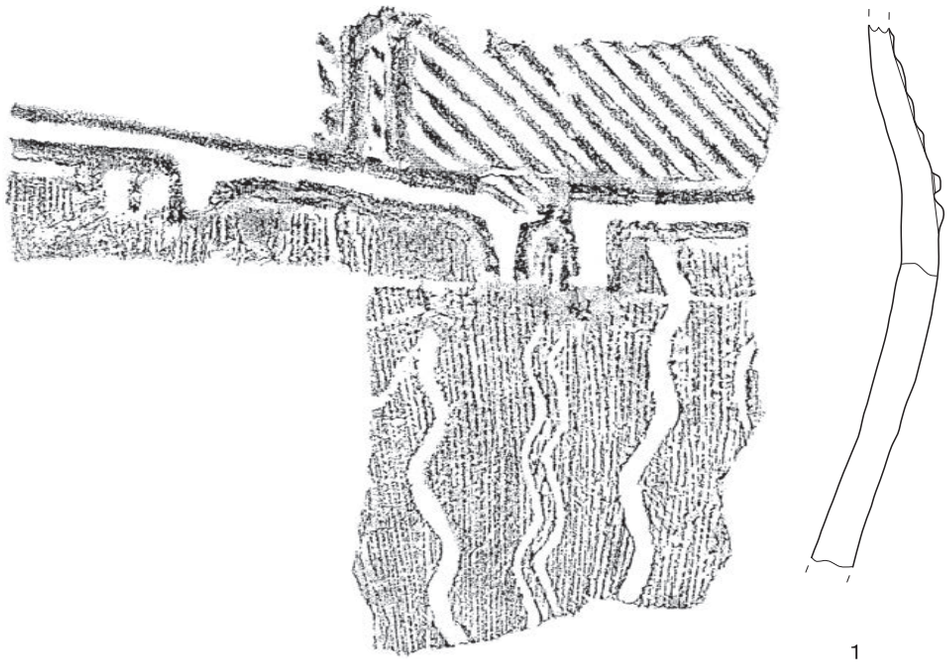
曽利式土器（第125～127図、写真図版28、29－２、30－１・２）

第125図１は、胴部片である。第126図５～８とは、胎土及び文様・施文手法の類似性から判断して、同一個体の可能性が高い。以下、第125図１について記載する。破片の下半部には、櫛歯状工具の数本引きによる縦位条線文が地文として、密に施されている。観察の結果、櫛歯の本数は把握できなかった。頸部に相当する部分には、断面形が半円形を呈する隆起線が斜めに複数並んで表現されている。その隆起線の上面には、半裁竹管状工具の内面によるナデ調整が確認できる。これは、今福利恵（2005・2011）の隆帯文の施文技法３類、「低い幅広の隆帯をはり、その上面に半裁竹管内面を３～４本そろえてなでていく」技法に相当すると思われる。マーコによる横断面形と工具角度を観察した結果、工具は３本単位であると思われ、１本の軌跡幅は８㎜程である。その技法が施文された後、頸部の上下端には、粘土紐の貼付により横位区画が施され、さらに区画を縦断する粘土紐が２条単位で貼付される。頸部下端の粘土紐直下には、横位の粘土紐が１条貼付され、「W」状の蛇行部が表現されている。この蛇行部は、粘土紐を短く千切って貼付し、形づくっている。上述した粘土紐全てには、貼付後その上面に半裁竹管状工具の内面によるナデ調整が確認できる。蛇行部を有する粘土紐を貼付した後、それ以下には蛇行垂下沈線が施される。蛇行垂下沈線は、半裁竹管状工具の内側を引いた平行沈線（幅８㎜）と、その

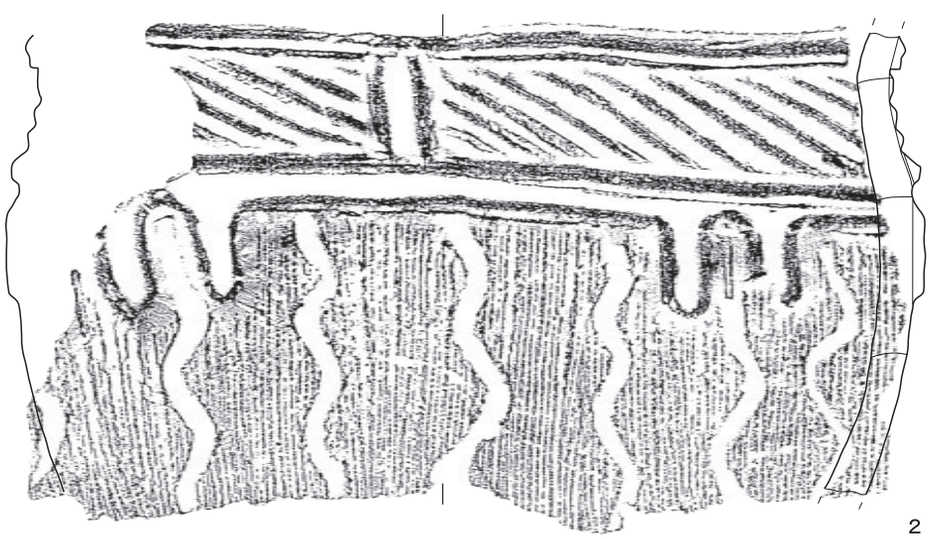




第124図　縄文包含層出土土器　中期①



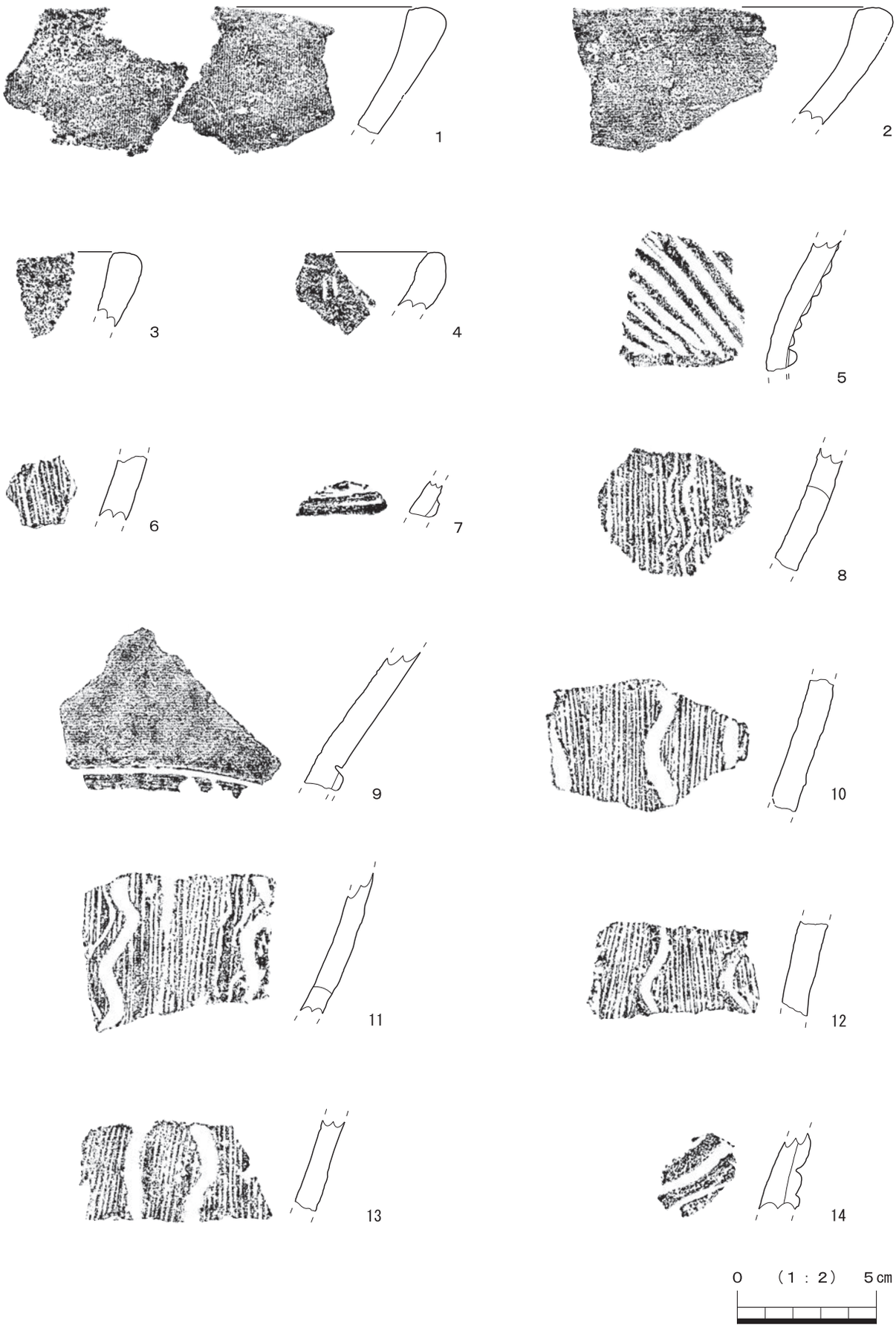
1



2

0　（1：2）　5cm

第125図　縄文包含層出土土器　中期②



第126図　縄文包含層出土土器　中期③

外側を引いた凹線（幅６㎜）で表出され、交互に器面に施され、一周するものと思われる。粘土紐を除いた部分の器厚は、約10㎜である。土器の内外面にはススやコゲが観察でき、煮炊きに使用した痕跡が確認できる。また内面には、被熱により器面が所々ハジケている部分が観察できる。破片後の二次利用の痕跡と思われるが、用途は分からない。外面付着のコゲは、放射性炭素年代測定を実施しており、4,180±20calBPの年代値が得られている。時期は、縄文時代中期後半の曽利式土器と考えられる。櫛原功一の時期細分（櫛原2008）を参照すると、斜行文Ⅳa期に比定された土器に非常に類似し、曽利Ⅳ式土器に比定されると考えられる。

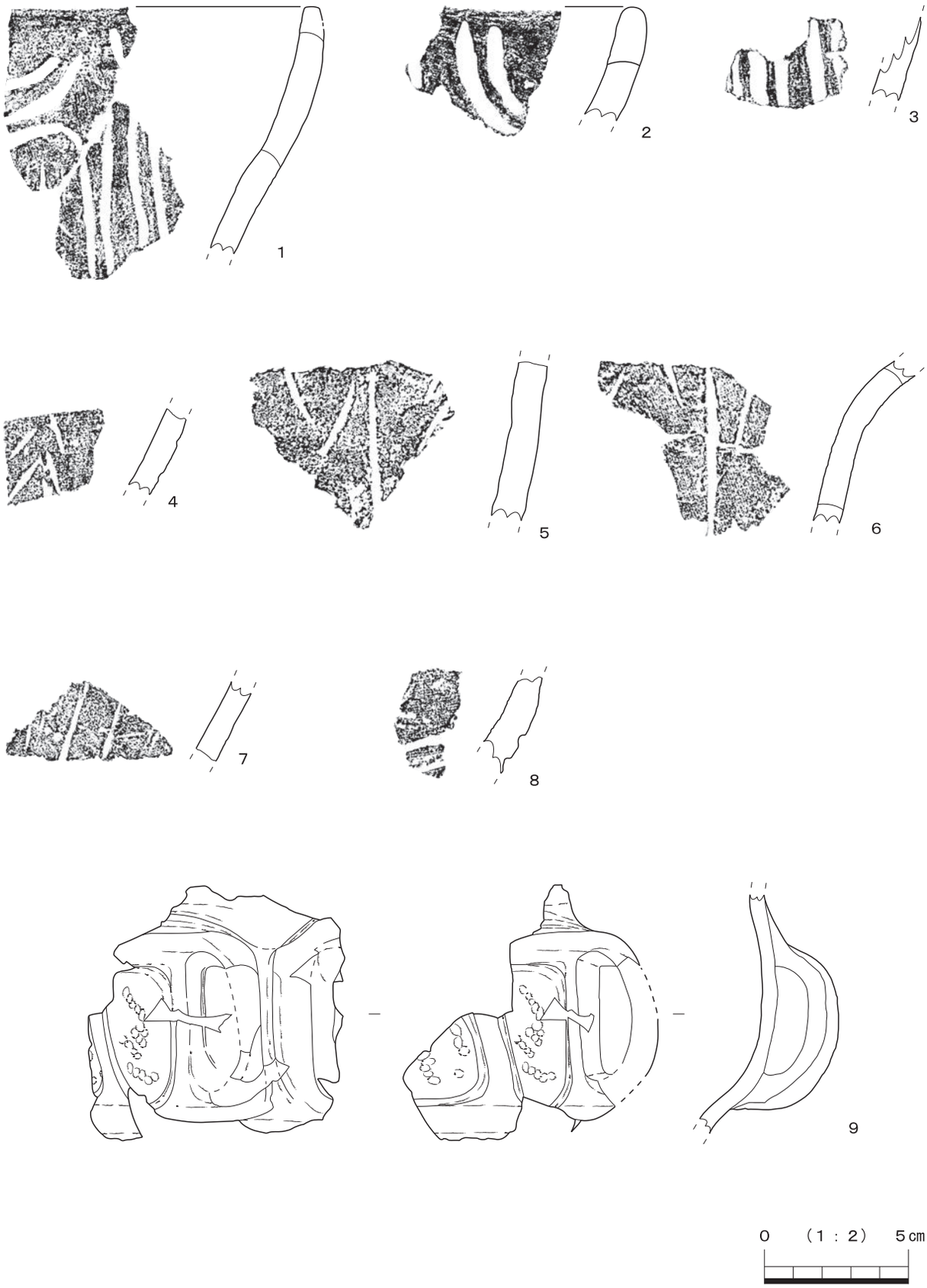
第125図２は、胴部片である。第126図９～13とは、胎土及び文様・施文手法の類似性から判断して同一個体の可能性が高い。

以下、第125図２について記述する。破片の下半部には、櫛歯状工具の数本引きによる縦位条線文が地文として、密に施されている。櫛歯の本数は、拓本と圧痕、そして工具角度の観察から判断して、７本と思われる。工具単位で縦位条線文を観察すると、工具の右端１本だけ２㎜幅で、残りは１㎜幅を呈する。この右端１本の軌跡がおそらく施文単位数を示すと思われる。頸部に相当する部分には、断面形が半円形を呈する隆起線が斜めに複数並んで表現されている。これは、今福利恵（2005・2011）の隆帯文の施文技法３類、「低い幅広の隆帯をはり、その上面に半裁竹管内面を３～４本そろえてなでていく」技法に相当する。マーコによる断面形と工具角度を観察した結果、工具は３本単位であると思われ、１本の軌跡幅は６㎜程である。その技法が施文された後、頸部の上下端には、粘土紐の貼付により横位区画が施され、さらに区画を縦断する粘土紐が２条単位で貼付される。また頸部下端の粘土紐直下には、横位の粘土紐が１条貼付され、「W」状の蛇行部が表現されている。この蛇行部は、粘土紐を短く千切って貼付し、形づくっている。上述した粘土紐全てには、貼付後その上面に半裁竹管状工具の内面によるナデ調整が確認できる。蛇行部を有する粘土紐を貼付した後、それ以下には蛇行垂下沈線が施される。蛇行垂下沈線は、半裁竹管状工具の外側を引いた凹線（幅５～６㎜）で表出される。粘土紐を除いた部分の器厚は、約９㎜である。土器の内外面にはススやコゲが観察でき、煮炊きに使用した痕跡が確認できる。また内面には、被熱により器面が所々ハジケている部分が観察できる。破片後の二次利用の痕跡と思われるが、用途は分からない。外面付着のコゲは、放射性炭素年代測定を実施しており、4,170±20calBPの年代値が得られている。時期は、縄文時代中期後半の曽利式土器と考えられる。櫛原功一の時期細分（櫛原2008）を参照すると、斜行文Ⅳa期に比定された土器に非常に類似し、曽利Ⅳ式土器に比定されると考えられる。

第126図１～４は、端部がやや肥厚する口縁部片である。第125図１または２と胎土がやや類似するのみで、個体識別は困難であった。しかし、そのいずれかの個体に帰属すると思われる。

第126図14は、胴部片である。破片外面には、幅広の隆起線が貼付されており、その上面には半裁竹管状工具の内面によるナデ調整が確認できる。隆起線は、その部位から判断して懸垂文と考えられる。また隆起線下位には、地文として櫛歯状工具の数本引きによる条線文がわずかに観察できる。時期は、文様要素と地文から判断して、縄文時代中期後半の曽利Ⅱ式（櫛原2008）に相当すると思われる。

第127図１～３は、胎土が類似することから同一個体片と思われる。１と２は口縁部片であり、２本の沈線による弧線文と縦位沈線が施されている。弧線文の下位には、逆U字形の沈線区画が施され、その区画内に短沈線が充填されている。上述の沈線幅は、５～６㎜で凹線気味であるの対し、短沈線の幅は1.5～２㎜程で逆三角形状の断面形を呈する。器厚は、８～11㎜である。時期は、施文手法から判断して、縄文時代中期後半の曽利Ⅴb式段階（櫛原2008）に比定されると考えられる。４～８は、外面に鋭いヘラ状工具によるハの字文が粗雑に施文される土器片である。ハの字文は幅４㎜の沈線で描出され、沈線の断面形は丸味を帯びず、逆三角形状を呈する。器厚は、９～10㎜である。５の外面には、ススや



第127図　縄文包含層出土土器　中期④

コゲが観察でき、煮炊きに使用した痕跡が確認できる。外面付着のコゲは、放射性炭素年代測定を実施しており、4,100±20calBPの年代値が得られている。時期は、施文手法から判断して、縄文時代中期後半の曽利Ｖb式段階（櫛原2008）に比定されると考えられる。９は、頸部片である。外面には、隆帯の貼付によりX字状の把手が形づくられている。隆帯貼付後は、表面をナデ調整し、その後に隆帯両脇を幅４㎜の沈線が沿うように引かれている。沈線の断面形は丸味を帯びず、逆三角形状を呈し、おそらく鋭いヘラ状工具を使用していると思われる。地文には、RLの単節縄文が施されているが、所々摩滅している。時期は、施文手法から判断して、縄文時代中期後半の曽利Ｖb式段階（櫛原2008）に比定されると考えられる。

加曽利E式土器（第128図１～４、写真図版30－２）

第128図１～４は、外面に幅4.5～５㎜の沈線により胴部懸垂文が直線的に施文されている。この直線と直線の間には、垂下蛇行沈線が１条施されている。地文は、RLの単節縄文が縦位方向に施文されている。時期は、施文手法から判断して、縄文時代中期後半の加曽利Ｅ３式新段階（細田2008）に比定されると考えられる。

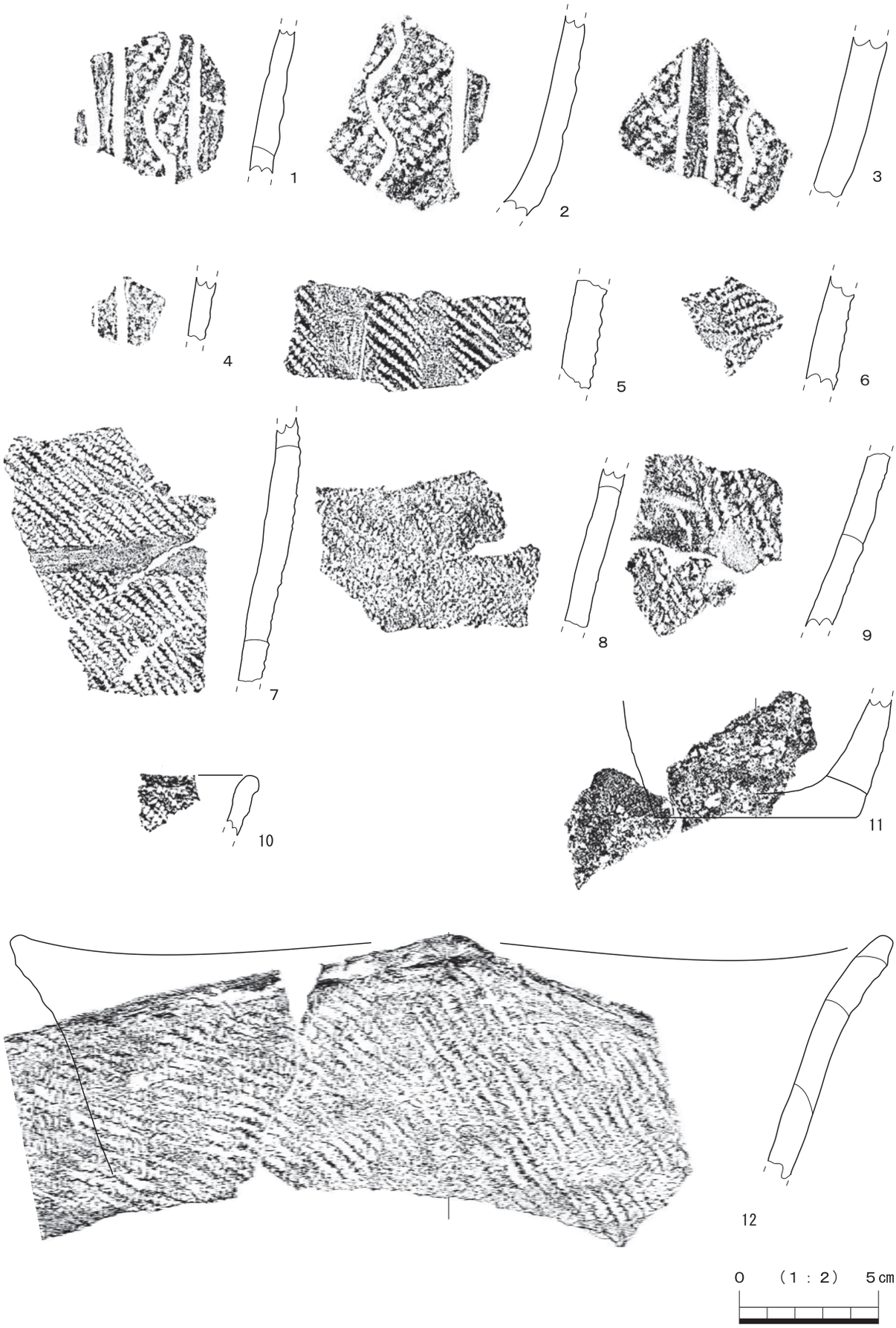
前期～中期の土器（第128図５～12、写真図版28、30－２・３）

第128図５は、外面にLRの単節縄文が縦位方向に施文されている。６は、外面にLRの単節縄文が横位方向に施文されている。７は、外面にRLの単節縄文が横位方向に施文されている。破片中位には、横位の磨り消し状のナデ調整が施されている。破片の右上端には、２条の粘土紐が貼付されている。８は、外面にRLの単節縄文が斜位・横位方向に施文されている。９は、外面にLの撚糸文が斜位ぎみに施文されている。10は口縁部片であり、外面にRLの単節縄文が横位方向に施文されている。11は底部片であり、外面には被熱によるクレーター状のハジケが確認できる。上述した５～11の時期は、縄文時代中期に比定されると思われる。12は、波状口縁部片である。口端部成形により波状口縁を形成した後、器面には、RLの単節縄文が横位方向に全体的に施文されている。胎土は繊維が微量に含まれ、一部炭化した状態の繊維の残滓が確認できる。器厚は、約９㎜である。口縁部破片の下端の水平ラインは、粘土帯剥落面に相当し、逆擬口縁が観察できる。土器の外面にはススやコゲが観察でき、煮炊きに使用した痕跡が確認できる。外面付着のコゲは、放射性炭素年代測定を実施しており、5,190±30calBPの年代値が得られている。測定した年代値によると、縄文時代前期後葉に比定されると考えられる。

後期の土器（第129図）

堀之内式土器（第129図１～４、写真図版28、31－１）

第129図１～３は、胎土・施文手法が類似することから、同一個体であると思われる。地文は無文を呈し、縄文は施文されていない。器面には３～４本単位の斜行沈線により、三角モチーフが表現されている。３の器面観察では、沈線の施文順序は、①横位区画→②斜位（左傾）→③斜位（右傾）という順序が確認できる。沈線の幅は約２㎜であり、その圧痕の深さは１㎜未満である。沈線の断面形は円味を呈することから、先端の円い棒状工具を使用したと考えられる。沈線描出後は、沈線両脇に生じる畝状の小隆起を目立たなくするために、ナデ調整を行っている。その結果、沈線の両脇にはナデ調整による光沢のスジや、沈線内への粘土溜まりの侵入が所々観察できる。器厚は５～６㎜で、薄手である。１の胎土中には、黒く光る岩片が露出していた。その岩片は、肉眼観察では黒曜石片に近似しており、念のため黒曜石産地分析を行った。しかし、試料が小さいため、推定不可であった。２の外面には、ススやコゲが観察でき、煮炊きに使用した痕跡が確認できる。外面付着のコゲは、放射性炭素年代測定を実施



第128図　縄文包含層出土土器　前期～中期

しており、3,570calBPの年代値が得られている。時期は、文様モチーフや器厚、焼成具合から判断して、縄文時代後期前半の堀之内１式土器に比定されると考えられる（加藤2008）。

第129図４は、口縁部片である。口縁部は、内側にやや折れ曲がる形態を呈する。口縁部外面には、幅３㎜の沈線による弧線文が数条施文されている。また径４㎜の円形刺突の痕跡も確認できる。口縁部以下は遺存していないため不明であるが、おそらくX字状モチーフの磨消縄文が胴部に横位展開するものと推測される。時期は、縄文時代後期前半の堀之内２式土器に比定されると考えられる（加藤2008）。

加曽利B式土器（第129図５～15、写真図版28、31－１・２）

第129図９～13は、胎土及び焼成具合から判断して、同一個体片と思われる。以下、第129図13について記述する。13は、底部から胴部下半部にかけての破片である。器形は、算盤玉形土器を呈すると思われる。胴部下半の屈曲部には刺突列が巡り、それ以下の外面には横位ないし斜位方向のヘラ磨き調整が観察できる。刺突列を境に上位には、磨消縄文による文様帯が展開すると思われる。磨消縄文の原体は条が細く、かつ摩滅しており、節の有無や節の形状等は観察できなかった。条の傾きから判断して、仮に原体が横位方向に施文しているのであれば、Lの無節縄文ないしLRの単節縄文が施文されていたと考えられる。器厚は、６㎜である。時期は、施文手法・推定される器形から判断して、縄文時代後期中葉の加曽利B ３式土器に比定されると考えられる（秋田2008）。また５～８、14・15も、同時期の所産と思われる。14は、注口部の破片である。15は底部片であり、底面には網代底が確認できる。網代は、「２本超え１本潜り１本送り」（松永2008）を呈する。

晩期の土器（第130図、写真図版28、31－３）

安行式土器またはその並行期

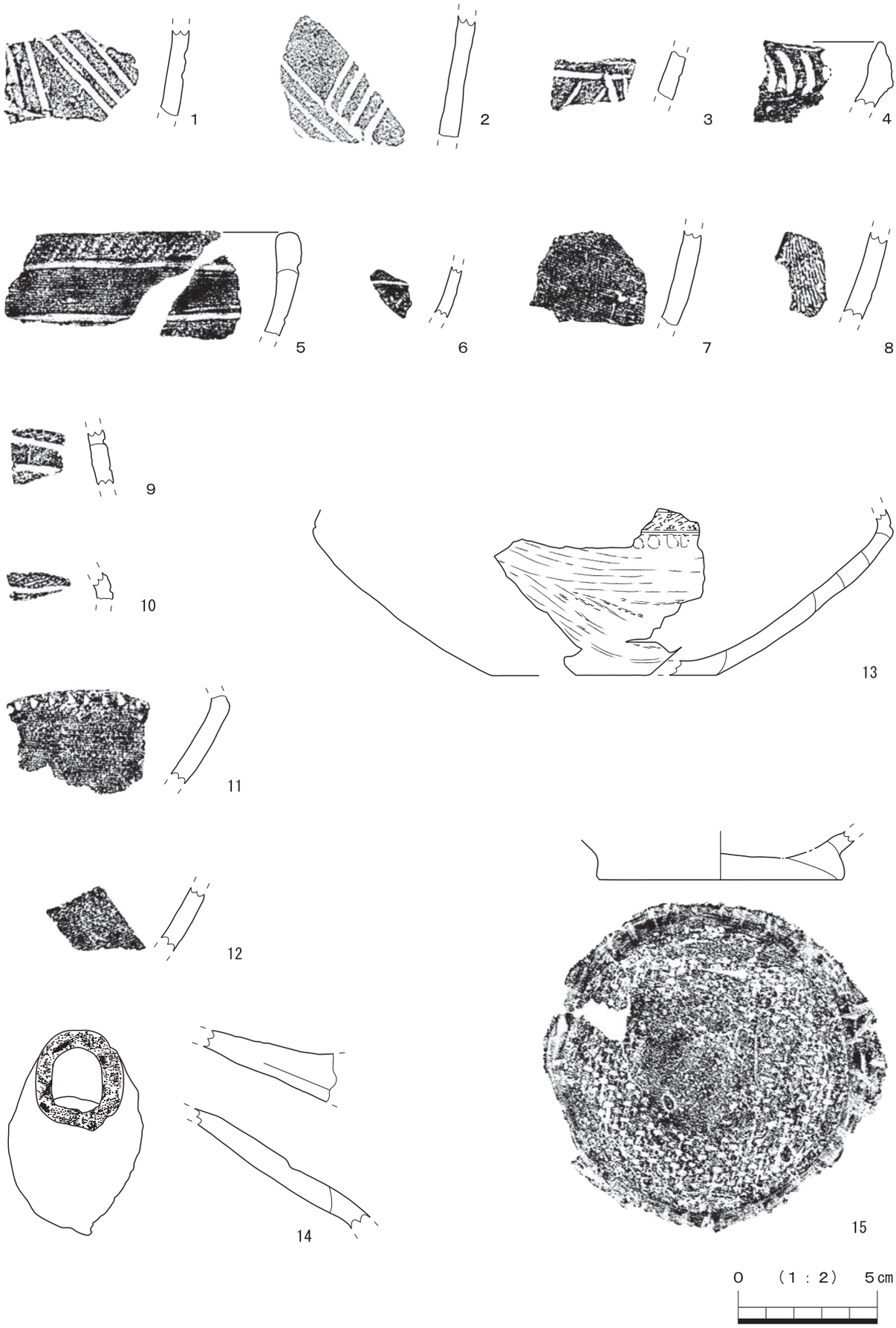
第130図１～４は、口縁部片である。器厚は４～５㎜で、薄手である。外面には、横位もしくは曲線状の隆起線が貼付され、その両脇を先端の丸い工具によって沈線が引かれている。沈線を引いた後、その両脇に生じた粘土の畝はナデ調整により目立たないように調整を施している。そのナデ調整は無文部分や隆起線上にも施され、所々に光沢が観察できる。貼付された隆起線の間には、径1.5㎜の列点状の刺突列が１条充填されている。地文は無文であり、縄文は施文されていない。１は、壺形土器を呈すると思われる。その口端部には一条の沈線が引かれ、その沈線内には径1.5㎜の列点状の刺突列が1条充填されている。時期は、施文手法（列点状の刺突列）から判断して、縄文時代晩期中葉の安行３ｃ式または、その並行する時期に位置づけられると思われる（新屋2008）。

②石器（第131～140図）

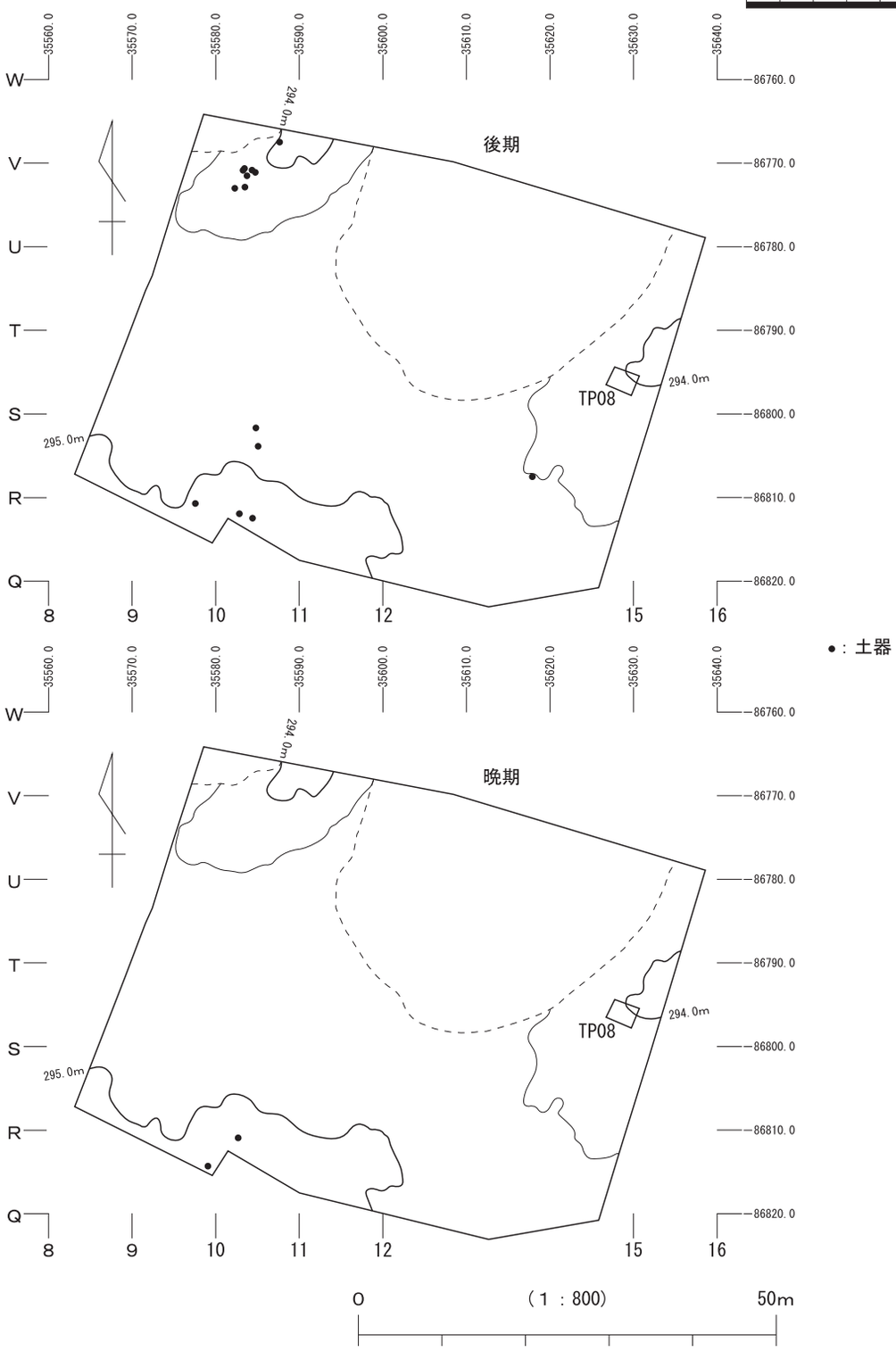
本遺跡からは、61点出土している。以下、器種ごとに記載する。出土石器の観察表は、第23表に記載している。

石鏃（第131図１～３、写真図版28）

第131図１は、黒曜石製の凹基石鏃である。先端部、両脚部、右側縁部が欠損しており、平面形は把握できない。残存する左縁辺部には、鋸歯縁状の加工が確認できる。欠損後、器体整形のための再加工は確認できない。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。２は、黒曜石製の凹基石鏃の欠損品である。実測図正面では、左脚部に相当する。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。３は、黒曜石製の石鏃である。平面形は、二等辺三角形を呈する。しかし器体は厚く、裏面に素材剥片の主要剥離面が確認できることから、石鏃未成品と思われる。



第129図　縄文包含層出土土器　後期



第130図　縄文包含層出土土器　晩期

黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。

微細剥離のある剥片（第131図15、写真図版28）

第131図15は、黒曜石製の微細剥離のある剥片である。素材は小剥片を呈し、裏面の右側縁下位に微細剥離を削出している。黒曜石産地同定分析の結果、推定不可であった。

楔形石器（第131図４、写真図版28）

第131図４は、黒曜石製の楔形石器である。素材は、残核を利用したものと思われる。両極打法により上下端から剥離ないし潰れが確認できる。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。

石核（第131図14、写真図版32－３）

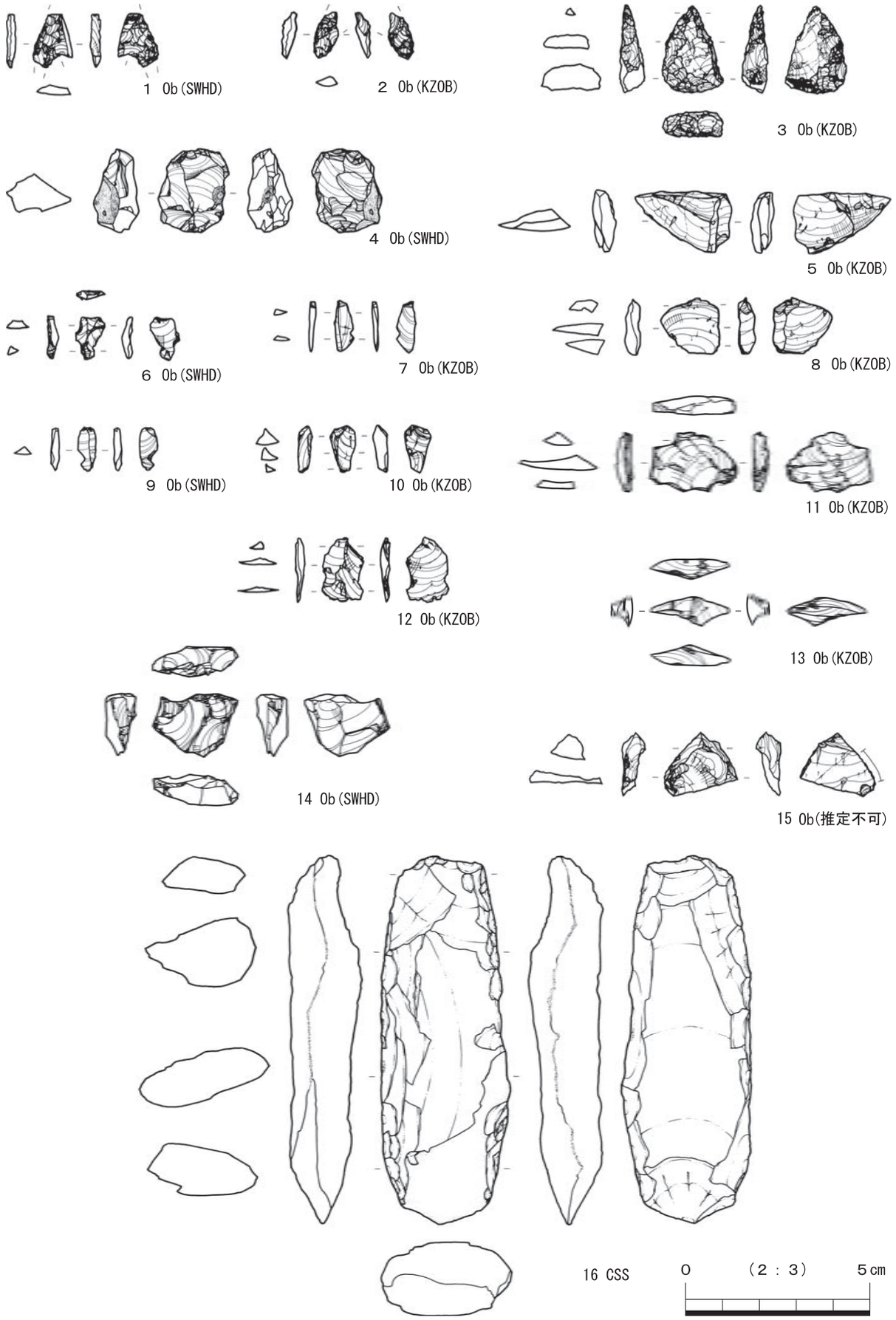
14は、黒曜石製の石核である。打面は何回か転移しており、最後は上面に打面を設定している。作業面は正面と裏面に設定され、正面では失敗剥離（ヒンジフラクチャー）で終止し、一方裏面では小剥片を剥離している。おそらく失敗剥離により、作業面は正面から裏面へ移行したものと推定される。石核のサイズと形状から判断して、残核と思われる。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。

剥片（第131図５～13、写真図版28、32－３）

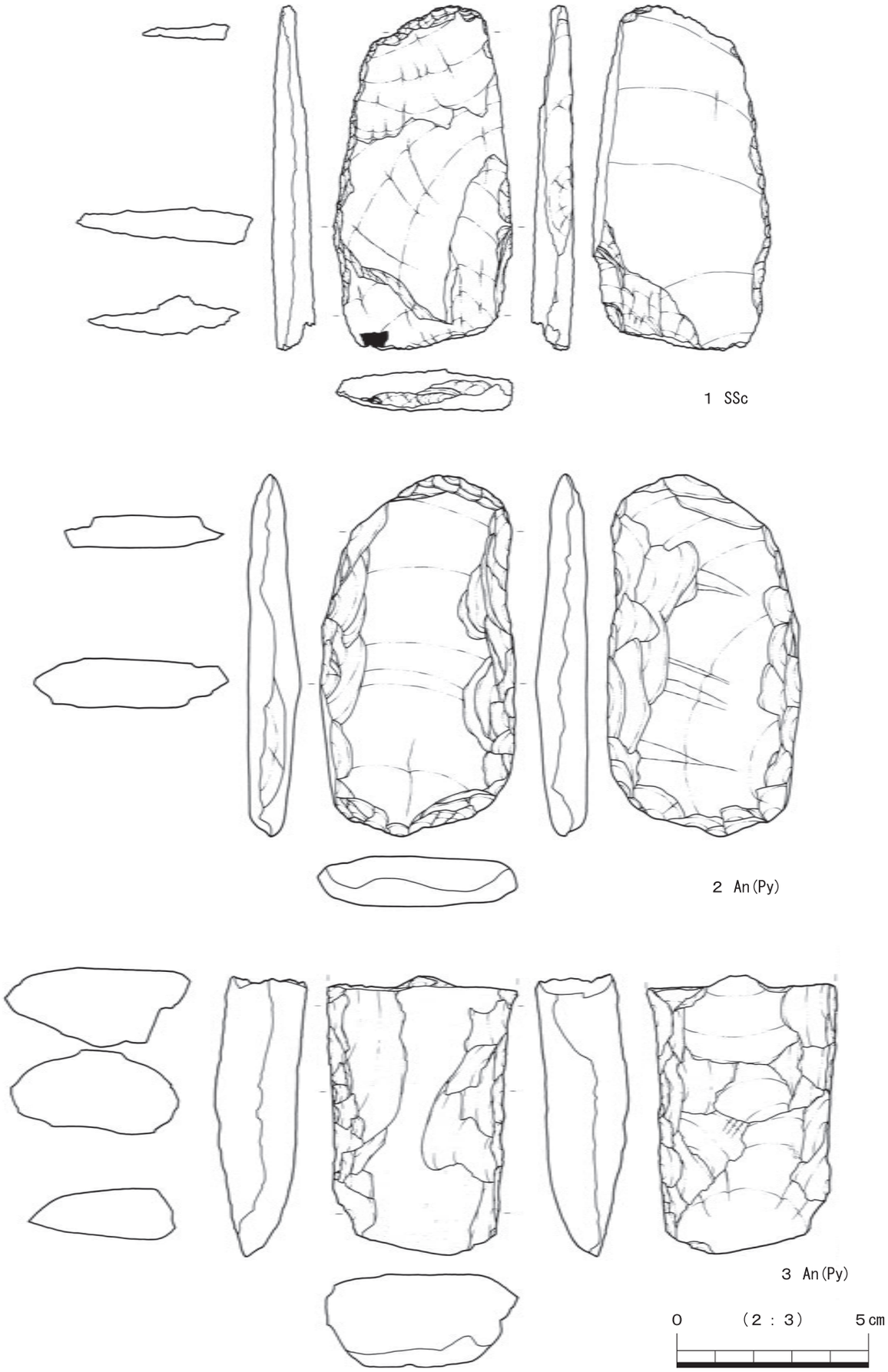
第131図６・９は黒曜石製の小剥片であり、黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と推定されている。５・７・10～13は黒曜石製の小剥片であり、黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。５は、剥片同士が接合した資料（遺物番号119＋第131図８）である。黒曜石産地同定分析の結果、東京都神津島恩馳島群産と推定されている。接合資料は、剥片（遺物番号119）の主要剥離面に残る剥離面（ネガ面）が、剥片（第131図８）のポジ面と接合する資料である。接合状態にすると、上面と右側縁が欠損する剥片となり、その平面形は二等辺三角形を呈する。その形状と厚さから判断すると、石鏃の素材剥片であると考えられる。石鏃の素材剥片として加工を始めた矢先に、不意に剥片（第131図８）が削出されたものと思われる。その結果、素材剥片の主要剥離面の中央下半には、凹みが生じ、均一な厚さが保持できなくなっており、その後の加工は止めている。削出された剥片（第131図８）は、裏面上縁に加工を施しており、おそらく素材剥片として石鏃成形を試みようとしていると思われる。しかし、中途で終わっている。

石斧（第131図16・第132・133図・第134図１、写真図版28、32－３）

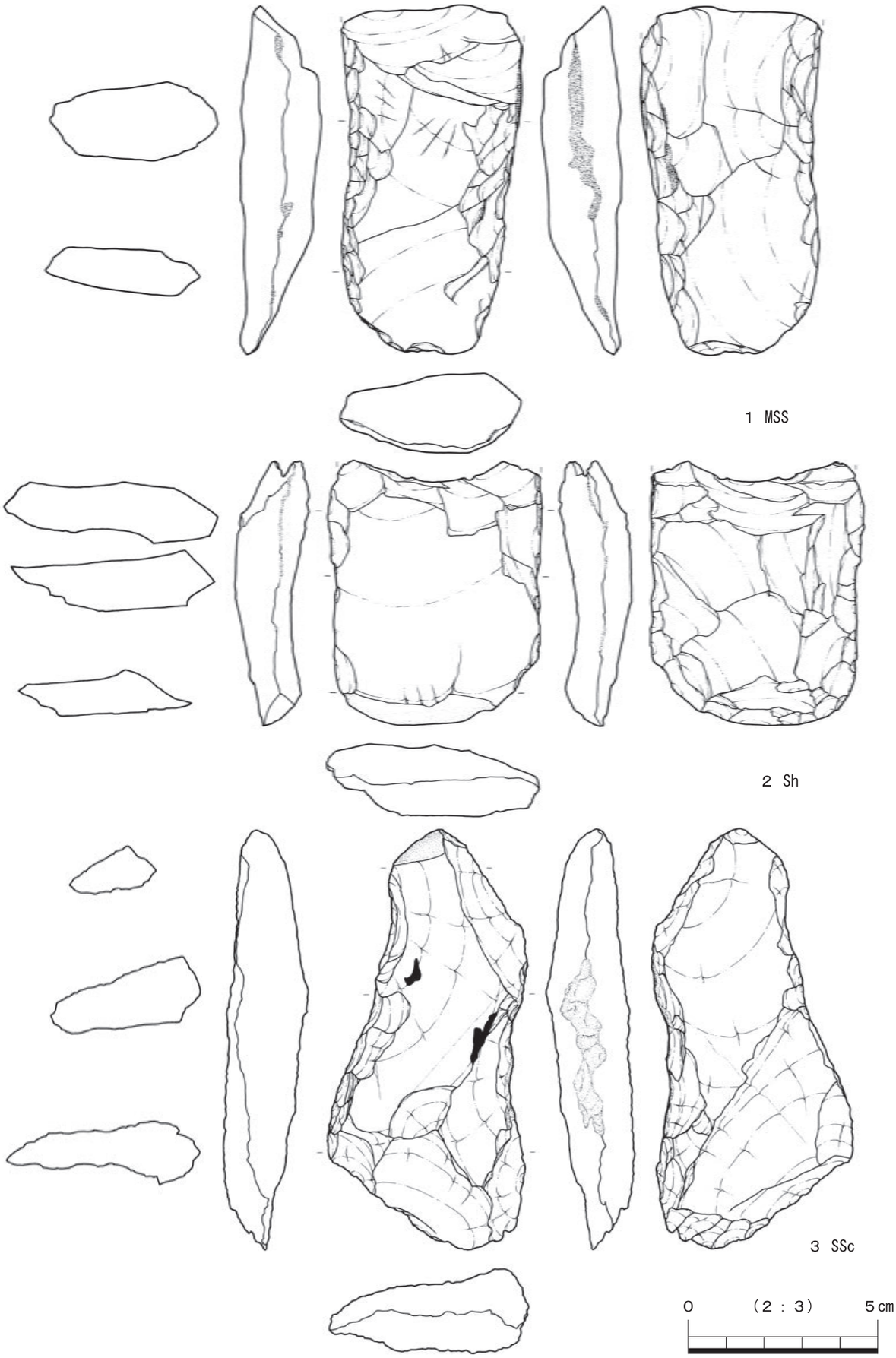
第131図16は、粗粒砂岩製の打製石斧である。平面形は細長い短冊形を呈し、肉厚である。裏面には、一部円礫面を残す。器体整形では、基部・両側縁から剥離を加えているが、その殆どが階段状剥離で終止し、器体中央に及ぶ剥離はあまり見られない。側縁の稜線は、やや摩滅している。刃部整形は殆ど行われていないが、刃部角度は保持されていると思われる。重量は、81.39gである。第132図１は、砂質片岩製の打製石斧である。平面形は短冊形を呈し、薄手である。板状に剥がれる石質であるためか、器体整形加工は少なく、刃部加工も粗い。重量は、54.12gである。２は、輝石安山岩製の打製石斧である。平面形は短冊形を呈し、やや薄手である。器体整形では、基部・両側縁から剥離を加えているが、その殆どが階段状剥離で終止し、器体中央に及ぶ剥離はあまり見られない。側縁の稜線は、やや摩滅している。器厚は、刃部側がやや厚い傾向にある。刃先のラインは、雑で不揃いな印象を受ける。おそらく使


1 Ob(SWHD)
2 Ob(KZOB)
3 Ob(KZOB)
4 Ob(SWHD)
5 Ob(KZOB)
6 Ob(SWHD)
7 Ob(KZOB)
8 Ob(KZOB)
9 Ob(SWHD)
10 Ob(KZOB)
11 Ob(KZOB)
12 Ob(KZOB)
13 Ob(KZOB)
14 Ob(SWHD)
15 Ob(推定不可)
16 CSS
0
(2 : 3)
5cm

第131図　縄文石器（1）



第132図　縄文石器（2）



第133図　縄文石器（3）

用により刃先のラインが崩れたものと思われ、所々に摩滅が確認できる。重量は、97.03gである。３は、輝石安山岩製の打製石斧である。平面形は、短冊形を呈するものと思われ、肉厚である。裏面には、一部円礫面を残す。器体整形では、両側縁から剥離を加えているが、その殆どが階段状剥離で終止し、器体中央に及ぶ剥離はあまり見られない。側縁の稜線は、やや摩滅している。刃部は、欠損している。欠損面には、再加工の痕跡が認められないことから判断して、おそらく器体の長さが短くなったことから遺棄ないし廃棄されたものと考えられる。重量は、112gである。第133図１は、中粒砂岩製の打製石斧である。平面形は、短冊形を呈するものと思われ、肉厚である。器体整形では、両側縁から剥離を加えているが、その殆どが階段状剥離で終止し、器体中央に及ぶ剥離は見られない。側縁の稜線は、やや摩滅している。刃部は欠損しており、刃部再生を試みた痕跡は見られない。重量は、118.82gである。２は、頁岩製の打製石斧である。平面形は、短冊形を呈するものと思われ、やや肉厚である。裏面基部側には、一部円礫面を残す。器体整形では、両側縁から剥離を加えているが、その殆どが階段状剥離で終止し、器体中央に及ぶ剥離は見られない。側縁の稜線は、やや摩滅している。刃部は、欠損している。欠損面には、再加工の痕跡が認められないことから判断して、おそらく器体の長さが短くなったことから遺棄ないし廃棄されたものと考えられる。３は、砂質片岩製の打製石斧である。平面形は撥形を呈し、肉厚である。器体整形では、両側縁から剥離を加えているが、その殆どが階段状剥離で終止し、器体中央に及ぶ剥離は見られない。また刃部は一度大きく欠損していると思われ、その後、両面から加工を行い、刃部再生を試みていると思われる。重量は、122.02ｇである。第134図１は、輝石安山岩製の打製石斧の未成品である。器体整形が中途であり、形態が整っていないように思われる。

礫石斧（第134図２、写真図版28）

第134図２は、輝石安山岩製の礫石斧である。素材形状は、扁平な楕円礫を呈する。礫の下縁部には、両面から剥離を加えて、刃先を削出している。

磨石（第135図、写真図版28）

第135図は、多孔質安山岩製の磨石である。素材形状は、楕円礫を呈する。片面または両面に磨面が確認できる。３は、右側面にも磨面が確認できる。

敲石（第136・137図、写真図版28）

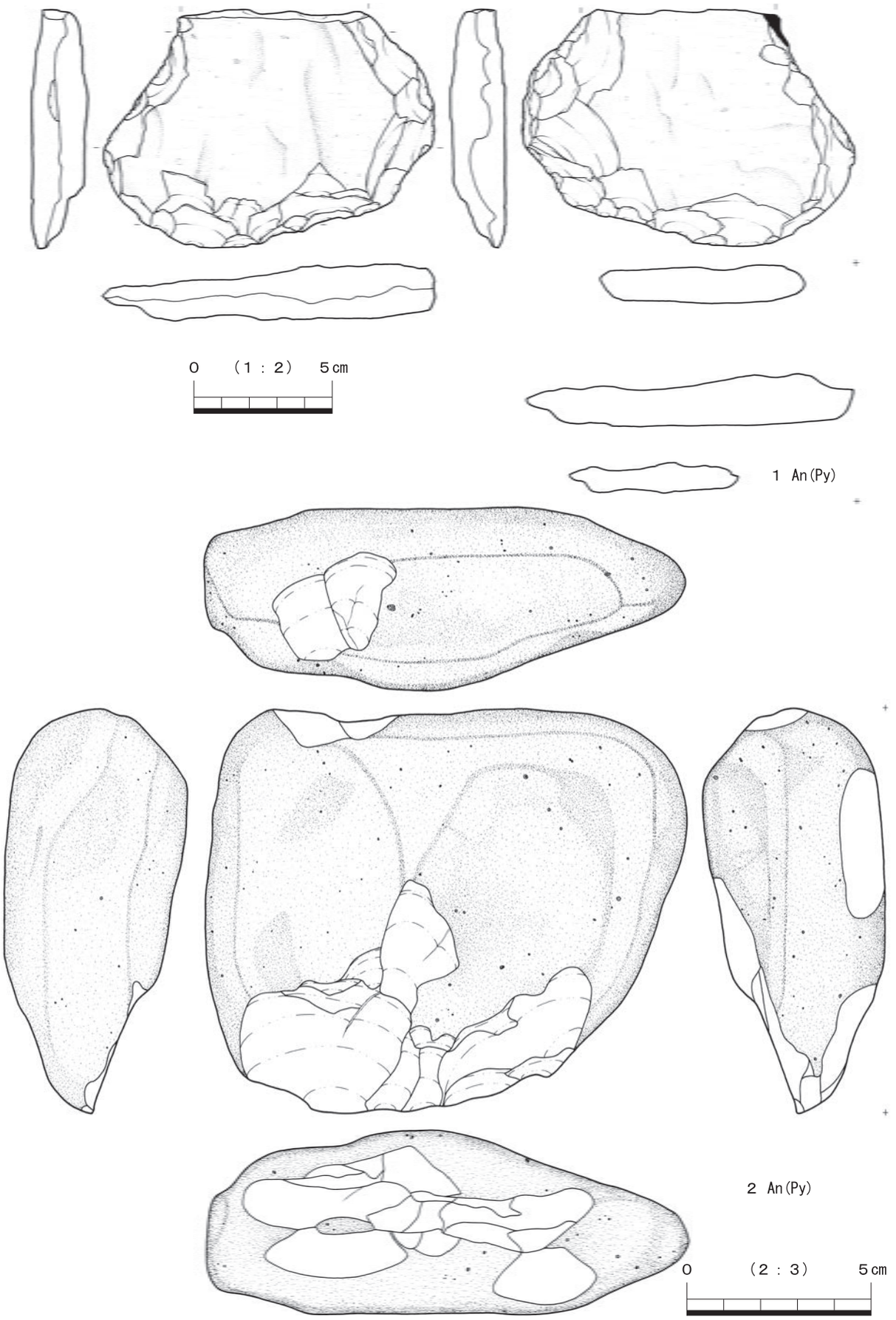
第136図１・２、第137図１・３は、輝石安山岩製の敲石である。下面に敲打痕による潰れや凹凸面が確認できる。第136図３は玄武岩製、第137図２は閃緑岩製の敲石である。第137図１・２では、下面だけでなく、両側面にも敲打痕が確認できる。上述した敲石の素材形状は、楕円礫・扁平な礫を呈する。

台石（第138図１～３、写真図版28）

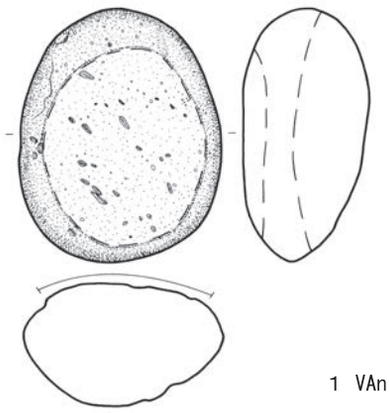
第138図１は、輝石安山岩製の台石である。素材形状は、扁平な楕円礫である。実測図正面の中央部には、敲打痕または潰れにより、凹面を呈する部分が確認できる。２・３は、輝石安山岩製の台石である。素材形状は、扁平な礫であり、平坦な面に敲打痕が確認できる。

石皿（第138図４・５・第139・140図、写真図版28）

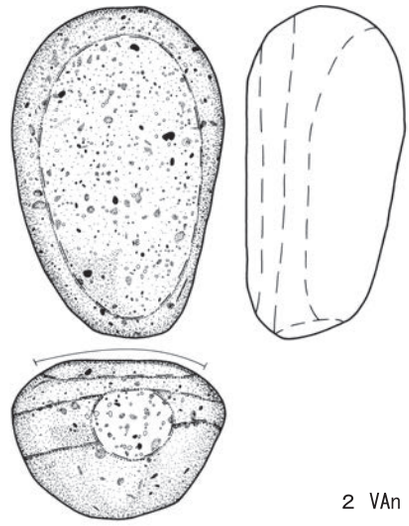
第138図４・５は、輝石安山岩製の石皿の破片である。第139図１～５・第140図２・３は、輝石安山岩製の石皿である。礫の平坦な面には、磨面が確認できる。第140図２の礫は、断面形が三角形を呈することから、おそらく地面を窪ませたり、他の礫で固定したりして、磨面が上を向くようにして作業を



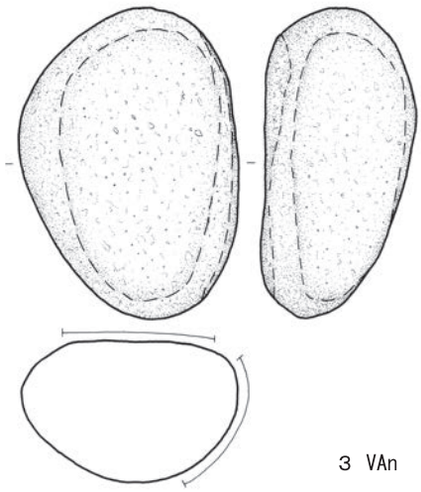
第134図　縄文石器（4）（1：1/2、2：2/3）



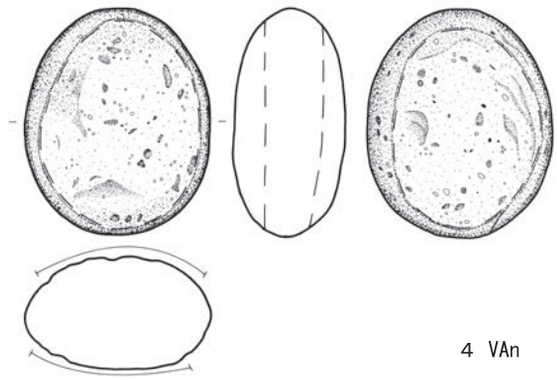
1 VAn



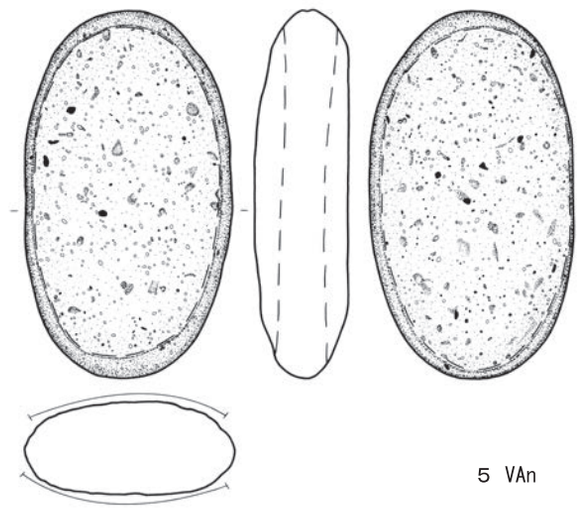
2 VAn



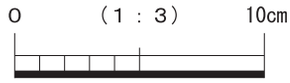
3 VAn



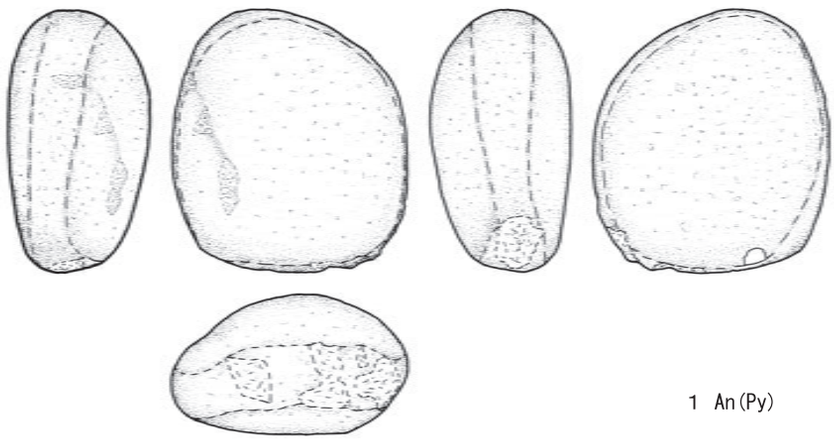
4 VAn



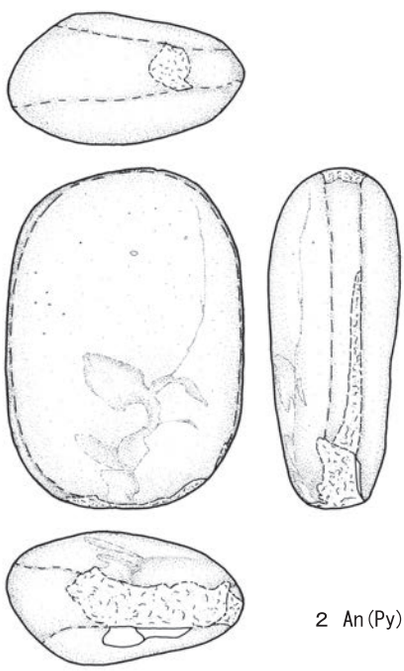
5 VAn



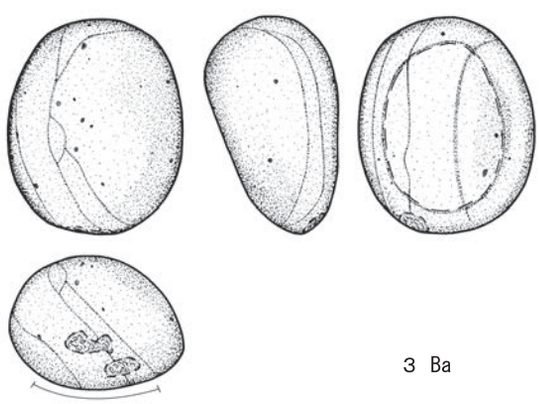
第135図　縄文石器（5）



1　An(Py)



2　An(Py)



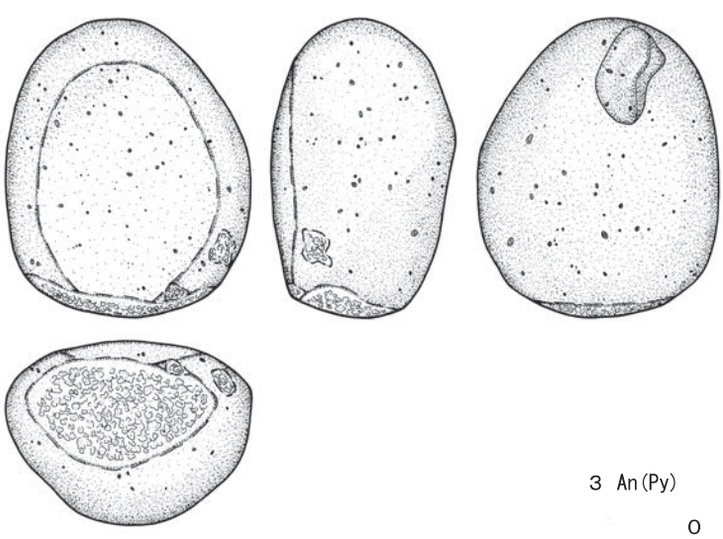
3　Ba

0　（1：3）　10cm

第136図　縄文石器（6）

1 An(Py)

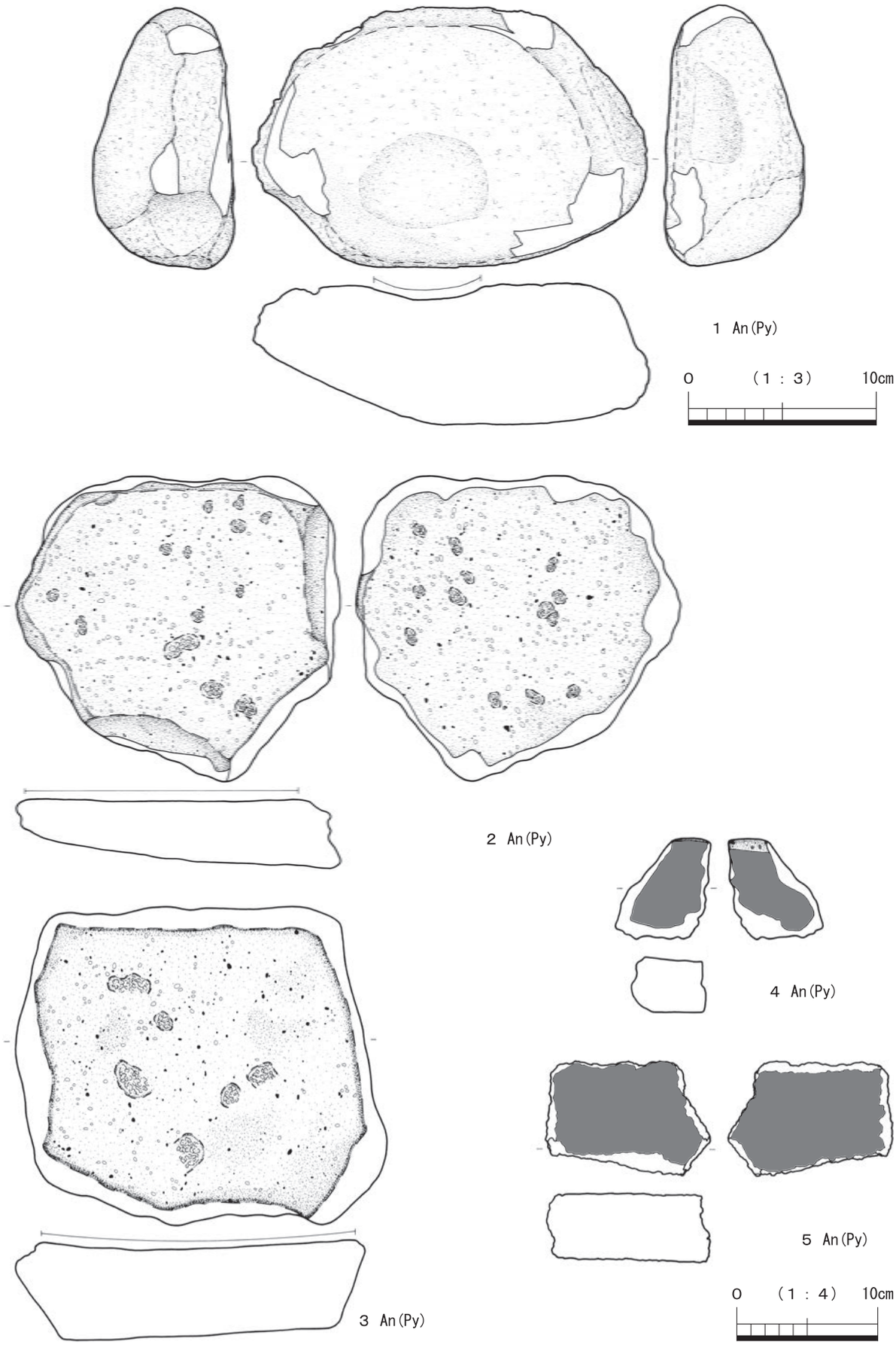
2 Di



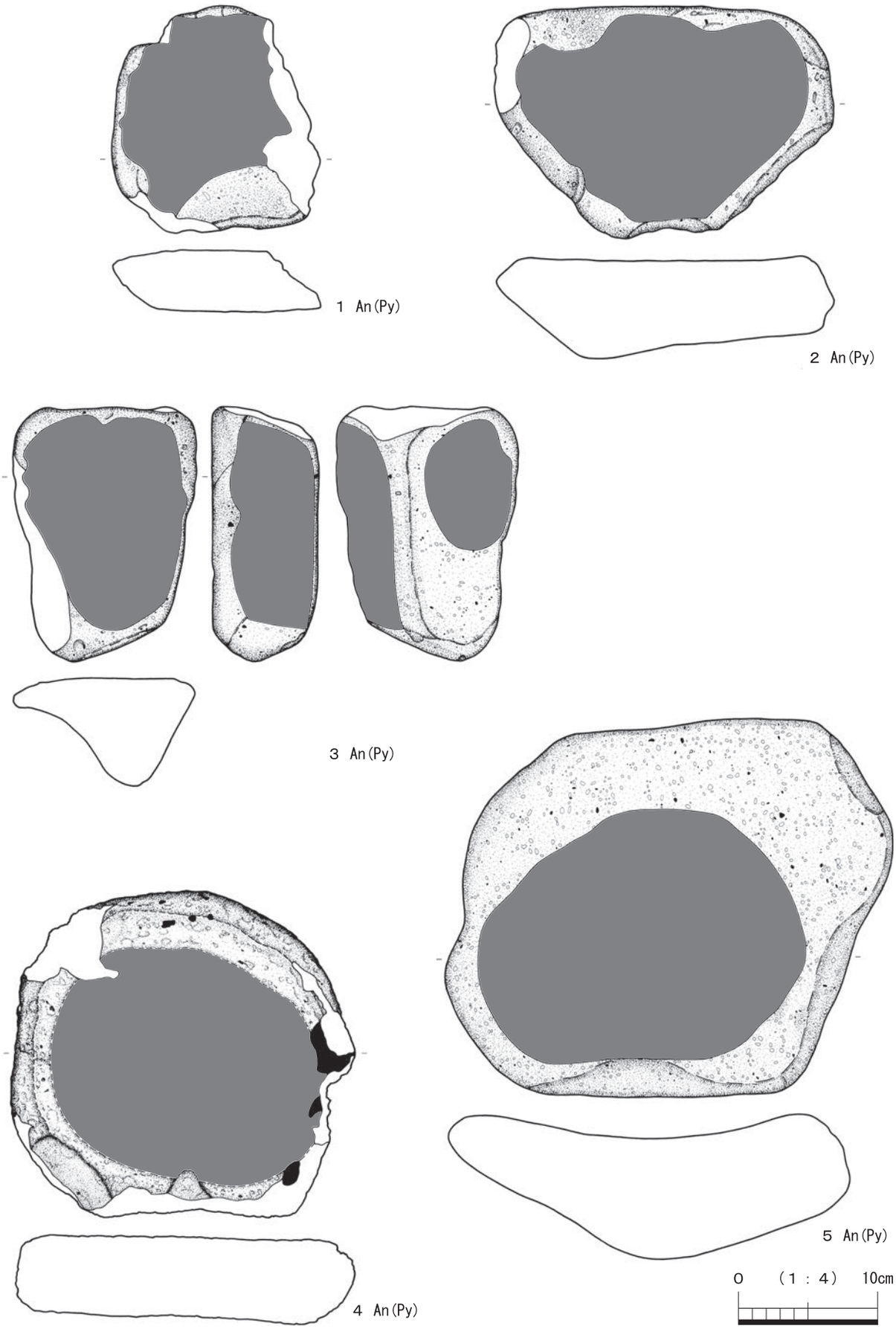
3 An(Py)

0　（1：3）　10cm

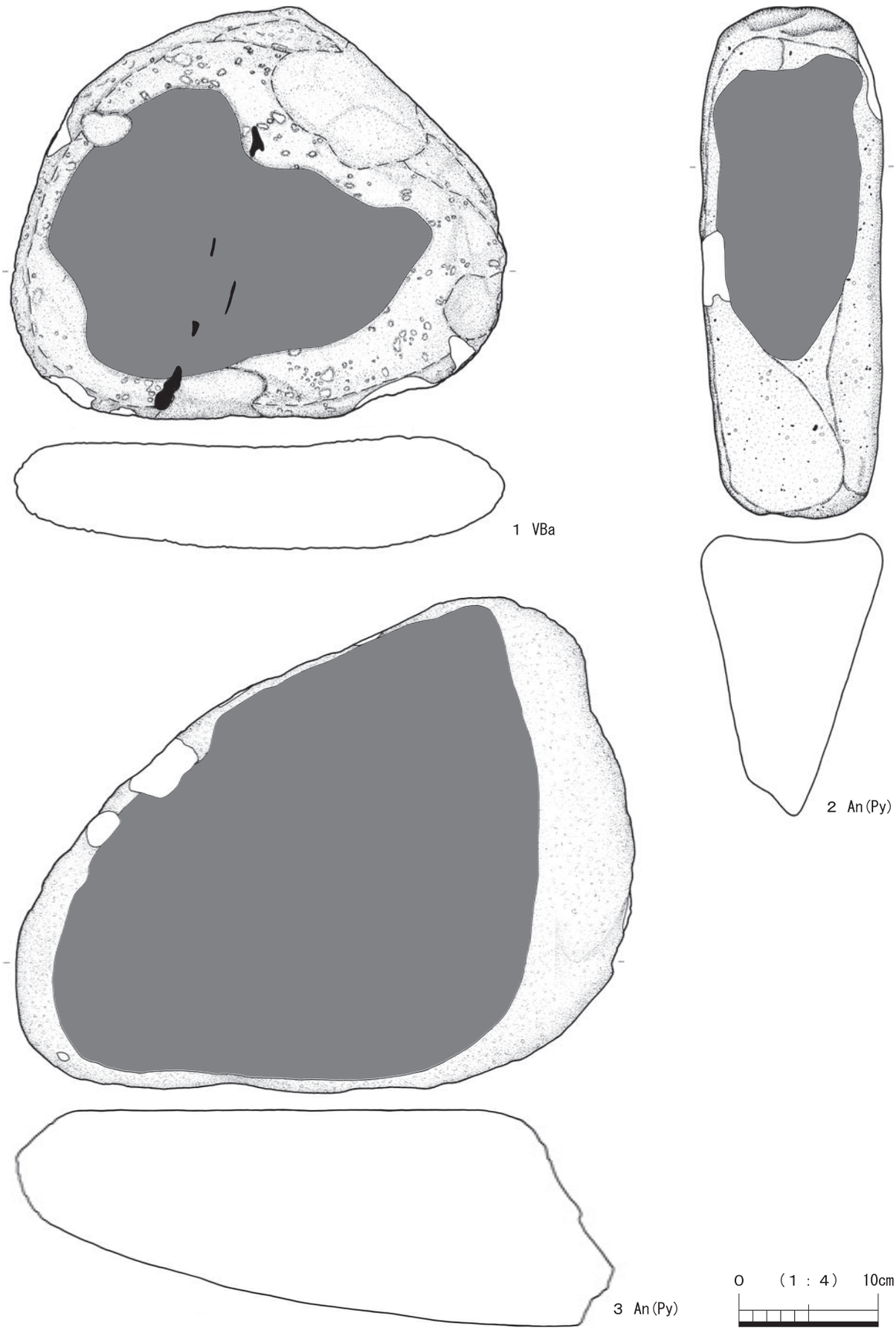
第137図　縄文石器（7）



第138図　縄文石器（８）（1：1/3、2～5：1/4）



第139図　縄文石器（９）

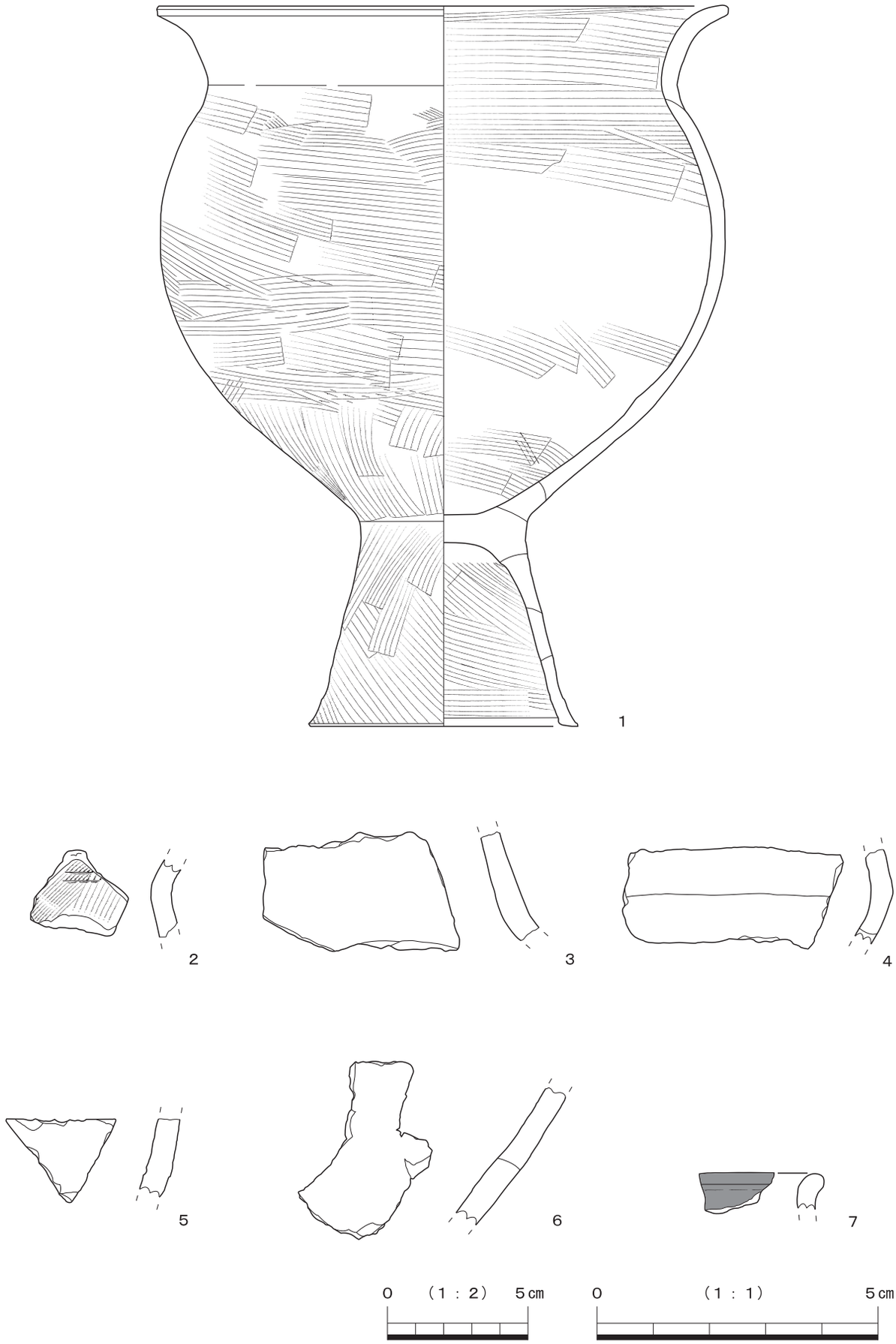


第140図　縄文石器（10）

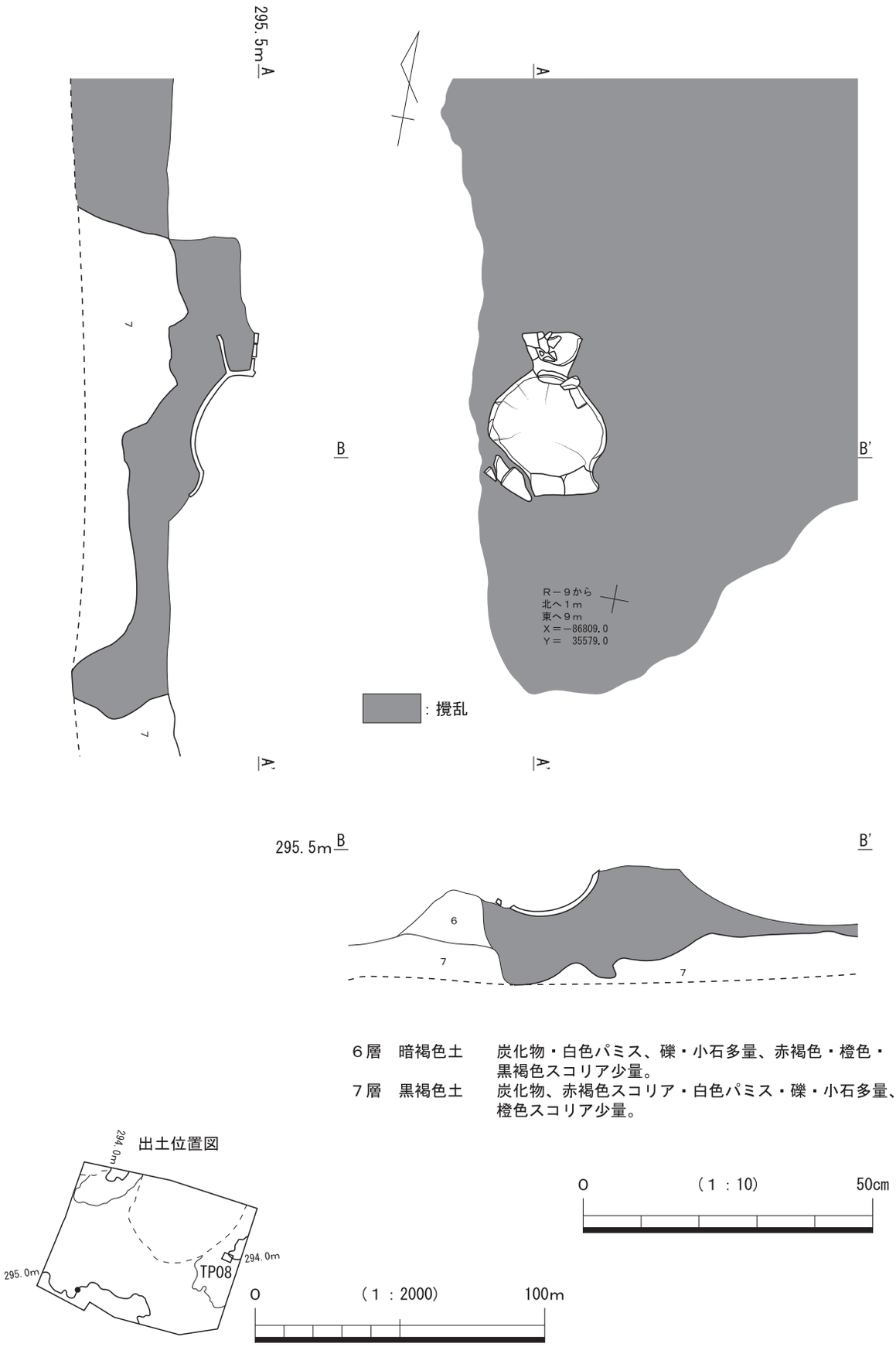
行ったものと想定される。第140図１は、多孔質玄武岩製の石皿である。

（２）攪乱出土および表面採集の遺物（第141・142図、写真図版28、32－１・２）

第141図１は、風倒木痕（第142図）から出土した土師器であり、器形は台付甕を呈する。口縁部は緩やかに「く」の字状に外反する。口縁部外面にはハケ調整後、ナデ調整を施しており、ハケ調整の痕跡は明瞭でない。台部は、ハ字形に直線的に開き、端部付近でやや外反する。台部外面には、斜位のハケ調整により左傾・右傾を施し、視覚的に矢羽根状を表現している。その内面には、反時計回りに巻き上げる感じに、ハケ調整を施している。胴部は、胴中央に最大径をもつ球胴形を呈し、胴外面の上位～中位に横位のハケ調整、下位に縦位のハケ調整が施されている。口縁部～胴部の内面には、ハケ調整が全体的に施されておらず、むしろ口縁部～胴部上位、胴部中位、胴部下位の周囲に途切れ途切れに施される傾向にある。これは、製作工程の段取り、つまりは粘土帯積み上げのタイミングと内面調整のタイミングの結果を反映していると思われる。上記の特徴から判断して、時期は、弥生時代後期から古墳時代前期の大廓Ⅰ～Ⅱ式の範疇に位置づけられると思われる。２は、表面採集した土師器片であり、器形は、甕形を呈すると思われる。部位は、外反する口縁部に相当する。外面には、縦または斜位のハケ調整が施されている。上記の特徴から判断して、時期は、弥生時代後期から古墳時代前期の範疇に位置づけられると思われる。３～６は、攪乱出土及び表面採集した土師器片であり、器形は、壺形を呈すると思われる。４は、屈曲部を有する壺片と考えられ、破片はその屈曲部に位置すると思われる。破片の上下端は、概ね粘土帯の剥落部位に相当する。５は、内面に長軸５㎜、短軸３㎜程の籾痕のような圧痕が確認できる。３は、壺の頸部に相当する破片と思われ、内面には粘土帯接合部の横スジや指オサエの痕跡が確認できる。６は、表面採集した土師器片で、壺の胴下半部に相当する破片と思われ、内面には横位のハケ調整が確認できる。上記の特徴から判断して、時期は弥生時代後期から古墳時代前期の範疇に位置づけられると思われる。７は、攪乱出土の陶器片である。部位は口縁部に相当する。器面の内外面には、黒釉が観察できることから、近世の天目茶碗と考えられる。時期細分は小破片であるため分からない。



第141図　攪乱出土・表面採集（1～6：1/2、7：1/1）



６層　暗褐色土　　炭化物・白色パミス、礫・小石多量、赤褐色・橙色・黒褐色スコリア少量。

７層　黒褐色土　　炭化物、赤褐色スコリア・白色パミス・礫・小石多量、橙色スコリア少量。

第142図　撹乱出土（台付甕）

第４節　調査のまとめ

本遺跡は、縄文時代の遺物包含層を主体とする遺跡である。確認調査では、土層の堆積状況が良好でないため、愛鷹山麓の火山灰層序学的区分をそのまま適用できない状況にあると確認した。遺物包含層とした７層黒褐色土層からは、縄文時代前期後半に比定される土器片、中期の勝坂式・曽利式・加曽利E式土器、後期の堀之内式・加曽利B式土器、さらに晩期の土器片が混在する状態で出土することを確認した。その殆どが上方からの自然流入の繰り返しによって形成された遺物包含層と判断した。遺物包含層からは、土器や石器よりも、特に小～大形の礫が多く含まれる傾向にあった。剥片石器は少なく、その大半は打製石斧や敲石、磨石、台石等の礫石器であり、輝石安山岩や多孔質安山岩が多用されている。これらの石器石材は、近隣の河川から採取可能であると推察される。剥片石器は、主に黒曜石製の石器（石鏃・楔形石器・石核等）で占められる。黒曜石産地同定分析の結果、長野県諏訪星ヶ台群産と東京都神津島恩馳島群産に推定されており、遠隔地の石器石材が利用されている。縄文時代の調査が終了した後、掘削作業は、溶岩流が露出した段階で作業を終了とした。この溶岩流は、約10,500年前に新富士火山か噴出し、黄瀬川の谷を覆ったとされる「三島溶岩流」に相当すると思われる（「序章第２節２」）。

今回、遺物包含層出土の中で特筆すべき遺物は、晩期中葉の安行３c式もしくは、それに並行する時期の土器片であろう。当地域では稀少な事例であると思われる。また攪乱出土および表面採集によるが、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺物や近世の遺物を微量ながらも確認した。中でも風倒木痕から出土した台付甕（大廓Ⅰ～Ⅱ式）は、残存率50％で器形が把握できる資料である。当地域では、序章第２節５で述べたとおり、弥生時代以降、遺跡の分布は、黄瀬川流域の低地部に移動する傾向にある。本遺跡で確認した山麓部での人の痕跡は、当該期における人々の生活行動の一側面が反映されていると思われる。

また本遺跡は、縄文時代前期～晩期の遺物包含層を主体とする遺跡であることから、今後は遺物包含層の形成過程を考える必要があろう。愛鷹山北東麓～南東麓にかけては、縄文時代の陥穴状土坑が多く検出される傾向にある（第63図）。本遺跡から南へ約200mに位置する棚返遺跡では、縄文時代早期から後期にかけての狩猟キャンプ地が想定されている（壬生他2008）。本遺跡の上方は、確認調査を行った結果、表土を除去すると、溶岩流が露出する状況にあったり、盛土等の攪乱土が厚く堆積していて、遺構・遺物の有無を確認できなかった。後世の地形改変前は、おそらく陥穴状土坑、集石などの遺構が存在していた可能性が考えられ、その地で廃棄・遺棄された遺物が本遺跡に流れ込んだものと推察される。

参考文献

秋田かな子2008「加曽利B式土器」『総覧縄文土器』594－603頁　アム・プロモーション
新屋雅明2008「晩期安行式土器」『総覧縄文土器』716－723頁　アム・プロモーション
今福利恵2008「勝坂式土器」『総覧縄文土器』392－401頁　アム・プロモーション
今福利恵2011『縄文土器の文様生成構造の研究』　アム・プロモーション
加納　実2008「堀之内式土器」『総覧縄文土器』586－593頁　アム・プロモーション
櫛原功一2008「曽利式土器」『総覧縄文土器』426－435頁　アム・プロモーション
細田　勝2008「加曽利E式土器」『総覧縄文土器』410－417頁　アム・プロモーション
松永篤知2008「網代・敷物」『総覧縄文土器』942－945頁　アム・プロモーション

第５節　遺構・遺物観察表

第21表　集石計測表

図版	挿図	遺構名	区	グリッド	検出層位	標高（m）	立地	帰属時期	長軸（cm）	短軸（cm）	礫の点数
27-3	123	１号集石	1	R-14	２層	295.6	平坦面	縄文以降	40	16	6

第22表　今里薬師海道遺跡　出土土器一覧表

図版	挿図	遺物番号	区	グリッド	層位	時期	型式	接合	色調	胎土	備考
30-2	128-5	1	1	S-9	７層	中期			表：10YR 6/3 ～ 4/1 裏：7.5YR 6/6	１～３㎜程の白・半透明・赤茶・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文・縦位。
		8	1	S-9	７層	中期			表：5YR 6/8、N 2/ 裏：10YR 7/4	1㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、LR 縄文・斜位、条の横走。
		9	1	S-9	７層	中期			表：N 2/ 裏：5YR 6/6	１～1.5㎜程の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文・斜位、条の横走。
		10	1	S-9	７層	中期			表：5Y 3/1 裏：7.5YR 4/6	黒い輝石の粒を多く含む、0.5㎜大の粒を含む。	ナデ、LR 縄文・横位、口縁部片。
		11	1	S-9	７層	中期			表：5YR 6/6、10YR 3/1 裏：10YR 5/3	白・黒い砂粒を含む。	ナデ、LR 縄文・横位。
30-2	128-6	12	1	S-9	７層	中期			表：10YR 4/2 裏：7.5YR4/3	白い小石を含む。	ナデ、LR 縄文・横位。
		13	1	S-10	７層	中期			表：10YR 2/1 裏：7.5YR 6/6、10YR 5/2	白・黒い砂粒を含む。	ナデ、LR 縄文・横位、口縁部片。
		14	1	S-10	７層	中期		12	表：2.5YR 6/8、10YR 6/4 裏：2.5YR 5/6、10YR 3/2	１～３㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ。
		15	1	S-10	７層	中期		17	表：5YR 5/4、N 3/ 裏：5YR 6/4	白・黒い砂粒を含む。	ナデ、LR 縄文･斜位 or 横位、条の横走 or 斜走。
		16	1	S-10	７層	中期			表：7.5YR 3/1 裏：10YR 5/2 ～ 4/4	１～２㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ。
		17	1	S-9	８層	中期？			表：10YR 4/2 裏：10YR 4/2	黒い小石を含む。	ナデ、LR 縄文･斜位（内面）。
		18	1	S-9	８層	中期			表：10YR 3/2 裏：7.5YR 4/3	黒・白い小石を少し含む。	ナデ、LR 縄文・斜位、条の縦走。
		19	1	S-10	７層	中期		17	表：5YR 5/4、N 3/ 裏：5YR 6/4	白・黒い砂粒を含む。	ナデ、LR 縄文･斜位 or 横位、条の横走 or 斜走。
		20	1	S-10	８層	中期			表：10YR 4/2 裏：10YR 4/2	黒い光沢ある小石を含む、白・黒い砂粒を含む。	ナデ、LR 縄文・斜位、条の横走。
		22	1	S-10	８層	中期		12	表：2.5YR 6/8、10YR 6/4 裏：2.5YR 5/6、10YR 3/2	１～３㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ。
		27	1	U-10	７層	中期			表：10YR 6/4、N 3/ 裏：2.5Y 8/4	１～４㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	丁寧なナデ。
	141-4	28	1	U-10	攪乱	弥生時代後期～古墳時代前期	大廓Ⅰ～Ⅱ式または並行期		表：5YR 6/6 裏：10YR 7/4	１～３㎜程の白・灰・黒い砂粒を含む。	ナデ。
31-1	129-12	29	1	U-10	７層	後期	加曽利 B3 式		表：10YR 8/3 ～ 4/2 裏：10YR 5/2	白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	算盤玉形土器、ナデ、沈線、L or LR 縄文・横位。
		30	1	U-10	７層	中期			表：10YR 6/3 裏：10YR 6/4	１～３㎜程の白・赤茶・黒い砂粒を少し含む。	丁寧なナデ。
31-1	129-8	31	1	U-10	７層	後期	加曽利 B3 式		表：2.5Y 8/3 ～ 5/1、N 3/ 裏：2.5Y 5/1	白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	ナデ、LR 縄文・斜位、条の縦走、小さい節。
31-1	129-10	32	1	U-10	７層	後期	加曽利 B3 式		表：10YR 7/4 ～ 4/1 裏：10YR 5/2	白い砂粒を少し含む、雲母を含む。	算盤玉形土器、ナデ、沈線、L or LR 縄文・横位。
31-1	129-9	33	1	U-10	７層	後期	加曽利 B3 式		表：10YR 6/2 ～ 7/3 裏：10YR 6/2	白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	算盤玉形土器、ナデ、沈線、L or LR 縄文・横位。
		34	1	T-9	７層	中期			表：10YR 7/8 裏：10YR 4/2	白・黒い砂粒を少し含む。	焼けた土塊。
30-1	127-1	35	1	T-9	７層	中期	曽利Ⅴ式	18	表：10YR 4/2 ～ 5/4 裏：10YR 7/6 ～ 3/1	１～２㎜程の白・半透明・赤茶・黒の砂粒を多く含む。	太い沈線、短沈線。
		67	1	U-10	７層	前期？			表：5YR 5/6 裏：5YR 4/6	白・黒い細かい砂粒を含む、2～３㎜程の白い小石を含む。	ナデ、平行沈線、断面半円形。
31-1	129-11	68	1	U-10	７層	後期	加曽利 B3 式		表：10YR 6/2 ～ 4/1 裏：10YR 7/3 ～ 5/1	白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	算盤玉形土器、ナデ、沈線、L or LR 縄文・横位。
29-2	126-4	70	1	U-10	７層	中期	曽利Ⅳ式		表：2.5YR 5/6 裏：10YR 6/6	１～２㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
31-1	129-13	72	1	U-10	７層	後期	加曽利 B3 式	4	表：10YR 5/2 裏：2.5Y 4/1	白い砂粒を多く含む。	算盤玉形土器、ナデ、沈線、L or LR 縄文・横位。
31-1	129-6	73	1	U-10	７層	後期	加曽利 B3 式		表：10YR 4/1 裏：10YR 3/1	白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、沈線。
31-1	129-13	74	1	U-10	７層	後期	加曽利 B3 式	4	表：10YR 5/2 裏：2.5Y 4/1	白い砂粒を多く含む。	算盤玉形土器、ナデ、沈線、L or LR 縄文・横位。

		82	1	T-9	7 層	中期	加曽利Ｅ３式		表：7.5YR 4/3 裏：10YR 4/4	白い小石を含む。	ナデ、RL 縄文・斜位、太い沈線。
		83	1	T-9	7 層	中期	加曽利Ｅ３式		表：2.5YR 5/6 裏：5YR 4/6	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文・縦位、太い沈線。
30-1	127-2	84	1	T-9	7 層	中期	曽利Ｖ式		表：10YR 7/4 ～ 3/2 裏：2.5Y 7/4 ～ 5/2	1 ～ 2㎜程の白・赤茶・黒の砂粒を含む。	太い沈線、短沈線。
30-1	127-5	85	1	S-8	7 層	中期	曽利Ｖ式		表：5YR 5/6 裏：5YR 5/6	白い砂粒を多く含む、黒い輝石を含む。	沈線、ハの字（粗）。
30-1	127-8	86	1	S-8	7 層	中期	曽利Ｖ式		表：5YR 6/6、10YR 3/1 裏：10YR 6/4	1 ～ 3㎜程の白・赤茶・黒の砂粒を多く含む。	沈線、ハの字（粗）。
		87	1	S-8	7 層	中期			表：5YR 5/6 裏：2.5Y 3/1、10YR 4/3	白・黒い砂粒を含む。	ナデ。
	141-5	88	1	R-8	攪乱	弥生時代後期 ～古墳時代前期	大廓Ⅰ～Ⅱ式 または並行期		表：5Y 5/1 裏：5Y 5/2	白い砂粒を少し含む。	ナデ。
29-2	126-8	89	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：7.5YR 6/4 裏：10YR 4/1	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	126-7	90	1	Q-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：7.5YR 5/3 裏：5YR 5/6	1 ～ 2㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	126-3	91	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：7.5YR 5/3 ～ 4/2 裏：5YR 4/6、10YR 6/4	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	126-9	92	1	Q-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：10YR 4/2、2.5YR 5/8 裏：5YR 5/4 ～ 4/6	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
31-1	129-7	93	1	Q-9	7 層	後期	加曽利 B3 式		表：N 3/ 裏：10YR 5/4	1 ～ 1.5㎜の白･黒い砂粒を含む。	ナデ。
		94	1	Q-9	7 層	中期			表：10YR 6/4 裏：10YR 5/4	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	丁寧なナデ。
		95	1	Q-9	7 層	後期	加曽利 B3 式		表：5YR 6/6 裏：5Y 3/1	1 ～ 2㎜程の白・灰・黒の砂粒を少し含む。	ナデ。
		96	1	R-12	7 層	中期？			表：7.5YR 5/4 裏：10YR 6/4	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、原体不明。
		97	1	R-9	7 層	中期？			表：5YR 6/4 裏：5YR 6/4	白・赤い砂粒を含む、1㎜程の小石を少し含む。	ナデ、原体不明、口縁部片。
32-1 32-2	141-1	98	1	R-9	攪乱	弥生時代後期 ～古墳時代前期	大廓Ⅰ～Ⅱ式		表：7.5YR 3/1 ～ 5/4 裏：5YR 5/6	白い砂粒を多く、輝石をわずかに含む。	ナデ、横ハケ。
31-3	130-2	99	1	-	7 層	晩期	安行 3c 式また は並行期		表：2.5YR 5/6 裏：7.5YR 5/4	1 ～ 3㎜程の白・茶・黒の砂粒を少し含む。	ナデ、隆起線、沈線、刺突文。
31-3	130-1	100	1	-	7 層	晩期	安行 3c 式また は並行期		表：5YR 4/6 裏：5YR 4/6、10YR 5/3	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、隆起線、沈線、刺突文。
		102	1	S-10	7 層	中期			表：5YR 5/6 裏：2.5Y 4/2	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、LR 縄文･横位 or 斜位、条の斜走・縦走。
		103	1	T-9	7 層	中期			表：7.5YR 4/4 裏：10YR 3/3	白い小石を含む。	ナデ、LR 縄文・横位、太い沈線。
31-1	129-3	104	1	-	7 層	後期	堀之内１式		表：2.5Y 3/1 裏：2.5Y 3/2	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、沈線。
30-1	127-1	106	1	U-9	7 層	中期	曽利Ｖ式	18	表：10YR 4/2 ～ 10YR 5/4 裏：10YR 7/6 ～ 3/1	1 ～ 2㎜程の白・半透明・赤茶・黒の砂粒を多く含む。	太い沈線、短沈線。
		107	1	U-9	7 層	中期			表：2.5YR 5/8 裏：2.5Y 5/2	白・透明・赤・黒の砂粒を少し含む。	ナデ。
	141-7	109	1	T-9	攪乱	近世			表：N 1.5/ 裏：N 1.5/、10YR 2/3	白い砂粒を少し含む。	鉄釉、天目茶碗の破片。
30-1	127-4	110	1	T-9	7 層	中期	曽利Ｖ式		表：2.5YR 5/8 裏：10YR 7/4 ～ 10YR 4/1	1 ～ 3㎜程の白・赤茶・黒の砂粒を多く含む。	沈線、ハの字（粗）。
30-2	128-3	112	1	T-9	7 層	中期	加曽利Ｅ３式		表：7.5YR 5/4 裏：7.5YR 5/4	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文・縦位、太い沈線。
30-1	127-3	113	1	T-9	7 層	中期	曽利Ｖ式		表：2.5Y 6/2 裏：2.5Y 6/2 ～ 4/1	1 ～ 2㎜程の白・赤茶・黒の砂粒を含む。	太い沈線、短沈線。
		131	1	T-9	7 層	中期	加曽利Ｅ３式		表：10YR 5/3、5YR 6/6 裏：5YR 5/4	白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文・斜位、条の縦走、太い沈線。
30-2	128-11	132	1	T-9	7 層	中期		5	表：5YR 4/3、10YR 4/2 裏：2.5YR 6/6	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む。	ナデ、底部片。
30-2	128-1	133	1	T-9	7 層	中期	加曽利Ｅ３式	13	表：2.5YR 5/6 裏：10YR 3/3	1 ～ 5㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文・縦位、太い沈線。
30-2	128-11	134	1	T-9	7 層	中期		5	表：5YR 4/3、10YR 4/2 裏：2.5YR 6/6	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む。	ナデ、底部片。
		135	1	T-9	7 層	中期			表：2.5YR 5/6 裏：5YR 5/4	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む。	ナデ。
30-2	128-1	136	1	T-9	7 層	中期	加曽利Ｅ３式	13	表：2.5YR 5/6 裏：10YR 3/3	1 ～ 5㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文・縦位、太い沈線。
		137	1	T-9	7 層	中期	加曽利Ｅ３式		表：7.5YR 4/2 裏：5YR 5/4、7.5YR 4/2	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文・斜位、条の縦走。
30-2	128-2	138	1	T-9	7 層	中期	加曽利Ｅ３式		表：7.5Y 4/1、5YR 4/4 裏：5YR 4/3	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文・縦位、太い沈線。
		139	1	T-9	7 層	中期			表：10YR 4/2 裏：10YR 3/1	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を含む。	ナデ。
30-2	128-4	140	1	T-9	7 層	中期	加曽利Ｅ３式		表：7.5YR 4/4 裏：10YR 3/3	白い小石を含む。	ナデ、RL 縄文・縦位、太い沈線。
30-1	127-6	142	1	S-9	7 層	中期	曽利Ｖ式	10	表：5Y 3/1、2.5Y 5/2 裏：10YR 6/4	1 ～ 2㎜程の白・赤茶・黒の砂粒を多く含む。	沈線、ハの字（粗）。

30-1	127-6	143	1	S-8	7 層	中期	曽利Ⅴ式	10	表：5Y 3/1、2.5Y 5/2 裏：10YR 6/4	1 ～ 2㎜程の白・赤茶・黒の砂粒を多く含む。	沈線、ハの字（粗）。
29-2	126-1	144	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式	14	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 6/8	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	126-2	145	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：2.5YR 5/6、7.5YR 5/4 裏：2.5Y 3/2、5YR 4/6	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	126-1	146	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式	14	表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 6/8	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
31-3	130-4	147	1	Q-9	7 層	晩期	安行 3c 式または並行期		表：10YR 7/4 裏：7.5YR 6/6	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、隆起線、沈線、刺突文。
		148	1	Q-9	7 層	中期			表：2.5Y 6/4 ～ 3/2 裏：10YR 5/4、5YR 6/6	1㎜程の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ。
		149	1	Q-9	7 層	中期			表：2.5YR 5/6 裏：2.5YR 5/8	1㎜程の白・黒い砂粒を含む、雲母を含む。	ナデ。
29-2	126-10	150	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：7.5YR 5/4 裏：10YR 4/2	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	125-1	151	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式	2	表：5YR 4/6 裏：7.5YR 4/3	白・灰色の 1㎜大の粒を多く含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	126-12	152	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：7.5YR 5/4 裏：10YR 3/1、7.5YR 5/4	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
30-2	128-11	153	1	S-11	7 層	中期		5	表：5YR 4/3、10YR 4/2 裏：2.5YR 6/6	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む。	ナデ、底部片。
31-2	129-14	154	1	Q-10	7 層	後期	加曽利 B3 式		表：5Y 3/1、5YR 6/6 裏：5Y 5/2	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、注口部の破片。
		155	1	Q-10	7 層	中期			表：2.5Y 7/4 裏：10YR 7/6	1㎜程の白・半透明・灰・黒の砂粒を少し含む。	ナデ。
31-2	129-15	156	1	Q-10	7 層	後期	加曽利 B3 式		表：5Y 7/2、2.5YR 6/8 裏：N 3/、10YR 7/4	1 ～ 3㎜程の白・赤茶・灰・黒の砂粒を含む。	ナデ、底部片、網代底（２超１潜１送）。
31-3	130-3	157	1	Q-10	7 層	晩期	安行 3c 式または並行期		表：5YR 5/4、N 3/ 裏：5YR 5/4	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、隆起線、沈線、刺突文。
		158	1	Q-9	7 層	中期			表：7.5YR 6/6 裏：5YR 5/6	1 ～ 1.5㎜程の白・黒い砂粒を少し含む、雲母を含む。	丁寧なナデ。
		159	1	R-9	撹乱	中期			表：2.5YR 5/8、2.5Y 7/3 裏：2.5Y 5/2	1 ～ 1.5㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	丁寧なナデ。
29-2	126-13	160	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：5YR 4/6、2.5YR 5/8 裏：10YR 4/2	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
		161	1	R-8	7 層	中期			表：7.5YR 6/6 裏：7.5YR 6/8	1 ～ 1.5㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	ナデ。
31-1	129-1	162-1	1	R-10	7 層	後期	堀之内１式		表：7.5YR 3/1 裏：7.5YR 3/1	白・赤・灰色の粒を含む、輝石を含む。	ナデ、沈線。
31-1	129-2	163	1	R-10	7 層	後期	堀之内１式		表：2.5Y 3/1 裏：10YR 4/2	白い砂粒・輝石の粒を含む。	ナデ、沈線。
29-2	125-2	165	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：7.5YR 4/3 裏：10YR 4/4	白い砂粒を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	126-11	166	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式	11	表：2.5YR 5/6、2.5Y 6/3 裏：2.5Y 3/2、5YR 6/6	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	125-1	167	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式	2	表：5YR 4/6 裏：7.5YR 4/3	白・灰色の 1㎜大の砂粒を多く含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	125-1	168	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式	2	表：5YR 4/6 裏：7.5YR 4/3	白・灰色の 1㎜大の砂粒を多く含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	125-1	169	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式	2	表：5YR 4/6 裏：7.5YR 4/3	白・灰色の 1㎜大の砂粒を多く含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	126-6	170	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：7.5YR 5/4、2.5YR 5/6 裏：2.5Y 4/1	1 ～ 2㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
29-2	126-11	171	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式	11	表：2.5YR 5/6、2.5Y 6/3 裏：2.5Y 3/2、5YR 6/6	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒い砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
		174	1	R-11	7 層	中期			表：5YR 6/8、10YR 6/4 裏：5YR 6/6	1 ～ 3㎜程の白・透明・赤茶・灰・黒の砂粒を多く含む。	ナデ、底部片。
		175	1	T-11	7 層	中期			表：5YR 5/6 裏：2.5Y 4/2	白い砂粒を多く含む。	ナデ、底部片。
29-1	124-6	176	1	T-11	7 層	中期	阿玉台Ⅰａ式または並行期		表：2.5YR 4/4、10YR 3/1 裏：10YR 3/1	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、垂下隆起線（懸垂文）、底部片。
		177	1	U-10	7 層	中期			表：5YR 6/6 裏：10YR 7/4	1 ～ 2㎜程の白・半透明・黒の砂粒を含む。	ナデ。
		178	1	S-9	7 層	中期			表：10YR 6/4、N 2/ 裏：10YR 6/6	1 ～ 2.5㎜程の白・半透明・赤茶・黒の砂粒を含む。	ナデ。
29-2	126-5	179	1	R-9	7 層	中期	曽利Ⅳ式		表：10YR 5/2 ～ 6/6 裏：10YR 5/2、7.5YR 5/6	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む、雲母を含む。	隆起線文、縦位条線文、蛇行沈線文。
30-2	128-12	180	1	R-11	7 層	前期		3	表：5YR 5/6 裏：7.5YR 4/4	白い砂粒を多く含む、輝石を含む。	ナデ、RL 縄文・横位、波状口縁。
30-2	128-8	181	1	R-11	7 層	中期			表：2.5YR 5/6 裏：5Y 3/1	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文・横位。
30-2	128-10	184	1	Q-14	7 層	中期			表：2.5Y 5/2 裏：7.5YR 5/4、2.5Y 4/2	1㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文・横位、口縁部片。
30-2	128-7	185-1	1	Q-14	7 層	中期		6	表：2.5Y 4/2、2.5YR 5/6 裏：5Y 3/2	白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文・横位、粘土紐貼付。
30-2	128-7	185-2	1	Q-14	7 層	中期		6	表：2.5Y 4/2、2.5YR 5/6 裏：5Y 3/2	白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文・横位、粘土紐貼付。

30-2	128-7	186	1	Q-14	7 層	中期		6	表：2.5Y 4/2、2.5YR 5/6 裏：5Y 3/2	白・黒い砂粒を含む。	ナデ、RL 縄文・横位、粘土紐貼付。
		187	1	Q-14	7 層	中期			表：5YR 6/6 裏：2.5Y 6/3	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文・横位。
	124-1	188	1	Q-13	7 層	中期	勝坂 1 式		表：5YR 6/6 裏：10YR 6/4	白・透明・黒の砂粒を含む。	狢沢式、角押文。
		189	1	R-13	7 層	中期？			表：5YR 5/6 裏：2.5Y 4/3	白・黒い砂粒を含む。	風化が著しい。
		190	1	R-13	7 層	中期		16	表：5YR 5/6 裏：10YR 5/4	1 ～ 4㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、LR 縄文・横位。
31-1	129-4	191	1	R-13	7 層	後期	堀之内 1 式		表：10YR 6/6 裏：5YR 6/6	白い砂粒を少し含む、黒い砂粒を含む。	ナデ　沈線。
		192	1	R-13	7 層	中期			表：10YR 6/4 裏：10YR 5/3	1 ～ 2㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む。	ナデ、LR 縄文・横位、口縁部片。
		193	1	R-13	7 層	中期		16	表：5YR 5/6 裏：10YR 5/4	1 ～ 4㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、LR 縄文・横位。
29-1	124-5	194	1	R-13	7 層	中期	勝坂 3 式		表：5YR 4/6 裏：5YR 4/4	白い砂粒を含む。	井戸尻 1 式、無文。
29-1	124-2	195	1	R-13	7 層	中期	勝坂 3 式		表：2.5YR 4/6 裏：2.5Y 3/1、10YR 5/4	白・黒い砂粒を少し含む。	井戸尻 1 式、隆起線、爪形文、沈線。
29-1	124-4	196	1	R-13	7 層	中期	勝坂 3 式		表：2.5YR 4/8 裏：2.5YR 5/6、7.5YR 6/6	1 ～ 3㎜程の白・茶・黒の砂粒を少し含む。	井戸尻 1 式、隆起線、爪形文、沈線。
29-1	124-3	197	1	R-13	7 層	中期	勝坂 3 式		表：2.5YR 3/4 裏：10YR 5/4	白・半透明・黒の砂粒を少し含む。	井戸尻 1 式、隆起線、爪形文、沈線。
30-1	127-9	199	1	S-13	7 層	中期	曽利 V 式	7	表：10YR 7/6、2.5YR 5/6 裏：10YR 3/1	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を含む。	X 字把手、RL 縄文・横位。
		200	1	S-13	7 層	中期			表：10YR 6/6、2.5YR 5/6 裏：10YR 6/6、2.5YR 3/2	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を含む。	ナデ、底部片。
30-1	127-9	201	1	S-13	7 層	中期	曽利 V 式	7	表：10YR 7/6、2.5YR 5/6 裏：10YR 3/1	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を含む。	X 字把手、RL 縄文・横位。
30-1	127-9	202	1	S-13	7 層	中期	曽利 V 式	7	表：10YR 7/6、2.5YR 5/6 裏：10YR 3/1	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を含む。	X 字把手、RL 縄文・横位。
		203	1	R-13	7 層	中期			表：5YR 4/4 裏：10YR 4/3	白い砂粒を含む。	ナデ、底部片。
		204	1	R-13	7 層	中期			表：5YR 5/6 裏：10YR 5/4	白い砂粒を含む。	ナデ、底部片。
		205	1	R-12	7 層	中期			表：10YR 7/6、5YR 6/6 裏：5Y 4/2	1 ～ 5㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、底部片。
		206	1	P-12	7 層	中期			表：7.5YR 4/4 裏：7.5YR 4/4	白い 1 ～ 2㎜程の小石を含む。	ナデ。
		207	1	Q-12	7 層	中期			表：2.5Y 7/4、5YR5/6 裏：2.5YR 5/8、2.5Y 4/2	1 ～ 2㎜程の白・半透明・黒の砂粒を多く含む。	ナデ、RL 縄文・横位。
		208	1	Q-11	7 層	中期			表：5YR 4/4 裏：N 2/、10YR 3/2	1 ～ 6㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文・横位。
30-2	128-12	209	1	R-11	7 層	前期		3	表：5YR 5/6 裏：7.5YR 4/4	白い砂粒を多く含む、輝石を含む。	ナデ、RL 縄文・横位、波状口縁。
30-2	128-12	210	1	R-11	7 層	前期		3	表：5YR 5/6 裏：7.5YR 4/4	白い砂粒を多く含む、輝石を含む。	ナデ、RL 縄文・横位、波状口縁。
		211	1	R-11	7 層	中期			表：2.5YR 5/6、7.5Y 3/1 裏：7.5YR 4/3、10YR 3/1	1 ～ 5㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、RL 縄文・横位。
30-2	128-9	212	1	V-10	7 層	中期		15	表：10YR 6/4 裏：7.5YR 6/6、10YR 7/6	1 ～ 2㎜程の白・半透明・黒の砂粒を少し含む。	ナデ、L 撚糸文・斜位。
30-2	128-9	213	1	V-10	7 層	中期		15	表：10YR 6/4 裏：7.5YR 6/6、10YR 7/7	1 ～ 3㎜程の白・半透明・黒の砂粒を少し含む。	ナデ、L 撚糸文・斜位。
31-1	129-5	214	1	V-10	7 層	後期	加曽利 B3 式		表：10YR 4/2 ～ 3/1 裏：2.5YR 4/1	白・黒い砂粒を含む。	ナデ、LR 縄文・横位、磨消縄文、沈線区画。
		215	1	U-9	7 層	中期			表：2.5YR 4/8 裏：10YR 6/4、2.5YR 5/6	1 ～ 2㎜程の白・黒い砂粒を多く含む。	ナデ、底部片。
30-1	127-7	216	1	S-13	7 層	中期	曽利 V 式		表：5YR 6/6 裏：10YR 6/4	白い砂粒を少し、黒い砂粒を多く含む、雲母を含む。	沈線、ハの字（粗）。
		217	1	Q-10	7 層	中期			表：7.5YR 6/6 裏：10YR 8/4 ～ 5/1	1 ～ 2㎜程の白・半透明・黒の砂粒を含む。	ナデ。
29-2	126-14	450	1	-	7 層	中期	曽利 Ⅱ式		表：2.5YR 6/6 裏：2.5YR 5/8	1 ～ 2㎜程の白・半透明・黒の砂粒を含む。	ナデ、懸垂文。
	141-6	451-1	1	-	表採	弥生時代後期 ～古墳時代前期	大廓 Ⅰ ～ Ⅱ式 または並行期		表：10YR 6/4 裏：5YR 6/6	1 ～ 6㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ。
	141-3	451-2	1	-	表採	弥生時代後期 ～古墳時代前期	大廓 Ⅰ ～ Ⅱ式 または並行期		表：7.5YR 5/4 裏：10YR 6/3	1 ～ 3㎜程の白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ。
	141-2	451-3	1	-	表採	弥生時代後期 ～古墳時代前期	大廓 Ⅰ ～ Ⅱ式 または並行期		表：10YR 5/3 裏：10YR 5/3	白・黒い砂粒を少し含む。	ナデ、沈線。

第23表　今里薬師海道遺跡　出土石器一覧表

図版	挿図	遺物番号	区	グリッド	層位	器　種	接合	石材	産地	長（㎜）	幅（㎜）	厚（㎜）	重量（g）	備考
32-3	131-1	24	1	T-10	7 層	石鏃		Ob	SWHD	13.6	10	2.2	0.28	
32-3	131-8	25	1	T-9	7 層	剥片	9	Ob	KZOB	14.6	15.1	3.7	0.76	
32-3	133-3	26	1	T-10	7 層	石斧		SSC		106	52.6	19	122.02	
	139-3	51	1	S-9	7 層	石皿		An（Py）		180	130	77	2125	

	139-5	54	1	S-9	7 層	石皿		An（Py）		334	289	111	12980	
32-3	131-13	63	1	T-9	7 層	剥片		Ob	KZOB	5.5	21.3	6.4	0.43	
32-3	131-7	64	1	T-10	7 層	剥片		Ob	KZOB	8.7	5.8	1.2	0.05	
	139-4	69	1	U-10	7 層	石皿		An（Py）		260	244	63	6000	
32-3	131-4	105	1	U-9	7 層	楔形石器		Ob	SWHD	22	17.5	12.1	3.93	
		108	1	U-9	7 層	砕片		Ob	不可	-	-	-	0.01	
		114	1	T-9	7 層	砕片		Ob	不可	-	-	-	不可	
32-3	131-12	115	1	T-9	7 層	剥片		Ob	KZOB	15.7	10	2.1	0.24	
32-3	131-3	116	1	T-9	7 層	石鏃		Ob	KZOB	15.5	22.3	7	2.52	未成品。
		117	1	T-9	7 層	砕片		Ob	不可	-	-	-	不可	
		118	1	T-9	7 層	砕片		Ob	SWHD	-	-	-	0.07	
32-3	131-5	119	1	T-9	7 層	剥片	9	Ob	KZOB	15.7	25.4	4.3	1.02	25 と接合状態。
32-3	131-14	120	1	T-9	7 層	石核		Ob	SWHD	14.9	20.4	6.9	2.39	
		122	1	T-9	7 層	砕片		Ob	KZOB	-	-	-	0.03	
		125	1	T-9	7 層	砕片		Ob	KZOB	-	-	-	0.03	
32-3	131-9	127	1	T-9	7 層	剥片		Ob	KZOB	9.7	5.1	1.9	0.07	
32-3	131-2	128	1	T-9	7 層	石鏃		Ob	KZOB	11.9	5.9	3.3	0.15	
32-3	131-15	129	1	T-9	7 層	微細な剥離のある剥片		Ob	不可	18.8	15.3	5.8	1.16	
		130	1	T-9	7 層	砕片		Ob	KZOB	-	-	-	0.02	
32-3	133-1	141	1	T-9	7 層	石斧		MSS		91.7	46.4	21	118.82	
32-3	132-3	172	1	S-11	7 層	石斧		An（Py）		70.6	49.3	21.5	112	
32-3	131-16	182	1	Q-14	7 層	石斧		CSS		99.3	35.6	18.4	81.39	
32-3	132-1	183	1	Q-14	7 層	石斧		SSC		87	45.7	9.7	54.12	
		198	1	R-13	7 層	剥片		SSC		37.9	26	7.2	9.14	石斧調整剥片。
	138-2	227	1	Q-9	7 層	台石		An（Py）		225	210	54	3500	
	138-5	228	1	Q-9	7 層	石皿		An（Py）		118	78	53	744	割れ。
	136-3	255	1	S-9	7 層	敲石		Ba		85.8	69	51.5	431	
	135-1	266	1	R-10	7 層	磨石		VAn		100	78.3	49.9	489	
	138-3	282	1	S-10	7 層	台石		An（Py）		248	220	88	8000	
	138-1	283	1	S-10	7 層	台石		An（Py）		208	130	75	2778	
	135-3	286	1	S-10	7 層	磨石		VAn		120	84	61	814	被熱。
	136-2	290	1	S-10	7 層	敲石		An（Py）		132	92	52	1029	
	137-3	291	1	S-10	7 層	敲石		An（Py）		115	90	74	1244	
	136-1	295	1	R-10	7 層	敲石		An（Py）		110	98	55	825	
	139-2	298	1	R-11	7 層	石皿		An（Py）		237	165	81	4100	
	134-1	311	1	R-12	7 層	石斧		An（Py）		120	84.4	21.2	257	未成品。
	137-1	331	1	R-13	7 層	敲石		An（Py）		97	75	61	783	被熱。
	137-2	334	1	Q-13	7 層	敲石		Di		111	86	56	821	
	140-3	378	1	T-11	7 層	石皿		An（Py）		465	320	140	30000	
	134-2	385	1	U-10	7 層	礫石斧		An（Py）		105	128	50	926	
	139-1	410	1	V-10	7 層	石皿		An（Py）		161	140	47	1535	被熱、割れ。
	135-2	422	1	T-10	7 層	磨石		VAn		127	79	61	913	
	140-2	431	1	T-9	7 層	石皿		An（Py）		350	124	216	14700	
	138-4	432	1	T-9	7 層	石皿		An（Py）		90	52	44	233	被熱、割れ。
32-3	133-2	435	1	T-9	7 層	石斧		Sh		65.8	56.3	17	75.21	
32-3	132-2	437	1	T-9	7 層	石斧		An（Py）		93.3	50.2	13.6	97.03	
	135-5	443	1	R-11	7 層	磨石		VAn		145	80	36	605	
	140-1	444	1	Q-11	7 層	石皿		VBa		350	295	85	11620	
		447	1	-	表採	剥片		Ob	KZOB	20.4	13.1	2.2	0.55	
	135-4	452	1	-	表採	磨石		VAn		89.8	74.1	45.8	415	
32-3	131-6	123-1	1	T-9	7 層	剥片		Ob	SWHD	9.3	6.1	1.4	0.09	
		123-2	1	T-9	7 層	砕片		Ob	不可	-	-	-	0.01	
32-3	131-11	124-1	1	T-9	7 層	剥片		Ob	KZOB	15.3	21.7	4.5	1.26	
		124-2	1	T-9	7 層	砕片		Ob	不可	-	-	-	0.02	
32-3	131-10	126-1	1	T-9	7 層	剥片		Ob	KZOB	10.4	7.6	3.2	0.19	
		126-2	1	T-9	7 層	砕片		Ob	KZOB	-	-	-	0.03	
		162-2	1	R-10	7 層	砕片		Ob	不可	-	-	-	不可	

付編　自然科学分析

付編１　黒曜石産地推定結果

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校名誉教授　望月　明彦

１　分析法　　エネルギー分散蛍光X線分析法（EDX）

２　分析装置　　セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光X線分析計　SEA－2110L

３　産地推定法

・得られた蛍光X線スペクトル強度を元素記号で表すとする。
・二つの方法とも以下の指標を用いる。
・指標　　Sum=Rb+Sr+Y+Zr とする。
　　Rb分率 = Rb/Sum
　　Sr分率 = Sr/Sum
　　Zr分率 = Zr/Sum
　　Mn*100/Fe
　　log （Fe/K）
・産地のシートに上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。
・測定結果から上記の指標を算出する。
・以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。
・下記の二つの方法で産地推定を行う。

①　判別図法
　用いる指標　　：横軸：Rb分率、縦軸：Mn/Fe
　　横軸：Sr分率、縦軸：log（Fe/K）
　　特長　　：簡単な計算であり、誰にでも作成可能
　　視覚的に確認でき、分かりやすい。
　　推定方法　　：遺跡出土試料を蛍光X線分析し、指標を計算。
　　指標を図にプロットする。
　　重なった原石産地を推定結果とする。

②　判別分析（推定結果表参照）
　用いる指標　　：算出された指標全て
　　特長　　：各産地との類似度を距離で算出
　　既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法である。
　　→　未知の産地の判別はできない。
　　推定方法　　：判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。
　　この産地は試料と２次元的に最も距離が近い。
　　判別分析ではこの距離を数学的にn次元で計算する。
　　試料と最も距離（マハラノビス距離）が近い産地を推定結果とする。
　　この距離から、各産地に属する確率を計算する。

第24表　葛山上條遺跡　出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK11-00001	L149-1	210	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.4	1	KZSN	33.91	0
MK11-00002	L149-2	47	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	15.88	1	KZSN	42.74	0
MK11-00003	L149-3	66	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	13.44	1	KZSN	78.8	0
MK11-00004	L149-4	78	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	7.33	1	KZSN	59.1	0
MK11-00005	L149-5	127	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.66	1	SBIY	110.21	0
MK11-00006	L149-6	166	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.08	1	HNKT	121.88	0
MK11-00007	L149-7	183	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	17.7	1	WOMS	60.26	0
MK11-00008	L149-8	211	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.13	1	SBIY	85.92	0
MK11-00009	L149-9	221	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.14	1	WDTN	91	0
MK11-00010	L149-10	229	天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.28	1	HNKT	171.3	0
MK11-00011	L149-11	241	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.42	1	KZSN	63.17	0
MK11-00012	L149-12	242	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.05	1	SBIY	68.67	0
MK11-00013	L149-13	299	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.68	1	SBIY	63.59	0
MK11-00014	L149-14	303	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.79	1	SBIY	83.74	0
MK11-00015	L149-15	305	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	2.96	1	KZSN	42.89	0
MK11-00016	L149-16	367	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.98	1	KZSN	57.23	0
MK11-00017	L149-17	371	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.24	1	KZSN	48.74	0
MK11-00018	L149-18	372	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.48	1	KZSN	45.95	0
MK11-00019	L149-19	373	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9	1	WDTN	66.68	0
MK11-00020	L149-20	398	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.2	1	WDTN	82.35	0
MK11-00021	L149-21	421	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.98	1	WDTN	60.17	0
MK11-00022	L149-22	454	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	10.22	1	KZSN	46.49	0
MK11-00023	L149-23	549	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	10.2	1	KZSN	28.54	0
MK11-00024	L149-24	604	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	15.88	1	KZSN	97.01	0
MK11-00025	L149-25	613	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	1.81	1	KZSN	45.9	0
MK11-00026	L149-26	621	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.08	1	SBIY	63.49	0
MK11-00027	L149-27	631	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.95	1	WDTN	63.73	0
MK11-00028	L149-28	632	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	8.47	1	KZSN	35.73	0
MK11-00029	L149-29	652	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.72	0.992	WDHY	11.97	0.008
MK11-00030	L149-30	656	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.02	1	KZSN	40.89	0
MK11-00031	L149-31	657	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	8.83	1	KZSN	60.71	0
MK11-00032	L149-32	658	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.3	1	SBIY	93.47	0
MK11-00033	L149-33	686	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.94	1	KZSN	38.94	0
MK11-00034	L149-34	692	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.03	1	KZSN	65.34	0
MK11-00035	L149-35	886	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	10.34	1	KZSN	90.05	0
MK11-00036	L149-36	900	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.71	1	SBIY	65.98	0
MK11-00037	L149-37	970	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00038	L149-38	974	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	10.85	1	KZSN	85.14	0
MK11-00039	L149-39	990	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.01	1	WDTN	74.5	0
MK11-00040	L149-40	991	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.16	1	WDTN	66.92	0
MK11-00041	L149-41	992	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.35	1	SDA1	114.29	0
MK11-00042	L149-42	993	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.59	1	HNKI	66.79	0
MK11-00043	L149-43	994	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.23	1	MZYK	69.53	0
MK11-00044	L149-44	995	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00045	L149-45	996-1,2,4	天城柏峠群	AGKT	AGKT	11.02	1	HNKT	110.24	0
MK11-00046	L149-46	996-10	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.56	1	HNKT	94.77	0
MK11-00047	L149-47	996-3	天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.88	1	HNKT	103.95	0
MK11-00048	L149-48	996-5	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.77	1	HNKT	133.01	0
MK11-00049	L149-49	996-6	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00050	L149-50	996-7	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00051	L149-51	996-8	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00052	L149-52	996-9	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		

第25表　葛山上大端ヶⅡ遺跡　出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MO5-22	L151-1	1358	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MO5-22	L151-2	2470	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.88	1	SBIY	89.62	0

MK11-00540	L151-3	22	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.31	1	SBIY	84.25	0
MK11-00541	L151-4	21	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.23	1	KZSN	70.54	0
MK11-00542	L151-5	32	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	4.13	1	KZSN	47.31	0
MK11-00543	L151-6	183	和田小深沢群	WDKB	WDKB	7.07	1	WDTY	29.73	0
MK11-00544	L151-7	191	和田小深沢群	WDKB	WDKB	14.47	0.998	WDTY	27.93	0.002
MK11-00545	L151-8	344	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00546	L151-9	345	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	18.68	0.100	KZSN	31.47	0.001
MK11-00547	L151-10	347,1464-1, 1464-2	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.7	1	WDHY	23.84	0
MK11-00548	L151-11	353	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.51	1	WDTN	95.96	0
MK11-00549	L151-12	693	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.88	1	WDTN	115.44	0
MK11-00550	L151-13	762	天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.87	1	KKO1	147.12	0
MK11-00551	L151-14	920	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.82	1	WDTN	96.42	0
MK11-00552	L151-15	966	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.89	1	SBIY	61.48	0
MK11-00553	L151-16	1320	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.32	1	HNKI	95.64	0
MK11-00554	L151-17	1322	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	15.6	1	TSTY	111.05	0
MK11-00555	L151-18	1323	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	23.58	1	KZSN	79.55	0
MK11-00556	L151-19	1904	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.71	1	HNKI	48.28	0
MK11-00557	L151-20	1905	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.76	1	KZSN	28.5	0
MK11-00558	L151-21	1906	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.8	1	SBIY	61.8	0
MK11-00559	L151-22	2360	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.4	1	KZSN	59.15	0
MK11-00560	L151-23	2419	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.31	1	SBIY	132.59	0
MK11-00561	L151-24	2420	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.13	1	SBIY	54.57	0
MK11-00562	L151-25	2461	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.09	1	WDTN	95.35	0
MK11-00563	L151-26	2480	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	8.56	1	KZSN	44.07	0
MK11-00564	L151-27	2481	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.14	1	HNKI	61.88	0

第26表　今里薬師海道遺跡　出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK11-00565	L154-1	24	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.39	1	SBIY	76.49	0
MK11-00566	L154-2	25	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.94	1	KZSN	61.4	0
MK11-00567	L154-3	63	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	2.69	1	KZSN	54.32	0
MK11-00568	L154-4	64	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.48	1	KZSN	48.26	0
MK11-00569	L154-5	105	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.91	1	SBIY	92.63	0
MK11-00570	L154-6	108	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00571	L154-7	114	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00572	L154-8	115	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	7.61	1	KZSN	76.68	0
MK11-00573	L154-9	116	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.54	1	KZSN	74.62	0
MK11-00574	L154-10	117	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00575	L154-11	118	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.83	1	WDTN	68.63	0
MK11-00576	L154-12	120	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.96	1	WDTN	85.78	0
MK11-00577	L154-13	121	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	18.19	1	KZSN	64.02	0
MK11-00578	L154-14	123-1	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.15	1	WDTN	88.61	0
MK11-00579	L154-15	123-2	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00580	L154-16	124-1	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.16	1	KZSN	28.8	0
MK11-00581	L154-17	124-2	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00582	L154-18	125	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	14.04	1	KZSN	65.85	0
MK11-00583	L154-19	126-1	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	19.71	1	KZSN	82.59	0
MK11-00584	L154-20	126-2	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.72	1	KZSN	44.81	0
MK11-00585	L154-21	127	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	4.46	1	KZSN	67.21	0
MK11-00586	L154-22	128	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	4.07	1	KZSN	45.06	0
MK11-00587	L154-23	129	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK11-00588	L154-24	130	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	13.7	1	KZSN	61.47	0
MK11-00589	L154-25	162	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK11-00590	L154-26	表採	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.52	1	KZSN	45.59	0

＜表中用語＞判別図判別群：判別図法によって推定された産地
判別分析：第１候補産地…判別分析により推定された産地の第１候補
第２候補産地…判別分析により推定された産地の第２候補
判別群：候補産地記号

第27表　産地原石判別群（SEIKO SEA-2110L蛍光X線分析装置による）

都道府県	地図No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地（分析数）
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂（19）、八号沢露頭（31）、八号沢（79）、黒曜の沢（6）、幌加林道（4）
			黒曜の沢群		STKY		
	2	上士幌	三股群		KSMM		十三ノ沢（16）
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住（25）、清水ノ沢（9）
	4	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台（6）、雨紛台（5）、春光台（5）
			春光台群		AKSK		
	5	名寄	布川群		NYHK		布川（10）
	6	新十津川	須田群		STSD		須田（6）
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川（25）、土木川（15）
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉（16）
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸（34）
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園（8）、六角沢（8）、岡崎浜（40）
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群		OGKS		金ヶ崎温泉（37）、脇本海岸（98）
			脇本群		OGWM		脇本海岸（16）
山形	12	羽黒	月山群		HGGS		月山荘前（30）, 朝日町田代沢（18）, 櫛引町中沢（18）
			今野川群		HGIN		今野川（9）、大網川（5）
新潟	13	新発田	板山群		SBIY		板山牧場（40）
	14	新津	金津群		NTKT		金津（29）
栃木	15	高原山	甘湯沢群	高原山１群	THAY	TKH1	甘湯沢（50）、桜沢（20）
			七尋沢群	高原山２群	THNH	TKH2	七尋沢（9）、自然の家（9）
長野	16	和田（WD）	鷹山群	和田峠１群	WDTY	WDT1	鷹山（53）、小深沢（54）、東餅屋（36）、芙蓉ライト（87）、古峠（50）、土屋橋北（83）、土屋橋西（29）、土屋橋南（68）、丁字御領（18）
			小深沢群	和田峠２群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠３群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠４群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠５群	WDTM	WDT5	
			芙蓉ライト群		WDHY		
			古峠群		WDHT		
		和田（WO）	ブドウ沢群	男女倉１群	WOBD	OMG1	ブドウ沢（36）、ブドウ沢右岸（18）、牧ヶ沢上（33）、牧ヶ沢下（36）、高松沢（40）
			牧ヶ沢群	男女倉２群	WOMS	OMG2	
			高松沢群	男女倉３群	WOTM	OMG3	
	17	諏訪	星ヶ台群		SWHD		星ヶ塔第１鉱区（36）、星ヶ塔第２鉱区（36）、星ヶ台Ａ（36）、星ヶ台Ｂ（11）、水月霊園（36）、水月公園（13）、星ヶ塔のりこし（36）
				霧ヶ峰系	SWHD	KRM	
	18	蓼科	冷山群		TSTY		冷山（33）、麦草峠（36）、麦草峠東（33）、渋ノ湯（29）、美し森（4）、八ヶ岳７（17）、八ヶ岳９（18）、双子池（34）
				蓼科系		TTS	
			双子山群		TSHG		双子池（26）
			擂鉢山群		TSSB		擂鉢山（31）、亀甲池（8）
神奈川	19	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯（34）
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿（71）
			黒岩橋群	箱根系Ａ群	HNKI	HKNA	黒岩橋（9）
	21		鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋（30）
静岡			上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀（18）
	22	天城	柏峠群	柏峠	AGKT	KSW	柏峠（80）
東京	23	神津島	恩馳島群	神津島１群	KZOB	KOZ1	恩馳島（100）、長浜（43）、沢尻湾（8）
			砂糠崎群	神津島２群	KZSN	KOZ2	砂糠崎（40）、長浜（5）
島根	24	隠岐	久見群		OKHM		久見パーライト中（30）、久見採掘現場（18）
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸（30）、加茂（19）、岸浜（35）
			岬群		OKMT		岬地区（16）
その他			NK 群		NK		中ッ原 1G、5G（遺跡試料）, 原石産地は未発見

第143図　黒曜石産地位置

第28表　出土黒曜石産地組成（３遺跡分）

※灰色部分は、該当産地を示す。

エリア	判別群	記号	葛山上條遺跡 試料数	葛山上條遺跡 %	葛山大端ヶⅡ遺跡 試料数	葛山大端ヶⅡ遺跡 %	今里薬師海道遺跡 試料数	今里薬師海道遺跡 %
和田(WO)	ブドウ沢	WOBD	0	0	0	0	0	0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0	0	0	0	0
	高松沢	WOTM	0	0	0	0	0	0
和田(WD)	芙蓉ライト	WDHY	0	0	0	0	0	0
	鷹山	WDTY	1	2.17	1	4.17	0	0
	小深沢	WDKB	0	0	2	8.33	0	0
	土屋橋北	WDTK	0	0	0	0	0	0
	土屋橋西	WDTN	0	0	0	0	0	0
	土屋橋南	WDTM	0	0	0	0	0	0
	古峠	WDHT	0	0	0	0	0	0
諏訪	星ヶ台	SWHD	15	32.61	9	37.5	5	26.32
蓼科	冷山	TSTY	0	0	0	0	0	0
	双子山	TSHG	0	0	0	0	0	0
	擂鉢山	TSSB	0	0	0	0	0	0
天城	柏峠	AGKT	6	13.04	1	4.17	0	0
箱根	畑宿	HNHJ	3	6.52	3	12.5	0	0
	鍛冶屋	HNKJ	0	0	0	0	0	0
	黒岩橋	HNKI	0	0	0	0	0	0
	上多賀	HNKT	0	0	0	0	0	0
	芦ノ湯	HNAY	0	0	0	0	0	0
神津島	恩馳島	KZOB	21	45.65	8	33.33	14	73.68
	砂糠崎	KZSN	0	0	0	0	0	0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0	0	0	0	0
	七尋沢	THNH	0	0	0	0	0	0
新津	金津	NTKT	0	0	0	0	0	0
新発田	板山	SBIY	0	0	0	0	0	0
深浦	八森山	HUHM	0	0	0	0	0	0
木造	出来島	KDDK	0	0	0	0	0	0
男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0	0	0	0	0
	脇本	OGWM	0	0	0	0	0	0
羽黒	月山	HGGS	0	0	0	0	0	0
	今野川	HGIN	0	0	0	0	0	0
北上川	折居１群	KKO1	0	0	0	0	0	0
	折居２群	KKO2	0	0	0	0	0	0
	折居３群	KKO3	0	0	0	0	0	0
宮崎	湯ノ倉	MZYK	0	0	0	0	0	0
仙台	秋保１群	SDA1	0	0	0	0	0	0
	秋保２群	SDA2	0	0	0	0	0	0
色麻	根岸	SMNG	0	0	0	0	0	0
塩竈	塩竈港群	SGSG	0	0	0	0	0	0
小泊	折腰内	KDOK	0	0	0	0	0	0
魚津	草月上野	UTHT	0	0	0	0	0	0
高岡	二上山	TOFK	0	0	0	0	0	0
佐渡	真光寺	SDSK	0	0	0	0	0	0
	金井二ッ坂	SDKH	0	0	0	0	0	0
隠岐	久見	OKHM	0	0	0	0	0	0
	岬地区	OKMT	0	0	0	0	0	0
	箕浦	OKMU	0	0	0	0	0	0
白滝	８号沢	STHG	0	0	0	0	0	0
	黒曜の沢	STKY	0	0	0	0	0	0
	赤石山頂	STSC	0	0	0	0	0	0
赤井川	曲川	AIMK	0	0	0	0	0	0
豊浦	豊泉	TUTI	0	0	0	0	0	0
置戸	安住	ODAZ	0	0	0	0	0	0
十勝	三股	TKMM	0	0	0	0	0	0
名寄	布川	NYHA	0	0	0	0	0	0
旭川	高砂台	AKTS	0	0	0	0	0	0
	春光台	AKSK	0	0	0	0	0	0
不明産地１	NK	NK	0	0	0	0	0	0
下呂石		GERO	0	0	0	0	0	0
合計			46	99.99	24	100	19	100
不可など			6	-	1	-	7	-
総計			52	-	25	-	26	-

付編２　葛山大端ヶⅡ遺跡（151地点）における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

葛山大端ヶⅡ遺跡の測定対象試料は、遺物包含層JO層から出土した土器付着炭化物（分析番号１：IAAA－111095、分析番号２：IAAA－111096、分析番号４：IAAA－111098）、１号集石出土土器付着炭化物（分析番号３：IAAA－111097）、５号土坑出土土器付着炭化物（分析番号５：IAAA－111099）、３号土坑出土炭化材片（分析番号６：IAAA－111100）の合計６点である（第29表）。土器付着炭化物は、採取位置の指定に従って、１～４は胴部外面、５は口縁部外面より各々採取された。

２　測定の意義

土器付着炭化物の測定では、土器型式の年代観と測定で得られる年代の整合性を検討する。また、遺構出土試料の測定で、遺構の年代を把握する。

３　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常１mol/ℓ（１M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから１Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、１M未満の場合は「AaA」と第29表に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径１㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４　測定方法

加速器をベースとした^{14}C－AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）δ^{13}C は、試料炭素の^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第29表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568

年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第29表に、補正していない値を参考値として第30表に示した。^{14}C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）pMC （percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を第29表に、補正していない値を参考値として第30表に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（1σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第30表に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測定結果

試料の^{14}C年代は、遺物包含層JO層から出土した土器付着炭化物１が5040±30yrBP、２が5170±30yrBP、４が5130±30yrBP、１号集石出土土器付着炭化物３が4840±20yrBP、５号土坑出土土器付着炭化物５が5000±30yrBP、３号土坑出土炭化材片６が4420±30yrBPである。JO層出土の３点のうち、２と４の値は誤差（±１σ）の範囲で重なり、近い年代を示す。１の値はわずかに重ならない。JO層上面で検出された1号集石出土の３は、JO層出土の３点よりも若干新しい年代値を示した。

暦年較正年代（１σ）は、１が3938～3789cal BCの間に２つの範囲、２が4033～3961cal BCの間に２つの範囲、３が3655～3545cal BCの間に２つの範囲、４が3975～3822cal BCの間に３つの範囲、５が3797～3713cal BCの範囲、６が3263～2945cal BCの間に４つの範囲で示され、１、２、４、５は縄文時代前期後葉頃、３が前期後葉から末葉頃、６が中期前葉から中葉頃に相当する。

土器付着炭化物が採取された土器は、１、２、４、５が諸磯b式、３が諸磯c式とされ、土器型式と年代値の関係はおおむね整合的と見られる。

試料の炭素含有率は、土器付着炭化物が約20～56％、炭化材片が約60％であった。土器付着炭化物は、ものによって状態が異なる場合があり、また土器の胎土が若干混入することでこの数値が下がる場合もある。今回の試料について、化学処理、測定上の問題は特に認められない。

第29表　年代測定結果一覧表

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C（‰）（AMS）	δ 13C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-111095	分析番号 1（遺物番号 50+277+278+281+288+293）	遺構：包含層 層位：JO	土器付着炭化物	AaA	-26.60 ± 0.59	5,040 ± 30	53.39 ± 0.18
IAAA-111096	分析番号 2（遺物番号 56）	遺構：包含層 層位：JO	土器付着炭化物	AaA	-26.17 ± 0.66	5,170 ± 30	52.52 ± 0.17
IAAA-111097	分析番号 3（遺物番号 1257）	遺構：1 号集石 層位：JO 上面	土器付着炭化物	AaA	-23.57 ± 0.44	4,840 ± 20	54.72 ± 0.17
IAAA-111098	分析番号 4（遺物番号 1309+1484+1538+1540）	遺構：包含層 層位：JO	土器付着炭化物	AaA	-26.44 ± 0.45	5,130 ± 30	52.80 ± 0.17
IAAA-111099	分析番号 5（遺物番号 1364）	遺構：5 号土坑 層位：埋土 1 層	土器付着炭化物	AaA	-27.47 ± 0.48	5,000 ± 30	53.67 ± 0.17
IAAA-111100	分析番号 6（遺物番号 1340）	遺構：3 号土坑 層位：埋土 5 層	炭化物	AaA	-30.41 ± 0.55	4,420 ± 30	57.66 ± 0.19

［#4576］

第30表　年代測定結果一覧表

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用（yrBP）	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-111095	5,070 ± 30	53.22 ± 0.17	5,040 ± 27	3938calBC - 3871calBC（52.6%） 3811calBC - 3789calBC（15.6%）	3950calBC - 3767calBC（95.4%）
IAAA-111096	5,190 ± 20	52.39 ± 0.15	5,173 ± 25	4033calBC - 4026calBC（ 8.2%） 3991calBC - 3961calBC（60.0%）	4041calBC - 4012calBC（22.3%） 4004calBC - 3952calBC（73.1%）
IAAA-111097	4,820 ± 20	54.88 ± 0.16	4,842 ± 24	3655calBC - 3634calBC（64.0%） 3548calBC - 3545calBC（ 4.2%）	3695calBC - 3679calBC（ 3.9%） 3666calBC - 3631calBC（70.8%） 3579calBC - 3536calBC（20.7%）
IAAA-111098	5,150 ± 30	52.64 ± 0.16	5,130 ± 25	3975calBC - 3942calBC（52.5%） 3855calBC - 3845calBC（ 7.0%） 3836calBC - 3822calBC（ 8.7%）	3986calBC - 3931calBC（62.7%） 3875calBC - 3806calBC（32.7%）
IAAA-111099	5,040 ± 20	53.40 ± 0.16	4,998 ± 25	3797calBC - 3713calBC（68.2%）	3931calBC - 3877calBC（16.8%） 3805calBC - 3706calBC（78.6%）
IAAA-111100	4,510 ± 20	57.02 ± 0.17	4,423 ± 26	3263calBC - 3251calBC（ 4.4%） 3099calBC - 3012calBC（62.0%） 2977calBC - 2974calBC（ 0.9%） 2948calBC - 2945calBC（ 0.9%）	3314calBC - 3293calBC（ 2.2%） 3288calBC - 3274calBC（ 1.4%） 3266calBC - 3238calBC（ 7.5%） 3169calBC - 3164calBC（ 0.4%） 3110calBC - 2923calBC（83.9%）

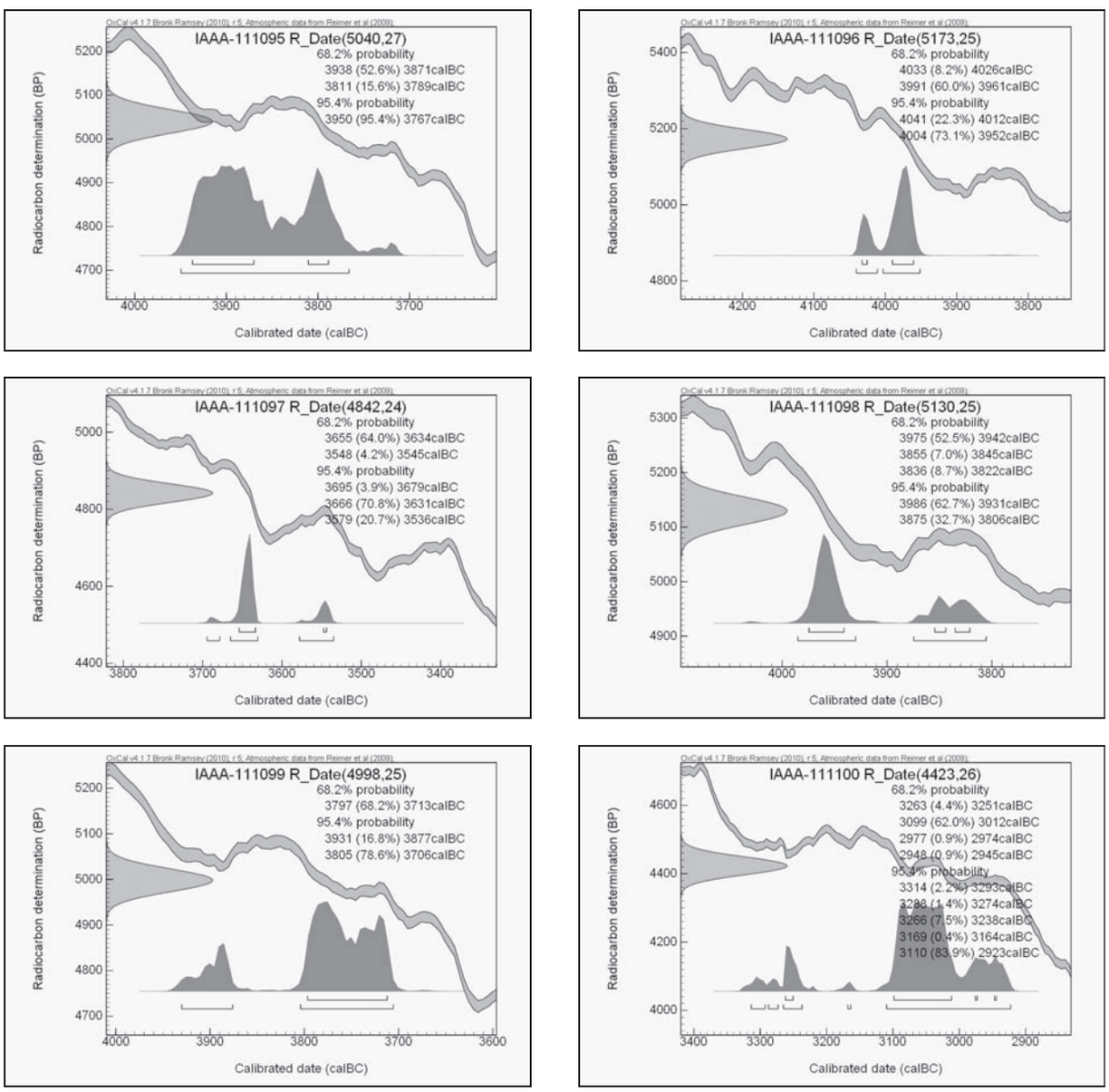
［参考値］

文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19（3）, 355－363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51（1）, 337－360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0－50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51（4）, 1111－1150



第144図　暦年較正年代グラフ

付編３　今里薬師海道遺跡（154地点）における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

今里薬師海道遺跡の測定対象試料は、遺物包含層７層から出土した土器付着炭化物（分析番号１：IAAA－111101～分析番号５：IAAA－111105)、炭化材片（分析番号６：IAAA－111106）の合計６点である（第31表)。土器付着炭化物は、採取位置の指定に従って、１～４は胴部外面、５は口縁部外面より各々採取された。

２　測定の意義

土器付着炭化物の測定では、土器型式の年代観と測定で得られる年代の整合性を検討する。また、各試料の測定で層の年代を把握する。

３　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常１mol/ℓ（１M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから１Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が１Mに達した時には「AAA」、１M未満の場合は「AaA」と第31表に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径１㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４　測定方法

加速器をベースとした^{14}C－AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C)、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）δ^{13}C は、試料炭素の^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第31表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必

要がある。補正した値を第31表に、補正していない値を参考値として第32表に示した。^{14}C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）pMC （percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を第31表に、補正していない値を参考値として第32表に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差（１σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第32表に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測定結果

遺物包含層７層から出土した試料の^{14}C年代は、１が4100±20yrBP、２が4180±20yrBP、３が3570±30yrBP、４が4170±20yrBP、５が5190±30yrBP、６が4510±20yrBPである。７層から出土した６点の試料のうち、２と４の値は誤差（±１σ）の範囲で重なり、ほぼ同年代を示す。１も２、４とおおむね近い値であるが、これら３点と他の３点の間には年代差が認められる。暦年較正年代（１σ）は、１が2835 ～ 2579cal BCの間に２つの範囲、２が2877 ～ 2704cal BCの間に３つの範囲、３が1953 ～ 1887cal BCの範囲、４が2874 ～ 2697cal BCの間に３つの範囲、５が4037 ～ 3969cal BCの間に２つの範囲、６が3342 ～ 3115cal BCの間に４つの範囲で示され、１は縄文時代中期後葉から末葉頃、２、４は中期後葉頃、３は後期中葉頃、５は前期後葉頃、６は中期前葉頃に相当する。

土器付着炭化物が採取された土器は、１が曽利Ⅴ式、２、４が曽利Ⅳ式と見なされ、３と５については明確でないが、３が後期、５が中期という可能性が指摘されている。１～３については土器型式と年代値の関係がおおむね整合的と見られる。

試料の炭素含有率は、土器付着炭化物が約18 ～ 56％、炭化材片が約69％であった。土器付着炭化物は、ものによって状態が異なる場合があり、また土器の胎土が若干混入することでこの数値が下がる場合もある。今回の試料について、化学処理、測定上の問題は特に認められない。

第31表　年代測定結果一覧表

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C（‰）（AMS）	δ 13C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-111101	分析番号 1（遺物番号 85）	遺構：包含層 層位：7 層	土器付着炭化物	AaA	-23.51 ± 0.41	4,100 ± 20	60.06 ± 0.18
IAAA-111102	分析番号 2（遺物番号 151+167+168+169）	遺構：包含層 層位：7 層	土器付着炭化物	AaA	-24.21 ± 0.41	4,180 ± 20	59.42 ± 0.18
IAAA-111103	分析番号 3（遺物番号 163）	遺構：包含層 層位：7 層	土器付着炭化物	AaA	-32.32 ± 0.50	3,570 ± 30	64.09 ± 0.22
IAAA-111104	分析番号 4（遺物番号 165）	遺構：包含層 層位：7 層	土器付着炭化物	AaA	-20.70 ± 0.49	4,170 ± 20	59.52 ± 0.18
IAAA-111105	分析番号 5（遺物番号 180+209+210）	遺構：包含層 層位：7 層	土器付着炭化物	AaA	-27.82 ± 0.71	5,190 ± 30	52.40 ± 0.18
IAAA-111106	分析番号 6（遺物番号 173）	遺構：包含層 層位：7 層	炭化物	AAA	-23.02 ± 0.46	4,510 ± 20	57.02 ± 0.17

［#4577］

第32表　年代測定結果一覧表

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用（yrBP）	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-111101	4,070 ± 20	60.24 ± 0.17	4,095 ± 23	2835calBC - 2817calBC（12.7%） 2667calBC - 2579calBC（55.5%）	2857calBC - 2811calBC（20.6%） 2749calBC - 2723calBC（ 5.4%） 2699calBC - 2573calBC（69.4%）
IAAA-111102	4,170 ± 20	59.51 ± 0.17	4,181 ± 24	2877calBC - 2860calBC（13.1%） 2809calBC - 2755calBC（43.2%） 2720calBC - 2704calBC（11.9%）	2884calBC - 2839calBC（20.7%） 2815calBC - 2676calBC（74.7%）
IAAA-111103	3,690 ± 30	63.13 ± 0.20	3,573 ± 27	1953calBC - 1887calBC（68.2%）	2022calBC - 1991calBC（ 7.3%） 1984calBC - 1877calBC（84.6%） 1841calBC - 1826calBC（ 2.4%） 1794calBC - 1784calBC（ 1.1%）
IAAA-111104	4,100 ± 20	60.05 ± 0.17	4,167 ± 23	2874calBC - 2854calBC（11.6%） 2812calBC - 2746calBC（39.0%） 2726calBC - 2697calBC（17.6%）	2879calBC - 2835calBC（19.6%） 2816calBC - 2668calBC（75.8%）
IAAA-111105	5,240 ± 30	52.10 ± 0.16	5,191 ± 27	4037calBC - 4021calBC（24.4%） 3995calBC - 3969calBC（43.8%）	4043calBC - 3962calBC（95.4%）
IAAA-111106	4,480 ± 20	57.26 ± 0.16	4,512 ± 23	3342calBC - 3322calBC（10.1%） 3272calBC - 3268calBC（ 1.9%） 3236calBC - 3171calBC（32.1%） 3163calBC - 3115calBC（24.1%）	3349calBC - 3264calBC（30.8%） 3243calBC - 3102calBC（64.6%）

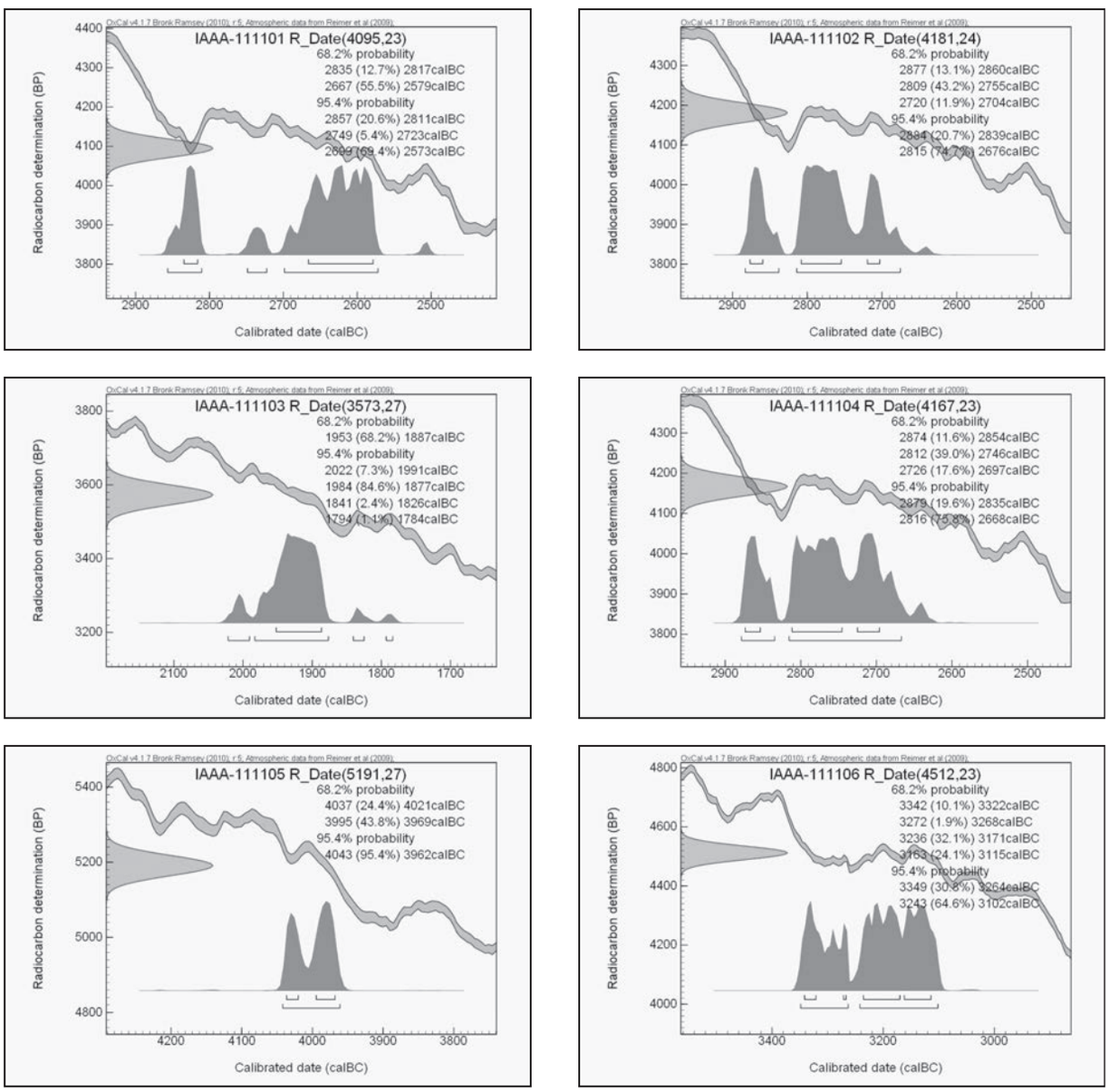
［参考値］

文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19（3）, 355－363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51（1）, 337－360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0－50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51（4）, 1111－1150



第145図　暦年較正年代グラフ

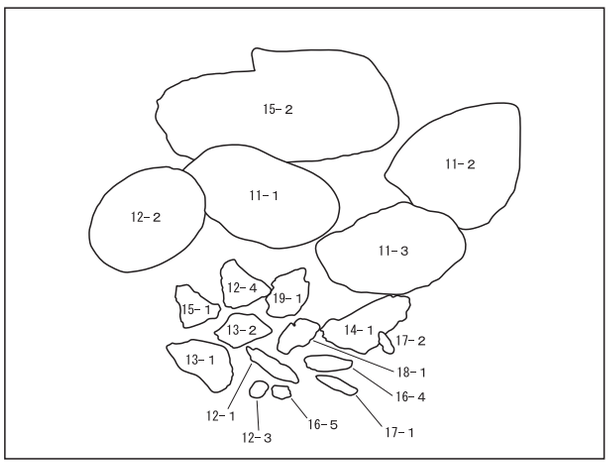
写真図版

図版　1 ～ 14　葛山上條遺跡

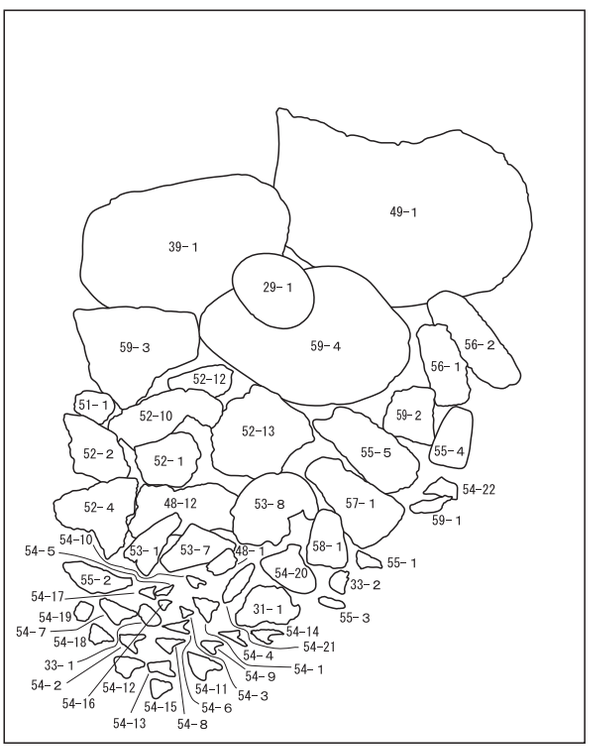
図版　15 ～ 25　葛山大端ヶⅡ遺跡

図版　26 ～ 32　今里薬師海道遺跡

図版９－３

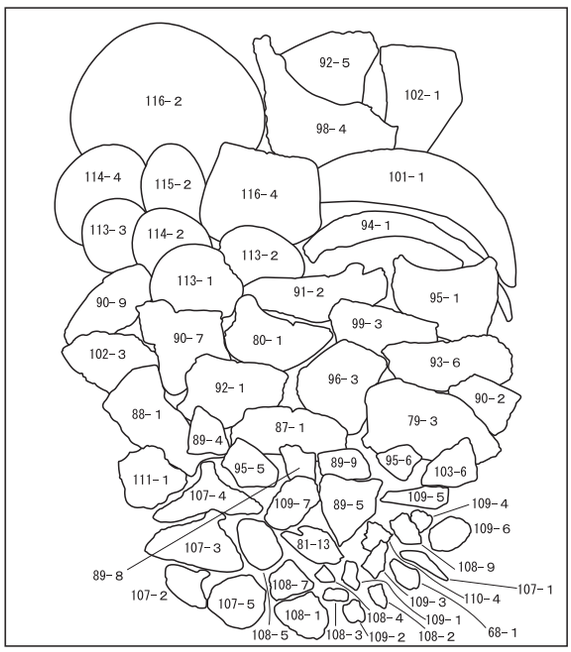


図版 10

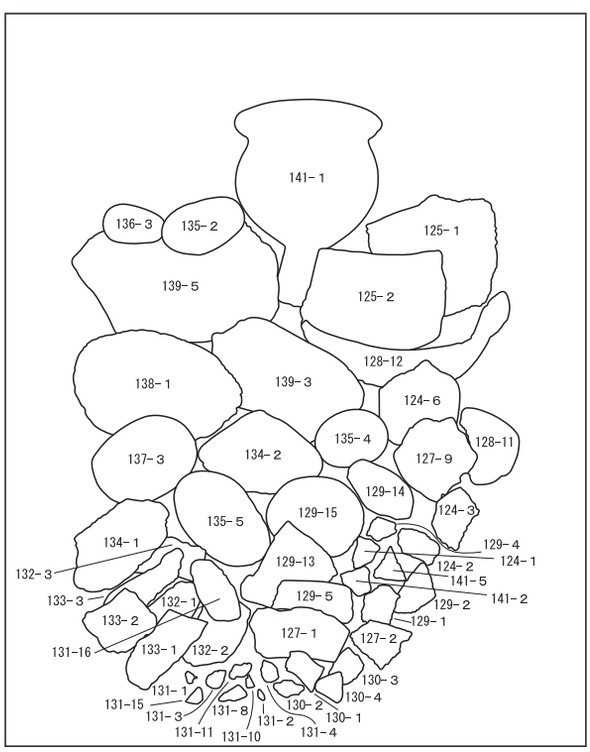


写真図版に掲載した遺物の挿図番号（第〇図-〇）は、〇-〇と表記している。

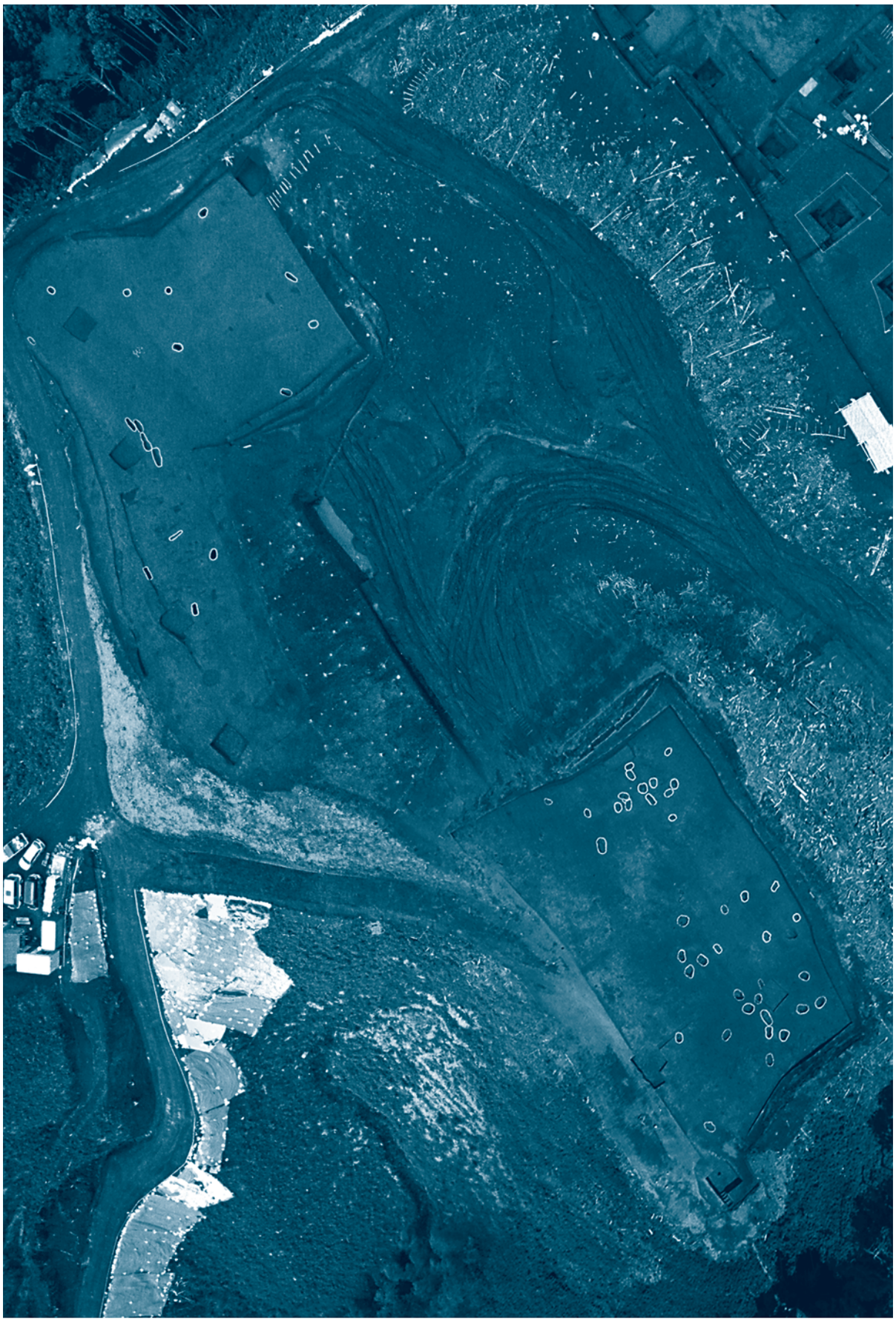
図版 19－１



図版 28

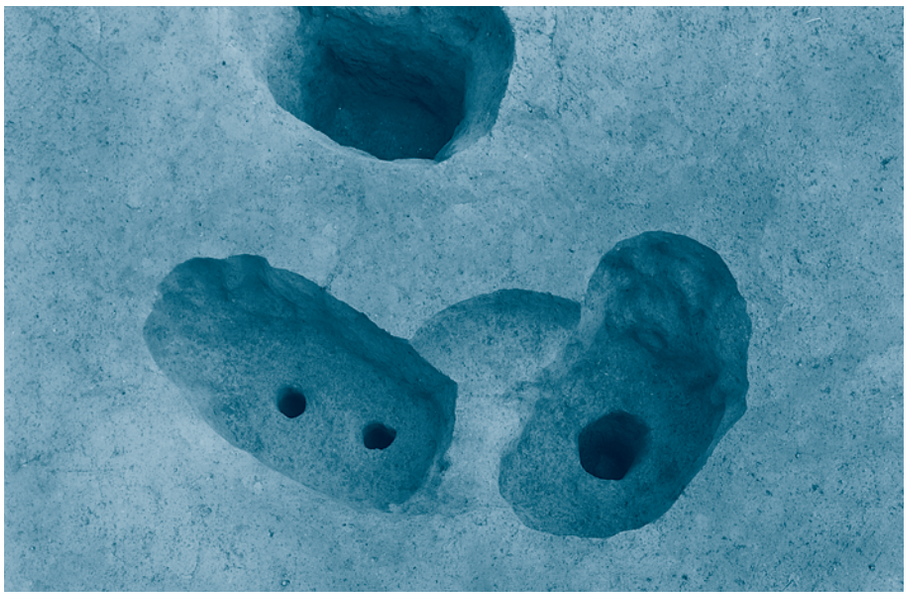


別図２　遺跡出土遺物集合写真の挿図番号



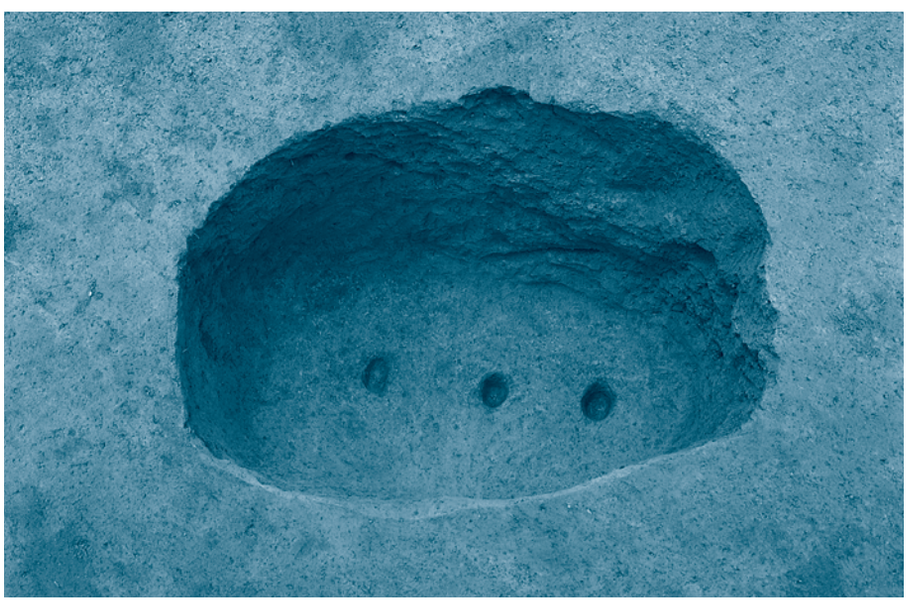
調査区全景（南東から）

図版２　葛山上條遺跡

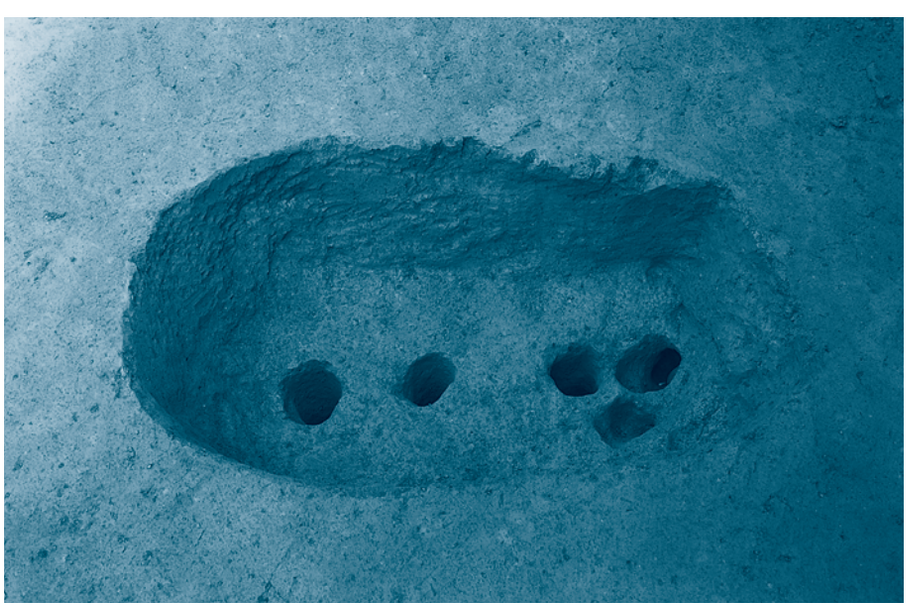


１　７・31 号土坑
（北から）

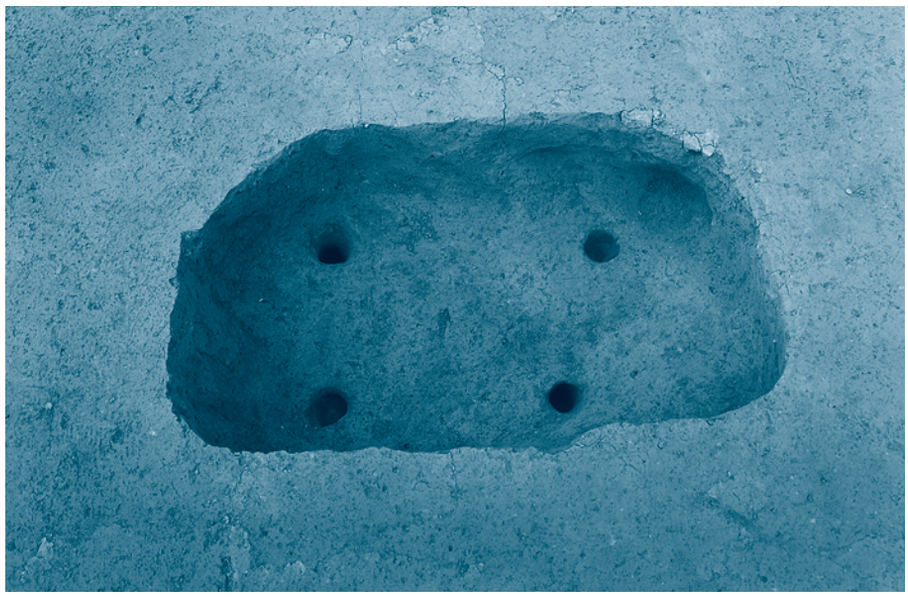
左：31 号土坑
右：７号土坑



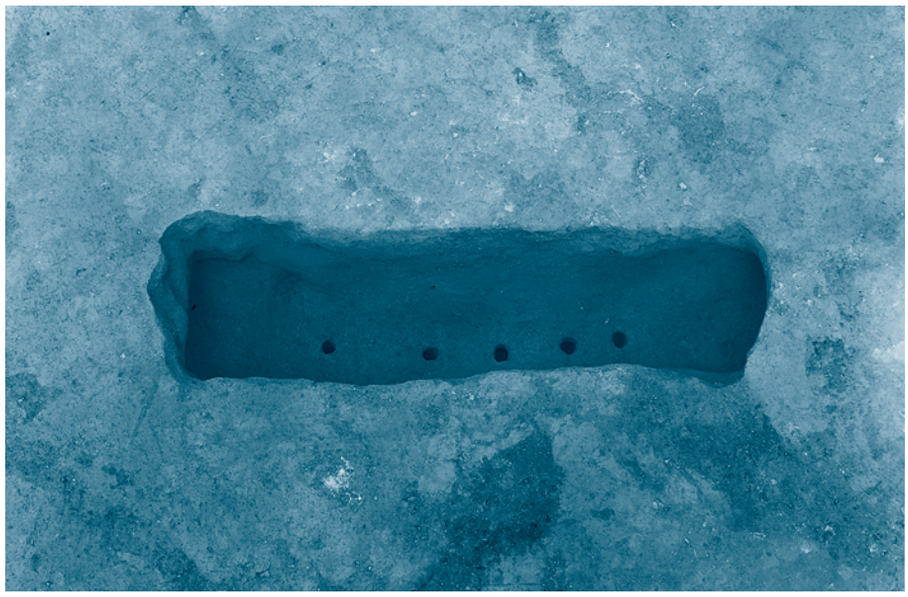
２　33 号土坑
（北から）



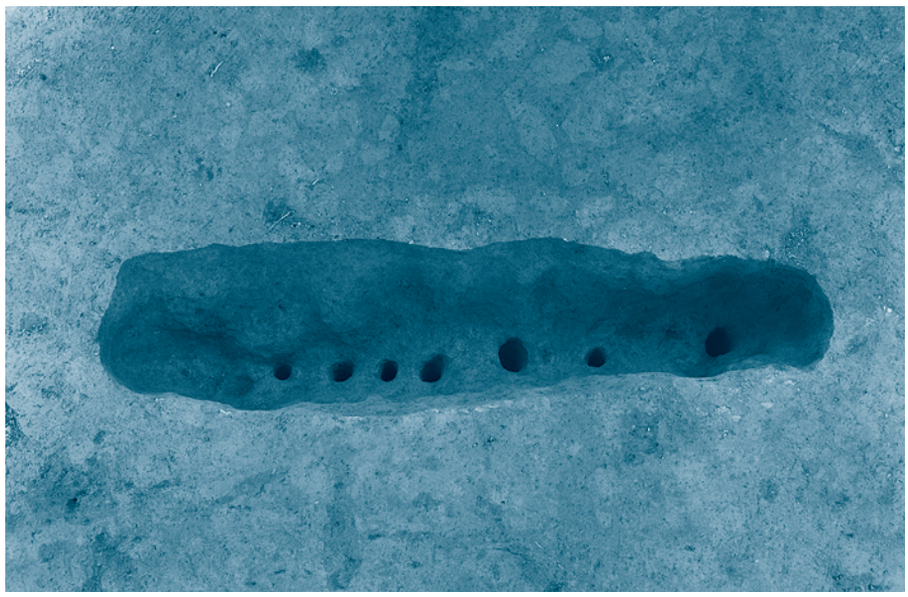
３　32 号土坑
（南から）



１　35 号土坑
（南から）



２　51 号土坑
（南東から）

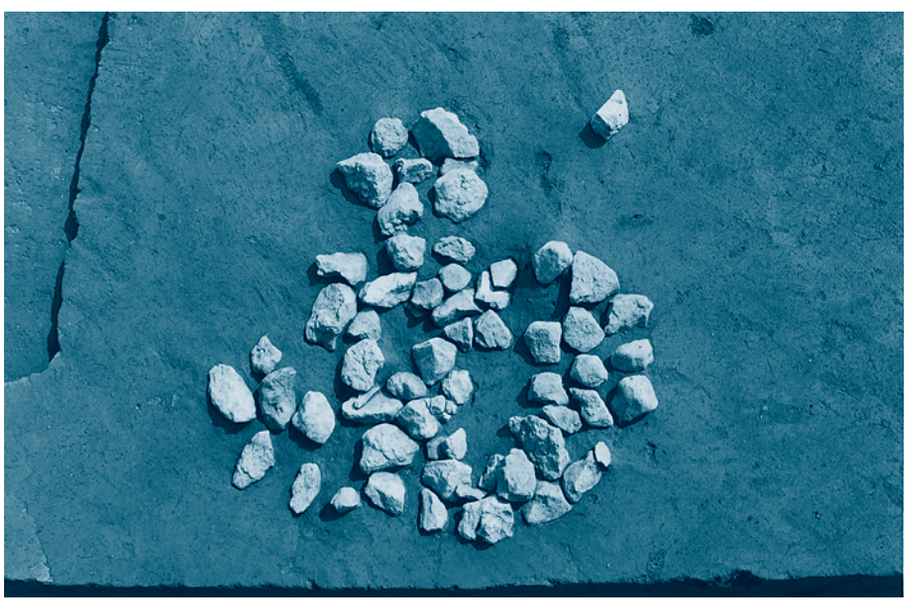


３　52 号土坑
（東から）

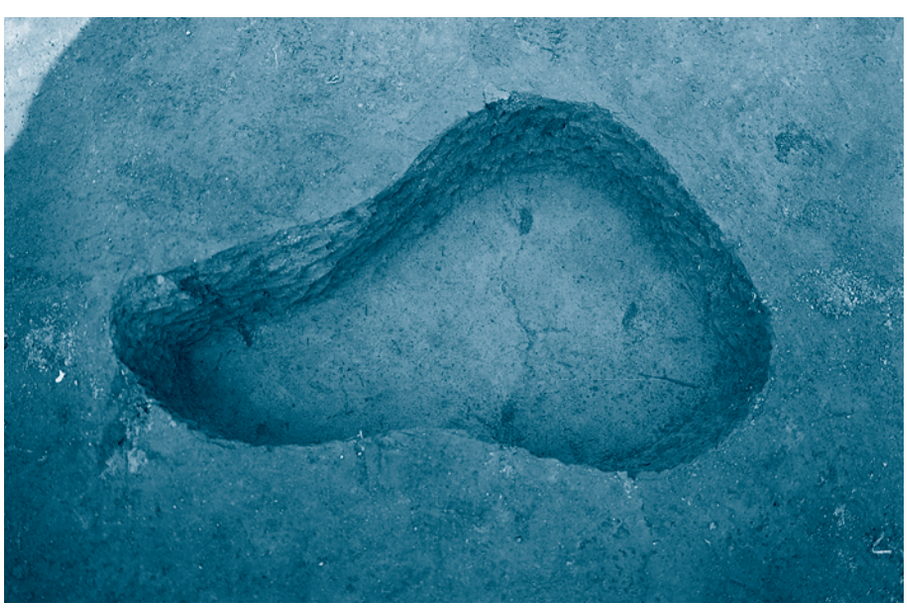
図版４　葛山上條遺跡

１　１号集石
（南東から）

中央の２つの礫のうち、
左は石皿（39-1）である。



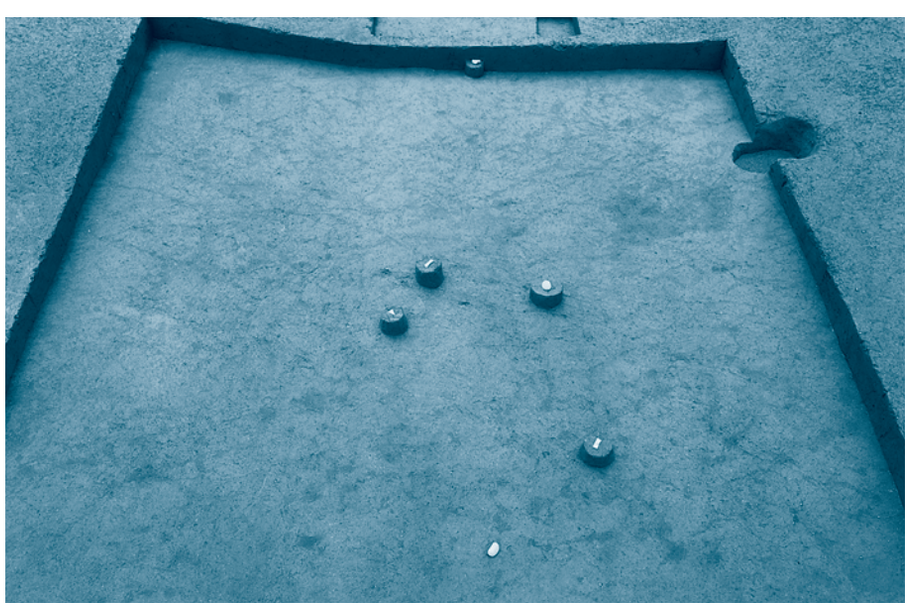
２　12 号集石
（北から）



３　２号焼土
（南から）

１　５区旧石器調査
テストピット設定状況
（北西から）

２　６区旧石器調査
テストピット設定状況
（北西から）



３　休場層
１号石器集中
（東から）

図版６　葛山上條遺跡

１　休場層
ナイフ形石器（17-1）
出土状況
（東から）

２　休場層
１号礫群
（西から）

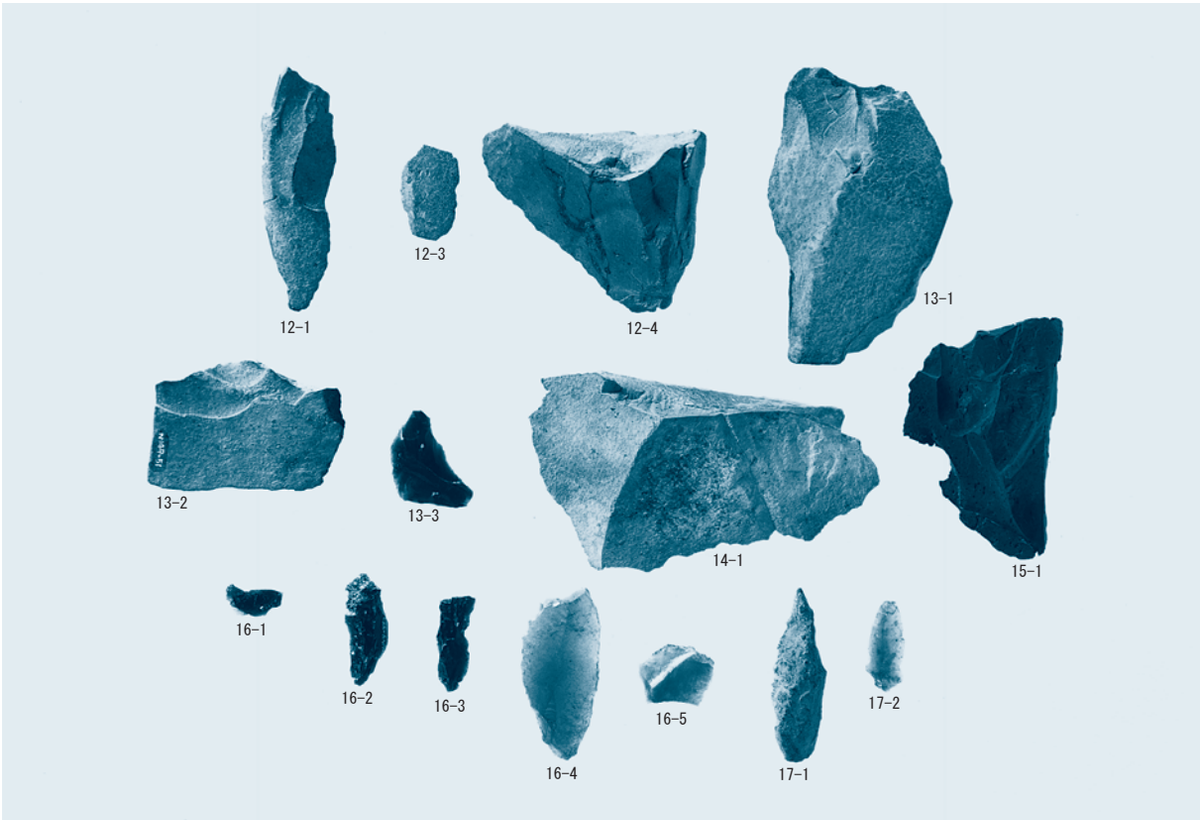
３　休場層
２号礫群
（南西から）

１　第Ⅰスコリア層
剥片（18-1）
出土状況
（西から）

２つのうち、上が剥片、
下が礫である。

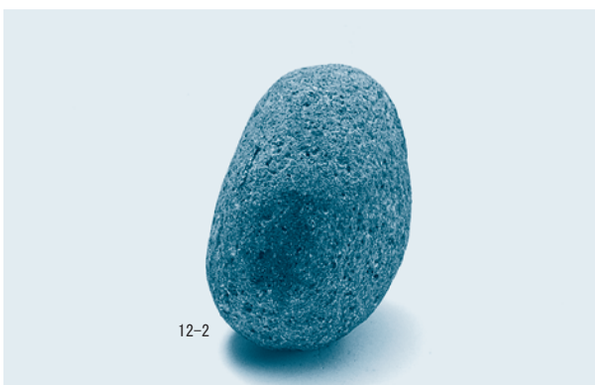
２　第Ⅲスコリア帯
第２黒色帯剥片（19-1）
出土状況
（北から）

図版８　葛山上條遺跡



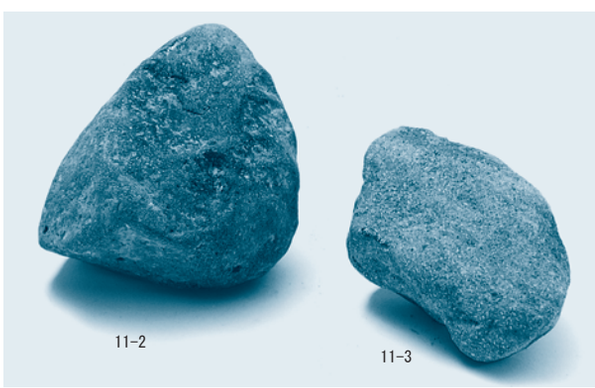
１　休場層出土石器

２　休場層出土台石

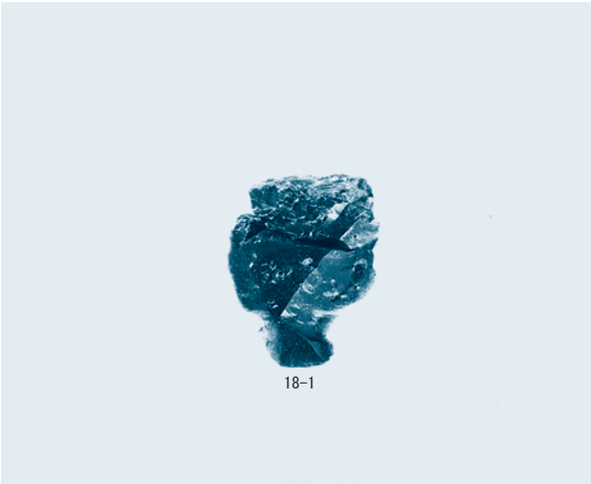


３　休場層出土敲石

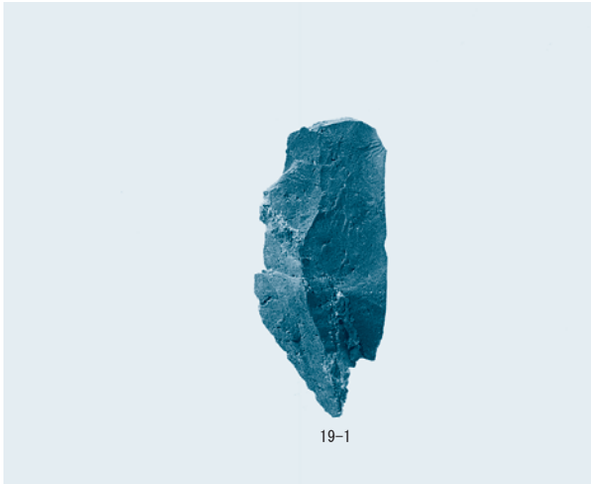
４　休場層出土被熱礫



５　休場層出土被熱礫（左）・台石（右）



１　第Ⅰスコリア層出土剥片



２　第Ⅲスコリア帯第２黒色帯出土剥片

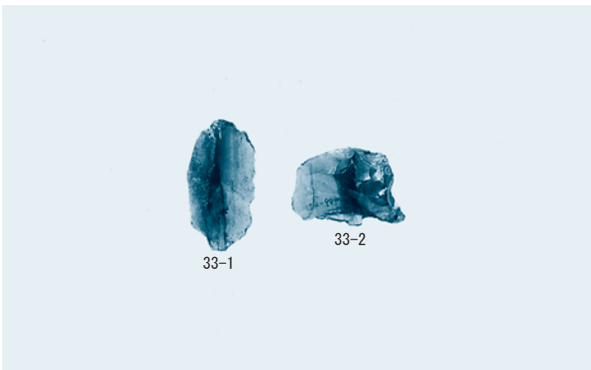
３　旧石器時代遺物集合

図版 10　葛山上條遺跡

縄文時代遺物集合

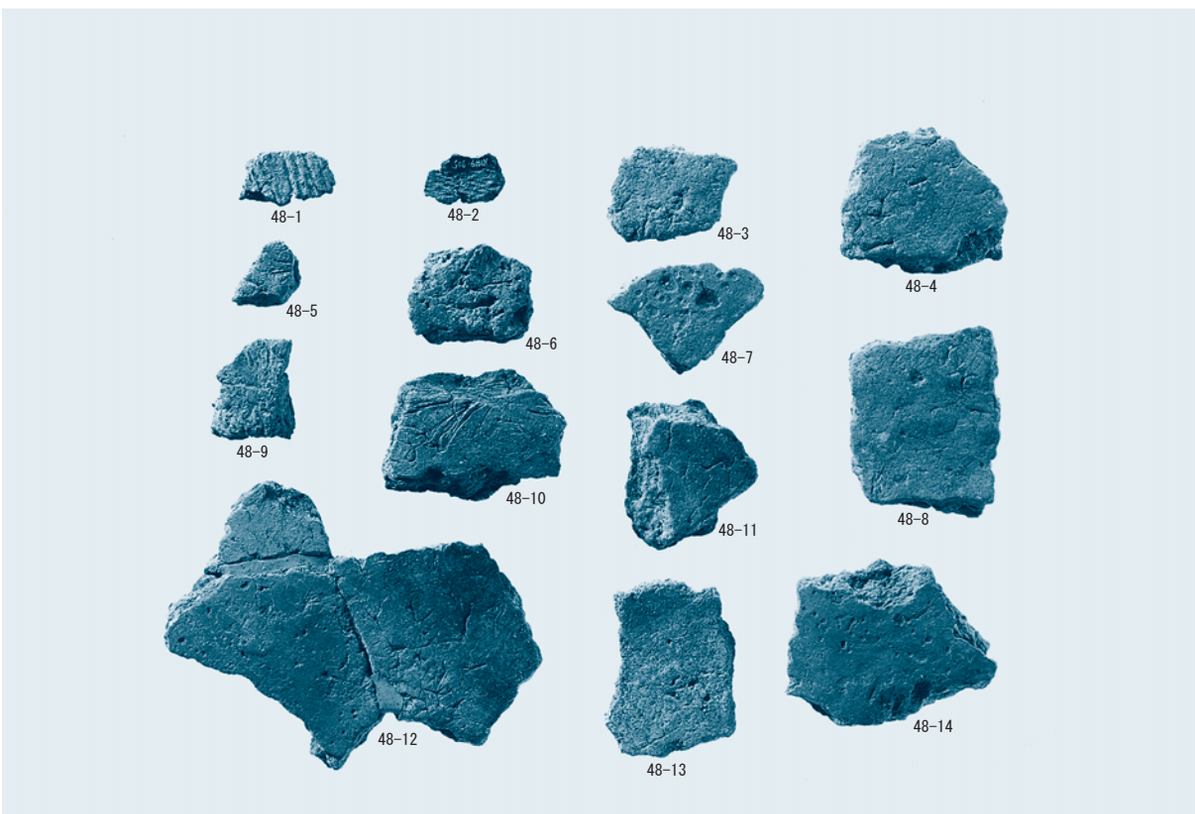
1　32 号土坑出土石器

2　37 号土坑出土石器



3　43・45 号土坑出土石器

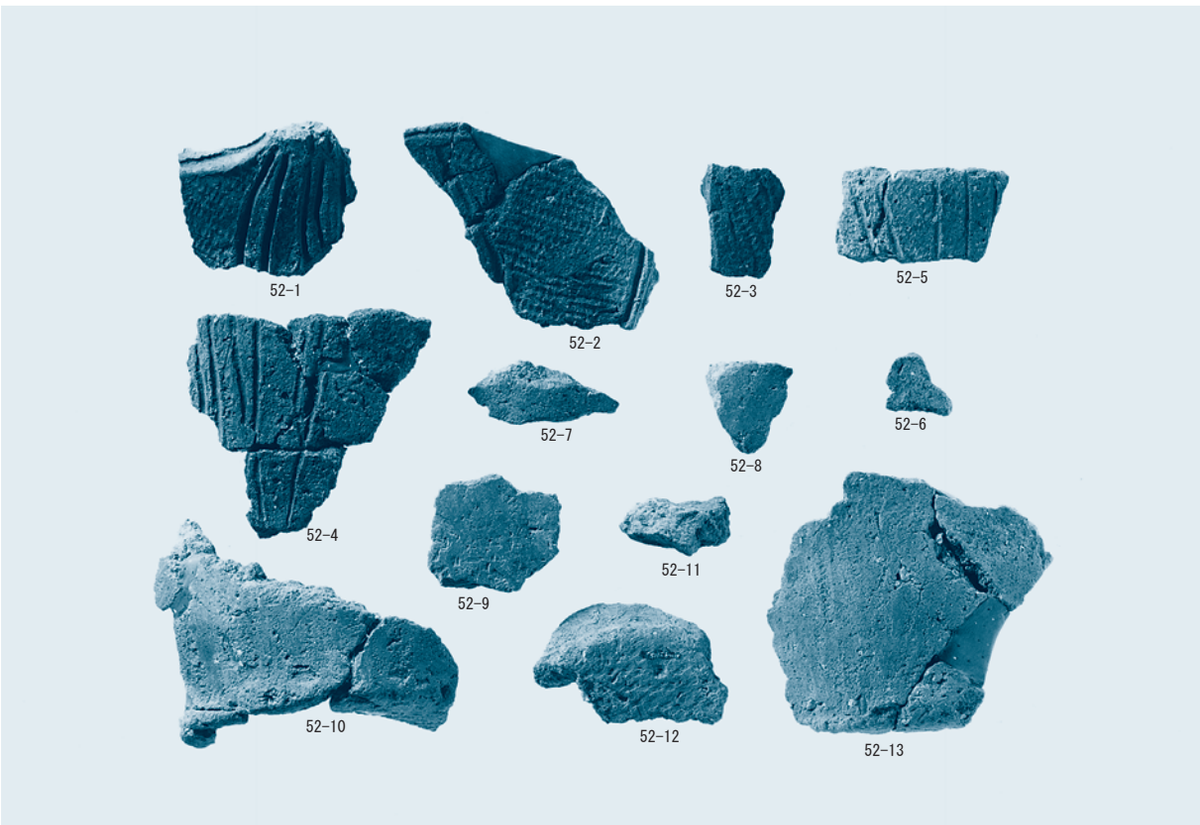
4　1 号集石出土石器



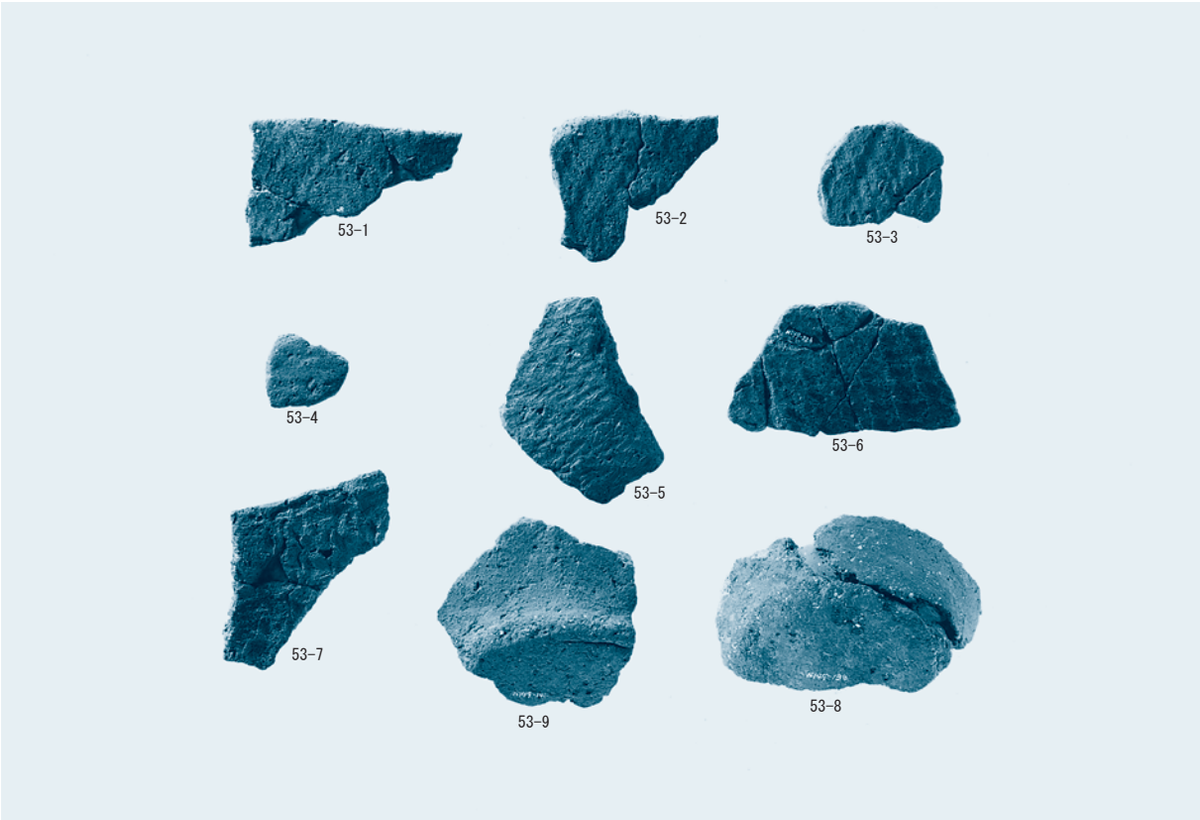
5　包含層出土　縄文時代早期の土器

図版 12　葛山上條遺跡

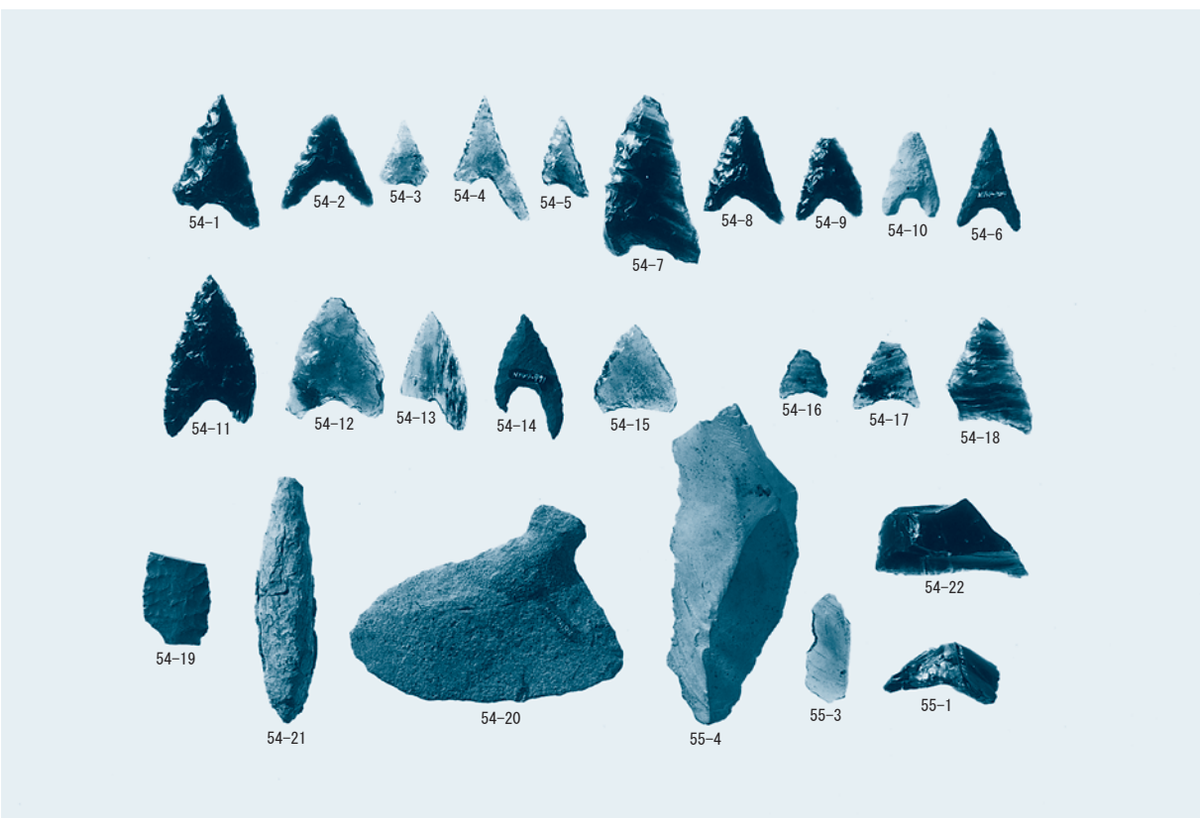
1　包含層出土　縄文時代前期の土器（左：胴部片・右：底部片）



2　包含層出土　縄文時代後期の土器①

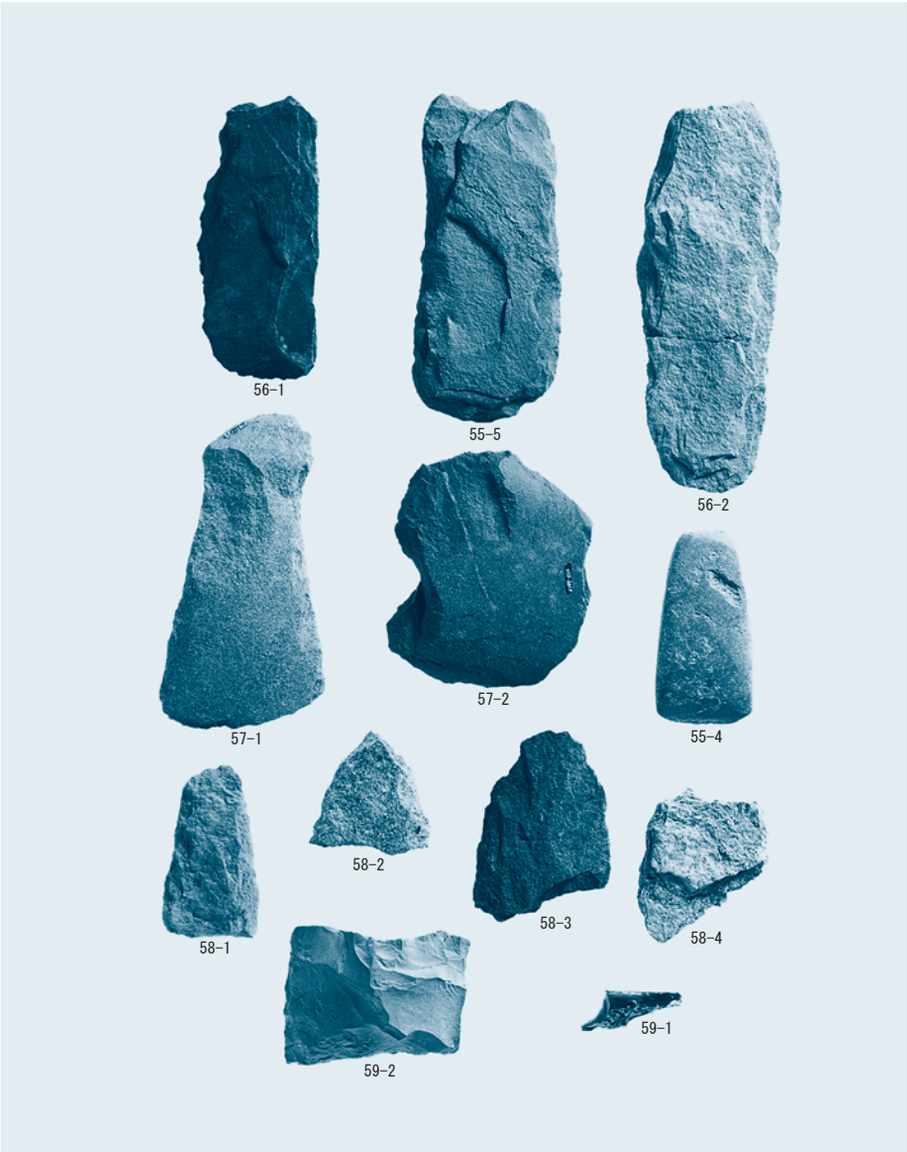


1　包含層出土　縄文時代後期の土器②

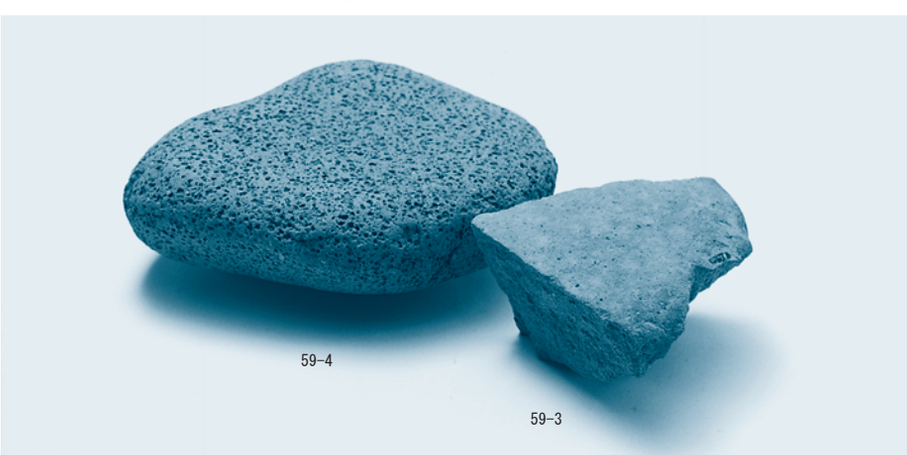


2　包含層出土　剥片石器

図版 14　葛山上條遺跡



1　包含層出土　打製石斧・石核

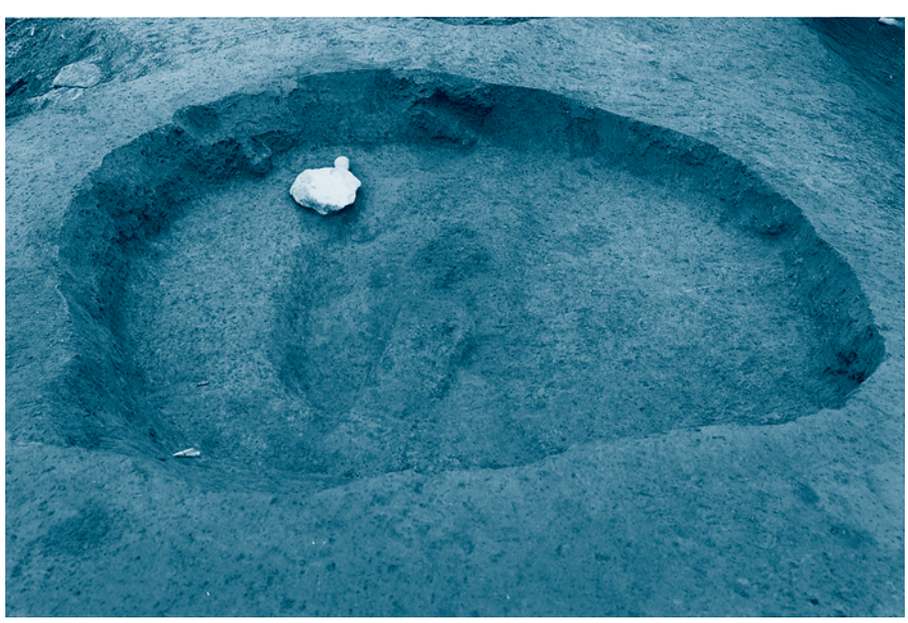


2　包含層出土　石皿

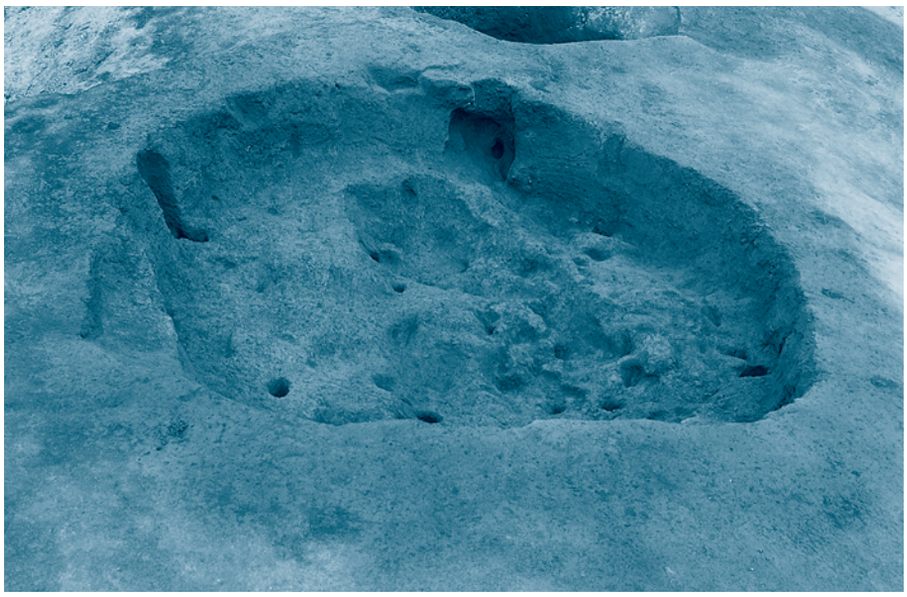
１　遺跡遠景（北から）

２　１号竪穴住居
台石（74-1）、
磨・敲石（74-3）
床面出土
（南から）

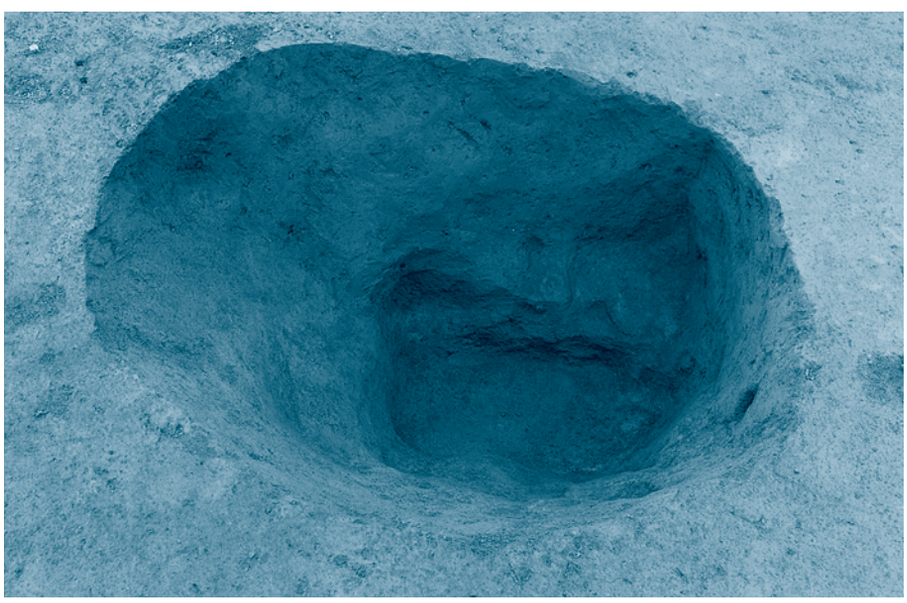
台石の下には、
磨・敲石（74-2）
が出土している。



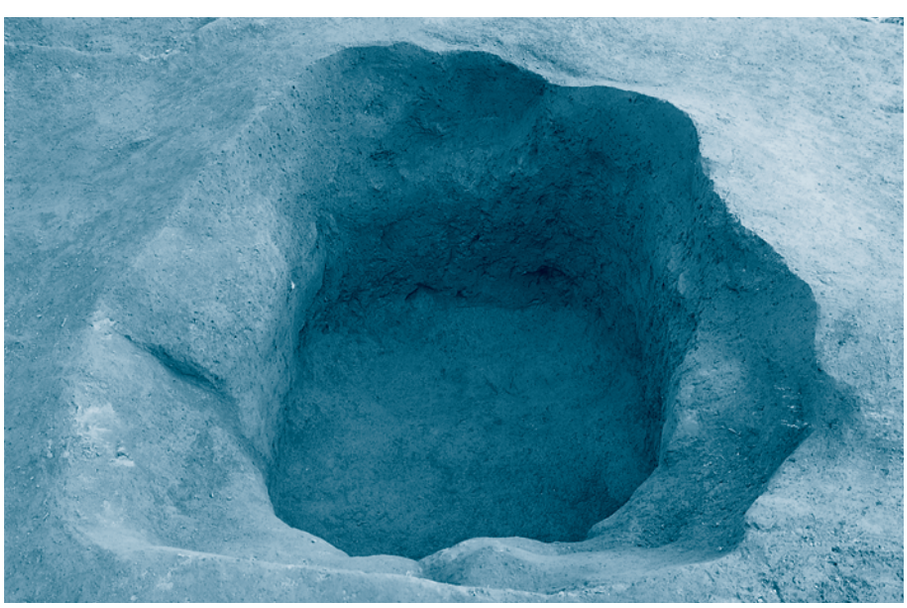
図版 16　葛山大端ヶⅡ遺跡



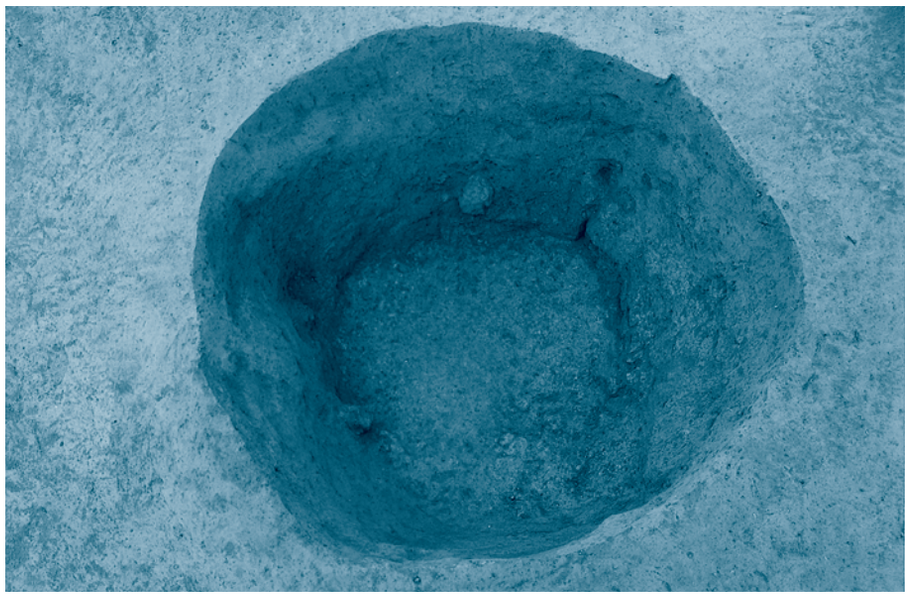
１　１号竪穴住居
掘方
（南から）



２　２号土坑
（北西から）

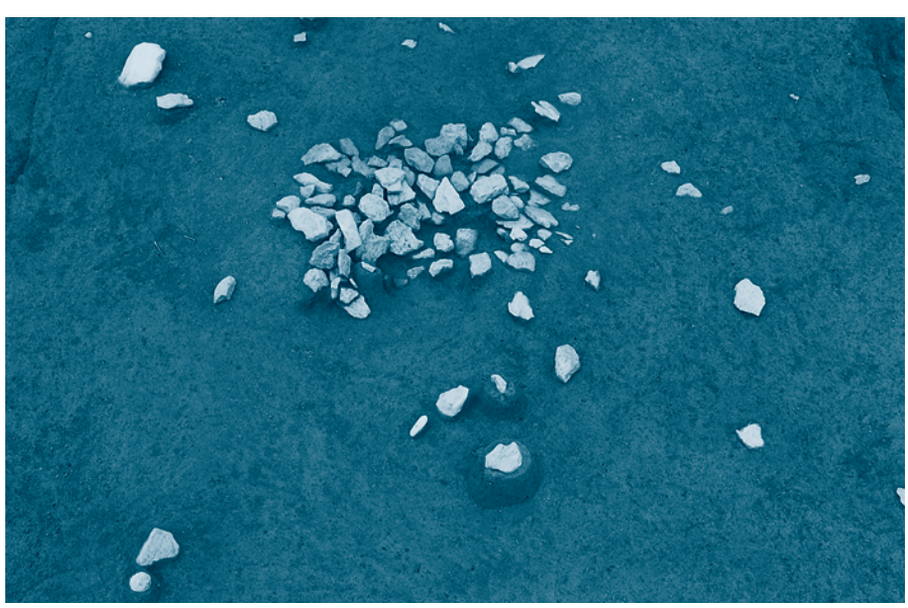


３　５号土坑
（西から）



１　６号土坑
（北西から）

２　７号土坑
（南から）



３　１号集石
（北東から）

図版 18　葛山大端ヶⅡ遺跡

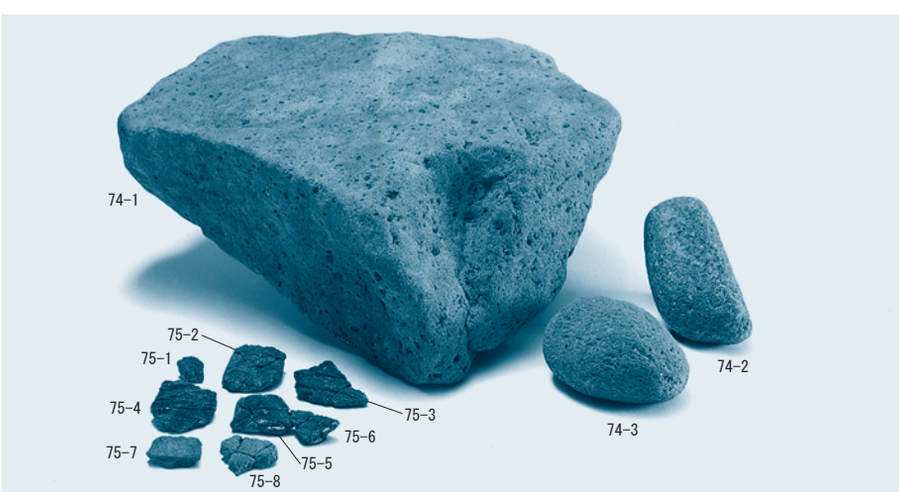
1　１区旧石器調査
テストピット設定状況
（南西から）

2　２区旧石器調査
テストピット設定状況
（北東から）

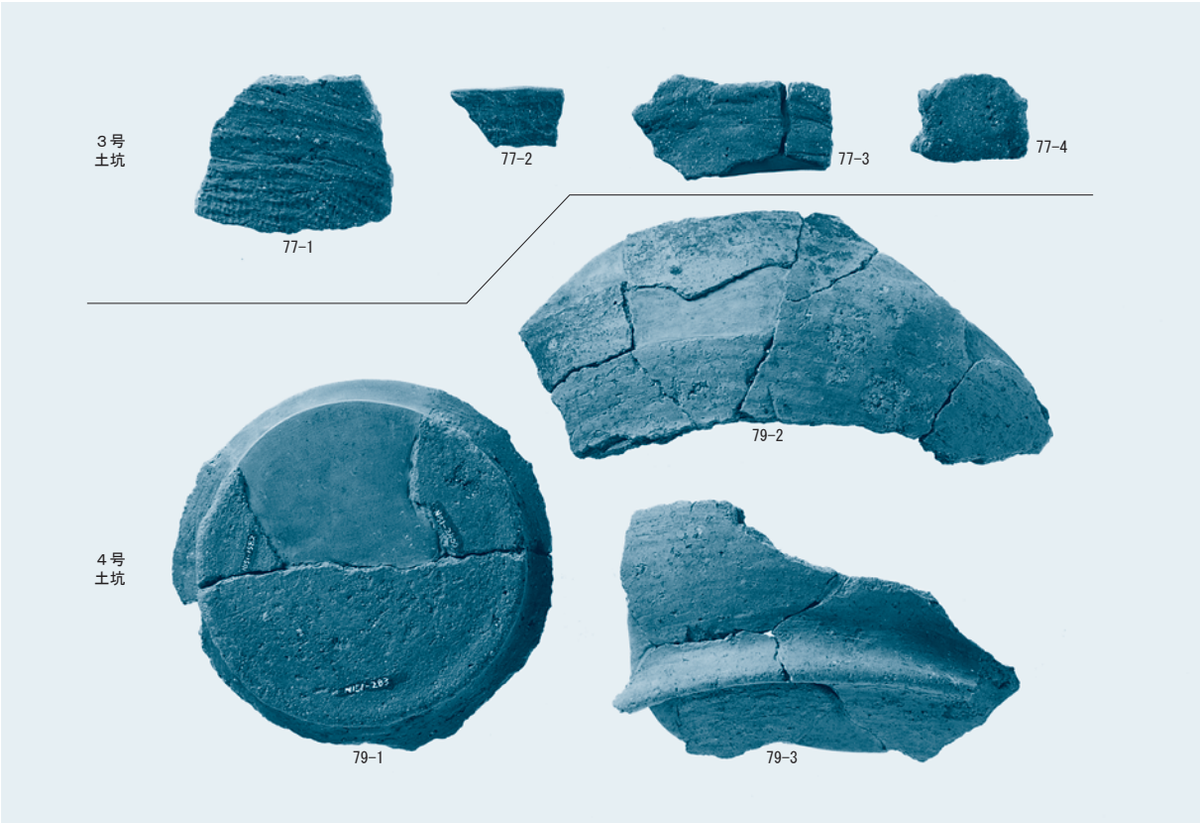
3　休場層出土
剥片

1　葛山大端ヶⅡ遺跡遺物集合

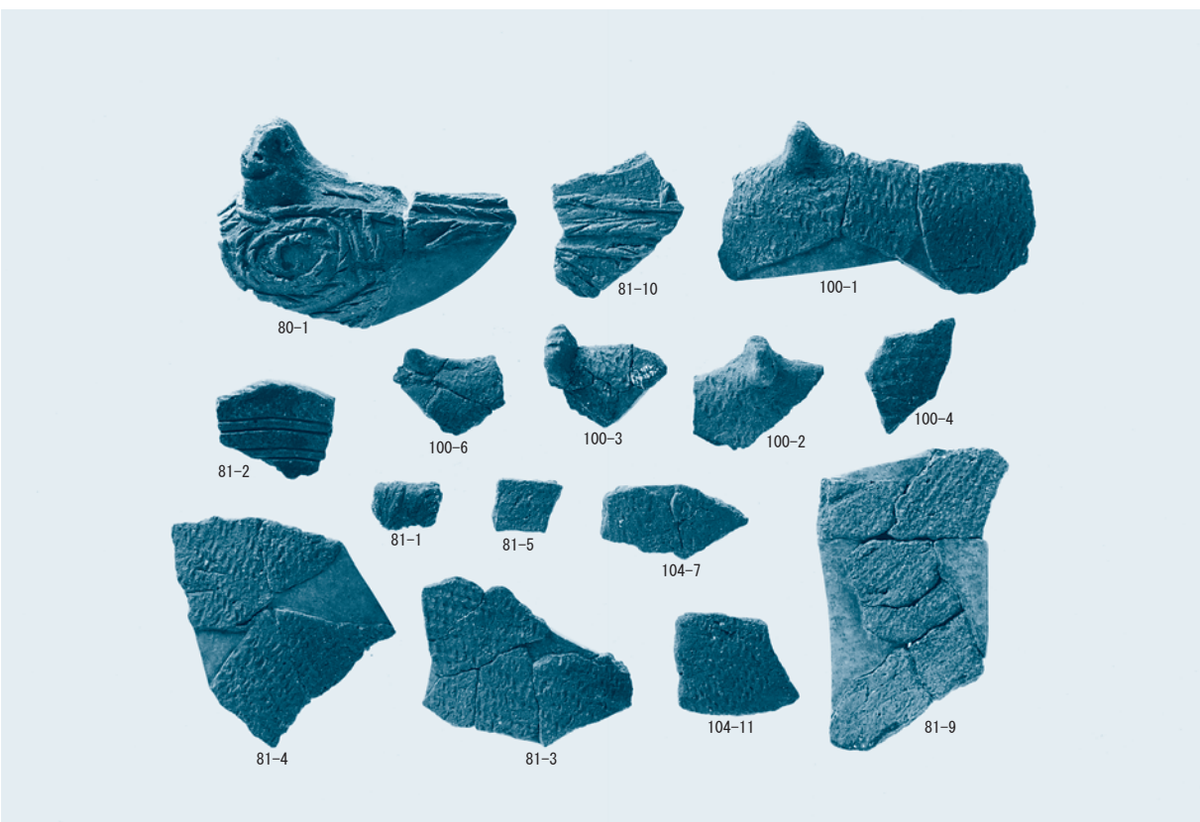
2　１号竪穴住居
床面出土礫石器・
埋土出土土器片



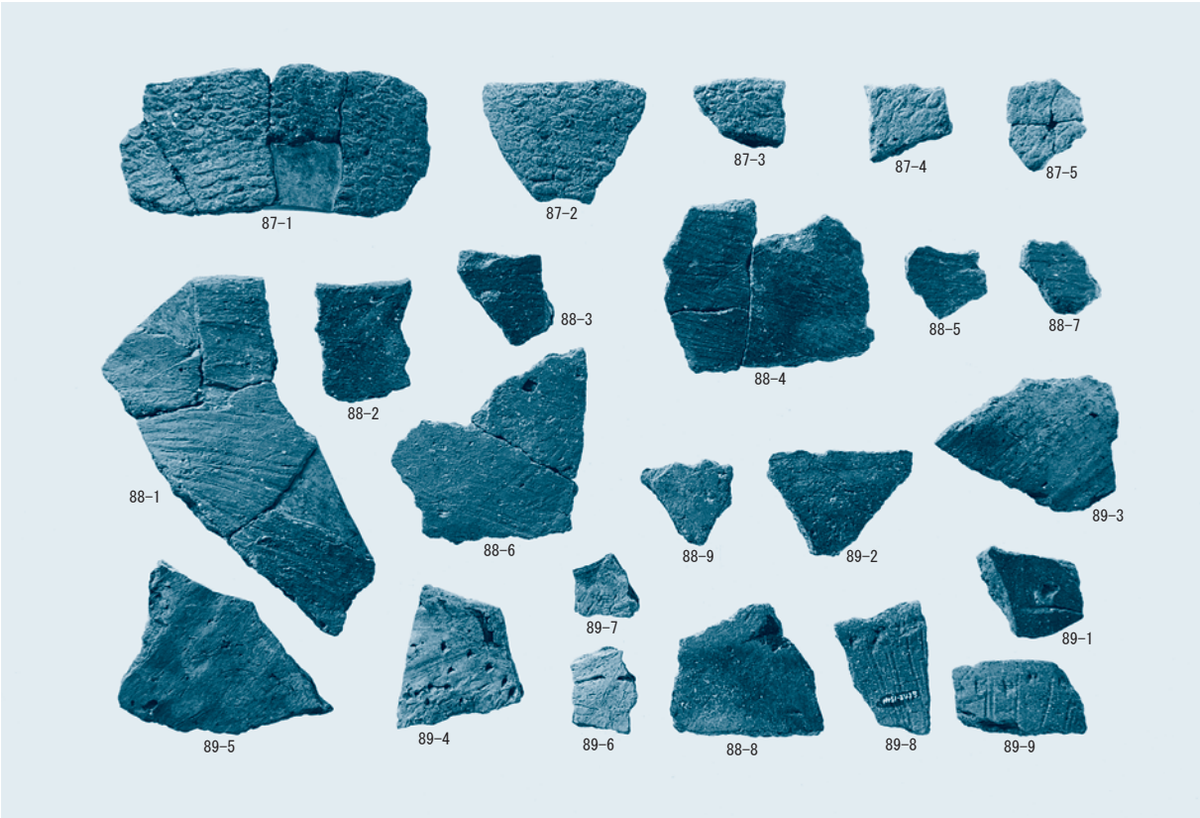
図版 20　葛山大端ヶⅡ遺跡



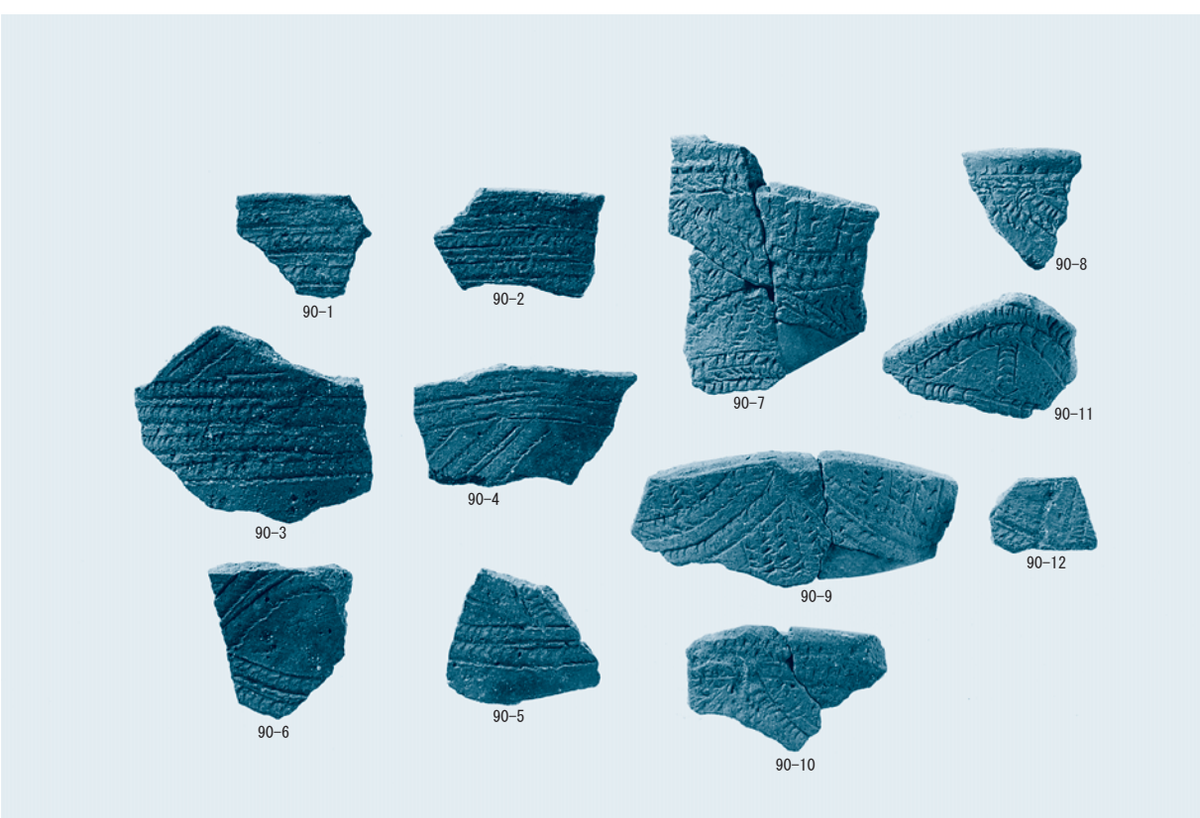
１　３・４号土坑出土土器及び包含層出土土器



２　５号土坑出土土器及び包含層出土土器

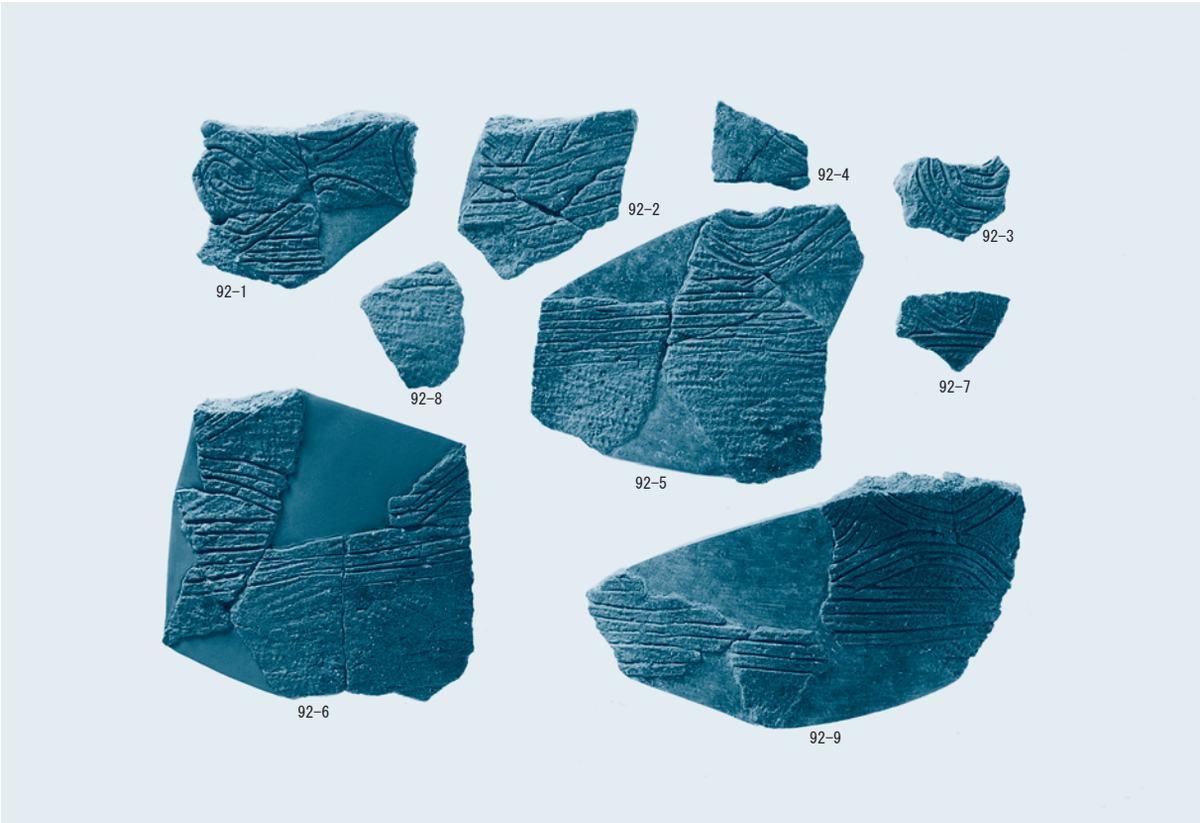


1　包含層出土　縄文時代早期の土器

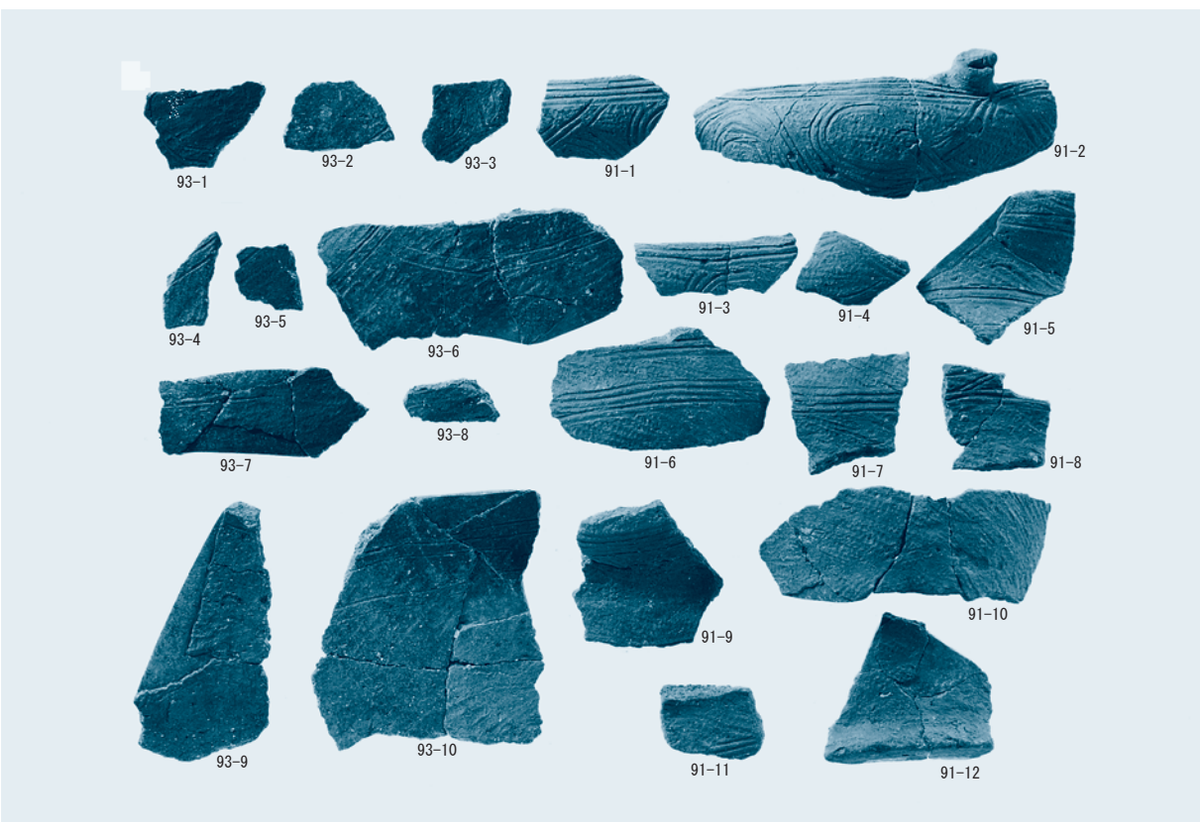


2　包含層出土　縄文時代前期の土器①

図版 22　葛山大端ヶⅡ遺跡



1　包含層出土　縄文時代前期の土器②



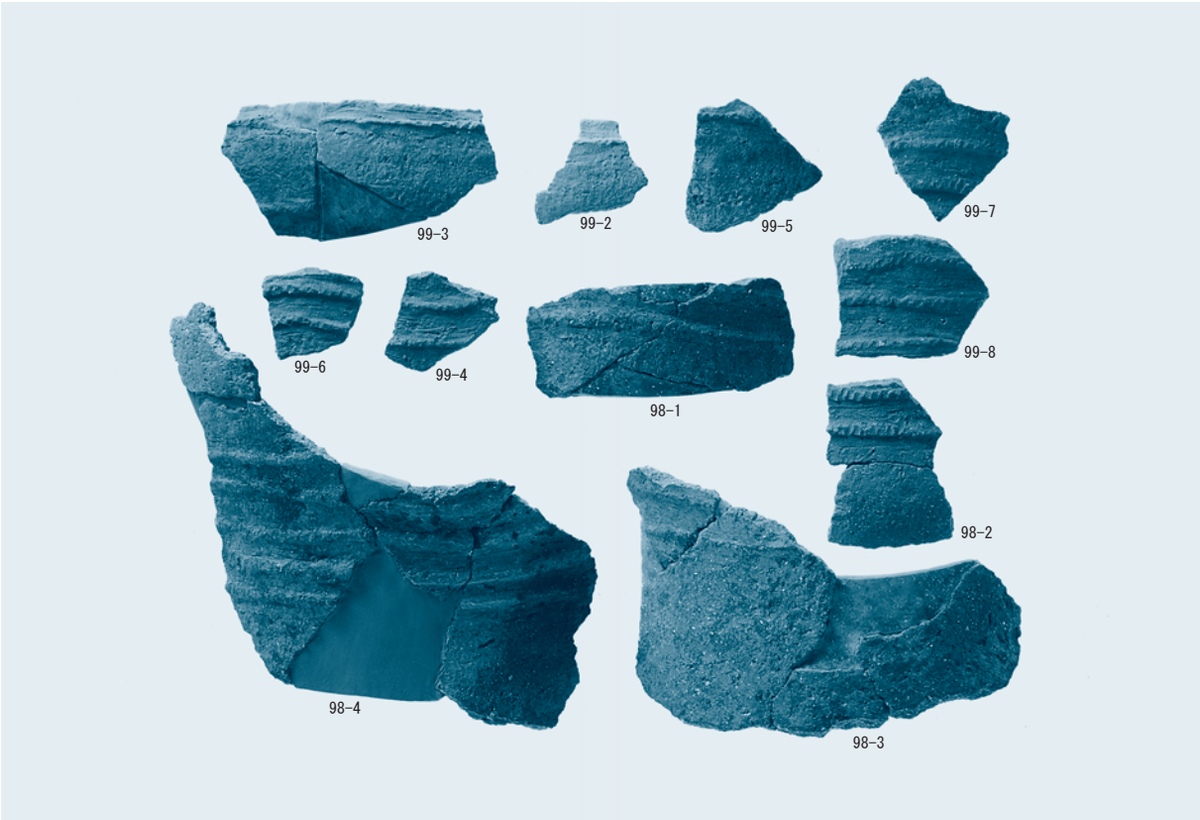
2　包含層出土　縄文時代前期の土器③

1　包含層出土
縄文時代前期の土器④
有孔浅鉢

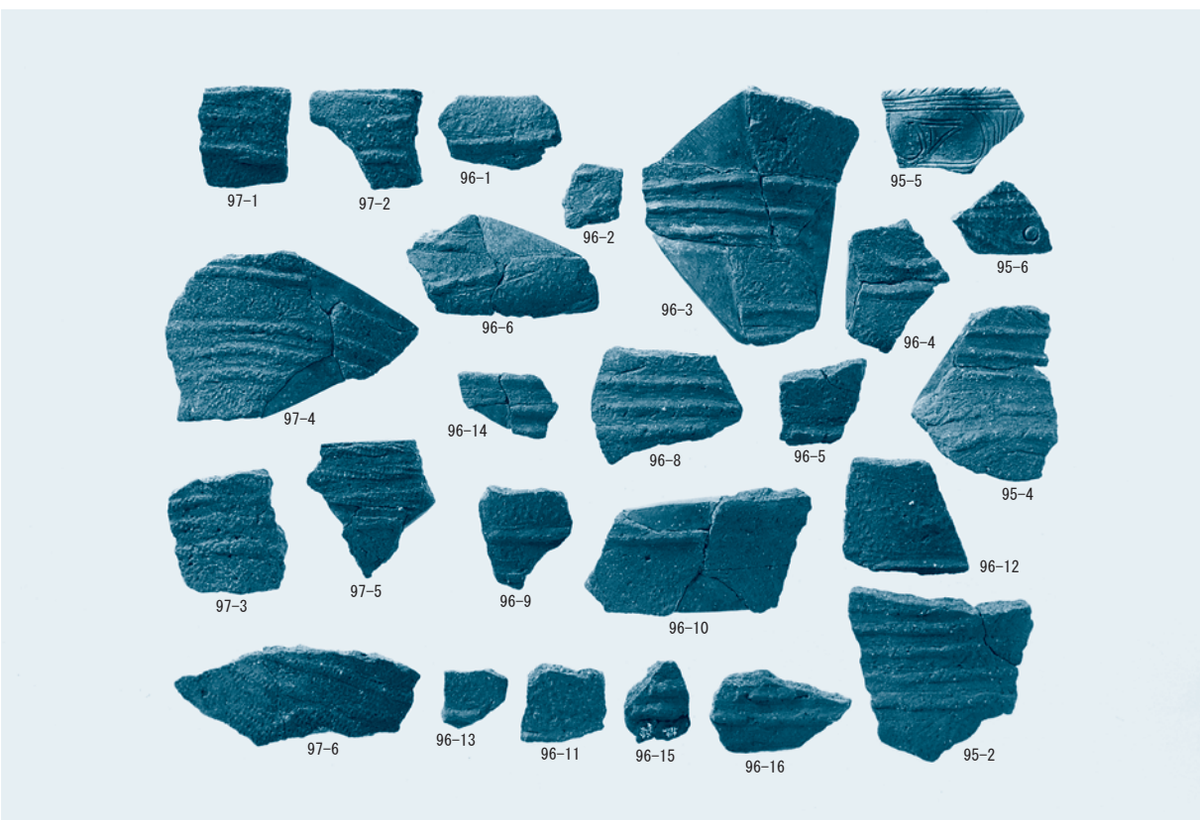
2　包含層出土　縄文時代前期の土器⑤

3　包含層出土
縄文時代前期の土器⑥

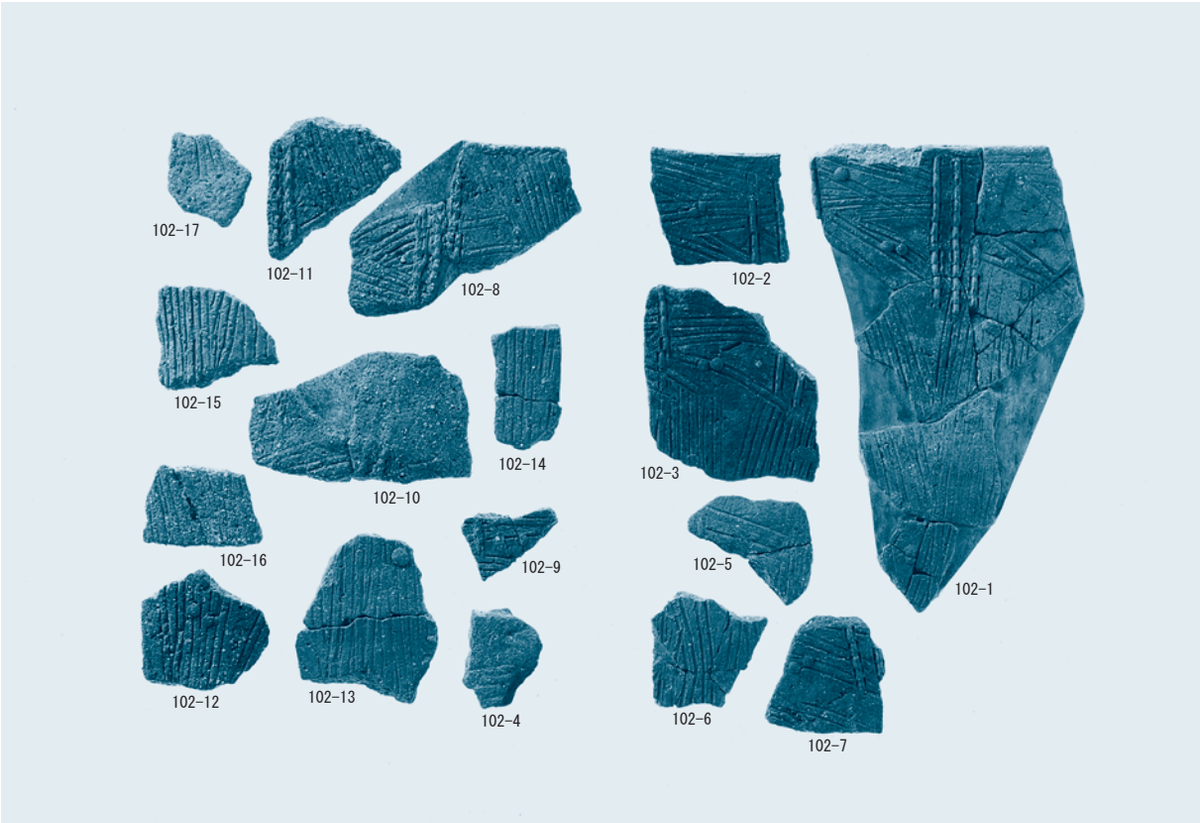
図版 24　葛山大端ヶⅡ遺跡



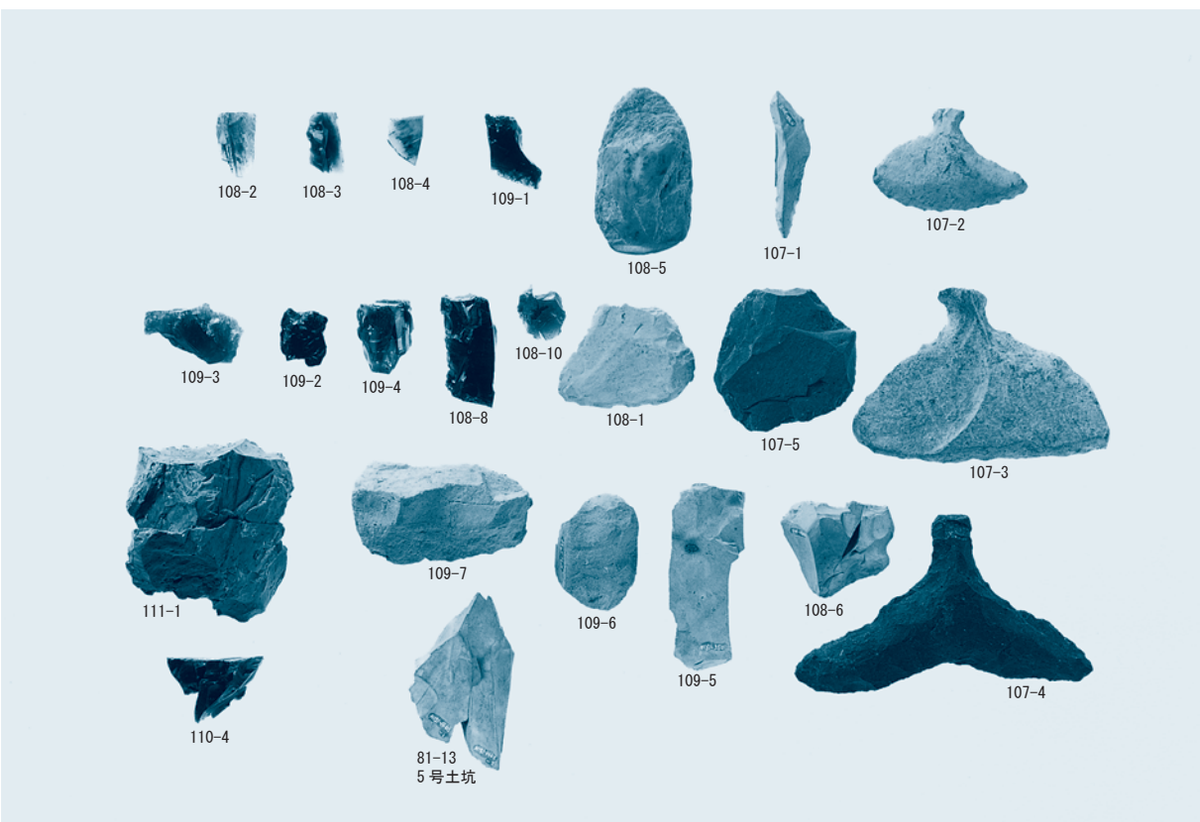
1　包含層出土　縄文時代前期の土器⑦



2　包含層出土　縄文時代前期の土器⑧



1　包含層出土　縄文時代前期の土器⑨



2　包含層出土・遺構内出土　縄文石器

図版 26　今里薬師海道遺跡

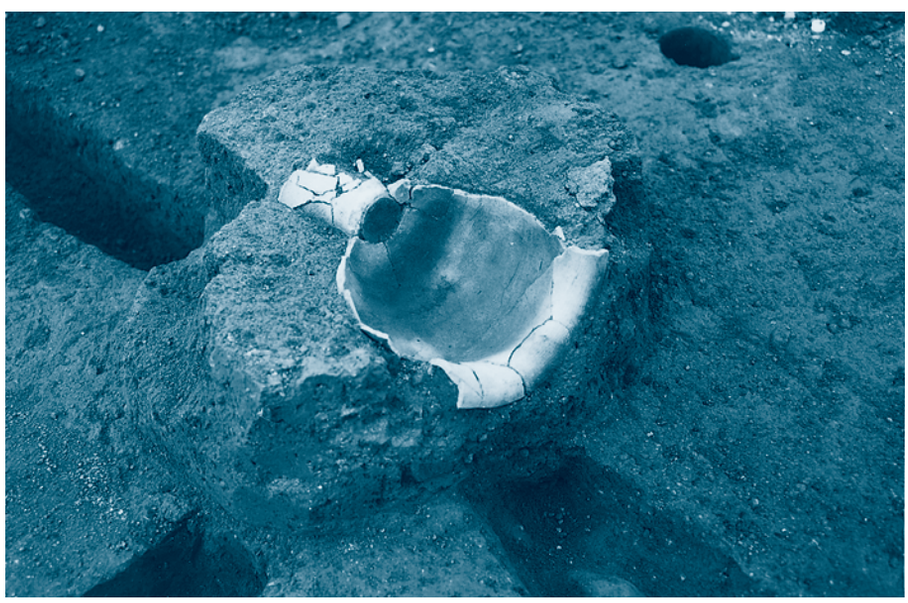
1　調査区全景
（北から）

2　調査区西側
遺物出土状況
（南東から）

3　調査区東側
遺物出土状況
（西から）

1　土器出土状況
（西から）

左：土器（125-1）
右：土器（125-2）



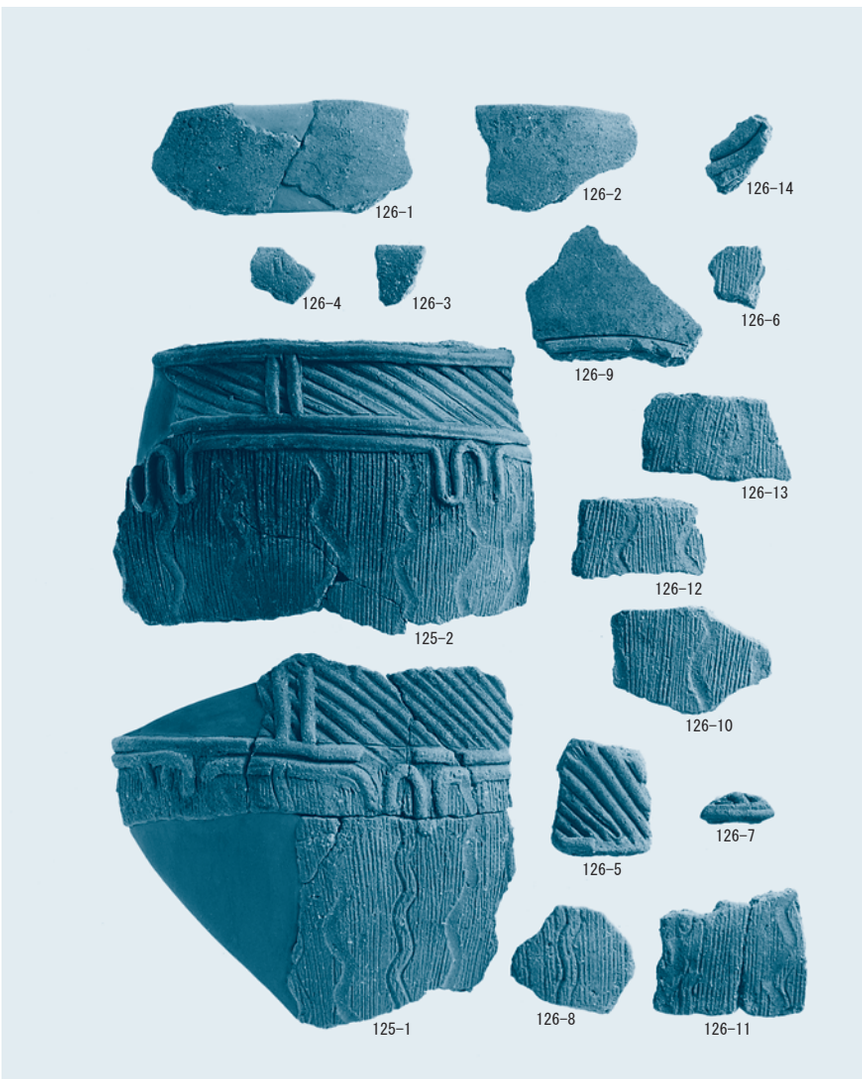
2　攪乱出土
台付甕（141-1）
（南西から）

3　１号集石
（西から）

図版 28　今里薬師海道遺跡

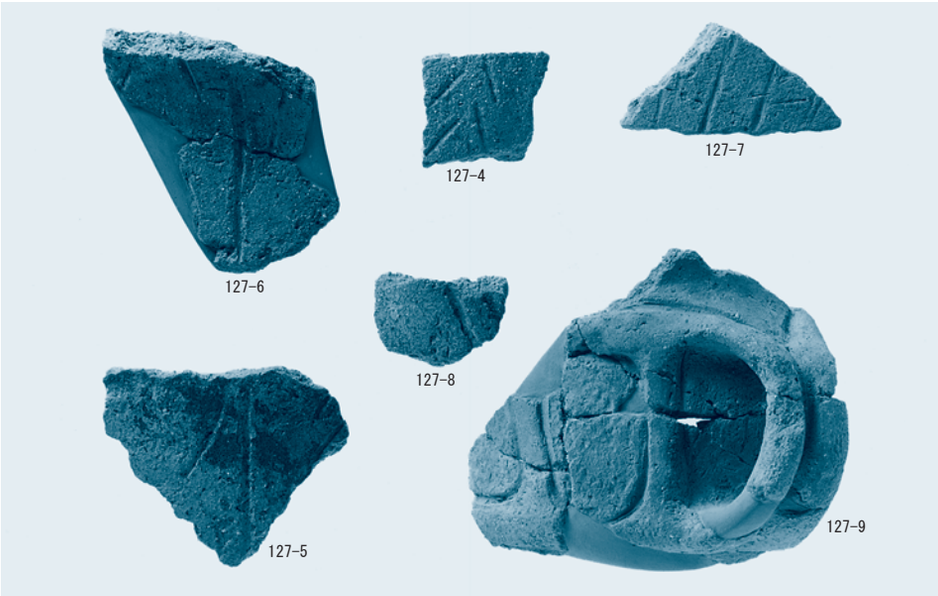
今里薬師海道遺跡遺物集合

1　包含層出土　縄文時代中期の土器①

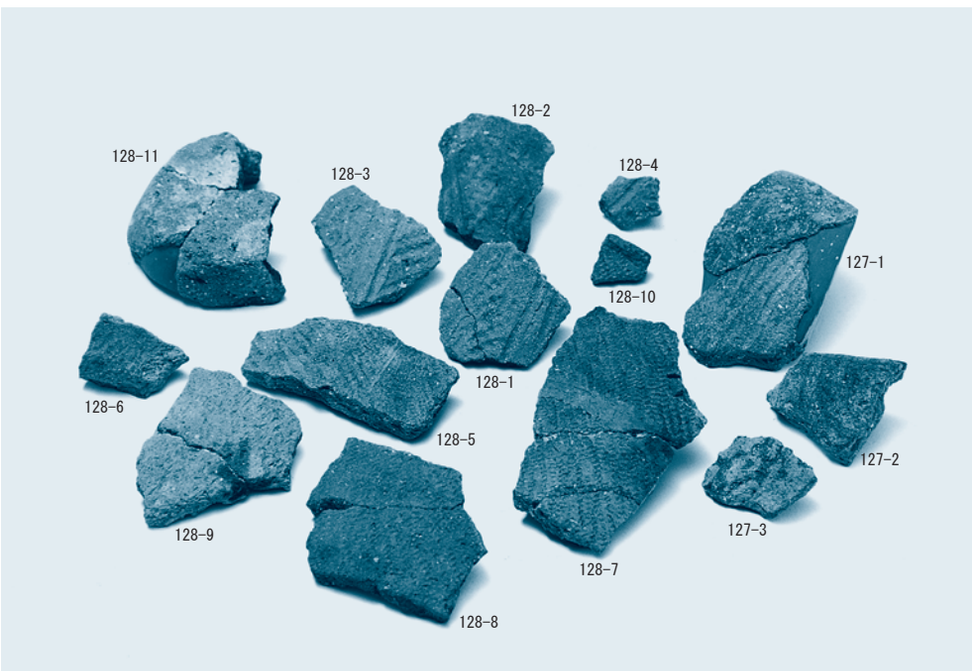


2　包含層出土　縄文時代中期の土器②

図版 30　今里薬師海道遺跡

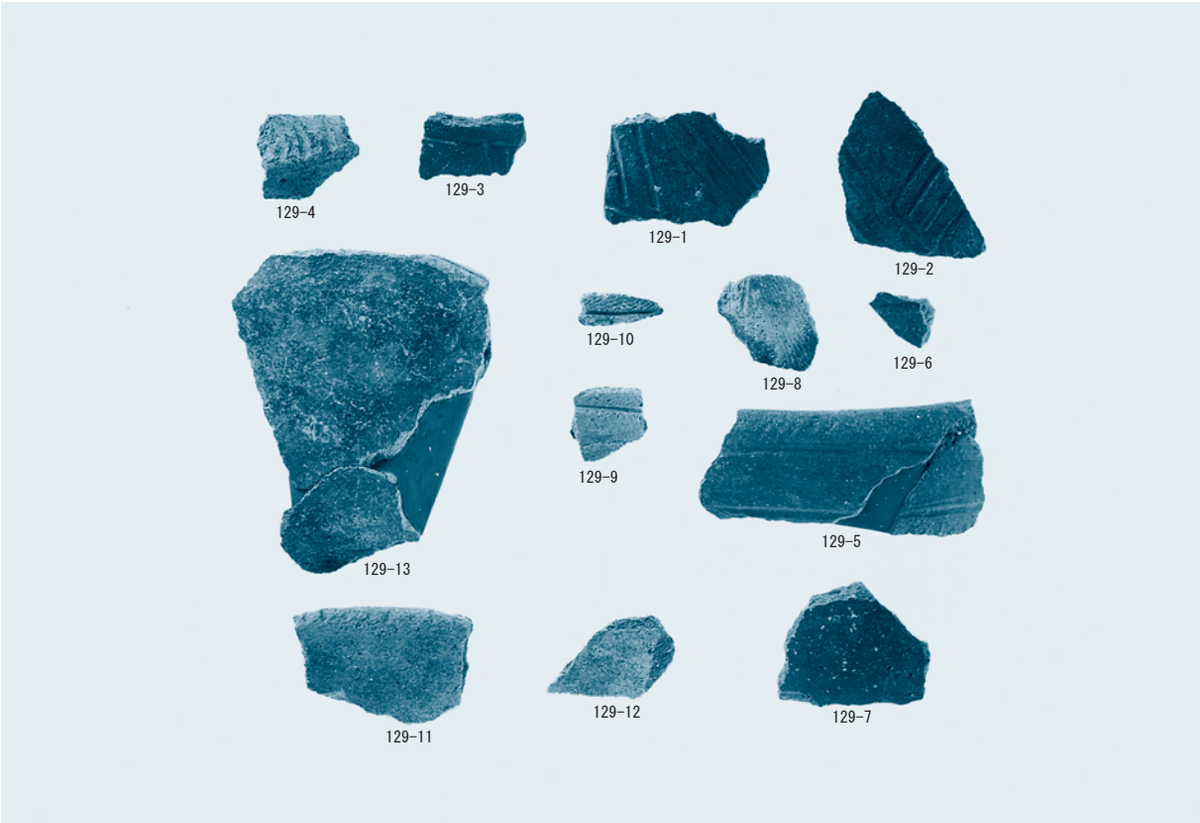


1　包含層出土　縄文時代中期の土器③

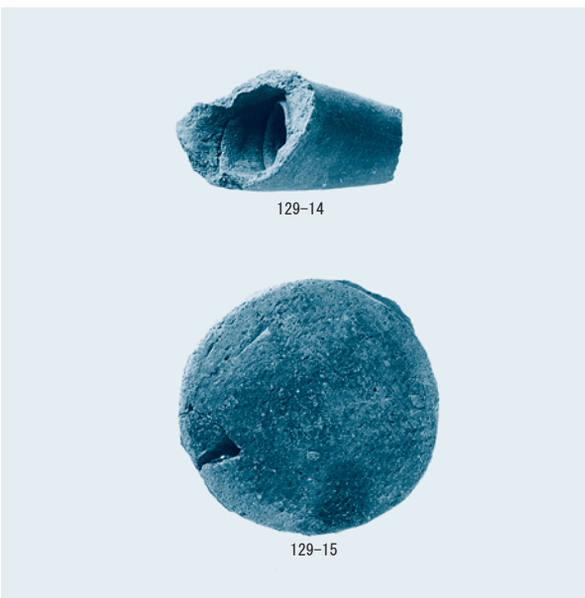


2　包含層出土　縄文時代中期の土器④

3　包含層出土　縄文時代前期の土器

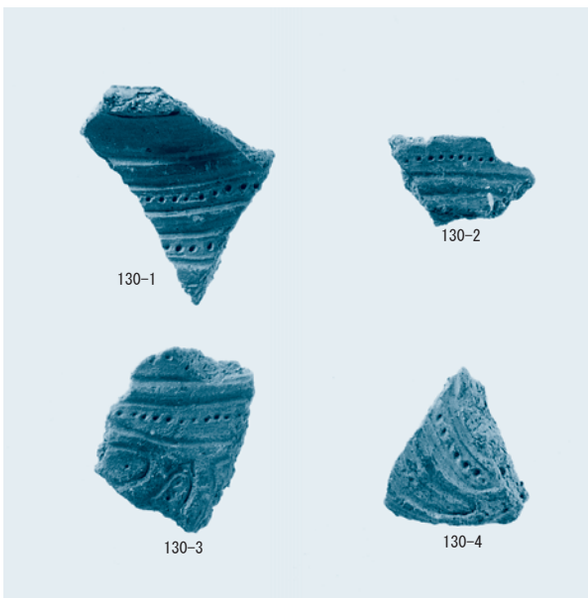


1　包含層出土　縄文時代後期の土器①



2　包含層出土　縄文時代後期の土器②

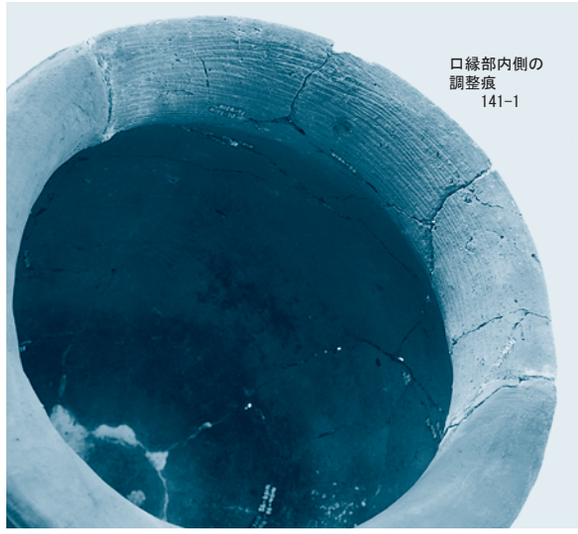
上：注口部片
下：網代底



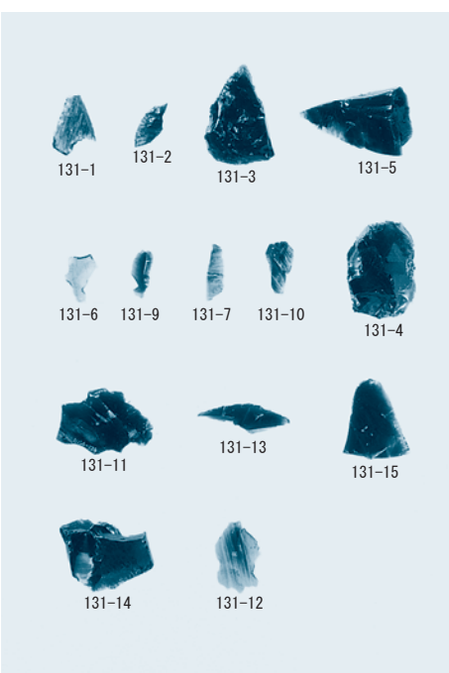
3　包含層出土　縄文時代晩期の土器

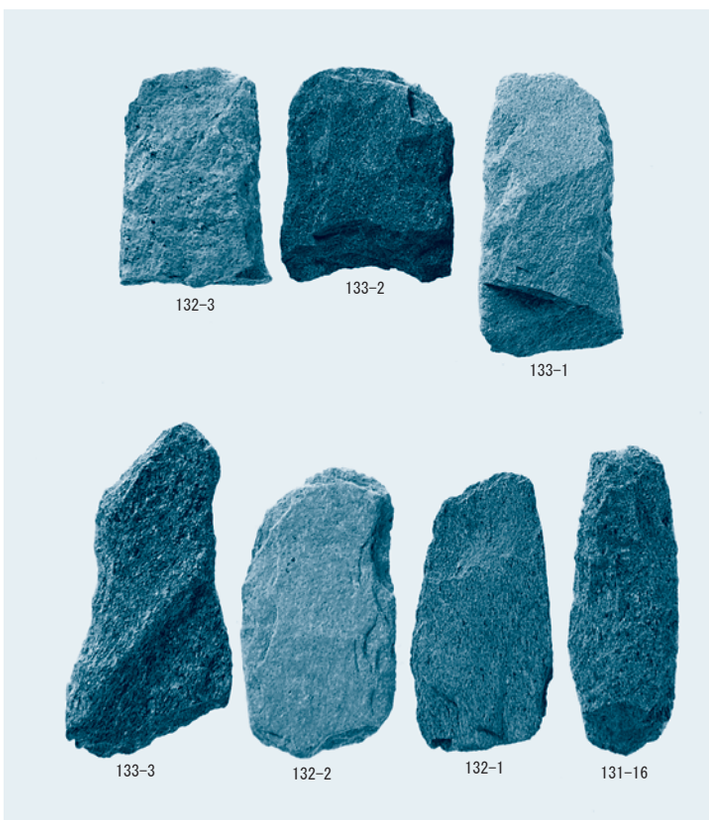
図版 32　今里薬師海道遺跡

1　撹乱出土　台付甕①



2　撹乱出土　台付甕②





3　包含層出土　縄文石器

報　告　書　抄　録

ふりがな	すそのしかずらやま・いまざとのいせきぐん
書名	裾野市葛山・今里の遺跡群
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	裾野市－７
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第12集
編著者名	髙橋 岳
編集機関	静岡県埋蔵文化財センター
所在地	〒422－8002　静岡県静岡市駿河区谷田23番20号　　TEL　054－262－4261（代）
発行年月日	2012年３月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積　㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
かずらやまかみじょう 葛山上條 遺跡	しずおかけんすそのし 静岡県裾野市 かずらやまあざかみじょう 葛山字上條293 ほかふで 他６筆	22220		35° 12′ 28″	138° 53′ 10″	本調査Ⅰ期 20040127 ～ 20040309 本調査Ⅱ期 20040401 ～ 20050225	3,419㎡	記録保存調査（第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査）
かずらやまおおはたけにⅡ 葛山大端ヶⅡ 遺跡	同 かずらやまあざおおはたけ 葛山字大端ヶ 1160-1他２筆	22220		35° 12′ 40″	138° 53′ 10″	本調査Ⅰ期 20030601 ～ 20031130	3,765㎡	
いまざとやくしかいと 今里薬師海道 遺跡	同 いまざとあざたながえし 今里字棚返777 ほか 他	22220		35° 13′ 13″	138° 53′ 16″	本調査Ⅰ期 20010802 ～ 20010920	3,060㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
葛山上條 遺跡	散布地	旧石器時代	休場層（石器集中1基、礫群２基）	休場層（ナイフ形石器・微細剥離のある剥片・台石）、第Ⅰスコリア層（剥片）、第Ⅲスコリア帯第２黒色帯（剥片）	休場層（細石刃）
	散布地 その他	縄文時代（早期・前期・後期）	土坑61基、集石12基、焼土２基	縄文土器・石器（石鏃・石槍・打製石斧・磨石・敲石・凹石・石皿・台石）	早期（撚糸文・無文）、前期（諸磯ｂ式）、後期（堀之内１式）
葛山大端ヶⅡ 遺跡	散布地	旧石器時代	－	休場層（剥片）	－
	散布地 その他	縄文時代（早期・前期）	竪穴住居１基、土坑７基、集石１基	縄文土器・石器（石錐・石匙・打製石斧・磨製石斧、石皿、台石）	早期（押型文・条痕文・打越式等）、前期（諸磯b・ｃ式）
	散布地	中近世	土坑１基	－	－
今里薬師海道 遺跡	散布地	縄文時代（中期・後期・晩期）	－	縄文土器・石器（石鏃・打製石斧・磨製石斧、石皿、台石）	中期（勝坂Ⅲ式・曽利Ⅳ～Ⅴ式・加曽利Ｅ３式）、後期（堀之内１式・加曽利Ｂ３式）
	散布地	弥生時代後期～古墳時代前期	－	台付甕１個体、土師器甕・壺片	台付甕は大廓Ⅰ～Ⅱ式に比定される。
	散布地	縄文以降	集石１基	－	－
	散布地	近世	－	天目茶碗の小破片	－

要約

葛山上條遺跡では、後期旧石器時代から縄文時代にかけての遺構・遺物が確認されている。特に縄文時代早期・前期・後期にかけての陥穴状土坑61基、集石12基、焼土２基が確認されている。遺跡の性格は、狩猟キャンプ地が想定される。

葛山大端ヶⅡ遺跡では、主に縄文時代の竪穴住居１基、集石１基、陥穴状土坑７基が確認されている。調査では、集石単位として認定できなかったが、礫や焼礫の出土が多く確認された。礫・焼礫は、集石の構成礫が散在したものと考えられる。出土石器は、主に石錐やスクレイパー、礫石器などの加工具が出土しており、石鏃や石槍などの狩猟具は確認していない。出土土器は、早期の細久保式土器・条痕文土器など、前期の諸磯ｂ・ｃ式土器が出土している。遺跡の性格は、狩猟キャンプ地が想定される。

今里薬師海道遺跡では、主に遺物包含層から縄文時代中期～晩期にかけての土器や石器が出土している。また攪乱出土であるが、弥生時代後期から古墳時代前期の大廓Ⅰ～Ⅱ式に比定される台付甕１個体分が出土している。

静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第12集
裾野市葛山・今里の遺跡群
第二東名№149・151・154地点
第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市－7

平成24年3月26日発行

編集・発行　静岡県埋蔵文化財センター
〒422－8002　静岡県静岡市駿河区谷田23－20
TEL　054－262－4261（代）
FAX 054－262－4266
印　刷　所　松本印刷株式会社
〒421－0303　静岡県榛原郡吉田町片岡2210
TEL　0548－32－0851（代）